財団法人　東総文化財センター発掘調査報告書第33集

千葉県匝瑳郡光町

芝　崎　遺　跡　群

―国道126号山武東総道路建設に伴う埋蔵文化財調査―

資料編 1

（芝崎遺跡　遺構・分析編）

平成18年３月

千　葉　県　道　路　公　社
財団法人　東総文化財センター

千葉県匝瑳郡光町

芝崎遺跡群

―国道126号山武東総道路建設に伴う埋蔵文化財調査―

資料編 1

（芝崎遺跡　遺構・分析編）

平成18年３月

千葉県道路公社
財団法人　東総文化財センター

目　次

１．縄文時代……1
図1　縄文時代遺構・遺物分布①……2～3
図２　縄文時代遺構・遺物分布②……4～5
図３　縄文時代遺構・遺物分布③……6～7
図４　縄文時代の遺構と遺物出土……8
２．奈良・平安時代……9
図５　奈良・平安時代の遺構分布①……10～11
図６　奈良・平安時代の遺構分布②……12～13
図７　奈良・平安時代の遺構分布③……14～15
図８　奈良・平安時代の遺構（１・２号住居跡）……16
図９　奈良・平安時代の遺構（３・４号住居跡）……17
図10　奈良・平安時代の遺構（５・６号住居跡）……18
図11　奈良・平安時代の遺構（７・９号住居跡）……19
図12　奈良・平安時代の遺構（８号住居跡）……20
図13　奈良・平安時代の遺構（10号住居跡）……21
図14　奈良・平安時代の遺構（11～13号住居跡）……22
図15　奈良・平安時代の遺構（14・15号住居跡）……23
図16　奈良・平安時代の遺構（16・17号住居跡）……24
図17　奈良・平安時代の遺構（18・19号住居跡）……25
図18　奈良・平安時代の遺構（20・21号住居跡）……26
図19　奈良・平安時代の遺構（22・23号住居跡）……27
図20　奈良・平安時代の遺構（24・25号住居跡）……28
図21　奈良・平安時代の遺構（26・27号住居跡）……29
図22　奈良・平安時代の遺構（28・29号住居跡）……30
図23　奈良・平安時代の遺構（30・31号住居跡）……31
図24　奈良・平安時代の遺構（32・34号住居跡）……32
図25　奈良・平安時代の遺構（33号住居跡）……33
図26　奈良・平安時代の遺構（35・36号住居跡）……34
図27　奈良・平安時代の遺構（37・38号住居跡）……35
図28　奈良・平安時代の遺構（39・40号住居跡）……36
図29　奈良・平安時代の遺構（41・42号住居跡）……37
図30　奈良・平安時代の遺構（43号住居跡）……38
図31　奈良・平安時代の遺構（44・45号住居跡）……39
図32　奈良・平安時代の遺構（46・47号住居跡）……40
図33　奈良・平安時代の遺構（55・56号住居跡）……41
図34　奈良・平安時代の遺構（48～50号住居跡）……42
図35　奈良・平安時代の遺構（48～50号住居跡掘り方）……43
図36　奈良・平安時代の遺構（51・52号住居跡）……44
図37　奈良・平安時代の遺構（51・52号住居跡掘り方）……45
図38　奈良・平安時代の遺構（53・54号住居跡）……46
図39　奈良・平安時代の遺構（53・54号住居跡掘り方）……47
図40　奈良・平安時代の遺構（57・60号住居跡）……48
図41　奈良・平安時代の遺構（58・59号住居跡）……49
図42　奈良・平安時代の遺構（61号住居跡）……50
図43　奈良・平安時代の遺構（62号住居跡）……51
図44　奈良・平安時代の遺構（63・64号住居跡）……52
図45　奈良・平安時代の遺構（65・66号住居跡）……53
図46　奈良・平安時代の遺構（67・68号住居跡）……54
図47　奈良・平安時代の遺構（67・68号住居跡掘り方）……55
図48　奈良・平安時代の遺構（69号住居跡）……56
図49　奈良・平安時代の遺構（69号住居跡掘り方）……57
図50　奈良・平安時代の遺構（70・71号住居跡）……58
図51　奈良・平安時代の遺構（72号住居跡）……59
図52　奈良・平安時代の遺構（73・74号住居跡）……60
図53　奈良・平安時代の遺構（75・76号住居跡）……61
図54　奈良・平安時代の遺構（77・78号住居跡）……62
図55　奈良・平安時代の遺構（79・81号住居跡）……63
図56　奈良・平安時代の遺構（80号住居跡）……64
図57　奈良・平安時代の遺構（82・83号住居跡）……65
図58　奈良・平安時代の遺構（84・85号住居跡）……66
図59　奈良・平安時代の遺構（86号住居跡）……67
図60　奈良・平安時代の遺構（87・88・91号住居跡）……68
図61　奈良・平安時代の遺構（89・90号住居跡）……69
図62　奈良・平安時代の遺構（92・93号住居跡）……70
図63　奈良・平安時代の遺構（94・95住居跡）……71
図64　奈良・平安時代の遺構（96～98号住居跡）……72
図65　奈良・平安時代の遺構（97・98号住居跡）……73
図66　奈良・平安時代の遺構（99・100号住居跡）……74
図67　奈良・平安時代の遺構（101・102号住居跡）……75
図68　奈良・平安時代の遺構（103・104号住居跡）……76
図69　奈良・平安時代の遺構（104号住居跡）……77
図70　奈良・平安時代の遺構（105号住居跡）……78
図71　奈良・平安時代の遺構（105号住居跡掘り方）……79
図72　奈良・平安時代の遺構（106号住居跡）……80
図73　奈良・平安時代の遺構（107・108号住居跡）……81
図74　奈良・平安時代の遺構（109・112号住居跡）……82
図75　奈良・平安時代の遺構（110・111号住居跡）……83
図76　奈良・平安時代の遺構（113・114号住居跡）……84
図77　奈良・平安時代の遺構（115・116号住居跡）……85
図78　奈良・平安時代の遺構（117・118号住居跡）……86
図79　奈良・平安時代の遺構（119号住居跡）……87
図80　奈良・平安時代の遺構（120・121号住居跡）……88
図81　奈良・平安時代の遺構（122・123号住居跡）……89
図82　奈良・平安時代の遺構（124・125号住居跡）……90

図83　奈良・平安時代の遺構（126・127号住居跡）……91
図84　奈良・平安時代の遺構（128～131号住居跡）……92
図85　奈良・平安時代の遺構（128～131号住居跡）……93
図86　奈良・平安時代の遺構（132・133号住居跡）……94
図87　奈良・平安時代の遺構（134・135号住居跡）……95
図88　奈良・平安時代の遺構（136・140号住居跡）……96
図89　奈良・平安時代の遺構（137～139号住居跡）……97
図90　奈良・平安時代の遺構（141・142号住居跡）……98
図91　奈良・平安時代の遺構（143・144号住居跡）……99
図92　奈良・平安時代の遺構（145号住居跡）……100
図93　奈良・平安時代の遺構（146号住居跡）……101
図94　奈良・平安時代の遺構（147・148号住居跡）……102
図95　奈良・平安時代の遺構（149・150号住居跡）……103
図96　奈良・平安時代の遺構（151・152号住居跡）……104
図97　奈良・平安時代の遺構（153・154号住居跡）……105
図98　奈良・平安時代の遺構（155・156号住居跡）……106
図99　奈良・平安時代の遺構（157・159号住居跡）……107
図100　奈良・平安時代の遺構（158号住居跡）……108
図101　奈良・平安時代の遺構（160～162号住居跡）……109
図102　奈良・平安時代の遺構（164・165号住居跡）……110
図103　奈良・平安時代の遺構（163・166号住居跡）……111
図104　奈良・平安時代の遺構（168・169号住居跡）……112
図105　奈良・平安時代の遺構（167・170号住居跡）……113
図106　奈良・平安時代の遺構（171・172号住居跡）……114
図107　奈良・平安時代の遺構（173・174号住居跡）……115
図108　奈良・平安時代の遺構（175号住居跡）……116
図109　奈良・平安時代の遺構（175号住居跡鍛冶炉）……117
図110　奈良・平安時代の遺構（176・177号住居跡）……118
図111　奈良・平安時代の遺構（178号住居跡）……119
図112　奈良・平安時代の遺構（179・180号住居跡）……120
図113　奈良・平安時代の遺構（181・182号住居跡）……121
図114　奈良・平安時代の遺構（183・184号住居跡）……122
図115　奈良・平安時代の遺構（１・12号掘立柱建物跡）…123
図116　奈良・平安時代の遺構（２号掘立柱建物跡）……124
図117　奈良・平安時代の遺構（３号掘立柱建物跡）……125
図118　奈良・平安時代の遺構（４・５号掘立柱建物跡）…126
図119　奈良・平安時代の遺構（６号掘立柱建物跡）……127
図120　奈良・平安時代の遺構（７号掘立柱建物跡）……128
図121　奈良・平安時代の遺構（８・９号掘立柱建物跡）…129
図122　奈良・平安時代の遺構（10・11号掘立柱建物跡）…130
図123　奈良・平安時代の遺構（13号掘立柱建物跡）……131
図124　奈良・平安時代の遺構（14号掘立柱建物跡）……132
図125　奈良・平安時代の遺構（15号掘立柱建物跡）……133
図126　奈良・平安時代の遺構（16号掘立柱建物跡）……134
図127　奈良・平安時代の遺構（17号掘立柱建物跡）……135
図128　奈良・平安時代の遺構（18・19号掘立柱建物跡）…136
図129　奈良・平安時代の遺構（20号掘立柱建物跡）……137
図130　奈良・平安時代の遺構（21号掘立柱建物跡）138～139
図131　奈良・平安時代の遺構（22号掘立柱建物跡）140～141
図132　奈良・平安時代の遺構（23号掘立柱建物跡）142～143
図133　奈良・平安時代の遺構（24号掘立柱建物跡）144～145
図134　奈良・平安時代の遺構（25号掘立柱建物跡）……146
図135　奈良・平安時代の遺構（26号掘立柱建物跡）……147
図136　奈良・平安時代の遺構（27号掘立柱建物跡）……148
図137　奈良・平安時代の遺構（28号掘立柱建物跡）……149
図138　奈良・平安時代の遺構（29号掘立柱建物跡）……150
図139　奈良・平安時代の遺構（30号掘立柱建物跡）……151
図140　奈良・平安時代の遺構（31号掘立柱建物跡）152～153
図141　奈良・平安時代の遺構（32号掘立柱建物跡）……154
図142　奈良・平安時代の遺構（33号掘立柱建物跡）……155
図143　奈良・平安時代の遺構（34号掘立柱建物跡）……156
図144　奈良・平安時代の遺構（35・36号掘立柱建物跡）…157
図145　奈良・平安時代の遺構（35・36号掘立柱建物跡）…158
図146　奈良・平安時代の遺構（37号掘立柱建物跡）……159
図147　奈良・平安時代の遺構（38・39号掘立柱建物跡）…160
図148　奈良・平安時代の遺構（40・41号掘立柱建物跡）…161
図149　奈良・平安時代の遺構（42・43号掘立柱建物跡）…162
図150　奈良・平安時代の遺構（45・46号掘立柱建物跡）…163
図151　奈良・平安時代の遺構（44号掘立柱建物跡）164～165
図152　奈良・平安時代の遺構（47号掘立柱建物跡）……166
図153　奈良・平安時代の遺構（48号掘立柱建物跡）……167
図154　奈良・平安時代の遺構（49号掘立柱建物跡）……168
図155　奈良・平安時代の遺構（50号掘立柱建物跡）……169
図156　奈良・平安時代の遺構（51号掘立柱建物跡）170～171
図157　奈良・平安時代の遺構（52号掘立柱建物跡）……172
図158　奈良・平安時代の遺構（53号掘立柱建物跡）……173
図159　奈良・平安時代の遺構（54・55号掘立柱建物跡）…174
図160　奈良・平安時代の遺構（56号掘立柱建物跡）……175
図161　奈良・平安時代の遺構（57号掘立柱建物跡）……176
図162　奈良・平安時代の遺構（58号掘立柱建物跡）……177
図163　奈良・平安時代の遺構（59・60号掘立柱建物跡）…178
図164　奈良・平安時代の遺構（61号掘立柱建物跡）……179
図165　奈良・平安時代の遺構（62号掘立柱建物跡）……180
図166　奈良・平安時代の遺構（掘立柱建物跡調査写真）…181
図167　奈良・平安時代の遺構（２～６号土坑）……182
図168　奈良・平安時代の遺構（１・７～９号土坑）……183
図169　奈良・平安時代の遺構（10～13号土坑）……184
図170　奈良・平安時代の遺構（14・15・22・23号土坑）……185

図171　奈良・平安時代の遺構（24・27・28号土坑）……186
図172　奈良・平安時代の遺構（29・30・33・34号土坑）……187
図173　奈良・平安時代の遺構（31・32号土坑）……188
図174　奈良・平安時代の遺構（35～38号土坑）……189
図175　奈良・平安時代の遺構（39～42号土坑）……190
図176　奈良・平安時代の遺構（43・44号土坑）……191
図177　奈良・平安時代の遺構（45・46・52・55号土坑）……192
図178　奈良・平安時代の遺構（59～62号土坑）……193
図179　奈良・平安時代の遺構（63～65号土坑）……194
図180　奈良・平安時代の遺構（66～68号土坑）……195
図181　奈良・平安時代の遺構（69・71・73号土坑）……196
図182　奈良・平安時代の遺構（72号土坑）……197
図183　奈良・平安時代の遺構（１号井戸跡、1号古代溝）198
図184　奈良・平安時代の遺構（３号古代溝）……199
図185　奈良・平安時代の遺構（９号古代溝）……200
図186　奈良・平安時代の遺構（11～14号古代溝）……201
図187　奈良・平安時代の遺構（15号古代溝）……202
図188　奈良・平安時代の遺構（古代畑跡写真①）……203
図189　奈良・平安時代の遺構（古代畑跡実測図①）204～205
図190　奈良・平安時代の遺構（古代畑跡実測図②）206～207
図191　奈良・平安時代の遺構（古代畑跡実測図③）208～209
図192　奈良・平安時代の遺構（古代畑跡写真②）……210
３．鎌倉・室町時代……211
図193　鎌倉・室町時代の遺構・遺物分布①……212～213
図194　鎌倉・室町時代の遺構（中世溝写真①）……214
図195　鎌倉・室町時代の遺構（中世溝写真②）……215
図196　鎌倉・室町時代の遺構・遺物分布②……216～217
図197　鎌倉・室町時代の遺構・遺物分布③……218～219
図198　鎌倉・室町時代の遺構（1号中世掘立柱建物跡）…220
図199　鎌倉・室町時代の遺構（２・３号中世掘立柱建物跡）……221
図200　鎌倉・室町時代の遺構（４号中世掘立柱建物跡）…222
図201　鎌倉・室町時代の遺構（６号中世掘立柱建物跡）…223
図202　鎌倉・室町時代の遺構（５号中世掘立柱建物跡）……224～225
図203　鎌倉・室町時代の遺構（７号中世掘立柱建物跡）……226～227
図204　鎌倉・室町時代の遺構（８号中世掘立柱建物跡）…228
図205　鎌倉・室町時代の遺構（11号中世掘立柱建物跡）…229
図206　鎌倉・室町時代の遺構（９号中世掘立柱建物跡）……230～231
図207　鎌倉・室町時代の遺構（10号中世掘立柱建物跡）……232～233
図208　鎌倉・室町時代の遺構（12号中世掘立柱建物跡）…234
図209　鎌倉・室町時代の遺構（13号中世掘立柱建物跡）…235
図210　鎌倉・室町時代の遺構（14号中世掘立柱建物跡）…236
図211　鎌倉・室町時代の遺構（１号中世竪穴遺構）……237
図212　鎌倉・室町時代の遺構（16～18号土坑）……238
図213　鎌倉・室町時代の遺構（19～21号土坑）……239
図214　鎌倉・室町時代の遺構（25・26号土坑）……240
図215　鎌倉・室町時代の遺構（47～50号土坑）……241
図216　鎌倉・室町時代の遺構（51・53・54・74号土坑）……242
図217　鎌倉・室町時代の遺構（１～４号粘土貼土坑）……243
図218　鎌倉・室町時代の遺構（２号井戸跡）……244
図219　鎌倉・室町時代の遺構（３号井戸跡）……245
図220　鎌倉・室町時代の遺構（23号中世溝）……246
４．安土桃山・江戸時代……247
図221　安土桃山・江戸時代の遺構・遺物分布①……248～249
図222　安土桃山・江戸時代の遺構・遺物分布②……250～251
図223　安土桃山・江戸時代の遺構・遺物分布③……252～253
図224　安土桃山・江戸時代の遺構（70号土坑）……254
５．芝崎遺跡の科学分析……255
（１）芝崎遺跡のテフラ分析上本進二、上杉　陽……256～260
（２）芝崎遺跡の火山灰分析株式会社　古環境研究所……261～266
（３）芝崎遺跡の自然科学分析
パリノ・サーヴェイ株式会社……267～297
奥付

1. 縄 文 時 代

■ 中期土器(阿玉台・加曽利E式)
□ 後期前葉(称名寺・堀之内式)
● 後期中葉土器(加曽利B式)
▲ 後期後葉土器(曽谷・安行1・2式)
★ 晩期土器(安行3・荒海式)
◆ 石器・土偶

図1　縄文時代

12E-43-16
12E-44-16
12E-43-21
12E-44-21
12E-53-1
12E-54-1
3.00
12E-53-6
12E-54-6
12E-53-11
12E-54-11
12E-53-16
12E-54-16
3.10
3.00
12E-53-21
12E-63-1
12E-63-6
3.10
3.00
12E-63-11
2.80
0
10m

遺構・遺物分布①

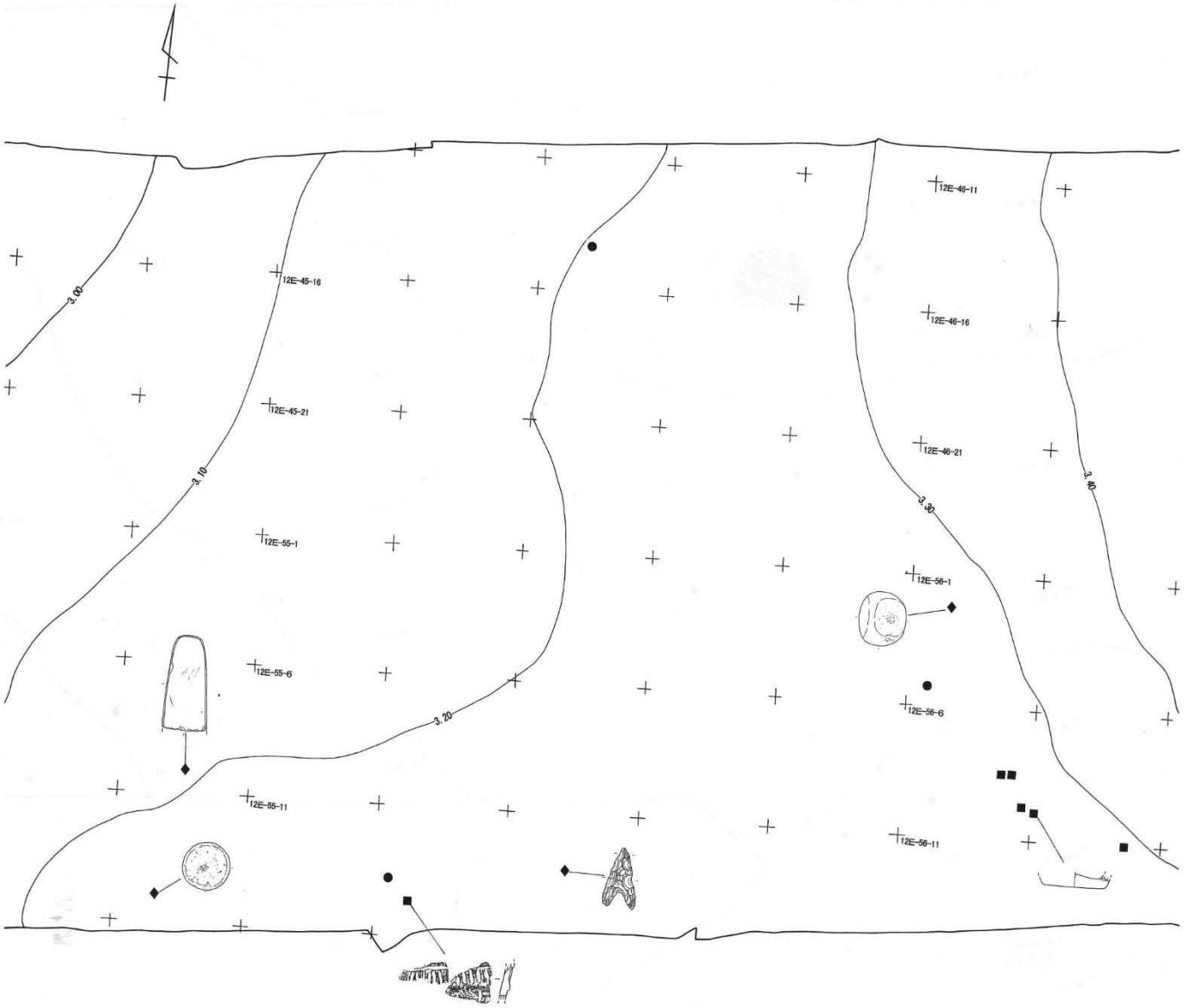
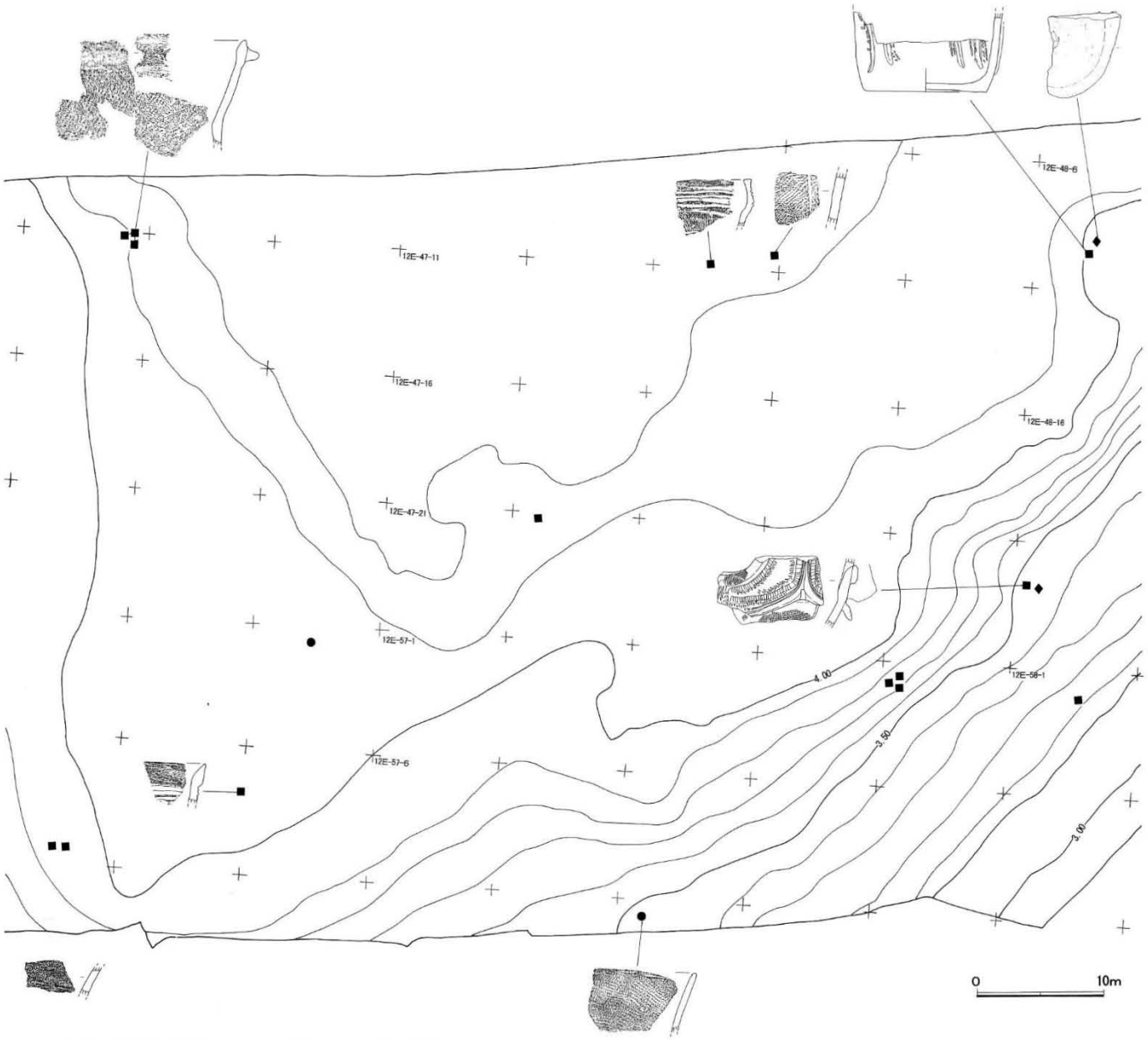
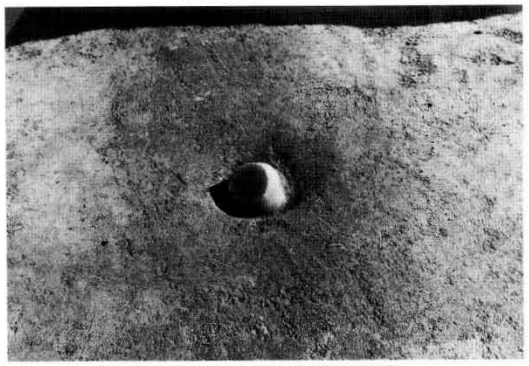

12E-46-11
12E-45-16
12E-46-16
12E-45-21
12E-46-21
12E-55-1
12E-56-1
12E-55-6
12E-56-6
12E-55-11
12E-56-11
3.00
3.10
3.20
3.30
3.40

図２　縄文時代

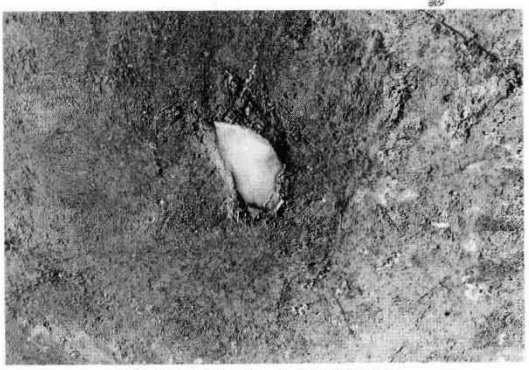


14号掘立柱建物跡柱穴出土の縄文土器

遺構・遺物分布②

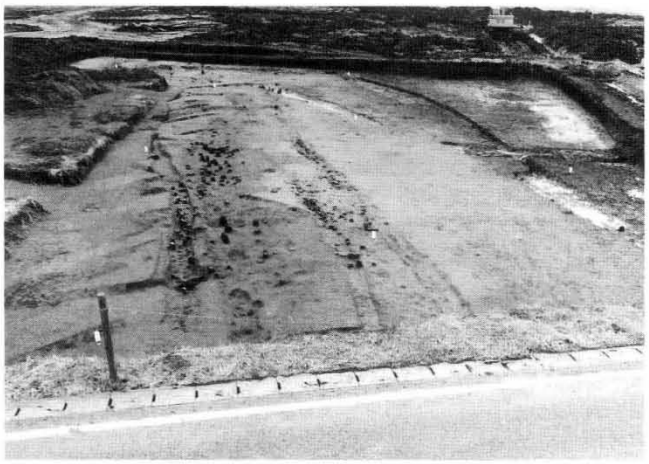


12E-50-21の出土No.31台付鉢



12E-50-16の出土No.83深鉢底部

図３　縄文時代



遺跡東端部の縄文土器出土集中部

遺跡東端部の縄文土器出土集中部

遺構・遺物分布③

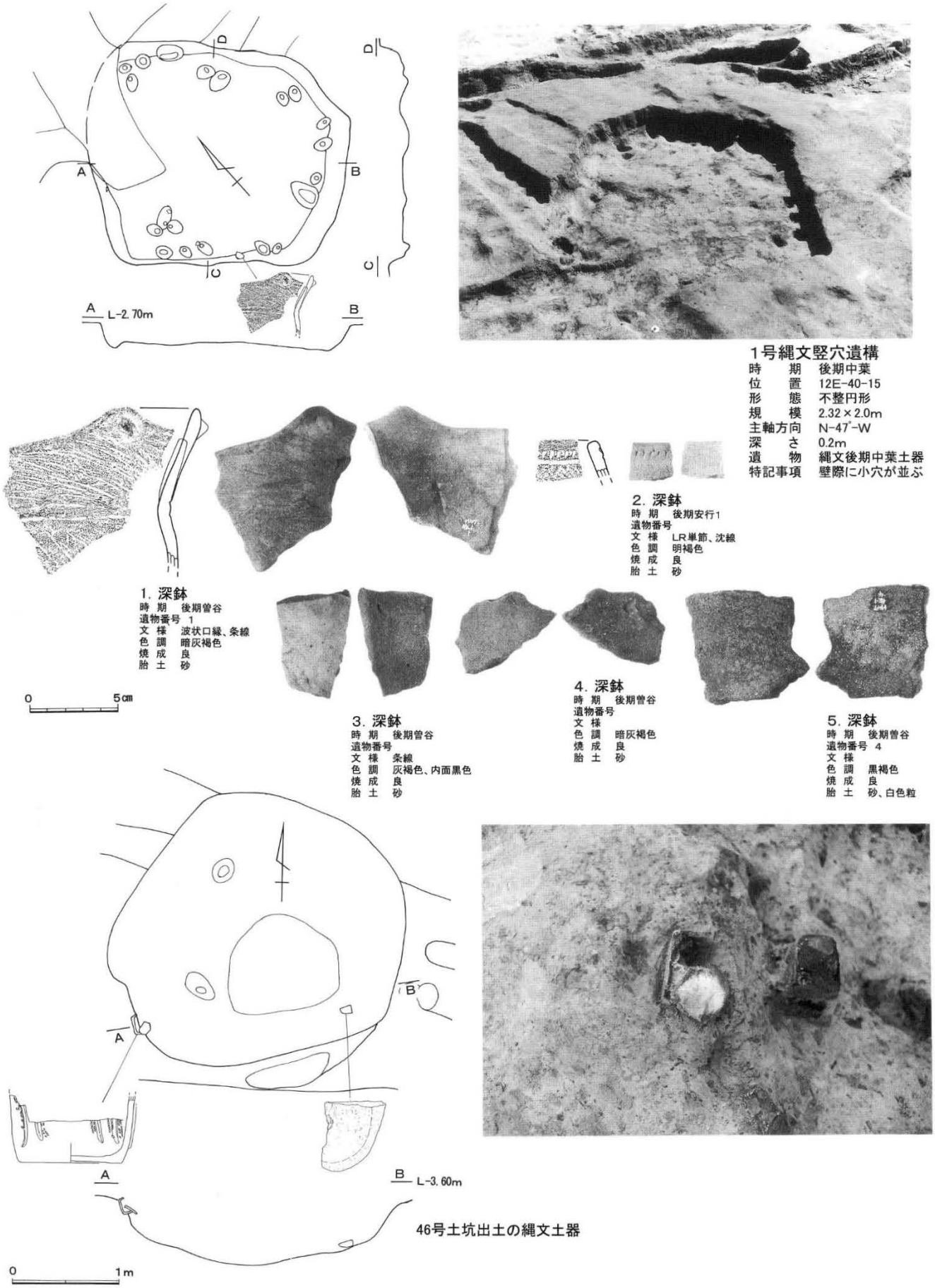
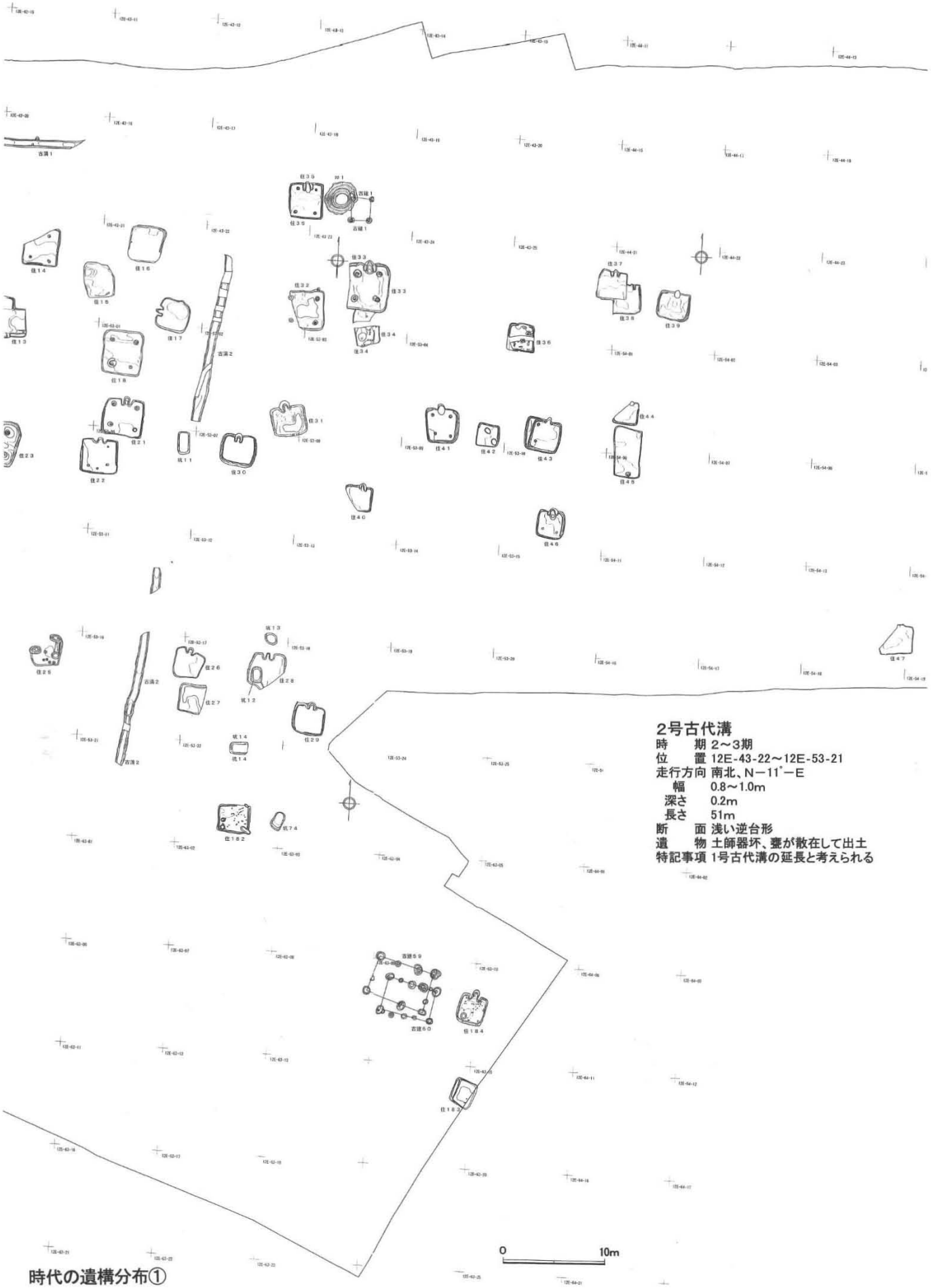


図4　縄文時代の遺構と遺物出土

2．奈良・平安時代

芝崎遺跡西端部の住居跡群

図5　奈良・平安


2号古代溝
時　　期 2～3期
位　　置 12E-43-22～12E-53-21
走行方向 南北、N－11°－E
幅　0.8～1.0m
深さ　0.2m
長さ　51m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物 土師器坏、甕が散在して出土
特記事項 1号古代溝の延長と考えられる
0
10m

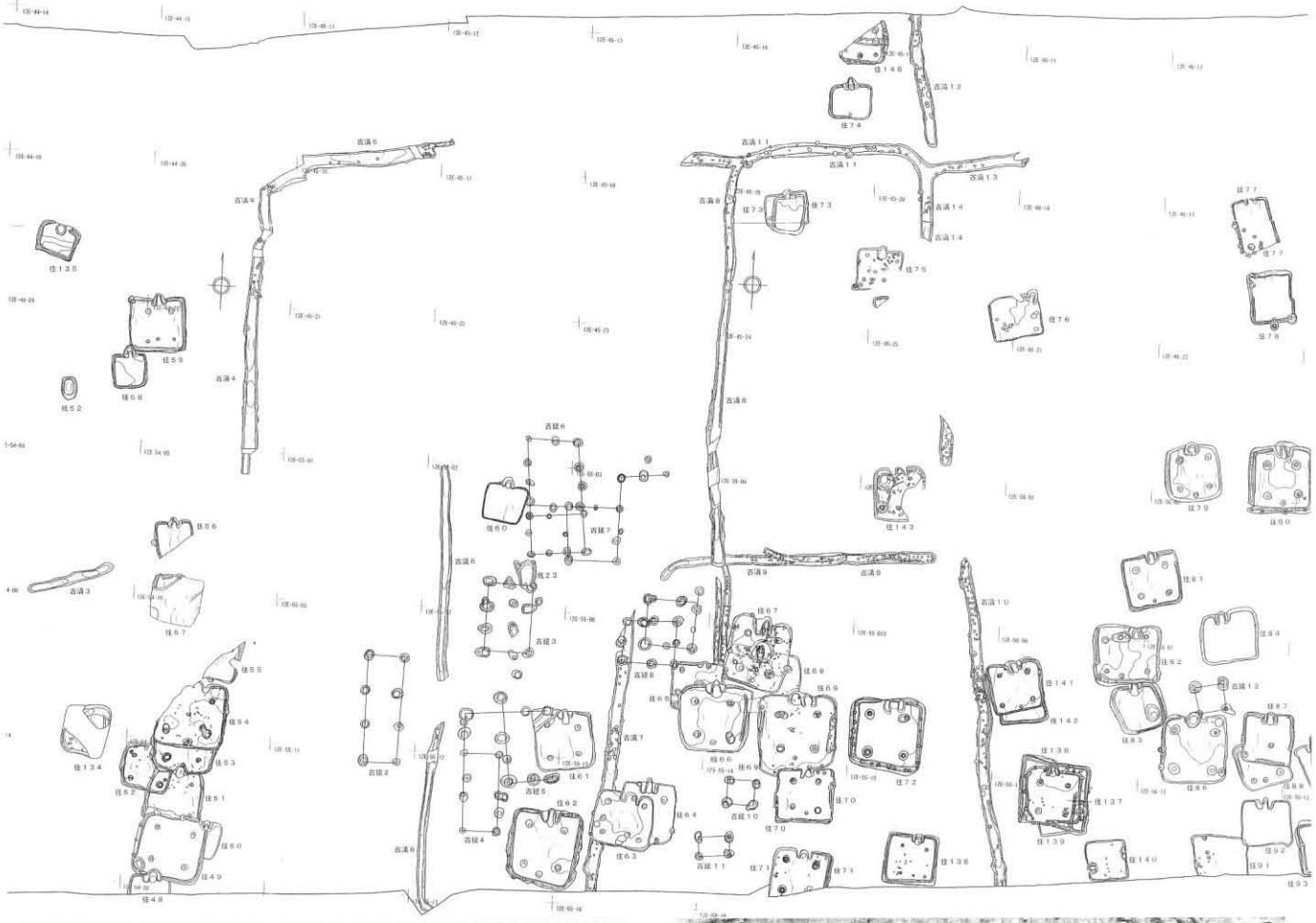
時代の遺構分布①

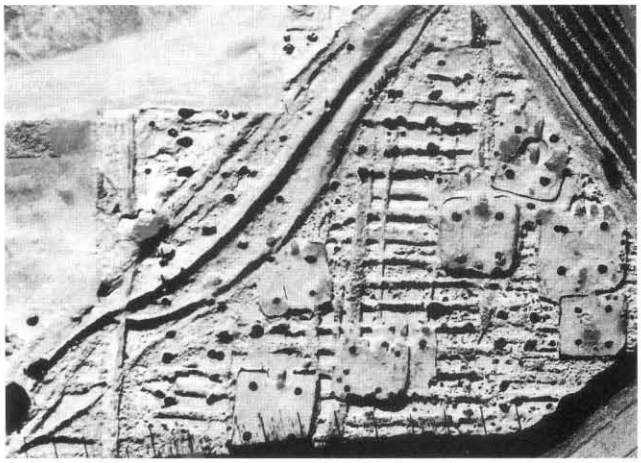
4号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-44-20～12E-54-5
走行方向 南北、N－1°－W
　幅　0.7～1.0m
　深さ　0.1～0.2m
　長さ　20m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる

5号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-44-20～12E-45-11
走行方向 東西、N－82°－E
　幅　0.9～1.1m
　深さ　0.2m
　長さ　12.5m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 4号古代溝とほぼ直角に繋がる

12号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-45-10～12E-45-15
走行方向 南北、N－12°－W
　幅　0.7～0.8m
　深さ　0.1～0.15m
　長さ　9.5m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる。

14号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-45-15～12E-45-20
走行方向 南北、N－5°－W
　幅　0.8～0.9m
　深さ　0.1～0.15m
　長さ　5m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる。





12E-55 の住居跡群

12E-56 の住居跡群

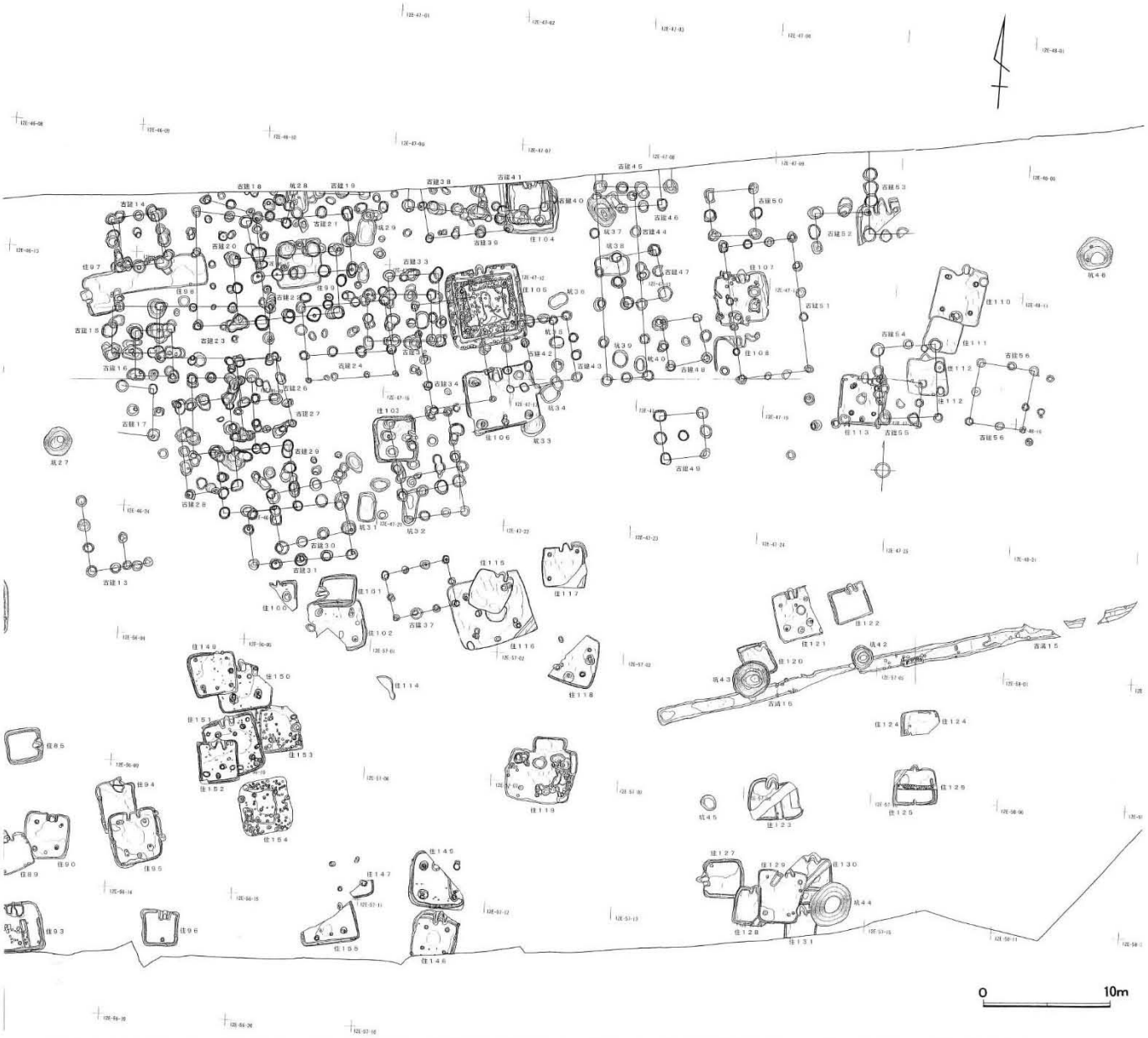
6号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-55-2～12E-55-17
走行方向 南北、N－0°－W
　幅　0.6～0.7m
　深さ　0.3～0.5m
　長さ　31m
断　　面 幅が広いU字形
遺　　物
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる

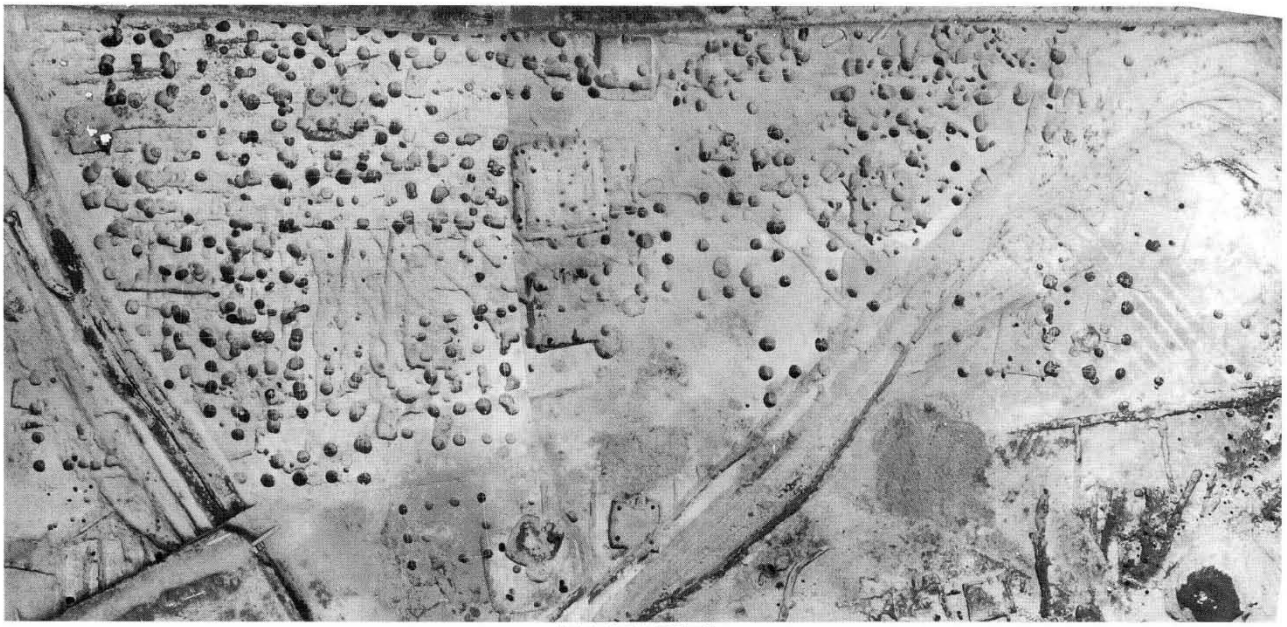
7号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-55-8～12E-55-13
走行方向 南北、N－6°－E
　幅　0.8～1.0m
　深さ　0.1～0.2m
　長さ　20m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる

8号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-45-14～12E-55-9
走行方向 南北、N－1°－W
　幅　0.6～1.0m
　深さ　0.2～0.3m
　長さ　40m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる

10号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-55-5～12E-56-11
走行方向 南北、N－8°－W
　幅　0.7～1.0m
　深さ　0.1～0.15m
　長さ　23m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる

図6　奈良・平安





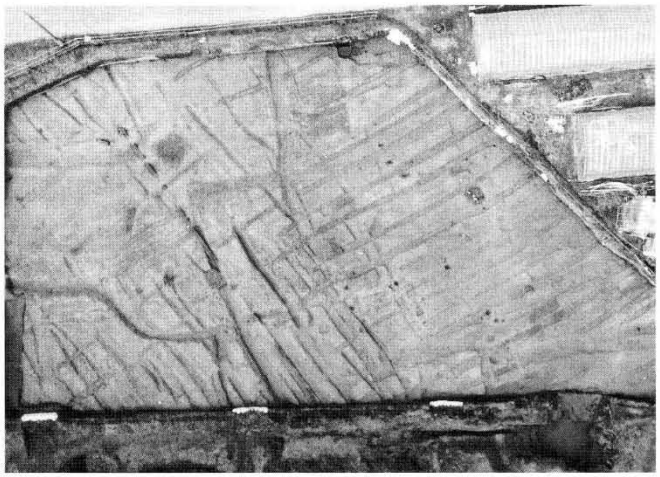
掘立柱建物跡群

時代の遺構分布②

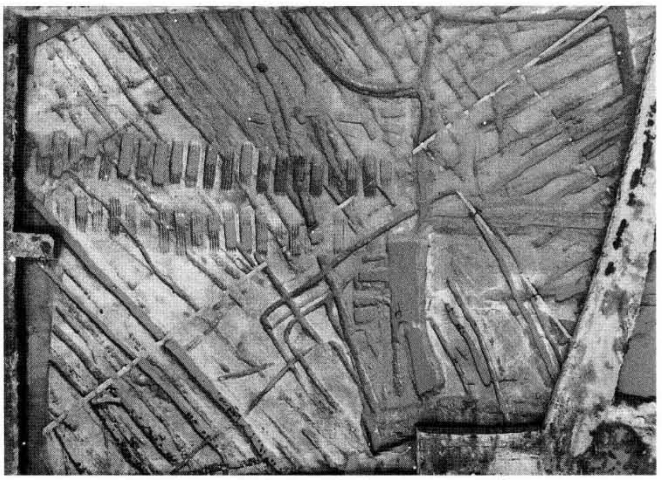
16号古代溝

時　　期 5～6期
位　　置 12E-58-3～12E-58-8
走行方向 南北、N－4°－E
　幅　　0.9～0.9m
　深さ　　0.3～0.4m
　長さ　　12m
断　　面 逆台形
遺　　物 土師器坏
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる

図7　奈良・平安

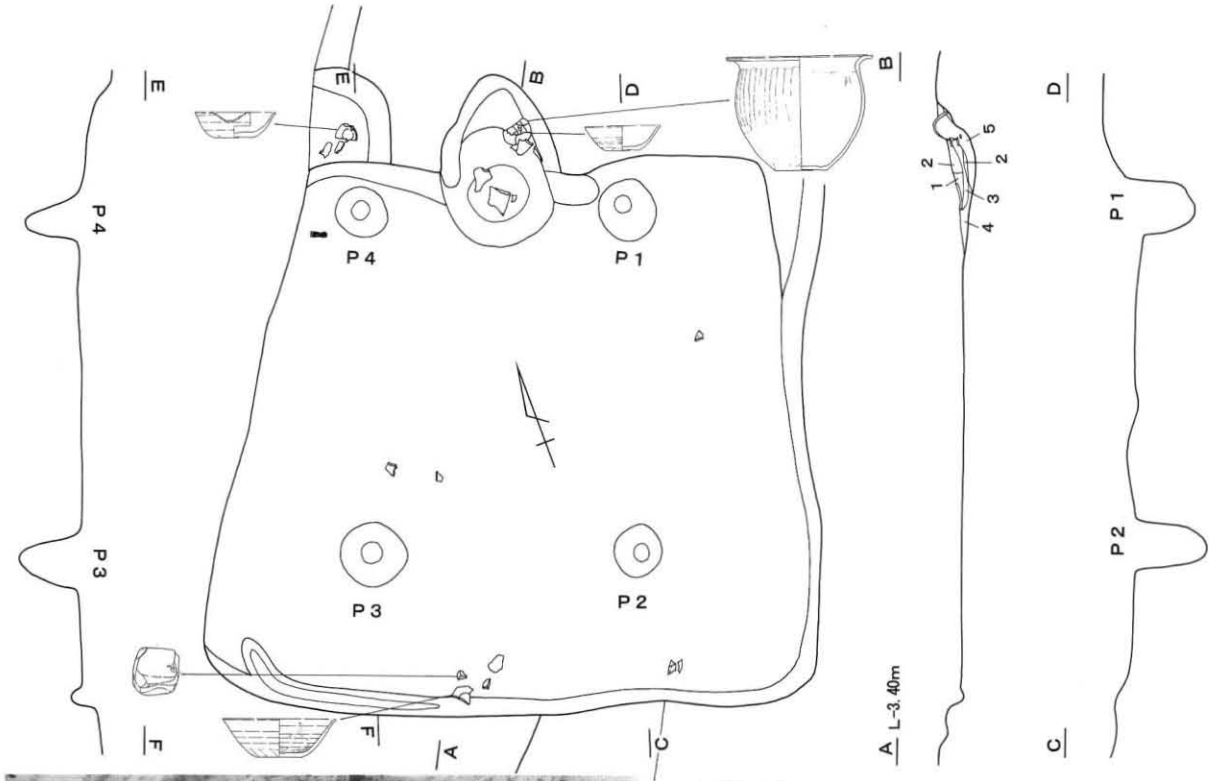


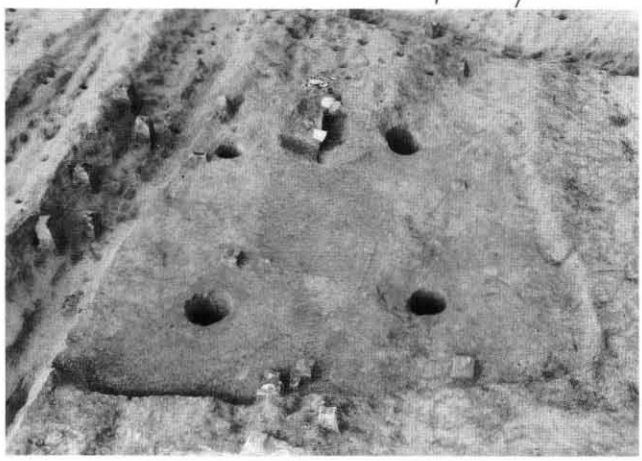
芝崎遺跡東部空中写真（12Ｅ-49 周辺）



芝崎遺跡東部空中写真（12Ｅ-50 周辺）

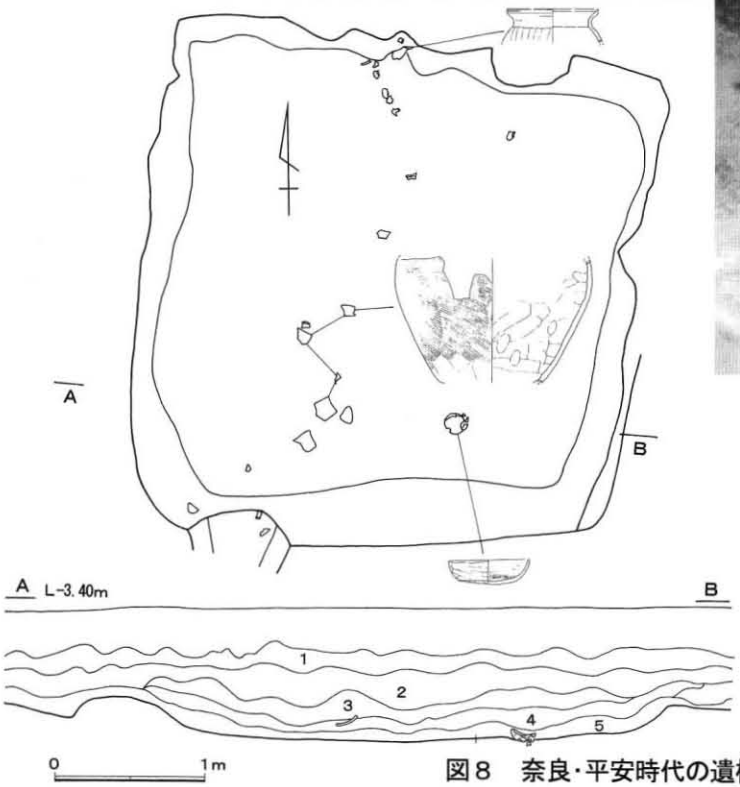
時代の遺構分布③　　芝崎遺跡東部空中写真





1号住居跡

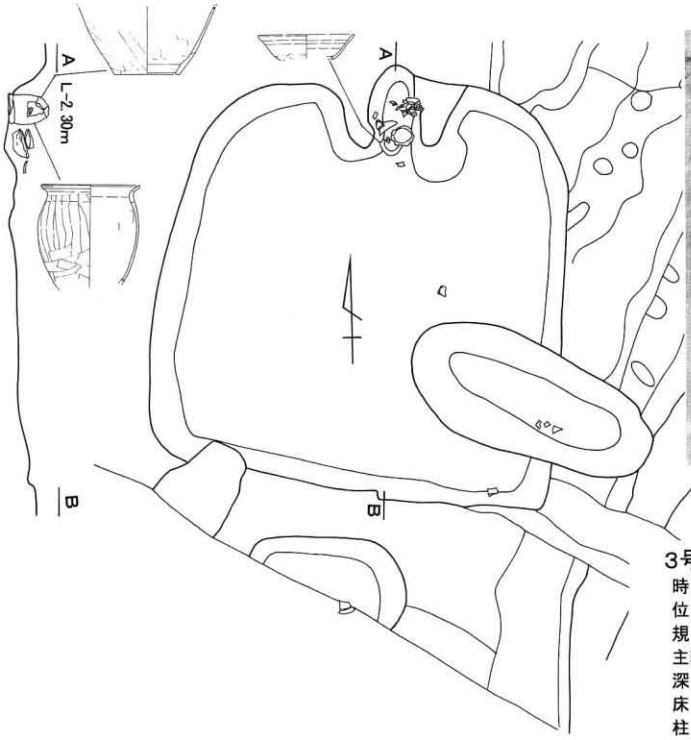
時　期	7 期
位　置	12E－41－19
規　模	3.55×3.9m
主軸方向	N－21°－E
深　さ	0.2m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し硬い。
柱　穴	対角線上より北寄りに4箇所あり、深さ0.4～0.5m。
竈	北壁中央にあり、構築材は崩れ、外形不明
遺　物	竈内から土師器坏・甕・須恵器甕片、南壁際から土師器坏出土。
特記事項	
層　序	1 橙色砂 2 赤色砂 3 暗灰色砂(灰混じる) 4 黒色砂(木炭粉混じる) 5 黒色砂(焼土混じる)



2号住居跡

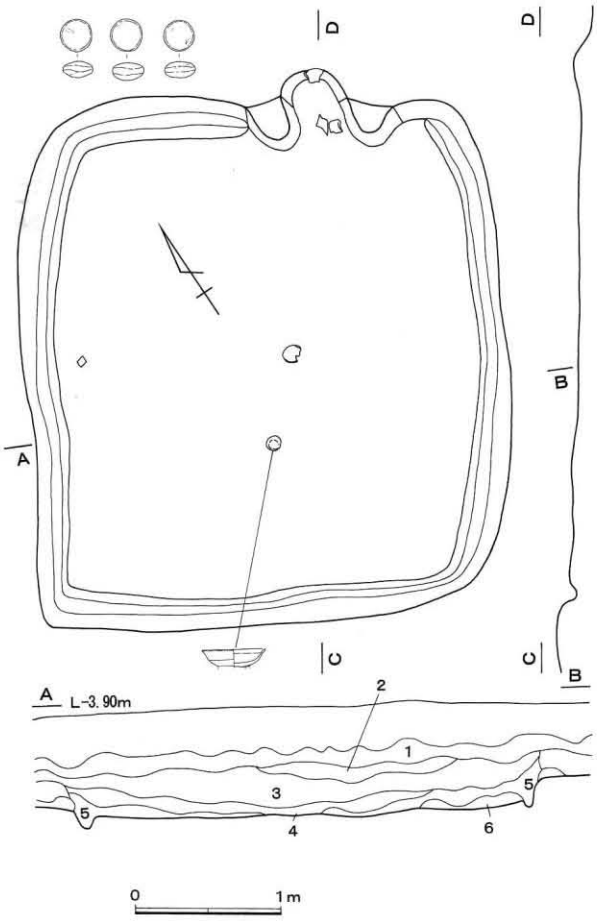
時　期	3 期
位　置	12E－51－4
規　模	2.95×2.95m
主軸方向	N－10°－E
深　さ	0.2m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し軟かい。
柱　穴	検出されず
竈	北壁中央にあり、構築材は崩れ、外形不明。
遺　物	竈内から土師器甕、床面上から土師器坏・須恵器甕片出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色砂(軟弱) 2 暗灰色砂(少ししまる) 3 灰色砂(少ししまる) 4 暗灰色砂(硬くしまる) 5 暗灰色砂(灰色砂混じり、しまる)

図8　奈良・平安時代の遺構（1・2号住居跡）



3号住居跡

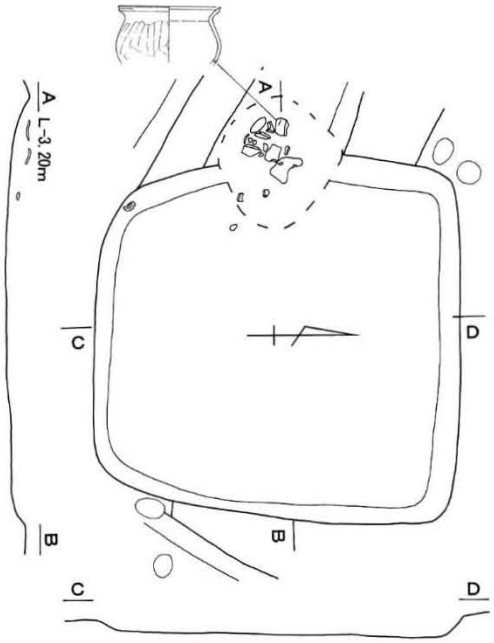
時　期	7 期
位　置	12E－51－4
規　模	2.53×2.45m
主軸方向	N－10°－E
深　さ	0.1m
床　面	砂地を平旦に整地しているが、少し凹凸があり軟かい。
柱　穴	検出されず
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂。幅0.95m、奥行き0.85m。
遺　物	竈内から土師器坏・甕・甑出土。
特記事項	南東部を小坑に切られて重なる。

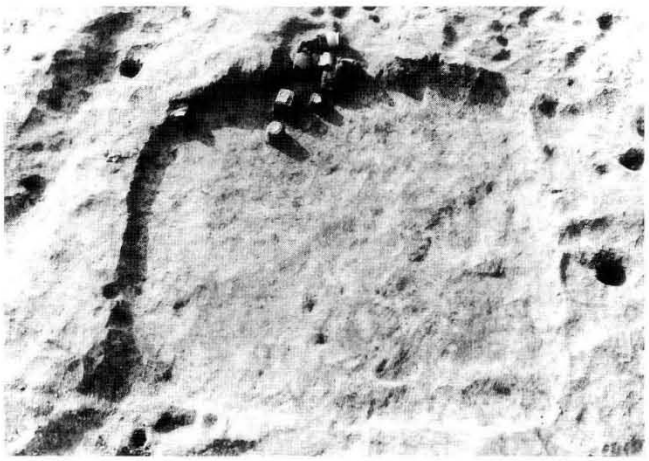


4号住居跡

時　期	8 期
位　置	12E－51－5
規　模	3.42×3.17m
主軸方向	N－35°－E
深　さ	0.2m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し軟かい。
柱　穴	検出されず
竈	北壁中央より少し東寄りにあり、構築材は暗灰色砂。幅1.1m、奥行き0.5m。
遺　物	竈内から土師器甕、床面上から土師器坏出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色砂（軟弱） 2 暗灰色砂（軟弱） 3 暗灰色砂（少ししまる） 4 暗灰色砂（硬くしまる） 5 暗灰色砂（灰色砂混じり、しまる） 6 灰色砂（硬くしまる）

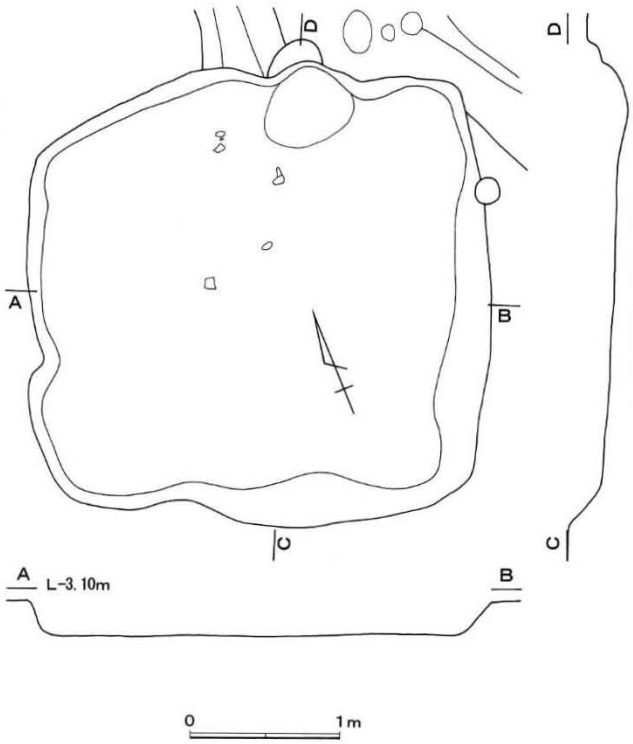
図９　奈良・平安時代の遺構（３・４号住居跡）

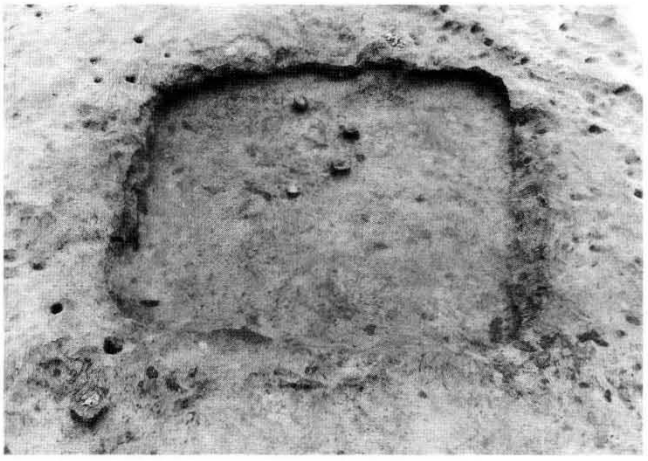




5号住居跡

時　期	7 期
位　置	12E－42－12
規　模	2.13×2.16m
主軸方向	N－85°－W
深　さ	0.1m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し凹凸がある。
柱　穴	検出されず
竈	西壁中央にあり、構築土は崩れ、痕跡のみ。
遺　物	竈内から土師器甕出土。
特記事項	

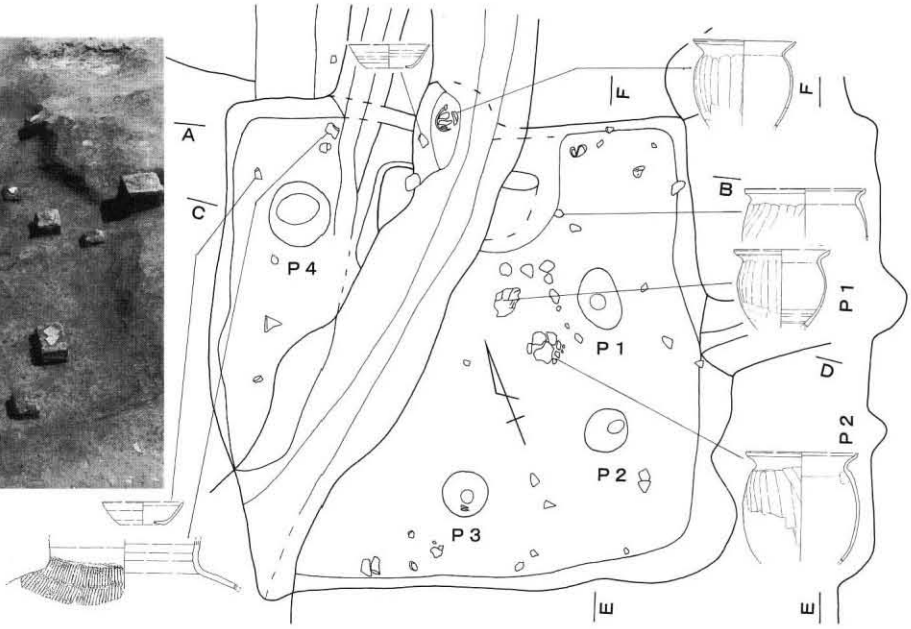




6号住居跡

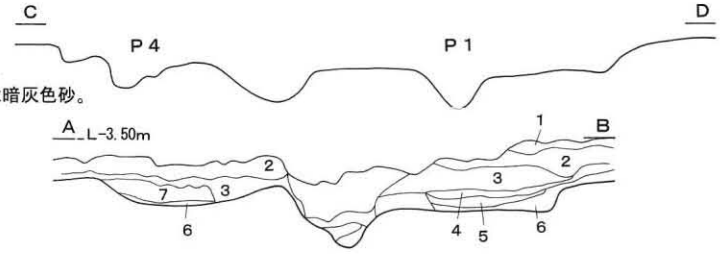
時　期	7 期
位　置	12E－52－1
規　模	2.67×2.75m
主軸方向	N－21°－E
深　さ	0.2m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し軟弱である。
柱　穴	検出されず
竈	北壁中央にあり、構築土は崩れ、痕跡のみ。
遺　物	床面上から土師器坏・甕片出土。
特記事項	

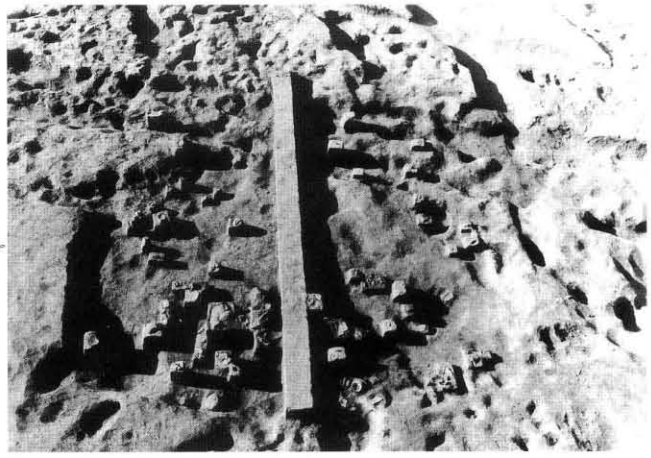
図 10　奈良・平安時代の遺構（5・6号住居跡）

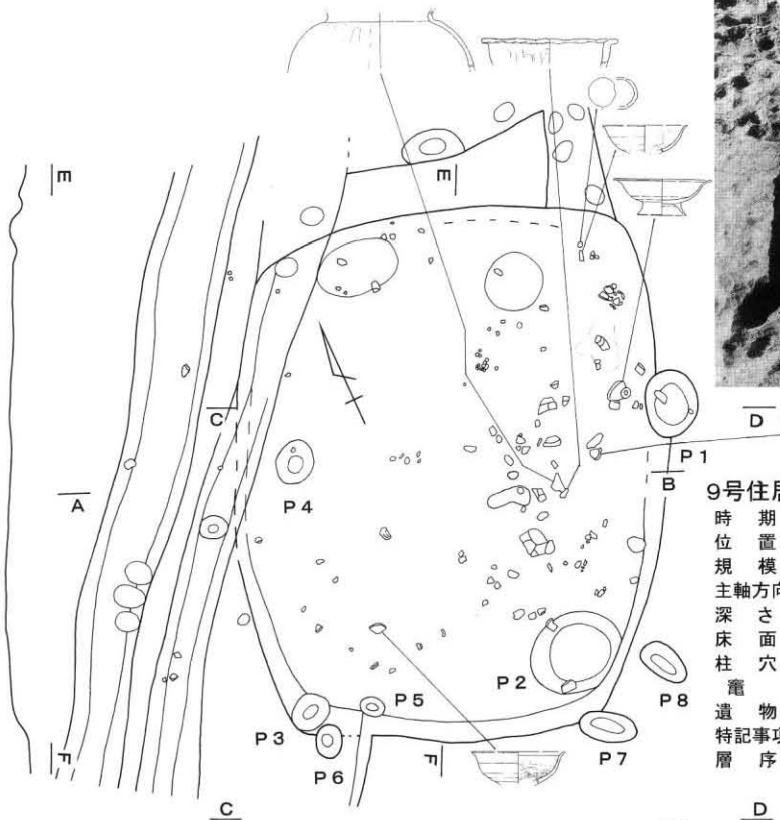


7号住居跡

時　期　6 期
位　置　12E－51－5・10
規　模　3.00×3.15m
主軸方向　N－18°　－E
深　さ　0.15m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し軟かい。
柱　穴　対角線上に2箇所、竈の対面に1箇所検出、深さ0.2～0.25m。
竈　北壁中央にあったが、近世溝に切られ僅かに残る。構築材は暗灰色砂。
遺　物　竈内から土師器甕、床面上から土師器坏・甕出土。
特記事項
層　序　1 黒灰色砂（軟弱）
2 暗灰色砂（軟弱）
3 灰色砂（軟弱）
4 暗灰色砂（しまる）
5 暗灰色砂（焼砂少し混じり、しまる）
6 暗灰色砂（硬くしまる）
7 灰色砂（しまる）







9号住居跡

時　期　9 期
位　置　12E－42－23
規　模　3.30×2.65m
主軸方向　N－23°　－E
深　さ　0.15m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり軟かい。
柱　穴　東西壁付近に2箇所検出、深さ0.1m。
竈　検出されず。
遺　物　床面上から土師器碗・甕等出土。
特記事項　西側を中世溝に切られる。東壁際中央の遺物集中部に炉があったか
層　序　1 暗灰色砂（黒色土少し混じる）
2 暗灰色砂（褐鉄多く混じる）
3 暗灰色砂（黒褐色土少し混じる）
4 灰色砂
5 黒灰色砂（黒色土混じる）
6 黒灰色砂（黒色土多く混じる）
7 暗灰色砂（黒色土混じる）
8 灰色砂

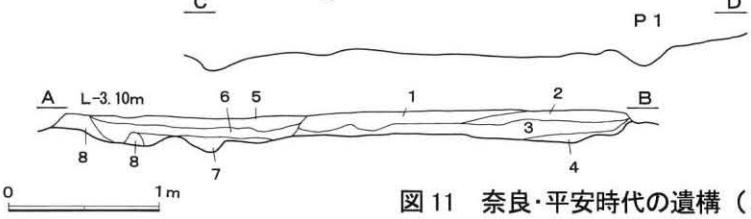
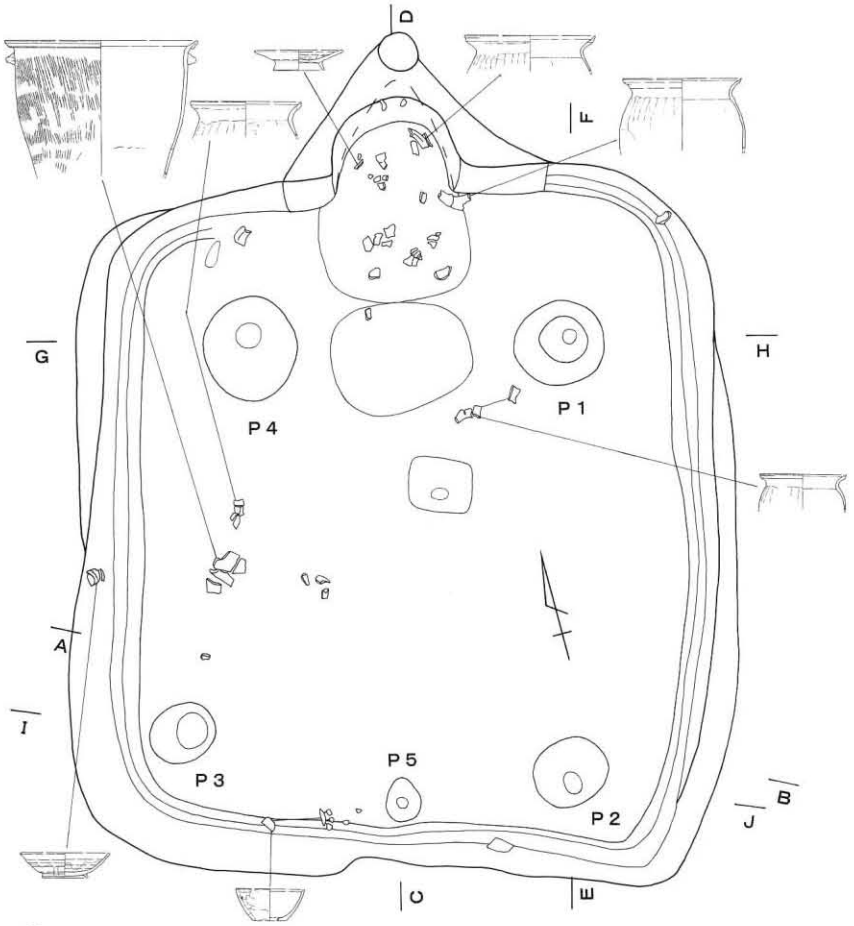
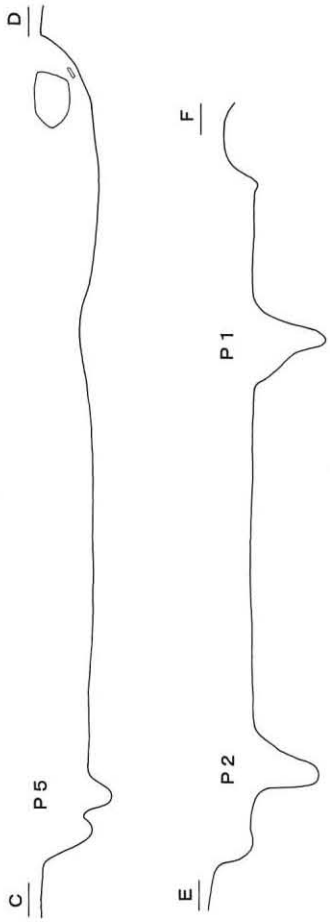
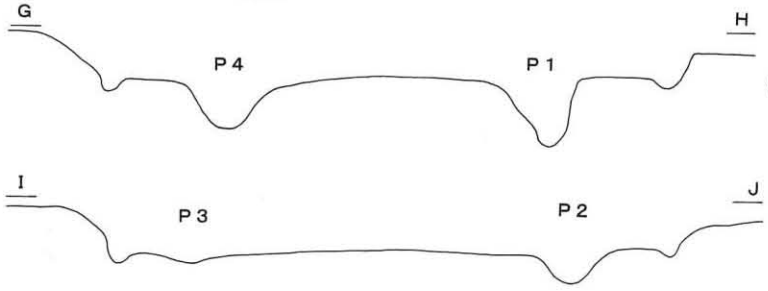
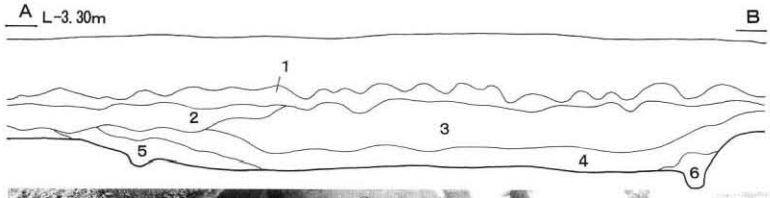


図 11　奈良・平安時代の遺構（7・9号住居跡）









0 1m

8号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－52－1・6
規　模	4.45×4.00m
主軸方向	N－15°－E
深　さ	0.3m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し軟かい。
柱　穴	対角線上に4箇所、竈の対面に1箇所検出、深さ0.1～0.5m。
竈	北壁中央にあり、煙道部が良く残る。構築材は暗灰色砂。焚き口の掘り込みが大きい。幅1.7m、奥行き1.1m。
遺　物	竈内から土師器甕、床面上から土師器坏・甕、灰釉陶器碗等出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色砂（軟弱） 2 黒灰色砂（少し赤く、軟弱） 3 暗灰色砂 4 暗灰色砂（焼砂が少し混じる） 5 暗灰色砂（焼砂少し混じり、しまる） 6 灰色砂

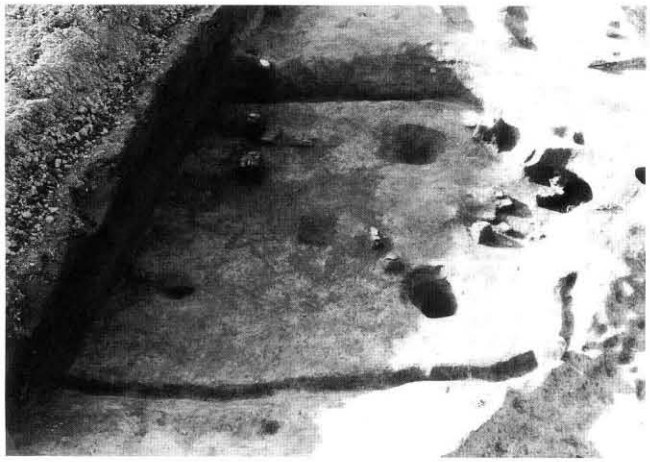
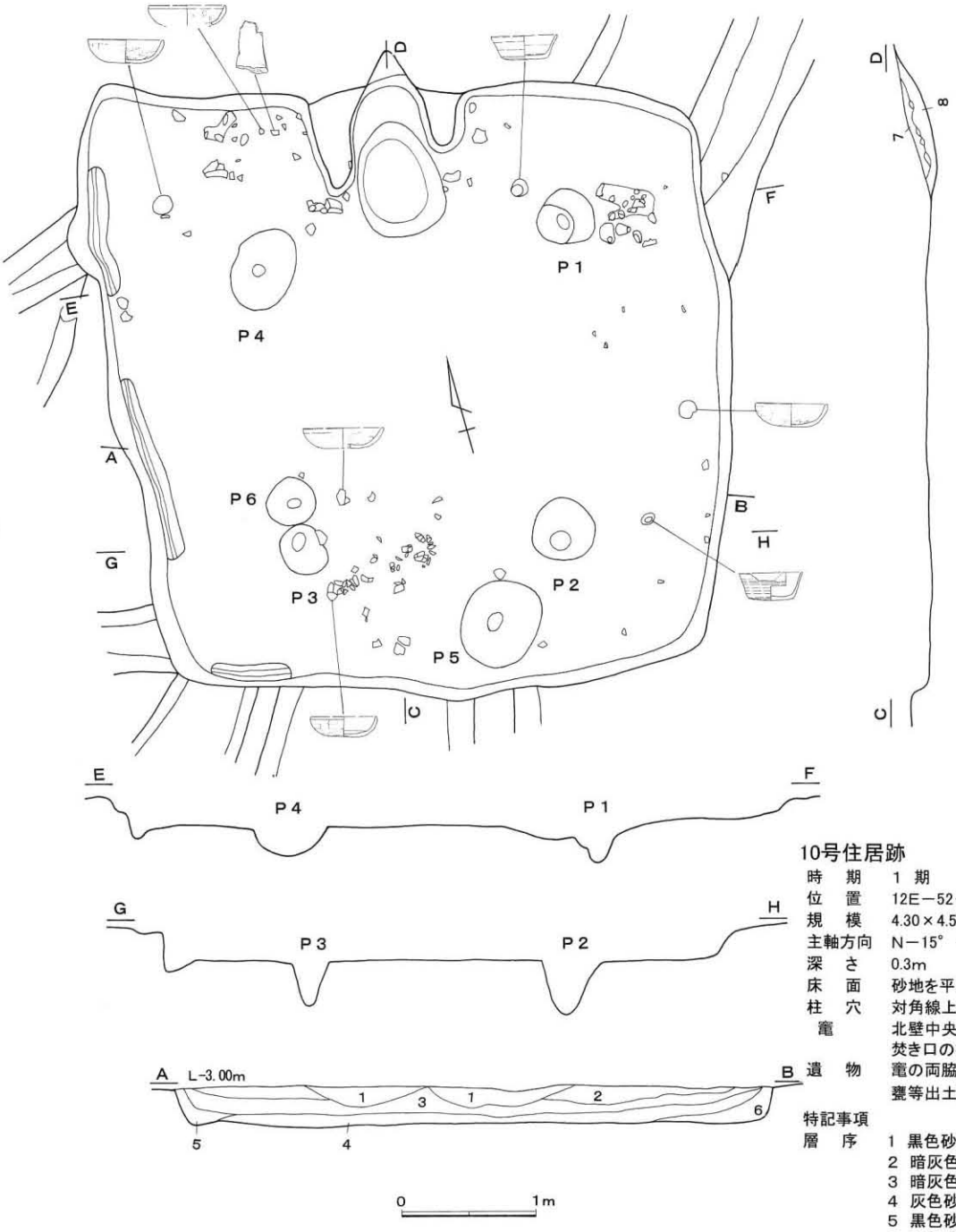


図 12　奈良・平安時代の遺構（８号住居跡）



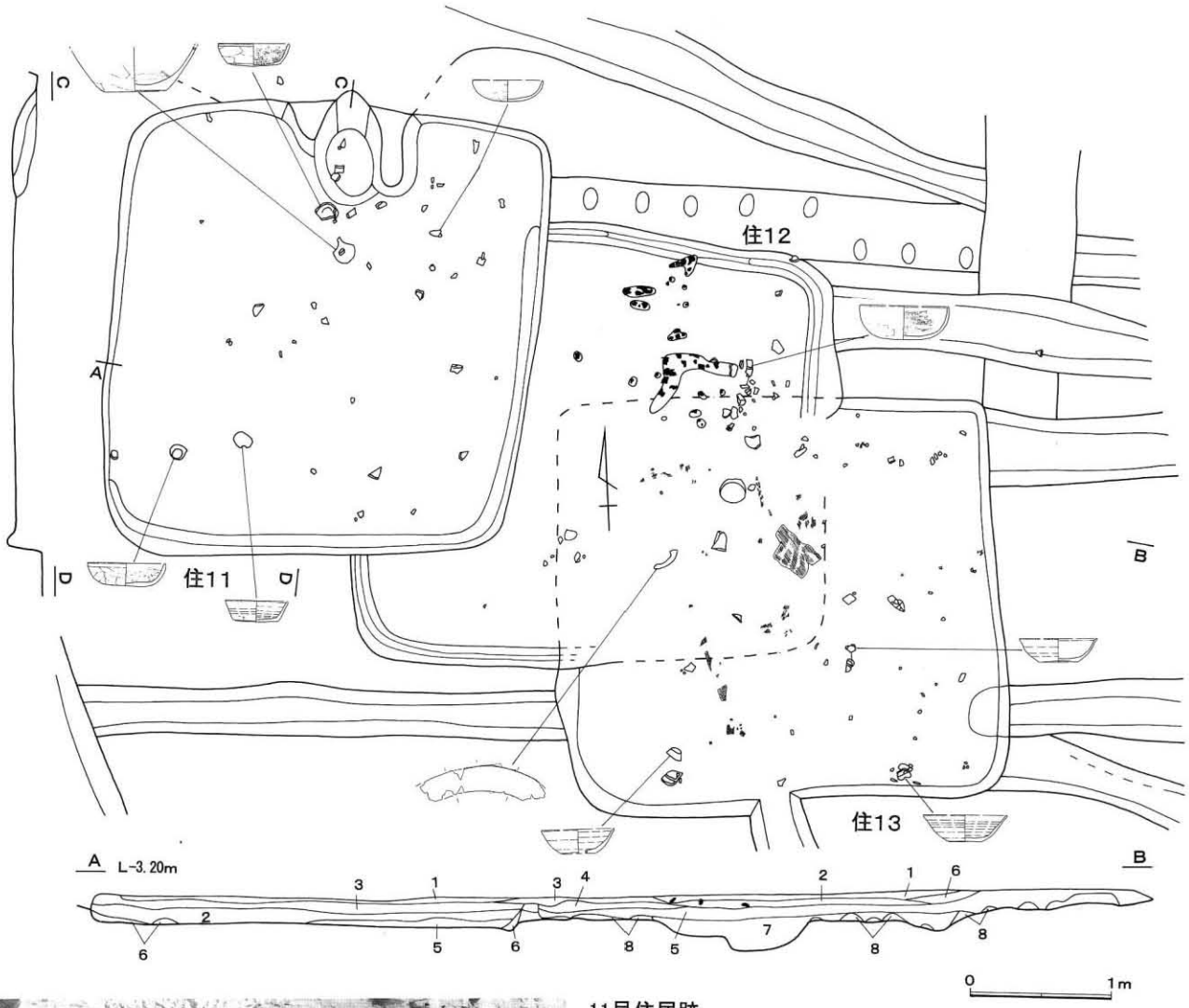
10号住居跡

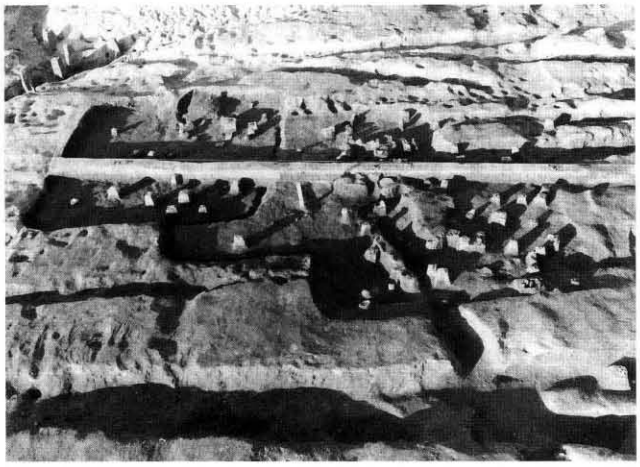
時　期	1 期
位　置	12E－52－3
規　模	4.30×4.50m
主軸方向	N－15°－E
深　さ	0.3m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり、中央部で硬い。
柱　穴	対角線上に4箇所検出、深さ0.25～0.4m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は灰色砂。焚き口の掘り込みがある。幅1.2m、奥行き1.1m。
遺　物	竈の両脇から土師器甕、砥石、床面上から土師器坏・甕等出土。

特記事項

層　序
1 黒色砂（黒色土多く混じる）
2 暗灰色砂（黒褐t色土混じる）
3 暗灰色砂（暗褐色土混じる）
4 灰色砂（暗褐色土少し混じる）
5 黒色砂
6 灰色砂（暗褐色土僅かに混じる）
7 灰色砂（竈構築材）
8 黒灰色砂（焼土粒混じる）

図 13　奈良・平安時代の遺構（10 号住居跡）





11号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－42－24
規　模　3.08×2.95m
主軸方向　N－4°－E
深　さ　0.2m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し軟らかい。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂。
火床部に少し掘り込みがある。幅0.9m、奥行き0.75m。
遺　物　竈の前、床面上から土師器坏・甕等出土。
特記事項
層　序　1 暗灰色砂
2 暗灰色砂(木炭、焼土混じる)
3 暗灰色砂(暗褐色土混じる)
4 灰色砂(暗褐色砂混じる)
5 暗灰色砂(黒色土混じる)
6 灰色砂(暗灰色砂混じる)
7 暗灰色砂(暗褐色土混じり、床面整地土でしまる)
8 灰色砂(地山砂)

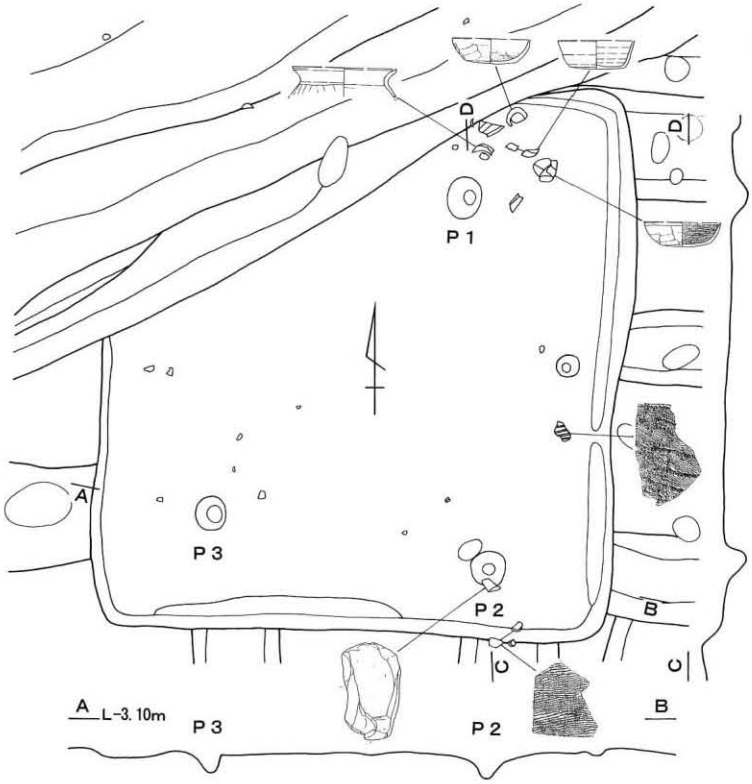
12号住居跡

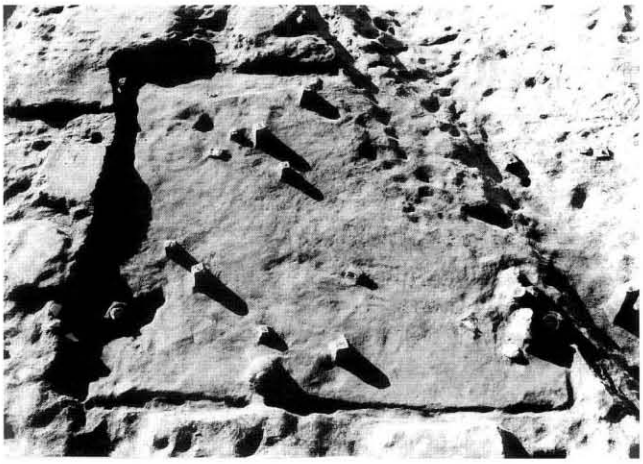
時　期　1 期
位　置　12E－42－24・25、52－4・5
規　模　3.00×3.20m
主軸方向　N－3°－E
深　さ　0.16m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し軟らかい。
柱　穴　検出されず。
竈　検出されず。
遺　物　床面上から土師器坏・碗出土。
特記事項　東西を11・13号住居跡に切られるように重なり、大部分を消失。
北東部に焼土が分布し、焼失したか。

13号住居跡

時　期　8 期
位　置　12E－42－25、52－5
規　模　2.68×2.98m
主軸方向　N－2°－W
深　さ　0.15m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり軟らかい。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央より西寄り、12号住居跡と重なる部分に位置するため、明瞭に検出することができなかった。
遺　物　床面上から土師器坏・甕、須恵器長頸壺、鉄鎌出土。

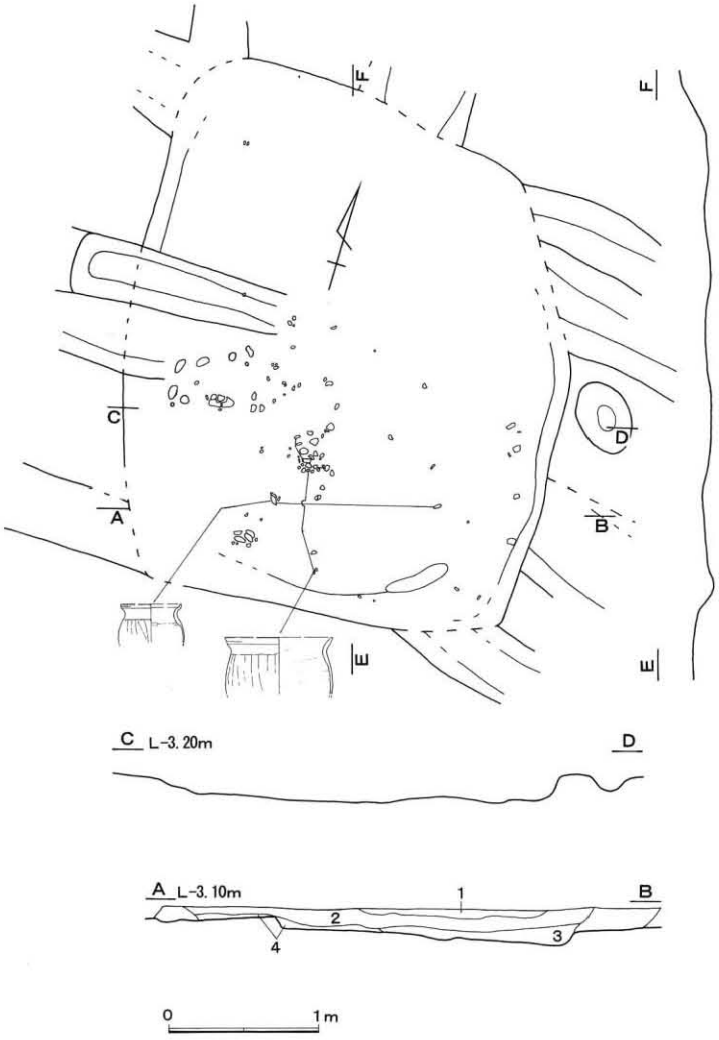
図 14　奈良・平安時代の遺構（11～13 号住居跡）

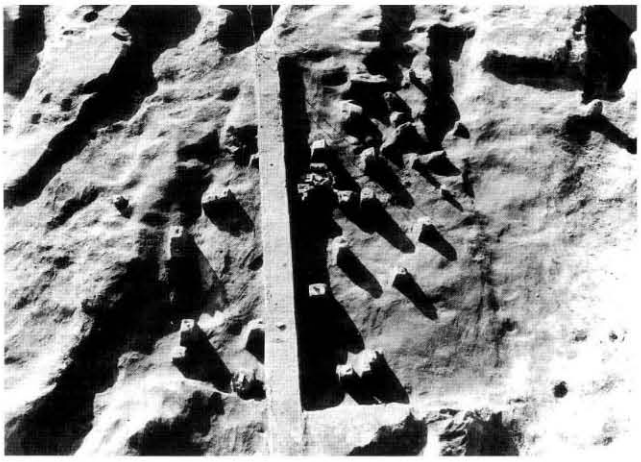




14号住居跡

時　期	2 期
位　置	12E－42－25
規　模	3.45×3.21m
主軸方向	N－3°－E
深　さ	0.15m
床　面	砂地を平旦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に3箇所検出。0.1～0.15m
竈	検出されず。
遺　物	北東部床面上から土師器坏・甕、須恵器甕、砥石出土。
特記事項	北側を近世溝に切られ、竈を含めた北壁を消失。

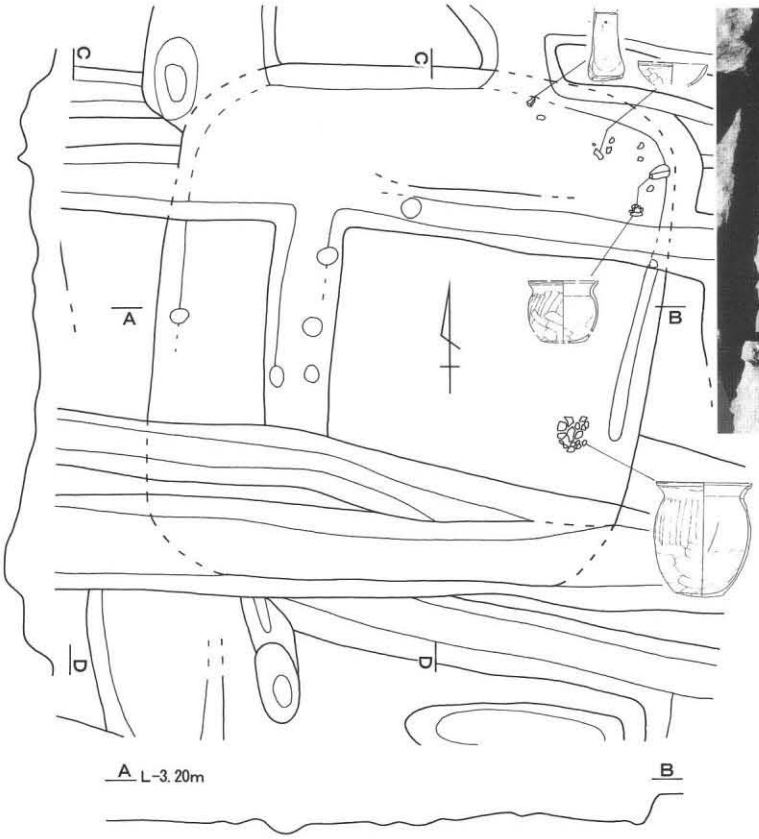


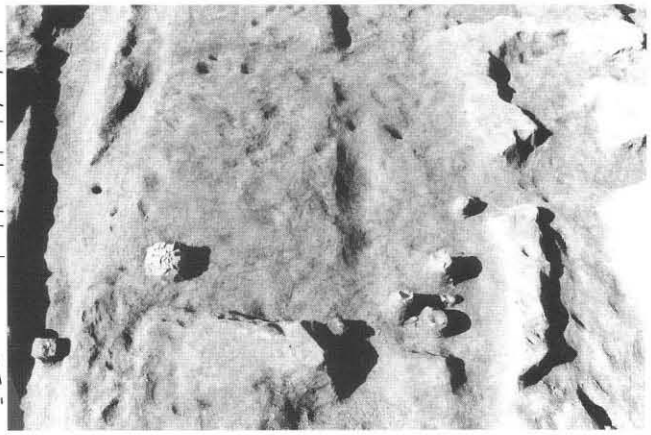


15号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－42－25、43－21
規　模	3.00×2.70m
主軸方向	N－13°－W
深　さ	0.2m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し軟らかい。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項	平安時代畑耕作によって、竈を含めて壁・床の一部を消失。
層　序	1 灰色砂 2 暗灰色砂（黒色土混じる） 3 暗灰色砂（黒褐色土混じる） 4 暗灰色砂（暗褐色土混じる）

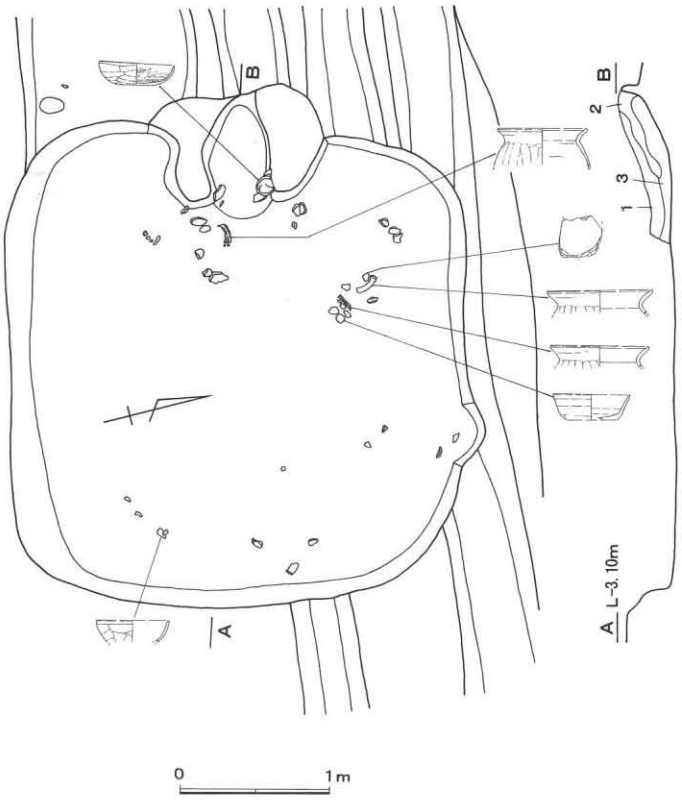
図 15　奈良・平安時代の遺構（14・15 号住居跡）

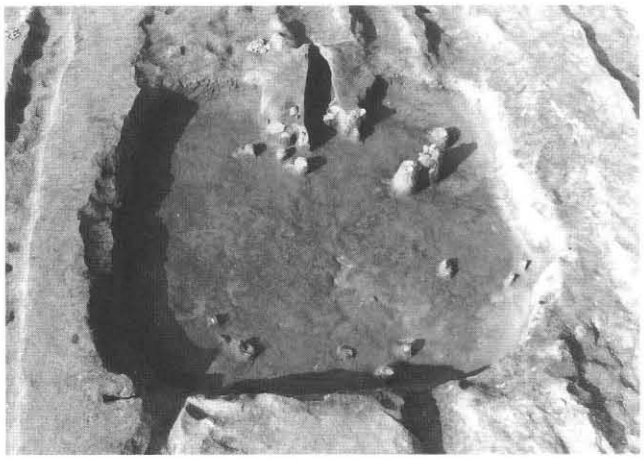




16号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－43－21
規　模　3.20×3.00m
主軸方向　N－7°－E
深　さ　0.2m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり軟らかい。
柱　穴　検出されず。
竈　検出されず。
遺　物　東部床面上から土師器甕出土。
特記事項　平安時代畑耕作によって、竈を含めて壁・床の一部を消失。

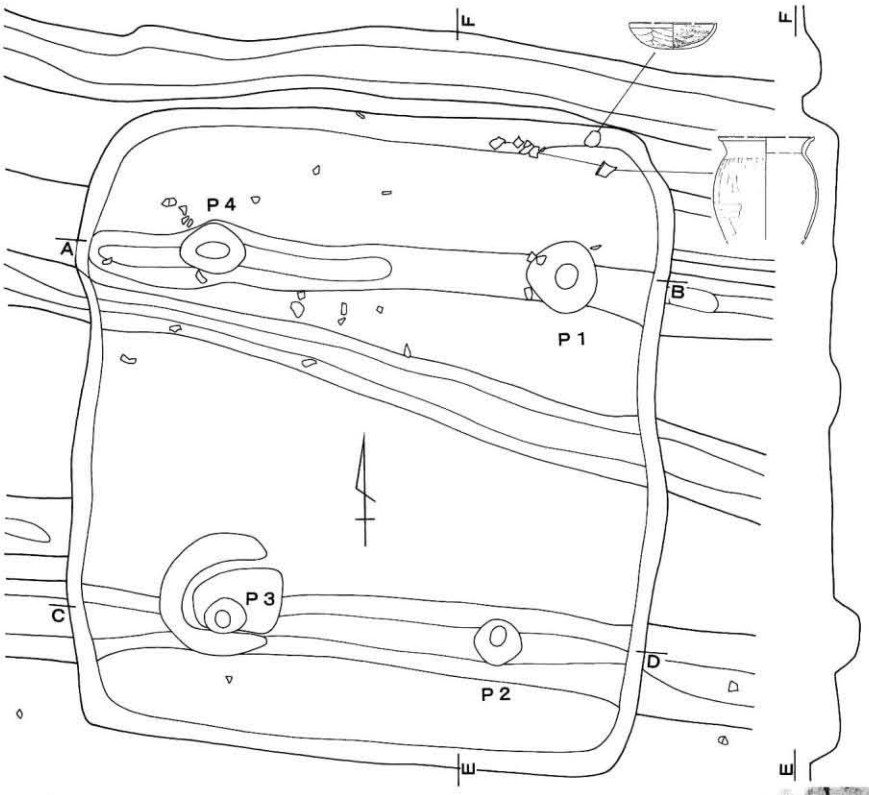


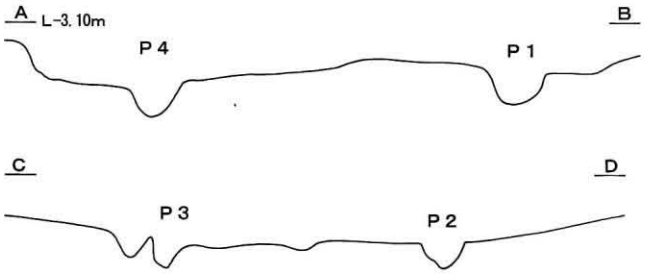


17号住居跡

時　期　3 期
位　置　12E－43－21、53－1
規　模　3.00×2.76m
主軸方向　N－77°－W
深　さ　0.35m
床　面　砂地を平旦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　西壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で硬い。
幅0.9m、奥行き0.75m。
遺　物　竈の中、および前面床面上から土師器坏・甕、砥石等出土。
特記事項
層　序　1 灰色砂（竈天井部構築材）
2 黒灰色砂（天井部内面部、焼砂混じる）
3 黒色砂（灰・焼土混じる）

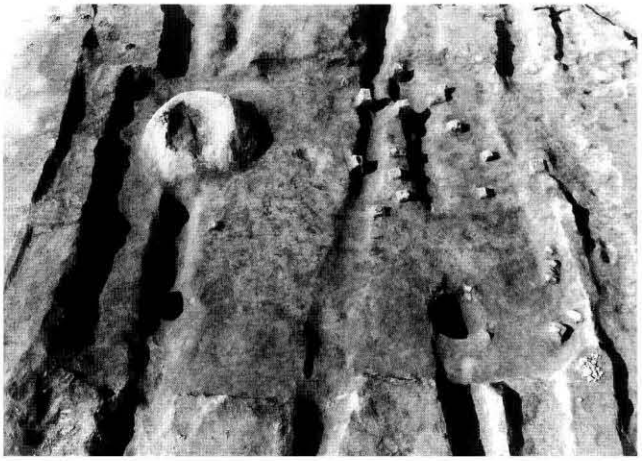
図 16　奈良・平安時代の遺構（16・17 号住居跡）

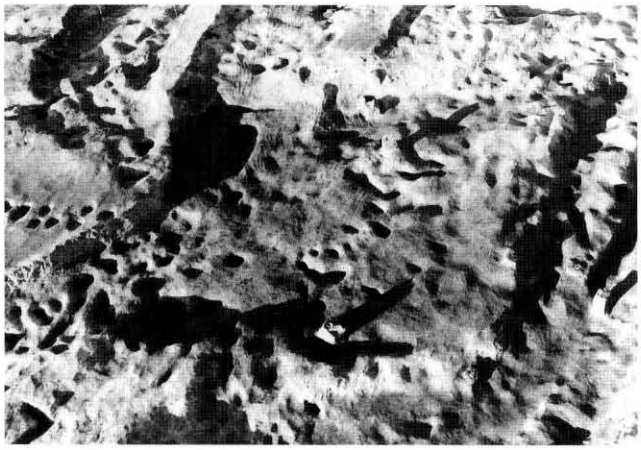


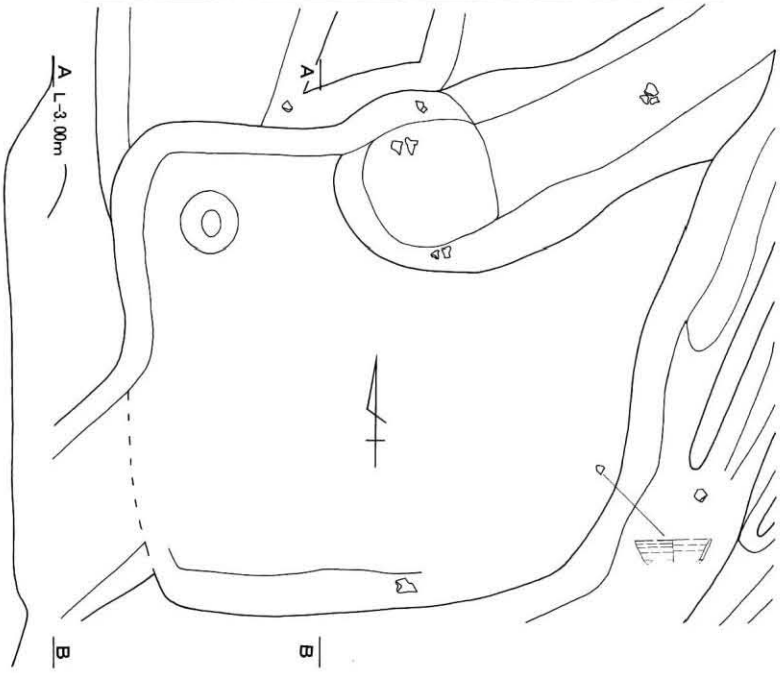


18号住居跡

時　期	1 期
位　置	12E－53－1
規　模	3.98×3.70m
主軸方向	N－7°－E
深　さ	0.2m
床　面	砂地を平旦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所検出。深さ0.17～0.25m
竈	検出されず。南西側柱穴上にある炉が竈に代わるものか。 炉は径0.5m、深さ0.1mあり、よく焼け、床面より0.1m浮く。時期が異なる可能性も考えられる。
遺　物	北部床面上から土師器坏・甕出土。
特記事項	本住居跡のような炉は遺跡内で他に2例（49・86号）ある。





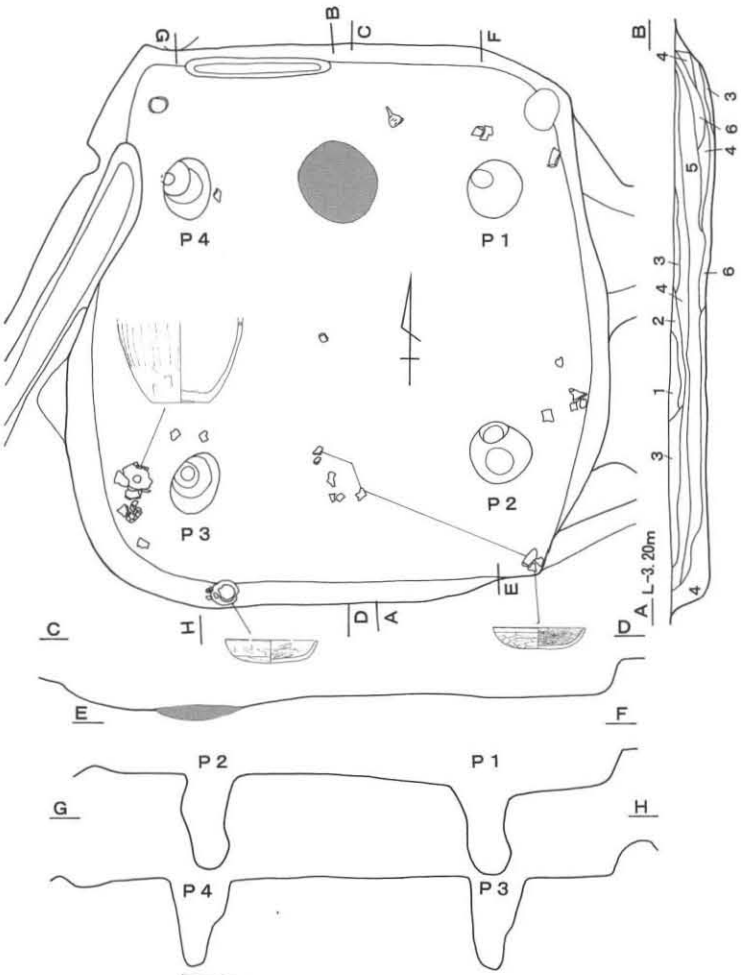


19号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－52－3
規　模	2.75×2.70m
主軸方向	N－2°－W
深　さ	0.2m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し凹凸が有り軟弱。
柱　穴	北西隅に1箇所検出。深さ0.1m
竈	北壁中央部に位置する。中世溝に切られ、火床部と煙道が検出されたのみ。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項	

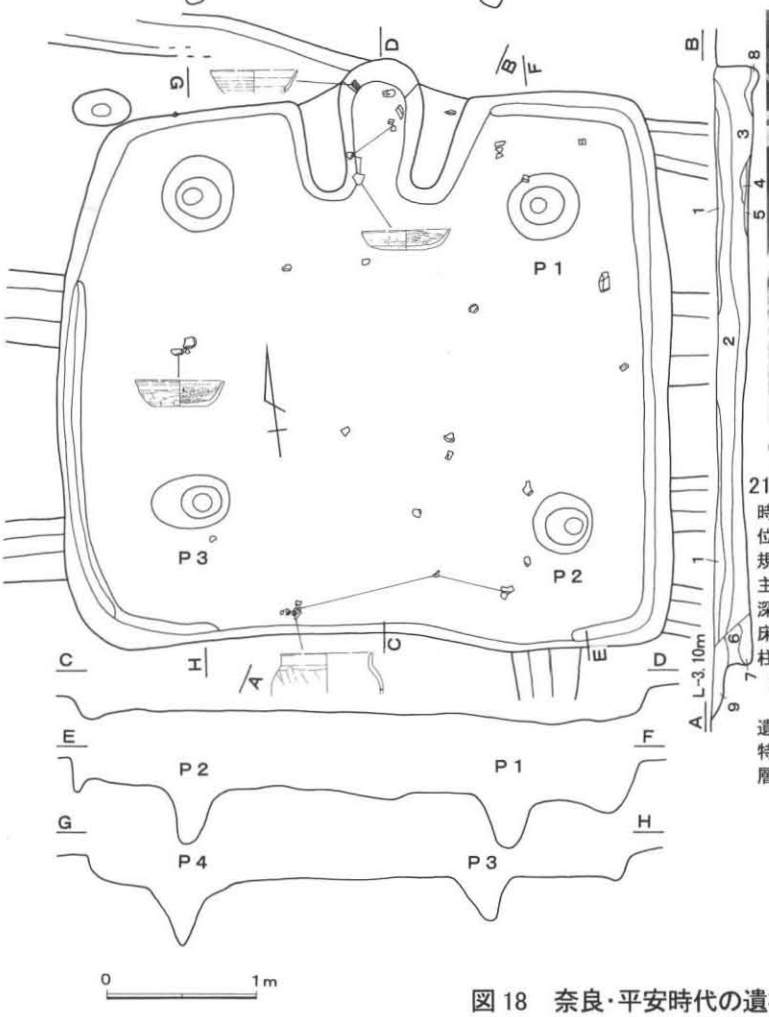
図 17　奈良・平安時代の遺構（18・19 号住居跡）

0　1m



20号住居跡

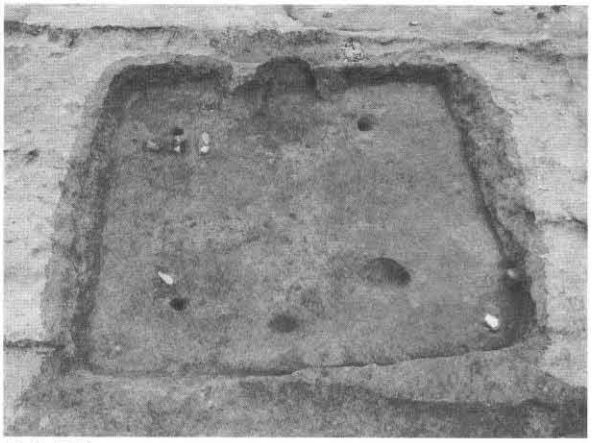
時　期　2 期
位　置　12E－52－3
規　模　3.42×3.32m
主軸方向　N－2°－W
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し軟らかい。
柱　穴　対角線上に4箇所検出。深さ0.6～0.65m。
炉　床面中央より北に1m寄った所にあり、径0.5m、深さ0.1mの地床炉。火床部が少し赤く焼け、焼土が堆積。
遺　物　壁付近の覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項　本住居跡は竈ではなく、炉を有し、他に2軒（27・42号）類例がある。
層　序
1 黒色土（砂混じる）
2 暗灰色砂（暗褐色土混じる）
3 灰色砂
4 暗灰色砂
5 暗灰色砂（暗褐色土混じり、しまる）
6 黒灰色砂



21号住居跡

時　期　3 期
位　置　12E－53－1
規　模　3.56×3.83m
主軸方向　N－6°－E
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり軟らかい。
柱　穴　対角線上に4箇所あり、深さ0.3～0.4m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が混じって硬い。幅1.3m、奥行き0.95m。
遺　物　竈中から土師器坏・甕片、そのほか覆土から出土。
特記事項
層　序
1 灰色砂
2 暗灰色砂（暗褐色土混じる）
3 暗灰色砂（黒褐色土混じる）
4 暗灰色砂（灰色砂、白色土混じる）
5 黒灰色砂（木炭混じる）
6 灰色砂（壁地山砂の崩落）
7 灰色砂（黒色土少し混じる）
8 灰色砂（粘土少し混じる。竈崩壊土）
9 黒色土（砂混じる。畑畝溝）

図 18　奈良・平安時代の遺構（20・21 号住居跡）



22号住居跡

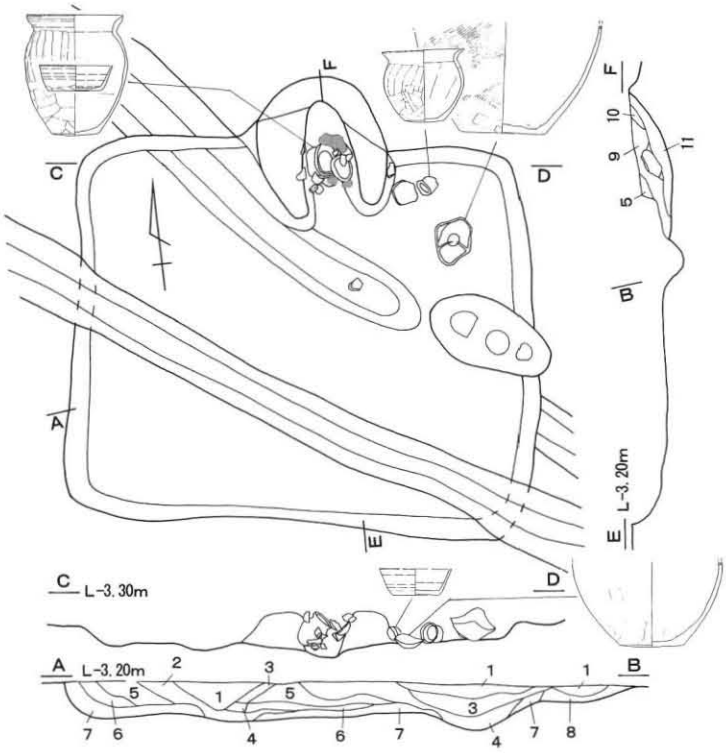
時　期　3 期
位　置　12E－52－10、53－6
規　模　3.23×3.35m
主軸方向　N－2°－E
深　さ　0.32m
床　面　砂地を平旦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.15～0.2m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が混じって 硬い。幅1.45m、奥行き0.55m。
遺　物　竈中から土師器甕片、床面から土師器坏・甕、須恵器甕片出土。
特記事項
層　序
1 暗灰色砂（黒色土少し混じる）
2 暗灰色砂（黒褐色土少し混じる）
3 暗灰色砂（暗褐色土混じる）
4 灰色砂（暗褐色土少し混じる）
5 灰色砂（黒色土少し混じる）
6 灰色砂
7 暗灰色砂（焼土混じる）
8 暗灰色砂（粘土少し混じる。竈崩壊土）
9 黒色砂（灰混じる）
10 黒灰色砂（黒色土混じる）
11 暗灰色砂

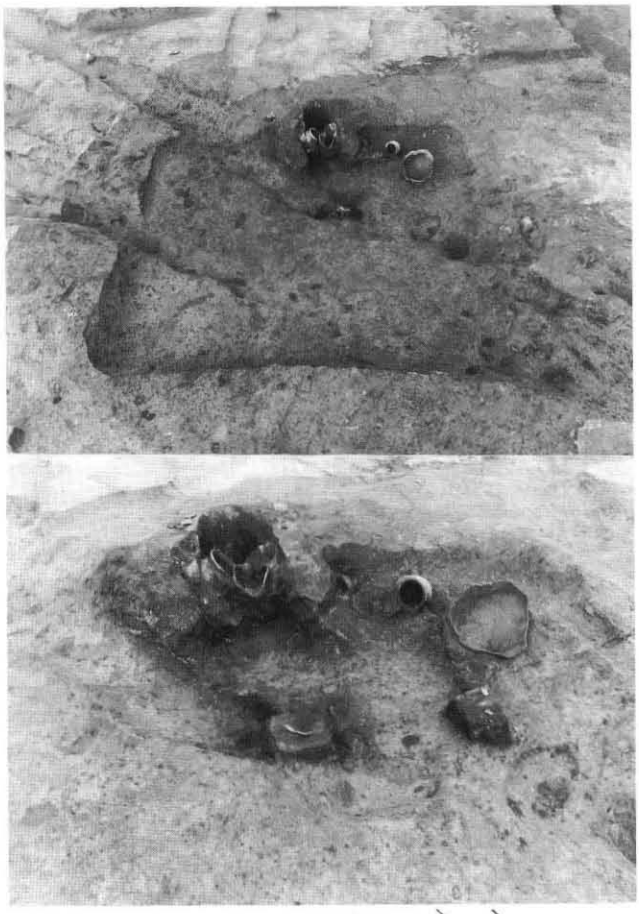
23号住居跡

時　期　6 期
位　置　12E－52－9・10
規　模　3.85×4.30m
主軸方向　N－8°－E
深　さ　0.38m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸がある。中央部東西に走る溝は畑耕作痕の畝溝
柱　穴　対角線上に4箇所あり、深さ0.3～0.42m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂。幅1.32m、奥行き0.75m。
遺　物　床面上から土師器坏・甕、須恵器盤転用硯出土。
特記事項　本住居跡は意識的に埋められ、なお且つよく踏み固められていた。
層　序
1 黒色砂（黒色土混じる）
2 黒灰色砂（白色砂混じり、よく踏み固められている）
3 暗灰色砂
4 黒灰色砂（黒色土混じる）
5 黒灰色砂（黒色土、木炭混じる）
6 黒灰色砂
7 灰色砂
8 暗灰色砂（焼土粒混じる）

0　1m

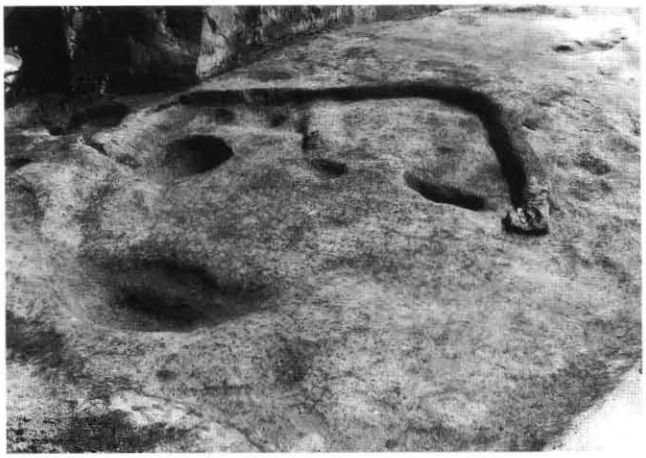
図19　奈良・平安時代の遺構（22・23号住居跡）

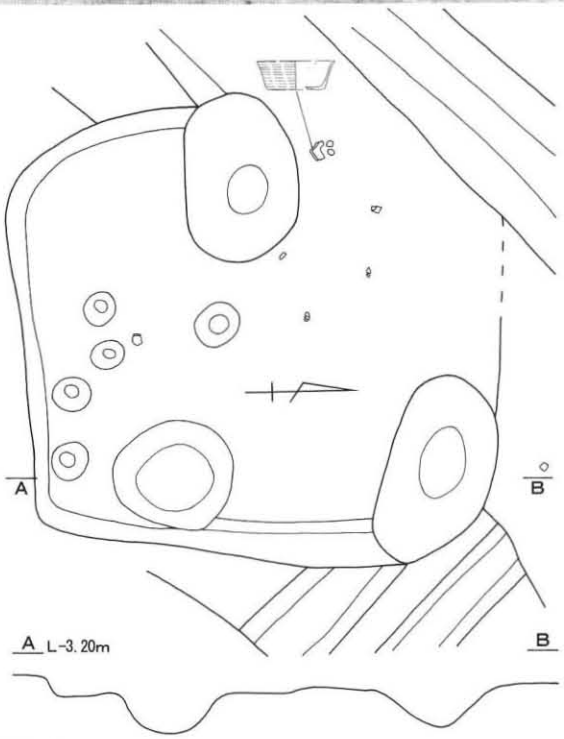




24号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－52－9
規　模　2.50×2.80m
主軸方向　N－9°－E
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が混じって硬い。幅1.00m、奥行き1.00m。
遺　物　竈中及び竈右側床面から土師器坏・甕・甑、須恵器甕等、使用当時の状態で出土。
特記事項　住居跡を斜めに横断する溝は、中世の畑耕作痕の畝溝。
層　序　1 黒褐色土(砂多く混じる)
2 暗灰色砂(黒褐色土混じる)
3 黒灰色砂(黒褐色土混じる)
4 黒色砂(黒色土混じる)
5 灰色砂
6 暗灰色砂
7 暗灰色砂(焼土混じる)
8 黄灰色砂(地山)
9 黄灰色砂(構築材)
10 赤色砂
11 黒黄灰色砂

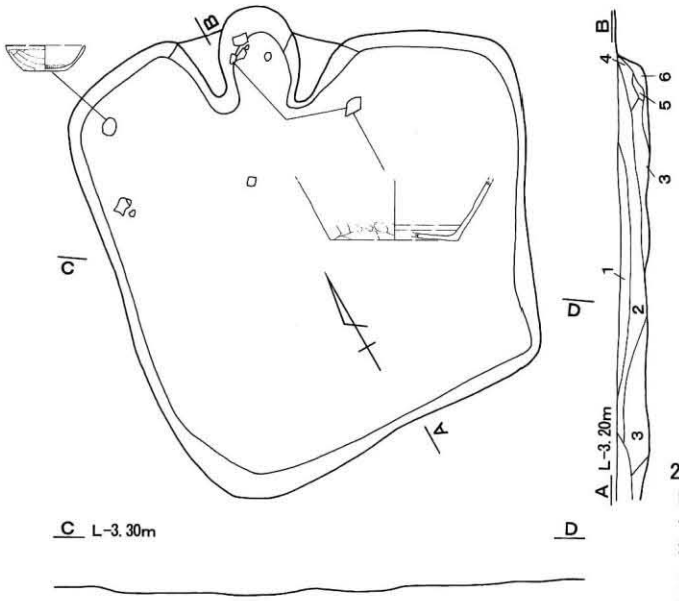


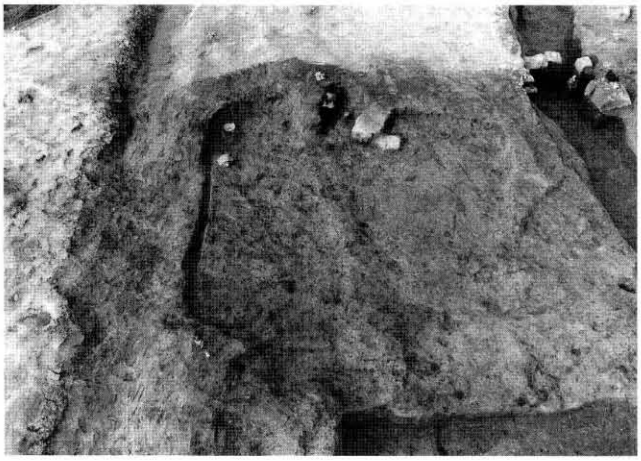


25号住居跡

時　期　3 期
位　置　12E－52－20
規　模　3.03×2.65m
主軸方向　N－1°－E
深　さ　0.13m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　検出されず。南側にある小穴や、3箇所にある大穴は住居跡とは異なる時期のもの。
竈　検出されず。中世道跡に切られ、消失か。
遺　物　床面から土師器坏・甕片、須恵器蓋転用硯出土。
特記事項　中世のみちあとによって北側を消失。

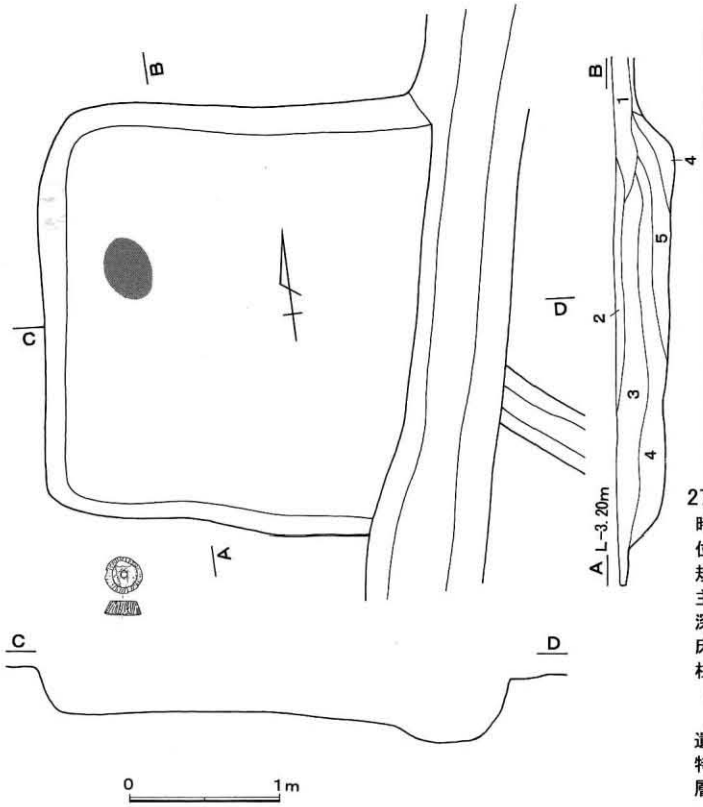
図 20　奈良・平安時代の遺構（24・25 号住居跡）

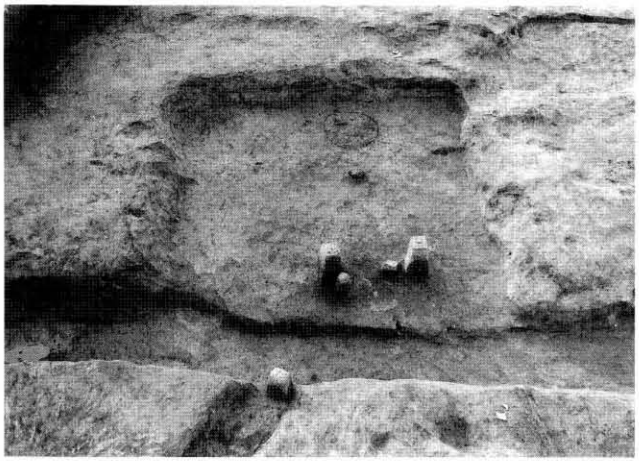




26号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－53－16・17
規　模　2.80×2.80m
主軸方向　N－11°－E
深　さ　0.22m
床　面　砂地を平旦に掘り込まれ、少し凹凸があるが硬い。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅1.25m、奥行き0.64m。
遺　物　竈中及び竈付近の床面から土師器坏・甕片出土。
特記事項　床面の掘り込みが浅く、南東部壁がなくなっている。
層　序　1 灰色砂
2 灰色砂(暗褐色土少し混じる)
3 灰色砂(硬くしまる)
4 灰色砂(硬くしまり、竈構築材)
5 赤色焼砂
6 黒色土(焼灰混じる)

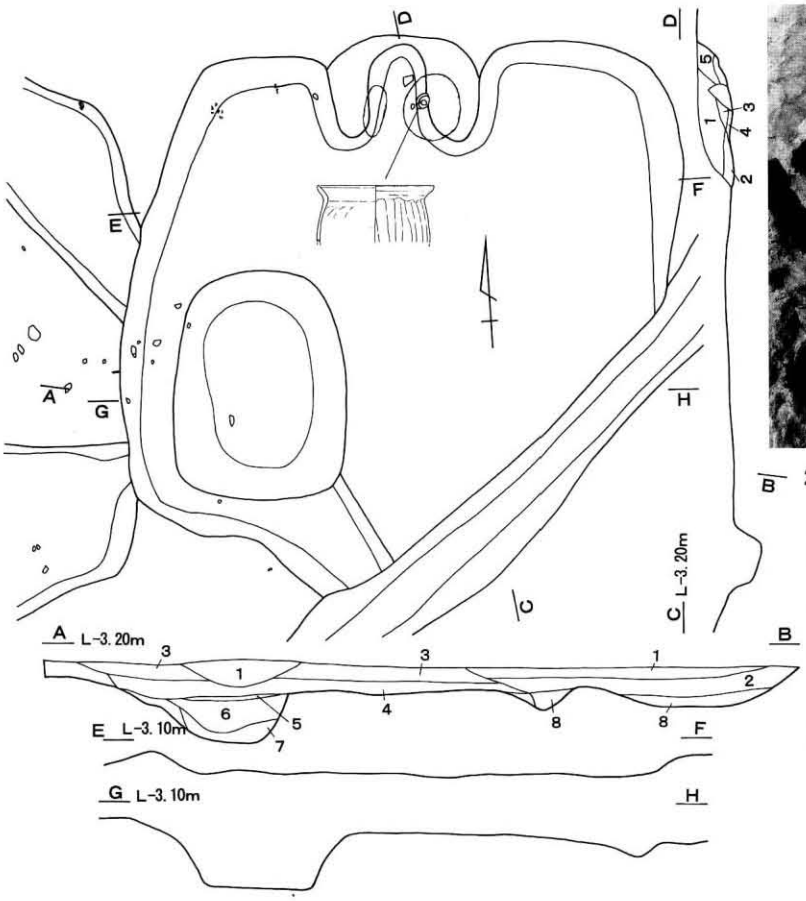


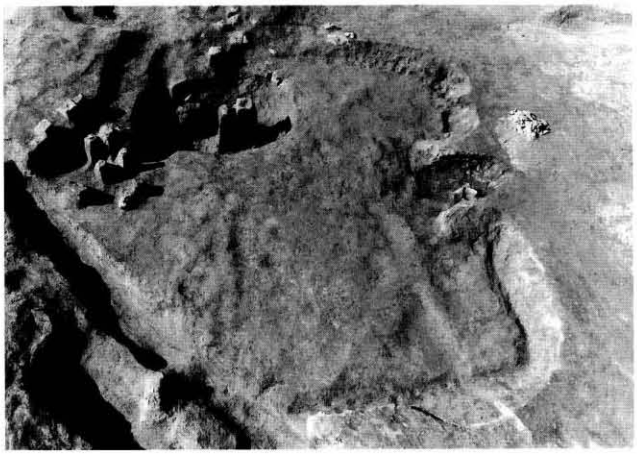


27号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－53－17
規　模　2.50×2.40m
主軸方向　N－82°－W
深　さ　0.38m
床　面　砂地を平旦に掘り込み、硬い。
柱　穴　検出されず。
炉　床面中央より北西に1m寄った所にあり、径0.4m、深さのほとんどない地床炉。火床部が少し赤く焼ける。
遺　物　床面から石製紡錘車出土。
特記事項
層　序　1 黒灰色砂(黒色土混じる)
2 暗灰色砂(黒色土混じる)
3 灰色砂(黒色土混じる)
4 灰色砂
5 灰色砂(黒色土、木炭混じる)

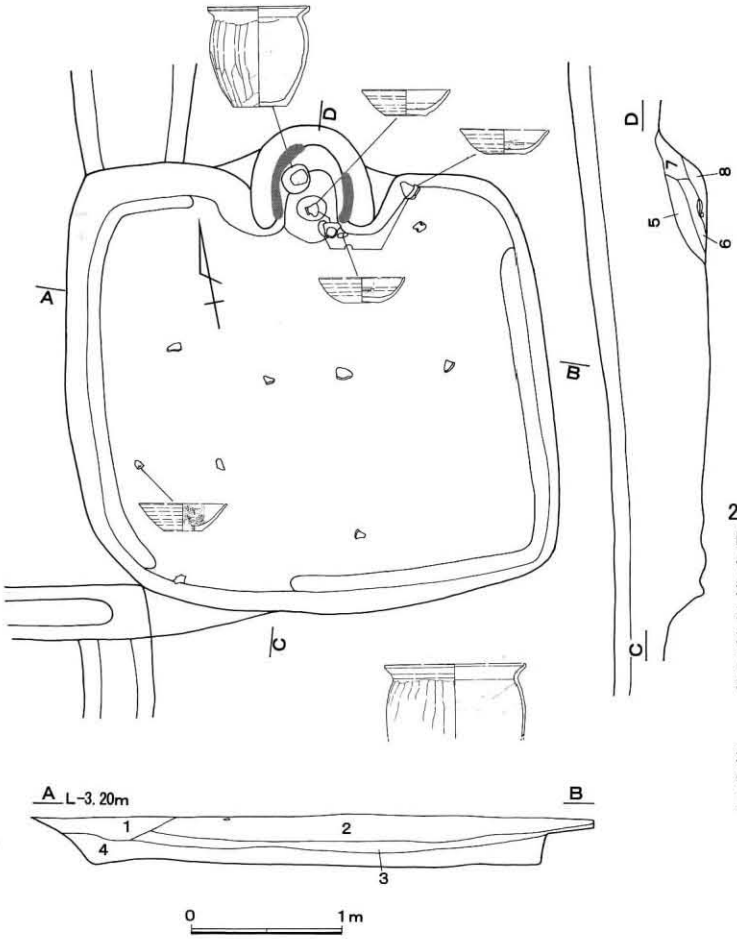
図 21　奈良・平安時代の遺構（26・27 号住居跡）

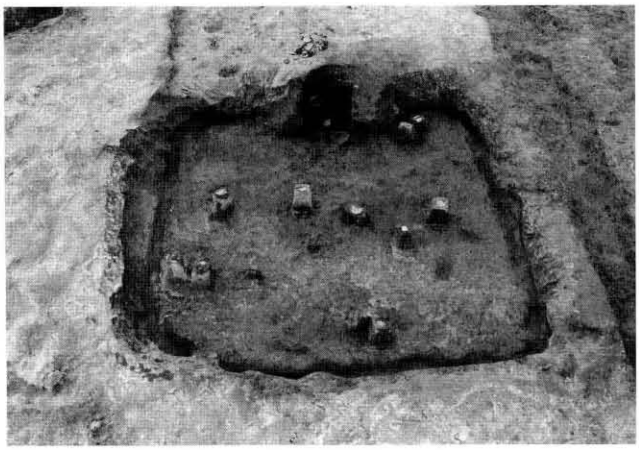




28号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－53－17
規　模　2.85×3.28m
主軸方向　N－5°－E
深　さ　0.18m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅1.27m、奥行き0.78m。
遺　物　竈中から土師器坏・甕片出土。
特記事項　南西部床面下から、12号土坑検出。南部を中世溝に切られる。
層　序　1 黒灰色砂（黒色土混じる）
2 黒色土（灰色砂混じる）
3 暗灰色砂（黒色土混じる）
4 暗灰色砂（硬くしまる）
5 暗灰色砂（焼土多く混じる）
6 暗灰色砂（暗褐色土、焼土少し混じる）
7 暗灰色砂（暗褐色土混じる）
8 黒灰色砂（黒色土混じり、硬くしまる）

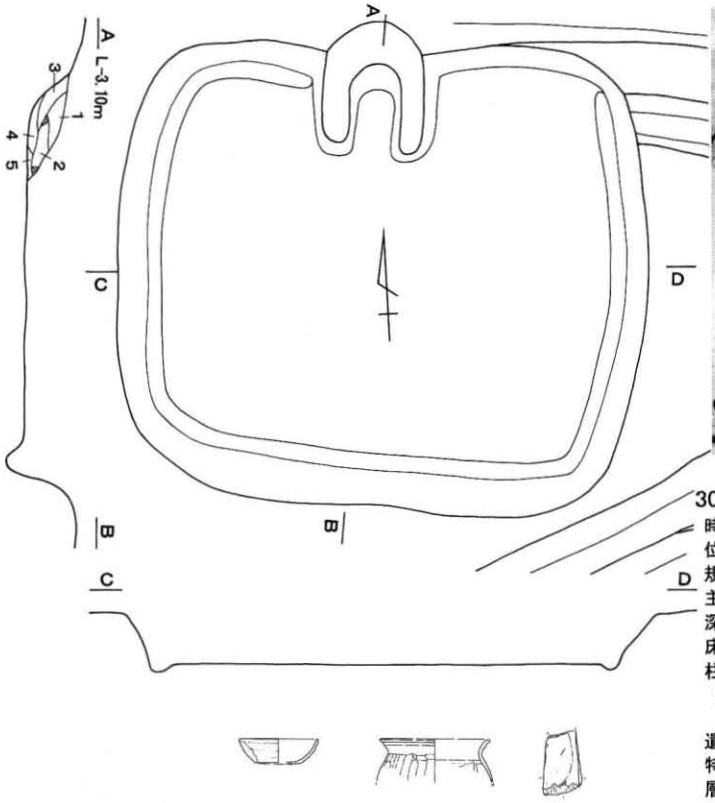


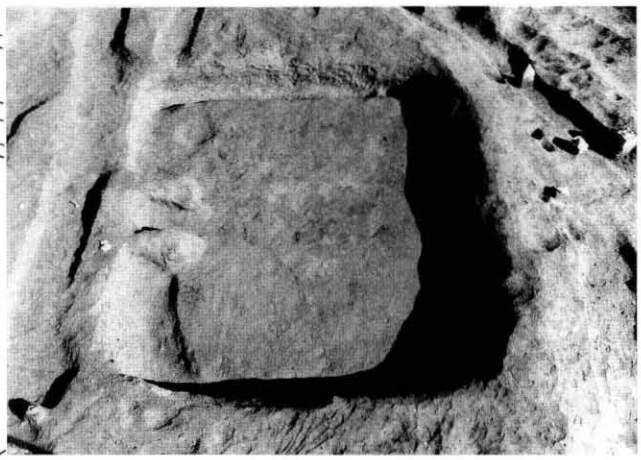


29号住居跡

時　期　8 期
位　置　12E－53－18
規　模　2.60×2.96m
主軸方向　N－7°－E
深　さ　0.36m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅1.35m、奥行き0.75m。
遺　物　竈中から土師器坏・甕出土。
特記事項
層　序　1 黒灰色砂（黒色土混じる）
2 灰色砂（暗褐色土混じる）
3 灰色砂（細砂混じり、硬くしまる）
4 灰色砂（少し暗色で、硬くしまる）
5 橙灰色砂（焼土混じる）
6 赤灰色土（焼土多く混じり、天井部崩落土）
7 黒灰赤色土（焼土多く混じる）
8 黒色土（焼土、灰混じる）

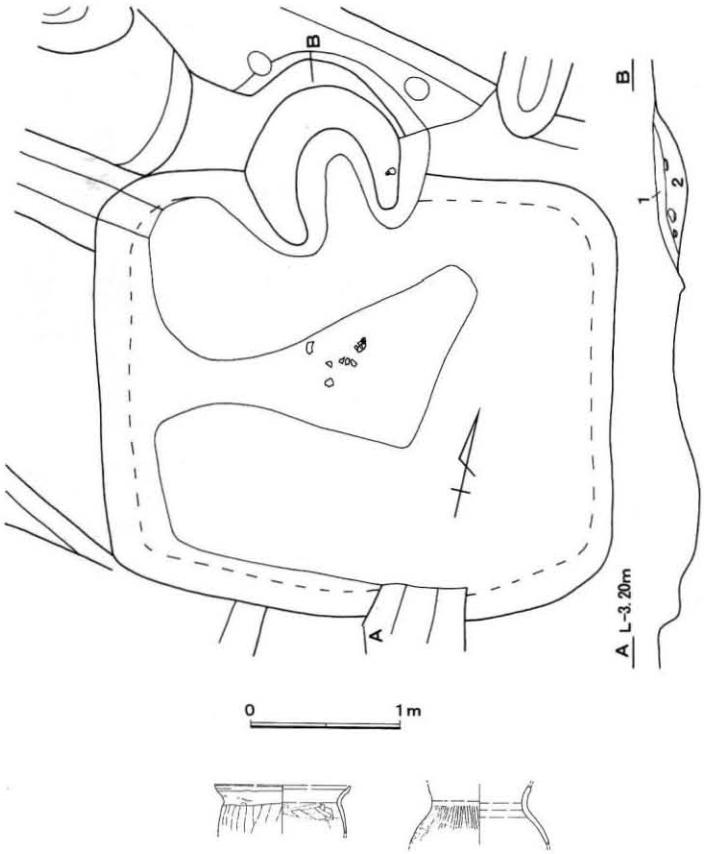
図 22　奈良・平安時代の遺構（28・29 号住居跡）





30号住居跡

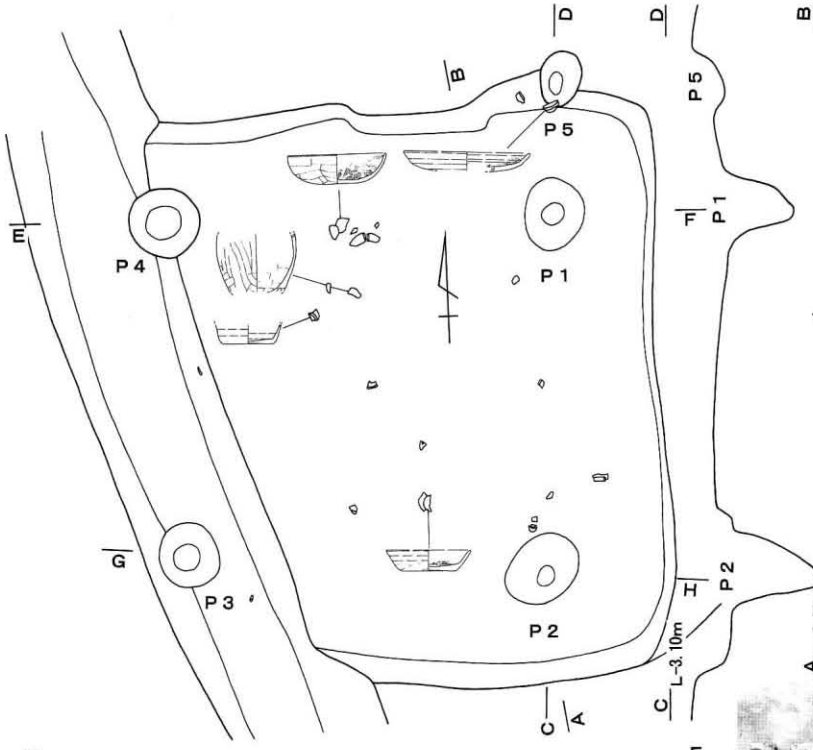
時　期	5 期
位　置	12E－53－7
規　模	2.73×3.20m
主軸方向	N－7°－E
深　さ	0.40m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅0.85m、奥行き0.95m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色砂 2 灰色砂（一部が赤色、竈天井部） 3 黒灰色砂 4 黒色土（灰混じる） 5 灰色砂

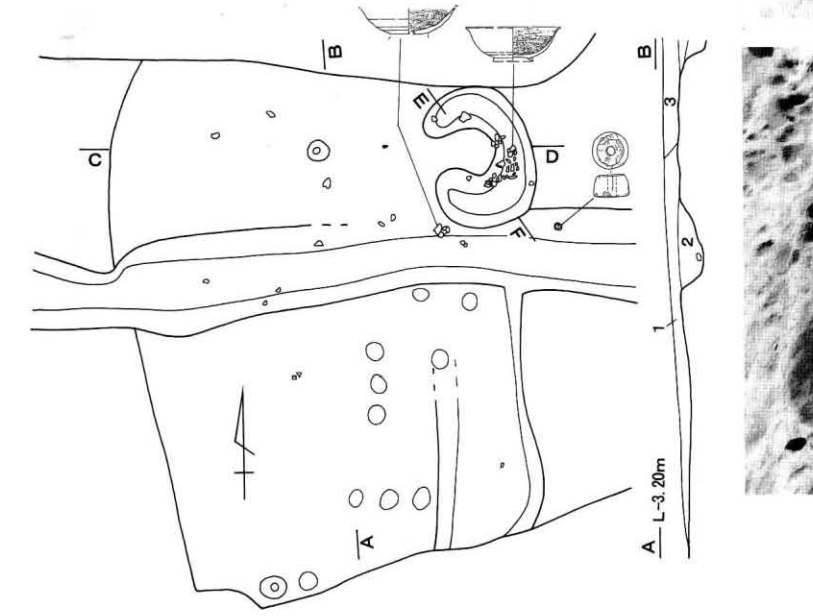


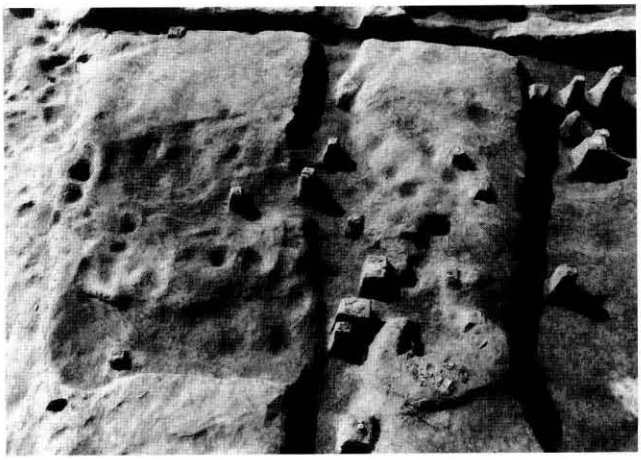
31号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－53－2
規　模	2.60×3.10m
主軸方向	N－9°－W
深　さ	0.15m
床　面	砂地を平旦に整地され、凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅1.35m、奥行き0.75m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕、燻焼土器甕出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色砂 2 黒色砂（灰、焼土混じる）

図 23　奈良・平安時代の遺構（30・31 号住居跡）







32号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－43－22・23
規　模	3.55×3.30m
主軸方向	N－92°－W
深　さ	0.30m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所あり、深さ0.45～0.6m。
竈	検出されず。西壁側にあったか、西側を中・近世溝に切られ、消失。
遺　物	竈中から土師器坏・盤・甕出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色土(黒色土と砂が斑状に混じる) 2 黒灰色土(砂、木炭混じり、粘質でしまる) 3 暗灰色土(砂多く混じる) 4 暗灰色砂 5 暗灰色土 6 黒色土(砂混じる) 7 灰色砂 8 黒色土

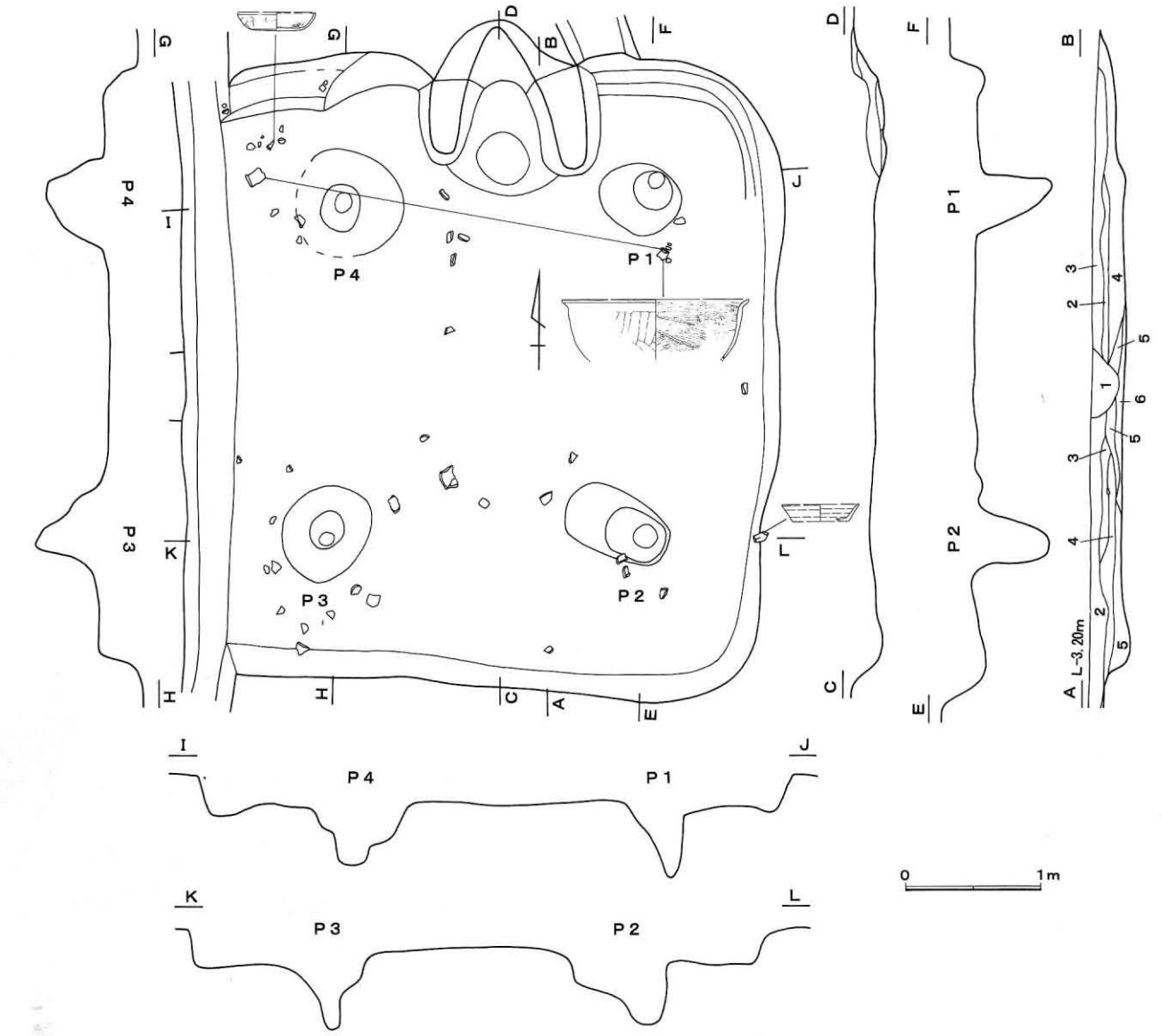
34号住居跡

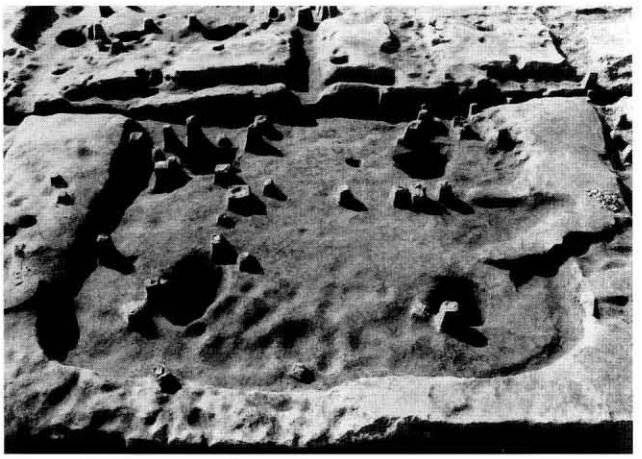
時　期	9 期
位　置	12E－43－23
規　模	3.45×2.46m
主軸方向	N－86°－E
深　さ	0.06m
床　面	砂地を平旦に整地され、凹凸があり軟弱。
柱　穴	小穴を2箇所検出したが、柱穴か疑問。
竈	東壁にあり、両袖が残る。構築材は灰色砂で、少し軟弱。幅0.94m、奥行き0.65m。
遺　物	竈内及び覆土中から土師器碗・甕・鉢、紡錘車出土。
特記事項	床面中央を東西に畑耕作痕の畝溝が走る。

層　序
1 黒茶色土(砂混じり、粘質)
2 黒色土(砂混じり、粘質)
3 黒色土(焼土混じる)
4 黒色土(焼土少し、砂多く混じる)

0　1m

図 24　奈良・平安時代の遺構（32・34 号住居跡）

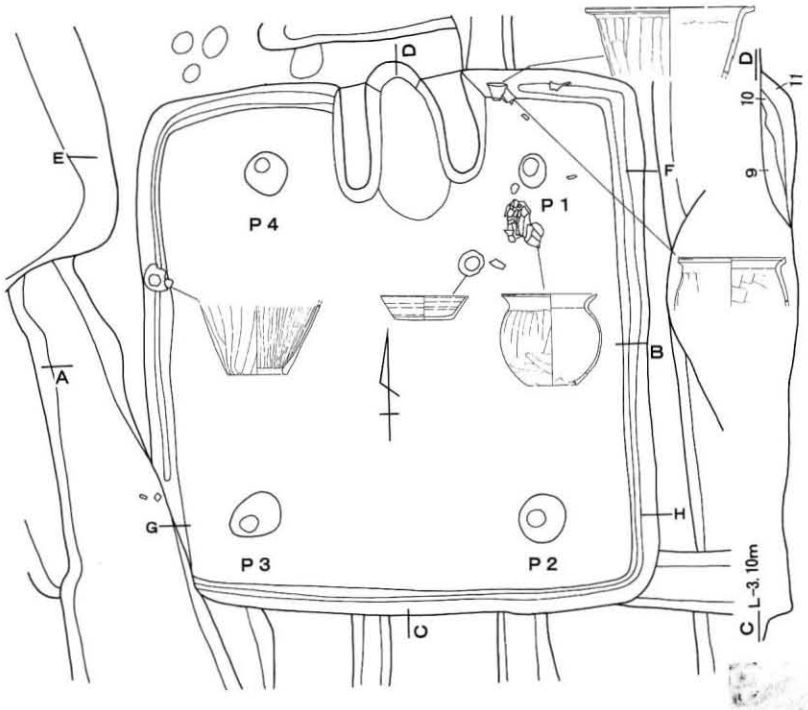


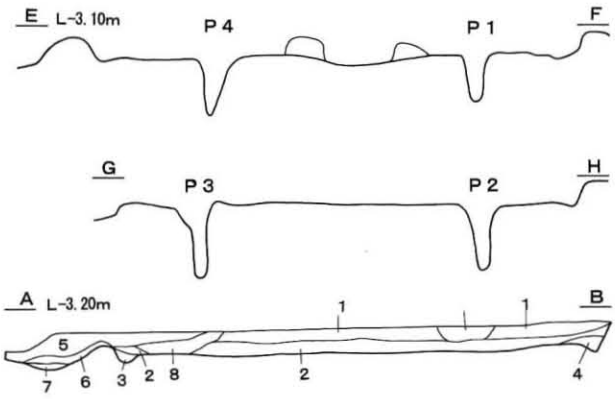


33号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－43－23
規　模	4.50×4.00m
主軸方向	N－3°－E
深　さ	0.27m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所あり、深さ0.45～0.55m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅1.38m、奥行き1.25m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕・鉢、須恵器甕片出土。
特記事項	西側壁を畑耕作痕の畝溝に切られる。
層　序	1 黒色土（砂少し混じり、粘質。畑畝溝） 2 黒色土（砂少し混じり、粘質でしまる） 3 黒灰色土（砂、木炭混じり、しまる） 4 暗灰色土（砂多く混じり、しまる） 5 暗灰色砂 6 灰色砂

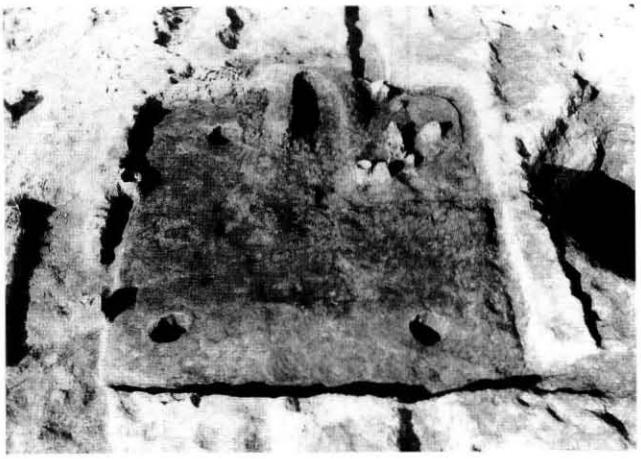
図 25　奈良・平安時代の遺構（33 号住居跡）

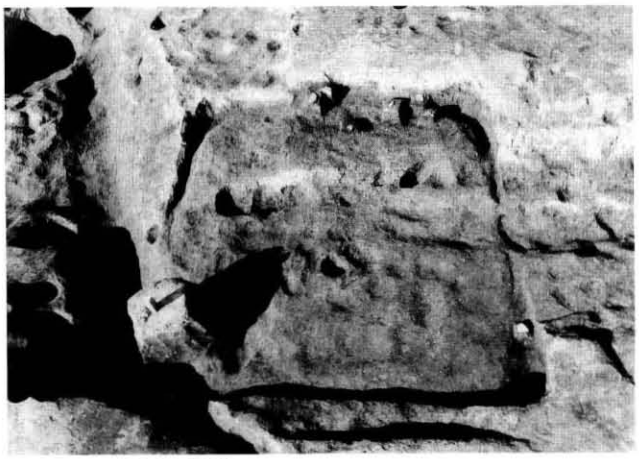




35号住居跡

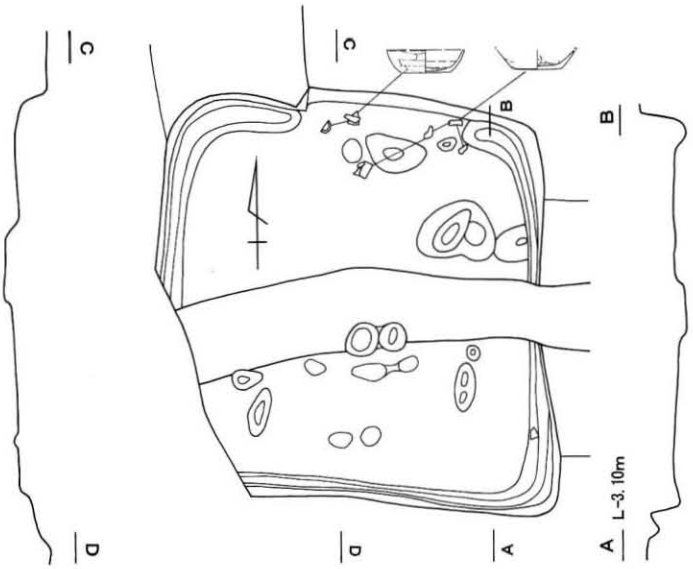
時　期	4 期
位　置	12E－43－17・18
規　模	3.42×3.26m
主軸方向	N－4°－E
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所あり、深さ0.30～0.50m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅1.02m、奥行き0.95m。
遺　物	竈右前から土師器坏・甕・甑出土。
特記事項	南西隅を中世溝に切られる。
層　序	1 黒色土（砂混じり、粘質でしまる） 2 黒色土（砂多く混じり、粘質でしまる。床面直上で白色物堆積） 3 黒灰色土（砂多く混じる） 4 黒色土（粘質でしまる） 5 黒色土（砂がブロック上に混じり、しまる） 6 灰色砂 7 黒灰色土（砂多く混じる） 8 黒色土（粘質でしまる） 9 黒灰色土（灰色砂混じる。竈構築材） 10 黒色土（焼土混じる） 11 黒色土（焼砂、砂が混じる）





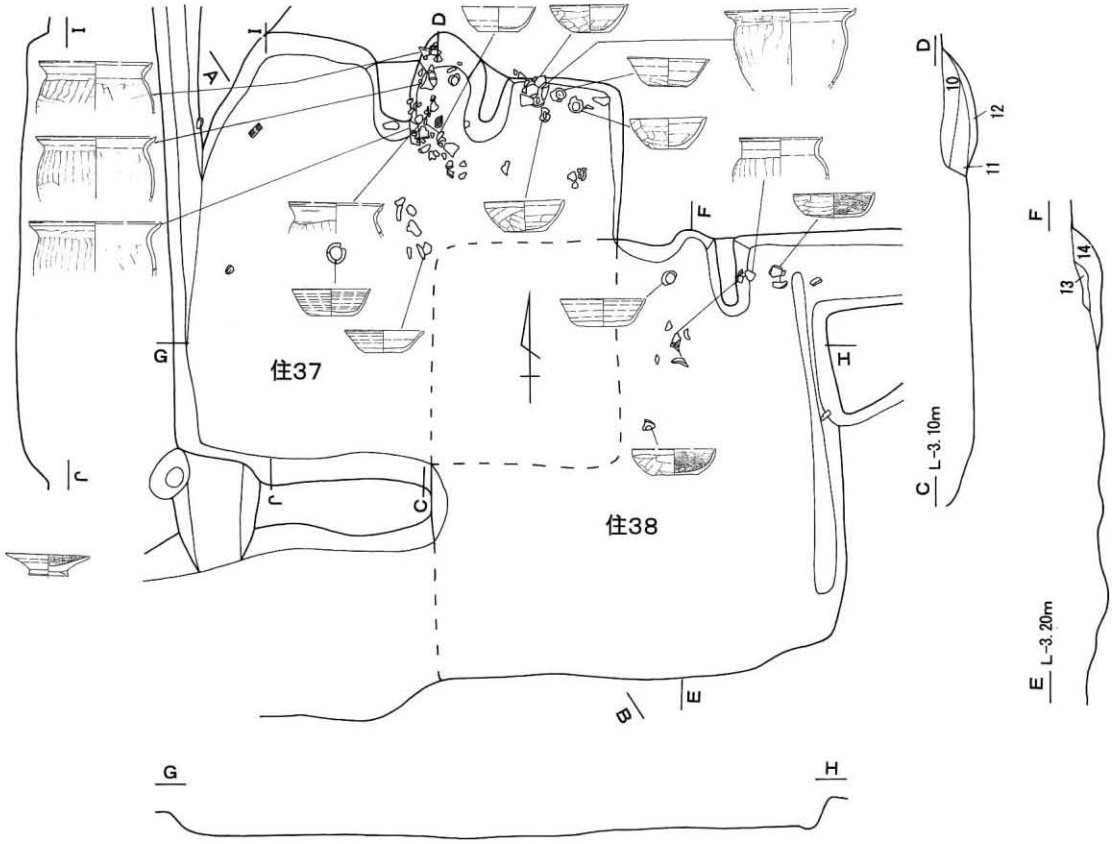
36号住居跡

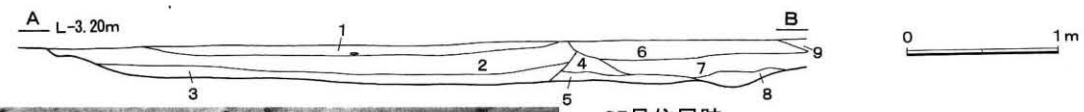
時　期	5 期
位　置	12E－43－20
規　模	2.55×2.49m
主軸方向	N－4°－E
深　さ	0.23m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	小穴を検出したが、柱穴ではないと思われる。
竈	北壁中央に痕跡がある。
遺　物	竈跡から土師器坏・甕出土。
特記事項	南西隅を近世溝に、床面中央部を中世道跡に切られる。

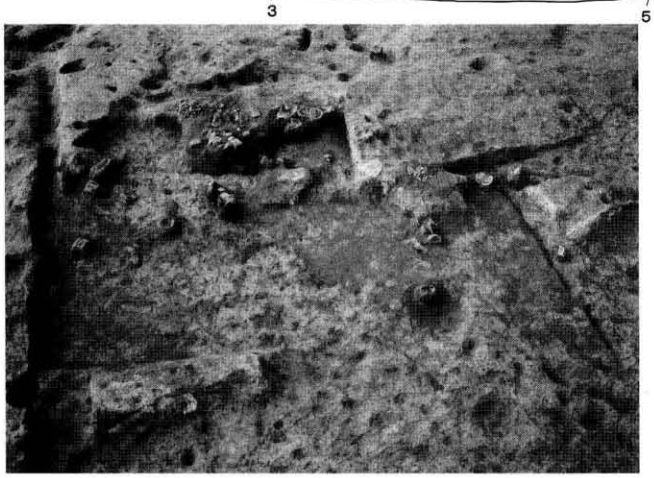


0　1m

図 26　奈良・平安時代の遺構（35・36 号住居跡）







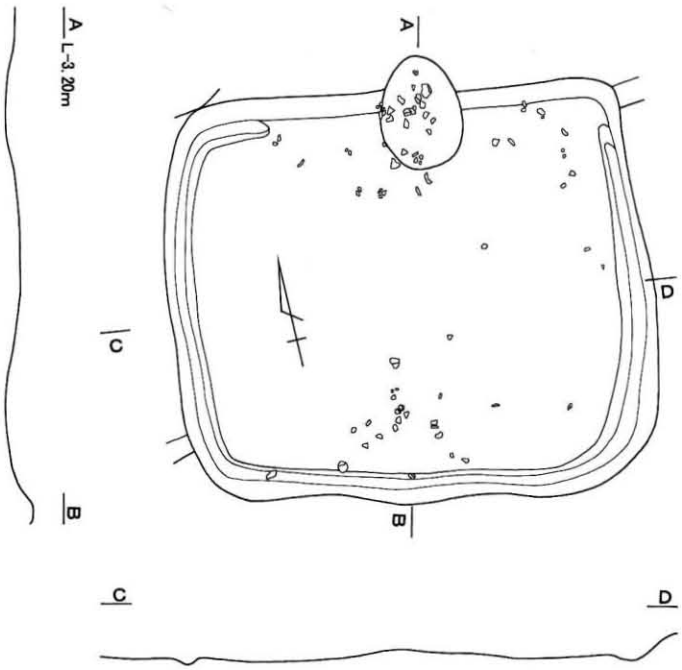
37号住居跡

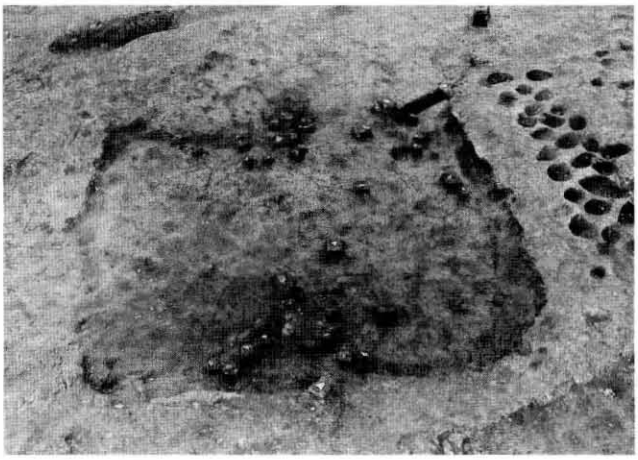
時　期	6 期
位　置	12E－43－25
規　模	2.66×2.72m
主軸方向	N－4°－E
深　さ	0.27m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅0.90m、奥行き0.75m。
遺　物	竈中及びその右側壁上、床面から土師器坏・甕出土。
特記事項	西側を畑耕作痕畝溝に切られ、南東部で38号住居跡と重なる。遺物が使用当時のまま出土、その状態から洪水で水没か。
層　序	1 黒色土(砂混じり、粘質) 2 黒色土(褐色砂混じり、粘質) 3 黒色土(砂、木炭混じり、粘質) 4 黒灰色土(砂混じり、粘質) 5 黒色土(砂少し混じり、粘質) 6 暗灰色砂(黒色土混じる) 7 黒灰色土(砂少し混じる) 8 黒灰色土(褐色砂混じり、粘質) 9 黒灰色土(白色砂少し混じる) 10 黒色土(砂・焼土混じる) 11 灰色砂(焼土混じる) 12 黒色土(焼土混じり、しまる) 13 灰色砂 14 黒色土(焼土混じる)

38号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－43－25
規　模	2.85×2.60m
主軸方向	N－2°－W
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、右袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅0.80m、奥行き0.60m。
遺　物	竈中及びその右側壁上、床面から土師器坏・甕出土。
特記事項	北西側を37号住居跡に、南側を中世道に切られる。

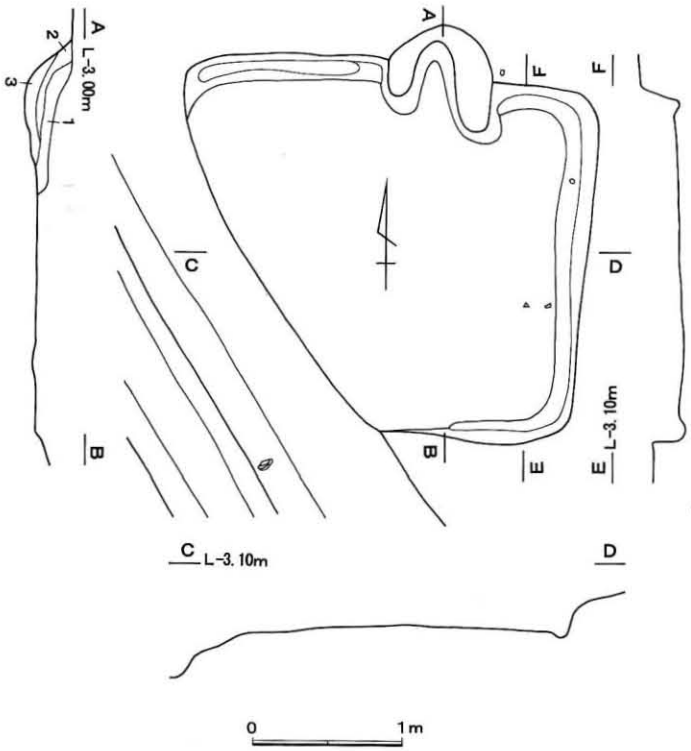
図 27　奈良・平安時代の遺構（37・38 号住居跡）

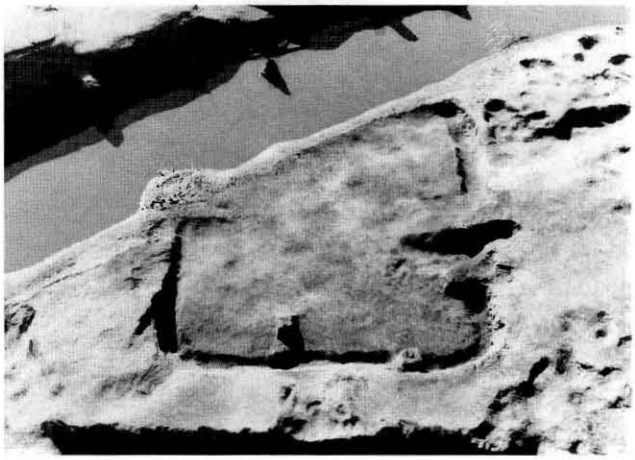




39号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－44－21
規　模	2.50×3.10m
主軸方向	N－7°－E
深　さ	0.15m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があるがよく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央に痕跡がある。
遺　物	竈中及び覆土中から土師器坏・甕小片出土。
特記事項	住居跡全体を中世道が重なり、踏み潰されていた。





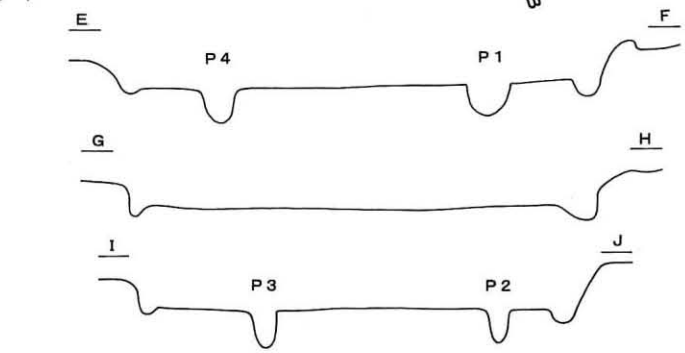
40号住居跡

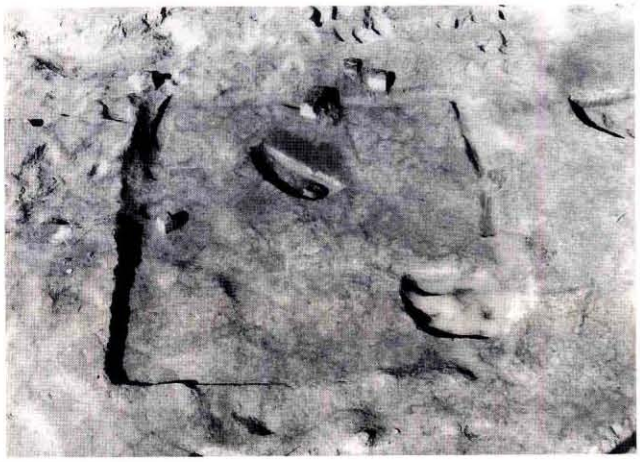
時　期	6 期
位　置	12E－53－8
規　模	2.22×2.62m
主軸方向	N－4°－E
深　さ	0.25m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央より少し東に寄った所にあり、両袖が残る。構築材は暗灰色砂で、粘土が少し混じり、硬い。幅0.80m、奥行き0.65m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕小片出土。
特記事項	南西側を近世溝に切られ、消失。
層　序	1 灰褐色砂（焼土混じる） 2 黒褐色土（焼土多く混じる） 3 暗灰色砂（焼土少し混じる）

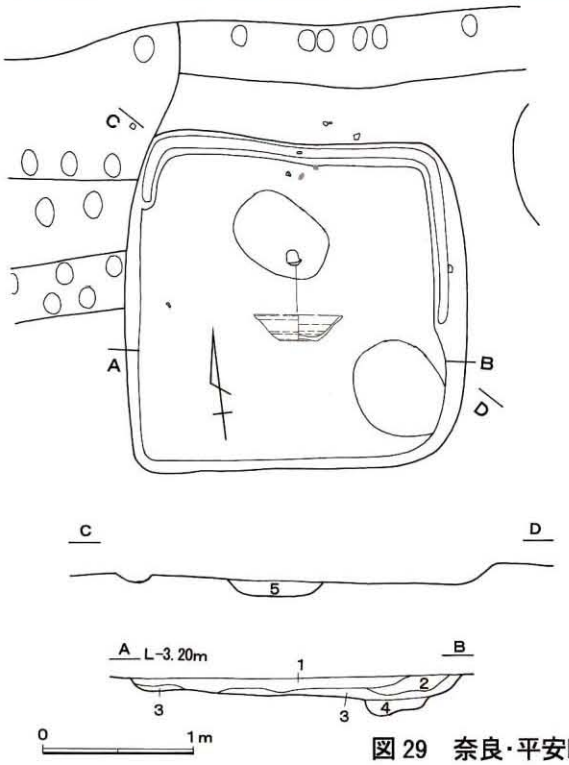
図 28　奈良・平安時代の遺構（39・40 号住居跡）

41号住居跡

時　期　6 期
位　置　12E－53－4
規　模　3.15×3.12m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　対角線上に4箇所、深さ0.24m
竈　北壁中央にあり、両袖がほとんど残っていない。幅1.00m、奥行き1.00m。
遺　物　竈中、床面から土師器坏・甕出土。
特記事項　北側に中世道跡が走る。
層　序　1 黒色土(砂混じる)
2 黒色土(砂、黒褐色土混じる)
3 黒灰色土(砂多く混じる)
4 黒色土(褐色砂混じる)
5 黒色土(粘質、しまる)
6 黒色土(砂、焼土混じる)
7 灰褐色砂
8 灰色砂
9 黒色土(粘質)
10 黒褐色土(砂混じる)
11 黒色土(粘質、硬い)



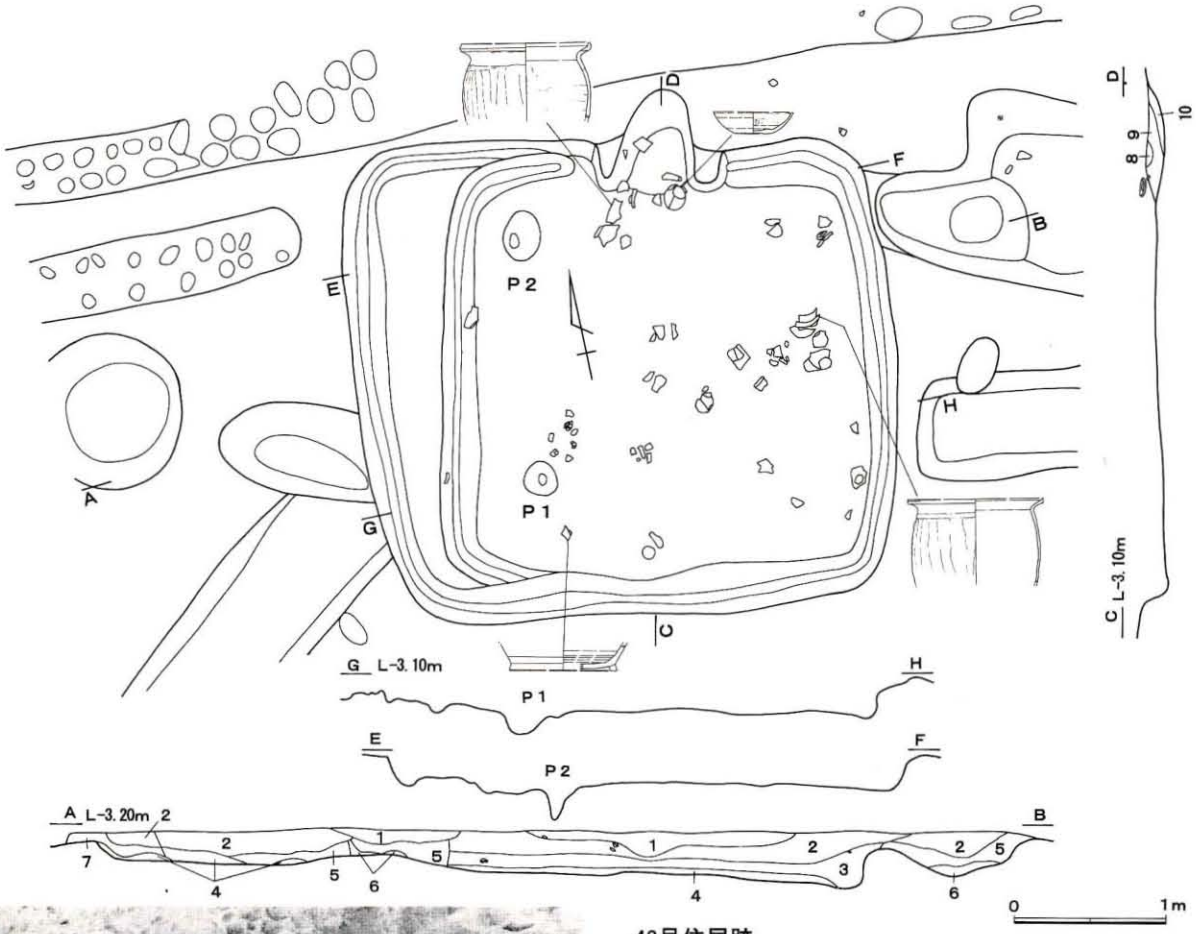


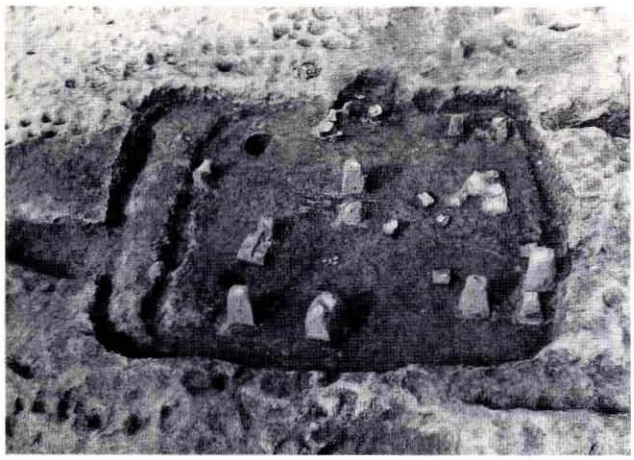


42号住居跡

時　期　6 期
位　置　12E－53－4
規　模　2.10×2.06m
主軸方向　N－5°－E
深　さ　0.13m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し軟らかい。
柱　穴　検出されず。
炉　床面中央より北に0.5m寄った所にあり、径0.5×0.7mの楕円形、深さ0.1mの地床炉。火床部は焼けていないが、覆土に焼土が少し混じる。
遺　物　炉内から土師器坏出土。
特記事項
層　序　1 黒褐色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂多く混じる)
3 黒褐色土(砂多く混じる)
4 黒色土(粘質)
5 黒灰色土(焼土少し混じる)

図 29　奈良・平安時代の遺構（41・42 号住居跡）

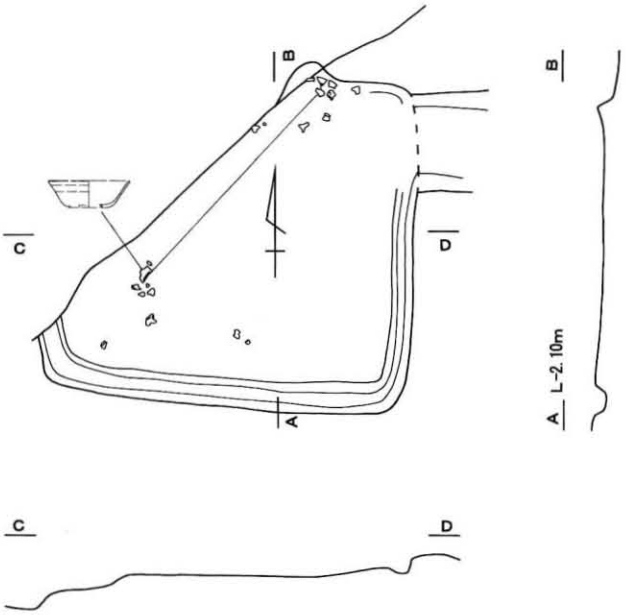


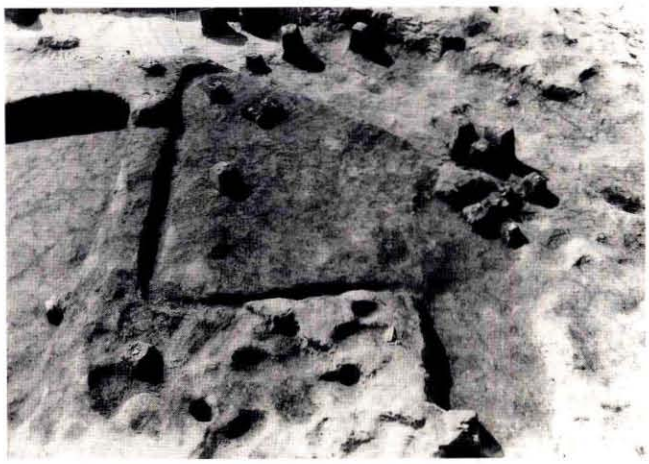


43号住居跡

時　期	8 期
位　置	12E－53－5
規　模	2.88×3.47m
主軸方向	N－14°　－E
深　さ	0.30m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上の西側2箇所にあり、深さ0.20m
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅0.90m、奥行き0.70m。
遺　物	竈中、床面から土師器坏・甕、須恵器甕、灰釉陶器長頸壺片出土。
特記事項	西側に拡張している。
層　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒色土(砂混じり、しまる) 3 黒色土(砂混じり、粘質でしまる) 4 黒灰色土(砂多く混じり、しまる) 5 黒色土(しまり、粘質) 6 黒灰色土(砂混じり、しまる) 7 黒色土(砂多く混じり、しまる) 8 赤色焼砂(竈天井部) 9 黒色土(焼砂混じる) 10 黒灰色土(灰色砂混じる)

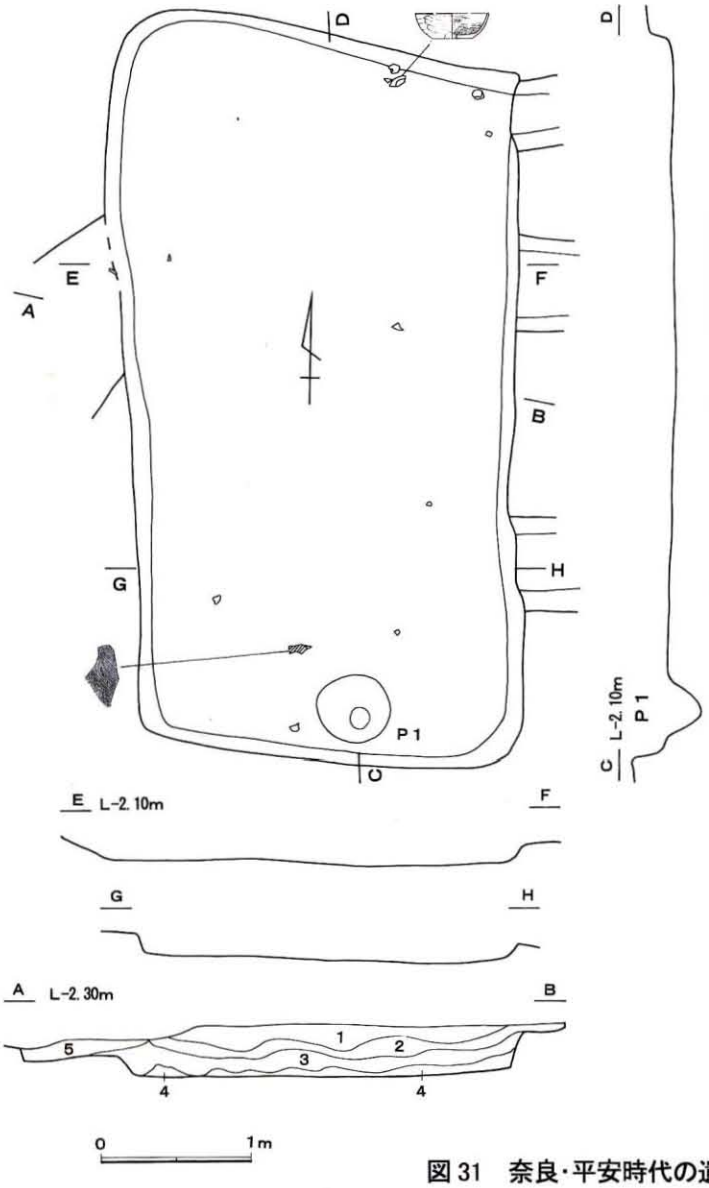
図 30　奈良・平安時代の遺構（43 号住居跡）

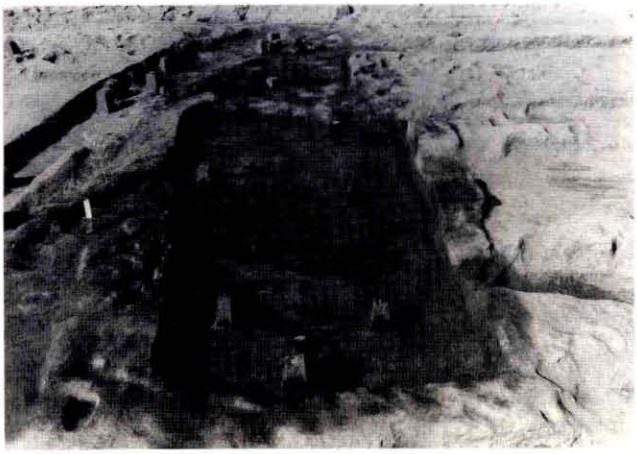




44号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－54－1
規　模	2.10×2.42m
主軸方向	N－4°　－E
深　さ	0.10m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	残存する北壁に痕跡がある。
遺　物	竈付近、床面から土師器坏・甕片出土。
特記事項	北西側を中世溝に切られ、消失。

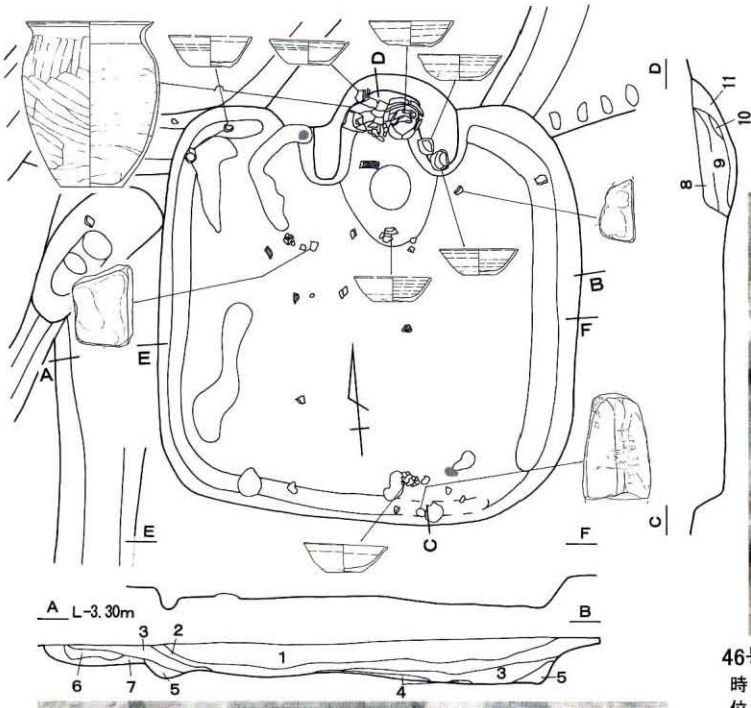


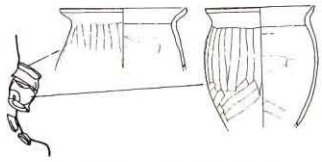


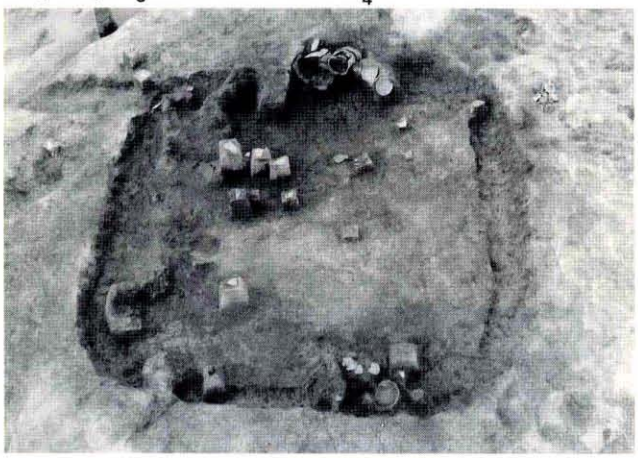
45号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－54－1・6
規　模	4.70×2.58m
主軸方向	N－2°　－E
深　さ	0.35m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	南壁付近中央に1箇所にあり、深さ0.25m
竈	検出されず。
遺　物	覆土中から土師器坏、須恵器甕片出土。
特記事項	長方形で、竈・炉もないところから、通常の住居跡とは異なる遺構。
層　序	1 黒色土（褐色砂混じる） 2 黒色土（砂混じり、しまる） 3 黒色土（砂混じり、粘質でしまる） 4 黒灰色土（砂多く混じり、しまる） 5 黒色土（粘質でしまる）

図 31　奈良・平安時代の遺構（44・45 号住居跡）

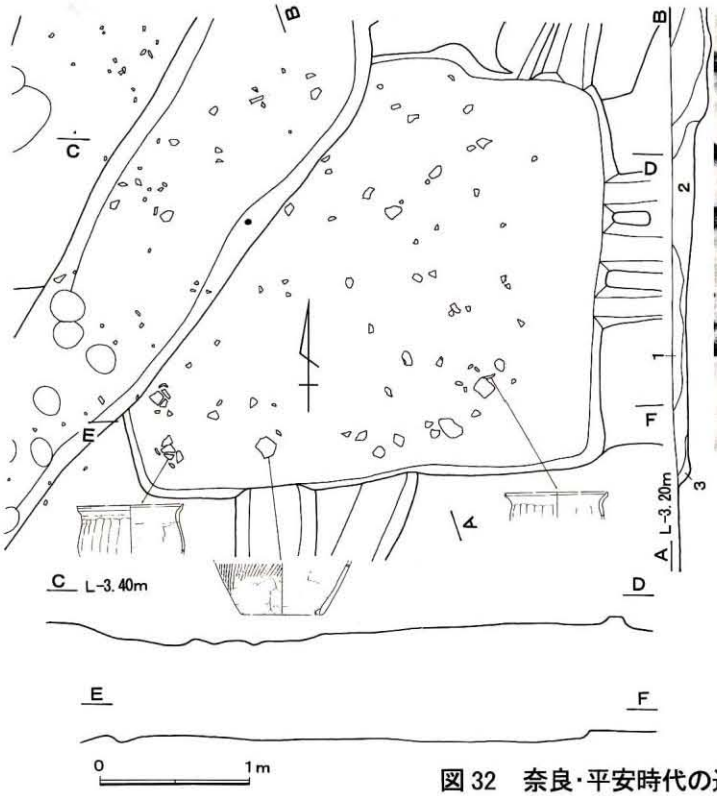


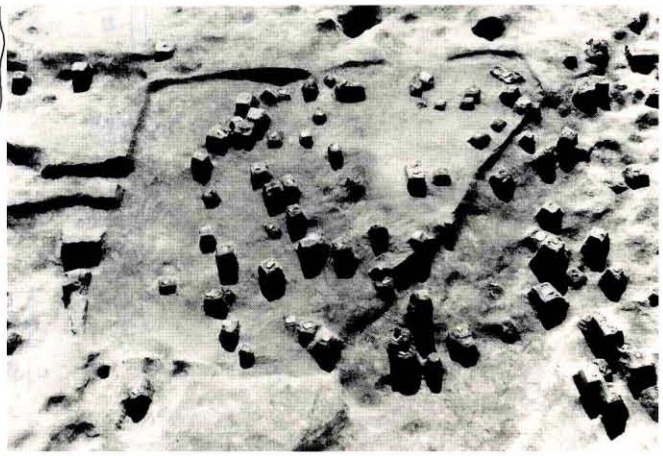




46号住居跡

時　期	7 期
位　置	12E－53－10
規　模	2.60×2.55m
主軸方向	N－6°－E
深　さ	0.30m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.10m、奥行き0.60m。
遺　物	竈中及び袖上、床面、南壁際から土師器坏・甕、砥石出土。
特記事項	遺物が使用当時のまま出土し、また木炭粉を検出し、焼失したか。
層　序	1 黒色土(砂混じり、しまる) 2 黒色土(砂、木炭混じり、粘質でしまる) 3 黒灰色土(砂混じり、しまる) 4 黒色土(黄褐色土混じり、しまる) 5 黒色土(砂混じり、少し軟弱) 6 黒色土(砂混じり、粘質でしまる) 7 黒灰色土(灰色砂混じる) 8 黒色土(褐色砂多く混じる) 9 黒灰色土(砂多く混じる) 10 赤灰色砂(天井部) 11 黒色土(灰、焼土混じる)

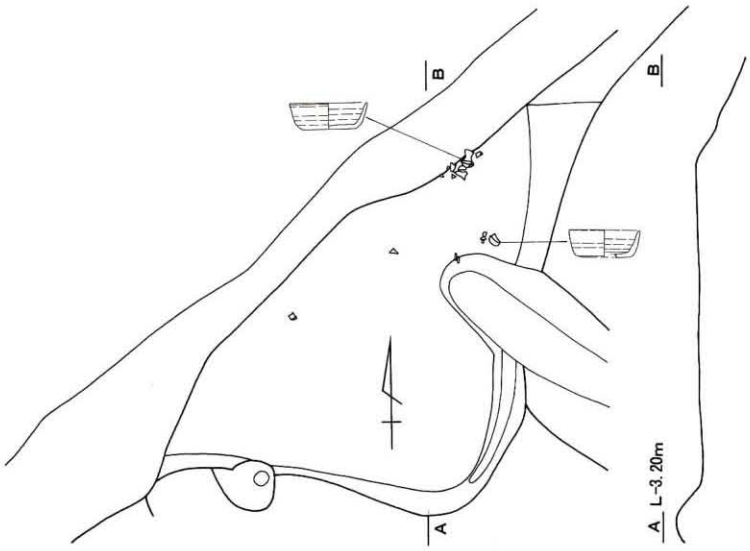




47号住居跡

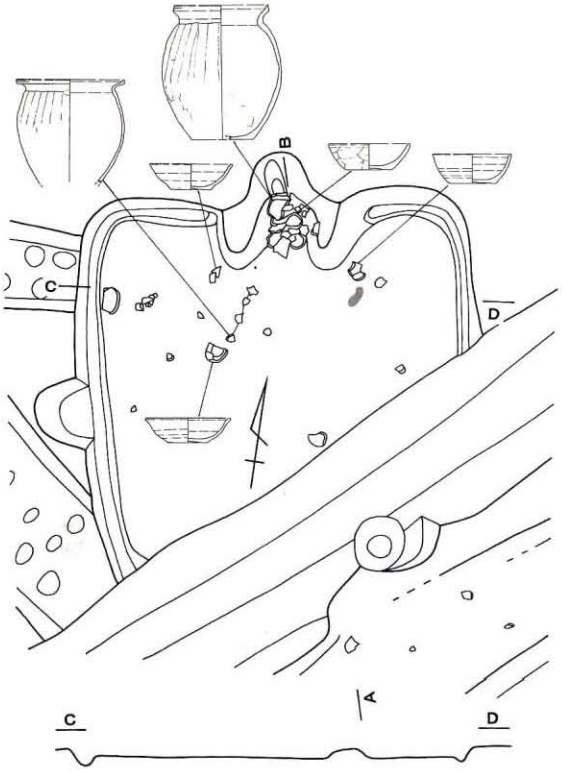
時　期	7 期
位　置	12E－54－13
規　模	2.69×3.07m
主軸方向	N－1°－W
深　さ	0.13m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。
遺　物	床面から土師器坏・甕、須恵器甕片出土。
特記事項	北西側を中世溝に切られる。
層　序	1 黒灰色土(砂混じる) 2 黒灰色土(砂、焼土混じり、しまる) 3 黒灰色土(砂多く混じる)

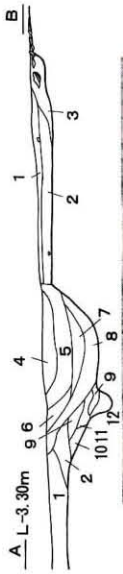
図 32　奈良・平安時代の遺構（46・47 号住居跡）

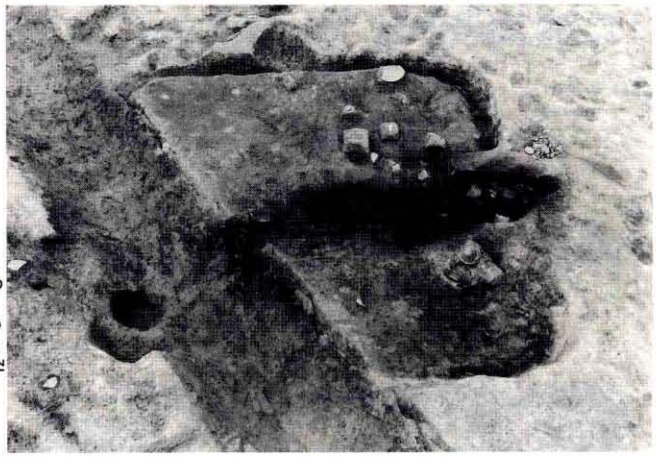


55号住居跡

時　期　3 期
位　置　12E－54－10
規　模　－ ×－ m
主軸方向　N－7° －E
深　さ　0.20m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　　消失。
遺　物　床面上から土師器坏、須恵器甕片出土。
特記事項　北東部を近世溝に切られ、竈を含む半分以上を消失。







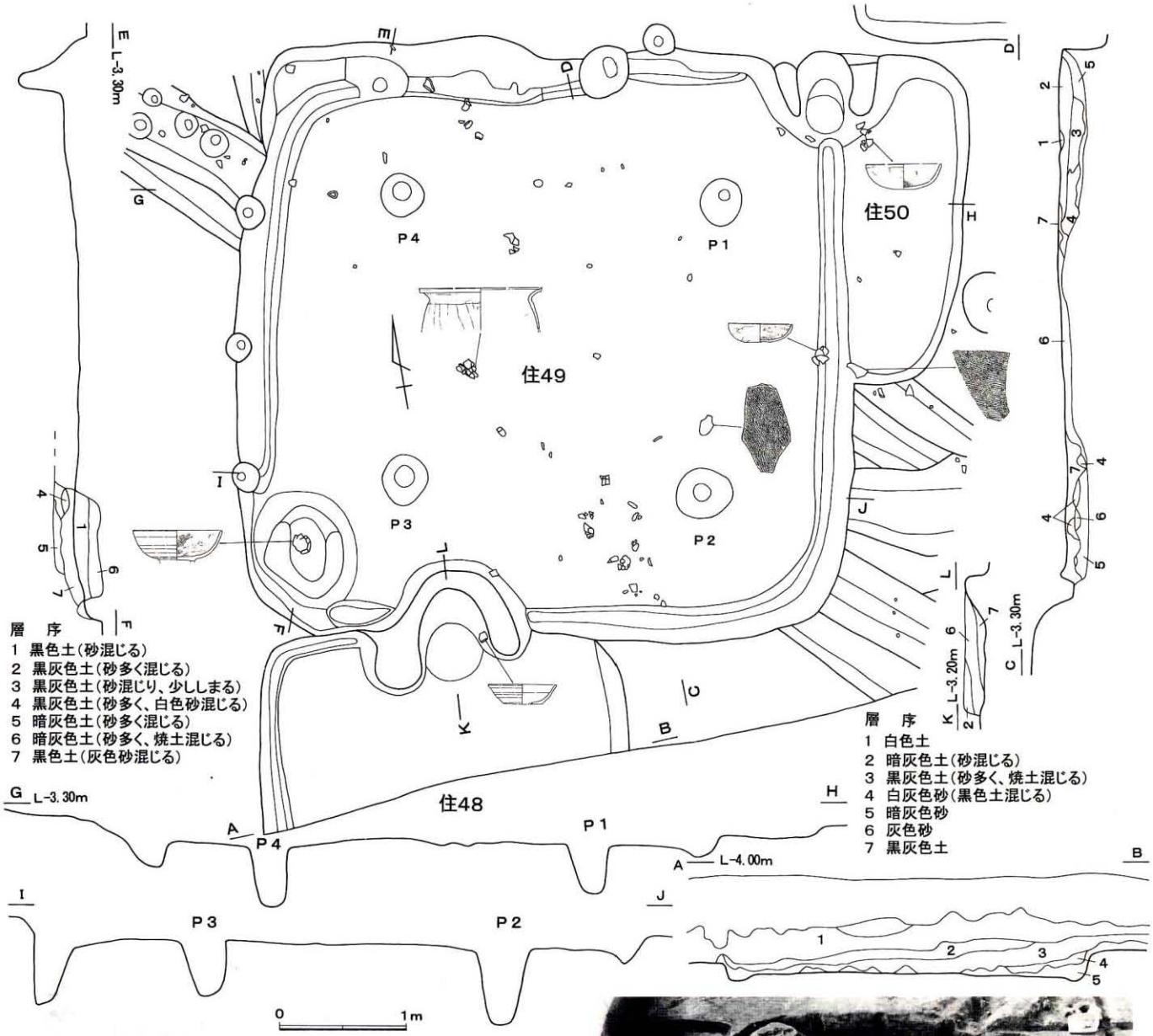
56号住居跡

時　期　7 期
位　置　12E－54－5
規　模　2.35×2.53m
主軸方向　N－5° －W
深　さ　0.13m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。
　　幅1.00m、奥行き0.80m。
遺　物　竈中及びその前の床面から土師器坏・甕出土。
特記事項　南側を中世溝に切られ、消失

0　1m

層　序
1 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
2 黒灰色土(砂、褐色砂混じり、しまる)
3 黒灰色土(砂、焼土混じる)
4 灰色砂(黒色土混じる)
5 黒色土(砂多く、褐色砂混じる)
6 暗灰色土(砂多く混じる)
7 黒色土(灰色砂、褐色砂混じる)
8 黒色土(砂多く混じる)
9 暗灰色土(砂多く混じる)
10 灰色砂
11 黒色土(砂混じる)
12 黒灰色土(砂混じる)

図 33　奈良・平安時代の遺構（55・56 号住居跡）



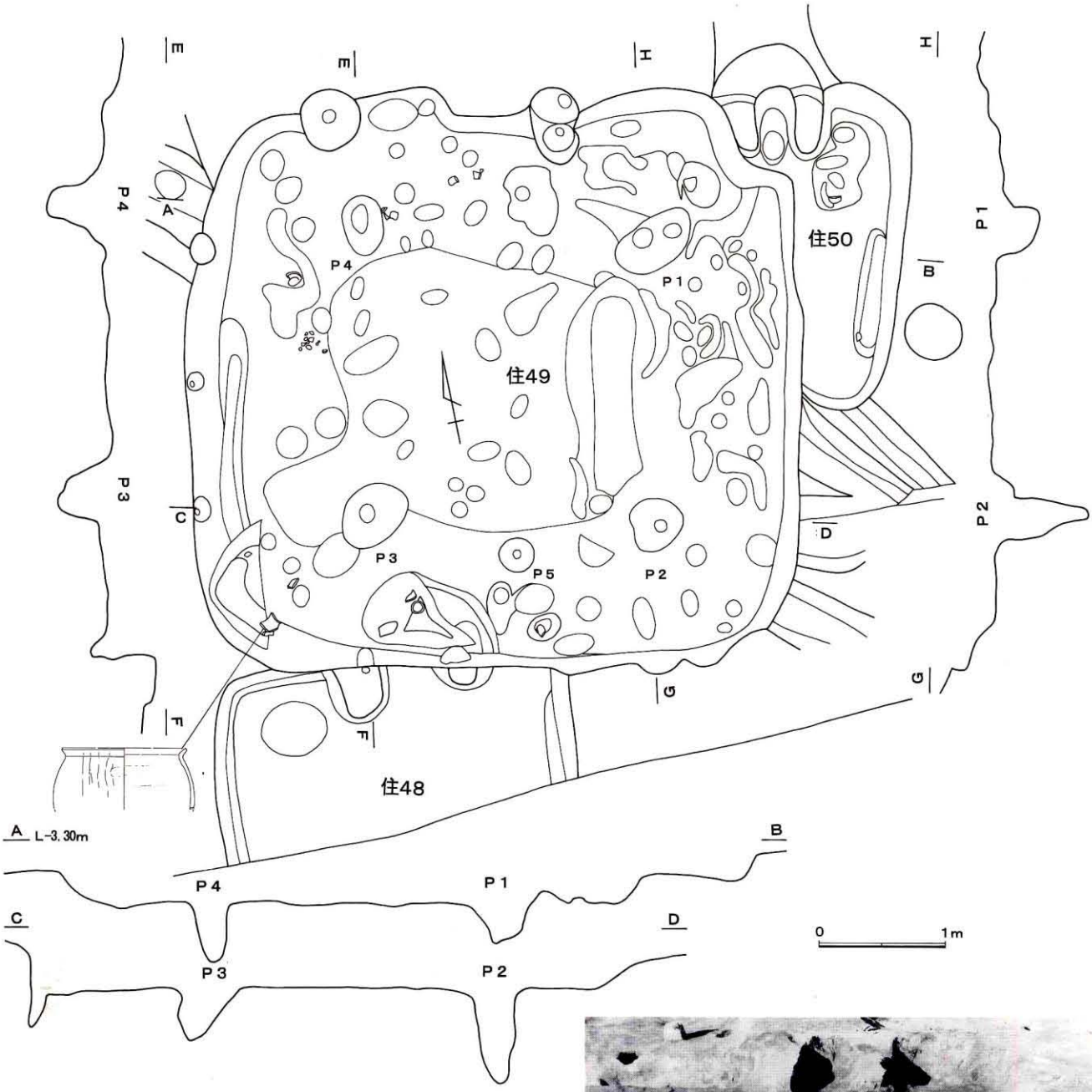
48号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－54－15･20
規　模	－　×2.70m
主軸方向	N－3°－E
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.35m、奥行き0.70m。
遺　物	竈中から土師器坏出土。
特記事項	南側半分は調査区域外で、発掘できず。

49号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－54－15
規　模	4.52×4.56m
主軸方向	N－11°－E
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所の主柱穴と、北と西壁に壁柱穴5箇所検出。深さは主柱穴が0.43～0.60m、壁柱穴は0.3～0.5m。
竈	北壁中央に痕跡あり、代わりに南西隅に炉がある。径0.70m、床面から0.20m浮き、火床は良く焼けて、焼土が堆積する。
遺　物	床面上から土師器坏･甕、須恵器長頸壺･甕片、転用硯、鉄鎌出土。
特記事項	床面を除去すると、中央部が高く、周囲が低く掘り下げている。

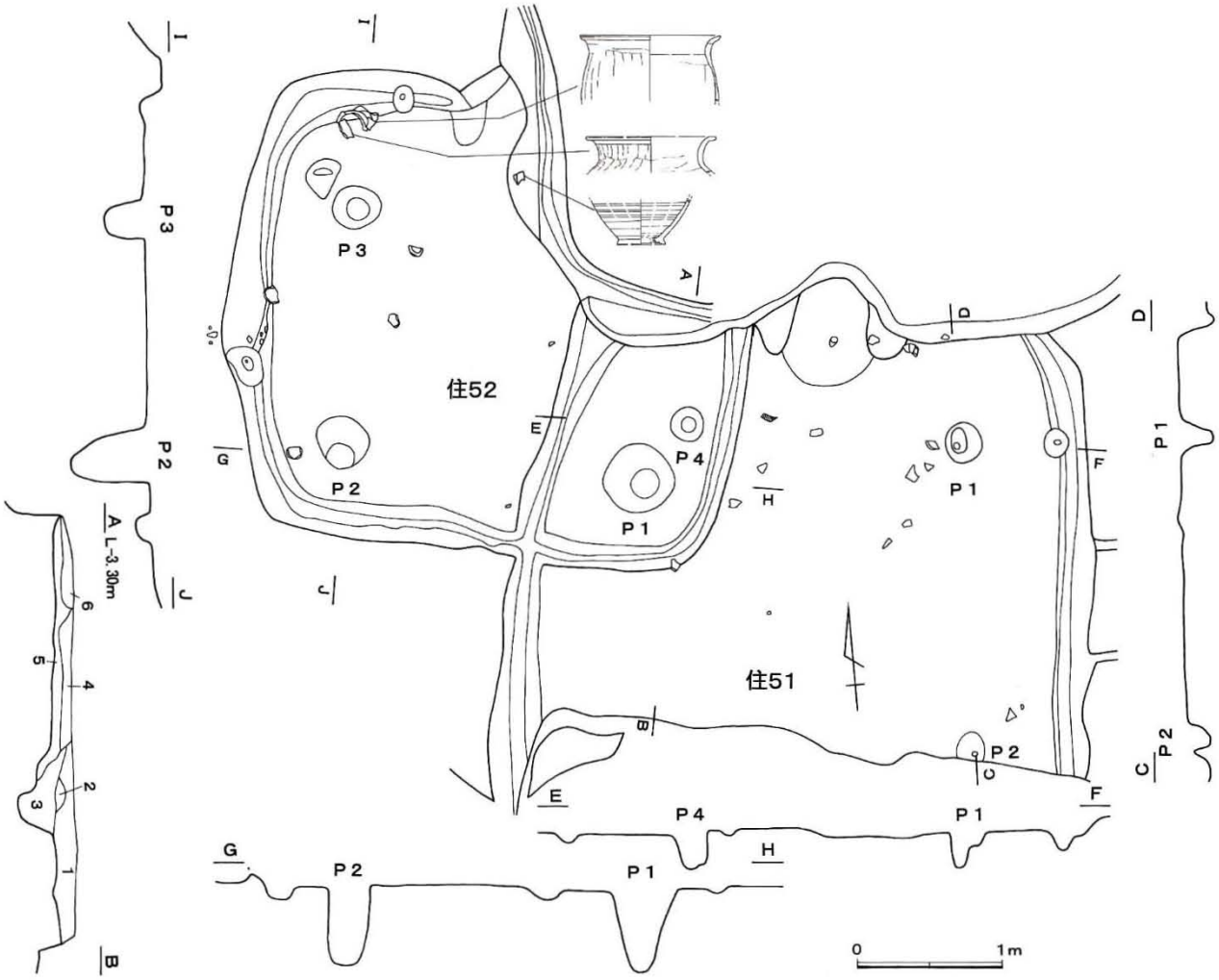
図 34　奈良･平安時代の遺構（48～50 号住居跡）

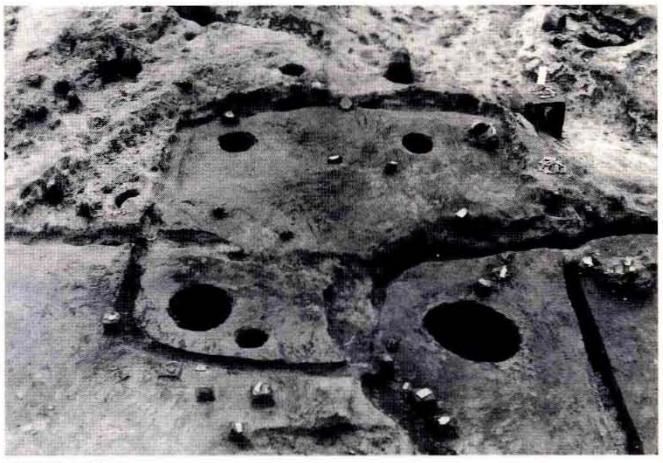


50号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－54－15
規　模	2.35×2.00m
主軸方向	N－12°　－E
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.10m、奥行き0.65m。
遺　物	竈前から土師器坏、南壁際から須恵器甕転用硯出土。
特記事項	49号住居跡の東側に重なる。

図35　奈良・平安時代の遺構（48～50号住居跡掘り方）





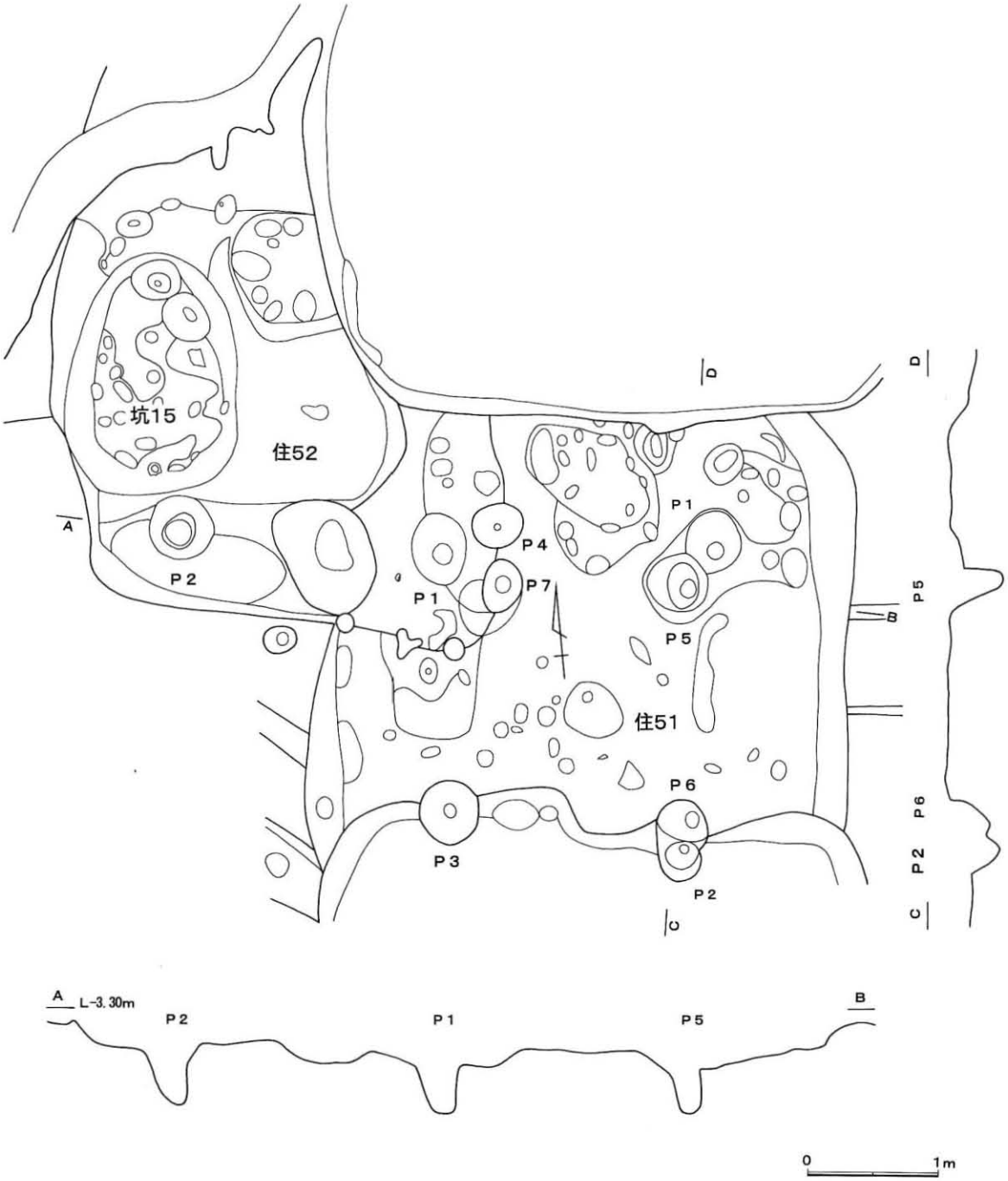
51号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－54－15
規　模	3.50×3.82m
主軸方向	N－8°－E
深　さ	0.10m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上に3箇所、深さ0.25m。
竈	北壁中央にあり、かろうじて両袖基底が残っている。構築材は暗灰色砂である。幅1.05m、奥行き0.55m。
遺　物	床面から土師器坏・甕片、須恵器甕片出土。
特記事項	南を49号住居跡に切られ、北で53号住居跡に重なる
層　序	1 暗灰色土(砂、木炭混じる) 2 白灰色土 3 暗灰色砂(黒色土混じる) 4 灰色砂(褐色砂混じる) 5 暗灰色砂 6 暗灰色砂(黒色土混じる)

52号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－54－15
規　模	3.00×3.42m
主軸方向	N－5°－E
深　さ	0.10m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上に3箇所、深さ0.25～0.60m。
竈	北壁中央にあり、かろうじて左袖基底が残っている。構築材は暗灰色砂である。幅推定0.90m、奥行き0.60m。
遺　物	主に壁際床面から土師器坏・甕片、須恵器甕片出土。
特記事項	51・53号住居跡に重なる

図 36　奈良・平安時代の遺構（51・52 号住居跡）



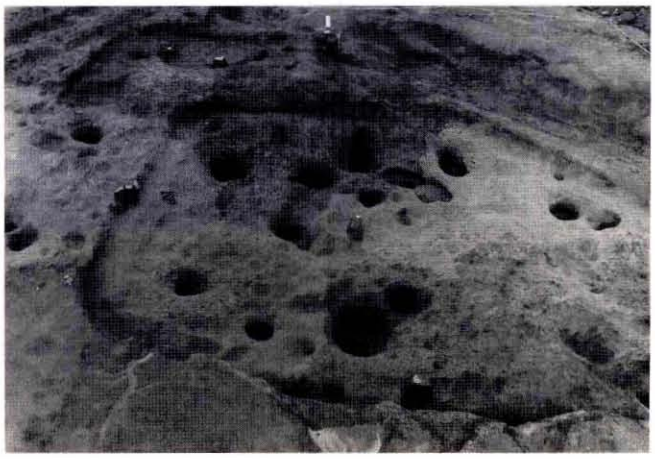
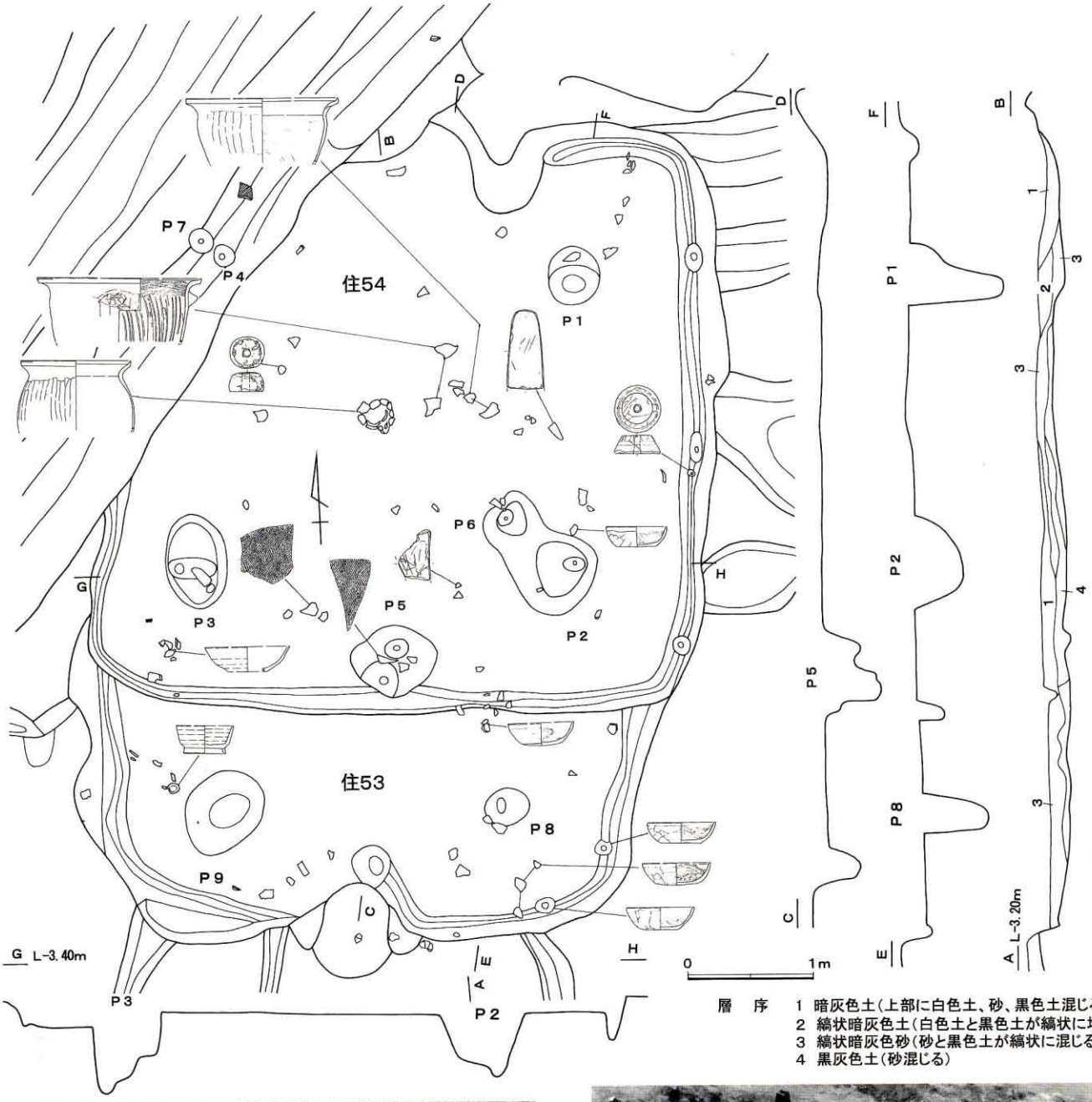


図 37　奈良・平安時代の遺構（51・52 号住居跡掘り方）



53号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－54－10・15
規　模　4.25×4.35m
主軸方向　N－2°－E
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　対角線上に4箇所あり、深さ0.55～0.80m。
竈　検出されず
遺　物　主に壁際床面から土師器坏・甕片、須恵器甕片、転用硯出土。
特記事項　北半分を54号住居跡に切られ、竈を消失。

54号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－54－10
規　模　4.50×4.65m
主軸方向　N－6°－E
深　さ　0.30m
床　面　黒土を埋めて平旦に整地され、少し軟弱。
柱　穴　対角線上に4箇所、深さ0.40～0.75m。
竈　北壁中央にあり、右袖が残っている。構築材は暗灰色砂で硬い。幅1.60m、奥行き0.90m。
遺　物　床面から土師器坏・甕・甑、須恵器甕片、紡錘車、砥石出土。
特記事項　北東部を近世溝に切られ、消失。

図38　奈良・平安時代の遺構（53・54号住居跡）

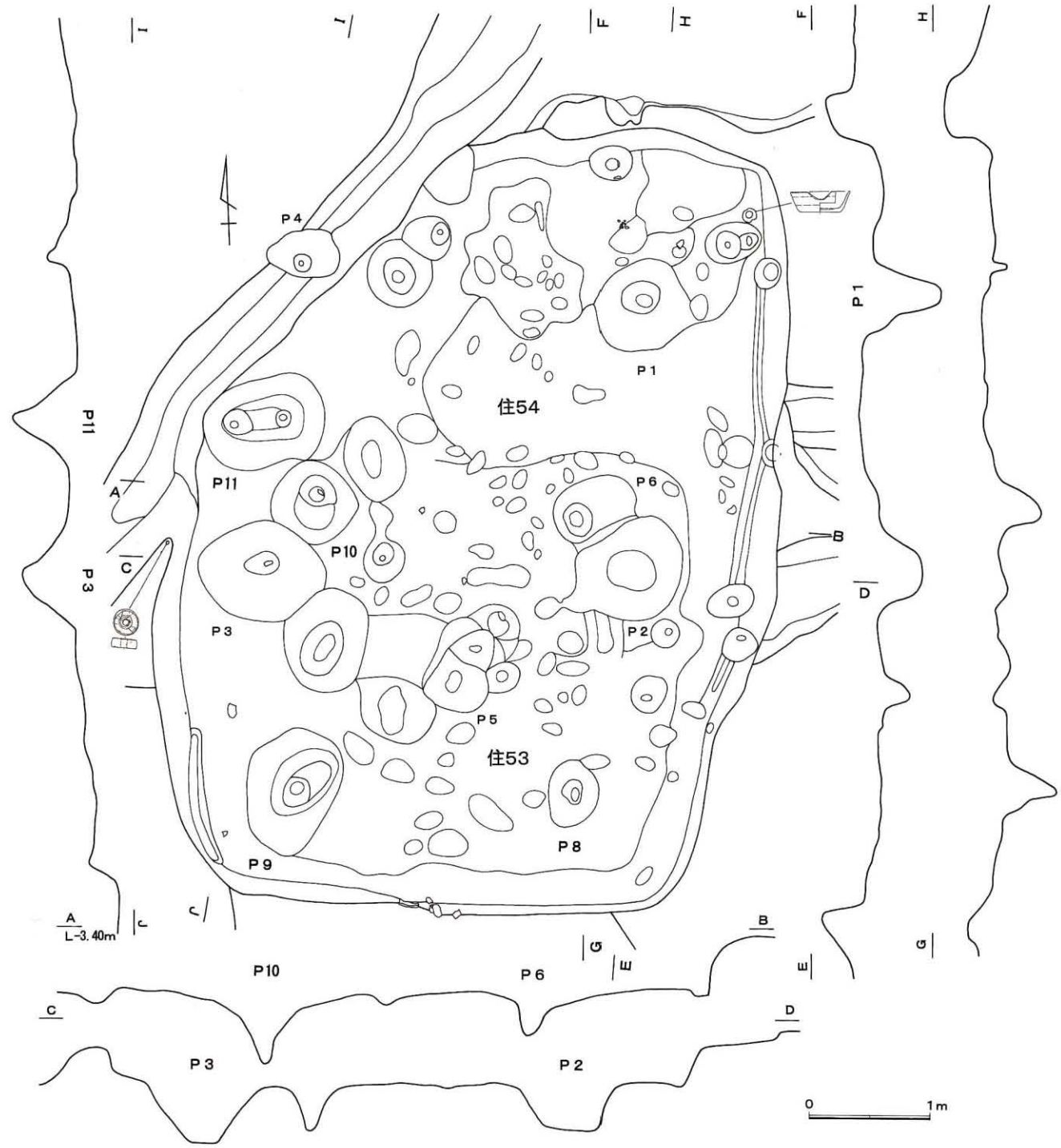
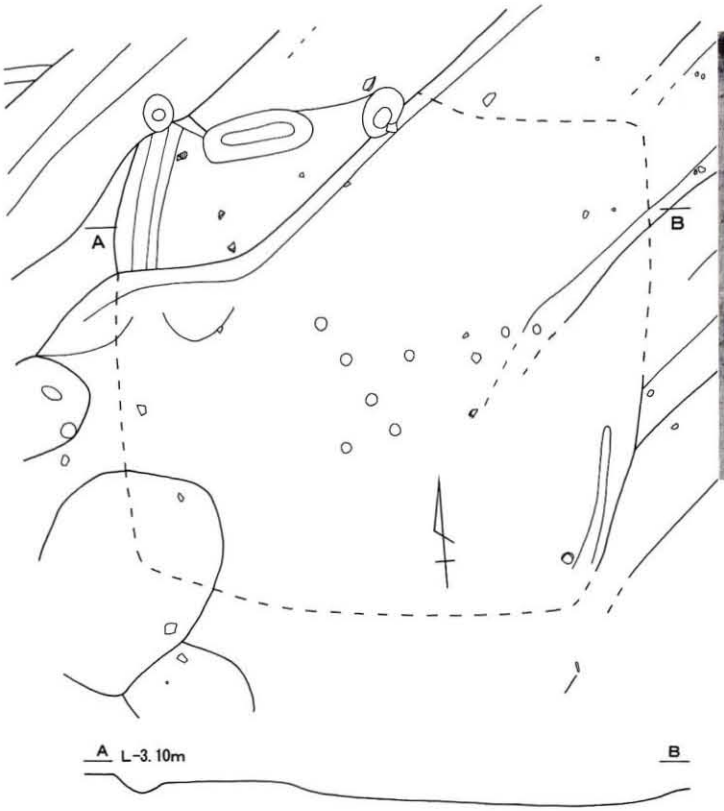
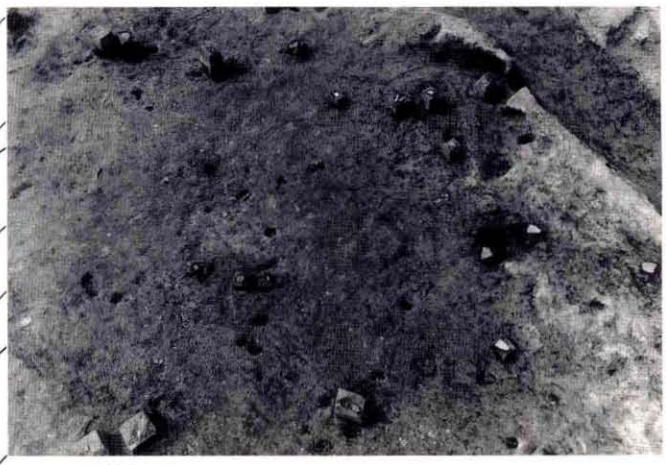


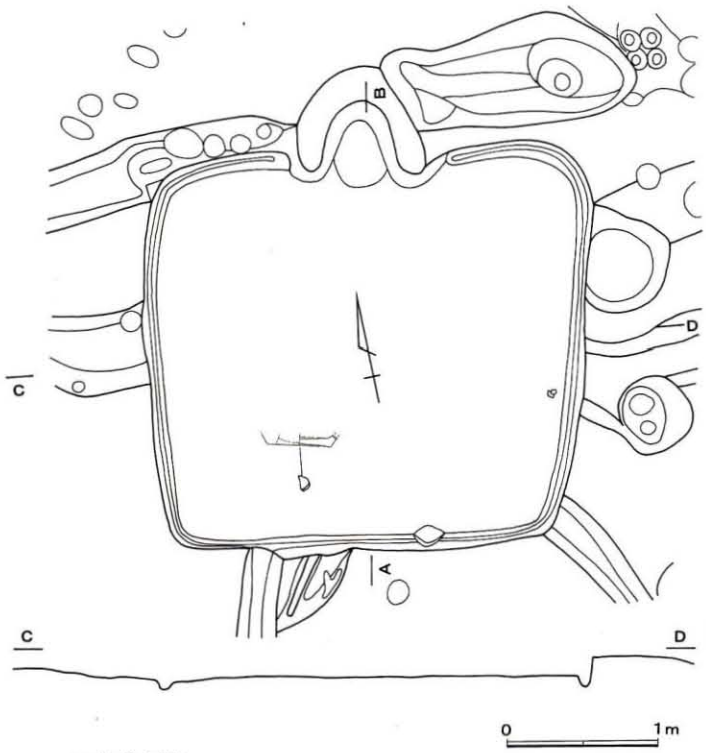
図 39　奈良・平安時代の遺構（53・54 号住居跡掘り方）

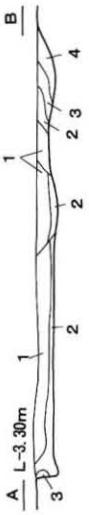




57号住居跡

時　期	7 期
位　置	12E－54－5・10
規　模	3.30×3.30m
主軸方向	N－6°－E
深　さ	0.10m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、痕跡がある。
遺　物	床面から土師器坏・甕片、須恵器甕片出土。
特記事項	全体を中世道跡が重なり、ほとんどを消失



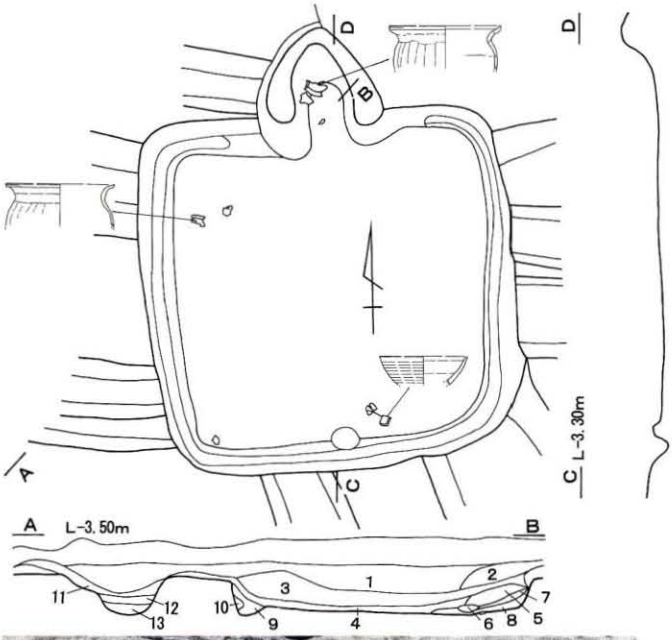


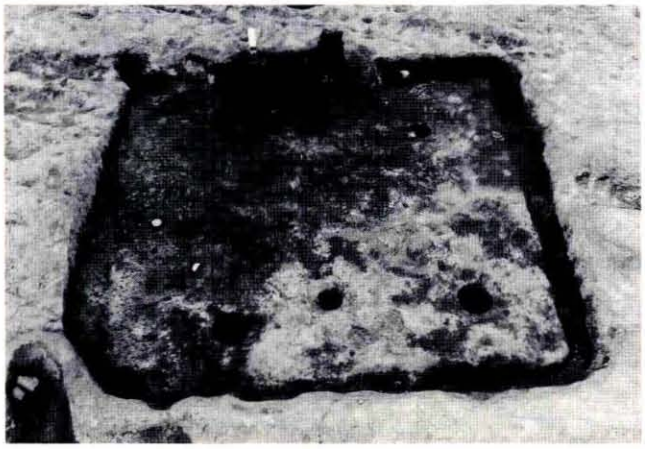
層　序　1 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
2 黒灰色土(砂少なく、粘質)
3 黒灰色土(砂、焼土混じる)
4 黒灰色土(焼土ブロック混じる)
5 灰色砂

60号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－55－2
規　模	2.55×2.85m
主軸方向	N－10°－E
深　さ	0.13m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.00m、奥行き0.60m。
遺　物	覆土中から土師器甕片、黒雲母片岩出土。
特記事項	

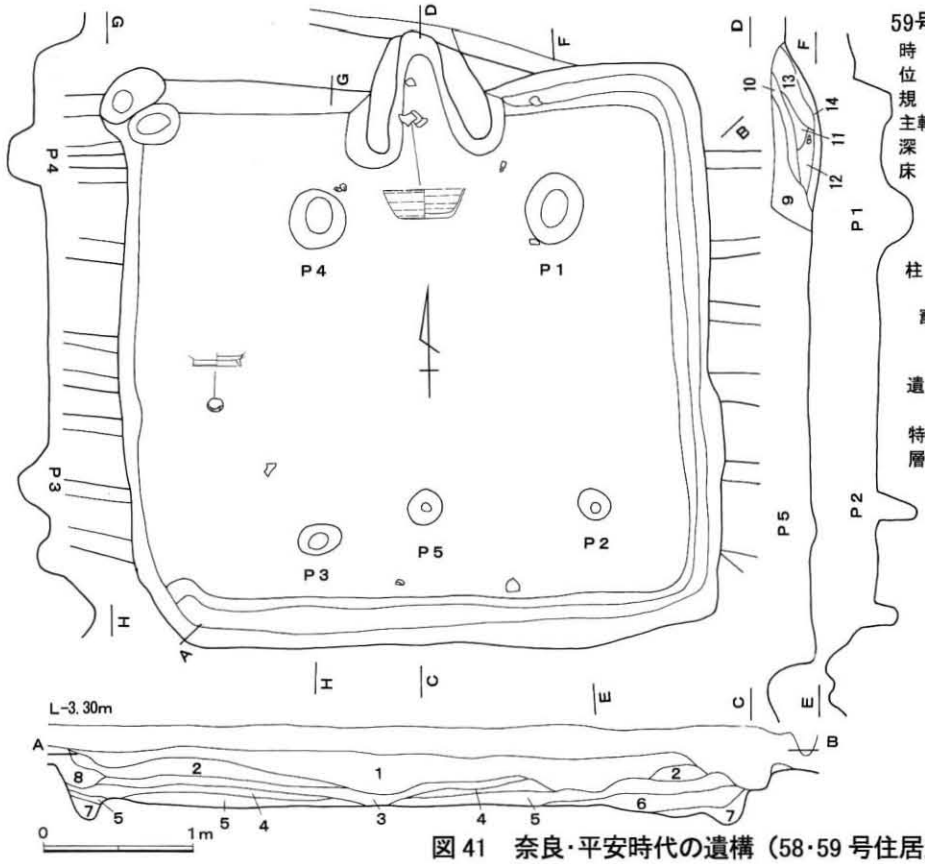
図 40　奈良・平安時代の遺構（57・60 号住居跡）





58号住居跡

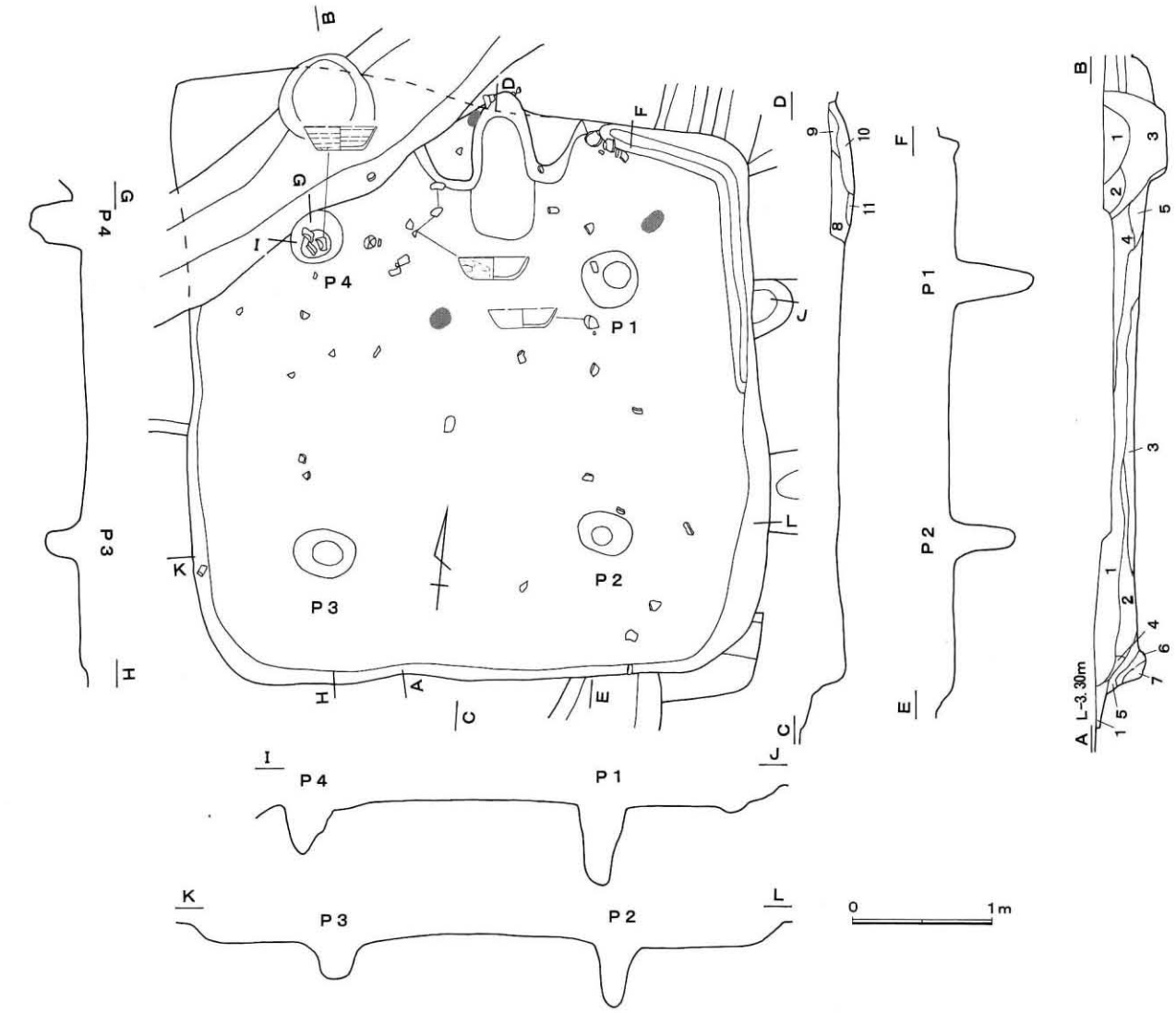
時　期　8 期
位　置　12E－44－24
規　模　2.20×2.35m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅0.85m、奥行き0.80m。
遺　物　竈中、床面から土師器坏・甕出土。
特記事項
層　序
1 黒色土(砂、褐色砂混じる)
2 黒色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
4 黒灰色砂(砂多く混じる)
5 黒灰色土(砂、焼土混じり、粘質。竈天井部)
6 灰色土(砂混じり、粘質。竈構築材)
7 赤色焼土(天井内壁)
8 黒灰色土(焼土、灰、砂混じる)
9 黒灰色土(砂多く混じる)
10 灰色砂(壁崩落砂)
11 暗灰色砂(黒色土混じる)
12 黒色土(褐色砂混じる)
13 黒灰色土(砂多く混じる)

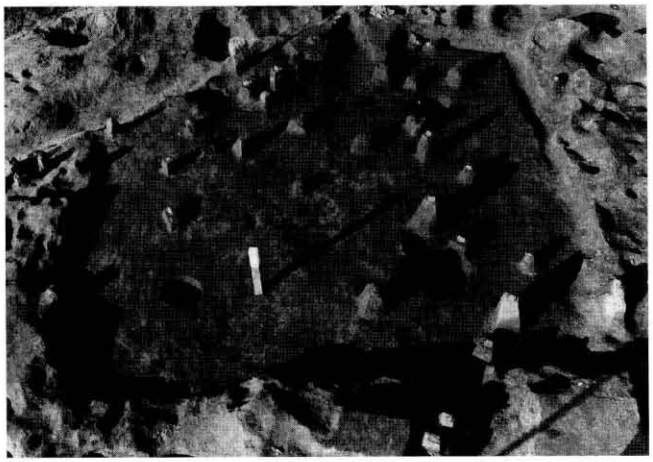


59号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－44－25
規　模　3.60×3.78m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.34m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面に1箇所、深さ0.1～0.3m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.06m、奥行き0.85m。
遺　物　竈中、床面から土師器坏・盤、須恵器甕片出土。
特記事項
層　序
1 黒色土(砂、褐色砂混じる)
2 暗灰色土(砂多く、褐色砂混じる)
3 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
4 黒灰色土(砂多く、褐色砂混じる)
5 黒灰色土(砂多く混じり、しまる)
6 黒灰色土(砂多く、褐色砂混じり、しまる)
7 暗灰色砂
8 黒色土(砂混じる)
9 黒灰色土(砂、褐色鉄混じる)
10 黒灰色土(砂多く混じる)
11 黒灰色土(砂混じる)
12 暗灰褐色土(竈構築材)
13 黒灰褐色土(砂、焼土混じる)
14 黒色土(黒灰、木炭、焼土混じる)

図 41　奈良・平安時代の遺構（58・59 号住居跡）

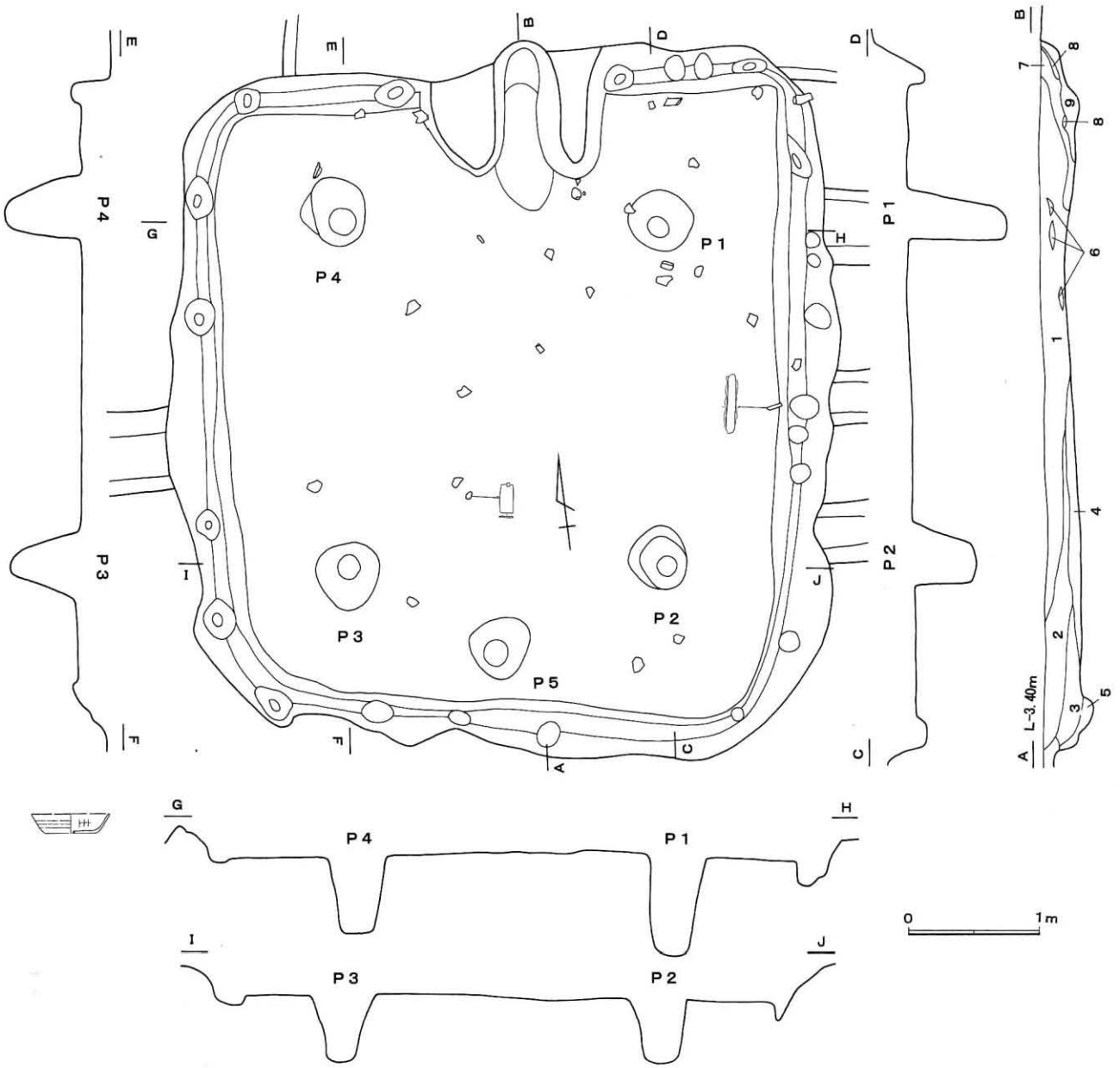


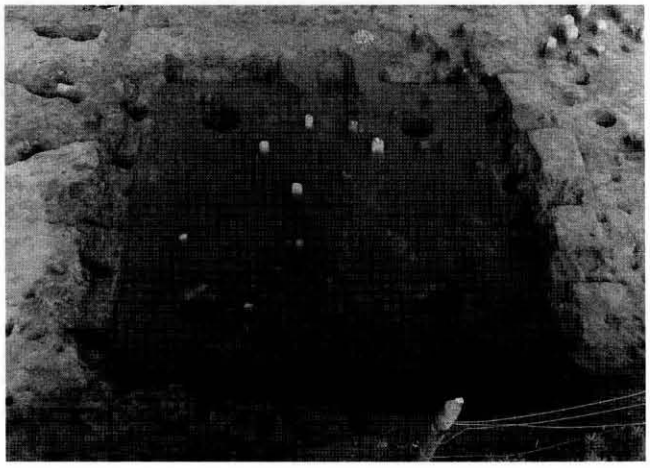


61号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－55－7・8
規　模	3.90×3.95m
主軸方向	N－5°－W
深　さ	0.25m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面に1箇所、深さ0.3～0.6m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.15m、奥行き0.65m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項	北側を中世溝に切られている。
層　序	1 黒灰色土(砂、褐色砂混じる) 2 黒灰色土(砂少し混じる) 3 黒灰色土(砂混じり、しまる) 4 黒色土 5 暗灰色土(砂多く混じる) 6 黒灰色土(砂混じる) 7 暗灰色砂 8 黒灰色土(砂、粘土、焼土、褐色砂混じる) 9 赤色焼土(灰、砂混じる) 10 黒灰色土(灰、木炭、焼土、砂混じる) 11 黒灰色土(黒色灰、砂混じる)

図 42　奈良・平安時代の遺構（61 号住居跡）

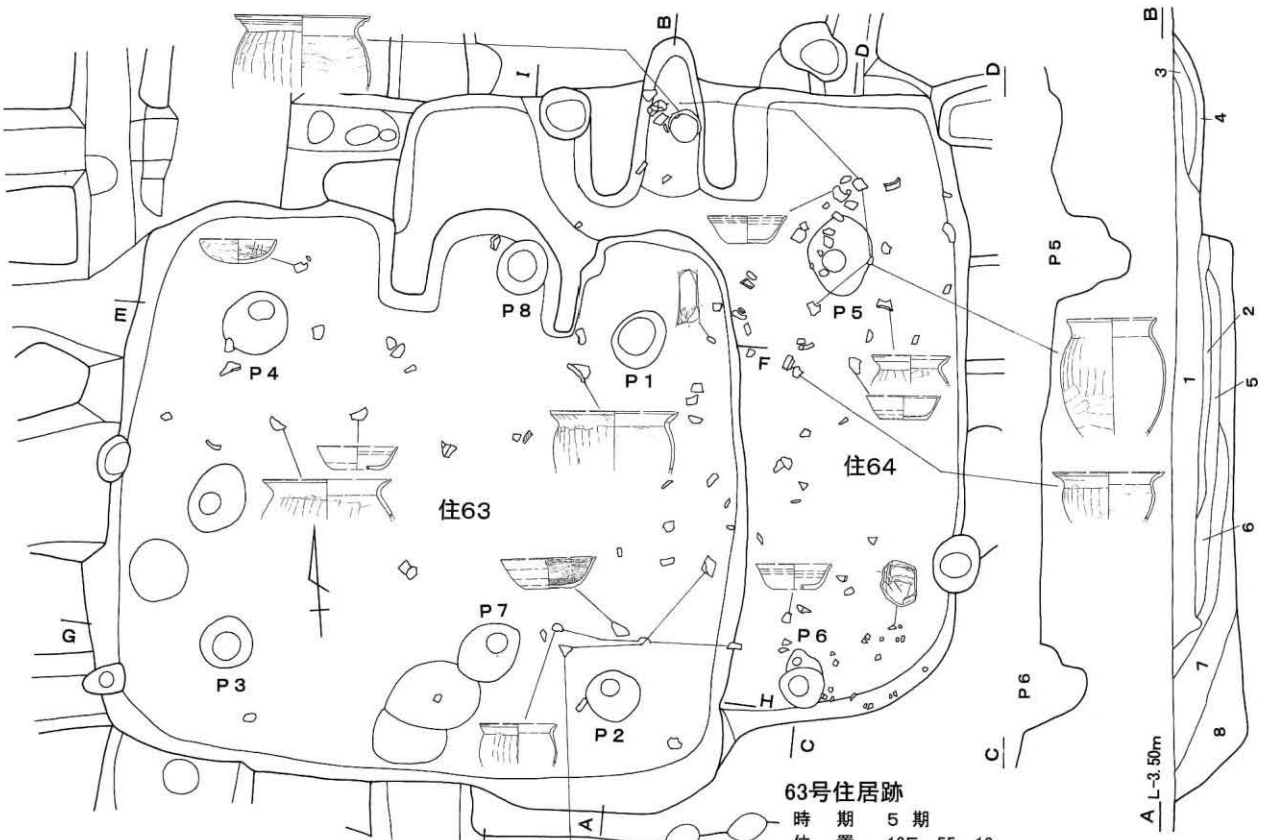


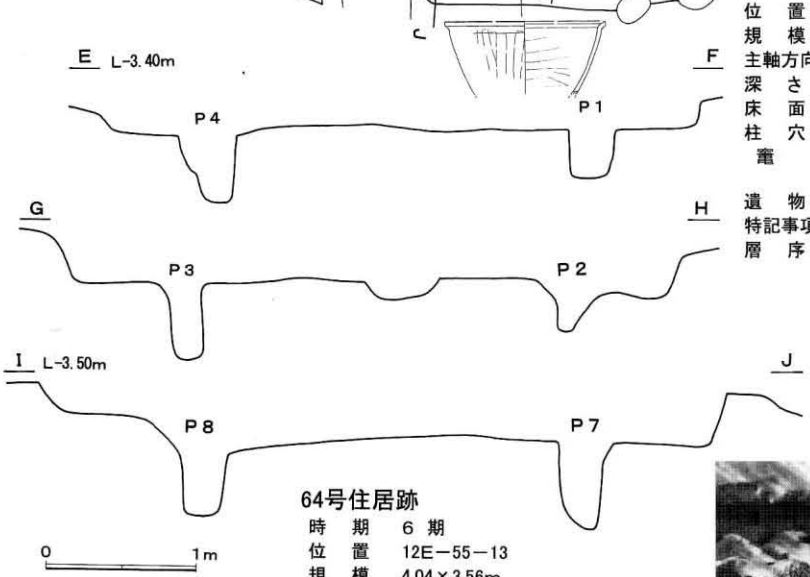


62号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－55－12・13
規　模	5.20×4.70m
主軸方向	N－7°－E
深　さ	0.28m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面に1箇所ある主柱穴は、深さ0.5～0.8m。 壁下に壁柱穴が23箇所あり、深さ0.1～0.3m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。 幅1.40m、奥行き1.10m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕片、鉄製刀子出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色土（砂多く、焼土、褐色砂混じる） 2 黒灰色土（砂混じる） 3 黒灰色土（砂、褐色砂少し混じる） 4 黒灰色土（砂、褐色砂多く混じり、しまる） 5 黒灰色土（砂多く混じる） 6 黒灰色土（砂少し混じる） 7 暗灰色砂（粘土、黒色土、焼土混じる。竈天井部） 8 焼土（砂） 9 黒灰色土（砂、焼土、灰混じる）

図 43　奈良・平安時代の遺構（62 号住居跡）



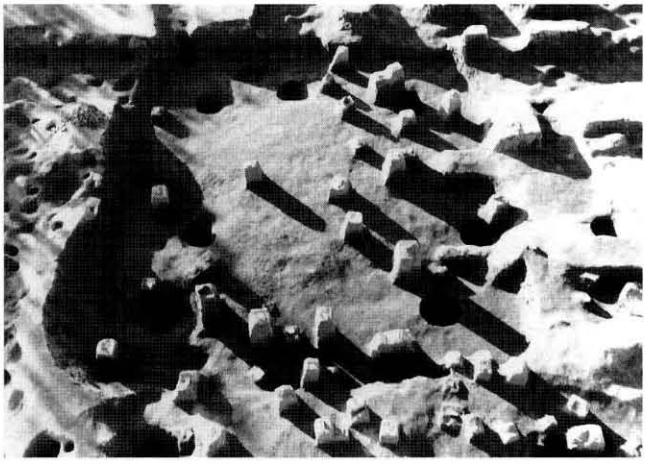


63号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－55－13
規　模	3.55×4.04m
主軸方向	N－9°－E
深　さ	0.42m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所と西壁際中央に1箇所、深さ0.3～0.6m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.37m、奥行き0.80m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕片、鉢、須恵器甕片、砥石、鉄滓出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色土(砂、木炭、焼土混じる) 2 黒灰色土(白色砂混じり、しまる) 3 黒灰色土(砂、焼土混じる) 4 黒灰色土(砂、焼土、灰混じる) 5 黒灰色土(砂混じり、しまる) 6 黒灰色土(砂、焼土混じる) 7 黒灰色土(砂、焼土、褐色砂混じる) 8 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)

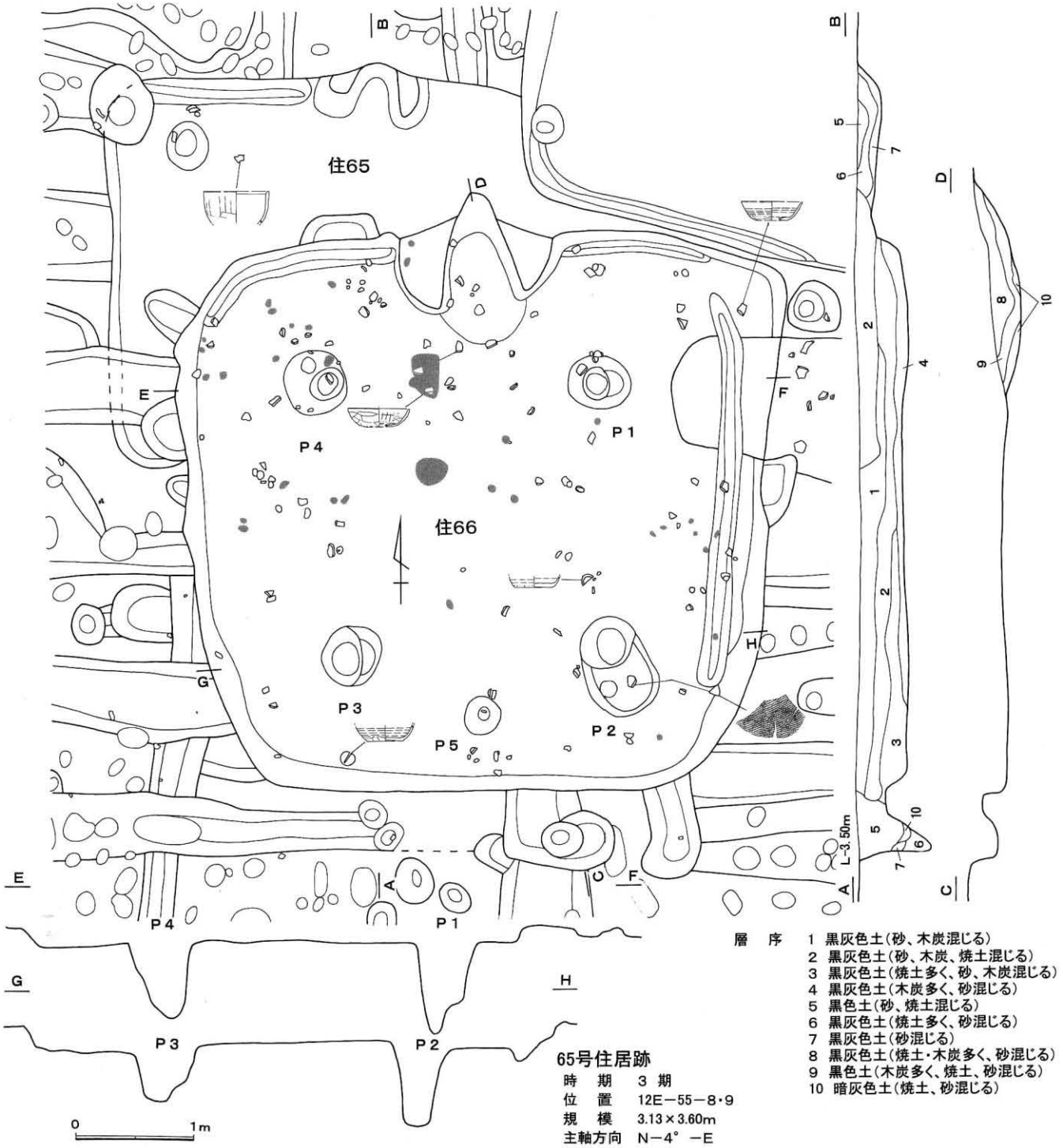
64号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－55－13
規　模	4.04×3.56m
主軸方向	N－3°－E
深　さ	0.18m



床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上より南に寄って4箇所、深さ0.3～0.5m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.30m、奥行き1.05m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片、砥石出土。
特記事項	63号住居跡の北東部に重なる。

図44　奈良・平安時代の遺構（63・64号住居跡）



層　序
1 黒灰色土(砂、木炭混じる)
2 黒灰色土(砂、木炭、焼土混じる)
3 黒灰色土(焼土多く、砂、木炭混じる)
4 黒灰色土(木炭多く、砂混じる)
5 黒色土(砂、焼土混じる)
6 黒灰色土(焼土多く、砂混じる)
7 黒灰色土(砂混じる)
8 黒灰色土(焼土・木炭多く、砂混じる)
9 黒色土(木炭多く、焼土、砂混じる)
10 暗灰色土(焼土、砂混じる)

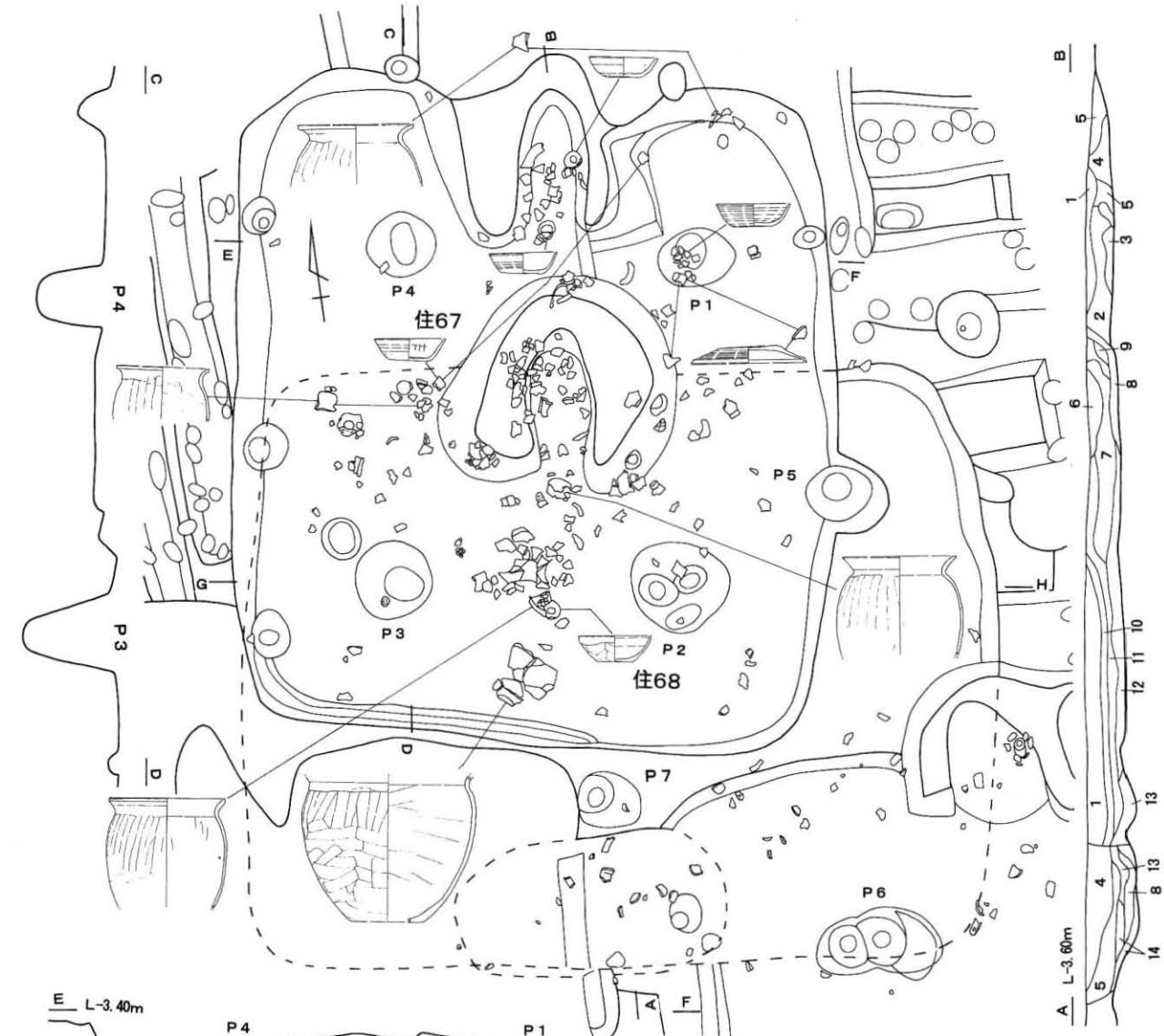
65号住居跡

時　期	3 期
位　置	12E－55－8・9
規　模	3.13×3.60m
主軸方向	N－4°－E
深　さ	0.15m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	北東隅に1箇所検出、深さ0.45m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、少し軟弱。幅0.98m、奥行き0.53m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕、鉢片出土。
特記事項	南東部を66号住居跡に切られる。

66号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－55－8・9
規　模	4.50×4.60m
主軸方向	N－1°－W
深　さ	0.37m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面に1箇所、深さ0.5～0.8m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.40m、奥行き0.90m。
遺　物	覆土中から土師器坏、須恵器甕片出土。
特記事項	

図 45　奈良・平安時代の遺構（65・66 号住居跡）



層　序
1 黒灰色土(砂混じる)
2 暗灰色土(砂、粘土混じる)
3 黒色土(砂、焼土混じる)
4 黒灰色土(焼土多く、砂混じる)
5 黒灰色土(砂、焼土混じる)
6 黒灰色土(焼土、砂少し混じる)
7 暗灰色土(砂、粘土、焼土混じる。竈天井部)
8 黒灰色土(焼土、灰、砂混じる)
9 赤色焼土(黒色土混じる)
10 暗灰色土(砂混じる)
11 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
12 暗灰色土(砂多く、褐色砂混じる)
13 黒灰色土(砂多く、焼土混じる)
14 暗灰色土(砂多く、焼土混じる)

67号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－55－9
規　模	4.55×4.10m
主軸方向	N－12°－E
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所、深さ0.5～0.7m。また西壁に3箇所壁柱穴、深さ0.3m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.60m、奥行き1.20m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏、甕、須恵器甕片出土。
特記事項	

68号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－55－9
規　模	4.30×5.35m
主軸方向	N－10°－E
深　さ	0.26m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴	対角線上の北東部に1箇所、深さ0.7m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.75m、奥行き1.20m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏、甕、須恵器甕片、鉄滓出土。
特記事項	67号住居跡に重なる。

図46　奈良・平安時代の遺構（67・68号住居跡）

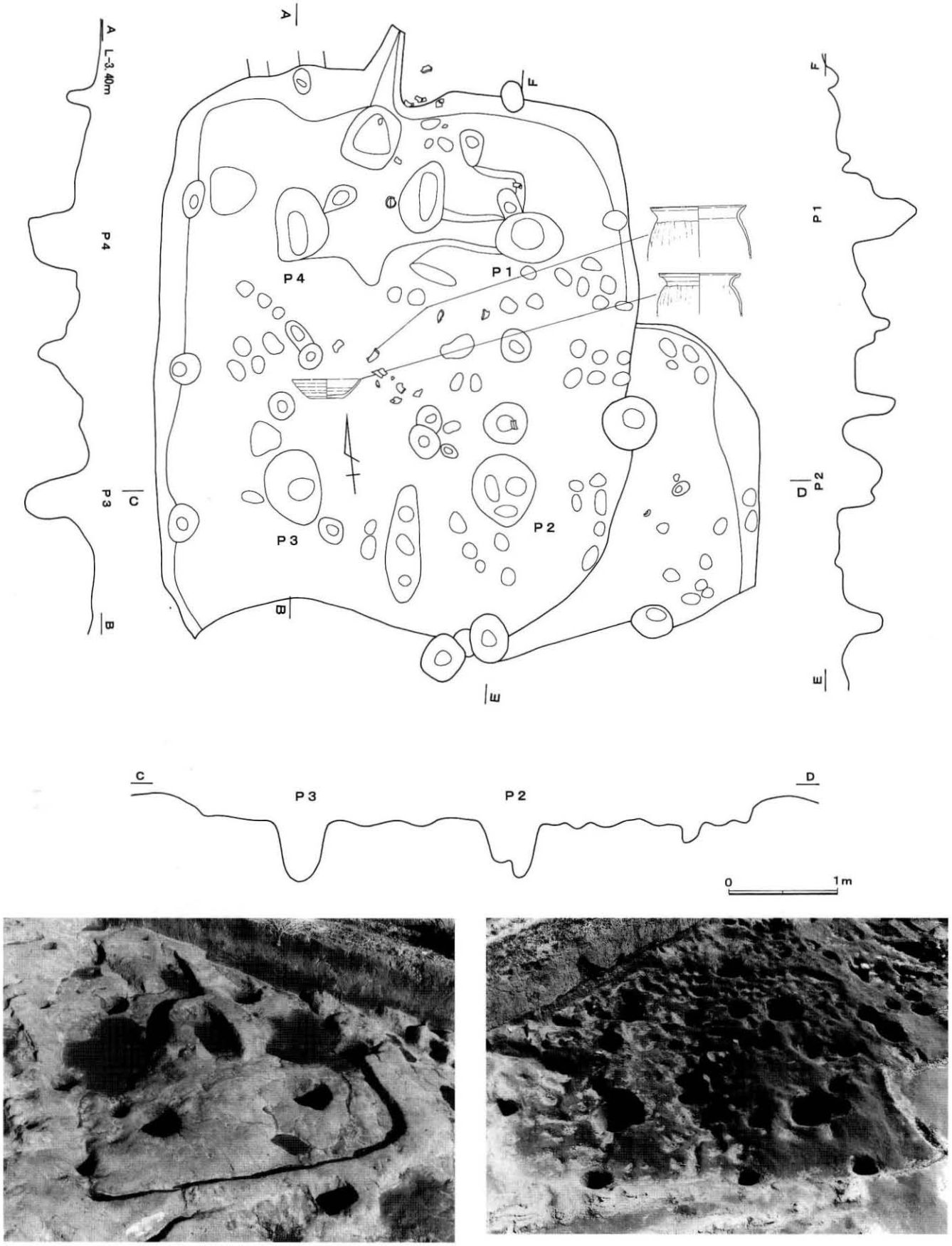
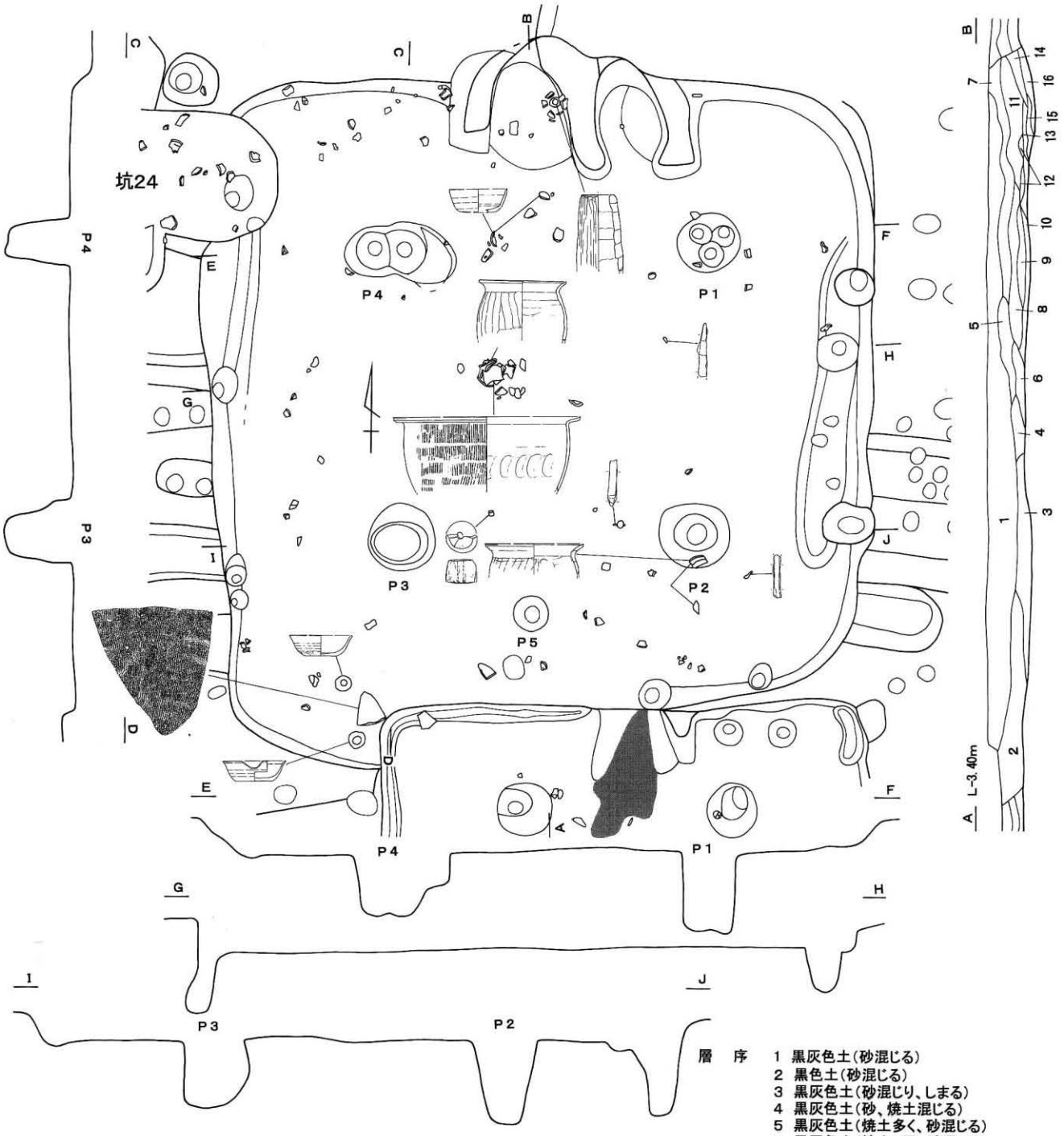


図 47　奈良・平安時代の遺構（67・68 号住居跡掘り方）



層　序
1 黒灰色土(砂混じる)
2 黒色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂混じり、しまる)
4 黒灰色土(砂、焼土混じる)
5 黒灰色土(焼土多く、砂混じる)
6 黒灰色土(焼土、灰、砂混じる)
7 黒灰色土(砂、焼土、木炭混じる)
8 黒灰色土(焼土、砂混じり、しまる)
9 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
10 暗灰色土(砂、焼土混じり、しまる)
11 暗灰色土(砂、粘土、焼土混じる。竈天井部)
12 赤色焼土
13 黒灰色土(灰、木炭粉混じる)
14 黒灰青色土(焼土、灰混じる)
15 灰白色土(白色灰)
16 黒灰青色土(焼土、灰層)

69号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－55－9
規　模	5.55×5.20m
主軸方向	N－1°－E
深　さ	0.30m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面に1箇所、深さ0.5～0.7m。また壁際に9箇所壁柱穴、深さ0.2～0.6m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.60m、奥行き1.20m。右側に古い竈跡あり。
遺　物	竈中、床面から土師器坏、甕、須恵器甕片、紡錘車、鉄製刀子出土。
特記事項	竈の支脚に円筒状の土製品を使う

図 48　奈良・平安時代の遺構（69 号住居跡）

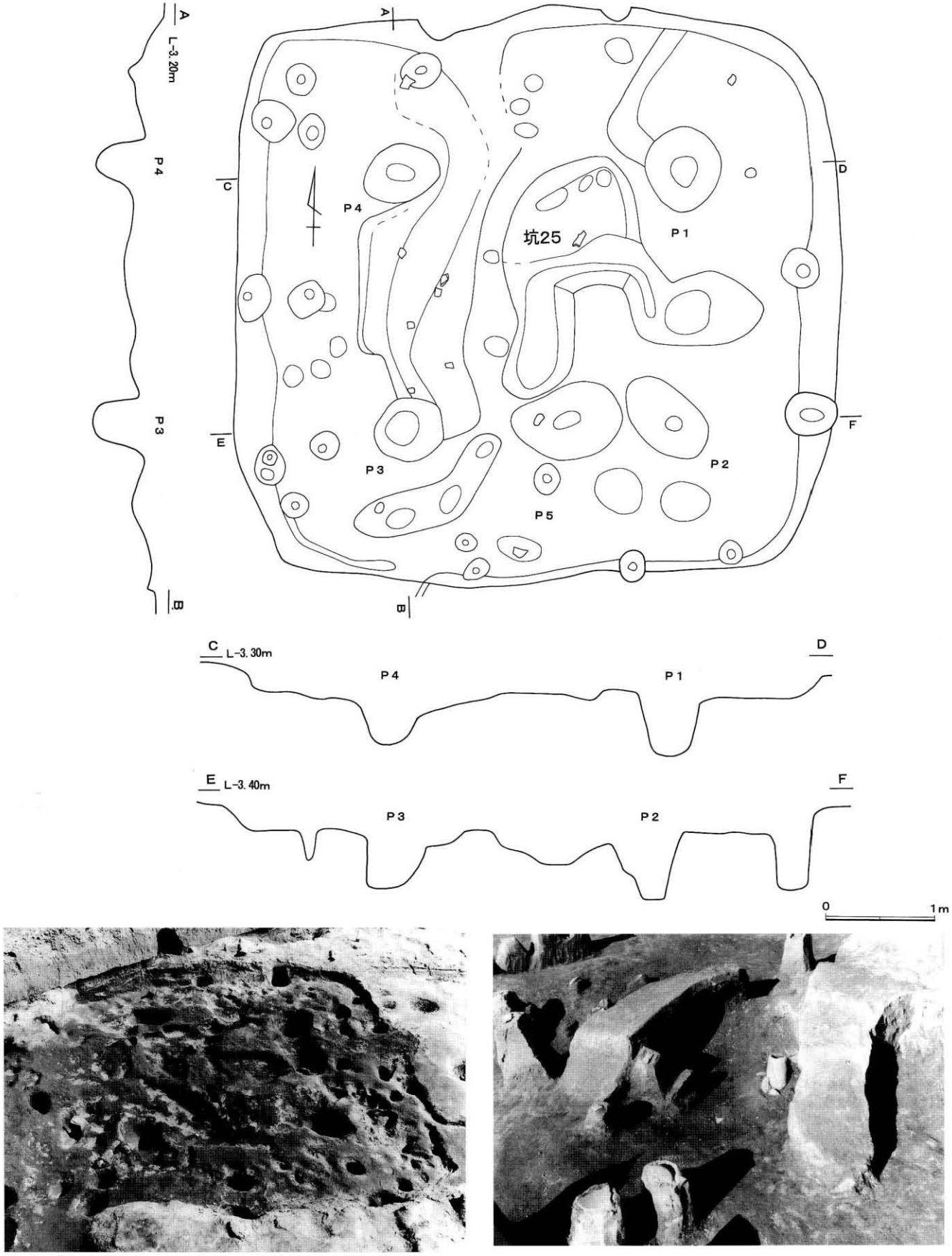
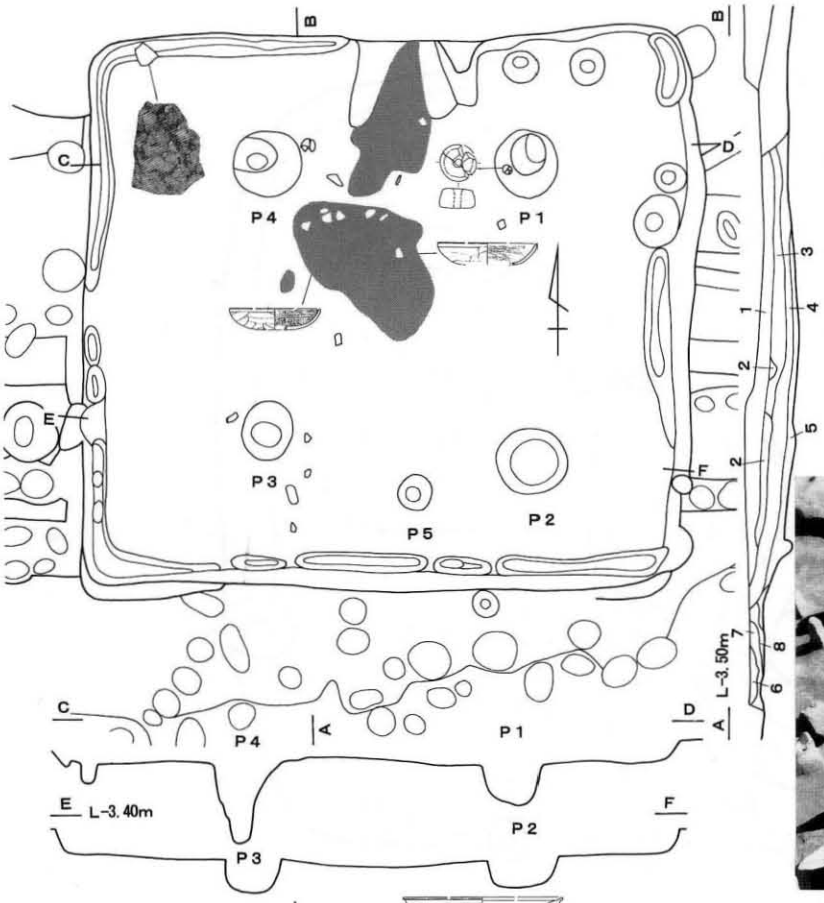
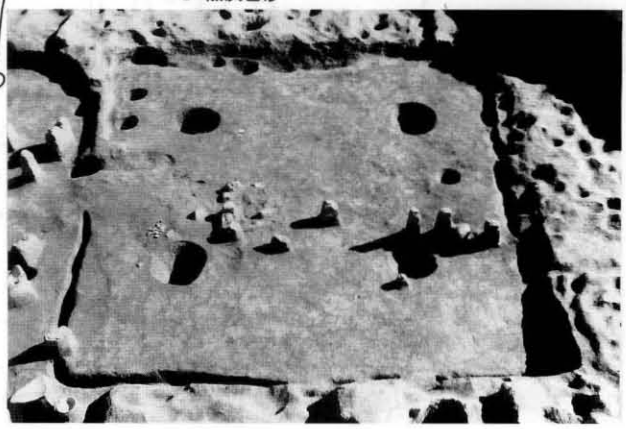


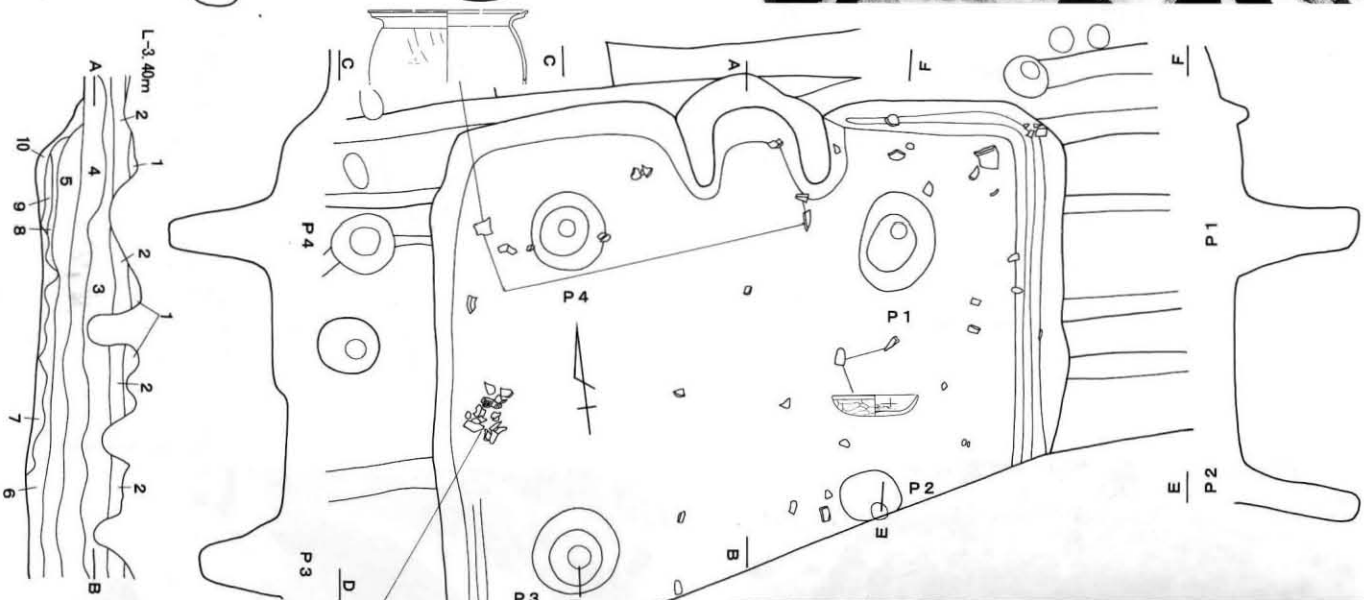
図 49　奈良･平安時代の遺構（69 号住居跡掘り方）



70号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－55－14
規　模　3.55×3.92m
主軸方向　N－2°－W
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面に1箇所、深さ0.25～0.55m。
竈　北壁中央に痕跡基底を検出。
幅0.85m、奥行き0.50m。
遺　物　床面から土師器坏、須恵器甕片転用硯、紡錘車出土。
特記事項　竈の支脚に円筒状の土製品を使う
層　序　1 黒灰色土(砂、焼土混じる)
2 黒灰色土(砂多く混じる)
3 黒灰色土(砂多く、焼土混じる)
4 黒灰色土(砂混じる)
5 黒灰色土(砂混じり、しまる)
6 黒灰色土(砂混じり、軟弱)
7 暗灰色砂(黒色土混じる)
8 黒灰色砂

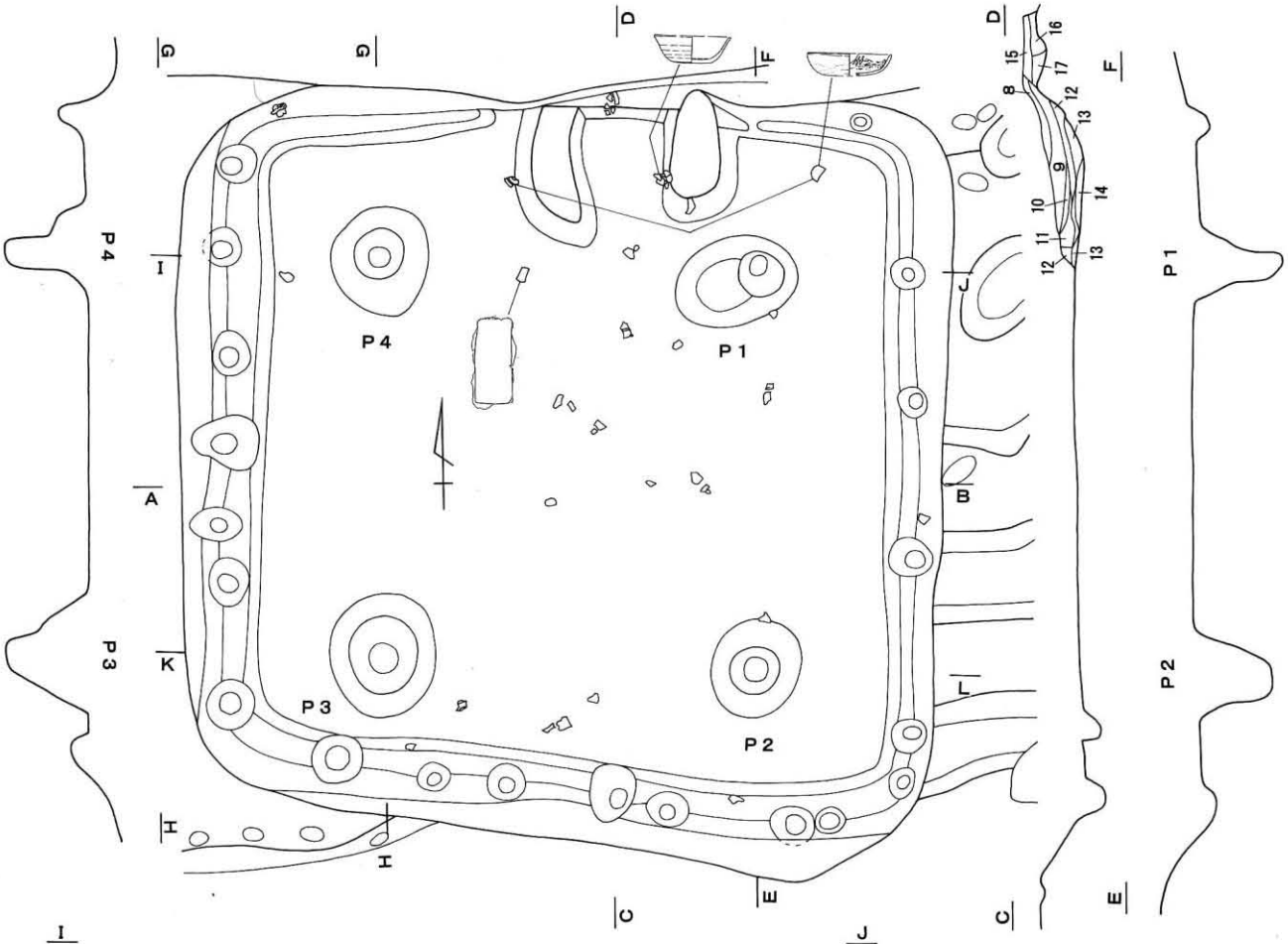


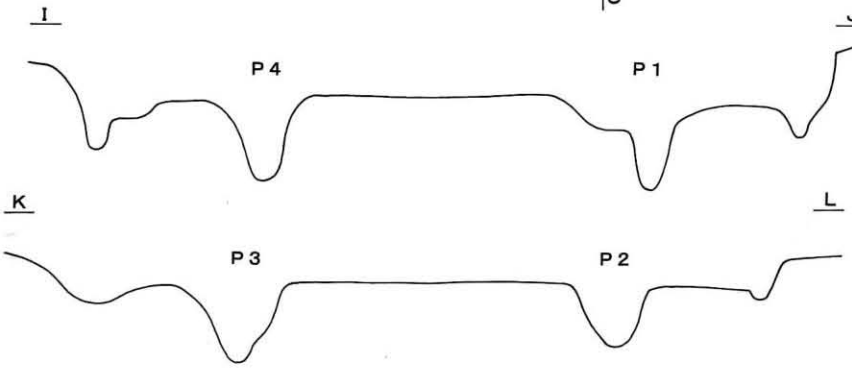


71号住居跡

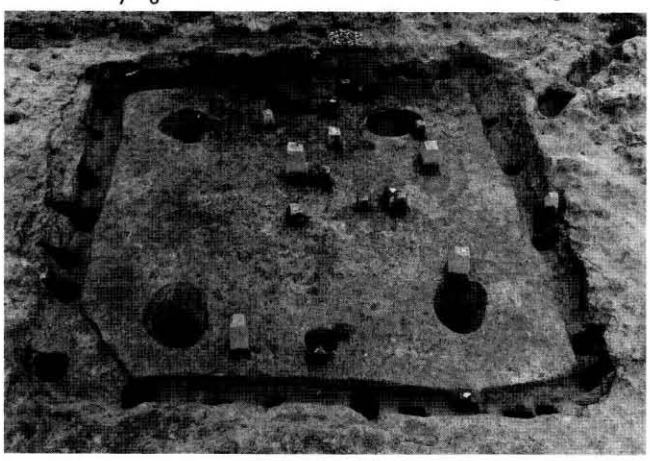
時　期　3 期
位　置　12E－55－14
規　模　3.30×3.92m
主軸方向　N－6°－E
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面に1箇所、深さ0.55～0.83m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。
幅1.20m、奥行き0.60m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項　南側が調査区域外で、発掘できず。
層　序　1 黒茶色土
2 黒色土
3 黒色土(少し茶色)
4 黒色土(少し茶色で、砂混じる)
5 黒灰色土(砂混じる)
6 黒灰色土(砂混じり、しまる)
7 灰色砂(地山)
8 黒色土(木炭、焼土混じる)
9 黒灰色土(砂、焼土、灰混じる)
10 黒灰色砂(砂、焼土混じる)

図 50　奈良・平安時代の遺構（70・71 号住居跡）





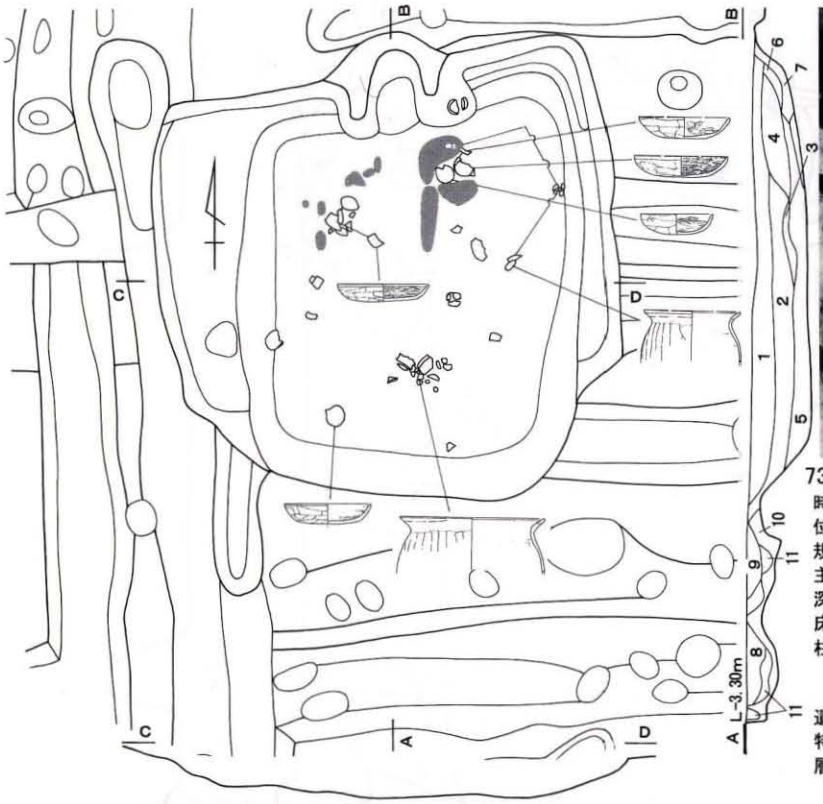
層　序
1 暗褐色土(砂混じる、現代耕作痕)
2 黒灰色土(砂、褐色鉄粒混じる)
3 黒灰色土(砂、褐色鉄粒、木炭混じる)
4 黒灰褐色土(砂、褐色鉄粒、焼土混じる)
5 黒色土(砂混じり、しまる)
6 黒灰色土(砂混じり、軟弱)
7 暗灰色砂(黒色土混じり、軟弱)
8 黒灰色土(砂混じる)
9 黒灰色土(焼土多く、砂混じる)
10 黒色土(木炭混じる)
11 暗灰色土(焼土多く、砂混じる)
12 黒灰色土(砂、焼土混じる)
13 黒色土(砂、焼土、木炭混じる)
14 暗灰色土(白色砂混じる)
15 黒色土(砂混じる)
16 黒色土(白色砂多く混じる)
17 黒色土(砂少なく、粘質)

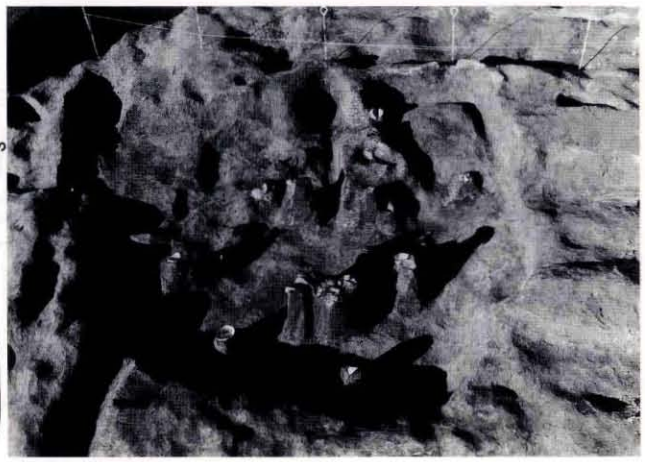


72号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－55－10
規　模	4.80×4.75m
主軸方向	N－2°－E
深　さ	0.35m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面に1箇所、深さ0.55～0.83m。 壁下に20箇所、壁柱穴あり、深さ0.2～0.3m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。 幅1.50m、奥行き1.00m。
遺　物	覆土中から土師器坏、鉄製斧出土。
特記事項	

図 51　奈良・平安時代の遺構（72 号住居跡）





73号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－45－19
規　模　2.56×2.87m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.40m
床　面　砂地を掘り窪めているが、平旦に整地されてなく、軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅0.92m、奥行き0.50m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片出土。
特記事項　床面が二段になっていて、掘りなおしたか。
層　序
1 黒色土(砂混じる)
2 黒色土(砂、焼土混じる)
3 黒灰色土(焼土多く、砂混じる)
4 黒灰色土(焼土多く混じる)
5 黒灰色土(砂混じり、しまる)
6 暗灰色土(焼土多く、砂混じる)
7 黒色土(焼土、砂混じる)
8 黒色土(砂、褐色砂混じる)
9 黒色土(砂少し混じる)
10 暗灰色土(砂多く混じる)
11 黒灰色土(砂混じる)

74号住居跡

時　期　7 期
位　置　12E－45－14
規　模　2.23×2.80m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.23m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅1.15m、奥行き0.90m。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片出土。
特記事項
層　序
1 暗褐色土(現代耕作土)
2 黒色土(少し褐色)
3 黒色土
4 暗灰色土(砂多く混じる)
5 黒灰色土(砂混じる)
6 暗灰色土(焼土多く、砂混じる)
7 暗灰褐色土(黒色土混じる)
8 黒灰褐色土(砂混じる)
9 黒灰色土(砂多く混じる)
10 灰色砂
11 黒色土(砂、褐色砂混じる)
12 黒色土(砂多く、褐色砂混じる)
13 黒灰色土(砂混じる)
14 暗灰色土(砂多く、粘質、硬く、焼土混じり、竈天井部)
15 暗灰色土(砂・焼土多く混じり、粘質、竈内面)
16 黒色土(砂、焼土混じる)
17 黒色土(焼土混じり、粘質で硬い)

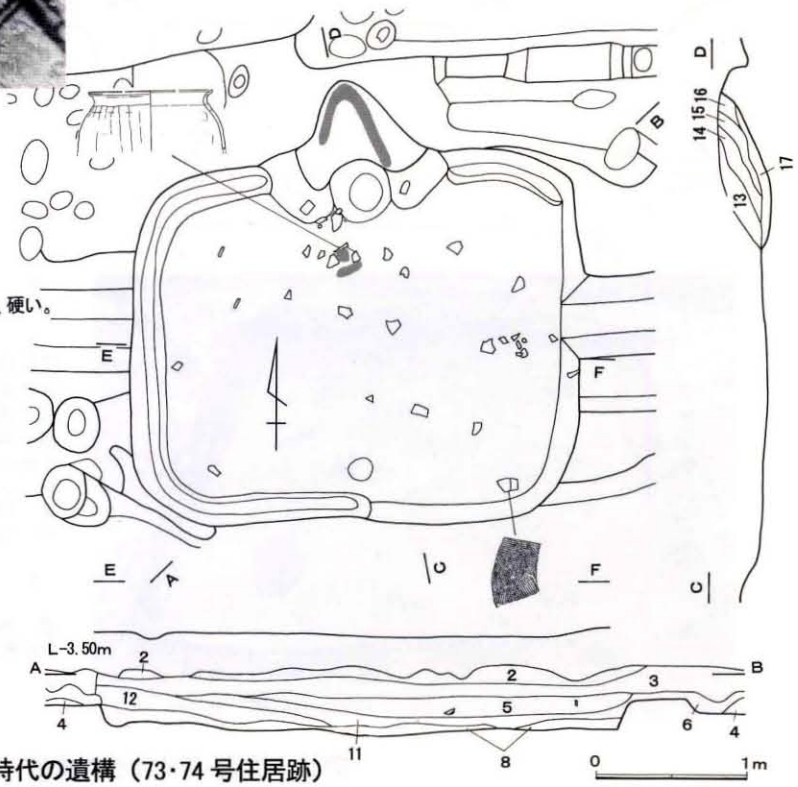
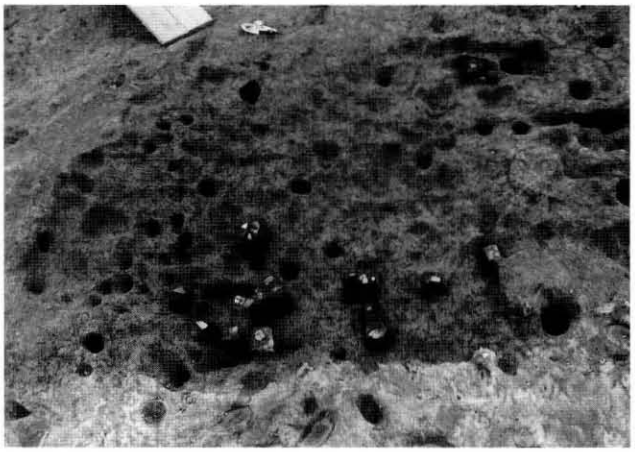
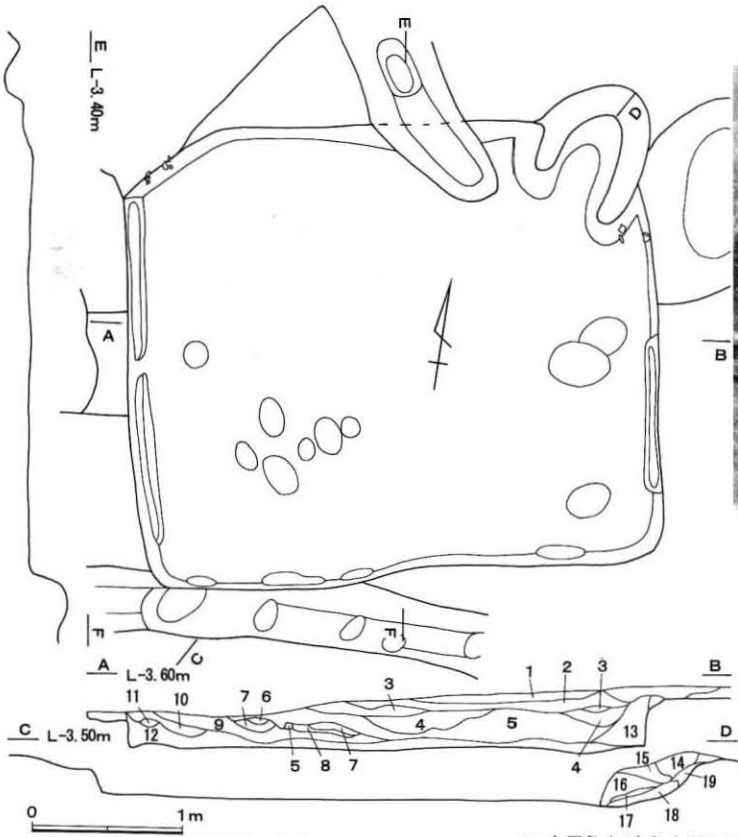


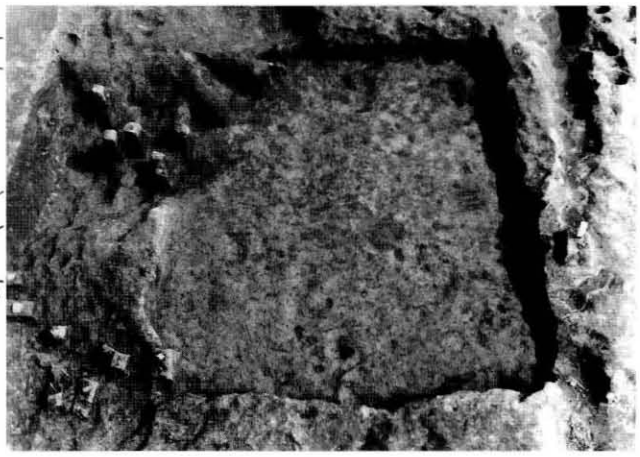
図 52　奈良・平安時代の遺構（73・74 号住居跡）



75号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－45－20
規　模	2.70×2.95m
主軸方向	N－2°－E
深　さ	0.15m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸がある。
柱　穴	検出されず。検出した小穴は住居跡の柱穴とは異なる。
竈	北壁中央に痕跡がある。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項	南東部を中世道跡で消失。南に近世溝でほとんどを消失した住居跡の一部がある。



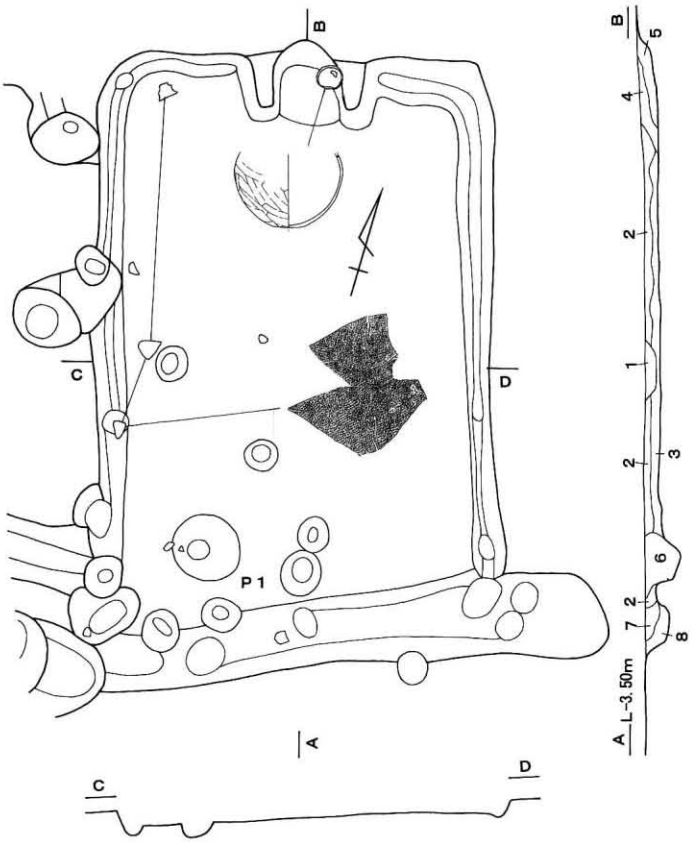


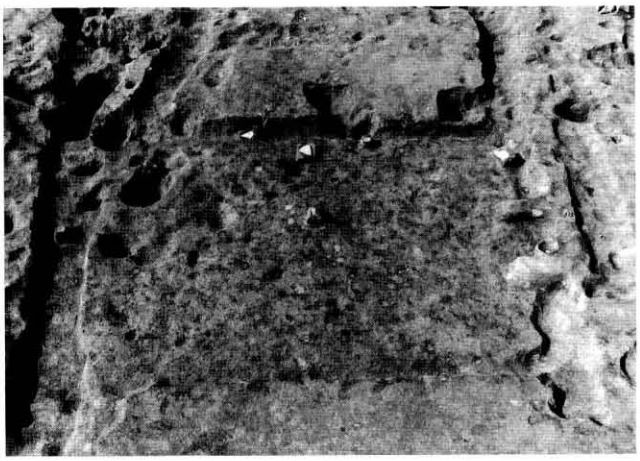
76号住居跡

時　期	3 期
位　置	12E－45－16
規　模	2.83×3.40m
主軸方向	N－10°－W
深　さ	0.40m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北東隅にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂で、硬い。幅0.95m、奥行き0.75m。
遺　物	覆土中から土師器甕片出土。
特記事項	

層　序
1 黒灰色土(砂、褐色砂多く混じる)
2 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
3 黒灰色土(白色砂多く混じる)
4 黒色土(砂、褐色砂混じる)
5 暗灰色砂(黒色土、褐色砂混じる)
6 暗灰色土(砂混じる)
7 白灰色土(白色土混じる)
8 黒色土(砂混じる)
9 暗灰色土(砂、褐色砂多く混じる)
10 暗灰色砂(白色砂混じる)
11 暗灰色土(砂、黒色土混じる)
12 暗灰色土(砂、黒色土混じり、しまる)
13 黒灰色土(砂混じり、軟弱)
14 黒灰色土(砂、焼土混じる)
15 暗灰色土(砂、褐色砂混じる)
16 黒灰色土(砂混じる)
17 暗赤灰色砂(焼け砂)
18 黒灰色土(砂、焼土混じり、軟弱)
19 黒灰色砂(赤色焼砂多く混じる)

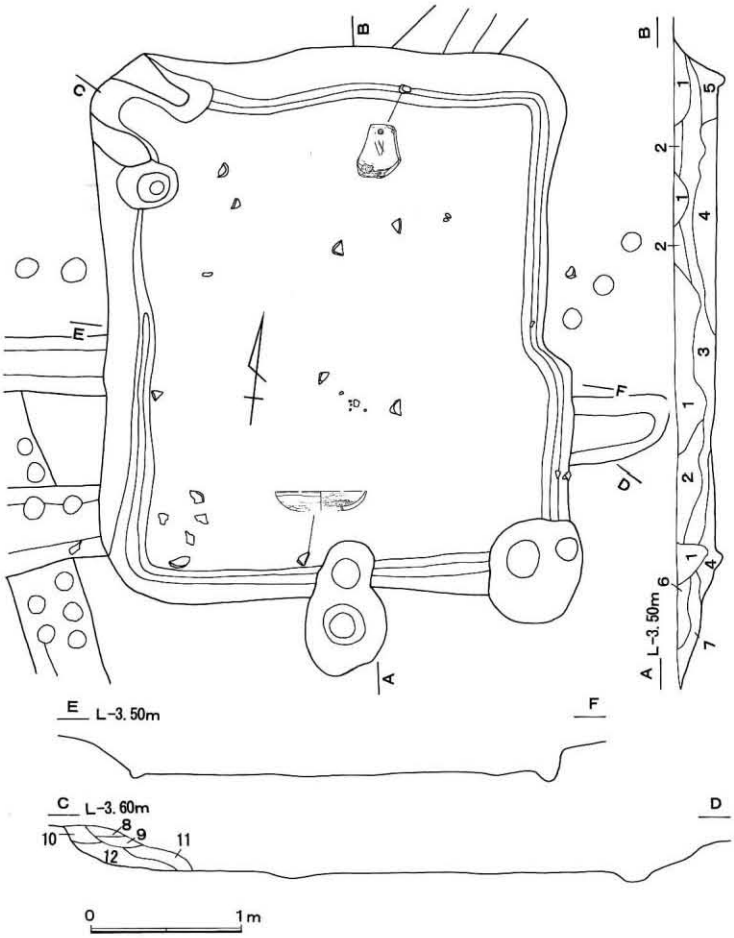
図53　奈良・平安時代の遺構（75・76号住居跡）





77号住居跡

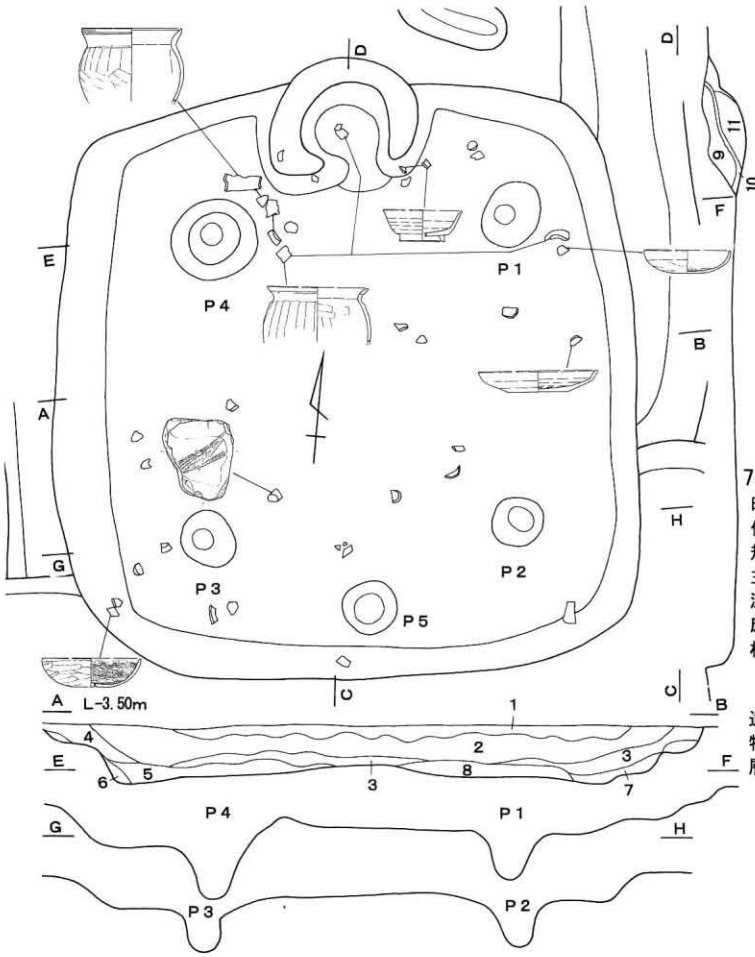
時　期　3 期
位　置　12E－46－17
規　模　3.60×2.53m
主軸方向　N－18°－W
深　さ　0.12m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　竈対面に1箇所、深さ0.15m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、硬い。幅0.85m、奥行き0.60m。
遺　物　覆土中から土師器甕、須恵器甕片出土。
特記事項　西側、南部の穴は中世の建物跡柱穴
層　序　1 黒色土(砂混じる)
2 暗灰色土(砂多く混じり、しまる)
3 黒灰色土(砂混じり、しまる)
4 黒灰色土(砂、焼砂混じる)
5 黒色土(砂、焼砂混じる)
6 黒灰色土(砂、黒色土、焼土混じる)
7 黒灰色土(砂混じる)
8 黒灰色土(砂少し混じる)



78号住居跡

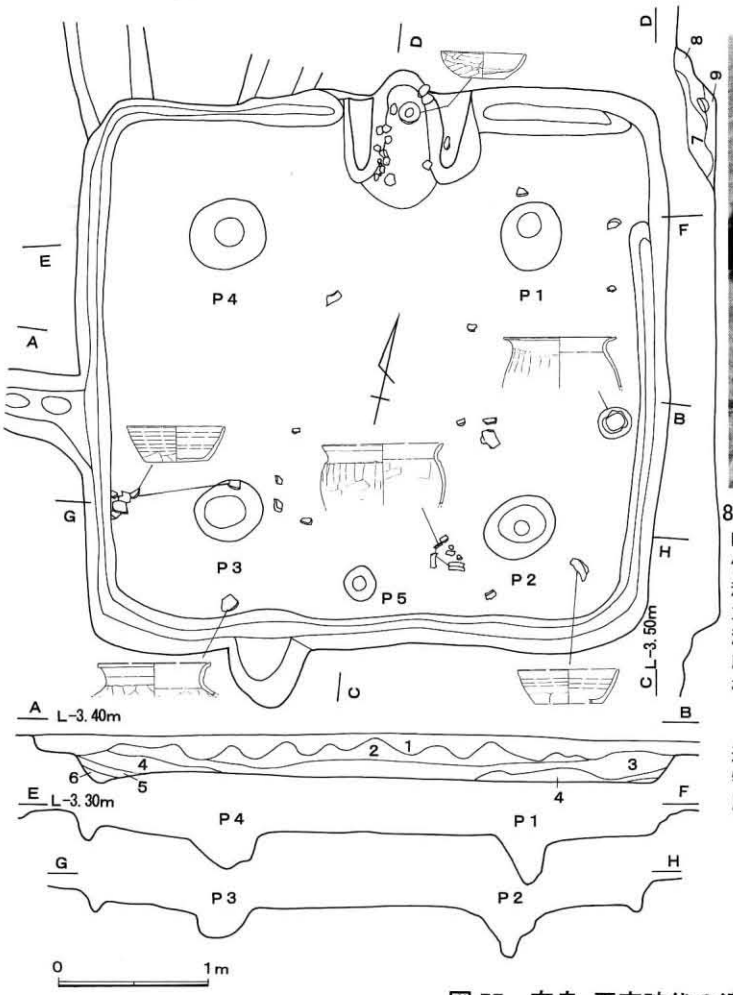
時　期　3 期
位　置　12E－46－17
規　模　3.20×2.80m
主軸方向　N－6°－W
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北西隅にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、硬い。幅0.75m、奥行き0.70m。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕片、須恵器甕片、砥石出土。
特記事項　壁にある穴は、中世建物跡の柱穴。
層　序　1 黒色土(砂少し混じり、粘質でしまる)
2 黒色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂混じる)
4 黒色土(砂少し、木炭混じり、しまる)
5 黒灰色土(砂混じり、しまる)
6 黒灰色土(砂混じり、軟弱)
7 黒色土(砂混じり、軟弱)
8 黒灰色土(砂、焼砂混じる)
9 暗灰色砂(焼砂混じり、粘質でしまる)
10 黒色砂(焼砂混じる)
11 黒色土(焼砂、砂混じる)
12 黒灰色土(砂、焼砂混じり、軟弱)

図 54　奈良・平安時代の遺構（77・78 号住居跡）



79号住居跡

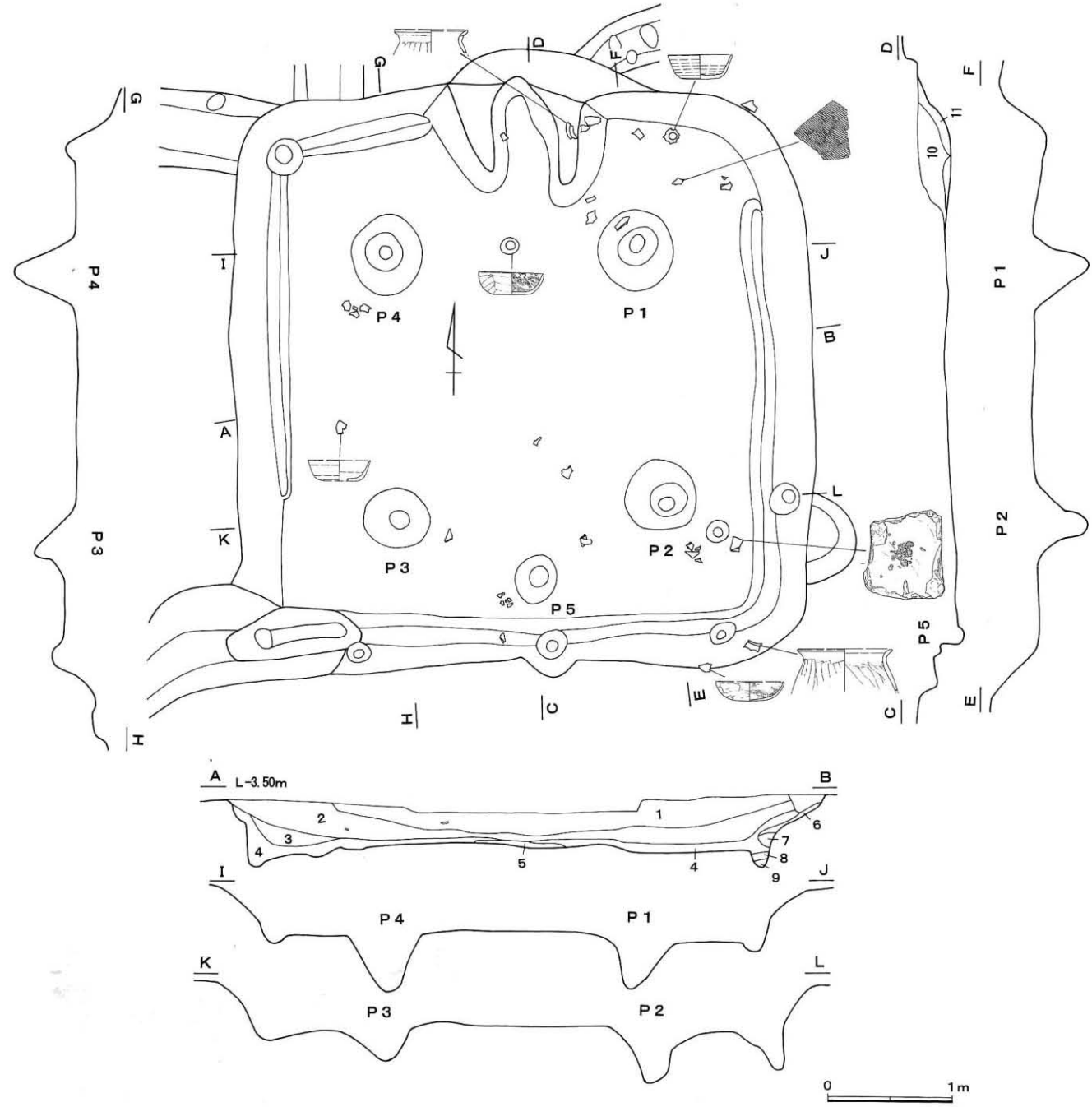
時　期　5 期
位　置　12E－46－22
規　模　3.56×3.38m
主軸方向　N－7°－W
深　さ　0.35m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸があり軟弱。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.25～0.45m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、硬い。幅1.20m、奥行き0.70m。
遺　物　覆土中から土師器坏・盤・甕、須恵器甕片硯、鉄製刀子、砥石出土。
特記事項
層　序
1 黒灰色土(砂、焼土混じる)
2 黒灰色土(砂、焼土混じり、しまる)
3 黒灰色土(砂、焼土混じり、粘質でしまる)
4 暗灰色土(砂多く混じる)
5 黒灰色土(砂多く、焼土混じる)
6 灰色砂(黒色土混じる)
7 黒灰色土(砂混じる)
8 黒灰色土(砂混じり、しまる。床貼土)
9 暗灰色土(砂、粘土、焼土混じる)
10 黒灰色土(砂、焼土、木炭混じる)
11 暗灰色土(焼土、砂混じる)

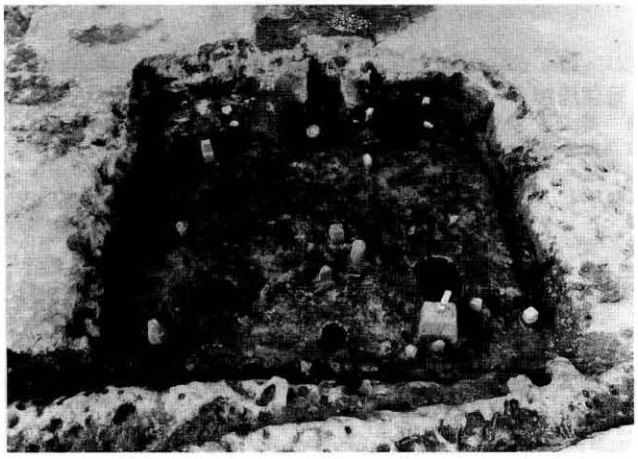


81号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－56－2
規　模　3.50×3.76m
主軸方向　N－12°－W
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.20～0.30m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、硬い。幅0.90m、奥行き0.75m。
遺　物　竈中、床面から土師器坏・甕、灰釉陶器長頸壺片出土。
特記事項
層　序
1 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
2 黒灰色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂多く混じる)
4 暗灰色土(砂多く混じる)
5 暗灰色土(砂多く混じり、軟弱)
6 暗灰色砂(焼土混じり、軟弱)
7 黒灰色土(砂、粘土、焼土混じる)
8 黒灰褐色土(砂、焼土混じる)
9 黒色土(砂、焼土、灰混じる)

図 55　奈良・平安時代の遺構（79・81 号住居跡）

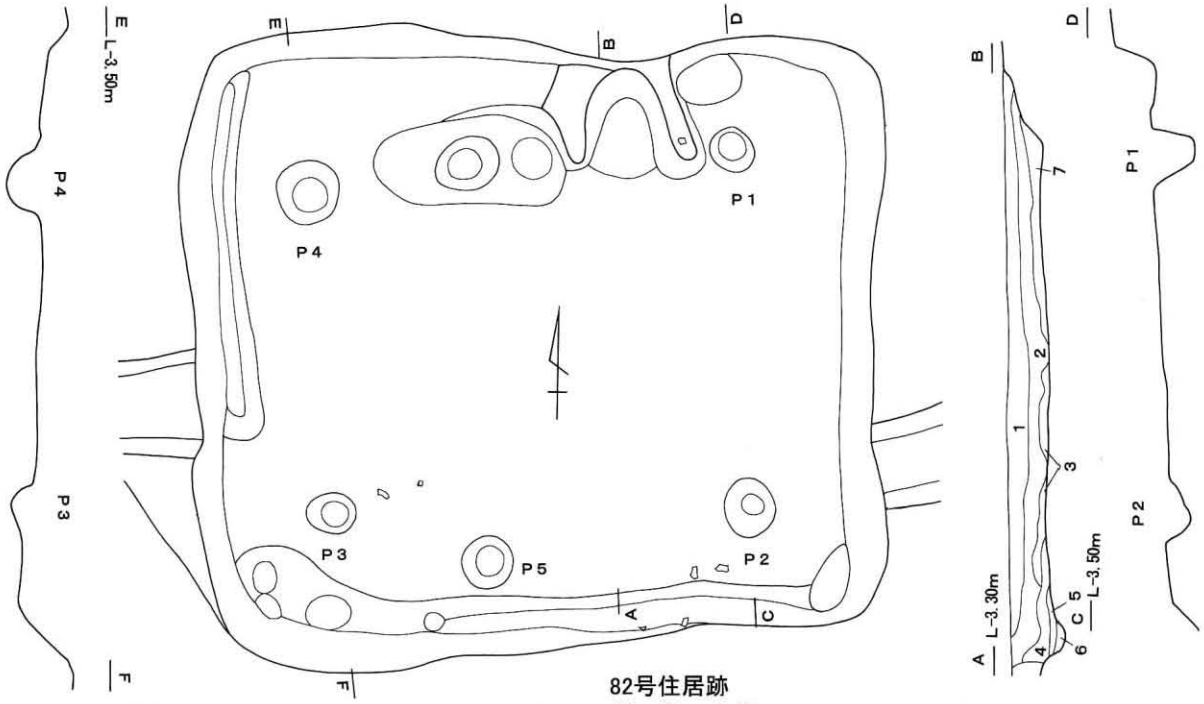


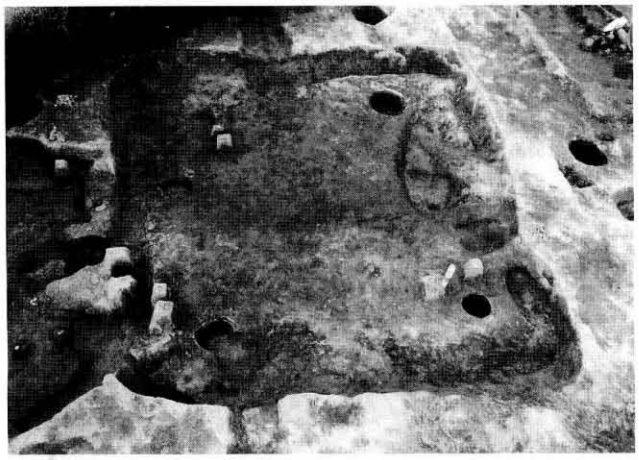


80号住居跡

時　期	3 期
位　置	12E－46－22
規　模	4.12×4.10m
主軸方向	N－5°－W
深　さ	0.35m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.30～0.50m。 壁際に6箇所壁柱穴あり、深さ0.2～0.3m。
竈	北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、硬い。幅1.30m、奥行き1.10m。
遺　物	床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片硯、砥石出土。
特記事項	
層　序	1 暗灰色土(砂多く、焼土混じる。踏み固め痕あり) 2 暗灰色土(砂多く、焼土混じる) 3 暗灰色土(砂多く混じる) 4 暗灰色土(砂多く、焼土、黒色灰混じる) 5 黒色土(黒色灰混じる) 6 暗灰色土(砂多く混じる) 7 灰褐色砂 8 灰色砂 9 暗灰色砂 10 暗灰色土(砂・焼土多く混じる) 11 黒色土(黒色灰多く混じる)

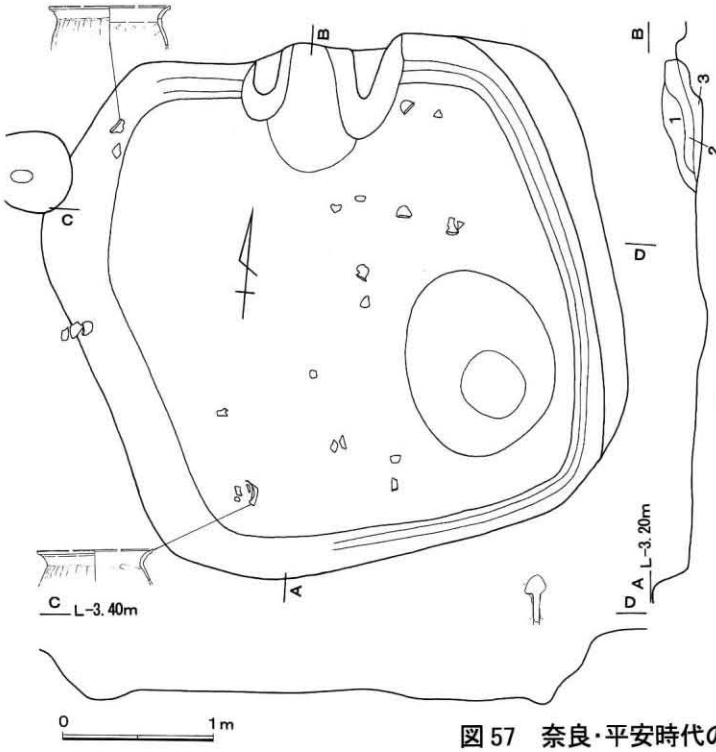
図 56　奈良・平安時代の遺構（80 号住居跡）





82号住居跡

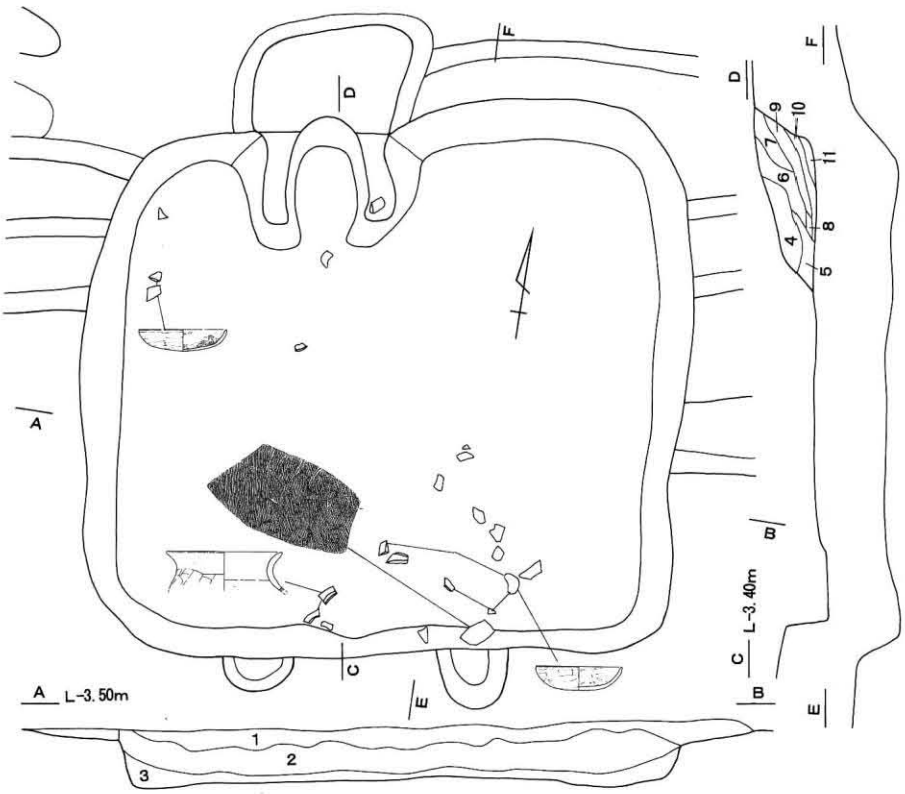
時　期　6 期
位　置　12E－56－6
規　模　3.80×4.12m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.25m
床　面　砂と黒色土を敷き詰め、平旦に整地されているが、あまり硬くない。
柱　穴　対角線上に4箇所と南部中央にあり、深さ0.20～0.30m。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、内壁と火床は焼けている。幅1.00m、奥行き0.70m。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕・甑片出土。
特記事項
層　序　1 黒灰色土（砂、褐色砂混じる）
2 黒灰褐色土（砂、褐色砂混じる）
3 黒灰色土（砂、褐色砂混じり、粘質）
4 暗灰色土（砂多く混じる）
5 黒灰色土（砂混じる）
6 黒色土（砂少し混じり、粘質）
7 暗灰色土（砂多く、焼土混じる）



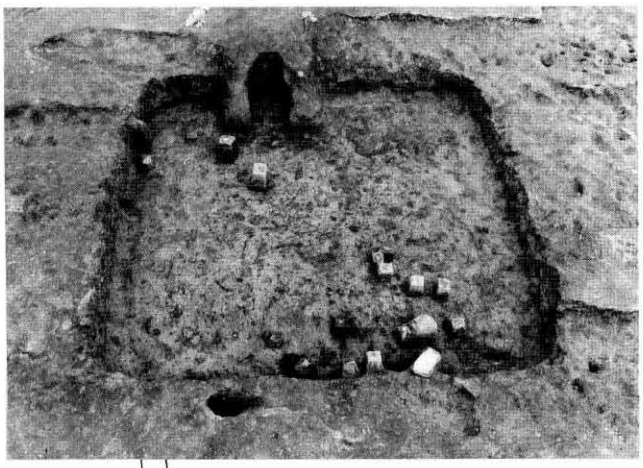
83号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－56－6
規　模　3.24×3.10m
主軸方向　N－18°－W
深　さ　0.35m
床　面　砂と黒土を敷き詰め平旦に整地され、中央部よく踏み固められ、壁際で軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は灰色砂と粘土を混ぜ、硬く、内壁と火床が焼けている。幅1.07m、奥行き0.62m。
遺　物　床面から土師器坏・甕、鉄製鏃出土。
特記事項
層　序　1 暗灰色土（砂、褐色砂多く混じる）
2 黒灰褐色土（砂、褐色砂、焼土混じる）
3 黒灰色土（砂、焼土混じる）

図 57　奈良・平安時代の遺構（82・83 号住居跡）

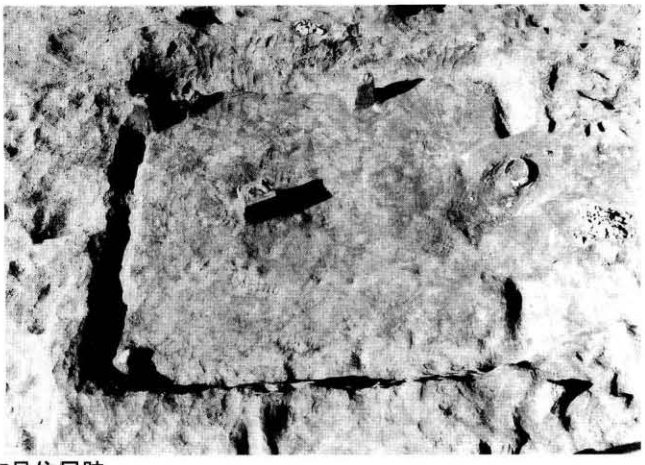


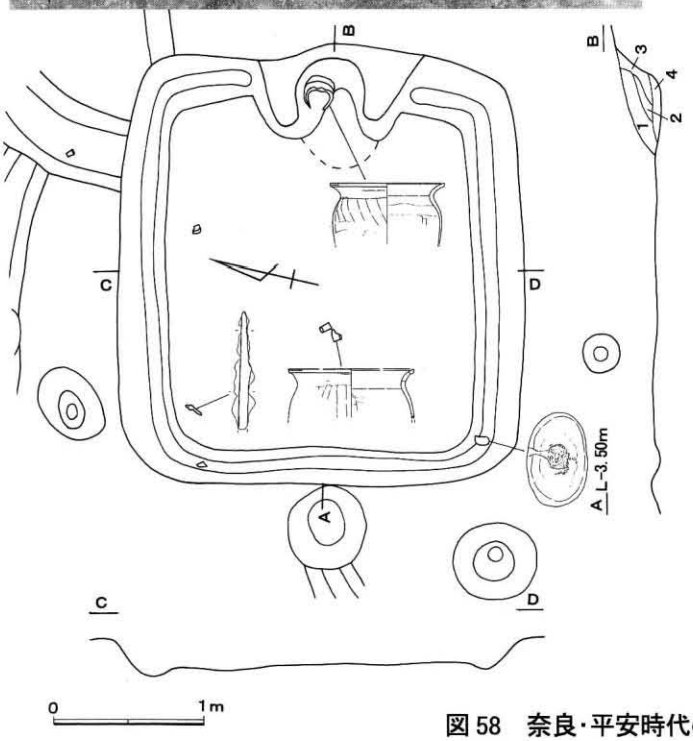
層　序　1 黒灰茶色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂、黒土、褐色砂混じる)
3 黒灰色土(砂混じり、粘質)
4 黒青灰色土(砂、褐色砂混じる)
5 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
6 暗灰色土(砂、粘土、褐色砂、焼土混じる)
7 黒青灰色土(砂、焼土混じる)
8 暗青灰色土(焼土、灰混じる)
9 暗青灰色土(焼土多く混じる)
10 赤灰色土(焼土多く混じる)
11 暗青灰色土(砂混じる)



84号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－56－2
規　模　3.27×3.52m
主軸方向　N－9°－W
深　さ　0.33m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央より少し西寄りにあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、硬く、内壁が焼けている。幅1.18m、奥行き0.90m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片出土。
特記事項

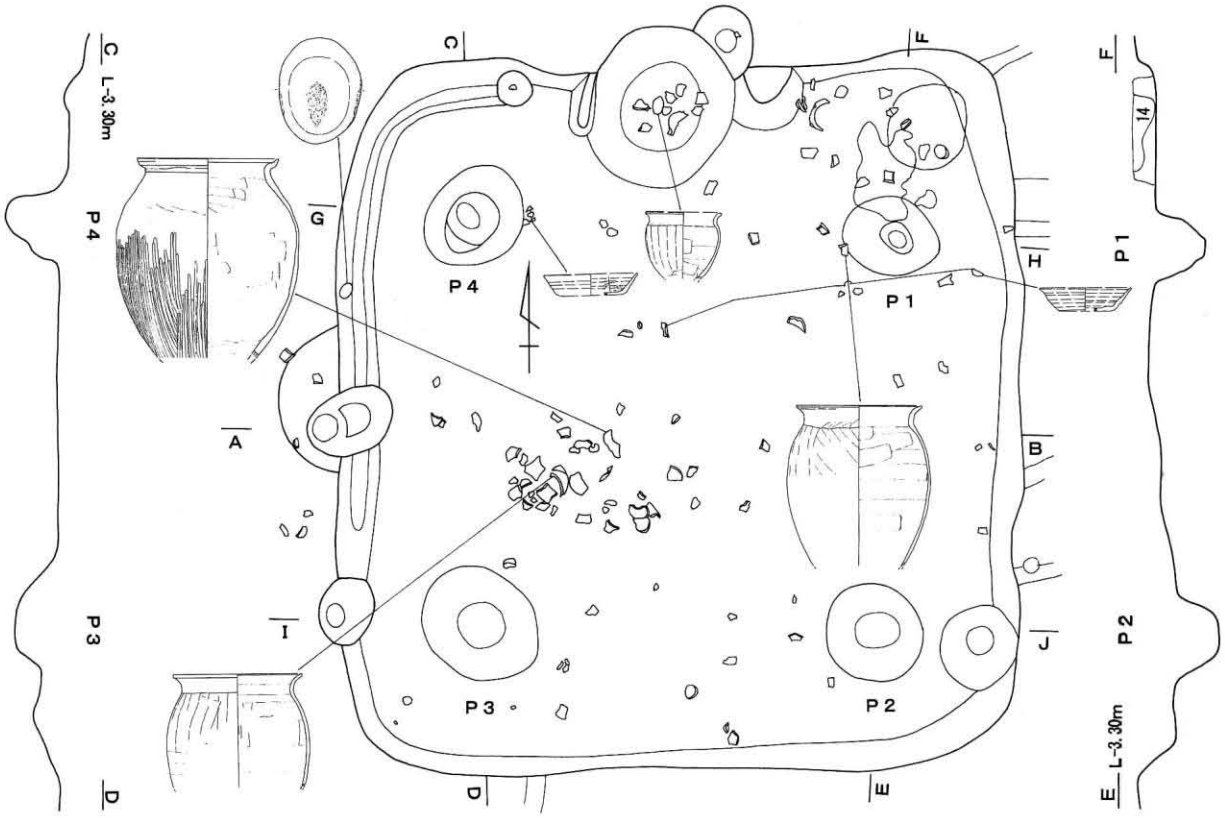


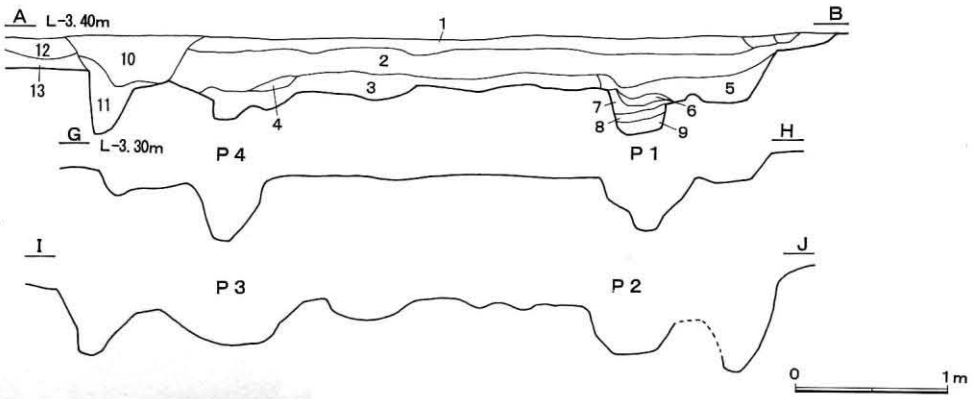


85号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－56－3
規　模　2.65×2.35m
主軸方向　N－12°－W
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、両袖が残っている。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜ、硬い。幅0.95m、奥行き0.60m。
遺　物　竈内、覆土中から土師器坏・甕、鉄製刀子出土。
特記事項
層　序　1 黒灰色土(砂、焼土混じる)
2 暗赤灰色土(焼土多く混じる)
3 黒赤灰色土(焼土多く混じる)
4 黒灰色土(砂、焼土混じる)

図 58　奈良・平安時代の遺構（84・85 号住居跡）

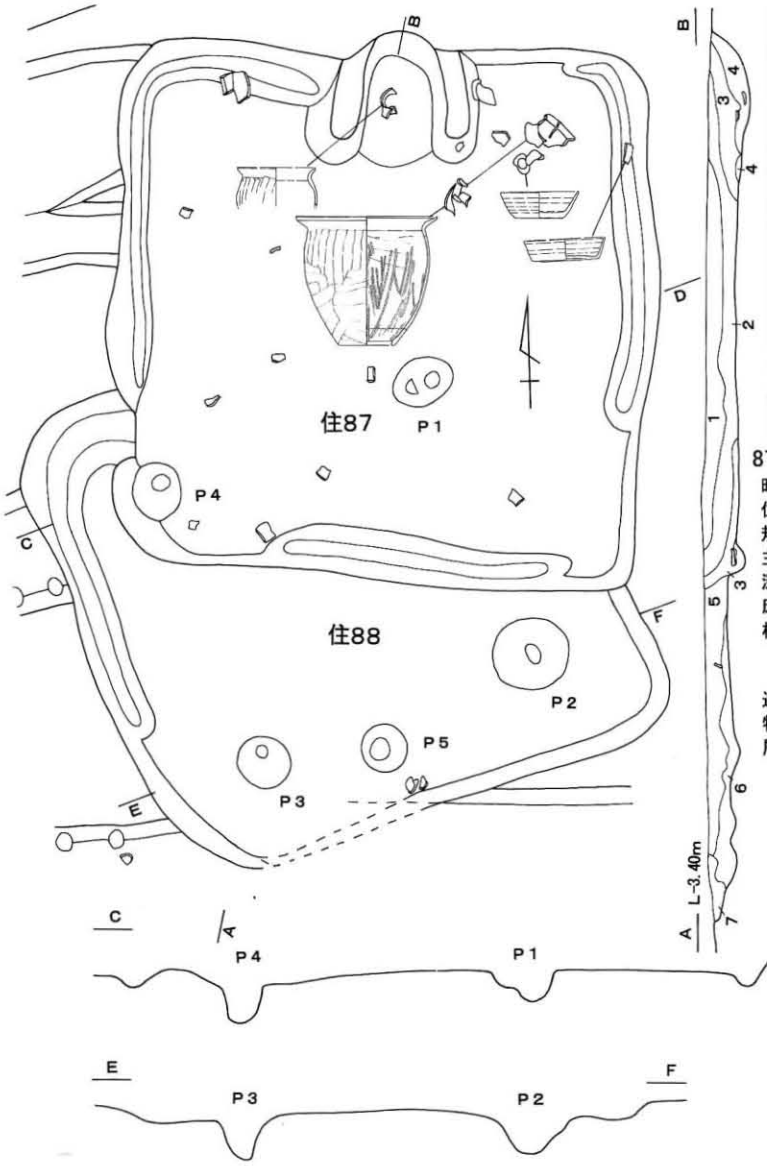




86号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－56－7
規　模	2.56×2.87m
主軸方向	N－1°－E
深　さ	0.30m
床　面	砂と黒土を敷き詰め、平旦に整地され、中央部で硬く、周囲で軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所検出、深さ0.3～0.4m。
竈	北壁中央にあるが、中央を土坑に切られる。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.55m、奥行き0.60m。
遺　物	床面、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項	北東隅に床面より浮いた炉がある。径0.5mで、火床は良く焼けている。
層　序	1 黒灰色土(砂、茶褐色砂混じる) 2 黒灰色土(砂、焼土、褐色砂混じる) 3 黒色土(砂混じり、しまる。床面貼り土) 4 灰色砂 5 黒灰色土(砂多く、褐色砂混じる) 6 黒灰色砂(黒色土混じる) 7 暗灰色砂(褐色砂混じる) 8 黒灰色砂(褐色砂混じる) 9 暗灰色砂 10 黒灰色土(砂混じる) 11 黒灰色土(砂、褐色砂混じる) 12 黒灰色土(砂、褐色砂、焼土混じる) 13 黒灰色土(砂多く、褐色砂、焼土混じる) 14 黒色土(焼土多く混じる)

図 59　奈良・平安時代の遺構（86 号住居跡）

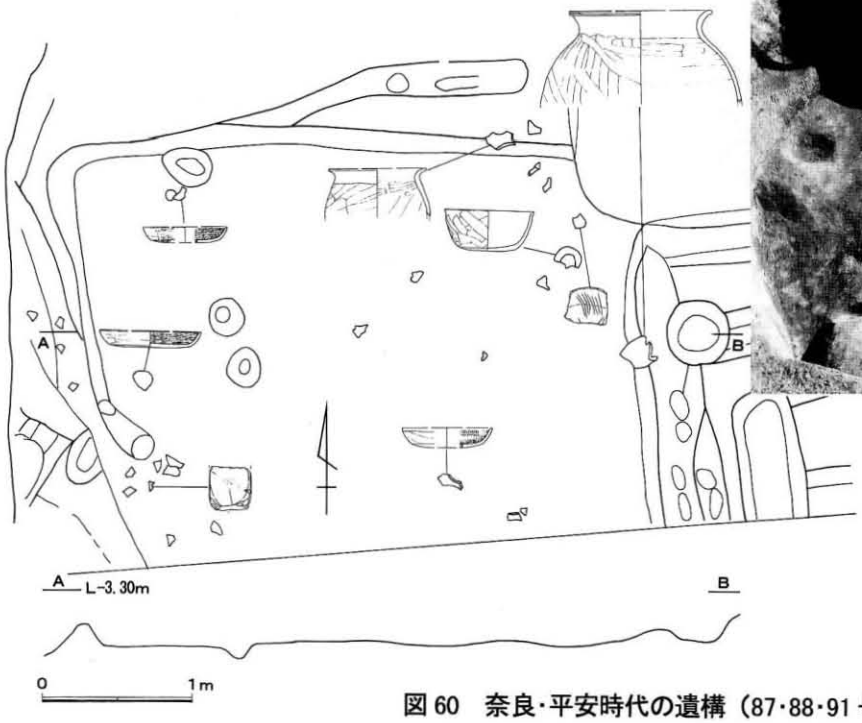


87号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－56－7
規　模　3.40×3.40m
主軸方向　N－3°－E
深　さ　0.20m
床　面　砂と黒土を敷き詰め、平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあるが、中央を土坑に切られる。構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.15m、奥行き0.90m。
遺　物　竈内、床面、覆土中から土師器坏・甕・甑出土。
特記事項
層　序
1 黒灰色土(砂、焼土混じる)
2 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
3 暗灰色砂(黒色土、焼土混じる)
4 黒色土(砂、黒色土、焼土混じる)
5 黒灰色土(砂、焼土少し混じる)
6 暗灰色土(砂多く混じる)
7 黒色土

88号住居跡

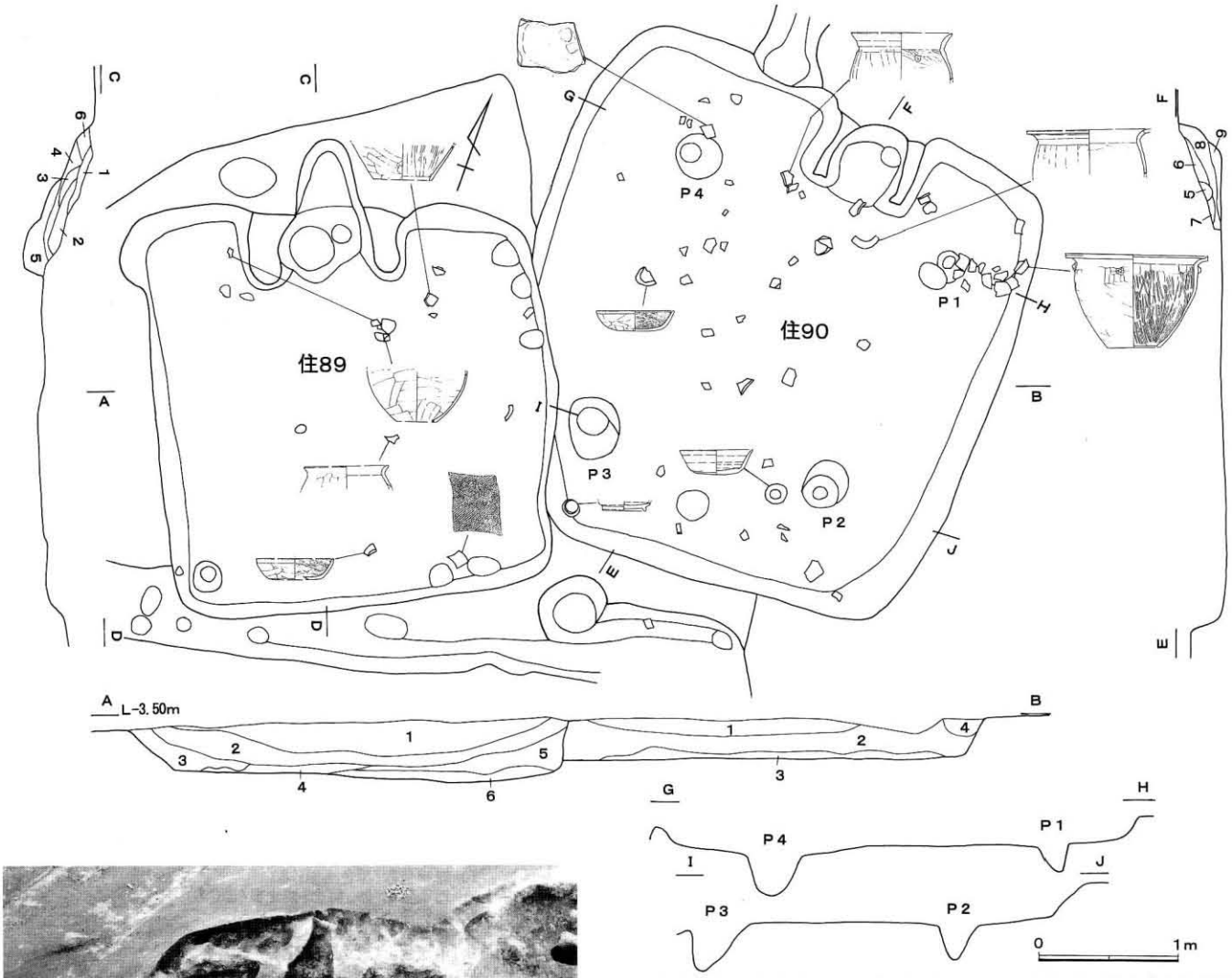
時　期　3 期
位　置　12E－56－7
規　模　3.20×3.20m
主軸方向　N－20°－W
深　さ　0.16m
床　面　砂地を平旦に整地されているが、少し凹凸がある。
柱　穴　対角線上に4箇所と南壁際中央にあり、深さ0.2～0.3m。
竈　北側を87号住居跡に切られ、消失したと考えられる。
遺　物　床面から土師器甕出土。
特記事項

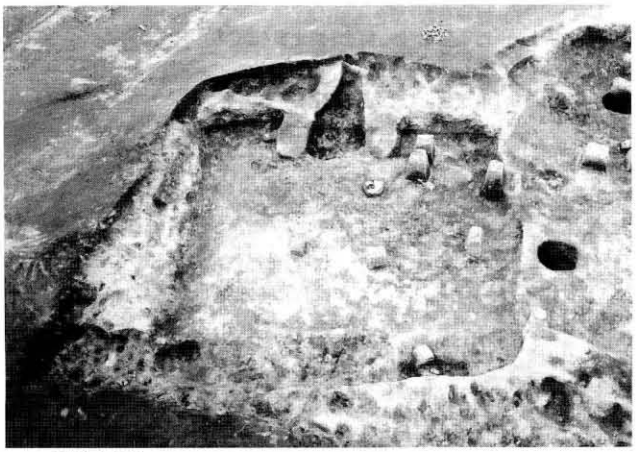


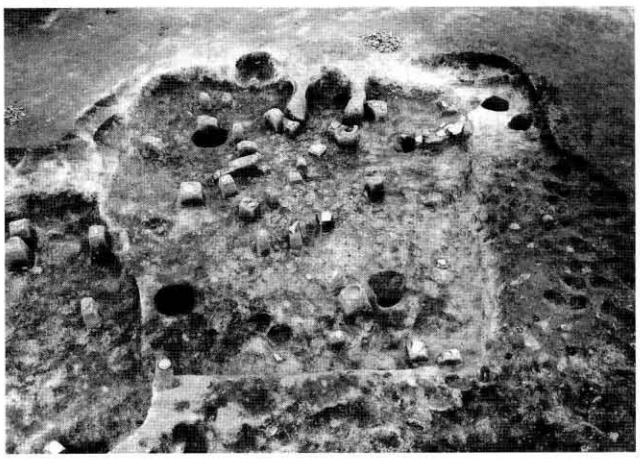
91号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－56－12
規　模　3.50×2.80m
主軸方向　N－96°－W
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平旦に整地され、全体で軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　西壁中央に痕跡がある。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕、砥石出土。
特記事項　南側が調査区域外のため、発掘できず。

図 60　奈良・平安時代の遺構（87・88・91 号住居跡）







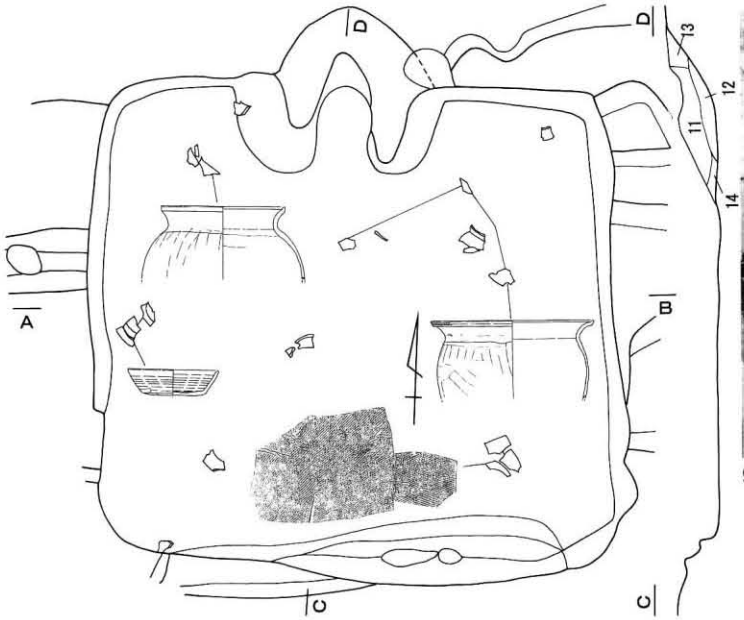
89号住居跡

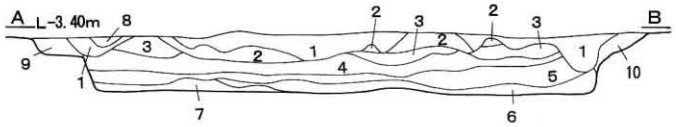
時　期　5 期
位　置　12E－56－8
規　模　2.88×2.75m
主軸方向　N－20°－W
深　さ　0.40m
床　面　砂地を平旦に整地され、全体で軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものある。火床を掘り窪めている。幅1.23m、奥行き1.04m。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片転用硯出土。
特記事項
層　序
1 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
2 暗灰色土(砂多く、褐色砂混じる)
3 黒色土(砂混じる)
4 暗灰色砂(黒色土混じる)
5 黒灰色土(砂多く、褐色砂、焼土混じる)
6 黒灰色土(砂混じり、しまる。床貼り土)
7 暗灰色土(砂、焼土混じる)
8 暗灰色土(砂、焼土、灰混じる)
9 赤色焼土(灰色砂、灰混じる)
10 灰色土(焼灰)
11 黒色土(焼土、白色砂混じる)
12 黒灰色土(砂、焼土混じる)

90号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－56－8
規　模　3.40×3.28m
主軸方向　N－3°－E
深　さ　0.32m
床　面　砂地を平旦に整地され、全体で軟弱。
柱　穴　対角線上に4箇所あり、深さ0.2～0.3m。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものある。幅0.88m、奥行き0.60m。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕・甑、須恵器甕片転用硯、砥石出土。
特記事項　南西側を89号が切る。
層　序
1 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
2 黒灰色土(砂、焼土混じる)
3 黒色土(白色砂混じり、しまる。床貼り土)
4 黒色土(畑畝溝)
5 暗灰色土(砂、粘土、焼土混じる)
6 灰色砂(粘土混じる)
7 赤色焼土(灰混じる)
8 黒灰色土(砂、焼土、灰混じる)
9 黒色土(砂混じる)

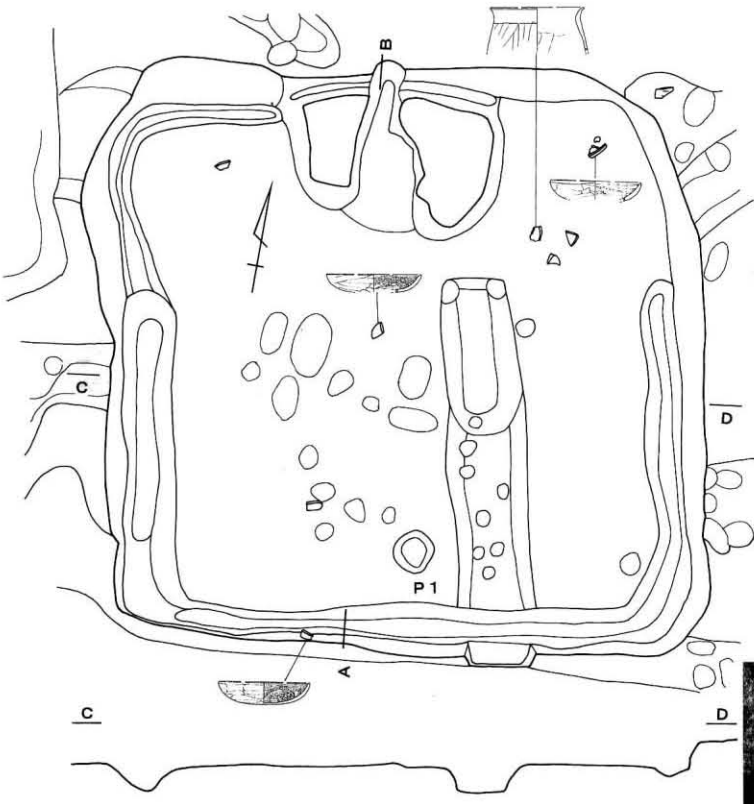
図 61　奈良・平安時代の遺構（89・90 号住居跡）

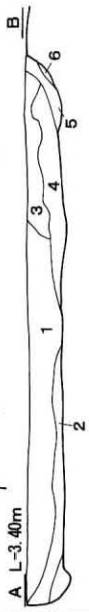




92号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－56－12・13
規　模　3.03×3.30m
主軸方向　N－7°－W
深　さ　0.37m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅1.40m、奥行き0.80m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片転用硯出土。
特記事項
層　序
1 黒色土(砂、褐色砂混じる)
2 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
3 暗灰色砂(黒色土、褐色砂混じる)
4 黒灰色砂(砂、褐色砂、焼砂混じる)
5 暗灰色土(砂多く、褐色砂混じる)
6 黒灰色土(砂、褐色土、黒色土混じる)
7 暗灰色砂(褐色砂混じる)
8 暗灰褐色土(砂混じる)
9 黒色土(暗褐色砂混じる)
10 暗褐色砂(黒色土混じる)
11 暗灰色土(砂、粘土、焼土多く混じる)
12 黒灰色土(焼土多く、灰混じる)
13 黒色土(焼土少し混じる)
14 黒灰色土(焼土、灰混じる)





層　序
1 黒灰色土(砂混じる)
2 黒色土(砂、褐色砂混じる)
3 暗灰色砂(焼土、砂、粘土混じる)
4 黒灰色土(砂、焼砂混じる)
5 黒色土(焼土混じる)
6 暗赤色焼土

93号住居跡

時　期　3 期
位　置　12E－56－13
規　模　3.62×3.70m
主軸方向　N－10°－W
深　さ　0.24m
床　面　砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴　竈の対面に1箇所検出。深さ0.1m。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅1.42m、奥行き1.13m。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項

図 62　奈良・平安時代の遺構（92・93 号住居跡）

94号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－56－8・9
規　模　3.65×2.90m
主軸方向　N－8°－W
深　さ　0.13m
床　面　砂地を平旦に整地されているが、軟弱。
柱　穴　西壁に壁柱穴1箇所検出。深さ0.25m。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.30m、奥行き0.60m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項

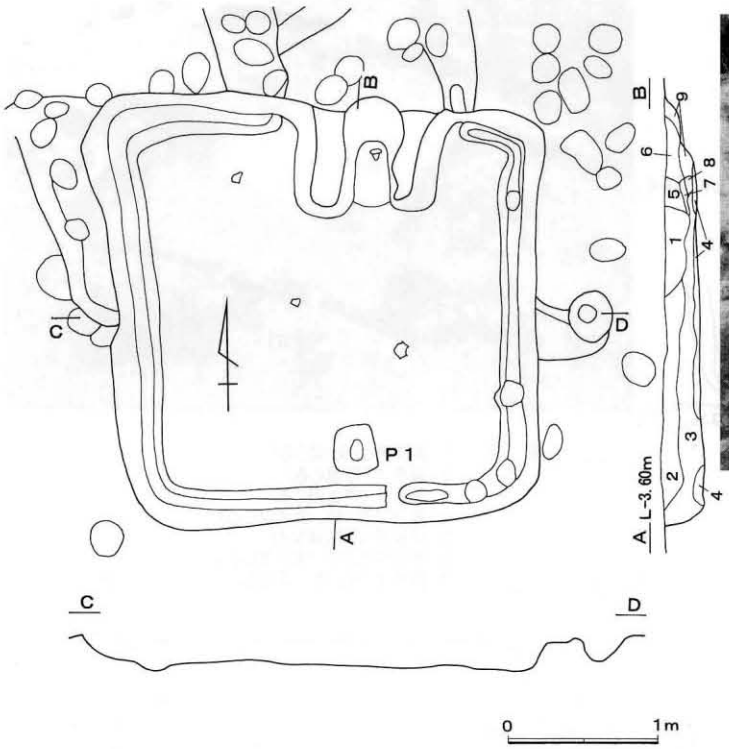
層　序
1 黒灰色土(砂混じる)
2 黒色土(砂混じる)
3 黒色土(焼土混じる)
4 黒灰色砂(砂、焼砂混じる)
5 暗灰色土(竈構築材)
6 暗灰色土(砂、焼土混じる)
7 黒色土(砂、焼土混じる)

住94
住95
P1
P2
P3
P4
P5
A L-3.70m
C L-3.60m
E L-3.70m
G L-3.60m
0　1m

95号住居跡

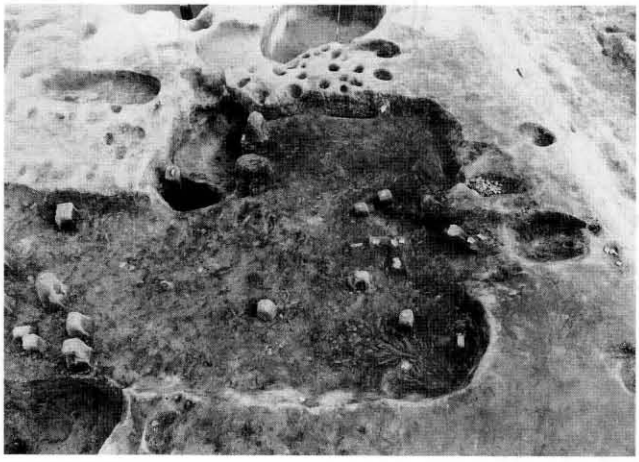
時　期　7 期
位　置　12E－56－9
規　模　4.13×3.74m
主軸方向　N－16°－W
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸がある。
柱　穴　対角線上に4箇所と、竈対面にあり、深さ0.2～0.56m。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅1.10m、奥行き0.60m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、甑、磨石出土。
特記事項
層　序
1 黒色土(砂混じる)
2 黒色土(砂、焼土混じる)
3 黒色土(砂少し混じる)
4 黒灰色土(砂多く混じる)
5 黒灰色土(砂、焼土混じる)
6 暗灰色土(砂多く混じり、しまる)
7 黒灰色土(焼土多く混じる)
8 黒灰色土(砂、焼土多く混じる)
9 黒色土(焼土混じる)

図 63　奈良・平安時代の遺構（94・95 住居跡）



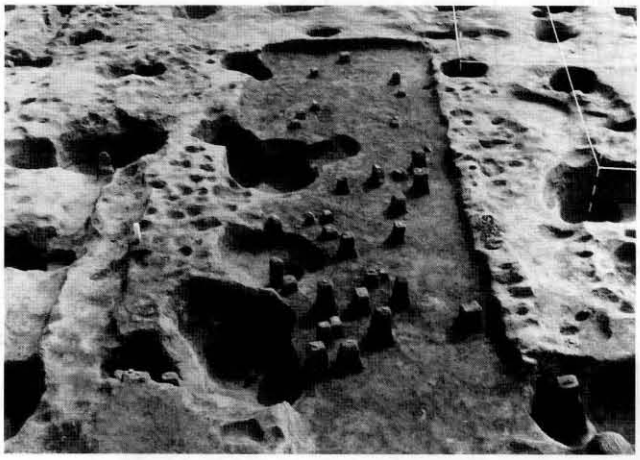
96号住居跡

時　期　3 期
位　置　12E－56－14
規　模　2.66×2.68m
主軸方向　N－1°－W
深　さ　0.20m
床　面　砂地を平旦に整地され、少し凹凸がある。
柱　穴　竈対面にあり、深さ0.2m。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅0.98m、奥行き0.78m。
遺　物　覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項
層　序　1 黒灰色土(砂、焼土混じる)
2 黒色土(砂、褐色土、焼土混じる)
3 黒色土(砂、焼土混じる)
4 黒灰色土(砂混じる)
5 灰色砂
6 暗灰色砂(黒色土、焼砂混じる)
7 赤色焼土
8 灰色砂
9 黒灰色土(砂混じる)



97号住居跡

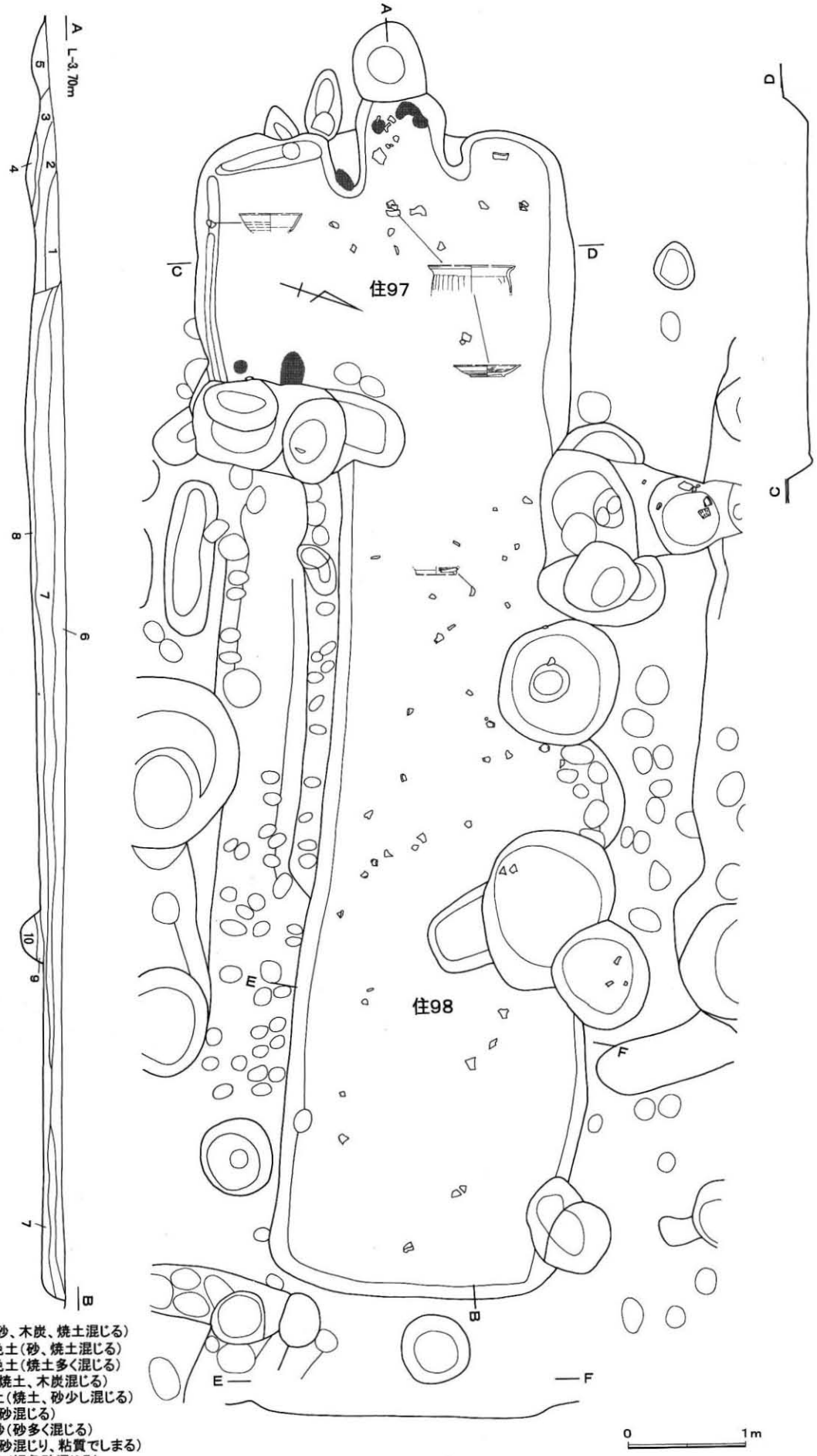
時　期　7 期
位　置　12E－46－13
規　模　3.00×3.00m
主軸方向　N－104°－W
深　さ　0.22m
床　面　砂地を平旦に整地されている。
柱　穴　検出されず。
竈　西壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅1.30m、奥行き0.70m。
遺　物　竈中、覆土中から土師器坏・皿・甕出土。
特記事項



98号住居跡

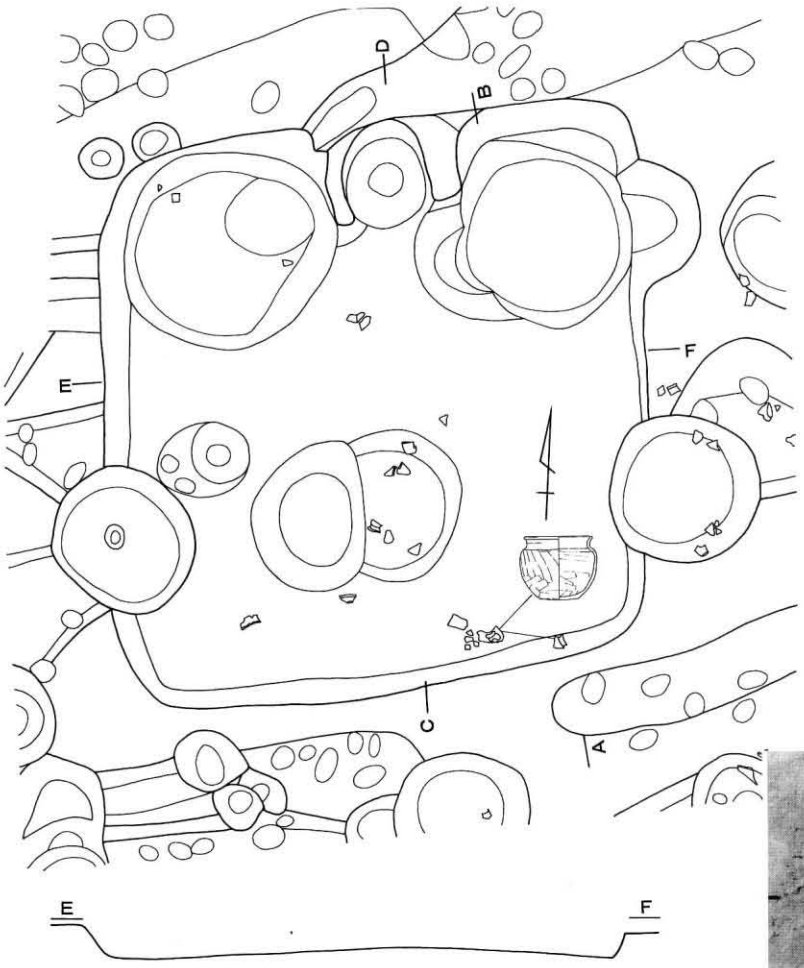
時　期　8 期
位　置　12E－46－14
規　模　8.50×2.35m
主軸方向　N－99°－W
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平旦に整地されている。
柱　穴　検出されず。
竈　検出されず。
遺　物　竈中、覆土中から土師器坏・皿、須恵器甕片出土。
特記事項　長方形で竈がないため、通常の住居跡と異なる遺構か。

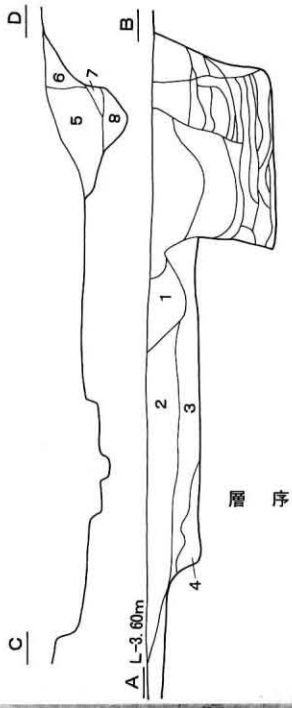
図 64　奈良・平安時代の遺構（96～98 号住居跡）



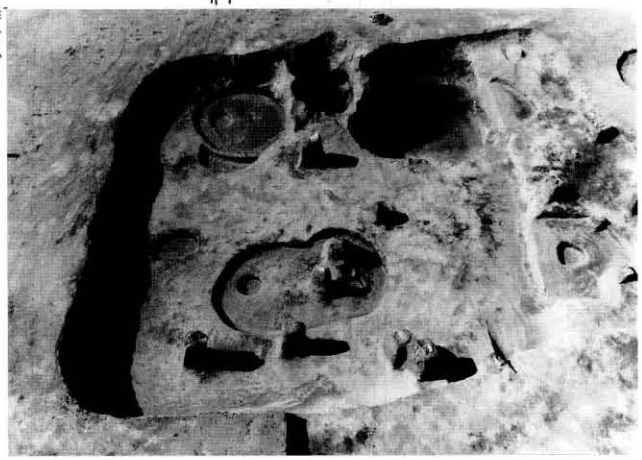
層　序　1 黒色土(砂、木炭、焼土混じる)
2 黒灰褐色土(砂、焼土混じる)
3 黒灰褐色土(焼土多く混じる)
4 黒色砂(焼土、木炭混じる)
5 黒褐色土(焼土、砂少し混じる)
6 黒色土(砂混じる)
7 黒灰色砂(砂多く混じる)
8 黒色土(砂混じり、粘質でしまる)
9 黒灰色土(褐色砂混じる)
10 黒色土(褐色砂混じる)

図 65　奈良・平安時代の遺構（97・98 号住居跡）



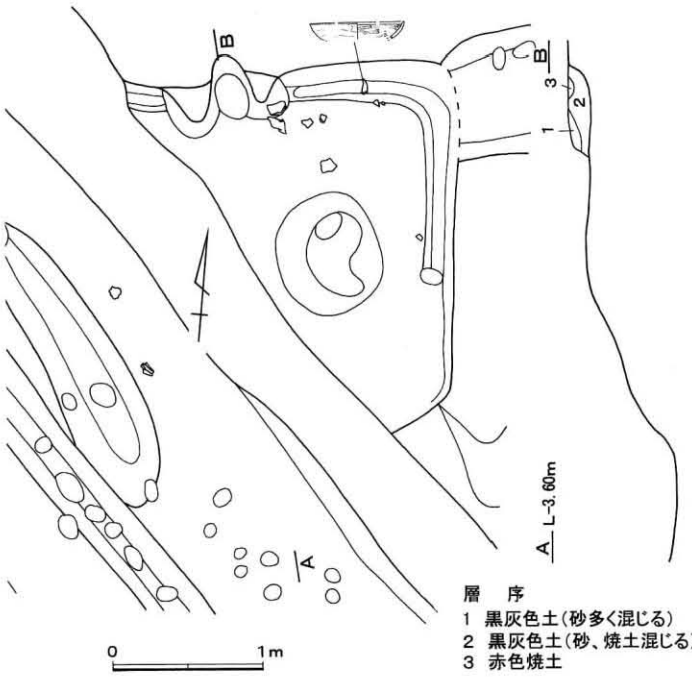


層　序
1 黒灰色土(砂混じる)
2 黒色土(砂混じる)
3 黒色土(白色砂混じる)
4 黒灰色土(白色砂混じる)
5 黒色土(焼土、砂混じる)
6 黒色土(粘土、焼砂混じる)
7 黒灰色土(焼土、砂混じる)
8 黒灰色土(砂混じる)



99号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－46－10・15
規　模	3.50×3.40m
主軸方向	N－5°－W
深　さ	0.35m
床　面	砂地を平旦に整地され、よく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅0.90m、奥行き0.60m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項	住居跡内を掘立柱建物跡柱穴に切られる。

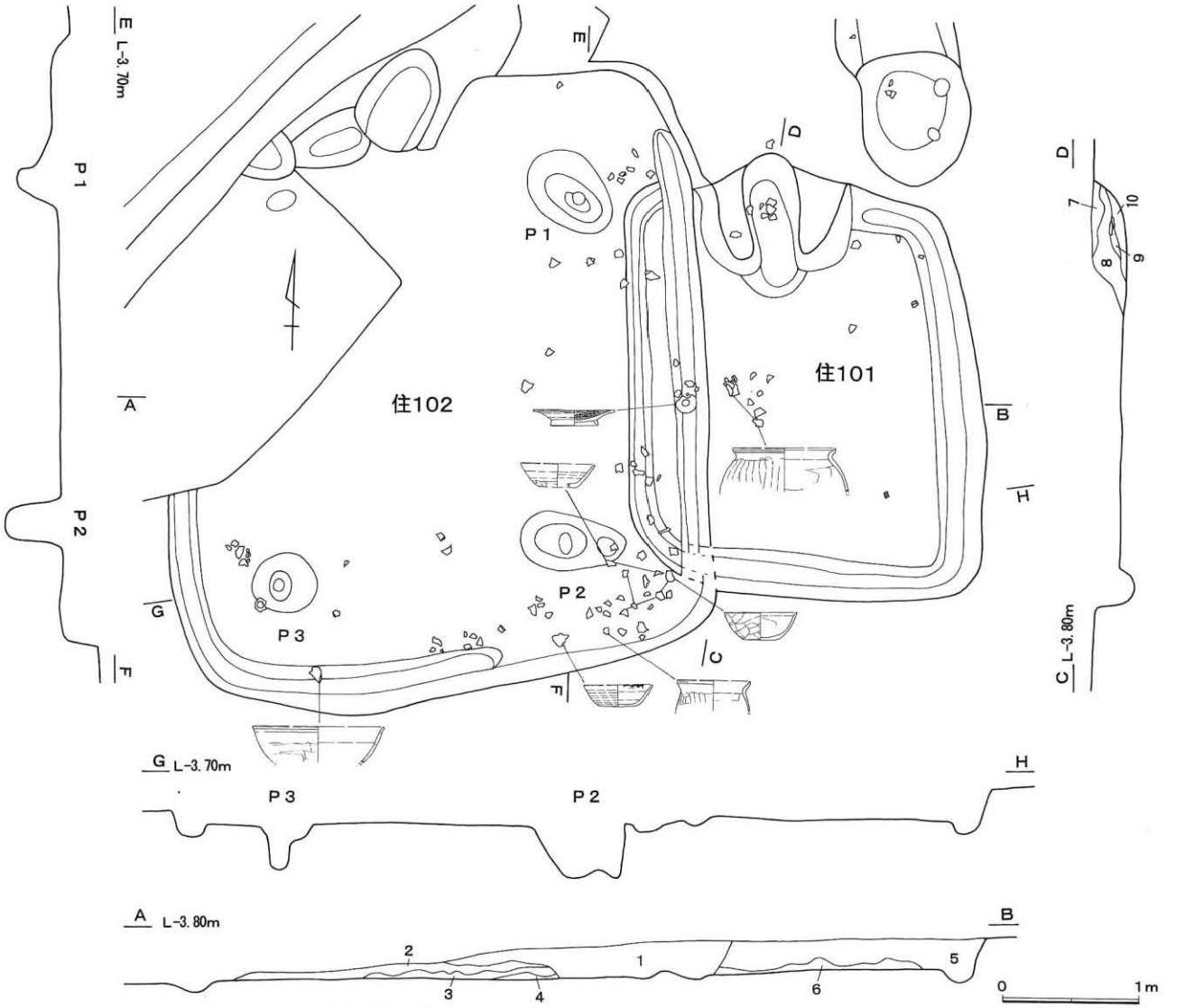


層　序
1 黒灰色土(砂多く混じる)
2 黒灰色土(砂、焼土混じる)
3 赤色焼土

100号住居跡

時　期	3 期
位　置	12E－46－25
規　模	2.30×2.15m
主軸方向	N－6°－W
深　さ	0.15m
床　面	砂地を平旦に整地され、少し凹凸がある。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅0.82m、奥行き0.43m。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項	西半分を近世溝に切られる。

図66　奈良・平安時代の遺構（99・100号住居跡）



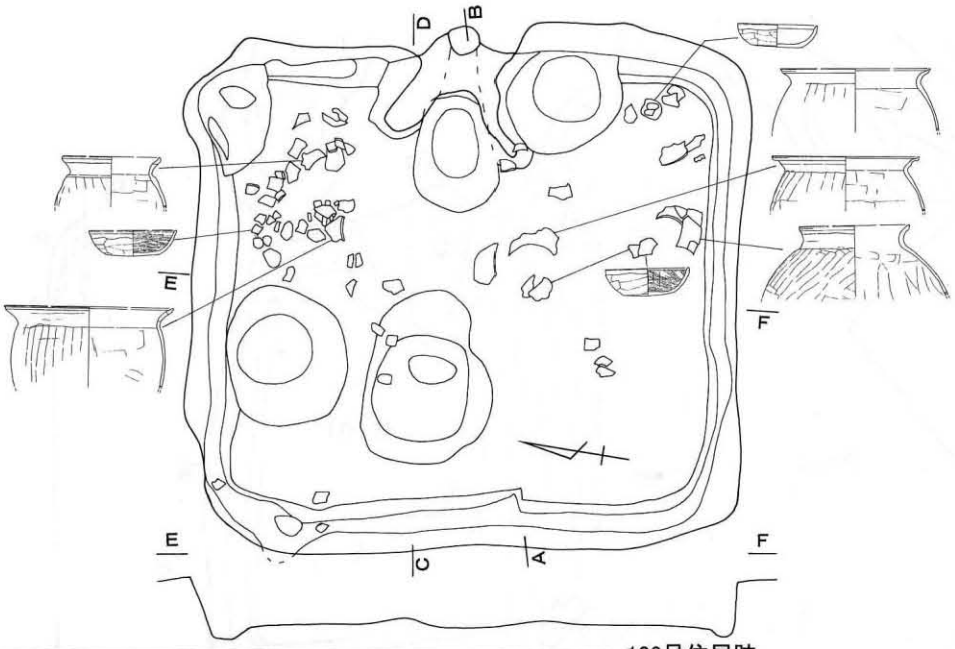
101号住居跡

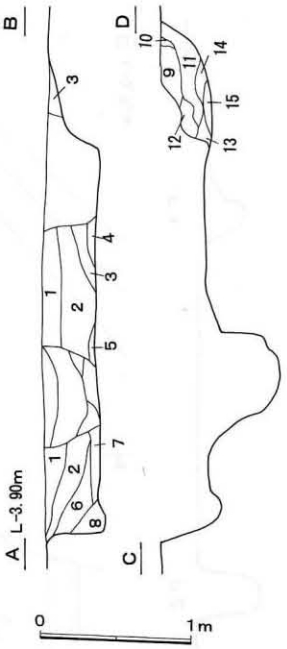
時　期	4 期
位　置	12E－46－25
規　模	2.80×2.40m
主軸方向	N－94°　－W
深　さ	0.22m
床　面	砂地を平旦に整地されている。
柱　穴	検出されず。
竈	西壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅1.10m、奥行き0.87m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項	南側に102号住居跡が重なる。
層　序	1 黒褐色土(砂、焼土混じる) 2 黒灰色土(砂斑状に多く混じる) 3 黒色土(砂多く混じる) 4 黒灰色土(砂多く混じる) 5 黒色土(砂混じる) 6 黒灰色土(砂多く混じり、しまる) 7 黒褐色砂(砂、焼土混じる) 8 黄灰色砂(黒色土、焼土混じる) 9 赤色焼土 10 黒色土(灰、焼土混じる)

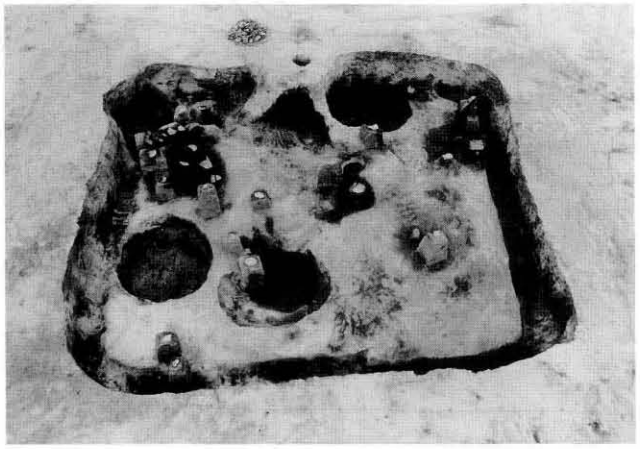
102号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－46－25
規　模	4.30×3.88m
主軸方向	N－95°　－W
深　さ	0.23m
床　面	砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり、軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所、深さ0.3～0.4m。
竈	西壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、左側が切られて消失。幅1.00m、奥行き0.75m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏・甕、紡錘車出土。
特記事項	南西隅を近世溝に切られる。

図 67　奈良・平安時代の遺構（101・102 号住居跡）

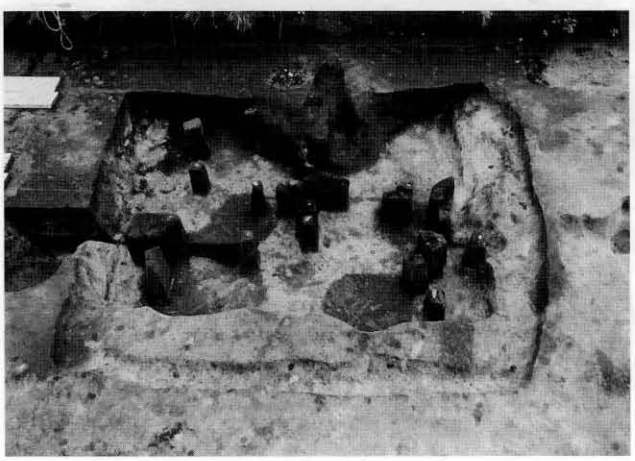






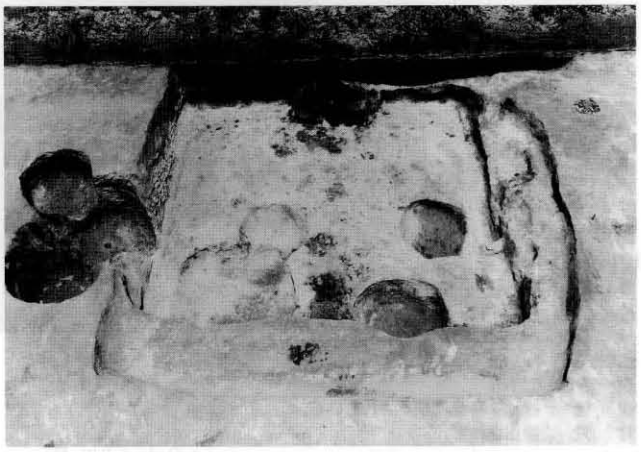
103号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－47－16
規　模　3.13×3.40m
主軸方向　N－85°－E
深　さ　0.36m
床　面　砂地を平旦に整地されている。
柱　穴　検出されず。
竈　東壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅1.10m、奥行き0.90m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、土玉出土。
特記事項　住居跡内に掘立柱建物跡柱穴が重なる。
層　序
1 黒褐色土
2 黒色土（焼土、砂混じる）
3 黒灰色土（焼土、砂混じる）
4 黒灰色土（褐色砂混じる）
5 灰色砂
6 黒灰色土（砂混じる）
7 黒灰色砂（砂多く混じる）
8 暗灰色砂
9 灰褐色土（竈天井部）
10 赤色土（竈天井部焼面）
11 暗赤褐色土（焼土、砂多く混じる）
12 灰褐色粘土（砂、焼土混じる。崩落天井部）
13 黒色土（焼土、砂混じる）
14 赤色焼土
15 黒灰色砂



104号住居跡上層

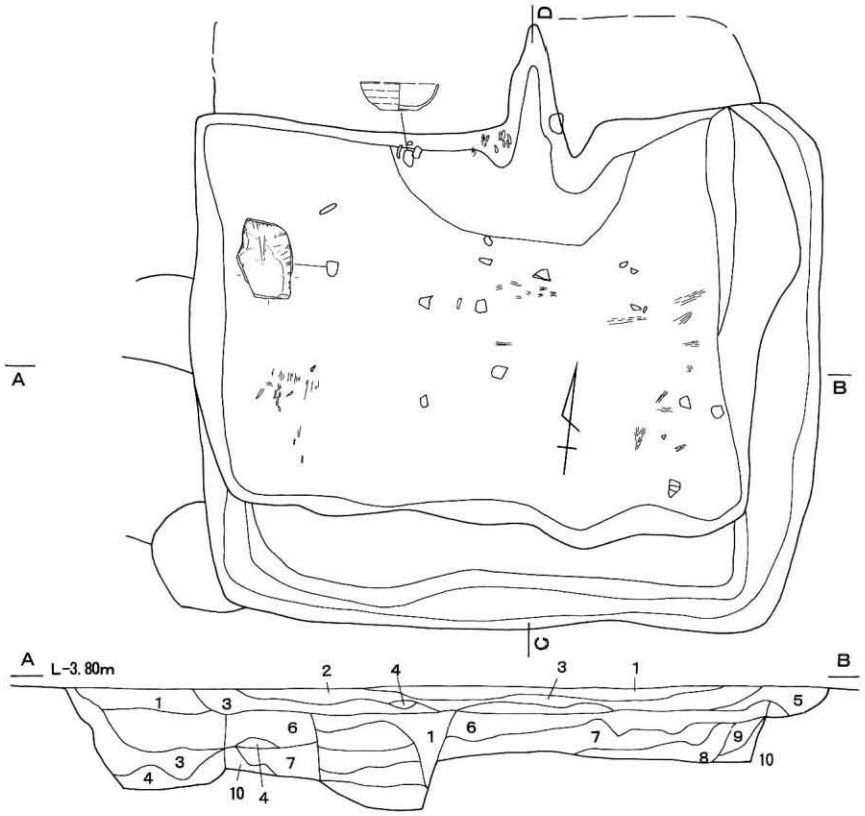
時　期　6 期
位　置　12E－47－7
規　模　3.30×3.80m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.18m
床　面　下の住居跡を黒色土で埋め、床面を平坦に整地している。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅0.90m、奥行き1.12m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項　旧住居跡を埋め立てて床面をかさ上げし、建て替えている。竈両脇の壁を焼いて、硬化し補強している。

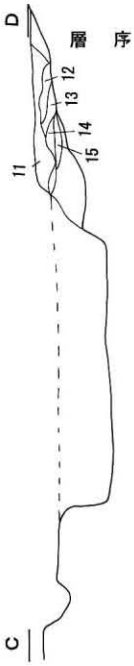


104号住居跡下層

時　期　5 期
位　置　12E－47－7
規　模　3.25×3.43m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.56m
床　面　砂地を平旦に整地し、少し凹凸があり、軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたもので、硬い。幅1.15m、奥行き0.53m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項

図 68　奈良・平安時代の遺構（103・104 号住居跡）

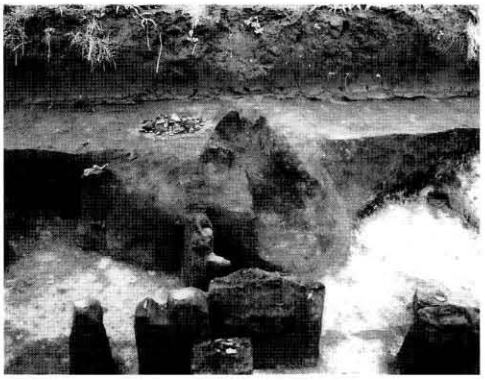


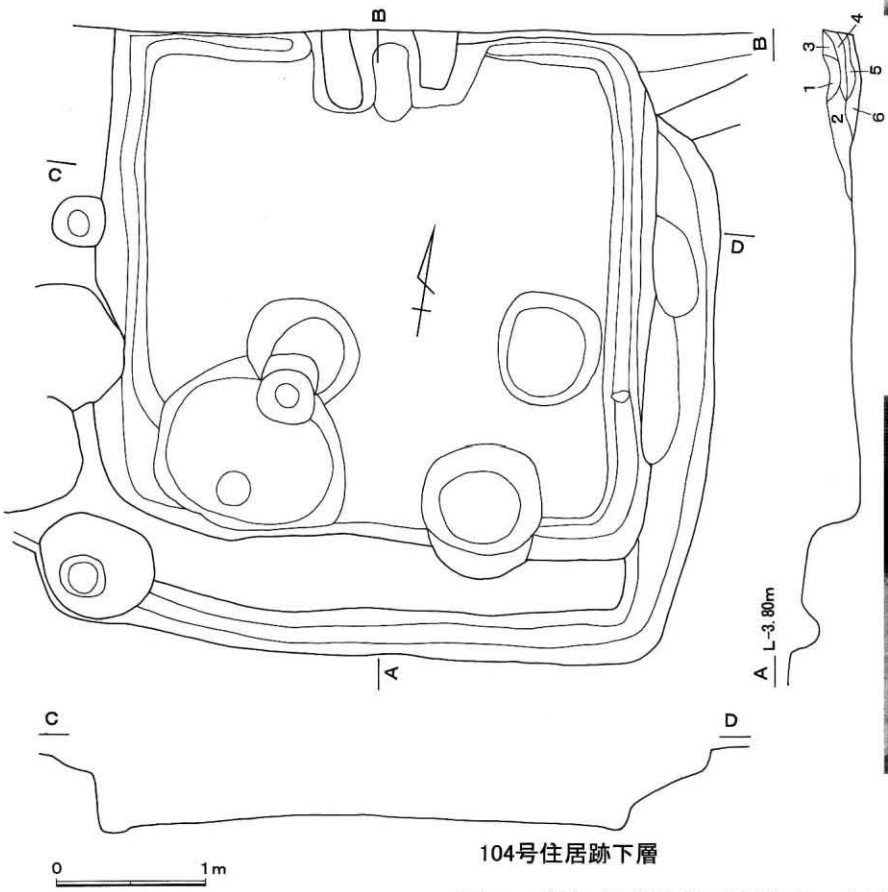


層　序

1 黒色土(焼土混じる)
2 黒色土(焼土、木炭多く混じる)
3 黒色土(焼土、木炭少し混じる)
4 白色砂(褐色砂混じる)
5 黒色土(灰色砂混じる)
6 黒色土(白色砂混じる)
7 暗灰色砂(黒色土混じる)
8 黒色土(灰色砂多く混じる)
9 灰白色砂(黒色土混じる)
10 白色砂(黒色土混じる)
11 黒灰色土(焼土、砂混じる)
12 赤灰色土(焼土多く混じる)
13 赤黒色土(焼土多く混じる)
14 黒色土(灰混じる)
15 黒赤色砂(焼土少し混じる)

104号住居跡上層



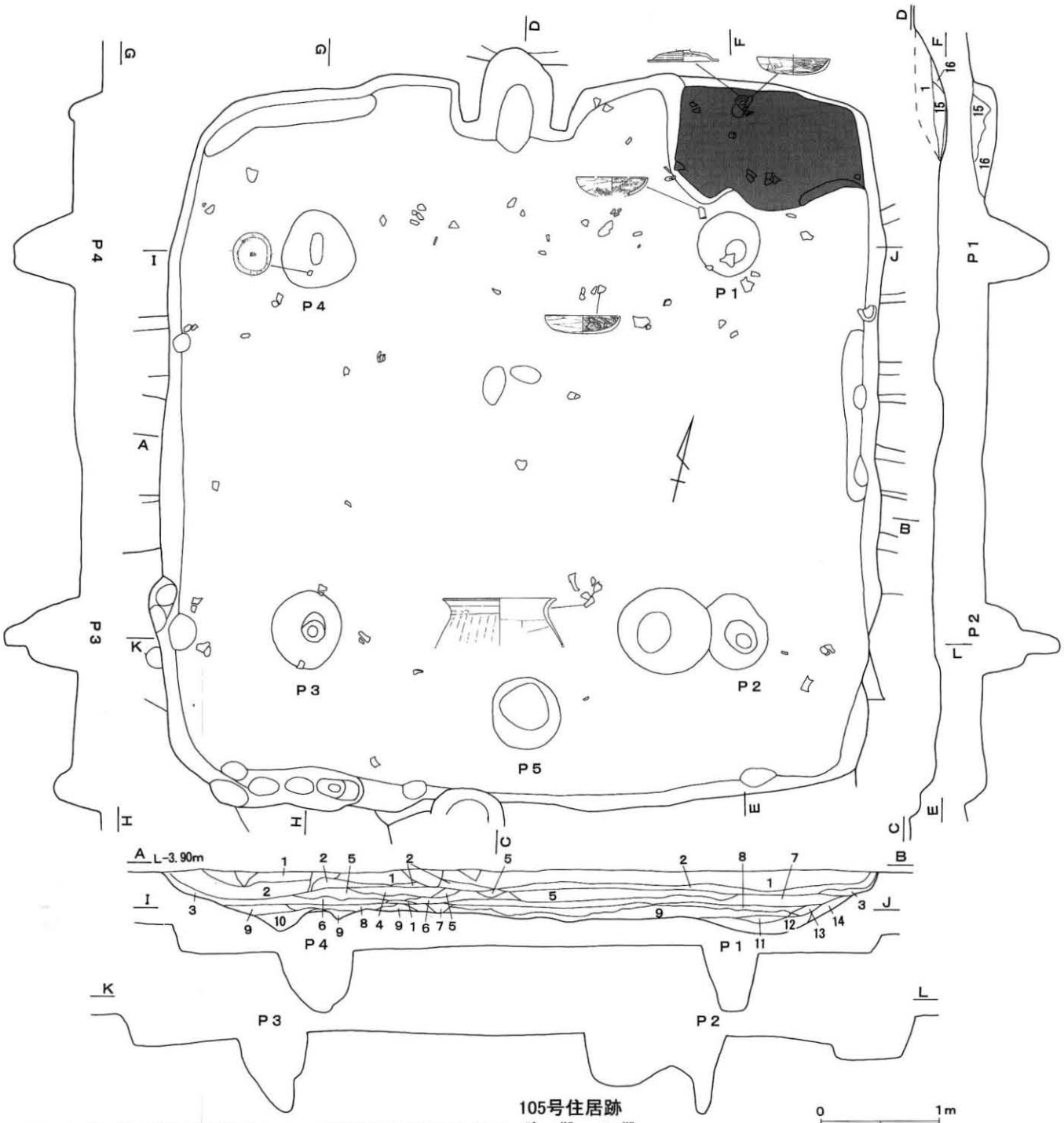


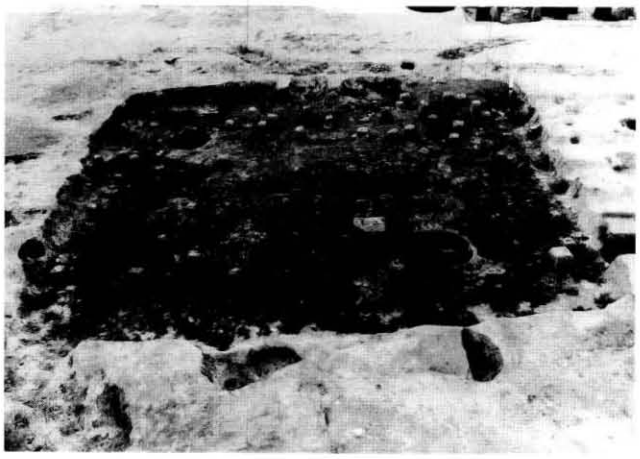
層　序

1 黒灰色土(焼土混じる)
2 暗灰色土(砂混じり、粘質でしまる)
3 黒灰色土(砂混じる)
4 黒灰色土(焼土、砂、木炭混じる)
5 黒赤色土(焼土多く混じる)
6 黒色土(焼土、砂混じる)

104号住居跡下層

図 69　奈良･平安時代の遺構（104 号住居跡）





105号住居跡

時　期	1 期
位　置	12E－47－11
規　模	5.96×5.80m
主軸方向	N－13°－W
深　さ	0.30m
床　面	砂と黒色土を敷き詰め、床面を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.5～0.7m。壁下に21箇所の壁柱穴あり、深さ0.2m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.05m、奥行き0.80m。
遺　物	床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器蓋・甕、軽石出土。
特記事項	床面掘り込みの跡が明瞭、数度の建て直し、拡張が見られる。

層　序

1 黒色土（灰褐色砂、焼土少し混じる）
2 黒色土（白色砂混じる）
3 黒灰色土（灰色砂多く混じる）
4 黒色土（上部住居跡貼床土）
5 黒色土（上部住居跡貼床土、白色砂多く混じる）
6 黒色土（焼土混じる）
7 黒灰色砂（焼土混じり、軟弱）
8 黒色土（下部住居跡貼床土、硬くしまる）
9 灰色砂（黒色土混じる）
10 暗灰色土（砂混じる）
11 黒色土（砂混じり、しまる）
12 灰色砂（黒色土混じり、しまる）
13 暗灰色砂（黒色土混じる）
14 灰色砂（黒色土少し混じる）
15 赤灰色土（焼土混じる）
16 黒色土（焼土、白色砂混じる）

図 70　奈良・平安時代の遺構（105 号住居跡）

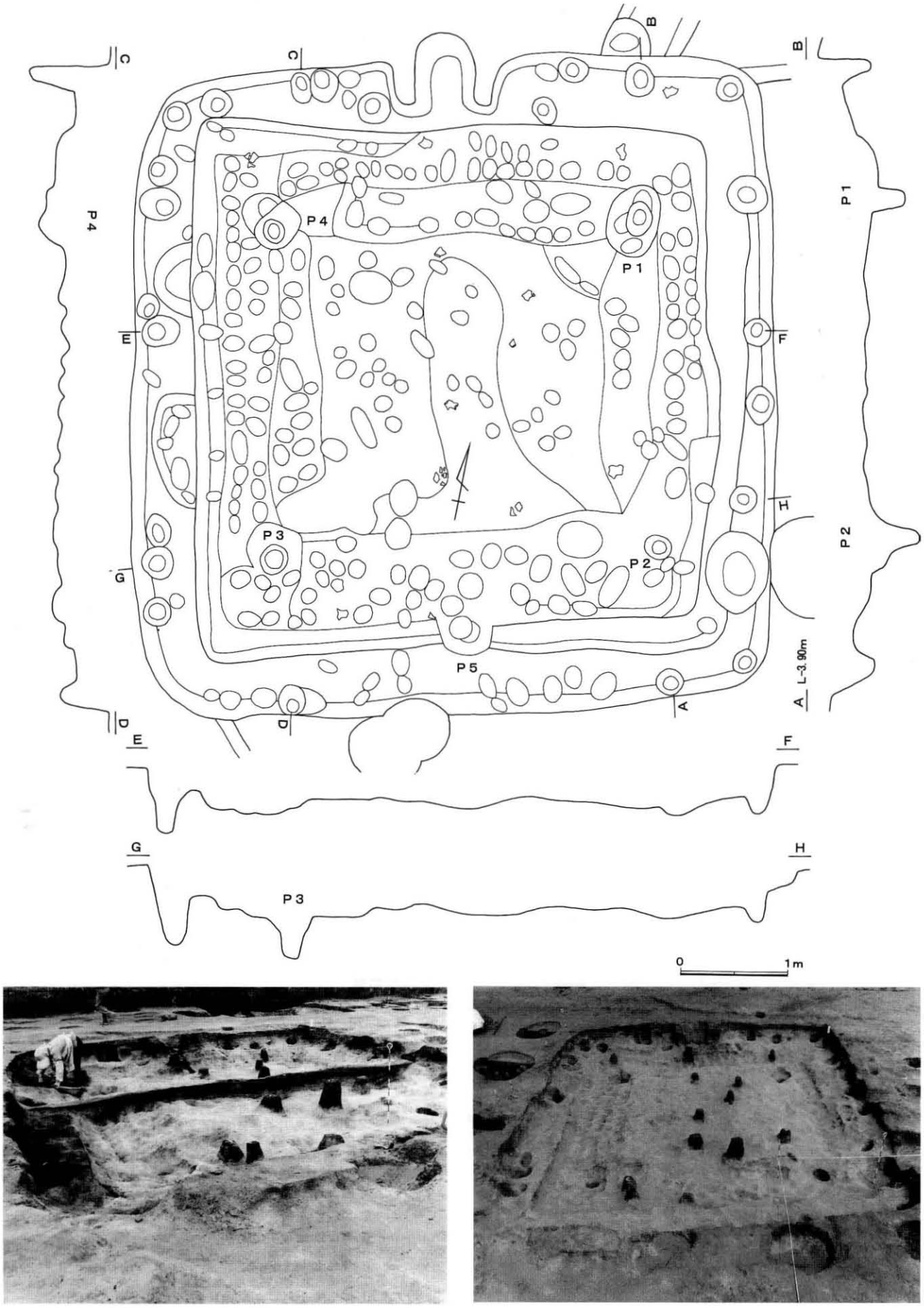
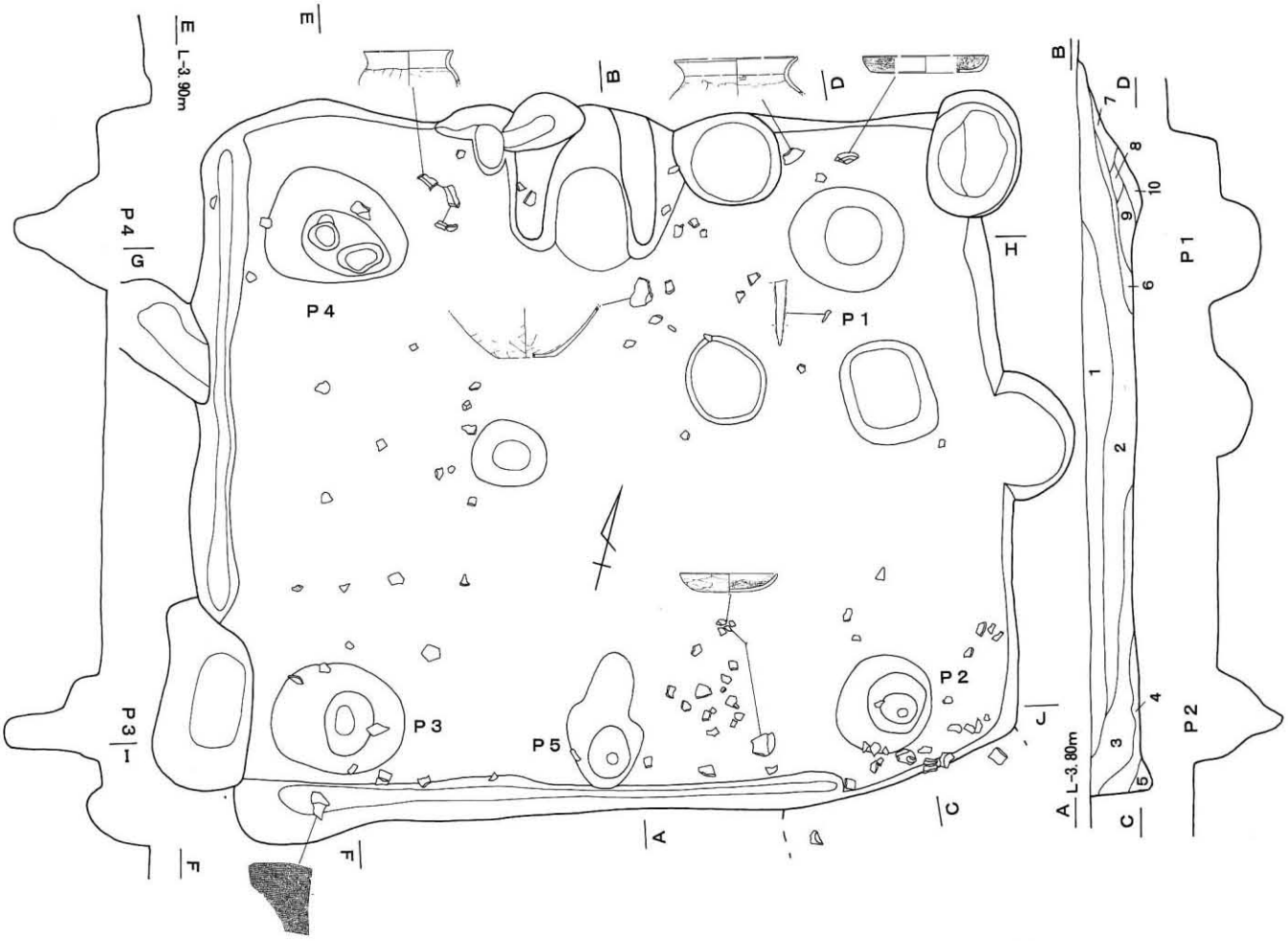


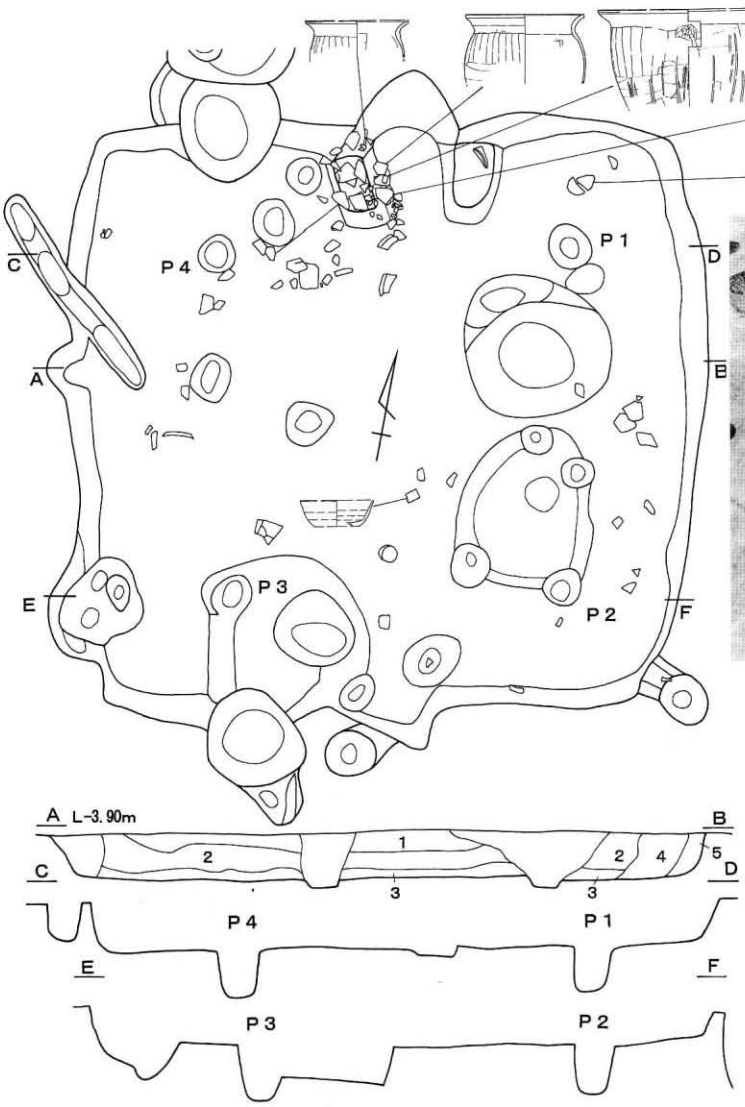
図 71　奈良・平安時代の遺構（105 号住居跡掘り方）

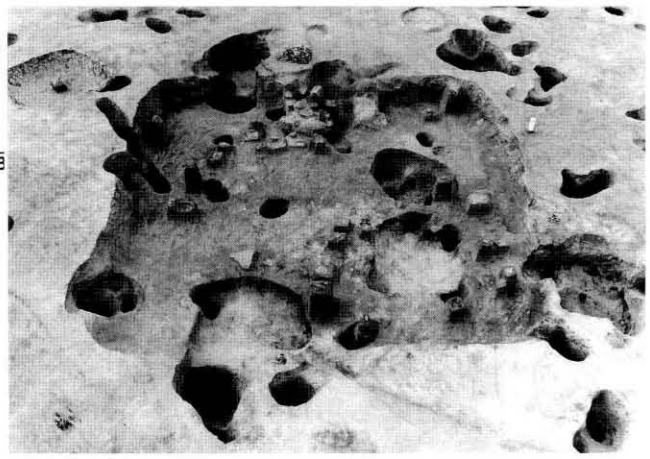


106号住居跡

時　期	2 期
位　置	12E－47－11
規　模	4.50×5.50m
主軸方向	N－13°　－W
深　さ	0.37m
床　面	砂と黒色土を敷き詰め、床面を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.4～0.7m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.25m、奥行き1.05m。
遺　物	床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片転用硯、鉄製刀子出土。
特記事項	掘立柱建物跡柱穴が重なる。
層　序	1 黒色土（焼土、砂混じる） 2 黒褐色土（焼土、砂混じる） 3 暗灰色砂 4 黒灰色土（砂多く混じる） 5 暗灰色砂（軟弱） 6 黒色土（焼土混じる） 7 赤褐色土（砂、粘土混じる） 8 暗灰褐色砂（焼土混じる） 9 黒色土（焼土、砂混じる） 10 暗灰色土（焼土、砂混じる）

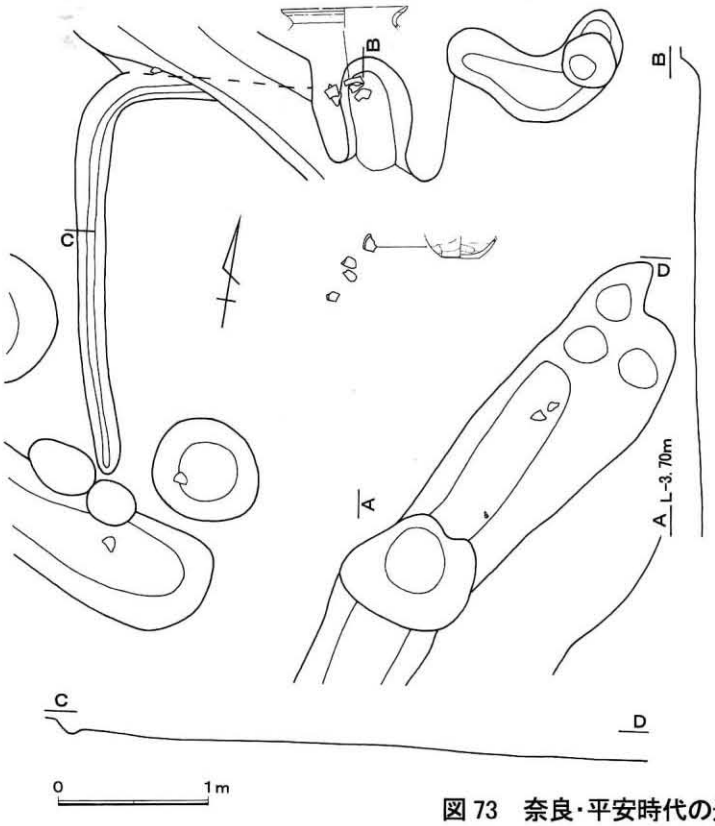
図 72　奈良・平安時代の遺構（106 号住居跡）

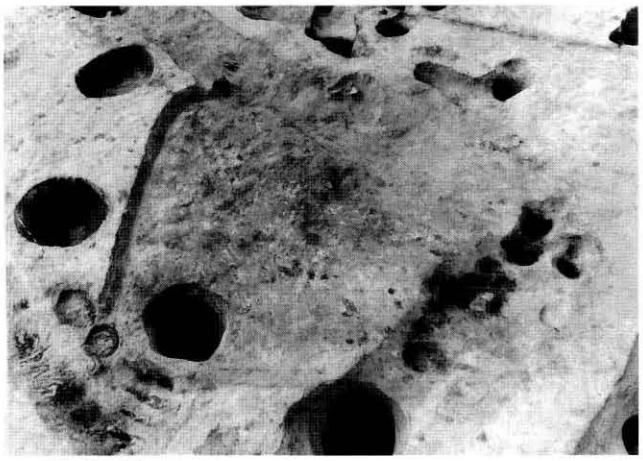




107号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－47－13
規　模	3.70×3.98m
主軸方向	N－9°－W
深　さ	0.32m
床　面	砂と黒色土を敷き詰め、床面を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.3～0.35m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.10m、奥行き1.03m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片、砥石出土。
特記事項	中世掘立柱建物跡柱穴が重なる。
層　序	1 黒色土（焼土、砂混じる） 2 黒色土（焼土、砂、木炭混じる） 3 暗灰色砂（黒色土混じる） 4 黒色土（砂混じる） 5 暗灰色砂（黒褐色土混じる）

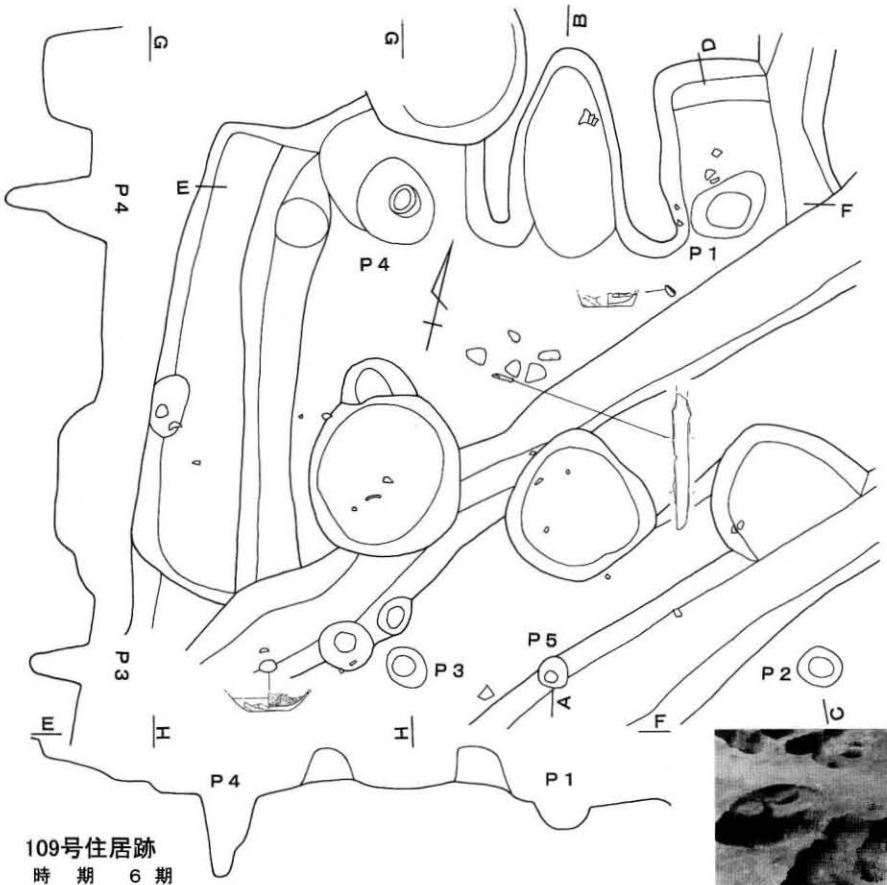


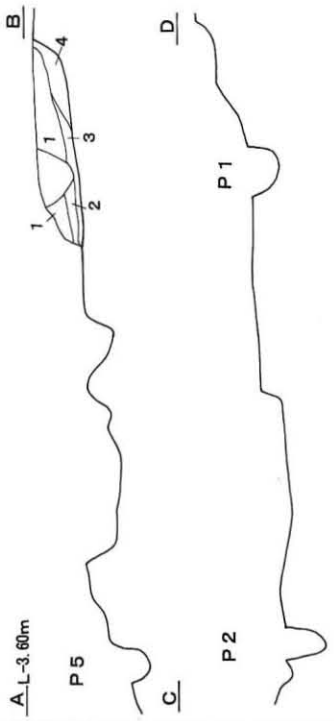


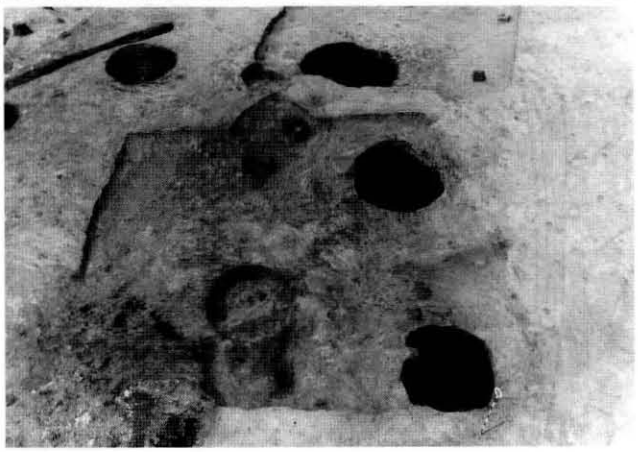
108号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－47－13
規　模	3.10×3.65m
主軸方向	N－2°－W
深　さ	0.12m
床　面	砂と黒色土を敷き詰め、床面を平坦に整地している。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅0.92m、奥行き0.85m。
遺　物	竈中、床面から土師器坏・甕片出土。
特記事項	掘立柱建物跡柱穴が重なる。

図 73　奈良・平安時代の遺構（107・108 号住居跡）

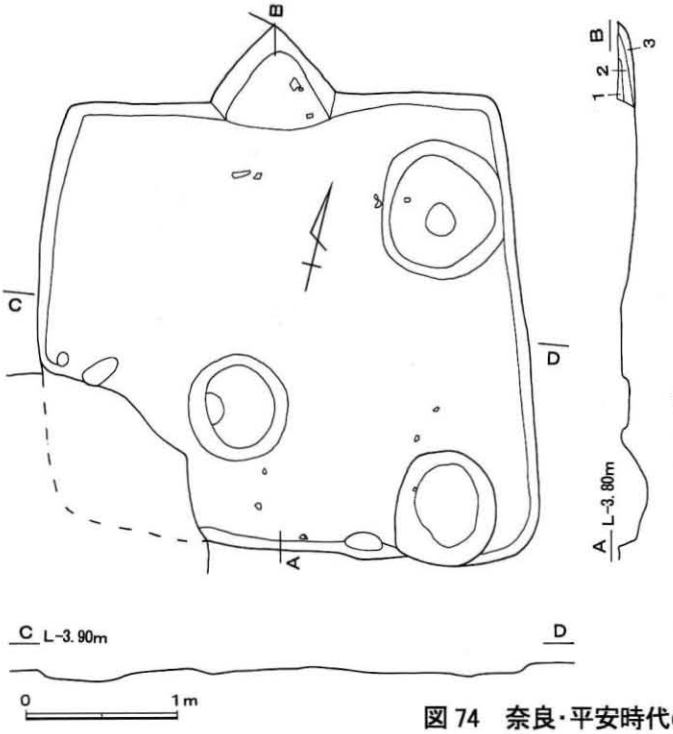






109号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－47－9・10
規　模	4.00×3.50m
主軸方向	N－10°－W
深　さ	0.25m
床　面	砂地を平坦に整地しているが、凹凸がある。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.2～0.60m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.42m、奥行き1.40m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏、鉄製刀子出土。
特記事項	掘立柱建物跡柱穴、南半分を近世溝に切られる。
層　序	1 暗褐色土(近世の掘り込み) 2 暗赤褐色土(焼土多く混じる) 3 黒褐色土(焼土混じる) 4 黒色土(焼土混じる)

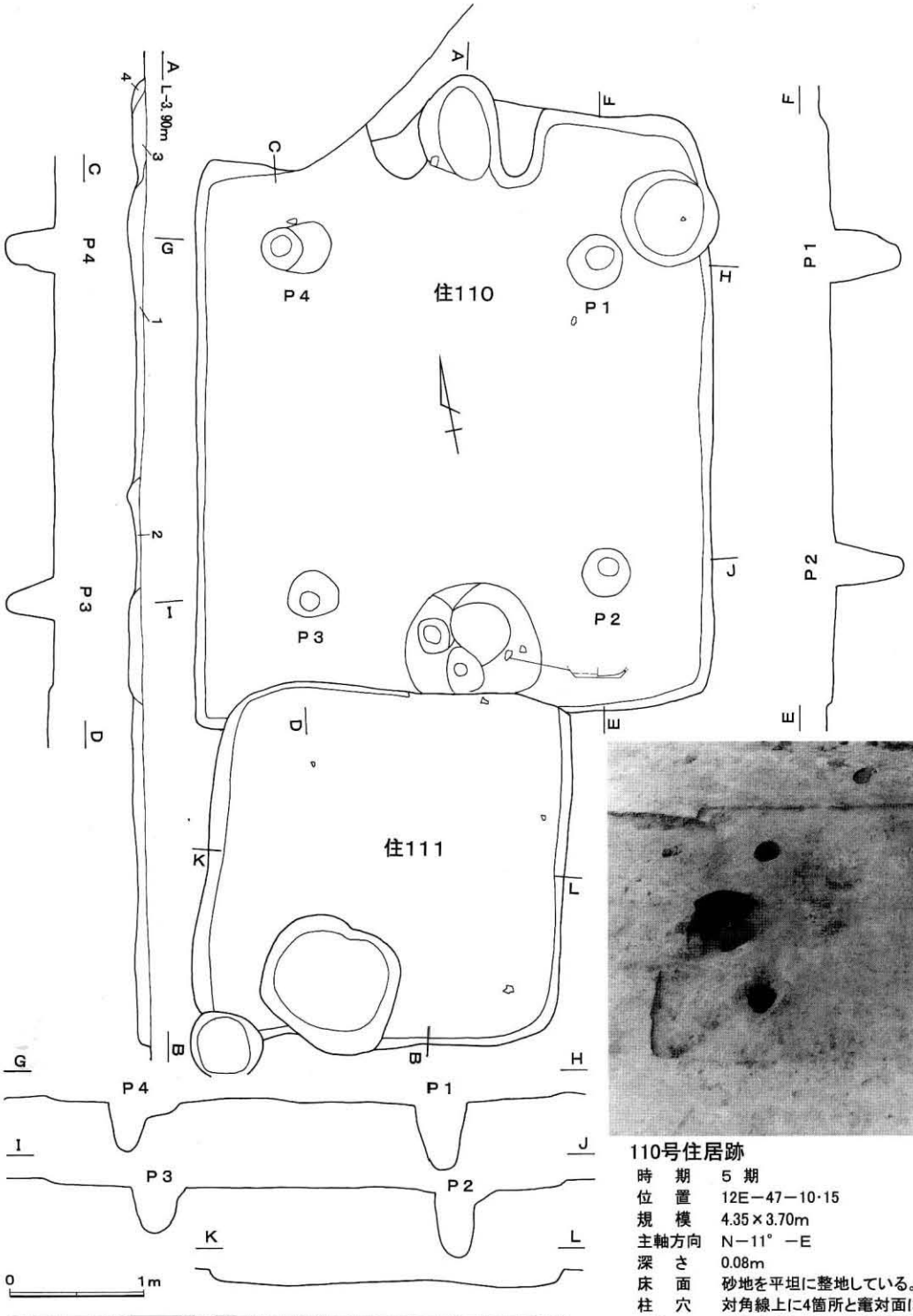


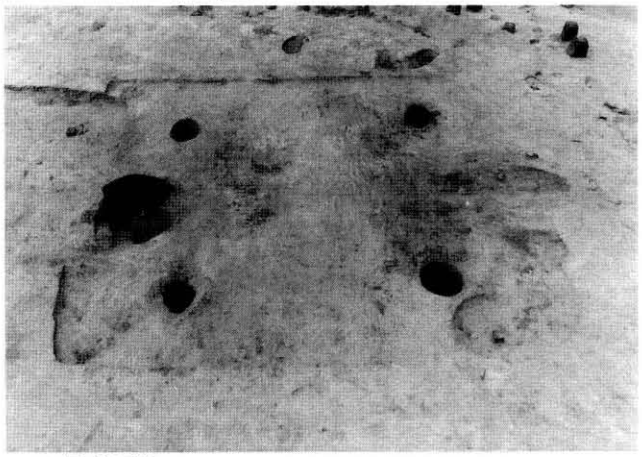
112号住居跡

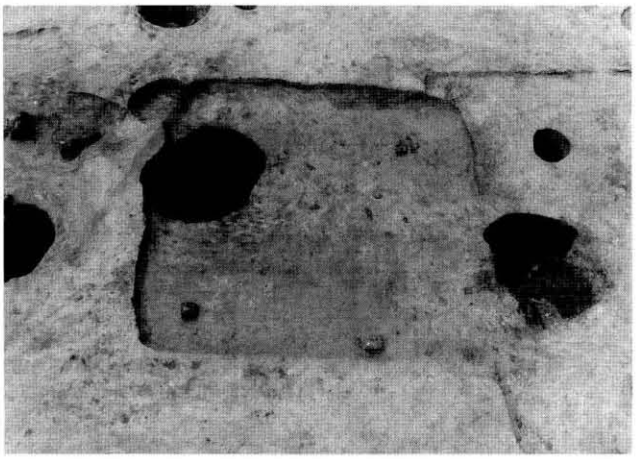
時　期	5 期
位　置	12E－47－15
規　模	2.90×3.10m
主軸方向	N－3°－E
深　さ	0.13m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央に痕跡がある。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項	掘立柱建物跡柱穴が重なる。

層　序
1 暗褐色土(砂、焼土混じる)
2 黒褐色土(焼土、砂混じる)
3 黒褐色土(砂混じる)

図 74　奈良・平安時代の遺構（109・112 号住居跡）







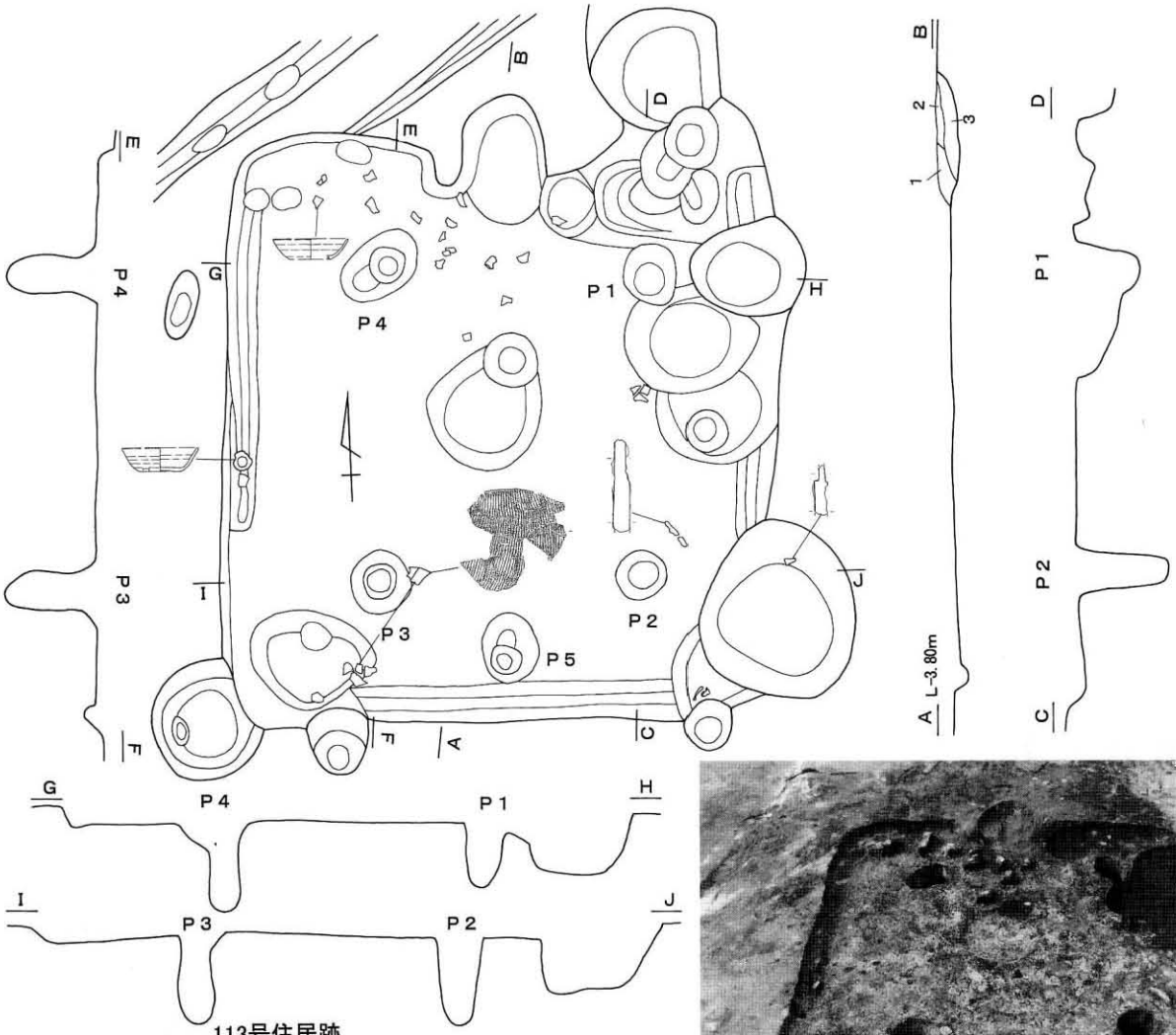
110号住居跡

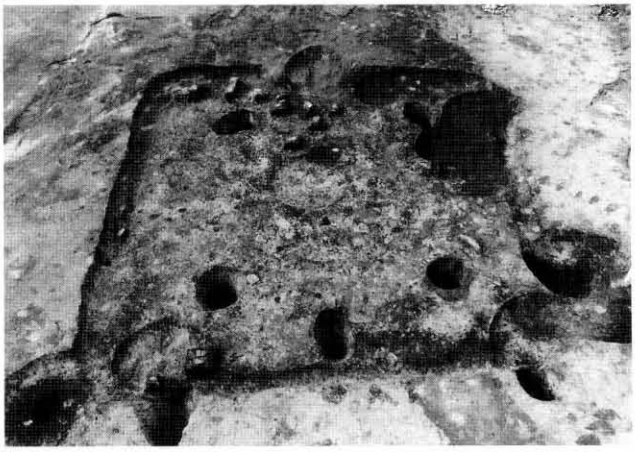
時　期	5 期
位　置	12E－47－10・15
規　模	4.35×3.70m
主軸方向	N－11°－E
深　さ	0.08m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.4～0.53m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.32m、奥行き0.85m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏片出土。
特記事項	
層　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒色土(褐色砂混じる) 3 黒色砂(焼土、砂混じる) 4 黒灰色土(砂混じる)

111号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－47－15
規　模	2.56×2.50m
主軸方向	N－16°－E
深　さ	0.12m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。
遺　物	覆土中から土師器甕片出土。
特記事項	掘立柱建物跡柱穴が重なる。

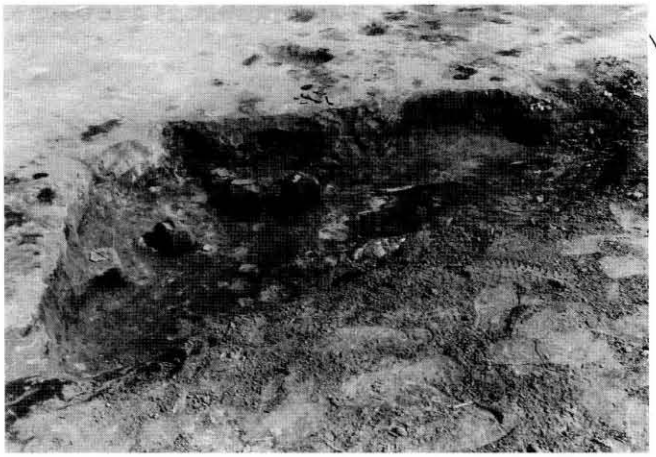
図 75　奈良・平安時代の遺構（110・111 号住居跡）

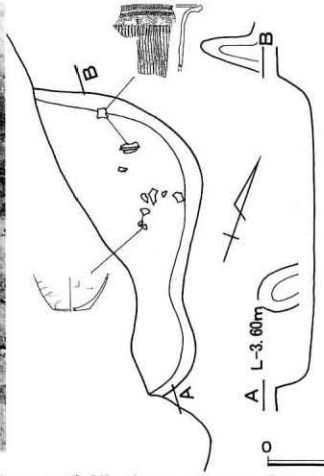




113号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－47－14
規　模	3.80×3.55m
主軸方向	N－4°－E
深　さ	0.13m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.4～0.6m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.10m、奥行き0.70m。
遺　物	床面上から土師器坏・甕片、鉄製刀子出土。
特記事項	掘立柱建物跡柱穴が重なる。
層　序	1 黒色土（焼土混じる） 2 黒褐色土（焼土混じる） 3 黒褐色土（焼土、砂、木炭粒混じる）

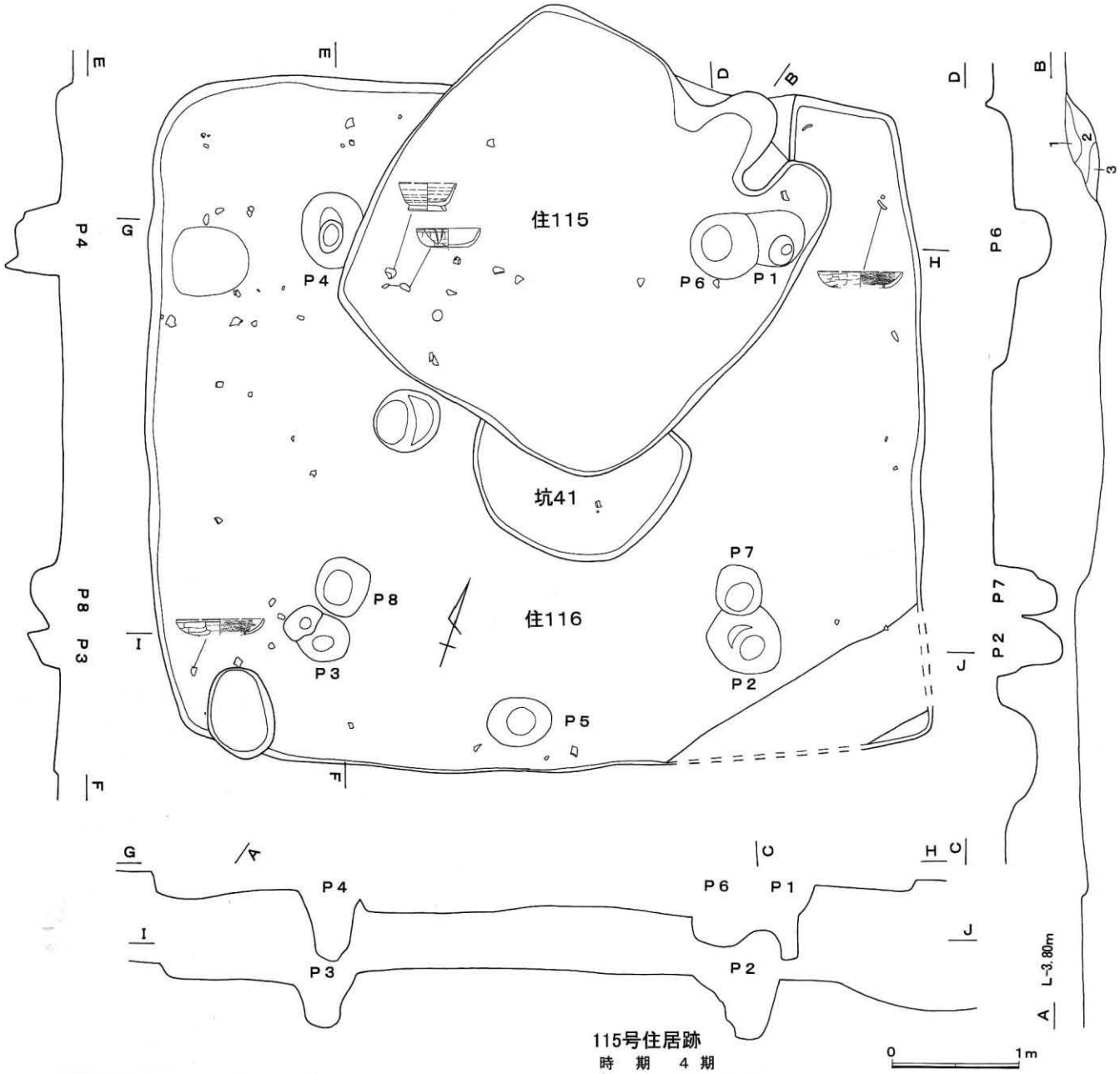


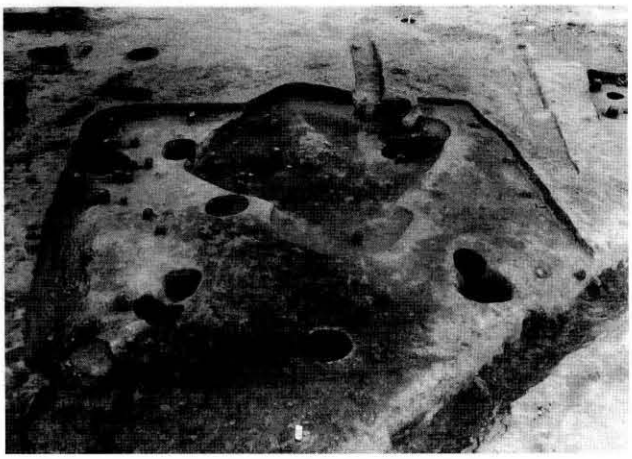


114号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－57－1
規　模	2.00×－m
主軸方向	N－17°－W
深　さ	0.23m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕片出土。
特記事項	西側の大部分を近世溝に切られる。

図 76　奈良・平安時代の遺構（113・114 号住居跡）





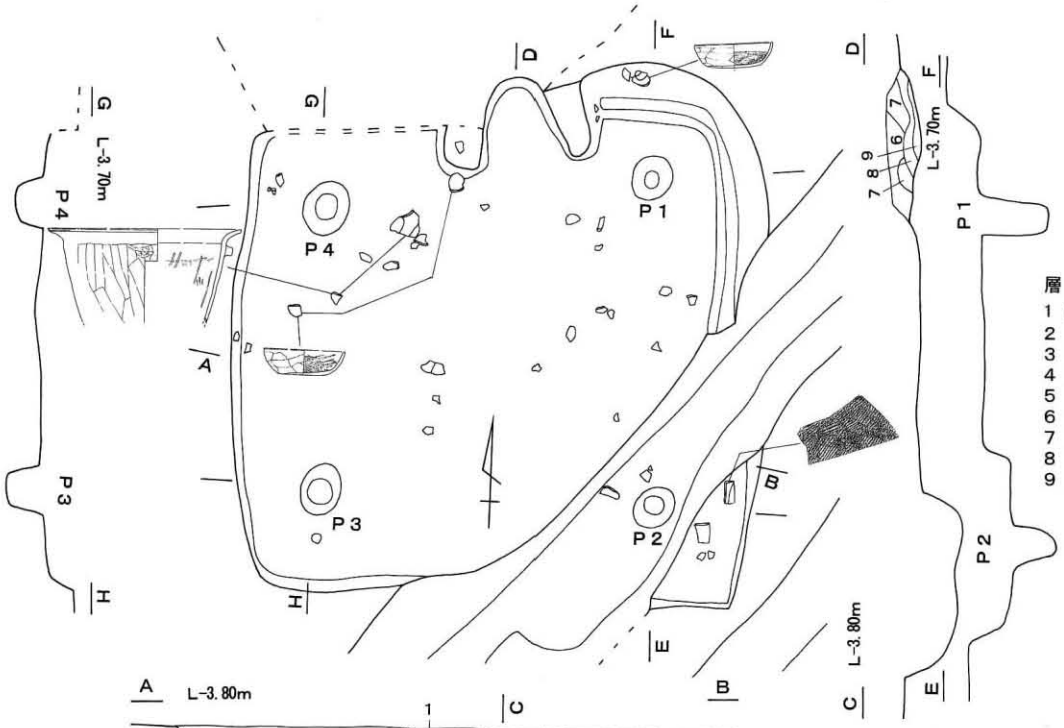
115号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－47－21
規　模	3.20×3.10m
主軸方向	N－17°　－E
深　さ	0.30m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.10m、奥行き0.75m。
遺　物	床面上から土師器坏出土。
特記事項	116号住居跡の中に重なる。
層　序	1 暗灰褐色土（砂、粘土混じる。竈構築材） 2 暗褐色土（焼土多く、砂少し混じる） 3 黒灰色土（焼土、砂混じる）

116 号住居跡

時　期	1 期
位　置	12E－47－21
規　模	5.48×6.12m
主軸方向	N－21°　－W
深　さ	0.15m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に4箇所と南壁付近中央にあり、深さ0.45～0.6m。
竈	検出されず。115号住居跡に切られ、消失か。
遺　物	床面上から土師器坏、須恵器甕片出土。
特記事項	116号住居跡が中に重なる。

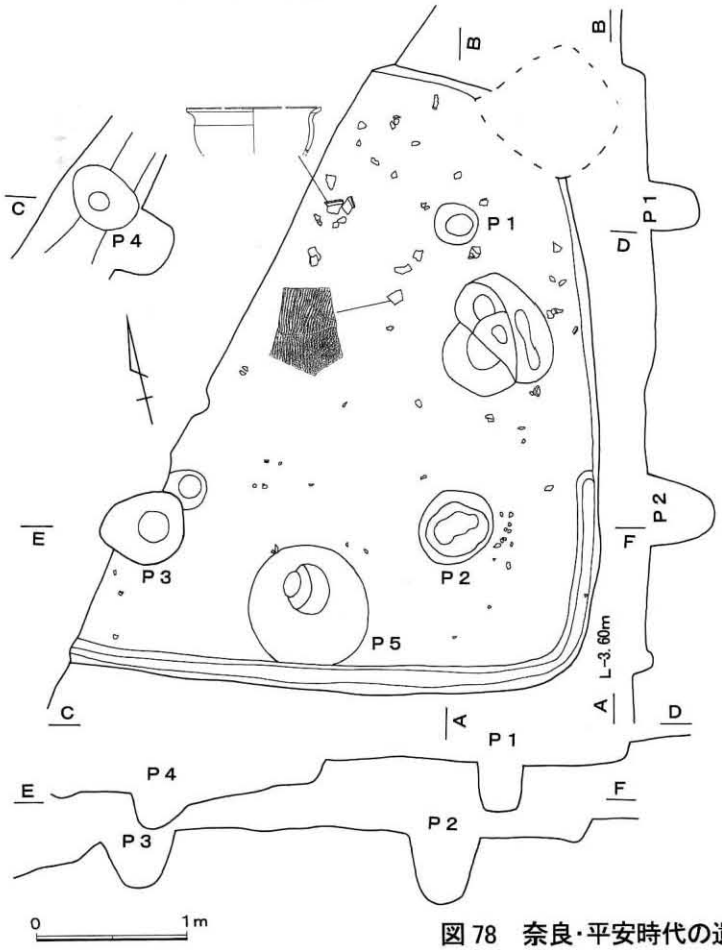
図 77　奈良・平安時代の遺構（115・116 号住居跡）



層　序
1 暗褐色土（砂多く、現代の掘り込み）
2 黒色土（焼土粒、砂混じる）
3 黒色土（砂多く混じる）
4 黒色土（砂混じる）
5 黒灰色土（砂多く混じる）
6 黒色土（焼土、砂混じる）
7 暗褐灰色砂（竈構築材）
8 赤色焼土（暗褐灰色砂混じる）
9 黒色土（灰混じる）

117号住居跡

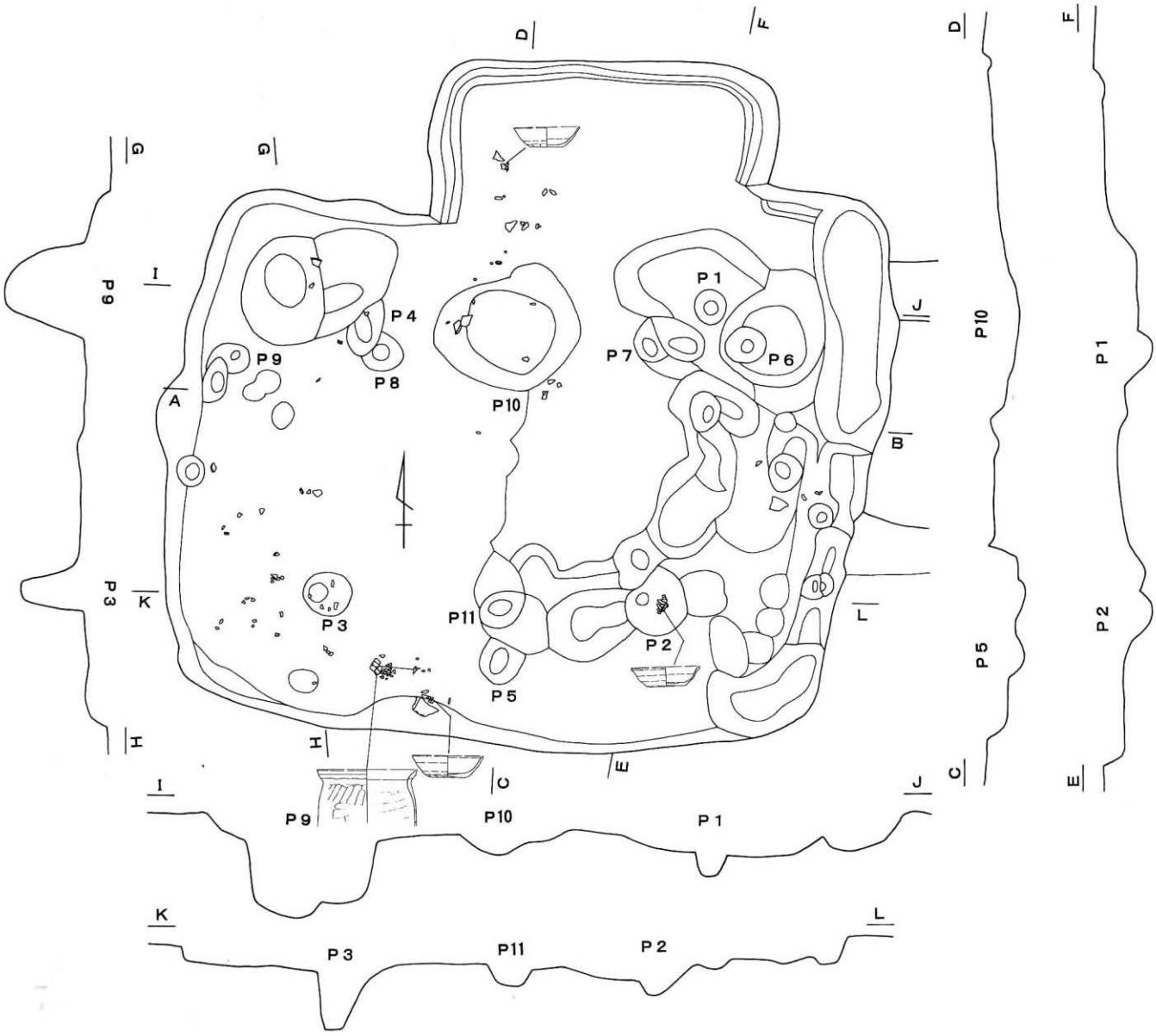
時　期	4 期
位　置	12E－47－22
規　模	2.95×3.06m
主軸方向	N－2°－W
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平坦に整地しているが、凹凸がある。
柱　穴	対角線上に4箇所にあり、深さ0.2～0.5m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.10m、奥行き0.60m。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏・甑、須恵器甕出土。
特記事項	南東を近世溝に切られる。

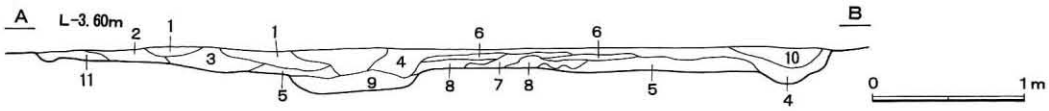


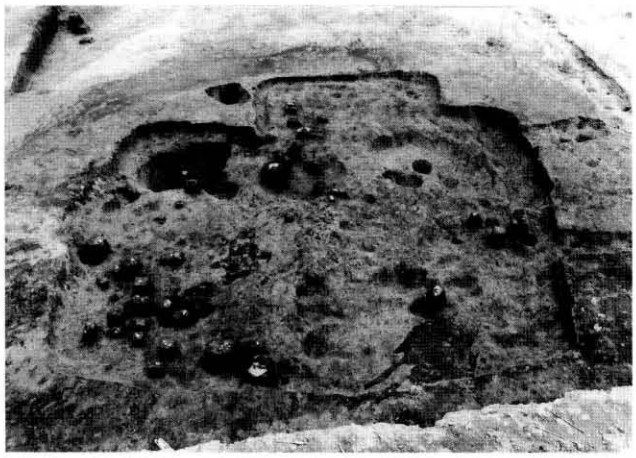
118号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－57－2
規　模	4.00×3.50m
主軸方向	N－15°－E
深　さ	0.17m
床　面	砂地を平坦に整地しているが、凹凸がある。
柱　穴	対角線上に4箇所と南壁付近中央にあり、深さ0.35～0.48m。
竈	検出されず。近世溝に切られ、消失か。
遺　物	床面上、覆土中から土師器坏・鉢、須恵器甕片転用硯出土。
特記事項	北西側を近世溝に切られる。

図 78　奈良・平安時代の遺構（117・118 号住居跡）



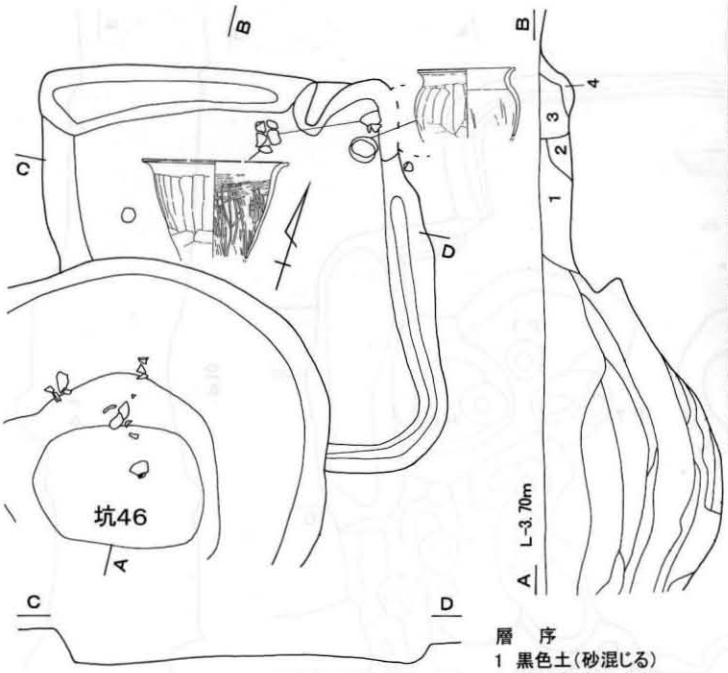


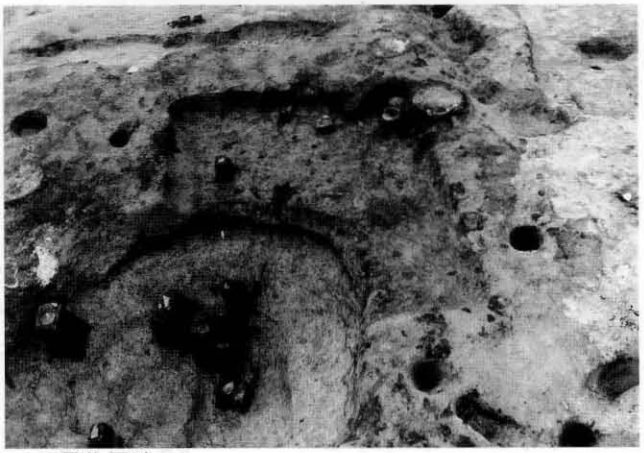


119号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－57－2
規　模	5.18×5.20m
主軸方向	N－6°－E
深　さ	0.18m
床　面	砂地を平坦に整地しているが、凹凸がある。
柱　穴	対角線上に4箇所のほか、10箇所にあり、深さ0.2～0.45m。
竈	検出されず。
遺　物	竈中、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片出土。
特記事項	長方形の北側に張り出しがあり、竈がないことから、通常の住居跡と異なる遺構か。
層　序	1 黒色土(焼土、砂混じる) 2 黒灰色土(砂多く混じる) 3 黒灰色土(焼土多く混じる) 4 黒色土(焼土、砂、褐色土混じる) 5 黒褐色土(砂多く混じる) 6 黒褐色土(砂多く混じり、しまる。貼床土) 7 黒褐色土(砂混じる) 8 黒色土(砂、焼土混じる) 9 暗灰色砂(焼土、砂混じる) 10 黒色土(焼土少し混じる) 11 灰色土(黒色土混じる)

図 79　奈良・平安時代の遺構（119 号住居跡）

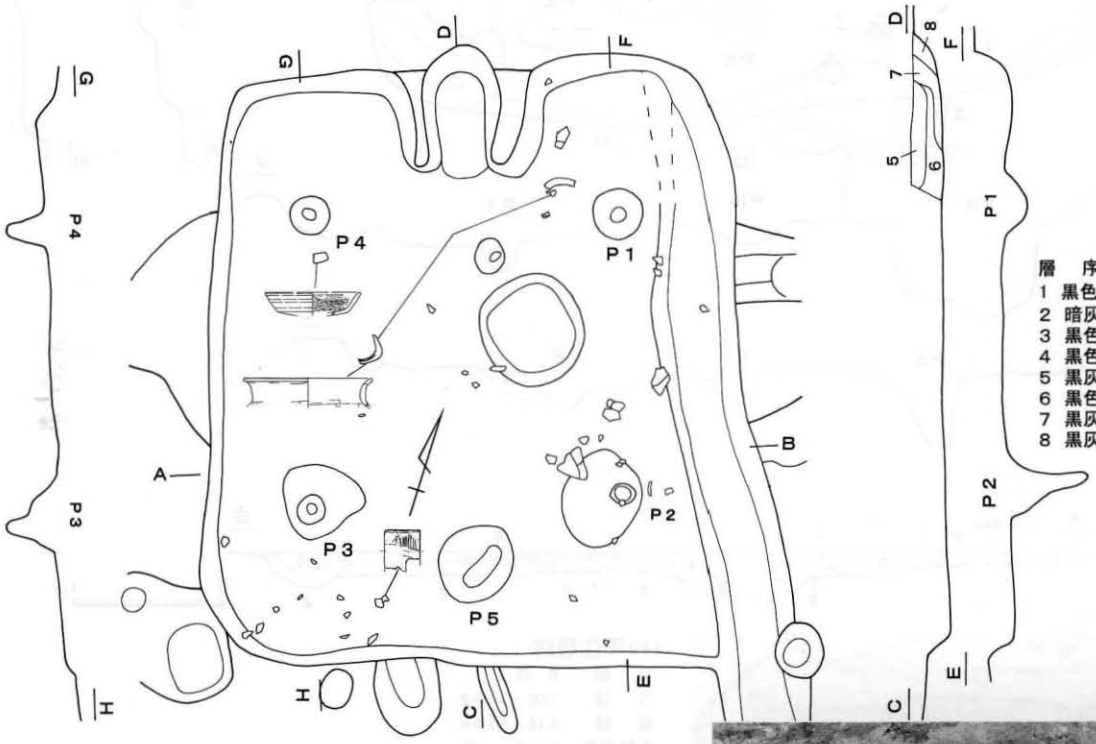




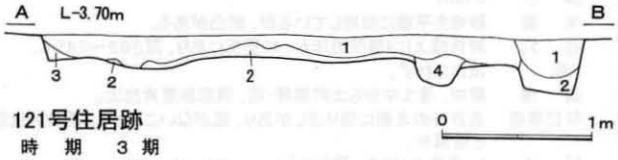
120号住居跡

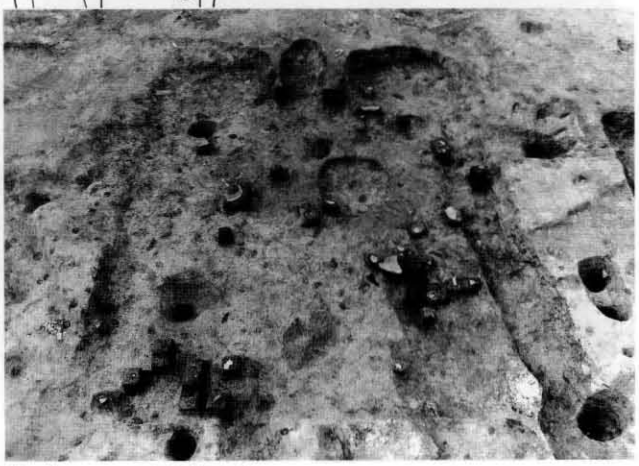
時　期　3 期
位　置　12E－47－24
規　模　2.24×2.18m
主軸方向　N－20°－W
深　さ　0.21m
床　面　砂地を平坦に整地している。
柱　穴　検出されず。
竈　北東隅にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅0.73m、奥行き0.60m。
遺　物　竈中から土師器甕・甑出土。
特記事項　南西部を43号土坑に切られる。

層　序
1 黒色土（砂混じる）
2 暗灰色砂（しまる）
3 黒色土（砂混じり、軟弱）
4 黒灰色土（砂多く混じる）



層　序
1 黒色土（砂混じる）
2 暗灰色砂（黒色土混じる）
3 黒色土（砂少し混じる）
4 黒色土（焼砂、砂混じる）
5 黒灰色土（砂、焼砂混じる）
6 黒色土（砂、焼砂少し混じる）
7 黒灰色土（砂、焼砂混じり、しまる）
8 黒灰色土（砂多く混じる）

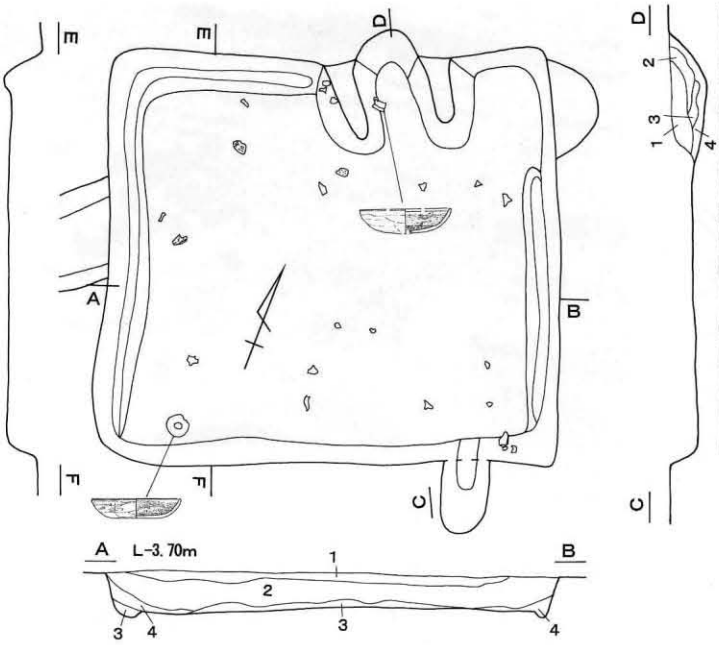


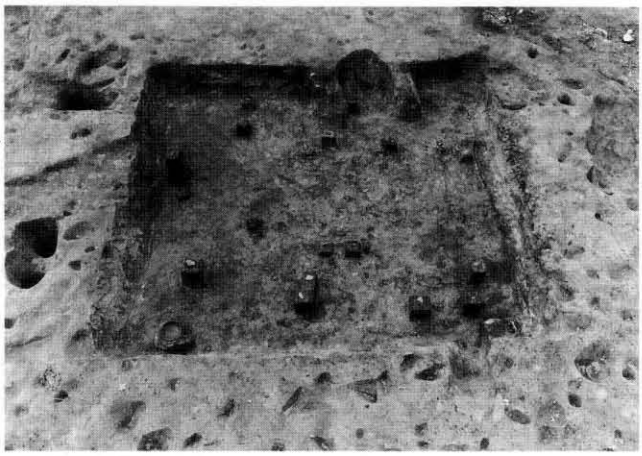


121号住居跡

時　期　3 期
位　置　12E－47－24
規　模　3.66×3.20m
主軸方向　N－17°－W
深　さ　0.17m
床　面　砂地を平坦に整地しているが、凹凸がある。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.2～0.54m。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.00m、奥行き0.88m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、砥石出土。
特記事項　東壁を畑跡畝溝が切る。

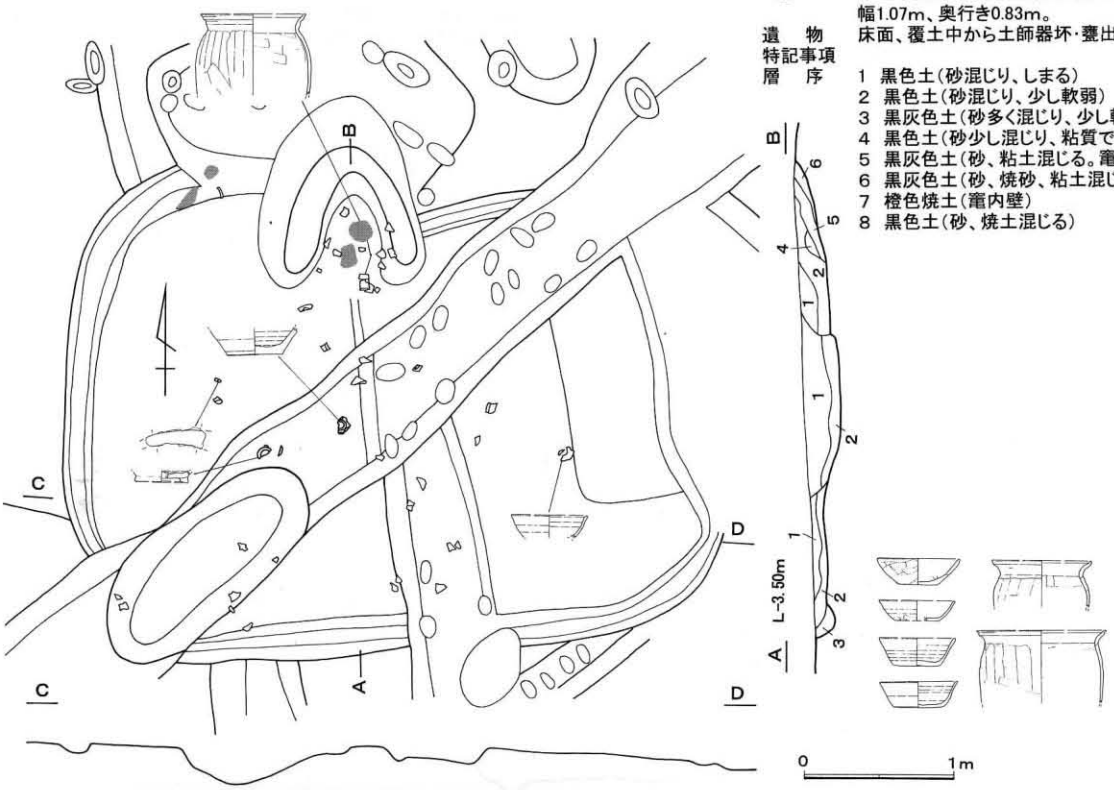
図 80　奈良・平安時代の遺構（120・121 号住居跡）





122号住居跡

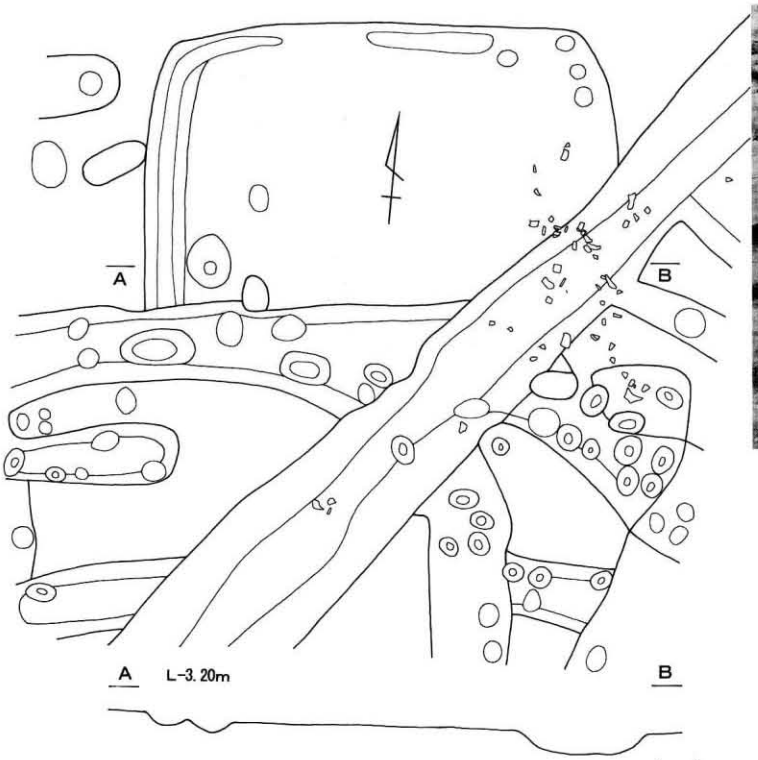
時　期　3 期
位　置　12E－47－24
規　模　2.45×2.88m
主軸方向　N－21°－W
深　さ　0.23m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.07m、奥行き0.83m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項
層　序
1 黒色土（砂混じり、しまる）
2 黒色土（砂混じり、少し軟弱）
3 黒灰色土（砂多く混じり、少し軟弱）
4 黒色土（砂少し混じり、粘質でしまる）
5 黒灰色土（砂、粘土混じる。竈天井部）
6 黒灰色土（砂、焼砂、粘土混じる）
7 橙色焼土（竈内壁）
8 黒色土（砂、焼土混じる）

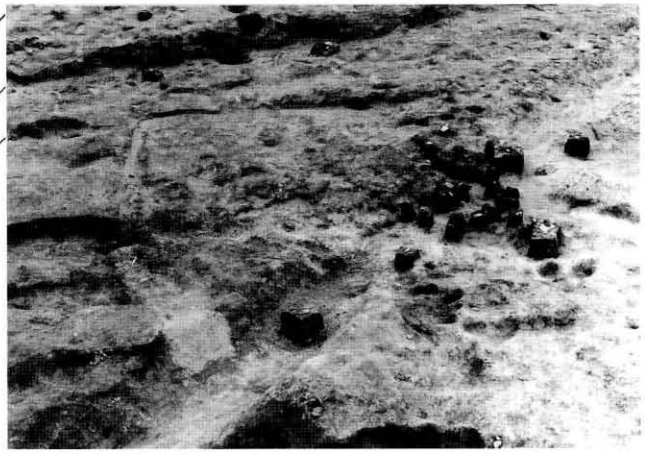


123号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－57－4・9
規　模　3.20×4.00m
主軸方向　N－4°－W
深　さ　0.20m
床　面　砂地を平坦に整地しているが、少し凹凸があって軟弱。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.11m、奥行き0.75m。
遺　物　竈中、床面から土師器坏・甕、須恵器甕・長頸壺、鉄製鎌・釘出土。
特記事項　中央を中世溝、畑跡畝溝に切られる。
層　序
1 黒色土（砂混じり）
2 黒灰色土（砂、焼土混じる）
3 黒灰色土（砂混じる）
4 黒灰褐色土（竈構築材）
5 黒灰色土（焼土多く混じる）
6 黒灰色土（砂、焼土混じる）

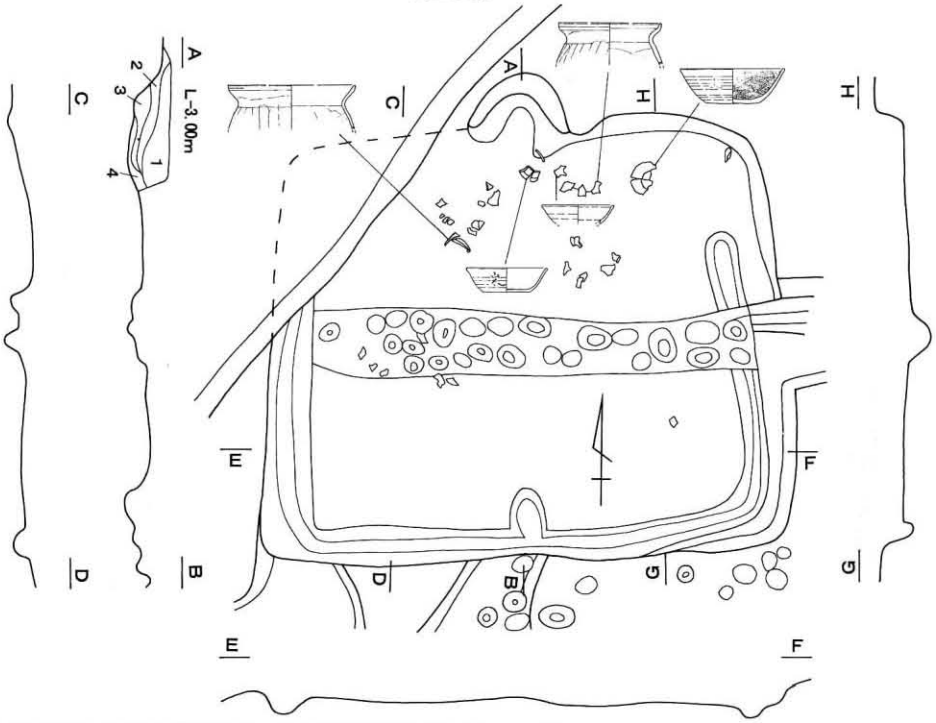
図 81　奈良・平安時代の遺構（122・123 号住居跡）

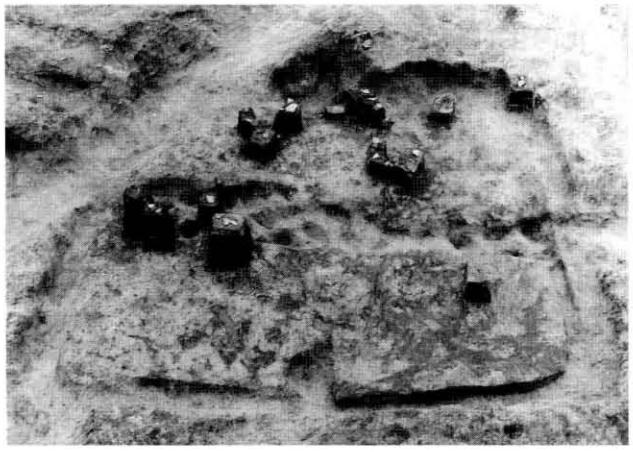




124号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－57－5
規　模	3.03×3.20m
主軸方向	N－81°－E
深　さ	0.06m
床　面	砂地を平坦に整地しているが、少し凹凸があって軟弱。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。東壁付近に竈の痕跡あり。
遺　物	床面から土師器坏・甕片出土。
特記事項	中央を中世溝、畑跡に切られる。

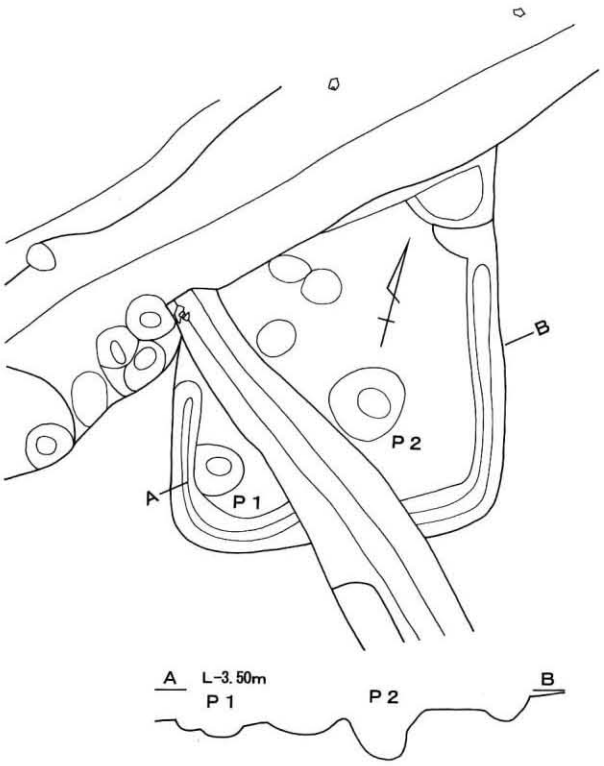




125号住居跡

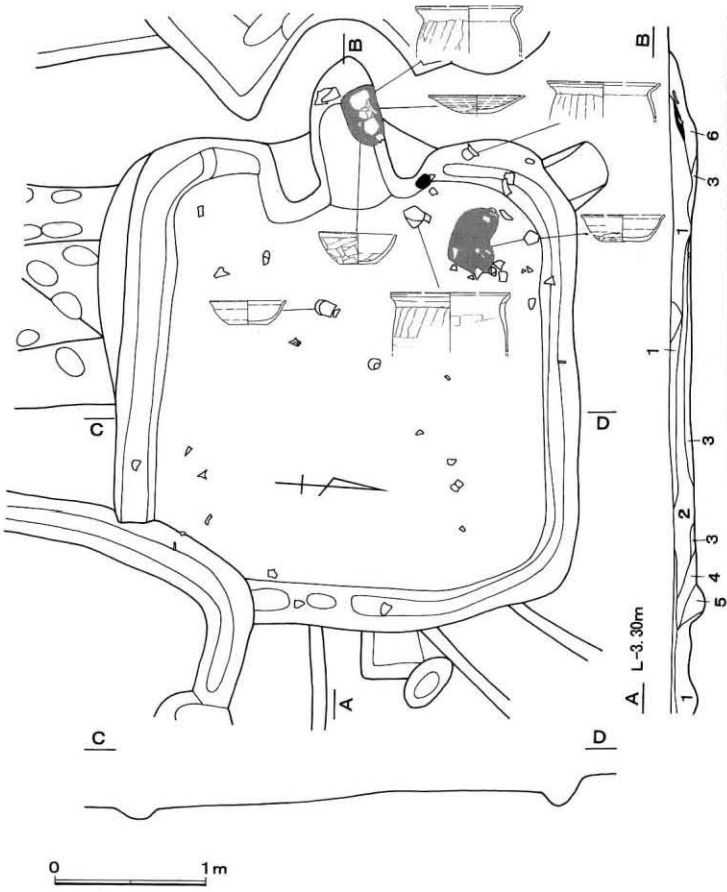
時　期	5 期
位　置	12E－57－5
規　模	2.79×3.38m
主軸方向	N－1°－W
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平坦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央にあり、かろうじて竈の形が残っている。 幅0.70m、奥行き0.43m。
遺　物	床面から土師器坏・甕出土。
特記事項	中央を畑跡畝溝に切られる。
層　序	1 黒色土（焼土、砂混じる） 2 黒色土（焼土、灰混じる） 3 黒褐色土（焼土多く、灰混じる） 4 黒褐色土（砂混じる）

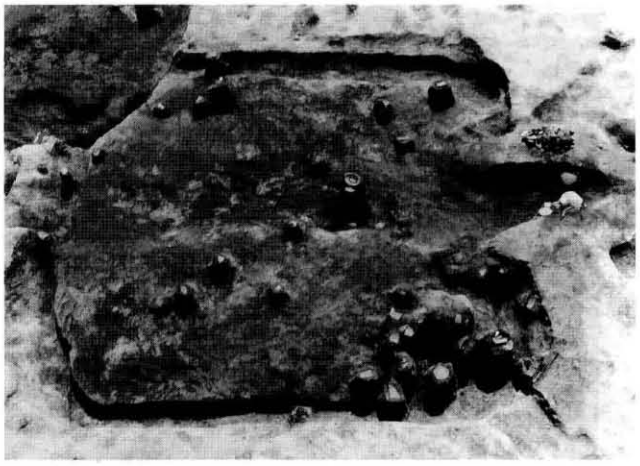
図 82　奈良・平安時代の遺構（124・125 号住居跡）



126号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－57－1・6
規　模	2.20×2.08m
主軸方向	N－16°　－W
深　さ	0.10m
床　面	砂地を平坦に整地しているが、少し凹凸があって軟弱。
柱　穴	南部に2箇所検出したが、柱穴になるか疑問。深さ0.1～0.3m。
竈	検出されず。
遺　物	覆土中から土師器甕片出土。
特記事項	北側を近世溝に、中央を中世溝に切られる。





127号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－57－8
規　模	2.82×2.91m
主軸方向	N－93°　－W
深　さ	0.15m
床　面	黒色土を敷き詰め、平坦に整地している。
柱　穴	検出されず。
竈	西壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.10m、奥行き0.90m。
遺　物	竈中、床面から土師器坏・皿・甕、須恵器長頸壺、鉄製刀子出土。
特記事項	
層　序	1 黒灰色土(砂、焼土混じる) 2 黒灰色土(砂、褐色砂混じる) 3 黒灰色土(砂、白色土混じり、しまる) 4 黒灰色土(砂混じる) 5 黒色土(砂混じる) 6 黒灰色土(砂、焼土混じる)

図 83　奈良・平安時代の遺構（126・127 号住居跡）

128号住居跡

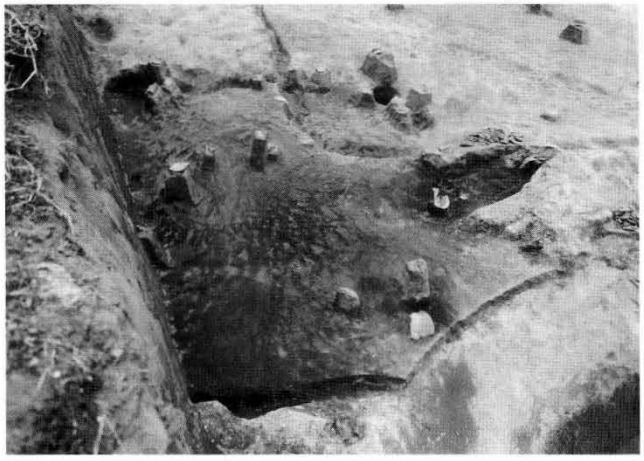
時　期　5 期
位　置　12E－57－8・9
規　模　2.80×2.60m
主軸方向　N－3°－E
深　さ　0.10m
床　面　黒色土を敷き詰め、平坦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅0.80m、奥行き0.60m。
遺　物　床面から土師器坏・甕、須恵器長頸壺、鉄製刀子出土。
特記事項　129号住居跡に重なる。

129号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－57－9
規　模　4.15×3.74m
主軸方向　N－3°－E
深　さ　0.20m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固められている。
柱　穴　対角線上に4箇所あり、深さ0.2m。
竈　西壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅0.80m、奥行き0.66m。
遺　物　床面上から土師器坏・甕・鉢出土。
特記事項

130 号住居跡

時　期　6 期
位　置　12E－57－9
規　模　2.47×2.90m
主軸方向　N－3°－W
深　さ　0.27m
床　面　砂地を平坦に整地しているが、凹凸がある。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅1.35m、奥行き0.72m。
遺　物　竈中、床面から土師器坏・甕・鉢、須恵器甕片、鉄製鎌出土。
特記事項　129号住居跡に重なる。



131 号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－57－9・14
規　模　2.00×2.45m
主軸方向　N－2°－E
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平坦に整地しているが、凹凸がある。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅0.93m、奥行き0.82m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕・甑、須恵器長頸壺出土。
特記事項　129号住居跡に重なる。

図 84　奈良・平安時代の遺構（128～131 号住居跡）

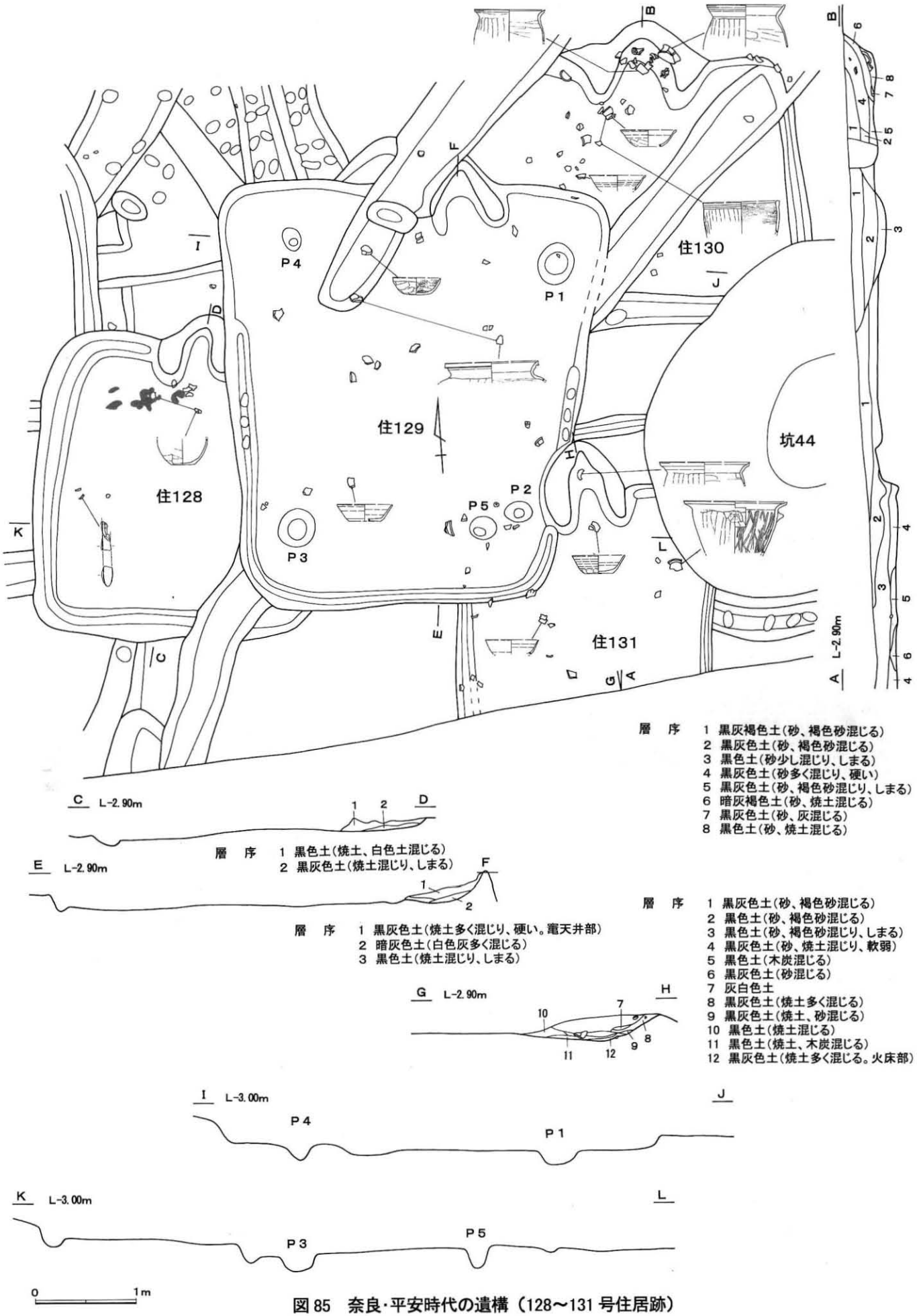
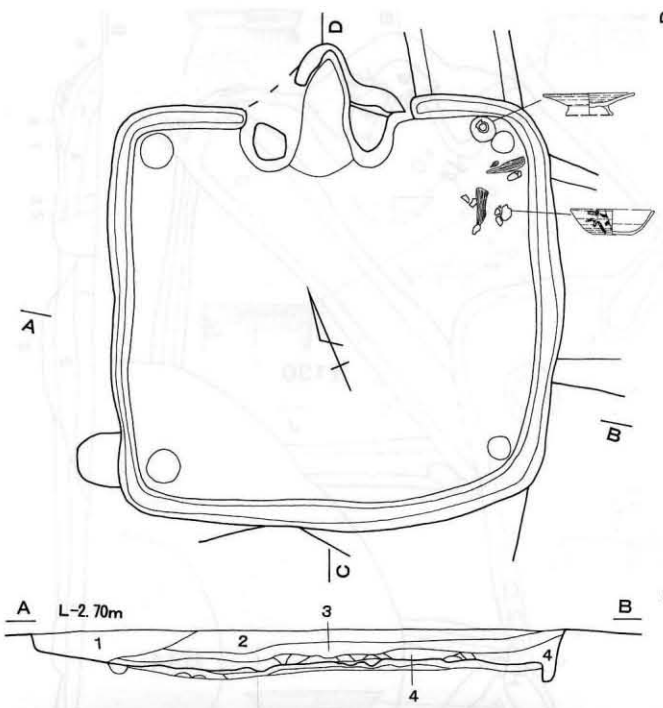
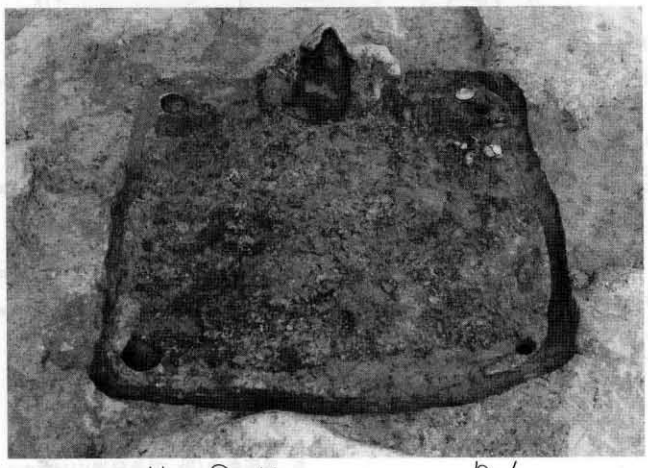


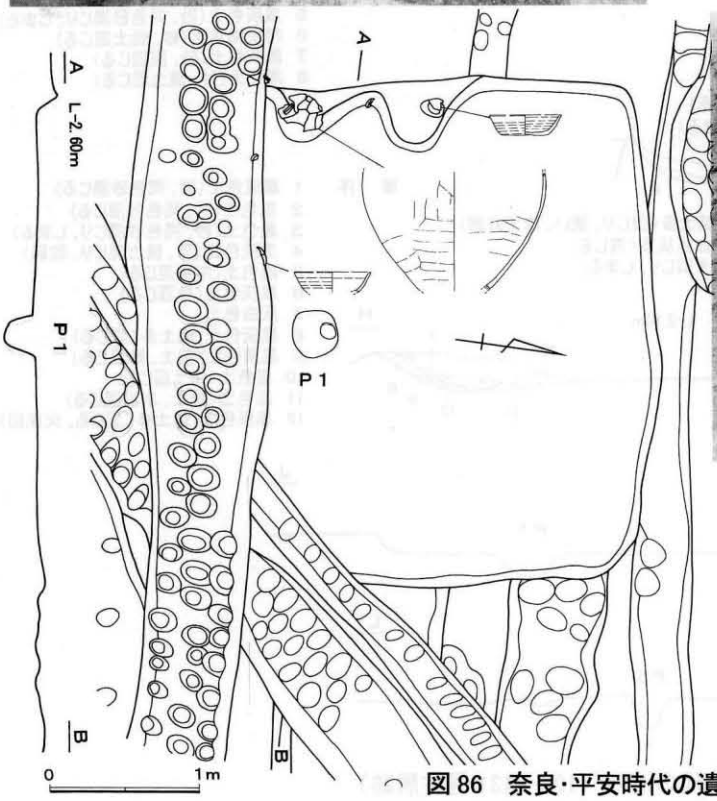
図 85　奈良・平安時代の遺構（128～131 号住居跡）

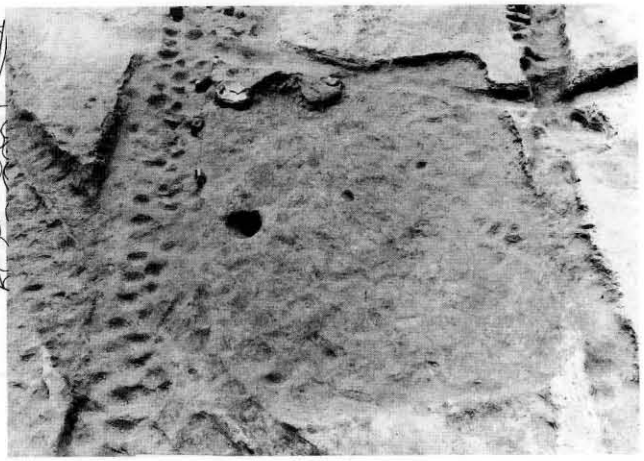




132 号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－58－4・5
規　模	2.70×2.90m
主軸方向	N－22°－E
深　さ	0.28m
床　面	砂地を平坦に整地し、その上に炭化藁を敷き詰めていた。
柱　穴	四隅に検出、深さ0.07～0.14m。
竈	北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたものである。幅1.05m、奥行き0.80m。
遺　物	床面から土師器坏・皿・甕、鉄製鎌出土。
特記事項	炭化藁を敷き詰めていたのは、湿気を防ぐためか。
層　序	1 黒色土（粘質。畑跡畝溝） 2 黒色土（少し赤褐色を帯びる。粘質） 3 黒色土（少し赤褐色を帯び、砂、炭化藁混じる） 4 黒色土（砂、焼土、炭化藁混じる） 5 黒色土（焼土、木炭混じる） 6 黒色土 7 暗褐色土（焼土多く混じる） 8 暗褐色土 9 黒色土（焼土、木炭、砂混じる）

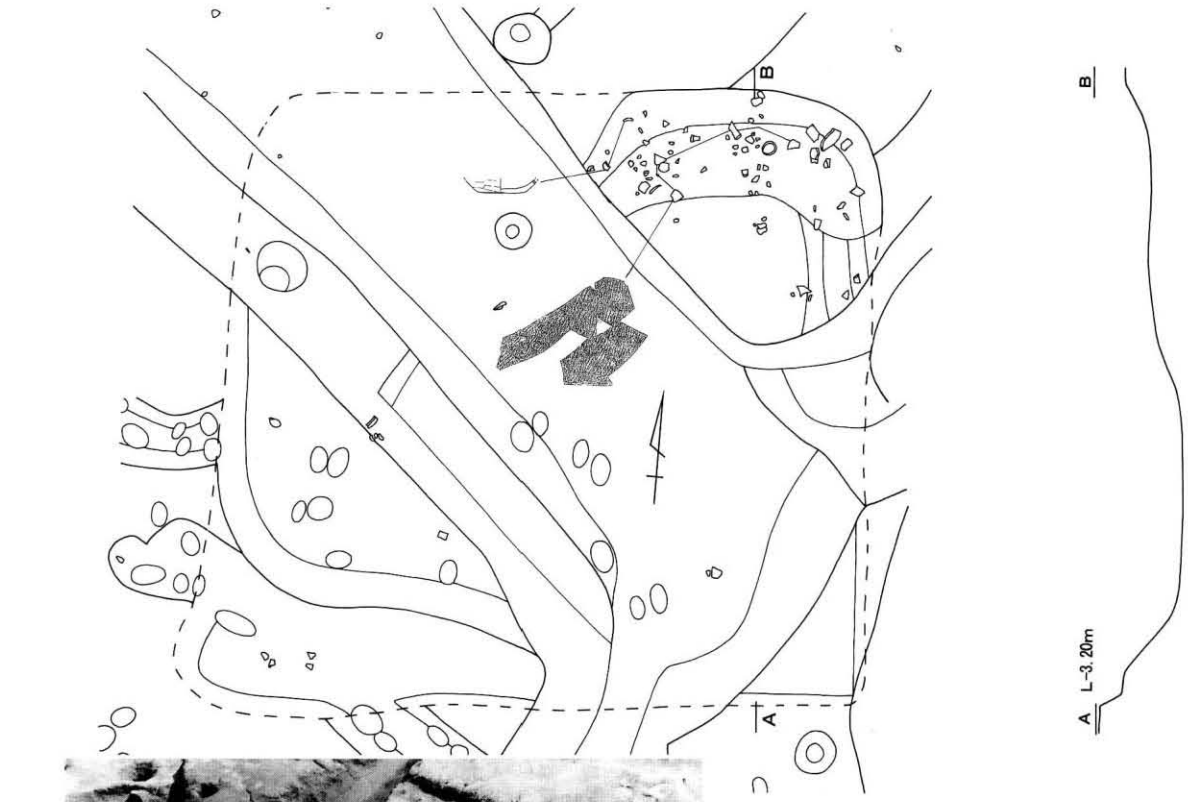




133 号住居跡

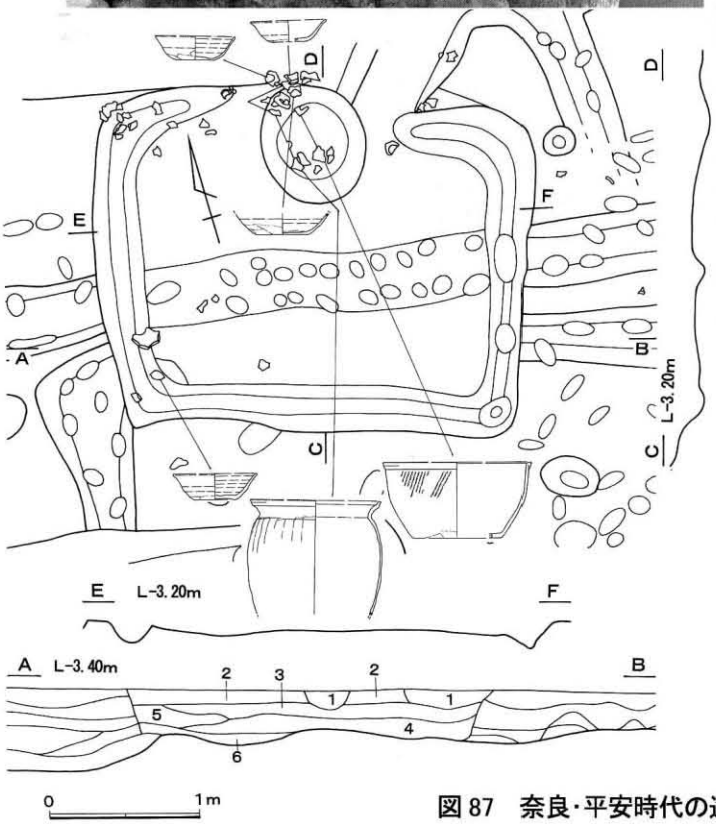
時　期	5 期
位　置	12E－59－4
規　模	3.20×2.50m
主軸方向	N－97°－W
深　さ	0.12m
床　面	砂地を平坦に整地し、少し凹凸がある。
柱　穴	ほぼ中央に1箇所検出、深さ0.2m。
竈	西壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたものである。幅1.20m、奥行き0.40m。
遺　物	竈袖、床面から土師器坏・甕出土。
特記事項	

図 86　奈良・平安時代の遺構（132・133 号住居跡）



134 号住居跡

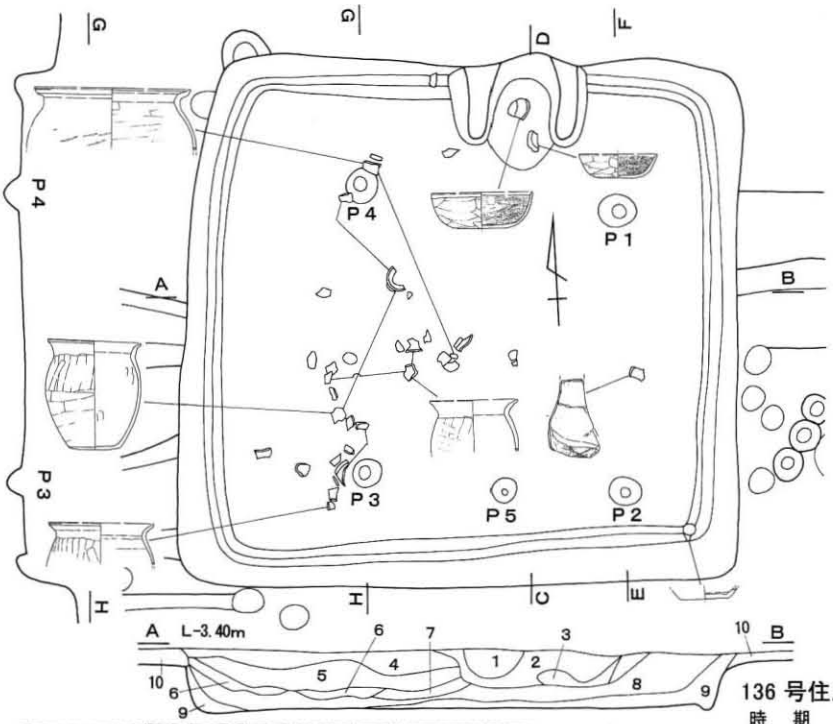
時　期	5 期
位　置	12E－54－9・14
規　模	4.00×4.00m
主軸方向	N－1°　－E
深　さ	0.13m
床　面	砂地を平坦に整地し、少し凹凸がある。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。
遺　物	床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕出土。
特記事項	中央部を近世溝に切られ、大部分を消失。

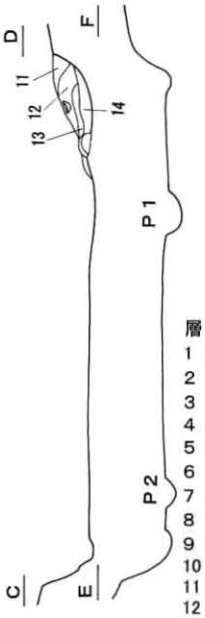


135 号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－44－19
規　模	2.08×2.72m
主軸方向	N－16°　－E
深　さ	0.20m
床　面	砂地を平坦に整地し、少し凹凸がある。
柱　穴	検出されず。
竈	北壁中央に痕跡あり、構築材は消失している。
遺　物	竈付近、床面から土師器坏・甕・鉢出土。
特記事項	
層　序	1 黒色土（砂混じる。畑跡畝溝） 2 黒色土（灰色砂混じる） 3 黒灰色土（砂、褐色砂混じる） 4 黒灰色土（砂、褐色砂混じり、しまる） 5 黒灰色土（砂多く混じる） 6 黒色土（砂、木炭粒混じる）

図 87　奈良・平安時代の遺構（134・135 号住居跡）

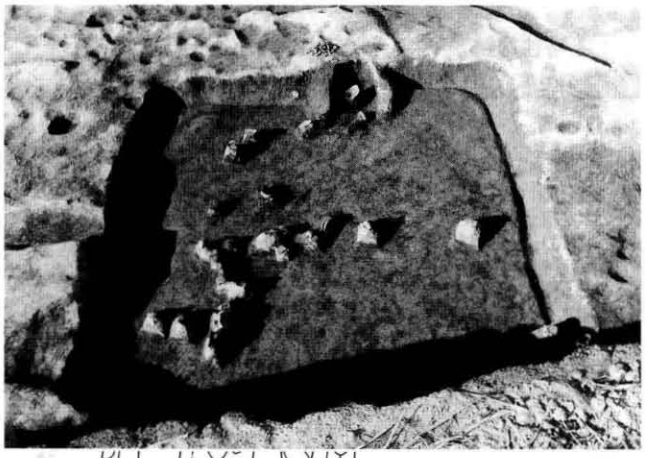


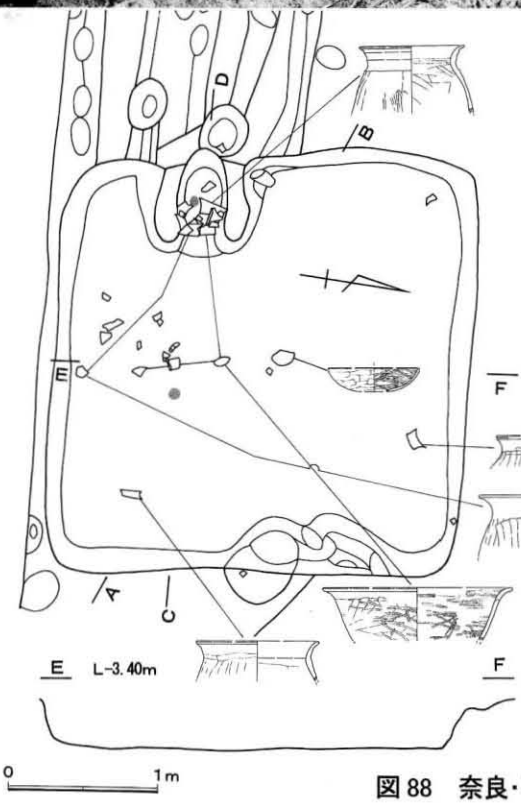


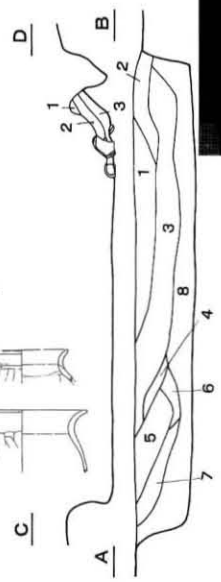
層　序
1 黒灰色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂少し混じり、粘質)
3 灰白色砂(ブロック状)
4 黒灰色土(砂縞状に混じる)
5 黒灰色土(砂多く、褐鉄粒混じる)
6 黒灰色土(砂、焼土混じり、粘質)
7 黒灰色土(砂少し、焼土混じり、粘質)
8 黒灰色土(砂混じり、しまる)
9 黒灰色土(砂、黒色土混じり、しまる)
10 暗灰色土(砂多く混じる)
11 黒灰色土(焼土、砂混じる)
12 黒灰色土(焼土、砂少し混じる)
13 赤色焼土(竈天井部)
14 黒色土(焼土少し混じる)

136 号住居跡

時　期　4 期
位　置　12E－55－15
規　模　3.22×3.42m
主軸方向　N－3°－E
深　さ　0.41m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.05～0.1m。
竈　北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅0.90m、奥行き0.63m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器坏・甕片、砥石出土。
特記事項



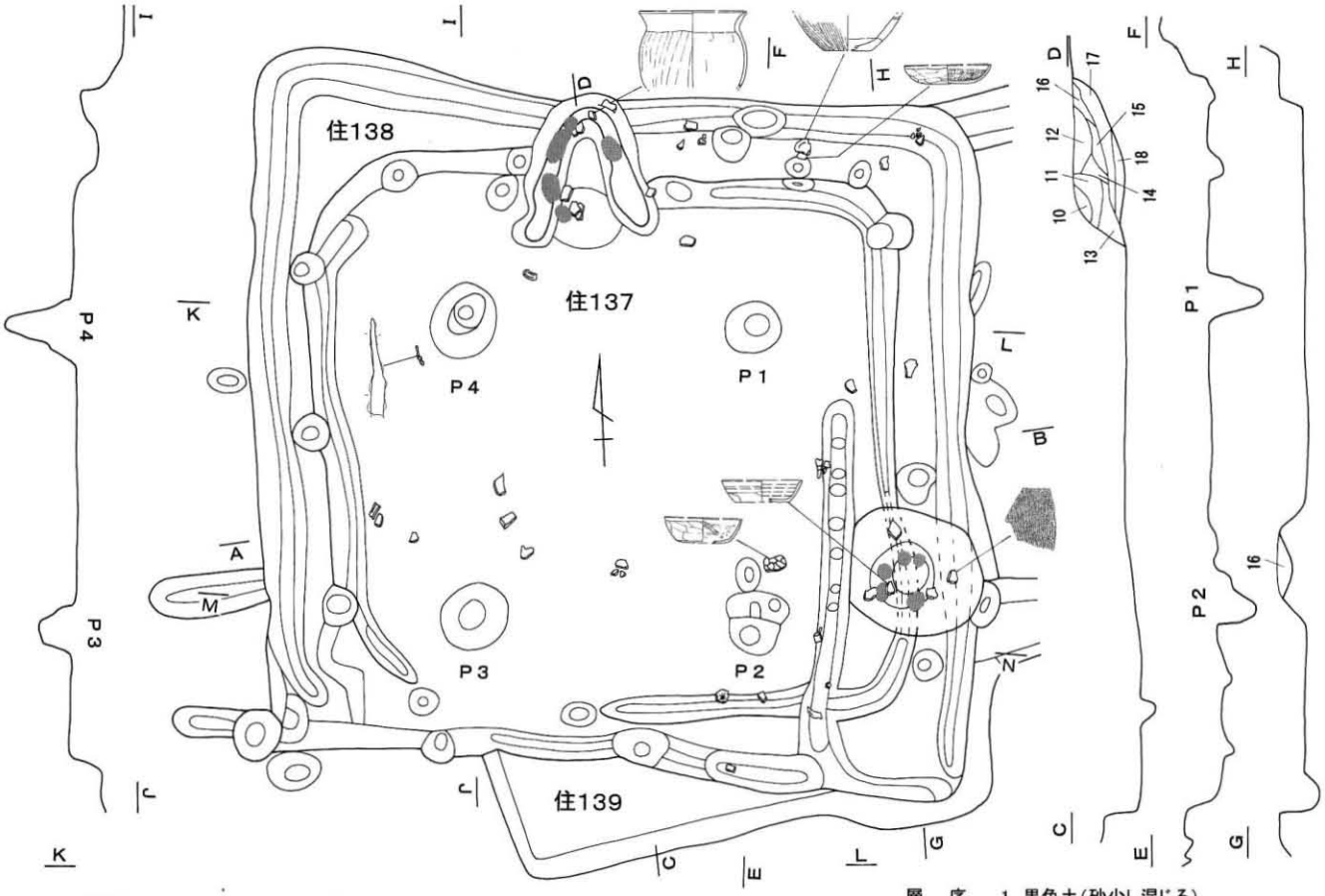


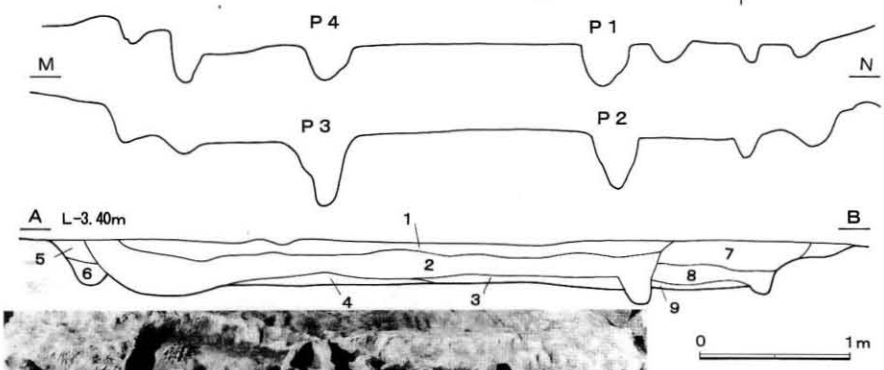


140 号住居跡

時　期　1 期
位　置　12E－56－11
規　模　2.52×2.53m
主軸方向　N－95°－E
深　さ　0.38m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　検出されず。
竈　西壁中央より南寄りにあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅0.83m、奥行き0.70m。
遺　物　竈内、覆土中から土師器坏・甕・甑出土。
特記事項　東壁にある張り出しは出入り口のステップか。
層　序
1 黒灰色土(砂少し混じる)
2 暗灰色土(砂、褐色砂混じる)
3 黒灰色土(砂、焼土多く混じる)
4 黒灰色土(黄色砂混じる)
5 黒灰色土(砂混じる)
6 黒灰色土(砂、焼土混じる)
7 黒灰色土(砂多く混じる)
8 黒灰色土(砂少し、焼土混じる)
9 暗灰色砂(黒色土、焼土混じる。竈構築材)
10 黒灰色土(砂多く、焼土混じる)
11 黒灰色土(焼土、黒色灰、砂混じる)

図 88　奈良・平安時代の遺構（136・140 号住居跡）





層序
1 黒色土(砂少し混じる)
2 黒灰色土(砂、焼土、木炭粒混じる)
3 黒灰色土(砂、焼土混じり、しまる)
4 黒灰色土(砂混じり、しまる)
5 黒色土(砂、木炭混じり、軟弱)
6 黒灰色土(砂混じる)
7 黒灰色土(砂、木炭混じる)
8 黒灰色土(砂、焼土混じる)
9 黒灰色土(砂多く、焼土混じり、しまる)
10 黒灰色土(砂、焼土混じる)
11 黒灰色土(焼土、砂多く混じる)
12 黒灰色土(焼土、砂少し混じる)
13 黒灰色土(灰色砂混じる)
14 暗褐色砂(黒色土、焼土混じる)
15 黒灰色土(焼土、灰色砂多く混じる)
16 暗灰色土(焼土多く混じる)
17 暗灰色土(灰色砂、焼土多く混じる)
18 暗灰色土(灰色砂混じり、しまる)

137 号住居跡

時　期	3 期
位　置	12E－56－6・11
規　模	3.52×3.75m
主軸方向	N－3°－E
深　さ	0.30m
床　面	砂地を平坦に整地し、少し凹凸がある。
柱　穴	対角線上に4箇所にあり、深さ0.28～0.48m。
竈	北壁中央にあり、構築材は暗灰色砂と粘土を混ぜたものである。幅0.98m、奥行き0.85m。
遺　物	竈内、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片転用硯、鉄製刀子出土。
特記事項	南東隅にある炉は、同住居跡の浮き炉か。

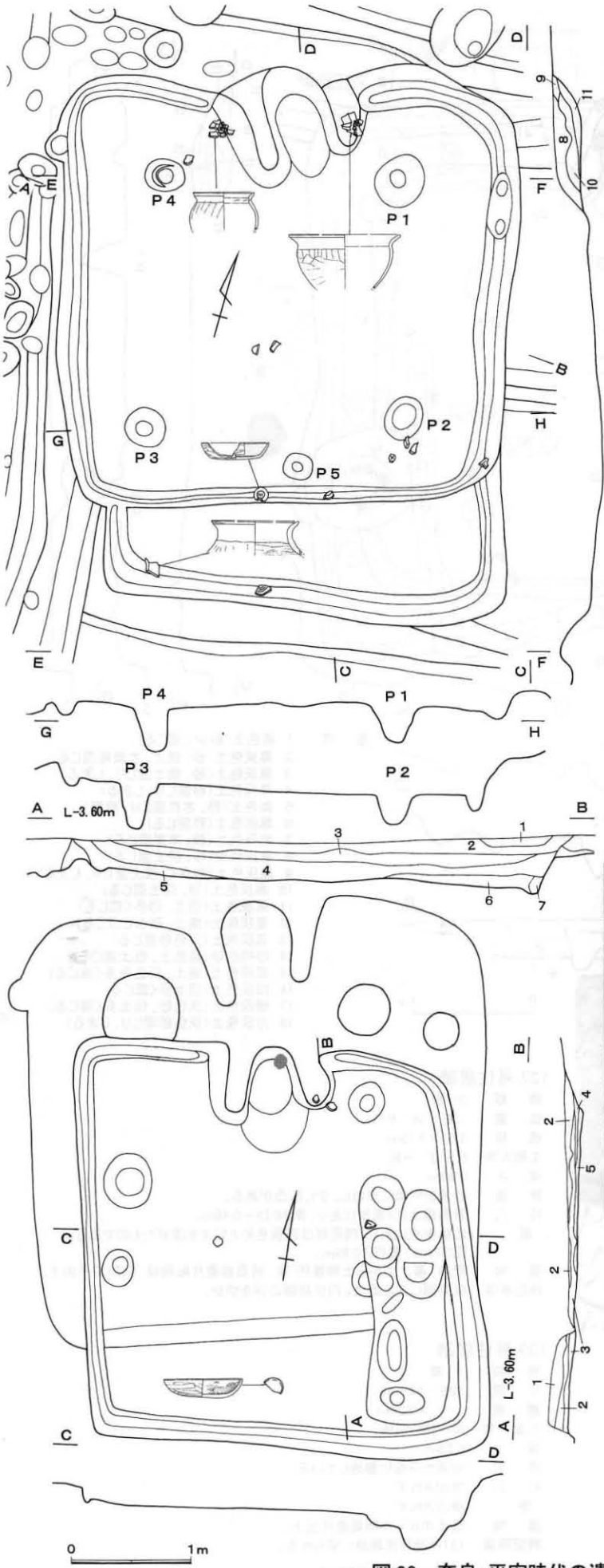
138 号住居跡

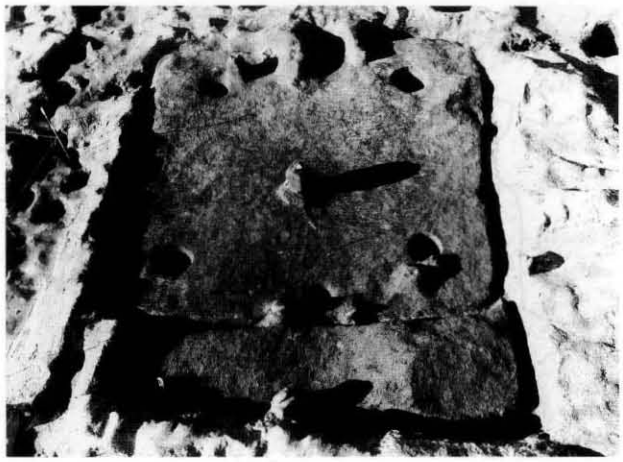
時　期	2 期
位　置	12E－56－6・11
規　模	4.48×4.70m
主軸方向	N－2°－E
深　さ	0.30m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	本住居跡の柱穴は不明。
竈	137号住居跡竈の下に竈跡あり。
遺　物	床面から土師器坏・甕出土。
特記事項	本住居跡を建て替えて137号住居跡がある。

139 号住居跡

時　期	1 期
位　置	12E－56－11
規　模	－×3.20m
主軸方向	N－13°－W
深　さ	0.23m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。
遺　物	覆土中から土師器甕片出土。
特記事項	137・138号住居跡に切られる。

図 89　奈良・平安時代の遺構（137～139 号住居跡）





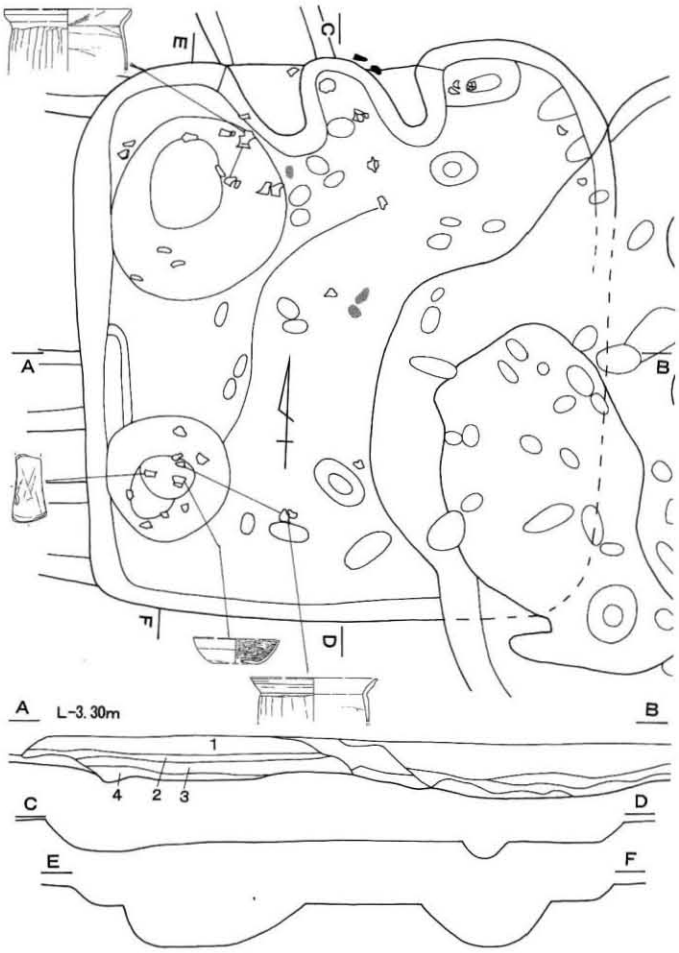
141 号住居跡

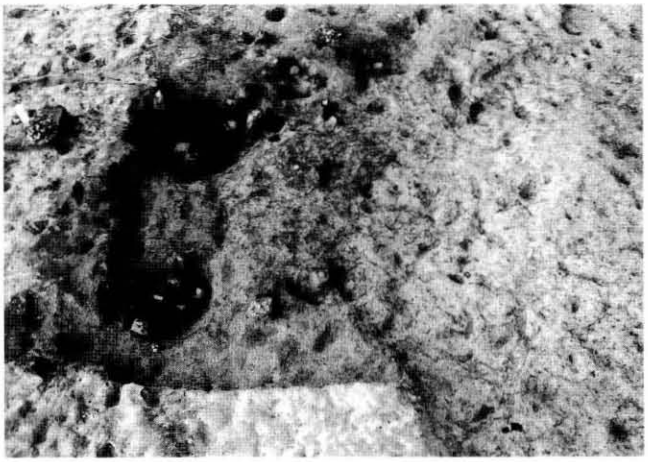
時　期　4 期
位　置　12E－56－6
規　模　3.50×3.63m
主軸方向　N－13°－W
深　さ　0.32m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.28～0.38m。
竈　北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅1.12m、奥行き0.95m。
遺　物　竈袖上、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項　142号住居跡に重なる。
層　序
1 黒褐色土(砂混じる。中世溝)
2 黒灰色土(砂、褐色砂混じる)
3 黒灰色土(砂、木炭、褐色鉄混じる)
4 黒灰色土(砂多く、褐色鉄、焼土混じる)
5 黒灰色土(砂、褐色鉄、焼土混じる)
6 暗灰色土(砂多く混じり、しまる)
7 暗灰色土(砂多く混じり、軟弱)
8 黒灰色土(砂、褐色鉄混じる)
9 黒灰色土(砂、焼土混じる)
10 黒灰色土(砂、褐色鉄、焼土混じり、粘質)
11 黒灰色土(焼土多く、木炭、黒色灰、砂混じる)

142 号住居跡

時　期　1 期
位　置　12E－56－6
規　模　3.25×3.08m
主軸方向　N－15°－W
深　さ　0.40m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　本住居跡の柱穴は検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅1.05m、奥行き0.65m。
遺　物　床面上から土師器坏・甕出土。
特記事項
層　序
1 暗灰色土(白色砂多く、褐色鉄混じる)
2 暗灰色土(砂、褐色鉄混じる)
3 黒灰色土(砂、褐色鉄混じる)
4 黒灰色土(黒色灰混じる)
5 暗灰色土(砂多く混じる。床面土)

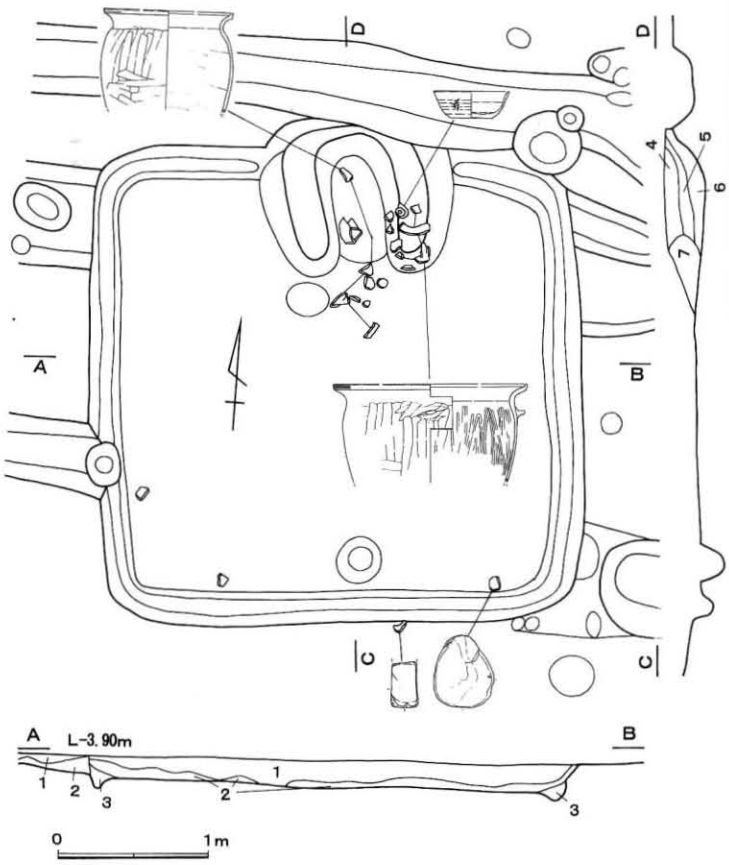
図 90　奈良・平安時代の遺構（141・142 号住居跡）

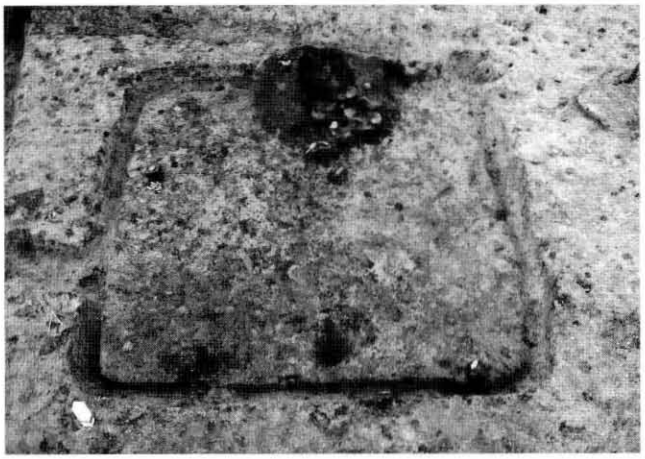




143 号住居跡

時　期　6 期
位　置　12E－45－25、55－5
規　模　3.55×3.23m
主軸方向　N－1°－W
深　さ　0.20m
床　面　砂地を平坦に整地している。
柱　穴　西壁付近にある2箇所あるが、同住居跡の柱穴か疑問。
竈　北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたものでなる。幅1.45m、奥行き0.65m。
遺　物　竈内、覆土中から土師器坏・甕、砥石出土。
特記事項　東側を中世遺構に切られる。
層　序　1 黒灰色土(砂混じり、少し褐色)
2 黒灰色土(砂、黒色土混じり、しまる)
3 黒灰色土(砂、赤褐色鉄混じる)
4 暗灰色土(砂多く混じる)

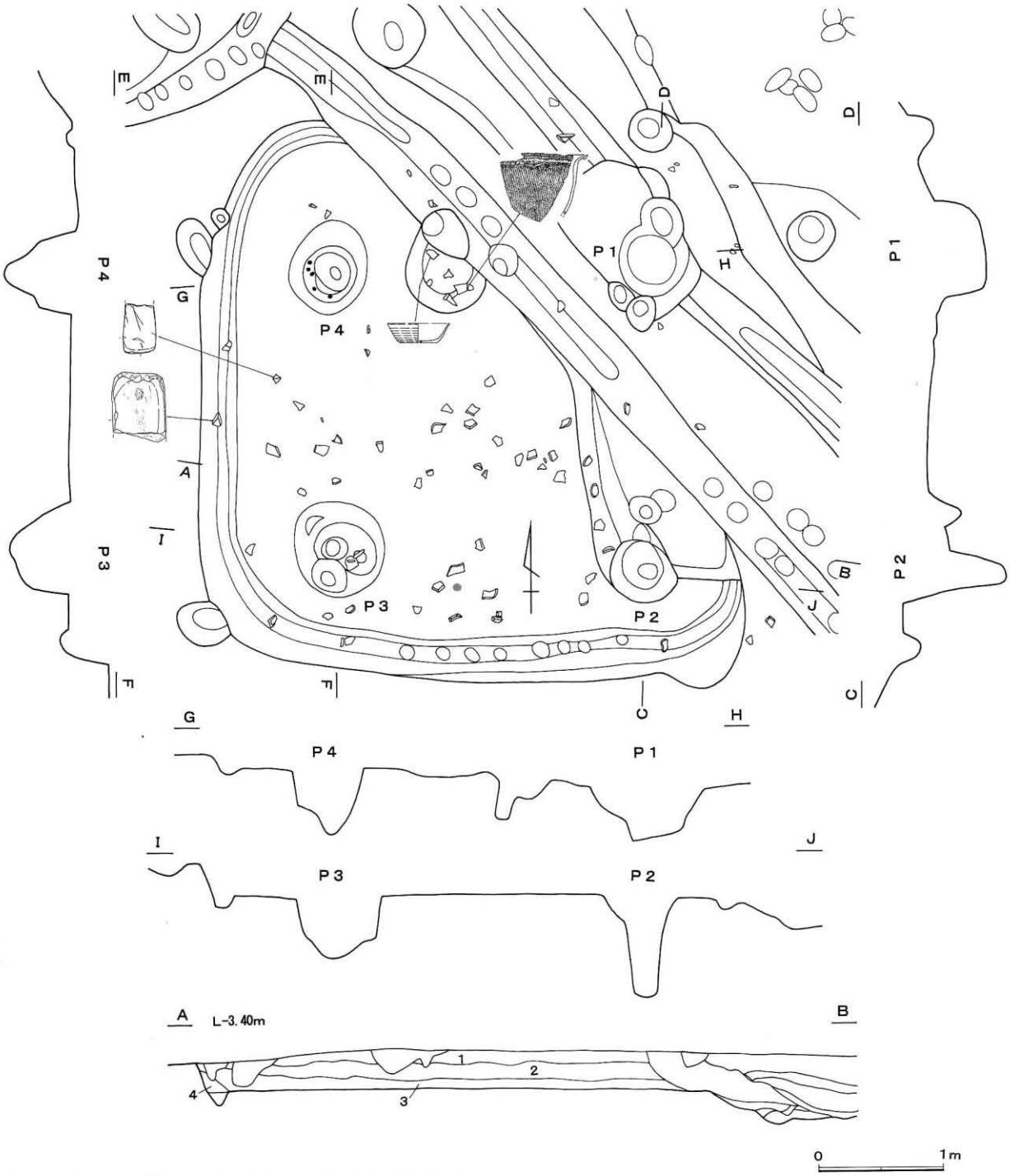


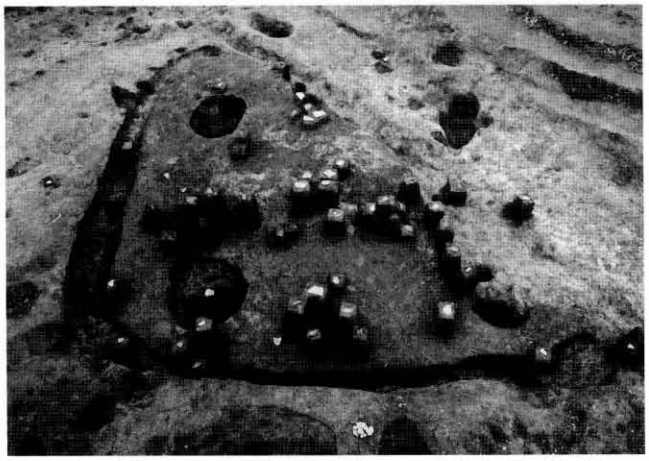


144 号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－48－1・2
規　模　3.00×3.09m
主軸方向　N－5°－W
深　さ　0.17m
床　面　砂地を平坦に整地し、少し軟弱。
柱　穴　竈対面に1箇所あり、深さ0.17m。
竈　北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅1.28m、奥行き0.95m。
遺　物　竈内、覆土中から土師器坏・甕・甑、砥石、擦石出土。
特記事項
層　序　1 黒色土(砂混じり、少し褐色)
2 黒灰色土(砂混じる)
3 暗灰色砂(黒色土少し混じる)
4 黒灰色土(砂、焼土混じり、少し赤褐色)
5 黒灰色土(砂、焼土混じる)
6 黒灰色土(砂、焼土、灰混じる)
7 黒灰色土(砂、焼土混じり、粘質で少し赤褐色)

図 91　奈良・平安時代の遺構（143・144 号住居跡）

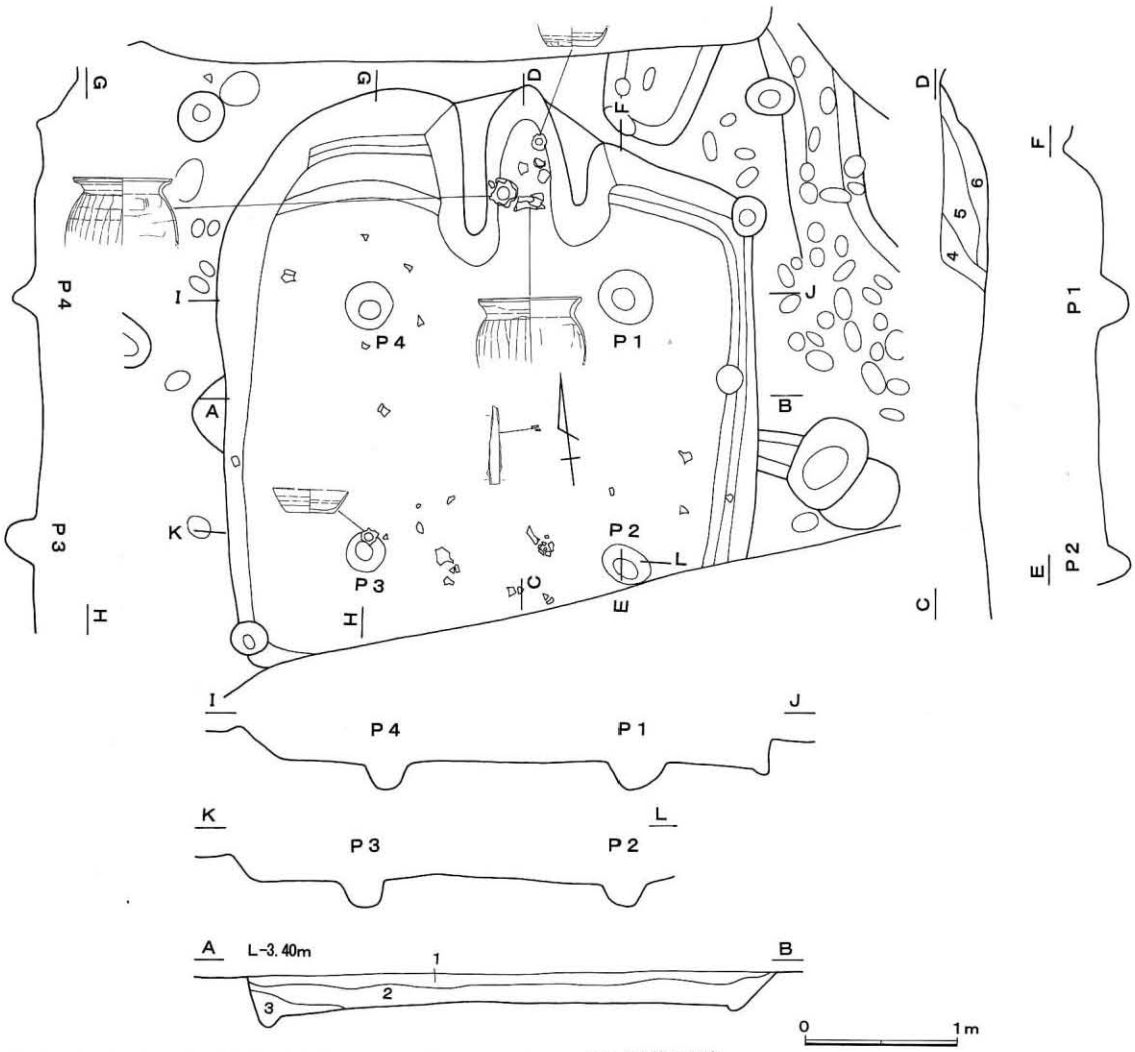


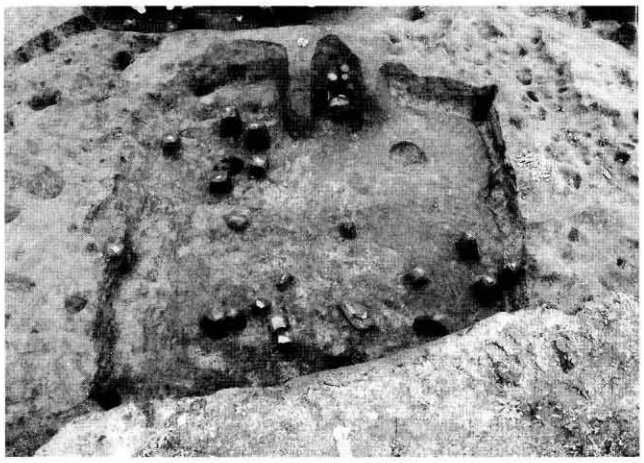


145 号住居跡

時　期	6 期
位　置	12E－57－6
規　模	4.25×4.25m
主軸方向	N－1°－W
深　さ	0.30m
床　面	黒色土を敷き詰めて平坦に整地し、少し軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所あり、深さ0.5～0.8m。
竈	検出されず。北東部を近世溝に切られ、消失。
遺　物	覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片、紡錘車、鉄製鏃、砥石出土。
特記事項	
層　序	1 黒色土(砂、焼土粒混じる) 2 黒灰色土(砂、焼土粒混じる) 3 黒灰色土(砂、焼土粒混じり、しまる) 4 黒灰色土(砂混じる)

図 92　奈良・平安時代の遺構（145 号住居跡）

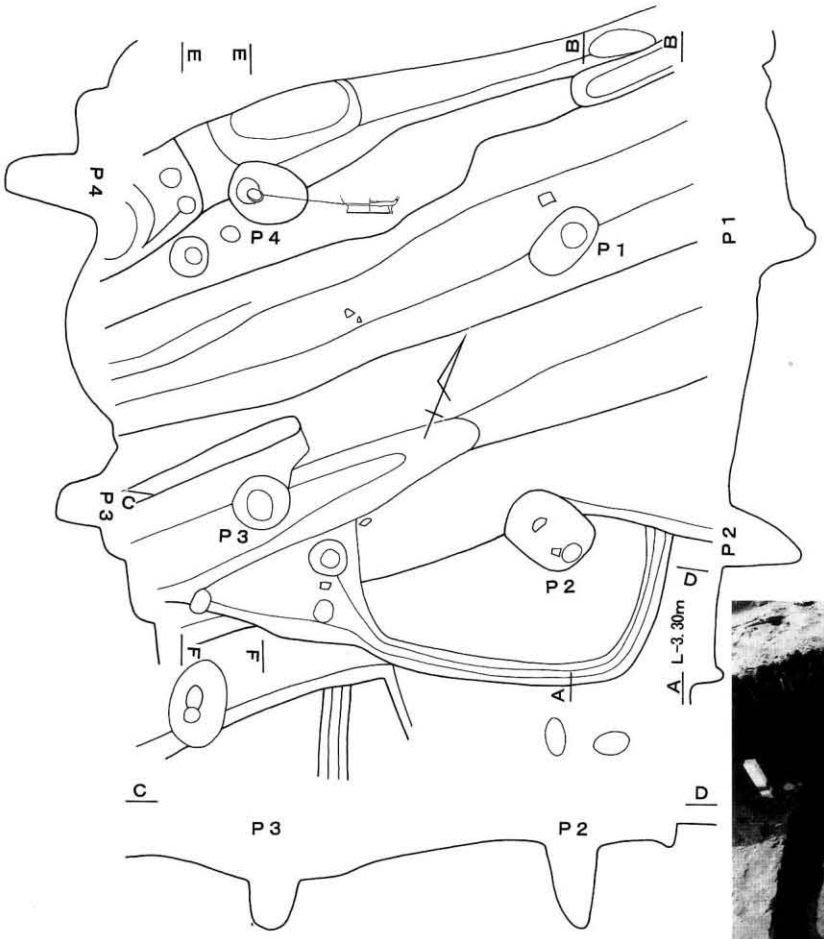




146 号住居跡

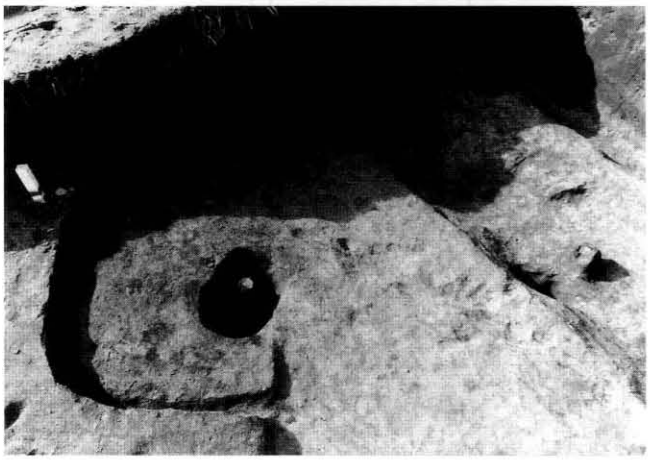
時　期	5 期
位　置	12E－57－11
規　模	3.50×3.31m
主軸方向	N－7°－E
深　さ	0.21m
床　面	砂地を平坦に整地し、少し軟弱。
柱　穴	対角線上に4箇所あり、深さ0.15～0.2m。
竈	北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅1.12m、奥行き1.20m。
遺　物	竈内、床面から土師器坏・甕、鉄製刀子出土。
特記事項	南壁は調査区域外のため、発掘できず。
層　序	1 黒色土(砂、褐色鉄混じる) 2 黒灰色土(砂、褐色鉄混じる) 3 黒色砂(砂混じり、しまる) 4 黒灰色土(砂、褐色鉄混じる) 5 黒灰色土(砂、褐色鉄、焼土、木炭混じる) 6 黒灰色土(砂、焼土混じり、しまる)

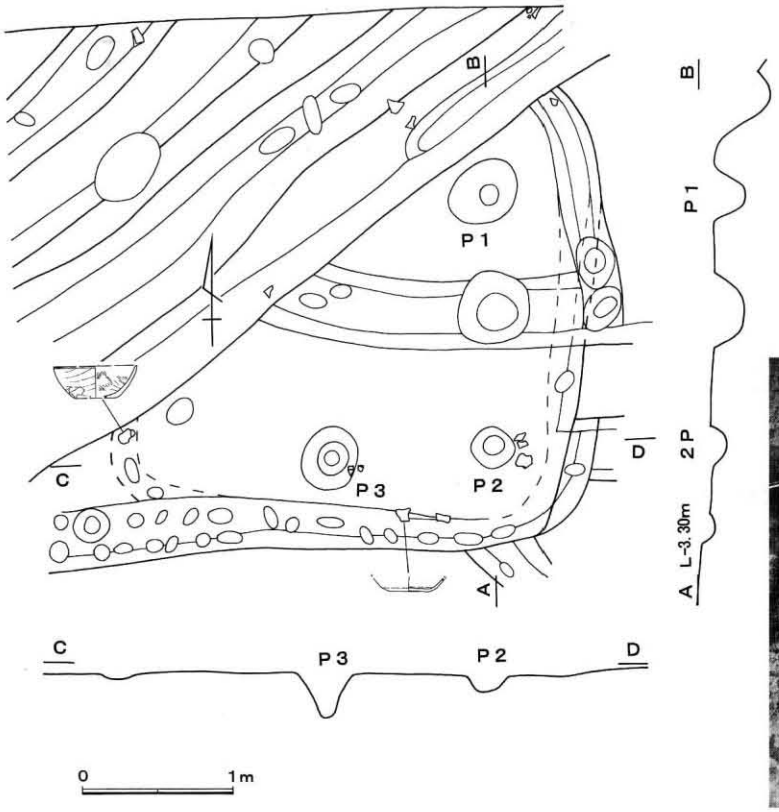
図 93　奈良・平安時代の遺構（146 号住居跡）



147 号住居跡

時　期	4 期
位　置	12E－57－6
規　模	－ × － m
主軸方向	N－11° －W
深　さ	0.13m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に4箇所検出、深さ0.5～0.8m。
竈	検出されず。
遺　物	柱穴内から土師器坏・甕片出土。
特記事項	近世溝に切られ、ほとんどを消失。

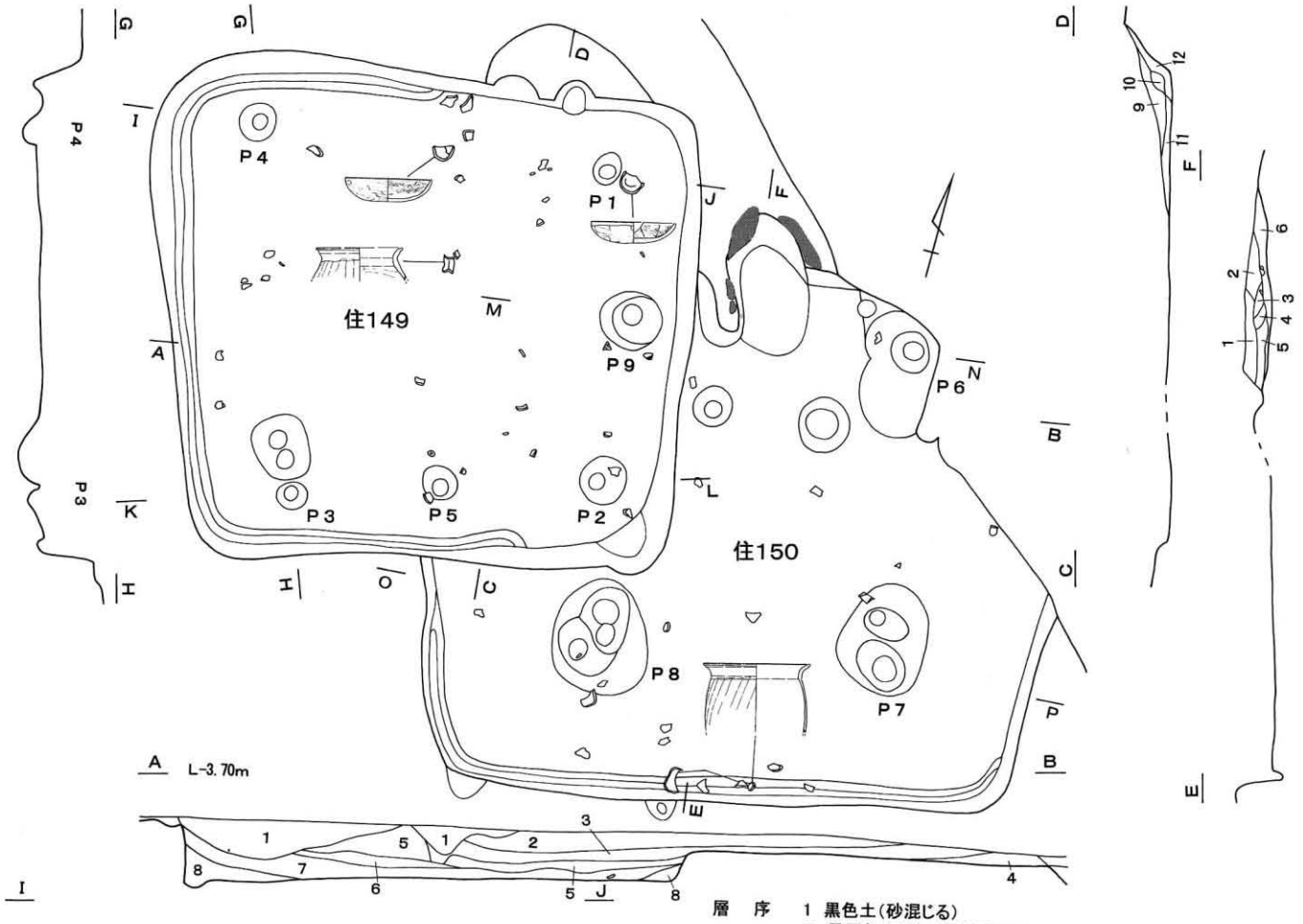


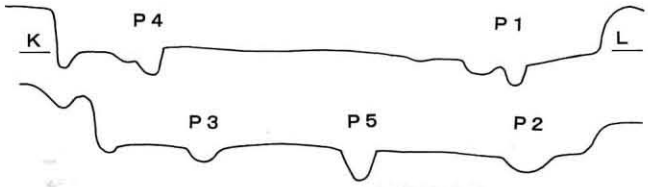


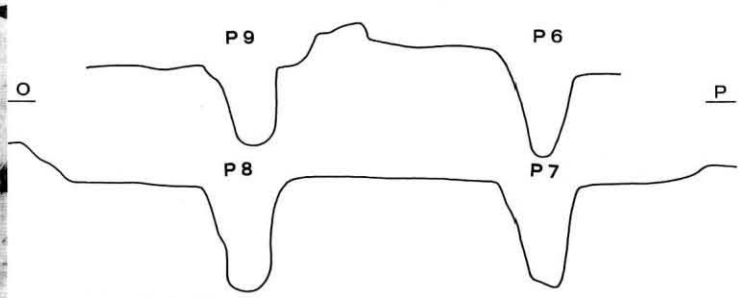
148 号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－45－9・14
規　模	2.90×3.10m
主軸方向	N－2° －W
深　さ	0.05m
床　面	砂地を平坦に整地している。
柱　穴	対角線上に2箇所と南壁付近にあり、深さ0.15～0.32m。
竈	検出されず。
遺　物	床面から土師器坏出土。
特記事項	北側を近世溝に切られ、竈を含む半分消失。

図 94　奈良・平安時代の遺構（147・148 号住居跡）







層　序
1 黒色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂、焼土混じる)
3 黒色土(砂混じり、硬くしまる)
4 黒灰色土(砂多く混じり、硬くしまる)
5 黒灰色土(白色砂多く混じる)
6 黒色土(白色砂混じる)
7 黒灰色土(白色砂混じり、硬くしまる)
8 黒灰色土(白色砂多く混じり、硬くしまる)
9 黒色土(砂、焼土混じる)
10 暗灰褐色土(砂、焼土多く混じる)
11 黒色土(砂多く混じる)
12 灰色砂(黒色土少し混じる)

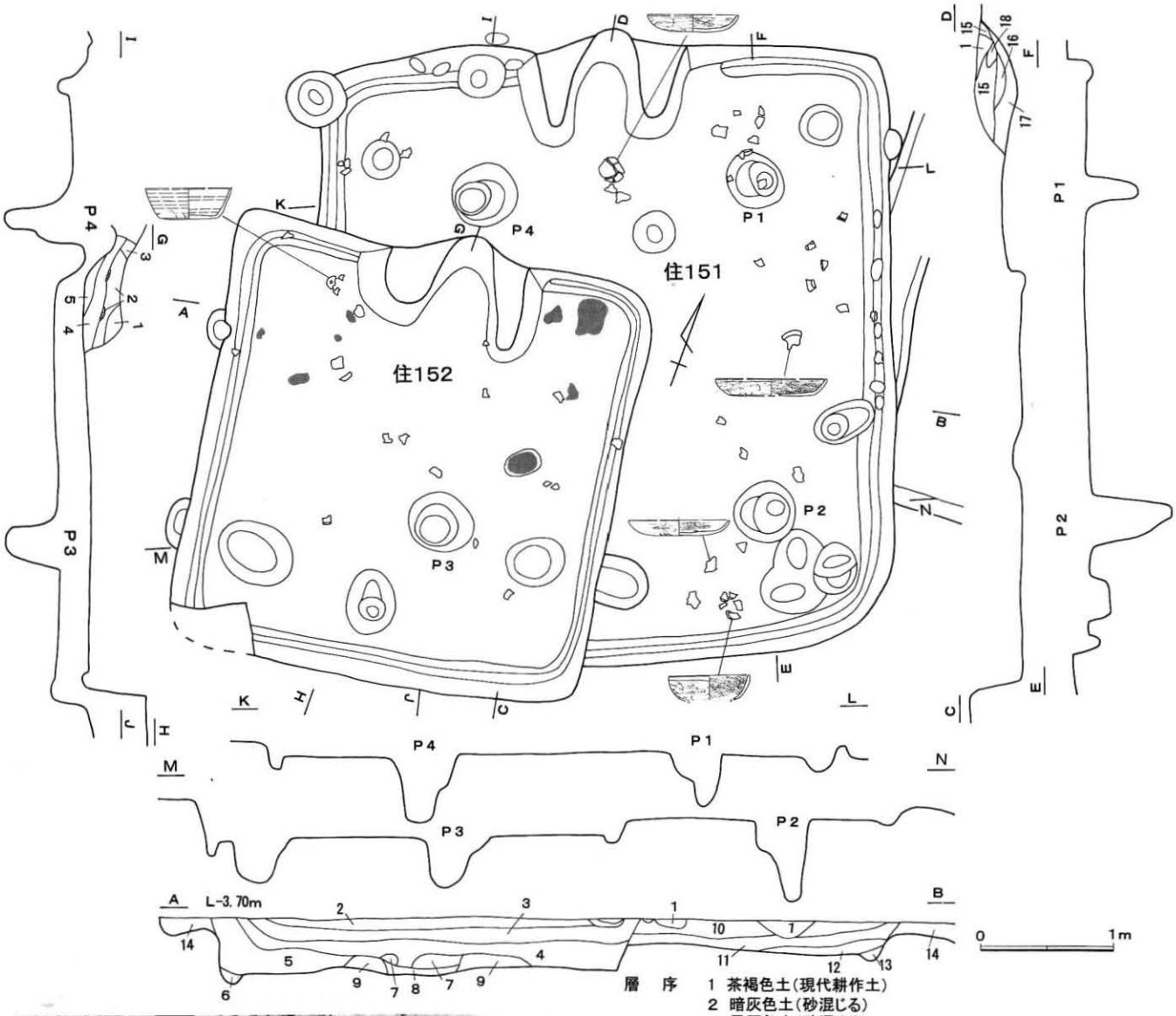
149 号住居跡

時　期　1 期
位　置　12E－56－4
規　模　3.28×3.60m
主軸方向　N－13°－W
深　さ　0.30m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　対角線上に4箇所と竈対面にあり、深さ0.15～0.20m。
竈　北壁中央より東に寄った所に痕跡あり、焼土が堆積する。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕出土。
特記事項　東側に150号住居跡が重なる。

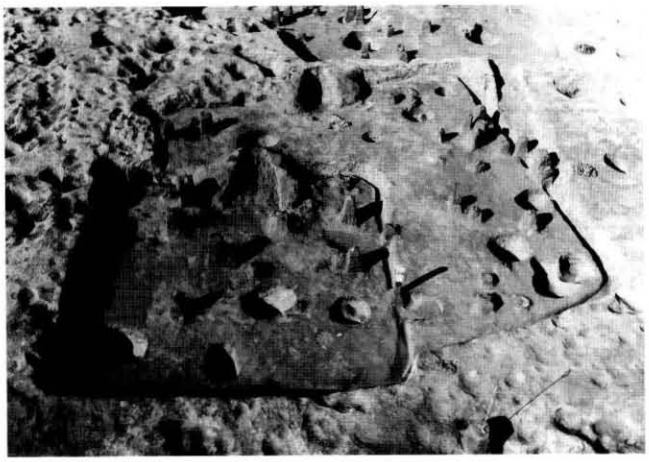
150 号住居跡

時　期　5 期
位　置　12E－56－4・5
規　模　3.55×4.30m
主軸方向　N－9°－W
深　さ　0.15m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　対角線上に4箇所あり、深さ0.70～0.80m。
竈　北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅1.00m、奥行き0.93m。
遺　物　床面、覆土中から土師器坏・甕、須恵器甕片転用硯出土。
特記事項
層　序
1 黒灰褐色土(砂、焼土混じり、硬い)
2 赤褐色砂
3 暗褐色砂
4 赤色砂
5 赤褐色砂(焼土、暗灰色土混じる)
6 黒色土(砂、焼土混じり、硬い)

図 95　奈良・平安時代の遺構（149・150 号住居跡）



層　序
1 茶褐色土(現代耕作土)
2 暗灰色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂混じる)
4 黒灰色土(砂、焼土混じる)
5 黒灰色土(砂少し混じり、軟弱)
6 黒灰色土(砂多く混じり、軟弱)
7 黄褐色砂(竈構築材)
8 黒色土(砂、焼土混じる)
9 黒色土(砂混じる)
10 黒色土(砂、焼土混じる)
11 黒色土(砂少し混じる)
12 暗灰色土(砂多く混じる)
13 黒色土(砂少し混じり、硬い)
14 黒色土(白色砂混じる)
15 暗褐色土(砂多く混じり、硬い)
16 暗褐色砂(暗褐色土、焼土混じる)
17 暗褐色砂(黒色土、焼土、木炭混じる)
18 赤褐色砂



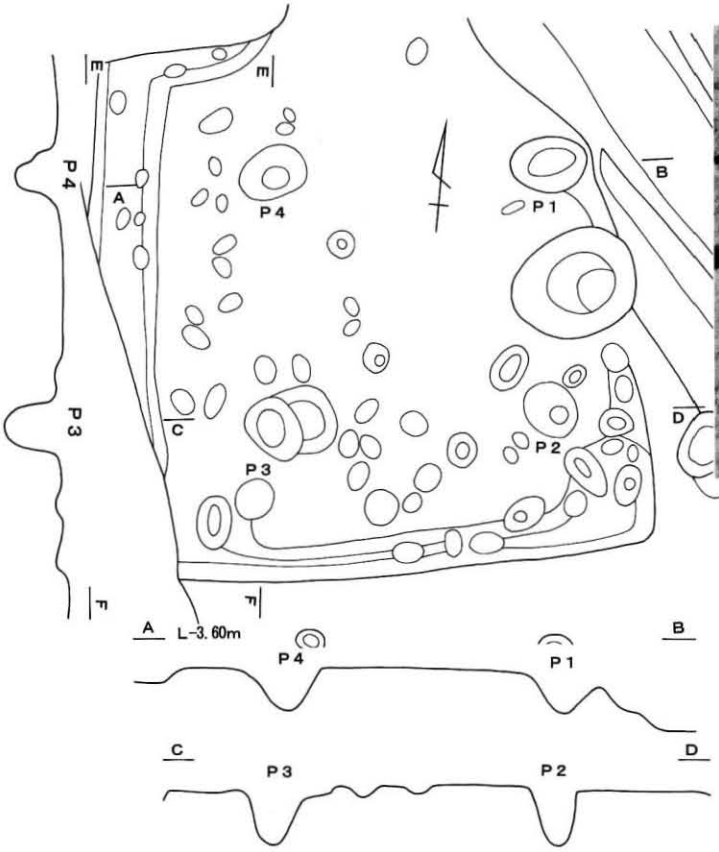
151 号住居跡

時　期　2 期
位　置　12E－56－4・5
規　模　4.42×4.22m
主軸方向　N－21°－W
深　さ　0.25m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　対角線上に4箇所あり、深さ0.40～0.60m。
竈　北壁中央にあり、構築材は灰色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅1.25m、奥行き0.89m。
遺　物　床面から土師器坏・甕片出土。
特記事項　南西部を152号住居跡に切られる。

152 号住居跡

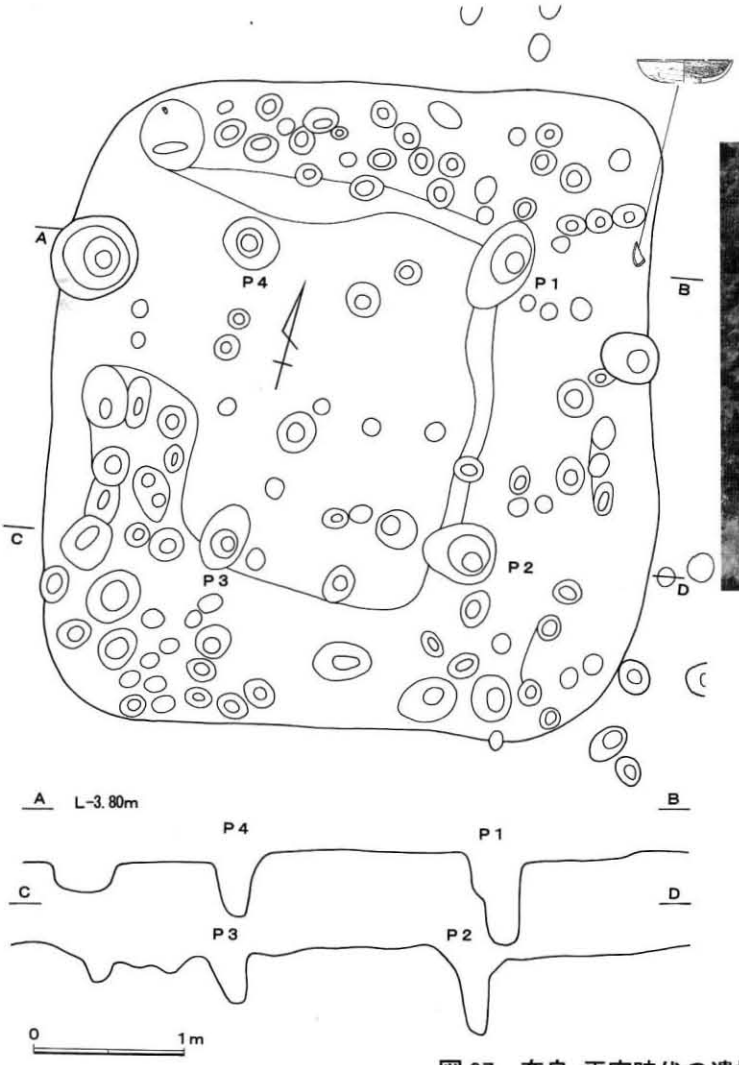
時　期　4 期
位　置　12E－56－4・9
規　模　3.12×3.02m
主軸方向　N－8°－W
深　さ　0.38m
床　面　砂地を平坦に整地し、よく踏み固めている。
柱　穴　検出されず。
竈　北壁中央にあり、構築材は黄褐色砂と黒色土を混ぜたもので、硬い。幅1.43m、奥行き0.92m。
遺　物　床面、覆土から土師器坏出土。
特記事項　住居跡内にある柱穴は中世建物跡のものである。
層　序
1 暗灰色土(砂多く、焼土混じる)
2 黄褐色砂(黒色土、焼土混じる。天井部)
3 暗灰色土(砂混じる)
4 黒色土(砂、焼土混じり、軟弱)
5 暗灰色土(砂、焼土多く混じり、硬い)

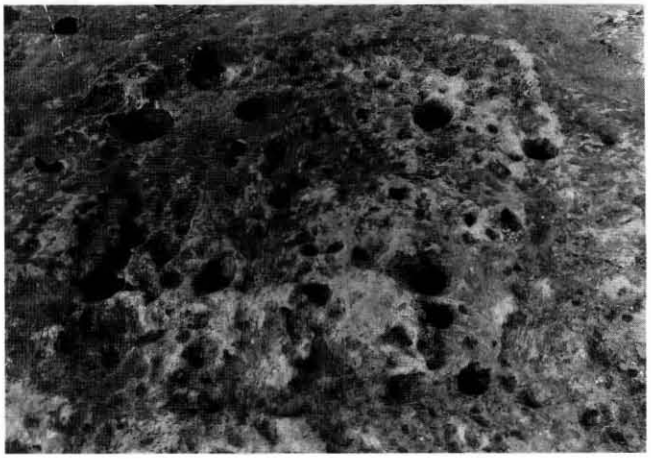
図 96　奈良・平安時代の遺構（151・152 号住居跡）



153 号住居跡

時　期	1 期
位　置	12E－56－5
規　模	3.20×3.00m
主軸方向	N－5°－W
深　さ	0.05m
床　面	砂地を平坦に整地しいるが、軟弱である。
柱　穴	対角線上に4箇所あり、深さ0.25～0.35m。
竈	検出されず。
遺　物	ほとんど出土せず。
特記事項	北東側を近世溝に切られ、浅いため依存度が良くない。

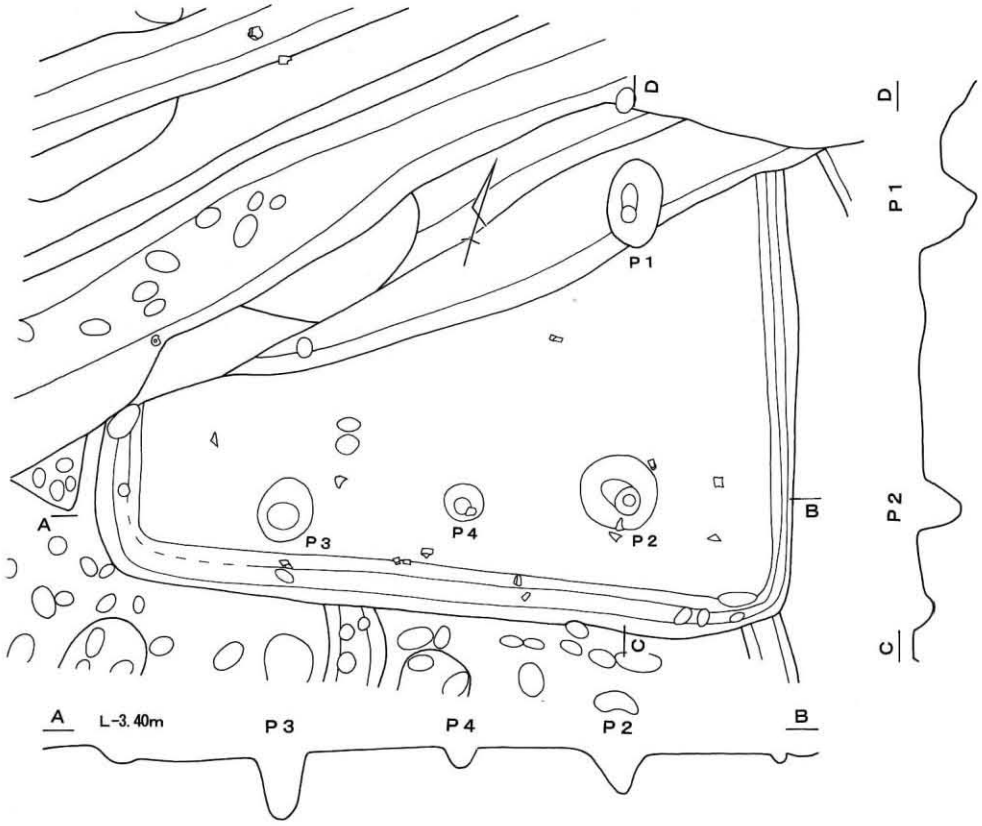


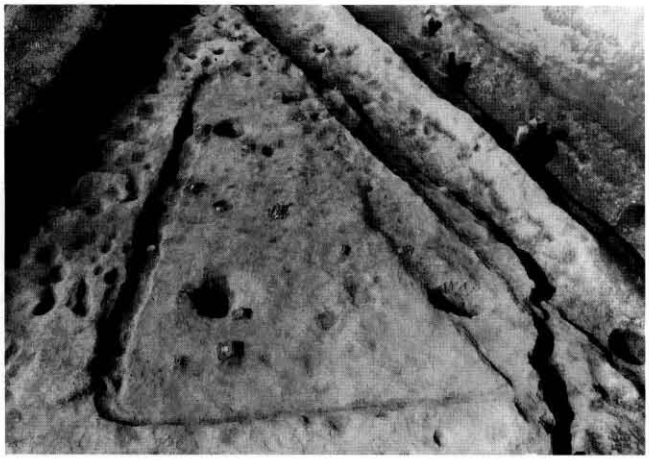


154 号住居跡

時　期	1 期
位　置	12E－56－10
規　模	4.30×4.00m
主軸方向	N－11°－W
深　さ	0.05m
床　面	整地した床面は無く、掘り方を検出。
柱　穴	対角線上に4箇所あり、深さ0.30～0.60m。
竈	検出されず。
遺　物	掘り方より土師器坏出土。
特記事項	住居を建てた跡か、建てようとして途中でやめたものか。

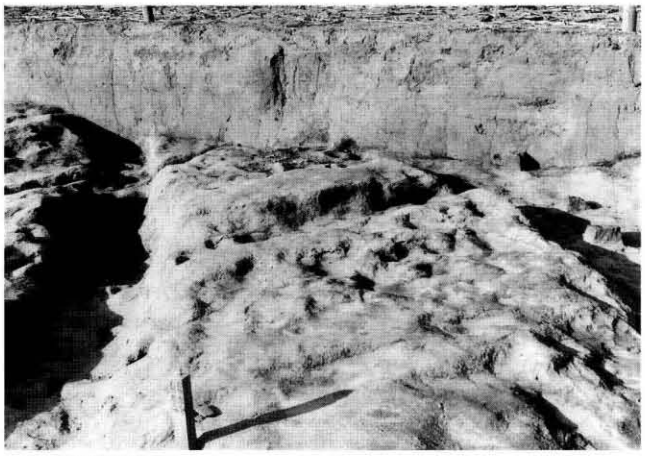
図 97　奈良・平安時代の遺構（153・154 号住居跡）

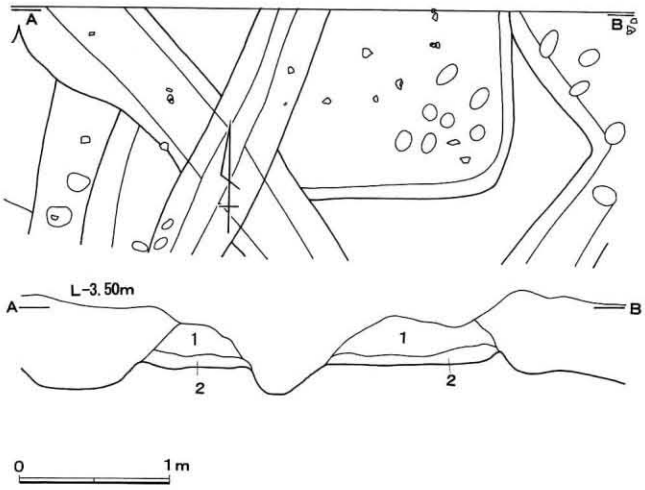




155 号住居跡

時　期	5 期
位　置	12E－56－15
規　模	－　×4.45m
主軸方向	N－13°　－W
深　さ	0.10m
床　面	砂地を平坦に整地し、少し凹凸がある。
柱　穴	対角線上に3箇所と南側柱穴の間にあり、深さ0.15～0.45m。
竈	検出されず。
遺　物	床面より土師器坏、須恵器長頸壺出土。
特記事項	北側を近世溝に切られ、竈を含む半分を消失。

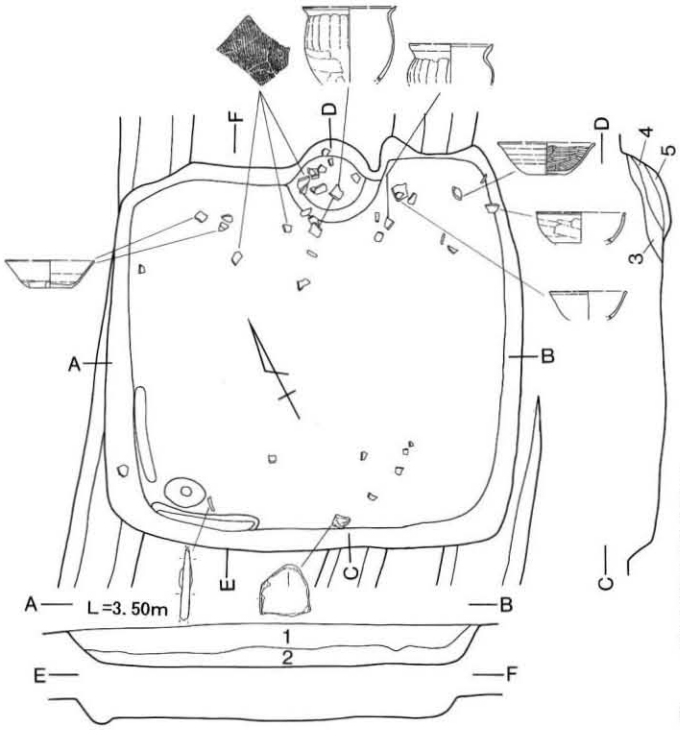




156 号住居跡

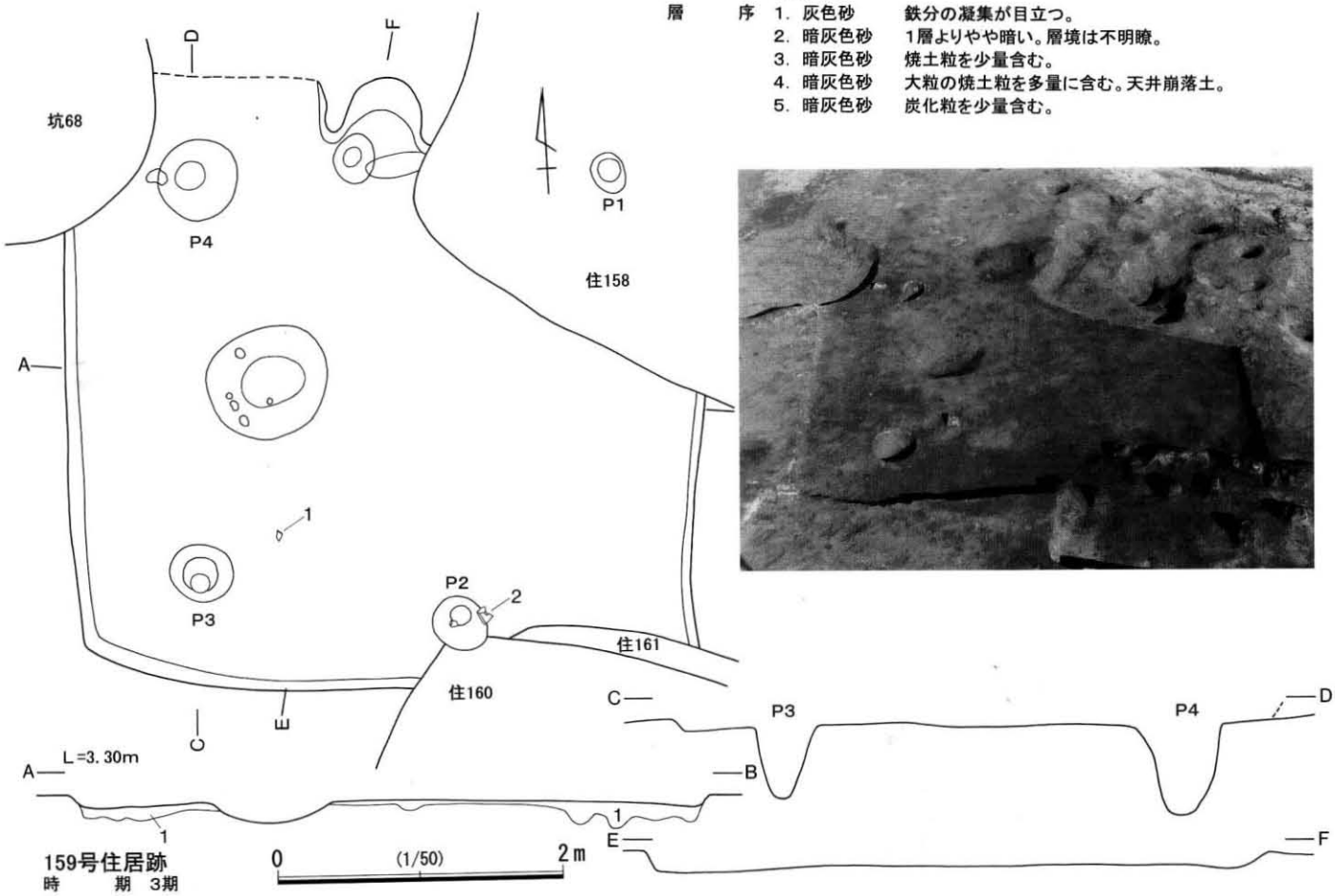
時　期	7 期
位　置	12E－41－14
規　模	－　×　－　m
主軸方向	N－4°　－W
深　さ	0.08m
床　面	砂地を平坦に整地し、少し凹凸がある。
柱　穴	検出されず。
竈	検出されず。
遺　物	床面から土師器坏・甕片出土。
特記事項	北側は調査区域外で発掘できず、中世溝に切られ、全容不明。
層　序	1 黒灰色土(砂混じる) 2 暗灰色土(砂混じる)

図 98　奈良・平安時代の遺構（155・156 号住居跡）



157号住居跡

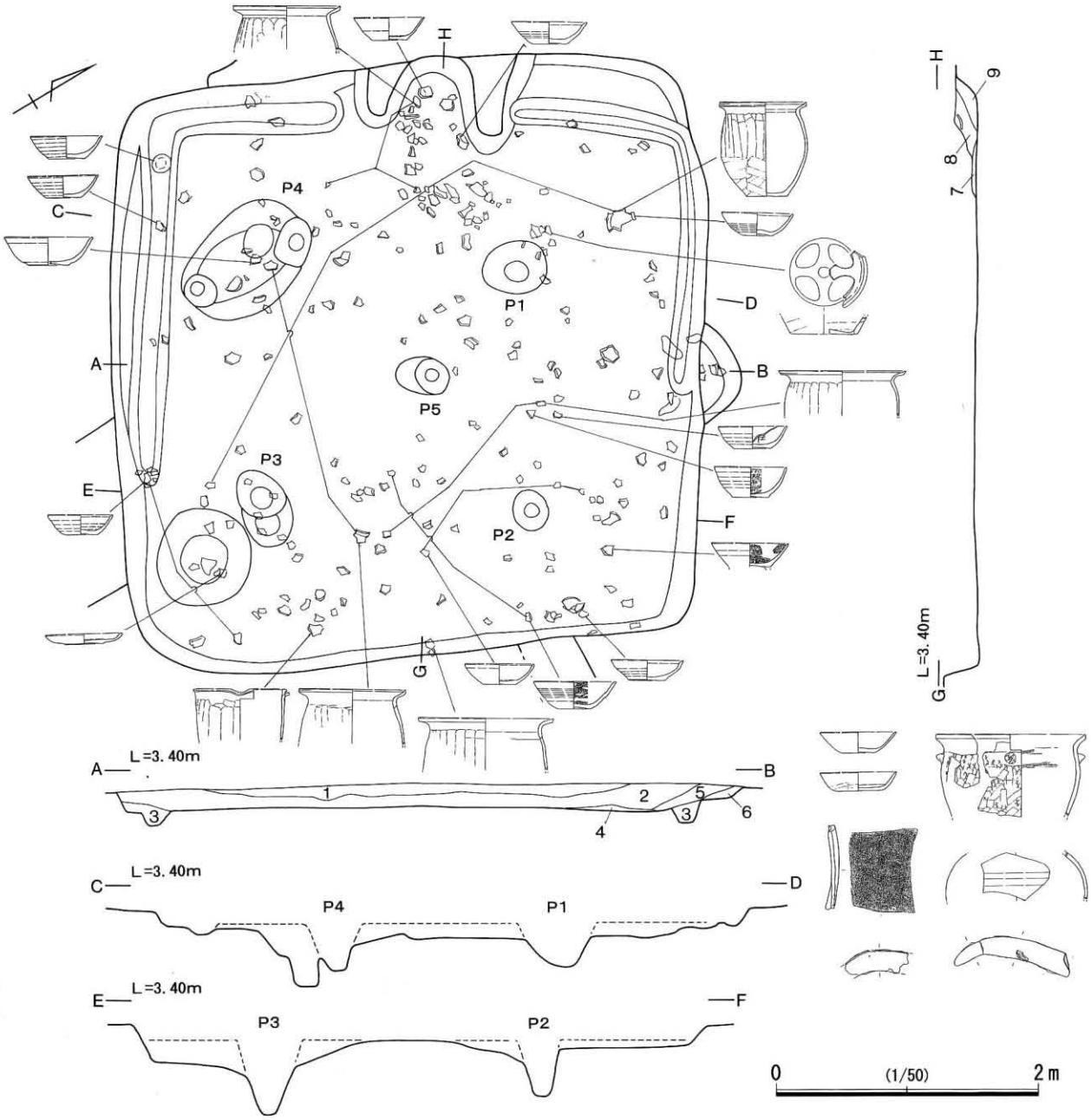
時　　期　6期
位　　置　12E－51－3・4北側
規　　模　2.59×2.76m
主軸方向　N－18°－E
深　　さ　0.47m。壁は崩落が著しく、外側に傾斜。
床　　面　軟弱。地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高3.1m。
柱　　穴　無し。
竈　　北壁中央に構築。住居覆土と竈構築材の判別が困難だったため、袖部は調査中に認識できず取り除いてしまっている。
遺　　物　土師器が大半を占める。土師器坏(2)が床面から出土。この他、鉄鏃(9)が出土。また、図示できなかったが内面黒色処理の皿の破片も出土している。
層　　序　1. 灰色砂　鉄分の凝集が目立つ。
　　2. 暗灰色砂　1層よりやや暗い。層境は不明瞭。
　　3. 暗灰色砂　焼土粒を少量含む。
　　4. 暗灰色砂　大粒の焼土粒を多量に含む。天井崩落土。
　　5. 暗灰色砂　炭化粒を少量含む。

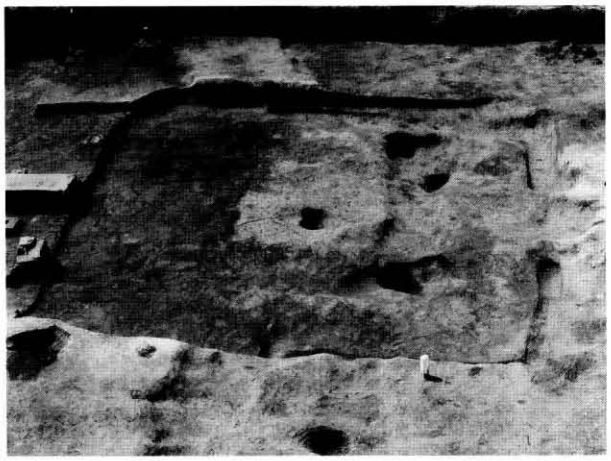


159号住居跡

時　　期　3期
位　　置　12E－51－8
規模・主軸　4.24×4.45m
主軸方向　N－2°－E
深　　さ　0.18m。壁の残りは不良で北壁は確認できなかった。
床　　面　貼床は地山砂と暗褐色砂を混ぜて構築されるが軟弱。掘方は中央部を掘り残す。床面の標高は3.1m。
柱　　穴　P1・P3・P4は主柱穴となる。P2は位置がややずれるものの主柱穴となるか。深さは全て0.5～0.6m。
竈・炉　北壁中央に構築。袖はわずかに残存。住居中央西側の浅い掘り込みからは、スサを含む焼土塊が出土しているため炉となるか。
遺　　物　出土量は極めて少なく、土師器坏(1)など図示できたのは2点である。158号住居跡出土の土師器坏(21)は本住居跡に帰属するものか。
特記事項　158号住・160号住・161号住・68号土坑と重複するが、本住居跡が最も古い。
層　　序　1. 暗黄灰色土　貼床。地山の黄灰色砂を含む。

図99　奈良・平安時代の遺構（157・159号住居跡）



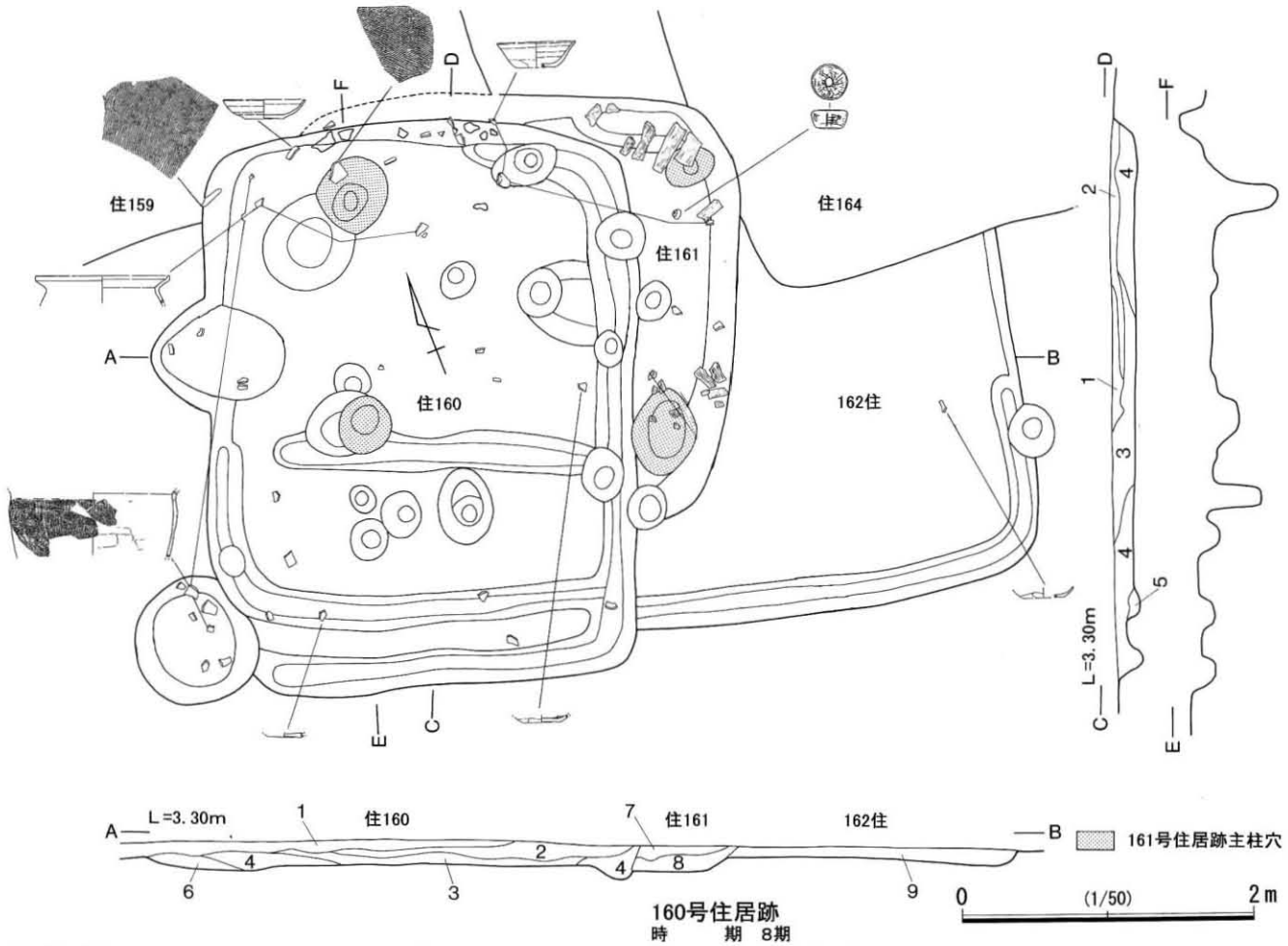


158号住居跡（北から）

158号住居跡

時期	8期
位置	12E－51－8・9北側
規模	4.74×4.56m
主軸方向	N－58°－W
深さ	0.18m。壁は崩落により外側に傾斜する。
床面	一度に掘方まで掘ってしまったため、床面の状態は不明。掘方は中央部を高く残す。床面の推定標高は3.1m。
柱穴	P1～P4が主柱穴。深さは0.3～0.5m。
竈	北壁中央に旧竈の痕跡。新竈は西壁中央に構築。
出土遺物	住居跡全体から多量に出土。土師器主体だが須恵器も少なくない。器種は土師器坏・甕・甑・片口鉢・皿、灰釉陶器埦(34)、緑釉陶器埦(36)など豊富。土師器坏(21)は159号住居跡に帰属するものか。
特記事項	新竈の袖下で周溝の痕跡を確認。159号住・164号住・165号住と重複するが、本住居跡が最も新しい。
層序	1. 灰色砂　鉄分の凝集がみられる。 2. 暗灰褐色土　褐色土と灰色砂が交互に縞状に堆積。鉄分の凝集が目立つ。 3. 暗灰褐色土　砂を多く含む。 4. 黒灰色土　炭化粒を多量に含む。 5. 暗灰色土　砂を多く含む。大粒の焼土粒を含む。 6. 暗灰色土　砂を多く含む。焼土粒を少量含む。 7. 黒灰色土　炭化粒を多量に含む。 8. 暗灰色土　砂と大粒の焼土粒を多量に含む。天井崩落土。 9. 暗灰色土　砂と焼土粒を多量に含む。

図100　奈良・平安時代の遺構（158号住居跡）



160号住居跡

時　　期　8期
位　　置　12E－51－8
規　　模　3.62×3.85m
主軸方向　N－72°－W
深　　さ　0.14m。
床　　面　地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.1m。
柱　　穴　主柱穴と推定されるピットは検出していない。
竈　　西壁中央に構築。近世溝に大半を壊される。
遺　　物　土師器主体。底部未調整の土師器坏(1)、(3)が出土。やや古めの特徴を持つ土師器坏(2)は161号住のものか。
特記事項　住居中央部の溝は161号住居の周溝の痕跡と考えられる。南壁際の周溝は拡張によるものだろう。159号住居・161号住居・162号住居と重複するが、本住居跡が最も新しい。
層　　序　1. 茶褐色土　砂を含む。近世以降の溝。
2. 暗灰色砂　焼土粒を含む。均質で軟弱な砂層。
3. 黒灰色砂　均質でしまりのある砂層。
4. 暗灰色砂　暗灰色砂と黒灰色土が交互に縞状に堆積。
5. 黒灰色砂　地山の黄灰色砂が混じる。
6. 黒色土　砂を多く含む。炭化粒と焼土粒を含む。

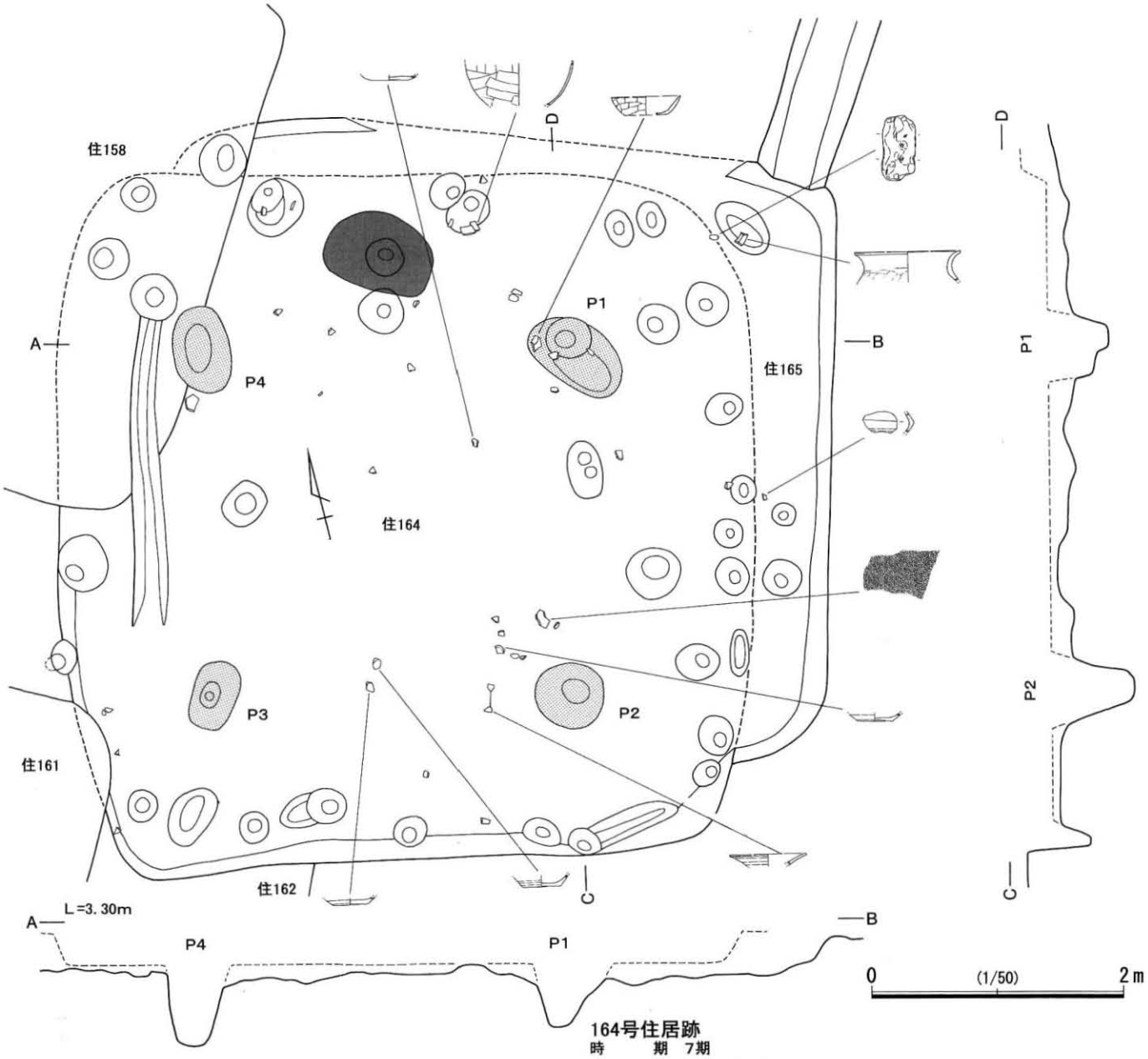
161号住居跡

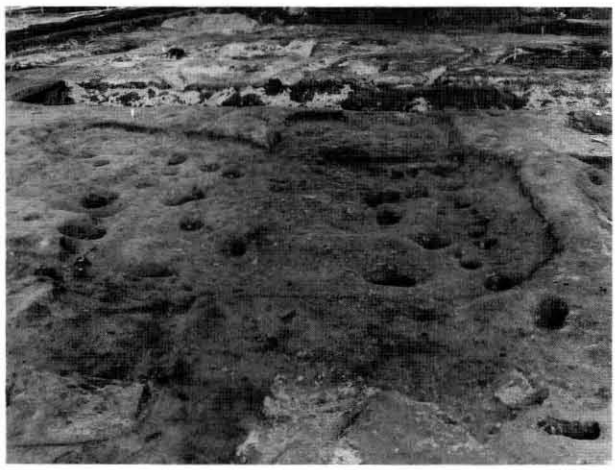
時　　期　7期
位　　置　12E－51－8
規　　模　2.88×3.18m(推定)
主軸方向　N－20°－E(推定)
深　　さ　0.11m。東壁は崩落が著しく、外側に傾斜する。北壁の一部は焼失に伴い、赤化して残存する。
床　　面　暗灰色砂に地山の砂をまぜて床を構築。床面の標高はほぼ3.1m。
柱　　穴　やや壁際に近いがP1～P4が主柱穴。深さは0.2m～0.4m。
竈　　不明。
遺　　物　出土量は少なく、土師器が主体。須恵器は図示した坏(1)が1点のみ。「里」と刻書された石製紡錘車(2)が出土している。
特記事項　覆土に多量の炭化物と焼土を含んでいることから焼失住居と考えられる。南壁側に周溝の痕跡あり。159号住・160号住・162号住・164号住と重複する。新旧関係は159号住・162号住→164号住→161号住→160号住。
層　　序　7. 黒灰色土　砂を少量含む。炭化材を含む。炭化物主体の層。
8. 暗灰色砂　暗灰色砂と黒灰色土が交互に縞状に堆積。

162号住居跡

時　　期　6期
位　　置　12E－51－8・9
規　　模　－×－m
主軸方向　N－10°－E(推定)
深　　さ　0.05m。
床　　面　地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.2m。
柱　　穴　無し
竈　　不明。
遺　　物　出土量は極めて少なく土師器のみ。図示できたのは床面から出土した土師器坏(1)が1点である。
特記事項　周溝を東壁の一部と南壁で検出。160号住・161号住・159号住と重複するが本住居跡が最も古い。
層　　序　9. 暗灰色砂　地山の黄灰色砂が混じる。均質で軟弱な砂層。

図101　奈良・平安時代の遺構（160～162号住居跡）





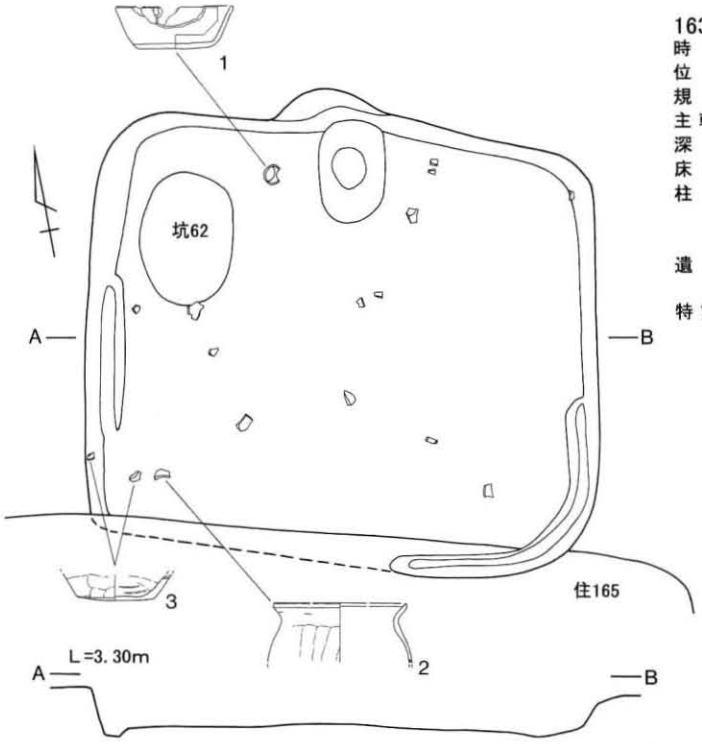
164号住居跡

時期	7期
位置	12E－51－9
規模	5.40×5.24m(推定)
主軸方向	N－12° －E
深さ	0.25m。
床面	一度に掘方まで掘ってしまったため、床面の状態は不明。堀方は中央部を高く掘り残す。床面の推定標高は3.0m。
柱穴	P1～P4の主柱穴及び四壁下に多数の壁柱穴を持つ。深さは主柱穴が0.5～0.7m、壁柱穴が0.3～0.5m。
竈	北壁中央の焼土範囲及び粘質土が竈の痕跡と考えられるが、残りが悪く形態不明。
遺物	土師器が主体。土師器坏(1)及び土師器皿(4)が床面から出土。土師器坏(5)、(6)は前段階の特徴を持つことから、165号住のものとなる可能性が高い。
特記事項	東壁近くの周溝は165号住居跡のもの。158号住・161号住・162号住・165号住と重複。新旧関係は162号住・165号住→164号住→158号住・161号住。

165号住居跡

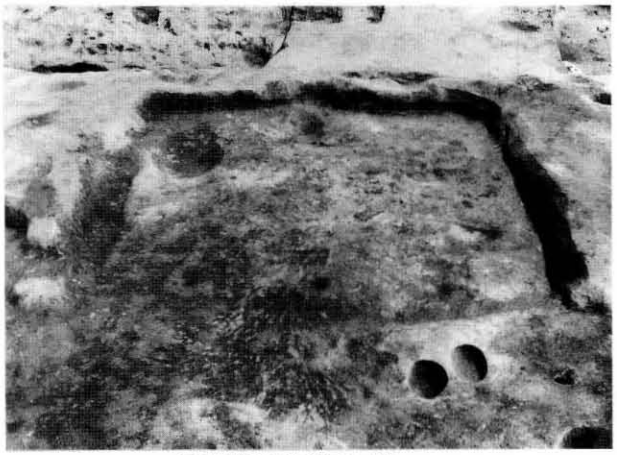
時期	4期
位置	12E－51－9
規模	4.8×5.56m(推定)
主軸方向	N－14° －E
深さ	0.26m。
床面	一度に掘方まで掘ってしまったため、床面の状態は不明。床面の推定標高は3.0m。
柱穴	明確な主柱穴は持たない。東壁下のピットは壁柱穴になるか。
竈	竈の位置は不明だが、北東隅から土製支脚が出土している。
遺物	土師器が主体。164号住から出土した土師器坏(5)、(6)は、本住居跡に帰属するものか。
特記事項	東壁下に周溝。158号住・163号住・164号住と重複。新旧関係は163号住・165号住→164号住→158号住。

図 102　奈良・平安時代の遺構（164・165 号住居跡）

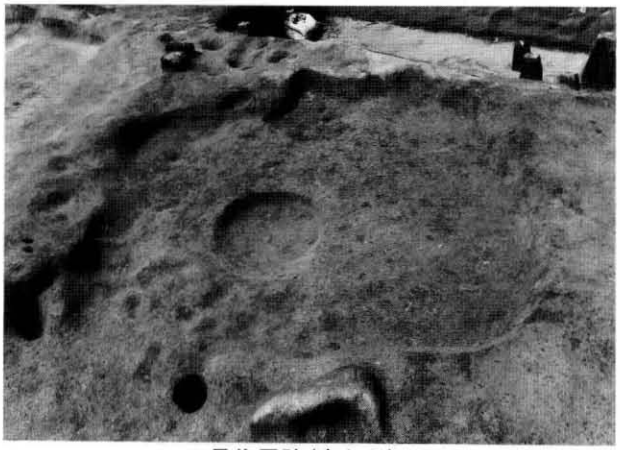


163号住居跡

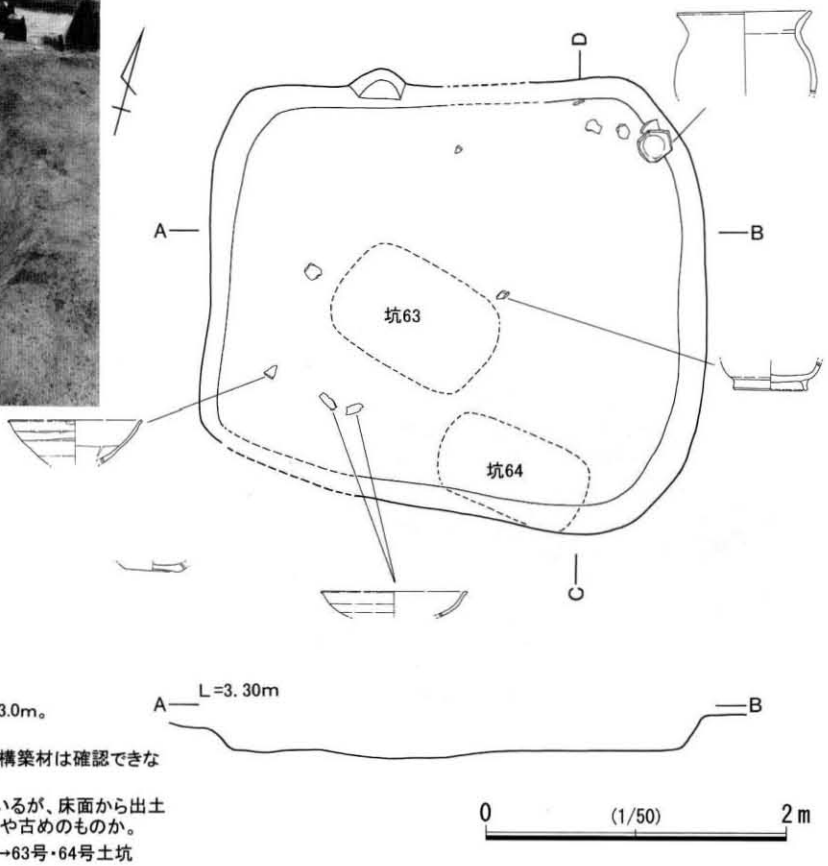
時期	5期
位置	12E－51－9北側
規模	2.97×3.41m
主軸方向	N－12°－E
深さ	0.29m。南壁は165号住居跡に壊される。
床面	軟弱。地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.0m。
柱穴	無し
竈	北壁中央に構築。住居覆土と竈構築材の判別が困難なため、袖は調査中に認識できず取り除いてしまった可能性が高い。
遺物	土師器のみで出土量も少ない。床面近くから口縁部を打ち欠かれた土師器坏(1)が出土。
特記事項	165号住・62号土坑と重複。新旧は165号住→163号住→62号土坑。



163号住居跡（南から）



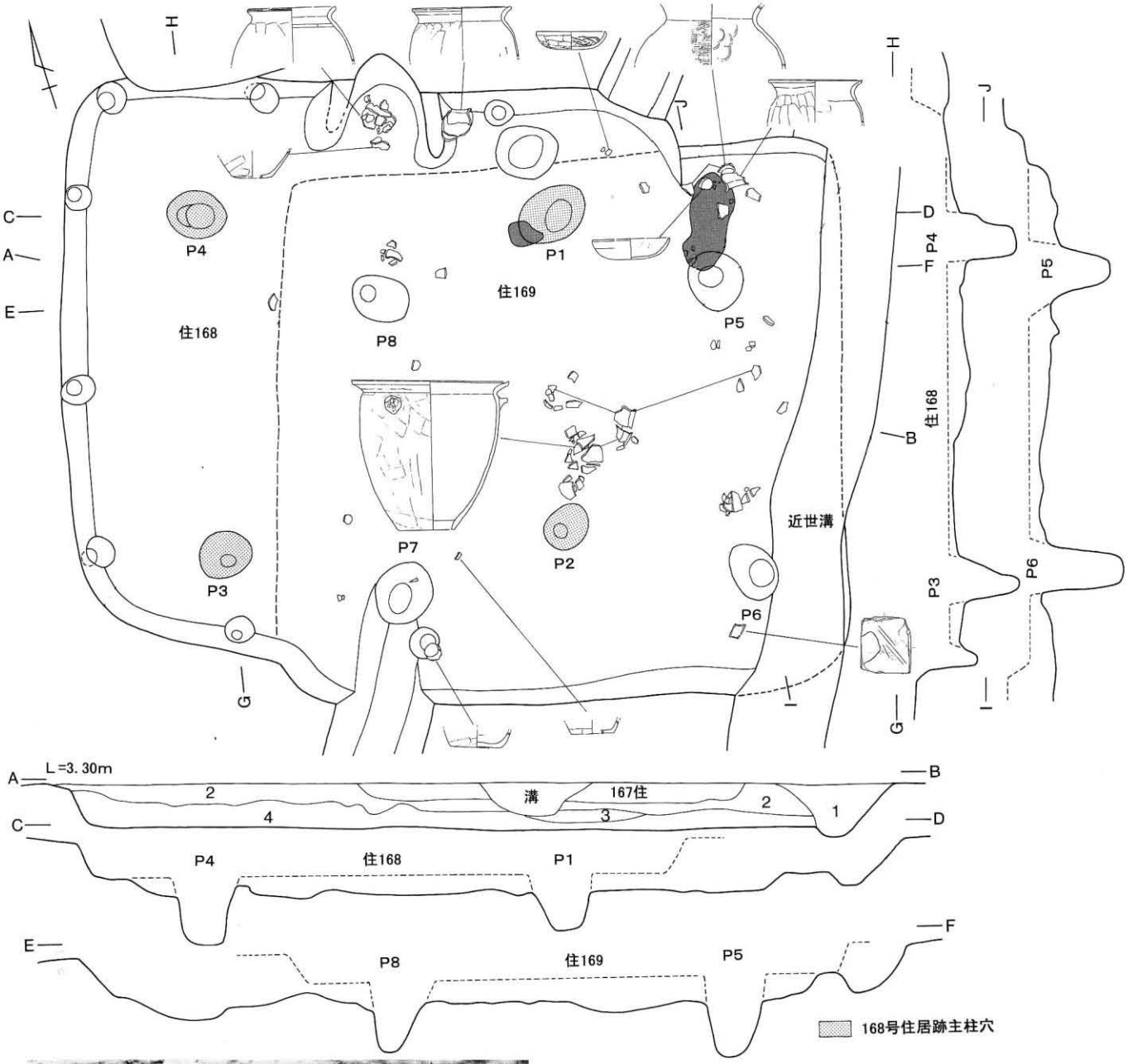
166号住居跡（南から）

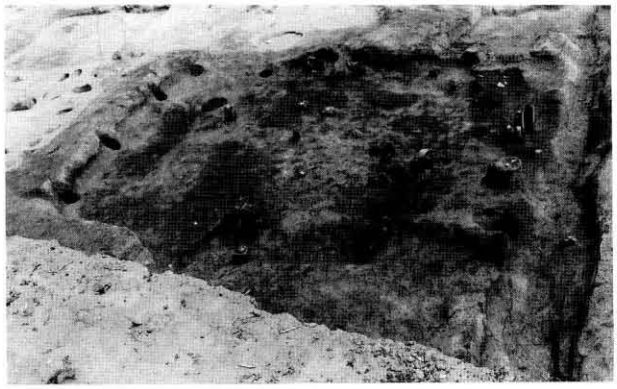


166号住居跡

時期	7期
位置	12E－51－9北側
規模	3.02×3.28m
主軸方向	N－15°－E(推定)
深さ	0.32m。壁は崩落が著しく外側に傾斜する。
床面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.0m。
柱穴	無し
竈	北壁中央の掘り込みが竈と考えられるが、焼土や構築材は確認できなかった。
遺物	出土量は少ない。灰釉陶器埦(4)、(5)が出土しているが、床面から出土した土師器甕(3)や土師器台付坏(2)はそれよりやや古めのものか。
特記事項	63号土坑・64号土坑と重複。新旧関係は166号住→63号・64号土坑

図 103　奈良・平安時代の遺構（163・166 号住居跡）





168号住居跡

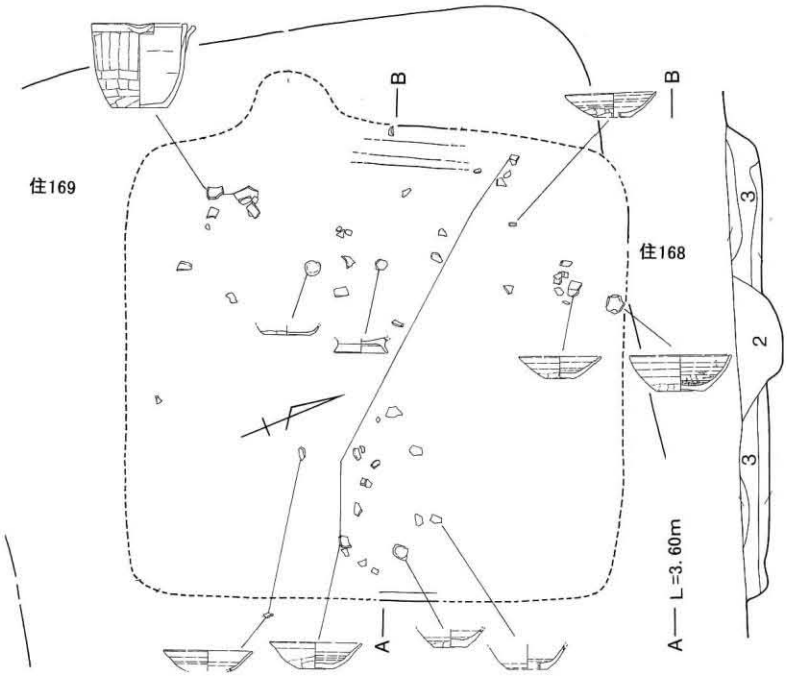
0 (1/50) 2m

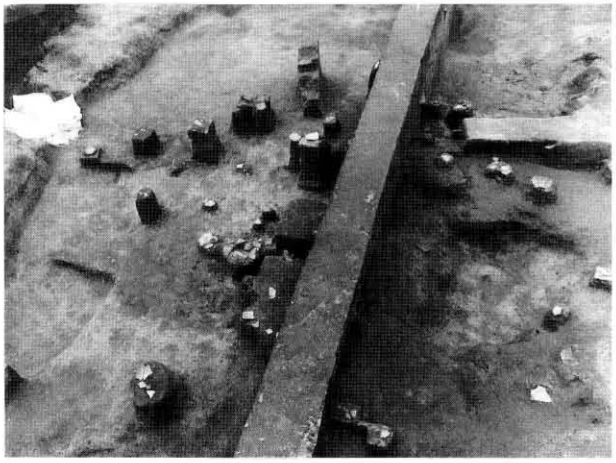
時期	3期
位置	12E－51－9・10南側
規模	4.69×4.99m
主軸方向	N－14°－E
深さ	0.34m。南壁の半分と東壁は169号住居に壊される。
床面	貼床は暗褐色砂に暗褐色土を混ぜて構築するが軟弱。掘方は住居中央部を高く掘り残す。床面の標高は2.9m。
柱穴	P1～P4の主柱穴と多数の壁柱穴を持つ。深さは主柱穴が0.5～0.6m、壁柱穴が0.2～0.4m。
竈	北壁中央に構築。構築土は暗灰色砂に灰色の粘質土を混ぜる。
遺物	土師器主体。非ロクロ整形の土師器坏(1)、(2)のほか、竈とその周囲から土師器甕(3)～(5)が出土。
特記事項	166号住・167号住・169号住と重複するが、本住居跡が最も古い。

169号住居跡

時期	4期
位置	12E－51－9・10南側
規模	4.35×4.72m(推定)
主軸方向	N－13°－E(推定)
深さ	0.28m。東壁は近世溝に壊される。
床面	軟弱。掘方は住居中央部を高く掘り残す。床面の標高は2.9m。
柱穴	P5～P8が主柱穴。深さは0.6～0.7m。
竈	P1上で焼土と粘質土を検出していることから竈はこの周辺に構築されていたと考えられるが、調査時の不手際から検出できなかった。
遺物	土師器主体。出土遺物の時期に幅があり、土師器坏(7)は168号住のものか。土師器甑(10)は164・165号住居と遺構間接合。
特記事項	167号住・168号住と重複。新旧関係は168号住→169号住→166号住
層序	1. 茶褐色土　砂を多く含む。近世の溝。 2. 暗灰色砂　均質で軟弱な砂層。風成堆積か。 3. 灰色土　焼土粒を含む。粘性のあるシルト質土が主体。 4. 暗灰色砂　鉄分が凝集。暗灰色砂と褐色土が縞状に堆積。

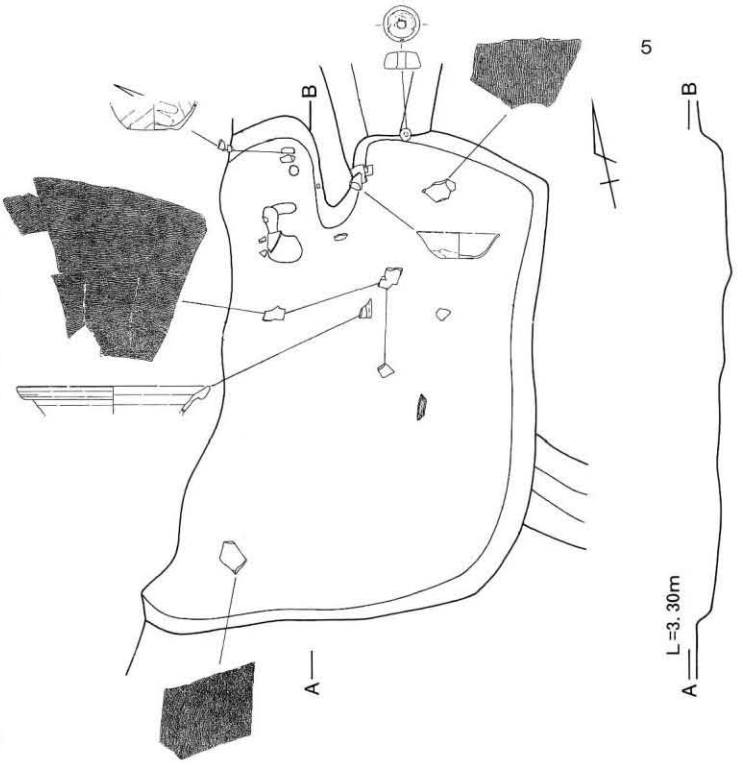
図 104　奈良・平安時代の遺構（168・169 号住居跡）





167号住居跡

時　　期　8期
位　　置　12E－51－9・10南側
規　　模　3.29×3.11m(推定)
主軸方向　N－65°－E(推定)
深　　さ　0.24m。
床　　面　掘りすぎたため、セクションベルトで確認。貼床は黒色砂に粘質土を混ぜて構築。床面の標高は3.0m。
柱　　穴　不明。
竈　　セクションベルトで確認。西壁のほぼ中央に構築か。
遺　　物　土師器坏が主体で、片口鉢(10)や土師器埦(9)のほか、図示できなかったが緑釉陶器埦の破片も出土。
特記事項　西壁下に周溝(セクションベルトで確認)。168号住居・169号住居と重複。新旧関係は168号住居→169号住居→167号住居。
層　　序　1. 暗茶褐色土　砂を多く含む。近世か。
2. 暗灰色土　砂を多く含む。下層にシルト質の黒灰色土が薄く堆積する。中世の溝か。
3. 暗灰色土　砂を多く含む。炭化粒を少量含む。
4. 黒灰色土　やや粘性のあるシルト質土が混じる。焼土粒・炭化粒を少量含む。貼床か。

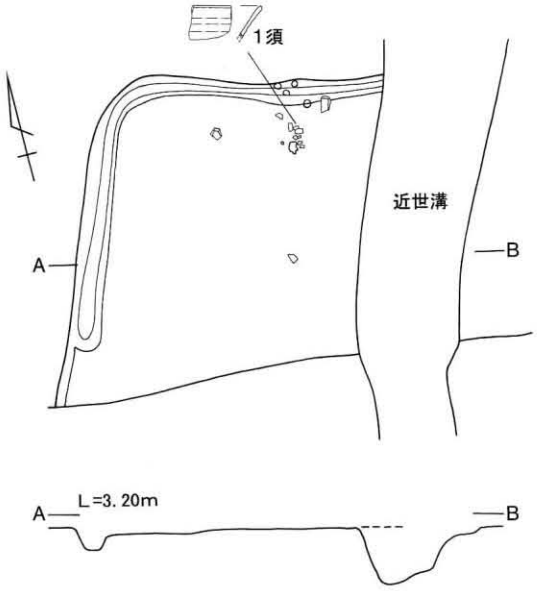


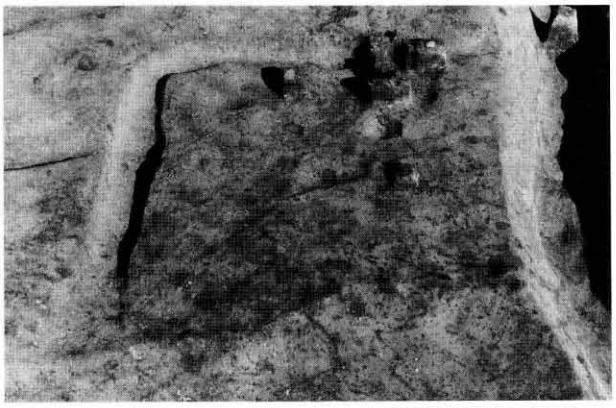
170号住居跡

時　　期　6期
位　　置　12E－51－15北側
規　　模　3.15×－m
主軸方向　N－8°－E
深　　さ　0.23m。西壁は近世溝に壊される。
床　　面　地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.1m。
柱　　穴　無し
竈　　北壁中央に構築。左袖は近世溝に壊される。
遺　　物　遺物の出土量は少ないが、須恵器の占める割合が高い。須恵器は転用硯が目立つ。土師器坏(1)のほか、石製紡錘車(8)や椀形滓も出土。

0　(1/50)　2m

図105　奈良・平安時代の遺構（167・170号住居跡）

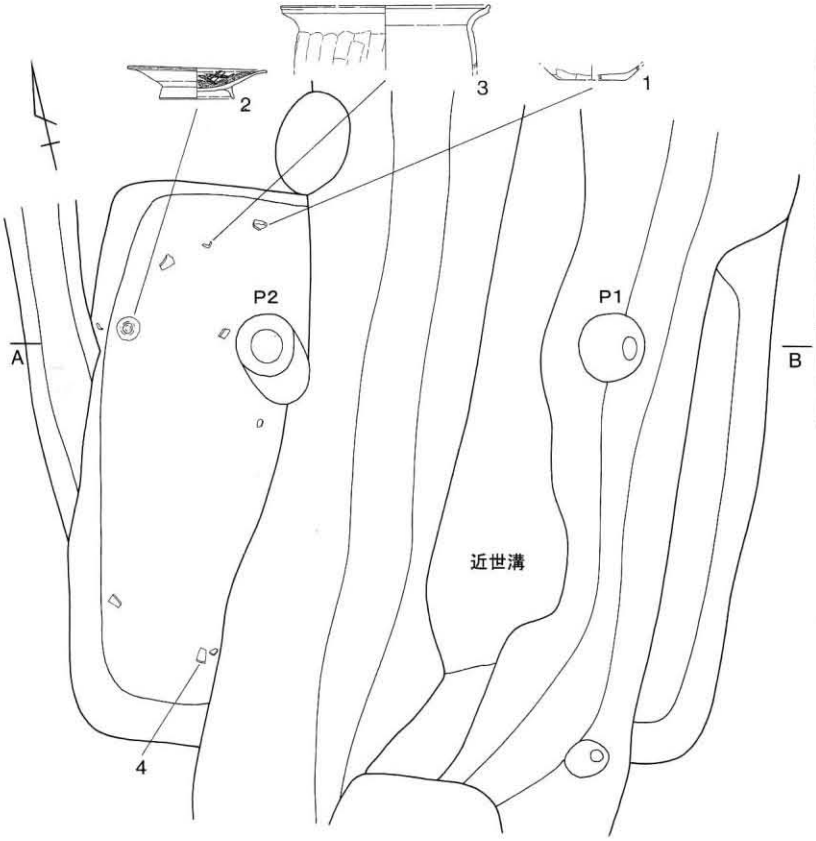


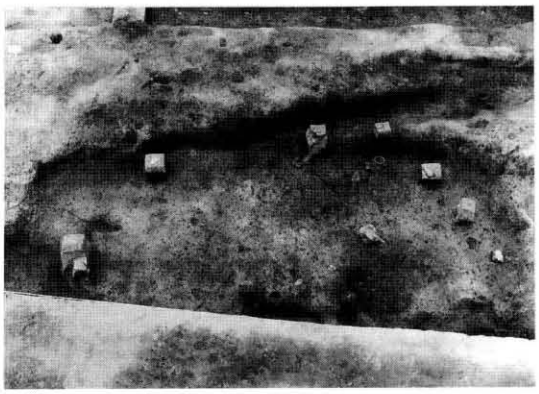


171号住居跡（南から）

171号住居跡

時期	4期
位置	12E－51－13・18
規模	－×－ m
主軸方向	N－21° －E
深さ	0.14m。大半が溝に壊され、遺存するのは北西部のみ。
床面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.1m。
柱穴	不明
竈	北壁中央で焼土塊を検出しており、竈の痕跡と思われる。
遺物	出土量が極めて少ない。図示できたのは、須恵器坏(1)が1点である。このほか、非ロクロ土師器坏の底部破片が出土。
特記事項	周溝は四壁下を全周していたと考えられる。

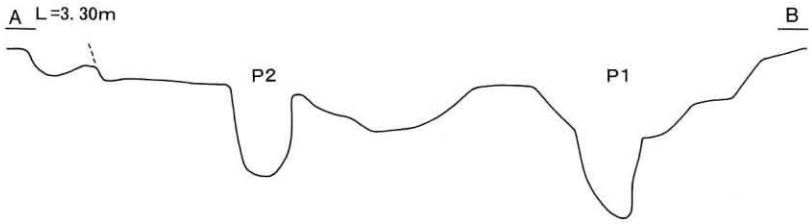




172号住居跡（東から）

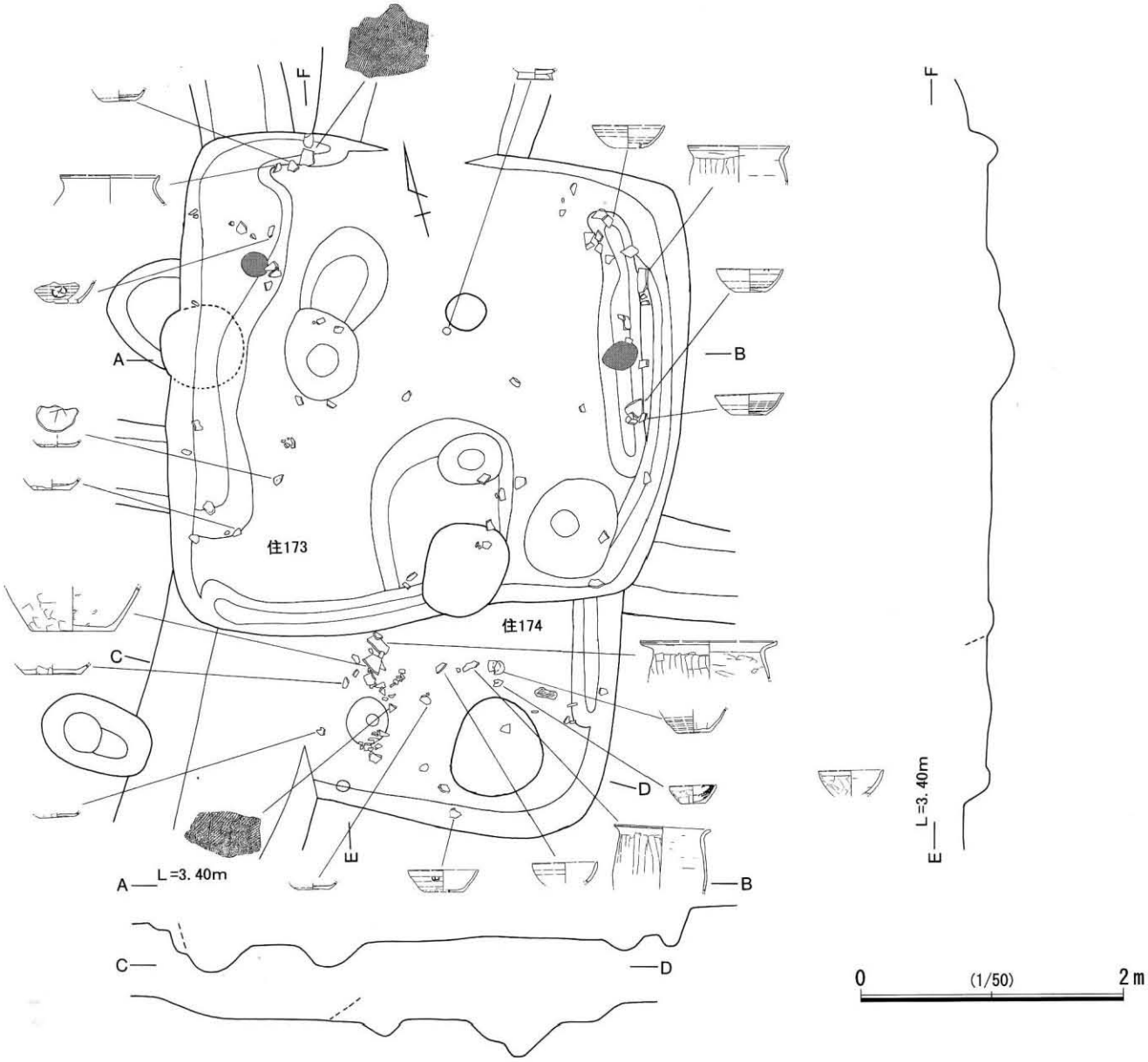
172号住居跡

時期	6期
位置	12E－52－16
規模	3.81×4.51m
主軸方向	N－19° －E
深さ	0.16m。南北壁は大半が近世溝に壊される。西壁の残りは良好。
床面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.0m。
柱穴	P1・P2が主柱穴。深さは0.7m～0.8m。
竈	北壁中央に構築されていたと考えられるが、近世溝に壊され残っていない。
遺物	土師器が主体。土師器坏(1)や土師器皿(2)は床面近くから出土。



0 (1/50) 2m

図 106　奈良・平安時代の遺構（171・172 号住居跡）



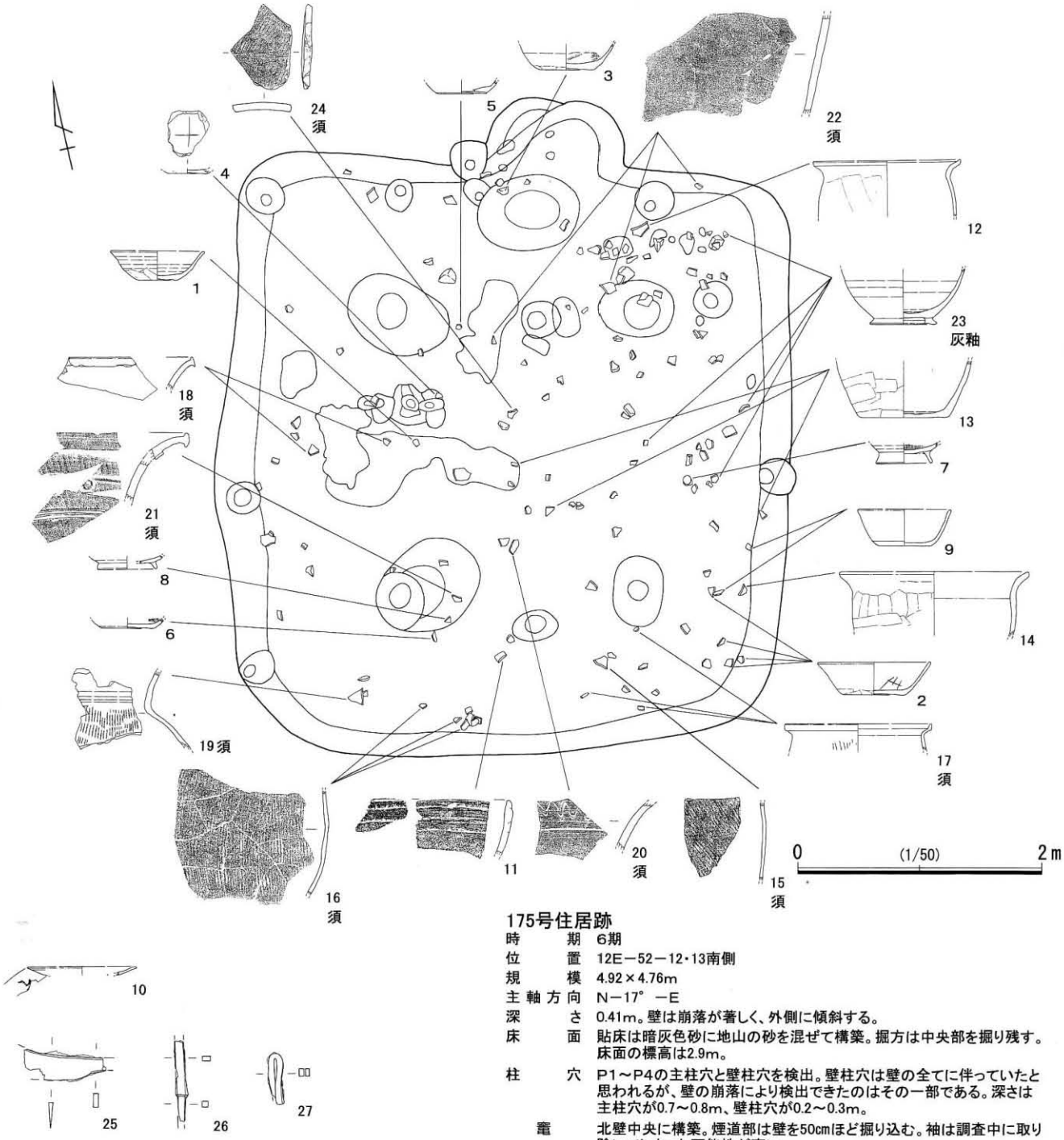
173号住居跡

時期	8期
位置	12E－52－12南側
規模	3.31×3.33m
主軸方向	N－14°－E
深さ	0.23m。北壁の一部を溝に壊される。
床面	暗灰色砂に暗褐色土を混ぜて貼床を構築。床面の標高は3.0m。
柱穴	主柱穴となるようなピットは検出されていない。
竈	北壁中央に存在したと考えられるが、溝に壊され形態不明。
遺物	土師器が主体。器種は坏・甕・皿・片口鉢など豊富。須恵器は転用硯(14)が出土。このほか墨書土器(8)、椀形滓も出土している。土師器坏(5)はやや古めの特徴を持つことから、174号住に帰属するものか。
特記事項	周溝は一部で途切れるが全周していたものか。174号住と重複し、新旧関係は174号住→173号住。58号掘立とも重複するが切り合いは不明。

174号住居跡

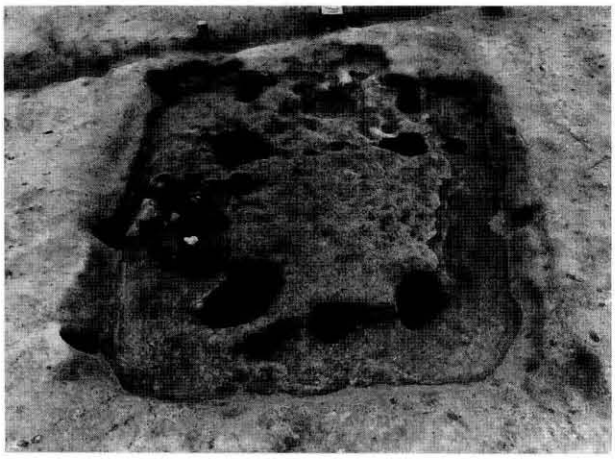
時期	6期
位置	12E－52－12南側
規模	－×－m
主軸方向	N－23°－E(推定)
深さ	0.17m。壁は大半を173号住と溝に壊され、南東部のみ残存。
床面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.0m。
柱穴	主柱穴となるようなピットは検出されていない。
竈	173号住居跡に壊され、位置、形態共に不明。
遺物	土師器が主体。「山」と墨書された土師器坏(1)や小型の土師器坏(4)が出土している。土師器甕(11)は178号住居と遺構間接合するが、本住居跡とは時期にずれがある。
特記事項	周溝を東壁の一部で検出。173号住居跡と重複する。新旧関係は174号住→173号住。

図107　奈良・平安時代の遺構（173・174号住居跡）



175号住居跡

時期	6期
位置	12E－52－12・13南側
規模	4.92×4.76m
主軸方向	N－17°－E
深さ	0.41m。壁は崩落が著しく、外側に傾斜する。
床面	貼床は暗灰色砂に地山の砂を混ぜて構築。掘方は中央部を掘り残す。床面の標高は2.9m。
柱穴	P1～P4の主柱穴と壁柱穴を検出。壁柱穴は壁の全てに伴っていたと思われるが、壁の崩落により検出できたのはその一部である。深さは主柱穴が0.7～0.8m、壁柱穴が0.2～0.3m。
竈	北壁中央に構築。煙道部は壁を50cmほど掘り込む。袖は調査中に取り除いてしまった可能性が高い。
遺物	出土量は極めて多い。土師器主体だが、須恵器も甕の破片を中心に高い割合を占める。鍛冶に伴う鉄滓や石も多量に出土。また、鍛造剥片の水洗選別過程で炭化したイネとオオムギを検出。土師器坏は小破片も含め、底部回転糸切り後未調整のものはほとんど出土していない。灰釉陶器長頸壺(23)や須恵器甕(17)、(19)、(22)が床面近くから出土。
特記事項	P3とP4の間に鍛冶炉を構築。また、遺物の出土量が多いのに対し、復元できるものが少なく小破片が多いことから、意図的に壊してから廃棄した可能性がある。
層序	1. 黒灰色土　砂を多く含む。中世の道跡。 2. 暗灰色砂　均質で軟弱な砂層。 3. 暗灰褐色砂　焼土粒と炭化粒のほか、小形の鉄滓が混入する。 4. 黒灰色土　砂を少量、炭化粒を多量に含む。鍛冶炉由来の炭化物層。 5. 黒灰色土　焼土粒と炭化粒を多量に含む。鉄滓はみられない。竈覆土。 6. 暗灰褐色砂　鉄分の凝集が目立つ。地山の黄灰褐色砂を含む。 7. 暗灰色砂　地山の黄灰色砂を含む。壁崩落土。 8. 暗灰色砂　地山の黄灰色砂を含む。入口部に伴うピットか。



175号住居跡（南から）

図 108　奈良・平安時代の遺構（175 号住居跡）

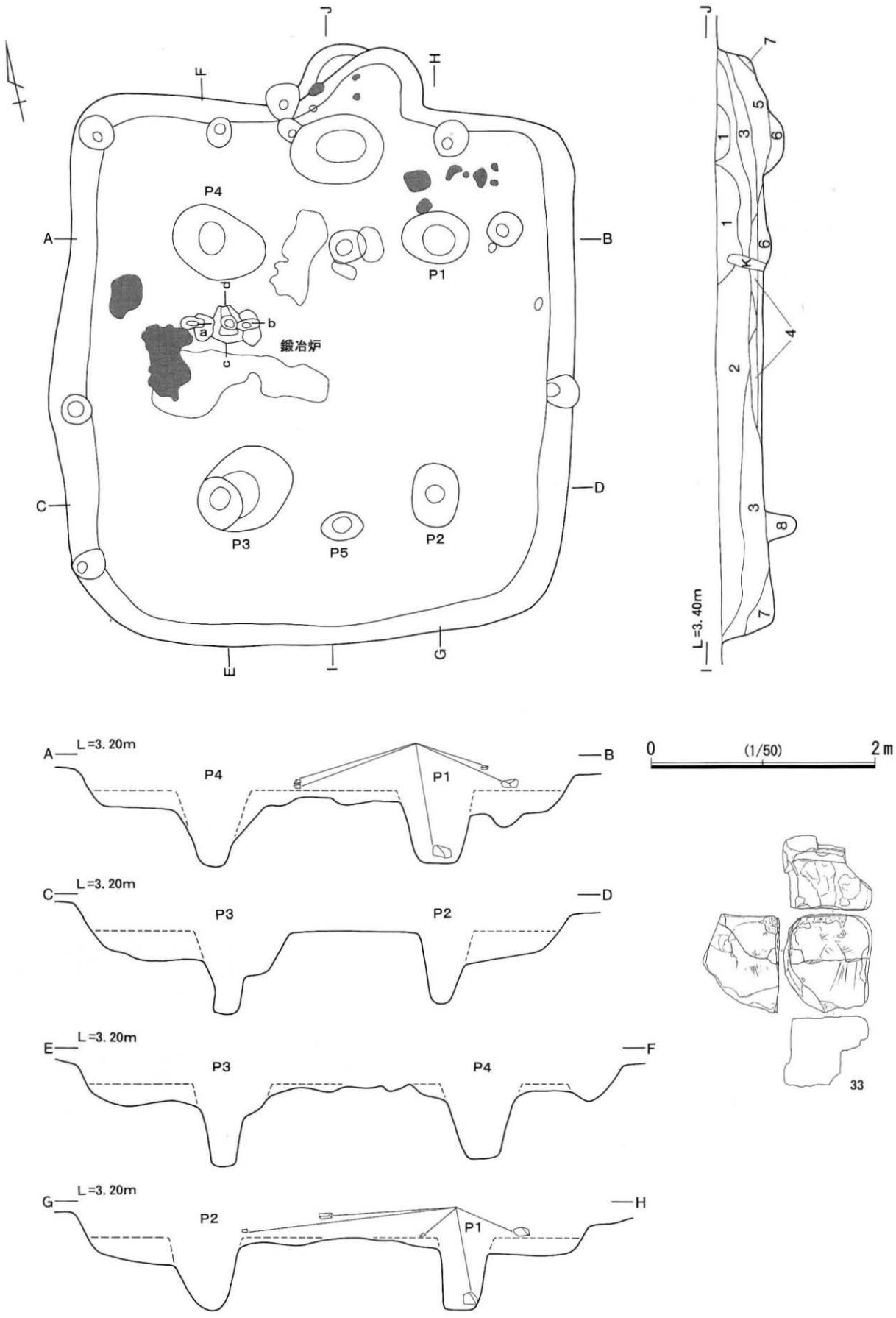
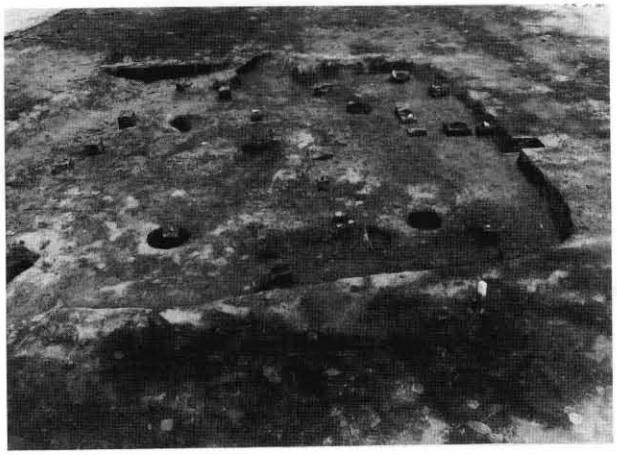
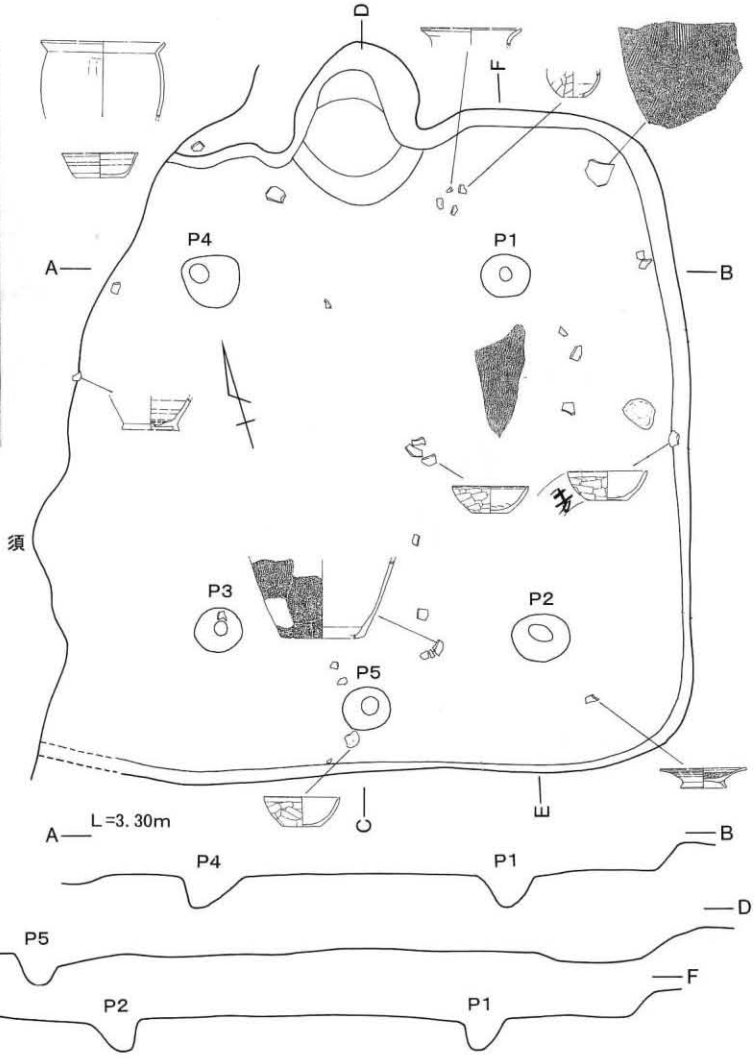


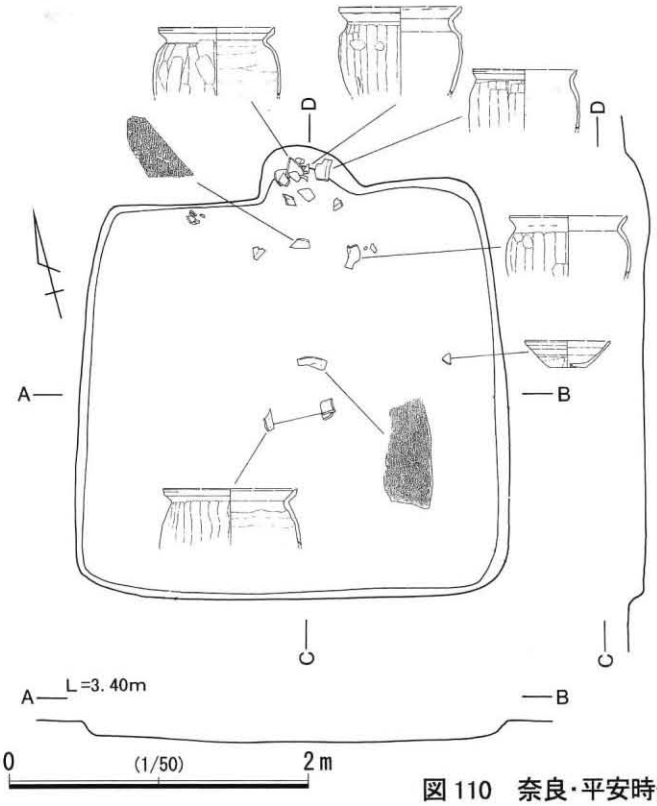
図 109　奈良・平安時代の遺構（175 号住居跡鍛冶炉）

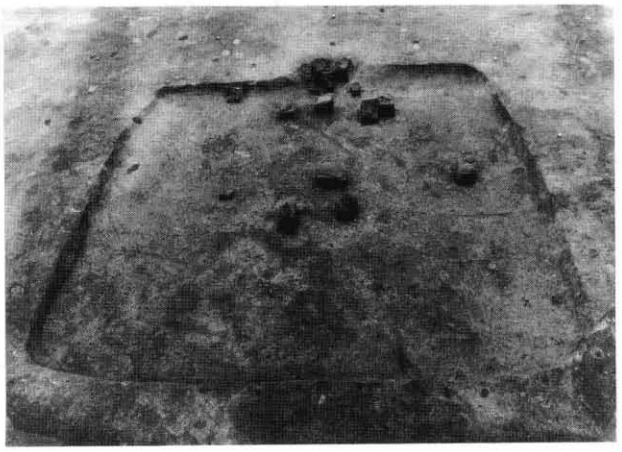




176号住居跡

時　　期　6期
位　　置　12E－52－16・17南側
規　　模　4.35×－m
主軸方向　N－15°－E
深　　さ　0.24m。壁は崩落が著しく外側に傾斜。西壁は溝に壊される。
床　　面　地山の砂層を平坦にして床とする。北から南へやや傾斜する。床面の標高はほぼ3.1m。
柱　　穴　P1～P4が主柱穴。深さは0.2～0.25m。P5は出入り口に伴うもの。深さは0.2m。
竈　　北壁中央に構築。底面は浅く掘り込む。
遺　　物　土師器が主体。墨書土器が4点と目立つ。

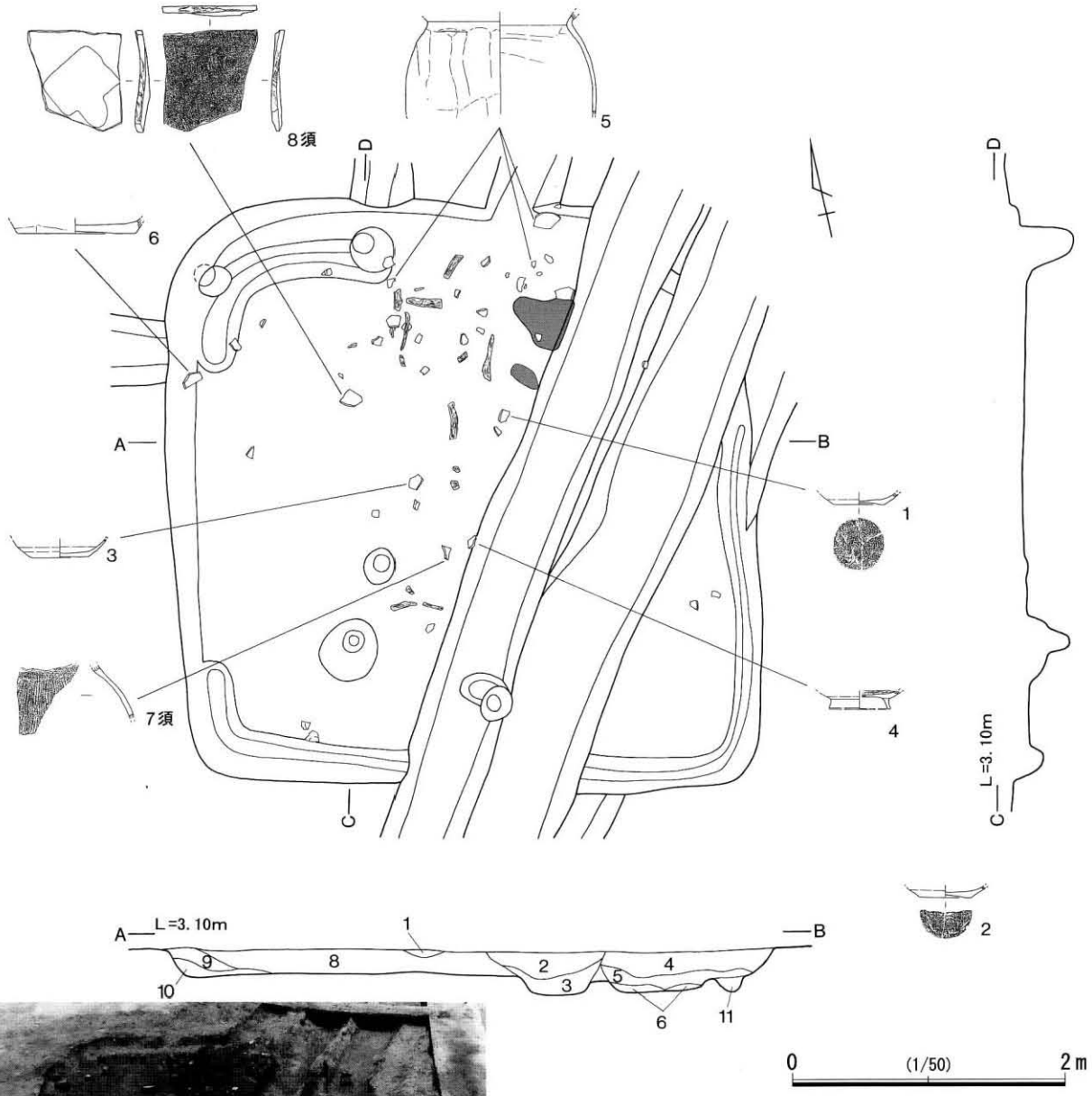




177号住居跡

時　　期　7期
位　　置　12E－52－17南側
規　　模　2.75×2.38m
主軸方向　N－13°－E
深　　さ　0.13m。東壁は崩落が著しく外側に傾斜。
床　　面　地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.1m。
柱　　穴　無し
竈　　北壁中央に構築。煙道部は壁を30cmほど掘り込む。袖は確認できなかったが、調査中に取り除いてしまった可能性もある。
遺　　物　土師器が主体を占めるが、甕の出土が目立つ。小破片も含め出土した土師器坏は(1)の1点のみである。

図110　奈良・平安時代の遺構（176・177号住居跡）



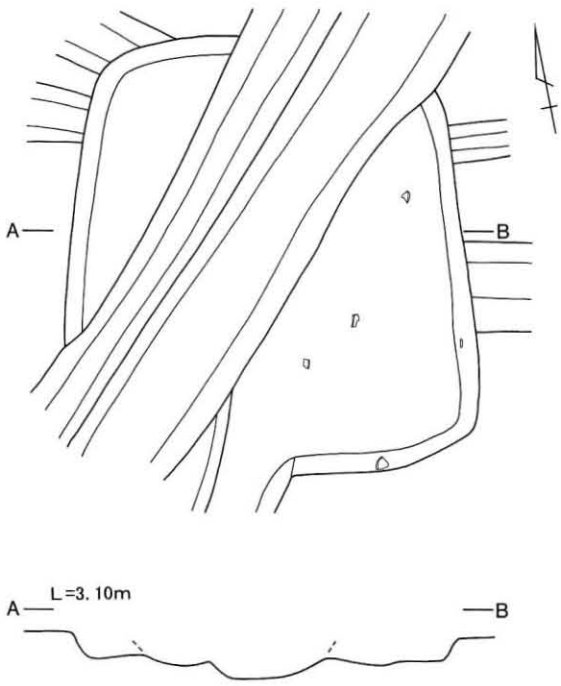
178号住居跡遺物出土状況

178号住居跡（南から）

178号住居跡

時期	7期
位置	12E－52－23
規模	4.38×4.38m
主軸方向	N－13°－E
深さ	0.19m。壁の一部は中世・近世の溝に壊される。
床面	一度に掘方まで掘ってしまったため、床面の状態は不明。掘方は中央部を掘り残す。床面の標高は2.9m。
柱穴	P3が主柱穴、P1・P2が壁柱穴、P5が入り口部に伴うピットになるか。深さは主柱穴が0.6m、その他は0.4m。
竈	溝に壊され不明。北壁に構築か。
遺物	土師器主体。土師器坏は小破片も含め、(1)～(3)など底部未調整のものが多い。土師器皿(4)は床面出土。須恵器は転用硯(8)が出土。
特記事項	周溝は一部で確認できなかったが、本来は全周していたか。また、炭化材の出土が目立ったことから、焼失住居と考えられる。
層序	1. 茶褐色土　砂を少量含む。近世の溝。 2. 茶褐色土　砂の含有は少ない。近世の溝。 3. 暗褐色土　粘性のあるシルト質土が主体。 4. 暗灰色土　砂を多く含む。中世の溝か。 5. 暗灰色土　砂は少なく、シルト質土を含む。 6. 黄灰色砂　地山の黄灰色砂を多く含む。 7. 灰褐色土　溝の壁崩落土。 8. 灰色砂　鉄分の凝集が目立つ。 9. 淡灰色砂　8層に似るがやや淡い。 10. 灰褐色砂　地山の黄灰色砂を多く含む。 11. 暗灰色砂　住居の周溝。

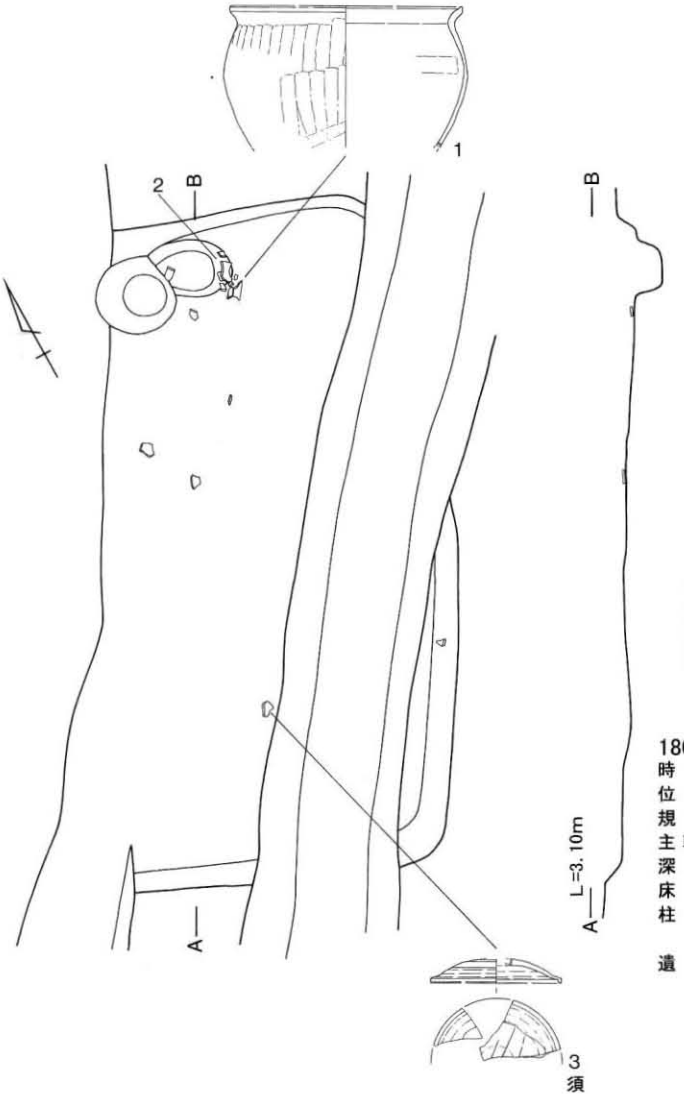
図111　奈良・平安時代の遺構（178号住居跡）



179号住居跡（南から）

179号住居跡

時　　期	7期
位　　置	12E－52－20南側
規　　模	2.88×2.75m
主軸方向	N－10°　－E
深　　さ	0.17m。壁は大半が中世・近世の溝に壊される。
柱　　穴	無し
床　　面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は2.8m。
竈	北壁に構築されていたと考えられるが、溝に壊され不明。
遺　　物	極めて少なく、図示できた遺物は無し。



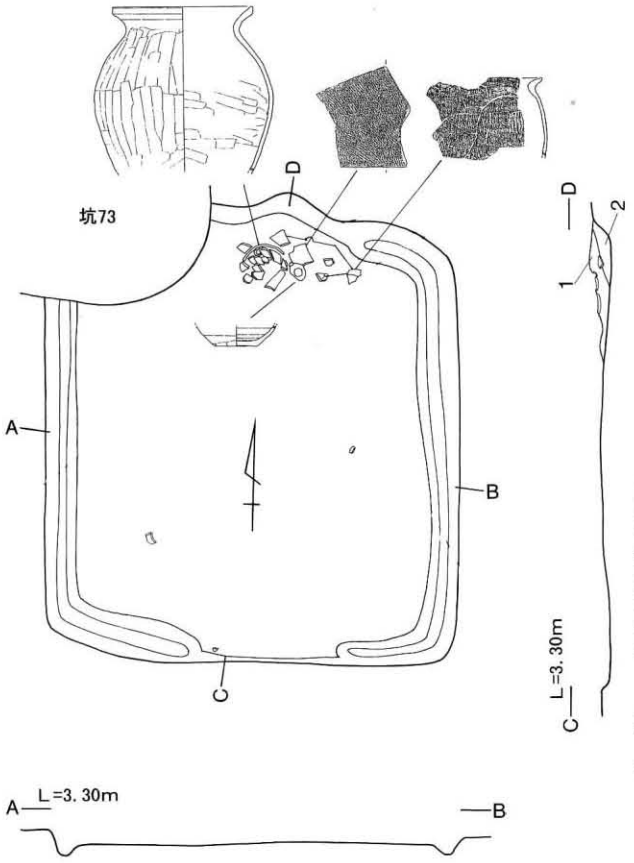
180号住居跡（南から）

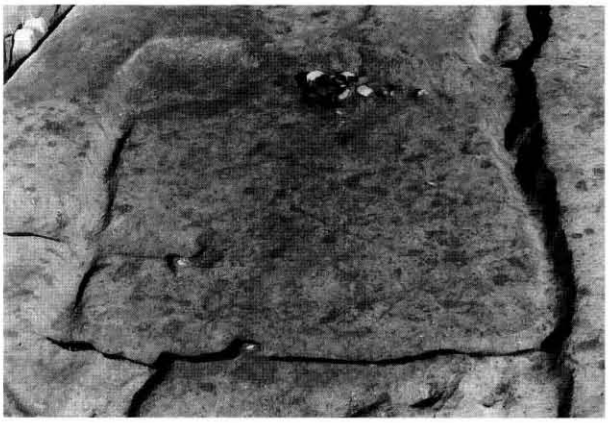
180号住居跡

時　　期	4期
位　　置	12E－52－19・20・24・25
規　　模	4.39×　－ m
主軸方向	N－23°　－E
深　　さ	0.11m。壁は大半が中世・近世の溝に壊される。
床　　面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は2.9m。
柱　　穴	無し
竈	北壁そばのピットが竈の痕跡になるか。
遺　　物	出土量はわずかで、図示できたのは3点。全て床面から出土。転用硯(3)は須恵器蓋を転用したもので、内面に線刻がある。

0　(1/50)　2m

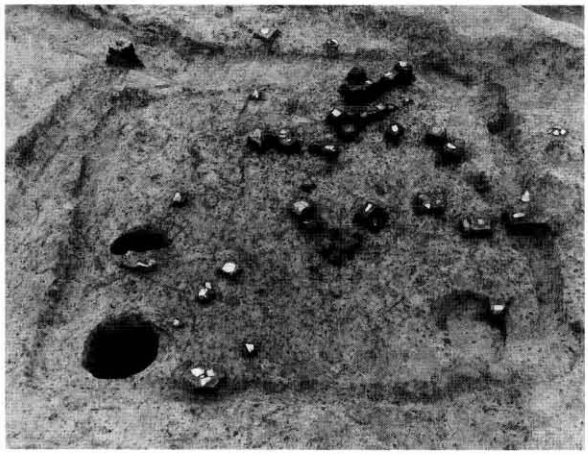
図 112　奈良・平安時代の遺構（179・180 号住居跡）

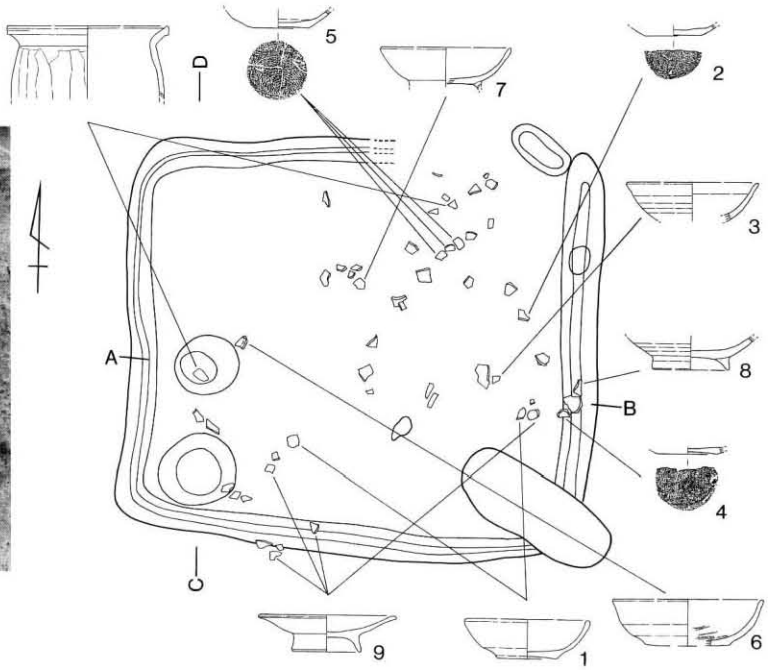




181号住居跡

時　　期　7期
位　　置　12E－52－25・12E－62－5
規　　模　3.02×2.75m
主軸方向　N－1°－E
深　　さ　0.07m。
床　　面　地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.1m。
柱　　穴　無し
竈　　北壁中央に構築。煙道部は壁をわずかに掘り込む。袖は調査時に取り除いてしまった可能性が高い。
遺　　物　土師器坏(1)や土師器甕(2)、(3)など土師器主体で竈から集中して出土。図示できなかった小破片は底部未調整のものが多い。
特記事項　周溝は南壁の一部で途切れるが、ほぼ全周する。73号土坑と重複する。新旧関係は181号住居→73号土坑。





182号住居跡

時　　期　8期
位　　置　12E－53－22
規　　模　2.72×3.12m
主軸方向　N－1°－E
深　　さ　0.08m。壁の遺存状態は不良。
床　　面　地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は3.0m。
柱　　穴　P1・P2は共に0.35m程の深さを持つが、位置的に柱穴になるとは考えにくい。
竈　　不明。
遺　　物　土師器が主体で、須恵器は小破片も含めほとんど出土していない。土師器坏(1)、(3)が床面から出土。
特記事項　周溝は一部が途切れるが四壁下を全周していたものと考えられる。

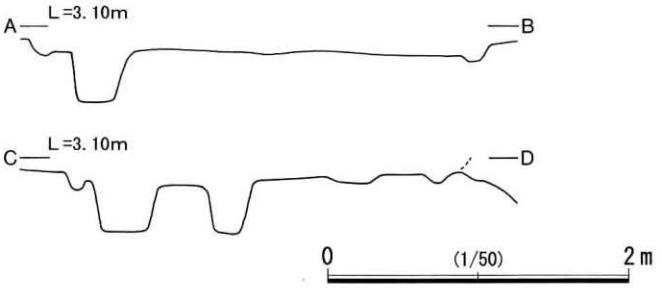
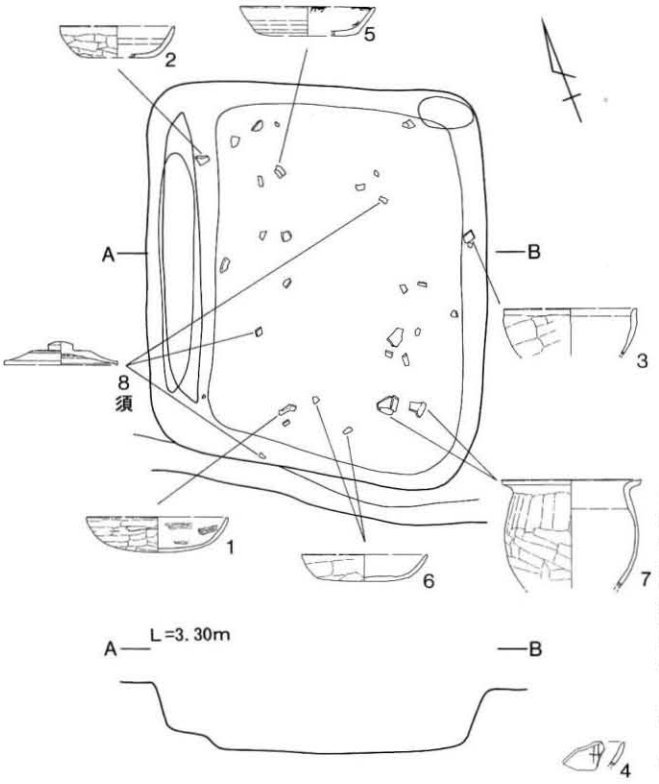


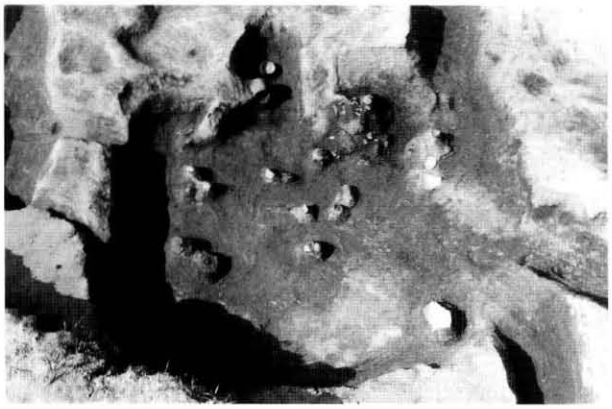
図113　奈良・平安時代の遺構（181・182号住居跡）

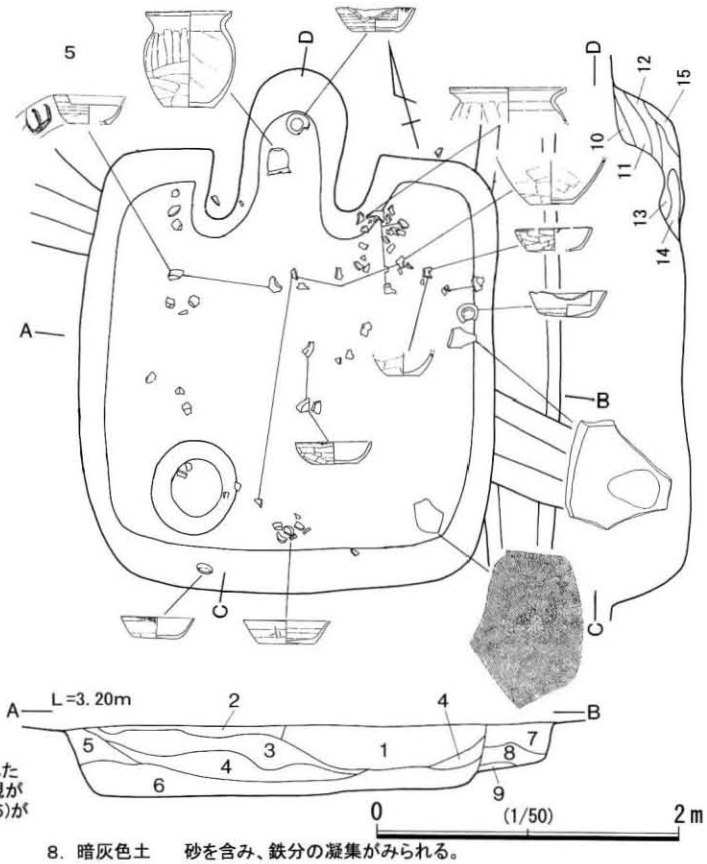


183号住居跡（南から）

183号住居跡

時期	4期
位置	12E－63－14・15
規模	2.64×2.27m
主軸方向	N－22°－E
深さ	0.47m。
床面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は2.6m。
柱穴	無し
竈	北東隅に焼土が分布しており、あるいは竈の痕跡となるか。
遺物	土師器主体。赤彩された土師器坏(6)や灯明皿として使用された土師器盤(5)が出土。床面近くから土師器甕(7)や須恵器蓋(8)も出土。
特記事項	西壁側に床面より15cmほど高い棚状の部分があり、そこに炭化物と焼土粒が堆積。

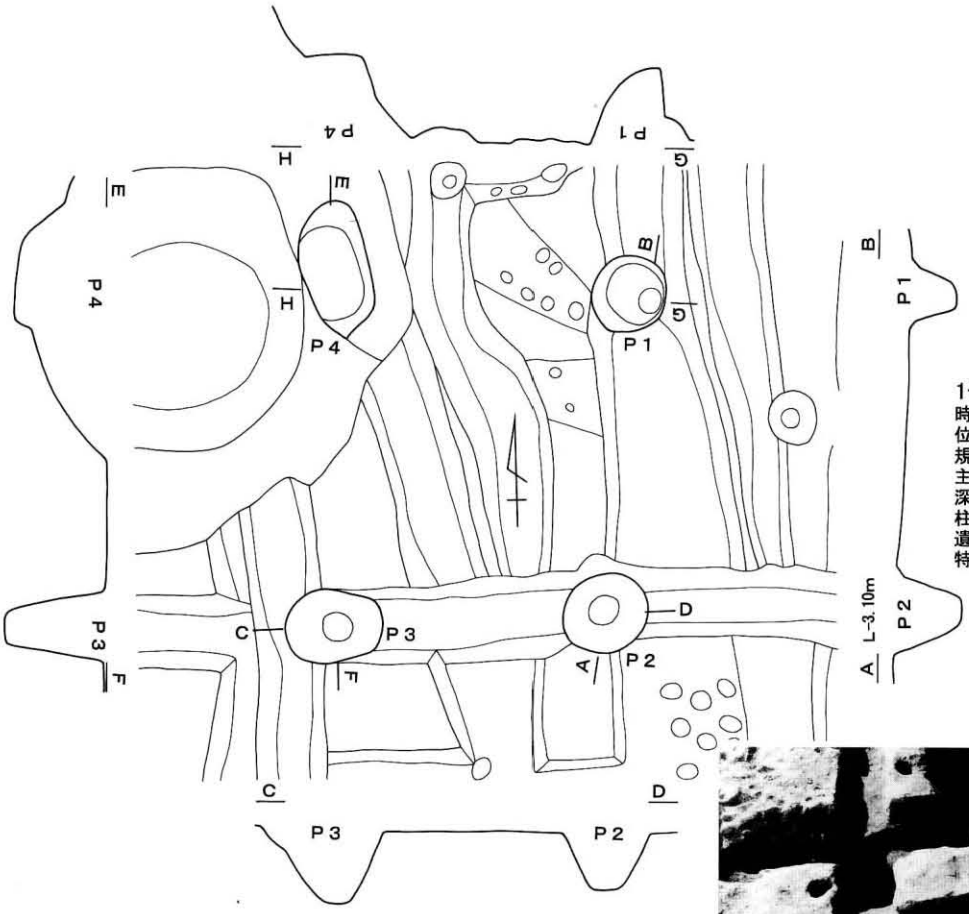




184号住居跡

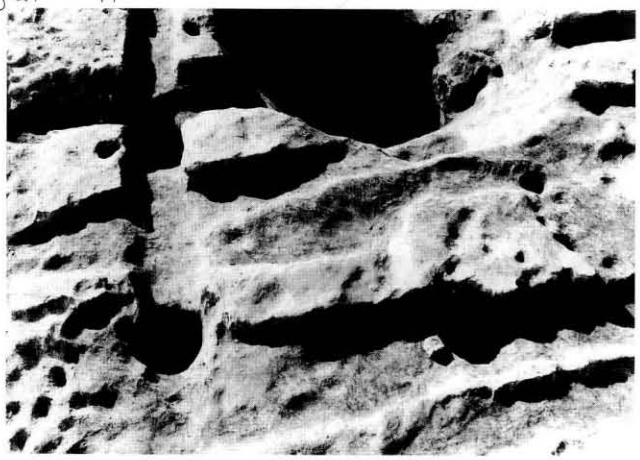
時期	5期
位置	12E－63－9・10
規模	2.92×2.74m
主軸方向	N－12°－E
深さ	0.51m。
床面	地山の砂層を平坦にして床とする。床面の標高は2.7m。
柱穴	南西隅に浅い掘り込みがあるが、柱穴にはならない。
竈	北壁中央に構築。袖の遺存は良好。煙道は壁を約50cm掘り込む。
遺物	土師器が主体となるが、須恵器も少なくない。灯明皿として使用された土師器坏が6点、墨書もしくは線刻をされた土師器坏が3点、転用硯が2点と出土遺物が特徴的。床面からは「山」と墨書された土師器坏(5)が出土。
特記事項	本住居跡の東壁にかかる畑跡の小溝よりも住居の方が新しい。
層序	1. 黒褐色土　砂を含み、一部で灰色。近世以降の溝。
	2. 黒灰色土　砂を含み、鉄分が凝集する。
	3. 黒灰色土　砂と炭化粒を含み、しまる。
	4. 暗灰色土　砂と炭化粒を含み、しまる。
	5. 暗灰色土　砂を多く含み、鉄分の凝集がみられる。
	6. 暗灰色土　砂を多く含み、炭化粒も含まれ、しまる。
	7. 暗灰色土　砂を多く含む。以下の7～9層は畑溝の覆土。
	8. 暗灰色土　砂を含み、鉄分の凝集がみられる。
	9. 灰色砂　黒色土を含む。
	10. 暗灰色土　砂を多く含む。以下の10～15層は竈覆土。
	11. 暗灰色土　砂を多く含む。
	12. 暗灰色土　砂を含み、鉄分が凝集する。
	13. 暗灰色土　砂と焼土粒を含む。
	14. 黒灰色土　砂が混じる。焼土粒及び炭化粒、灰を含む。
	15. 黒灰色土　砂及び焼土粒、炭化粒を含む。

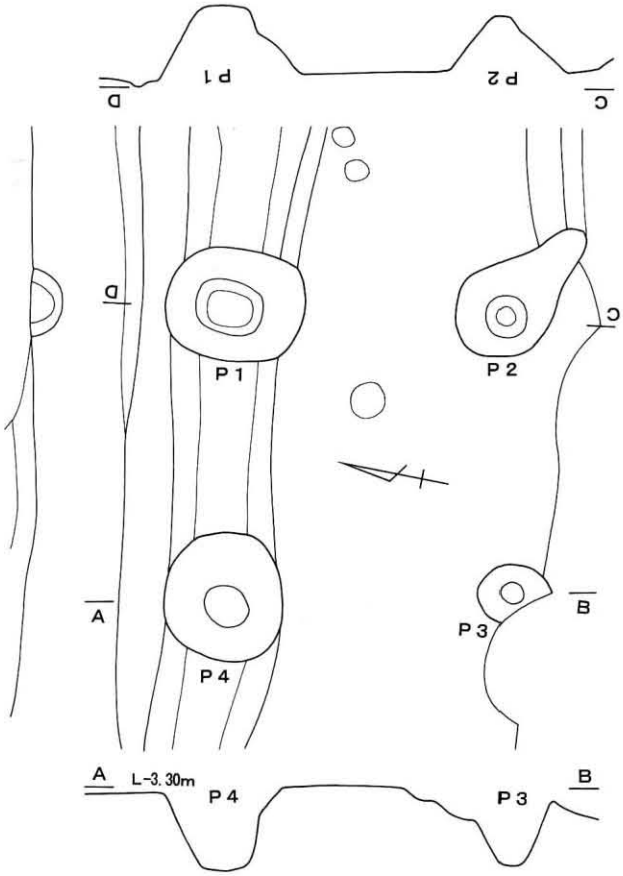
図 114　奈良・平安時代の遺構（183・184 号住居跡）

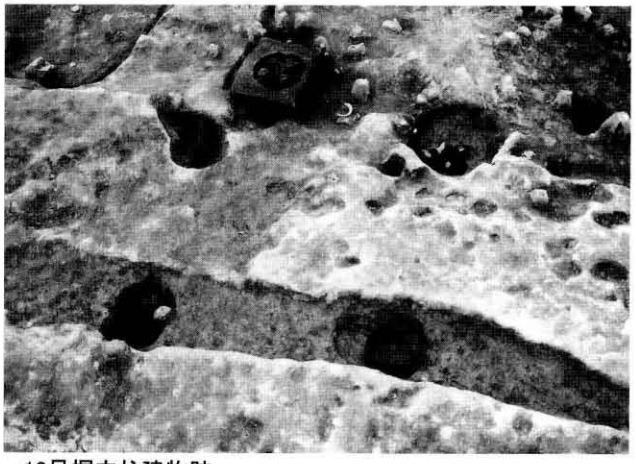


1号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-43-18
規模(柱間)　桁行1間(2.1m)、梁行1間(1.8m)
主軸方向　N-5°-E
深　　さ　0.3～0.5m
柱 穴 径　0.4～0.6m
遺　　物
特記事項



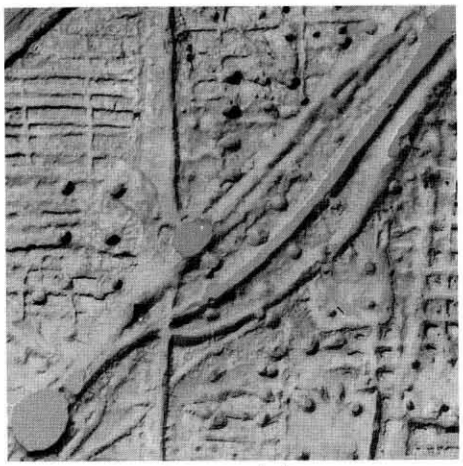


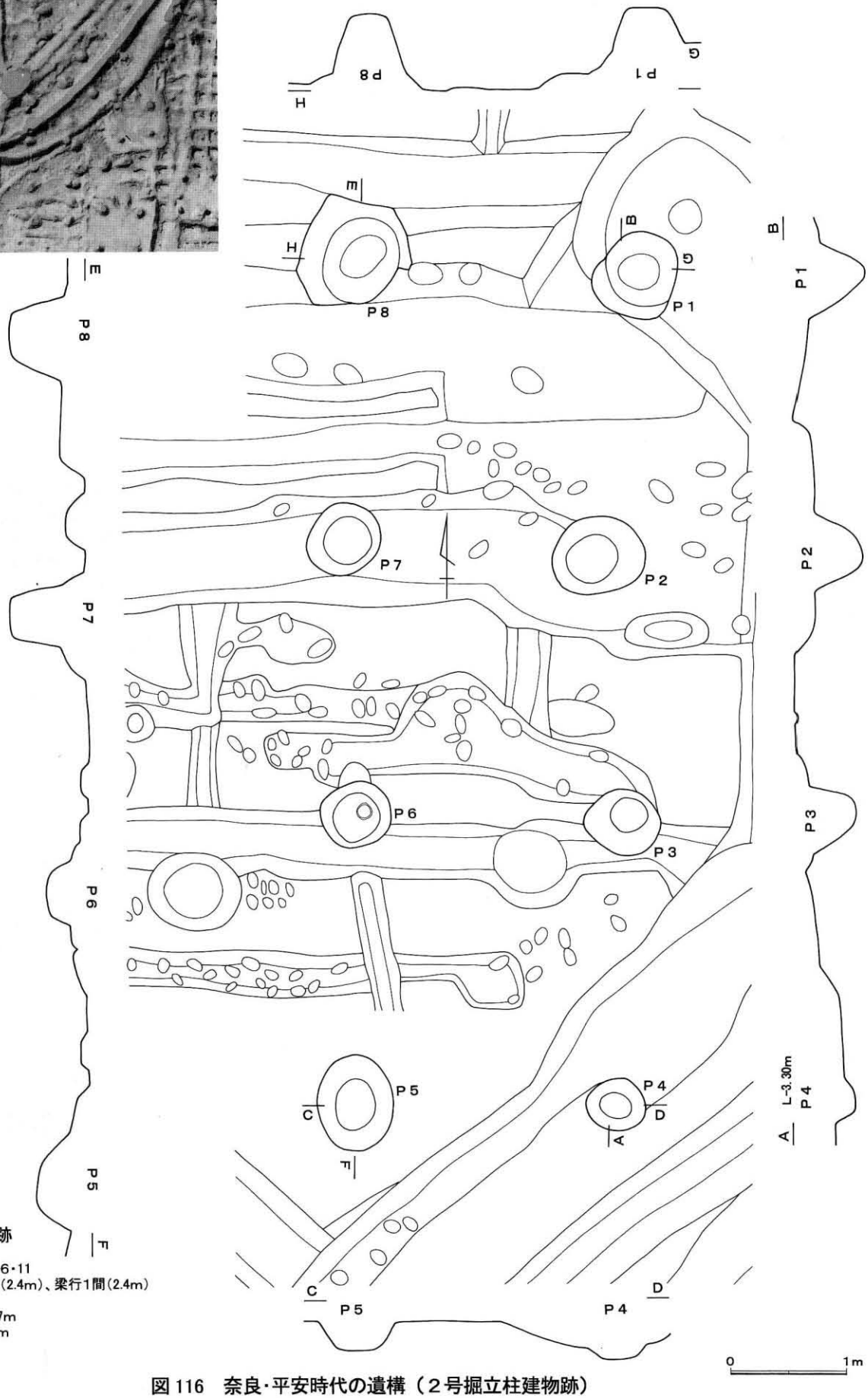


12号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-56-7
規模(柱間)　桁行1間(1.9m)、梁行1間(2.0m)
主軸方向　N-11°-W
深　　さ　0.4～0.5m
柱 穴 径　0.5～0.9m
遺　　物
特記事項

図 115　奈良・平安時代の遺構（1・12 号掘立柱建物跡）

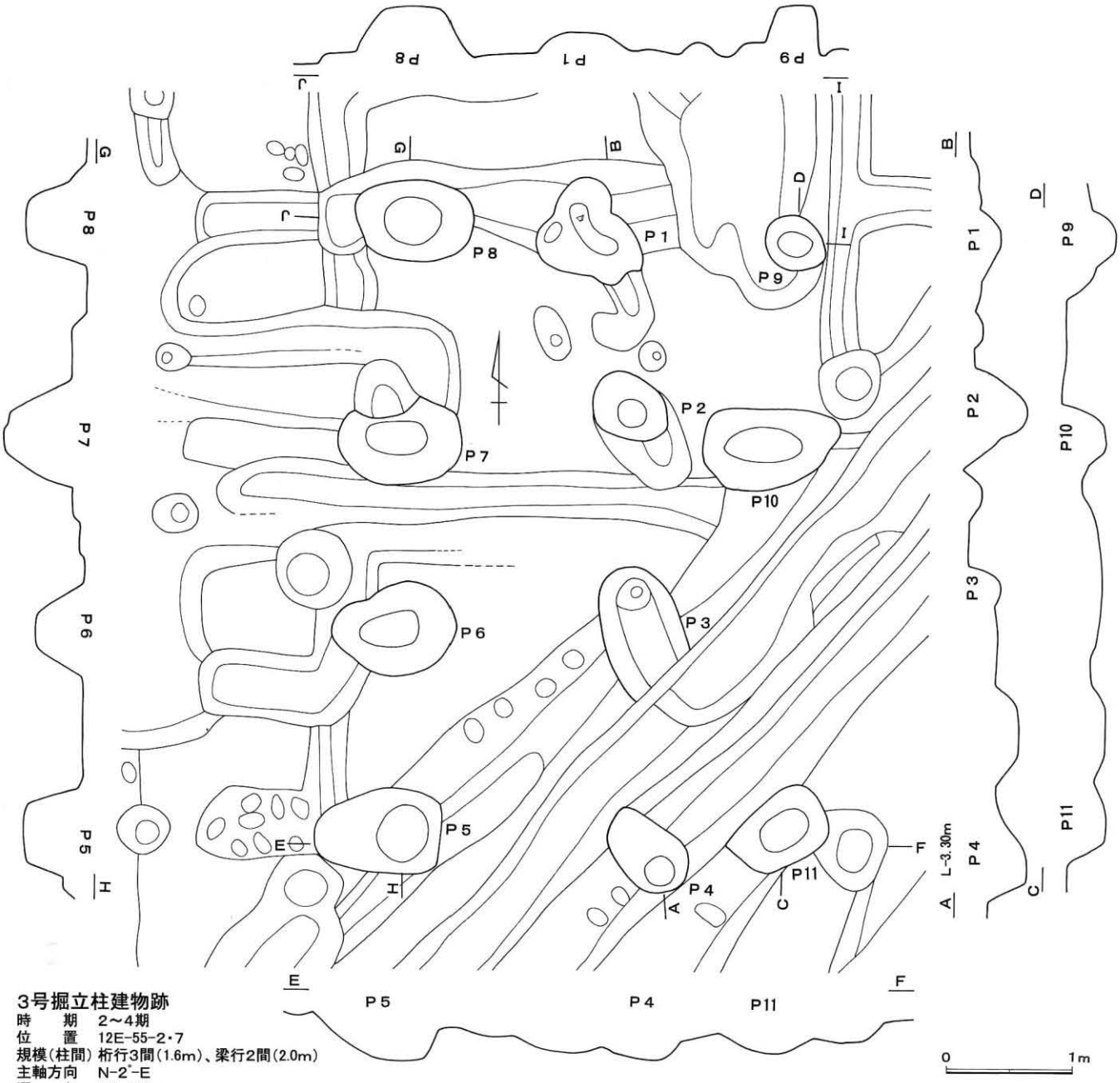




2号掘立柱建物跡

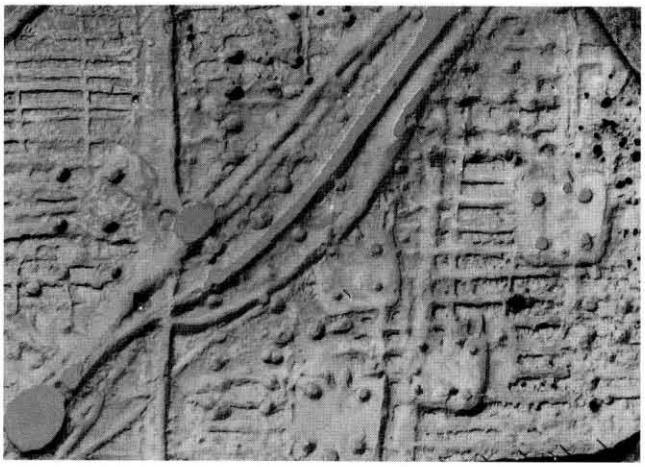
時　　期	2～4期
位　　置	12E-55-6・11
規模(柱間)	桁行3間(2.4m)、梁行1間(2.4m)
主軸方向	N-2°-E
深　　さ	0.26～0.7m
柱 穴 径	0.6～0.8m
遺　　物	
特記事項	

図 116　奈良・平安時代の遺構（２号掘立柱建物跡）



3号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-55-2・7
規模(柱間)　桁行3間(1.6m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向　N-2°-E
深　　さ　0.3～0.5m
柱 穴 径　0.5～0.8m
遺　　物
特記事項　東側に庇柱あり



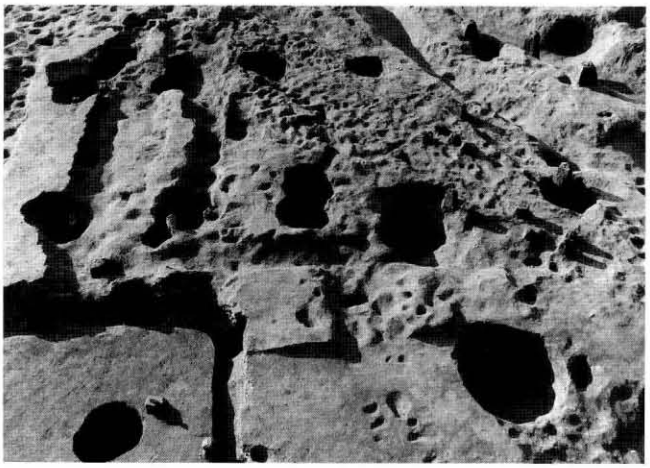


図 117　奈良・平安時代の遺構（3号掘立柱建物跡）

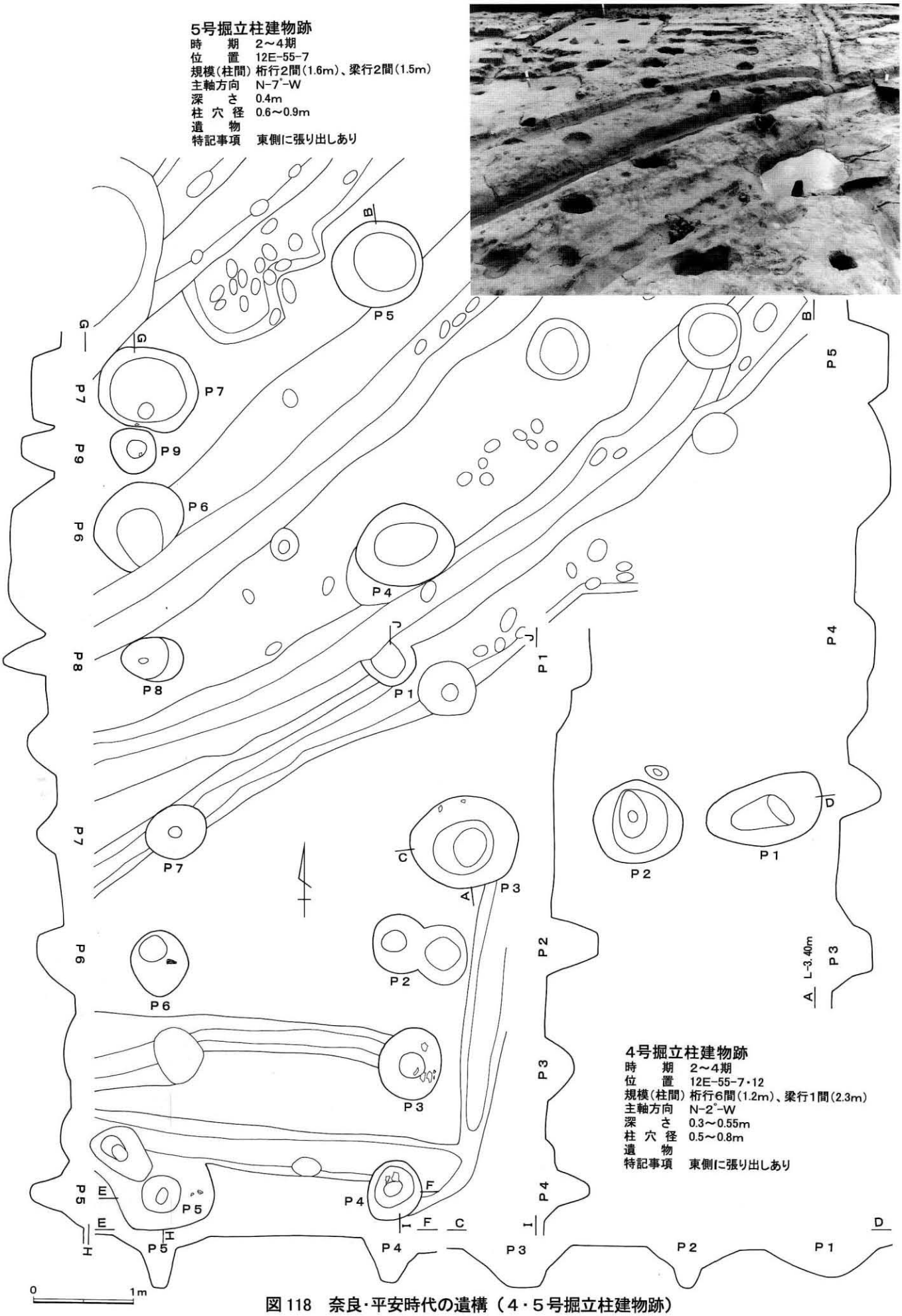
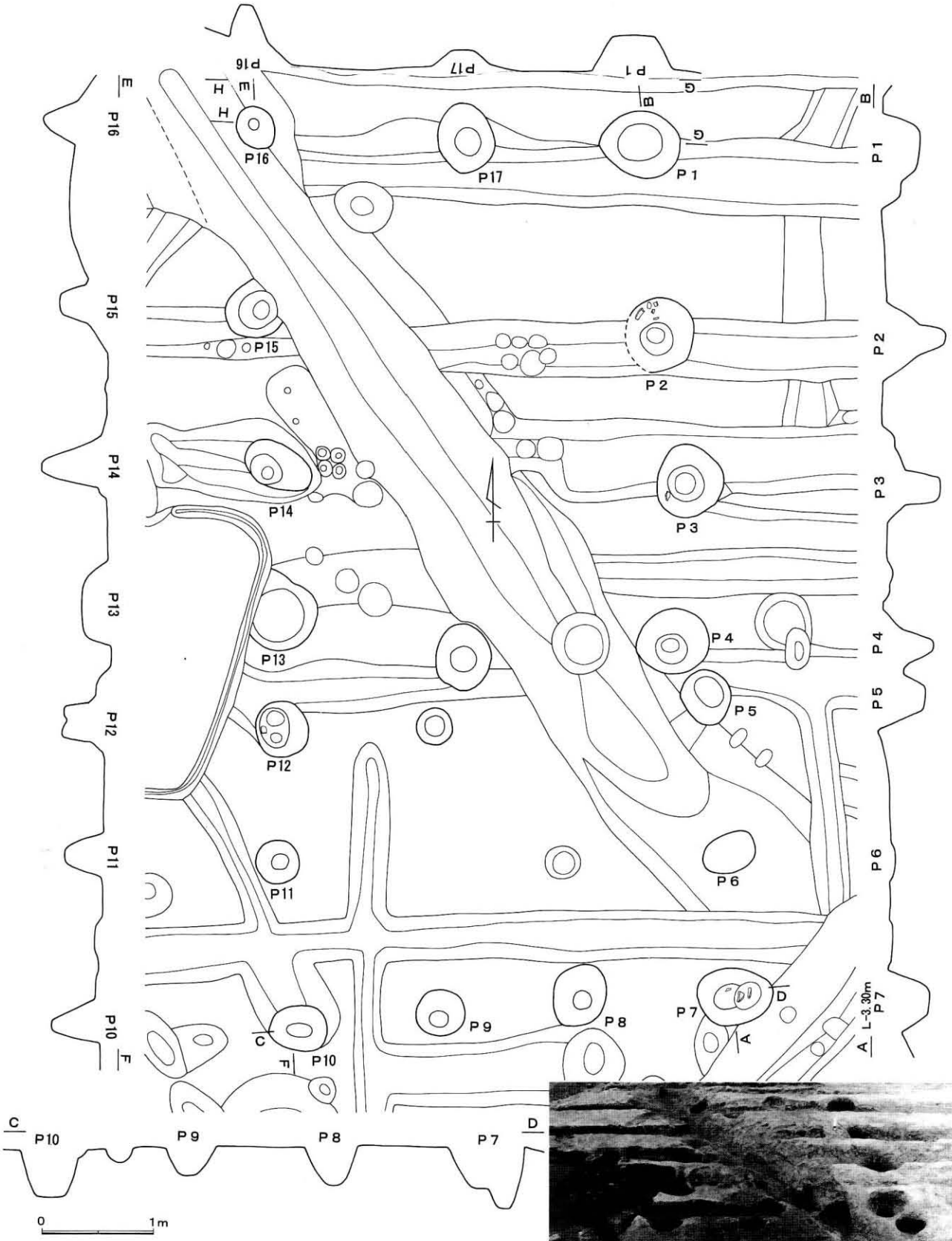


図118　奈良・平安時代の遺構（4・5号掘立柱建物跡）



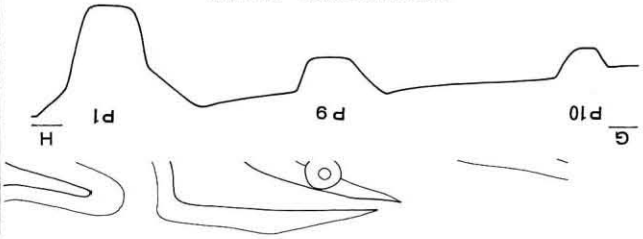
6号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-45-22・23、55-2・3
規模(柱間)　桁行6間(1.5m)、梁行2～3間(1.0～1.5m)
主軸方向　N-5°-W
深　　さ　0.3～0.55m
柱 穴 径　0.4～0.7m
遺　　物
特記事項

図 119　奈良・平安時代の遺構（6号掘立柱建物跡）

7号掘立柱建物跡

時　　期	2～4期
位　　置	12E-55-3
規模(柱間)	桁行3間(1.5m)、梁行2～3間(1.5～1.7m)
主軸方向	N-4°-W
深　　さ	0.5～0.6m
柱 穴 径	0.5～0.75m
遺　　物	
特記事項	東側に張り出しあり



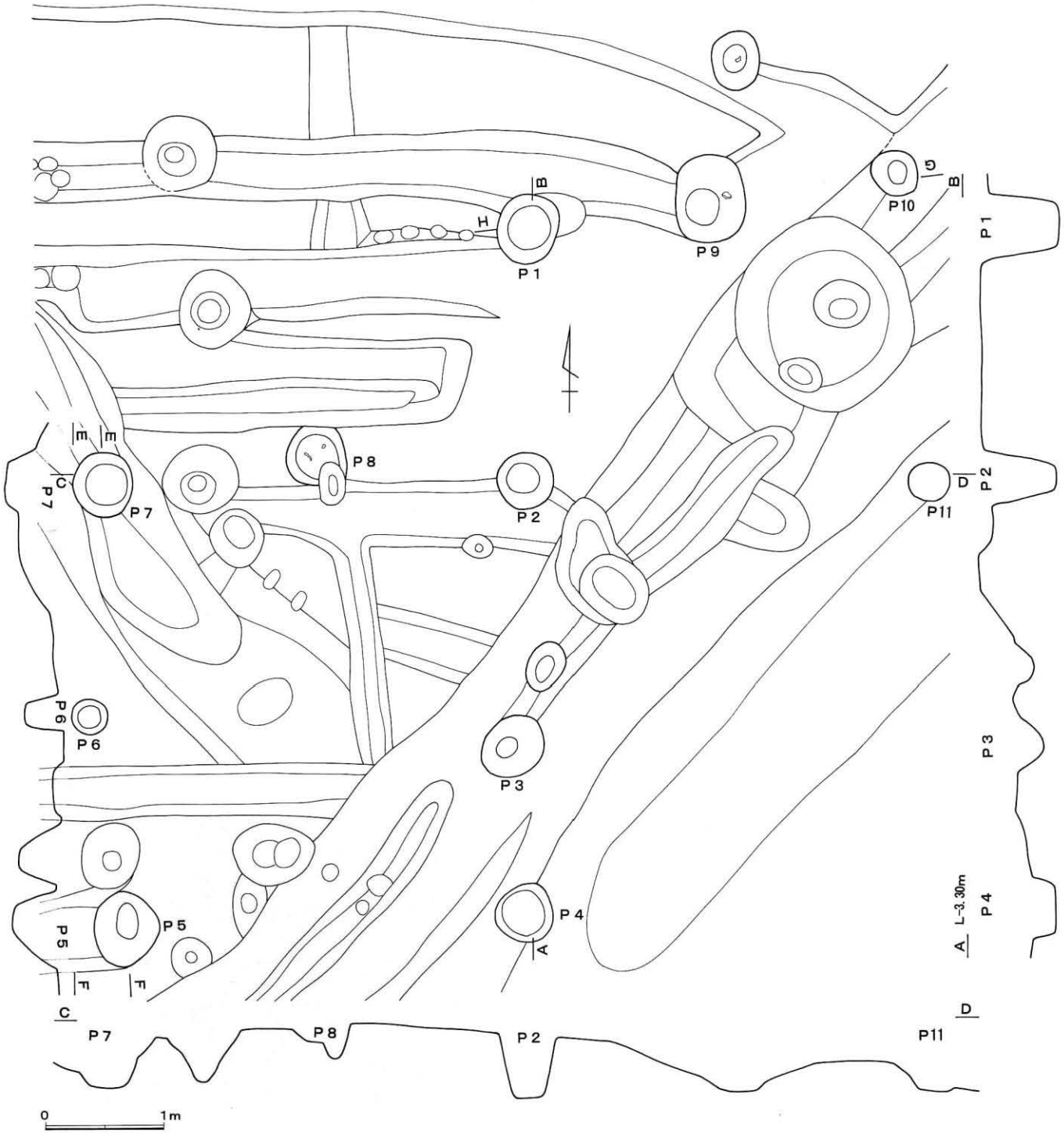
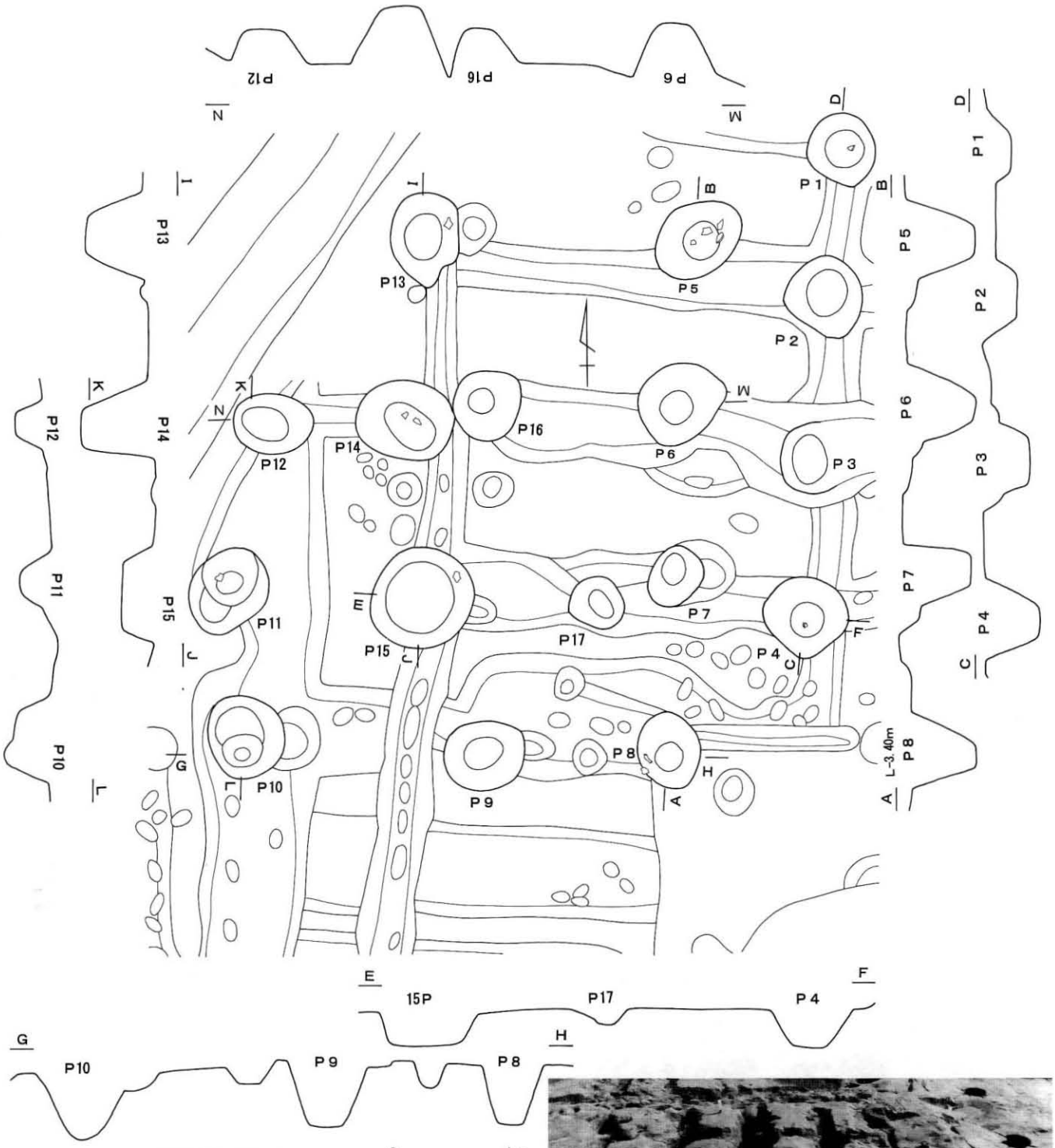
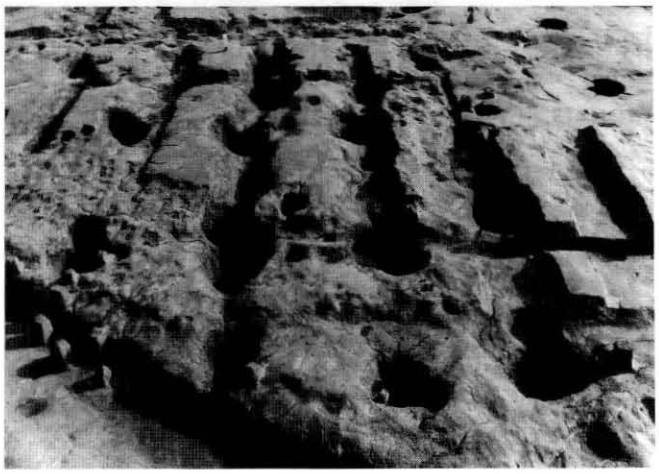


図 120　奈良・平安時代の遺構（7号掘立柱建物跡）





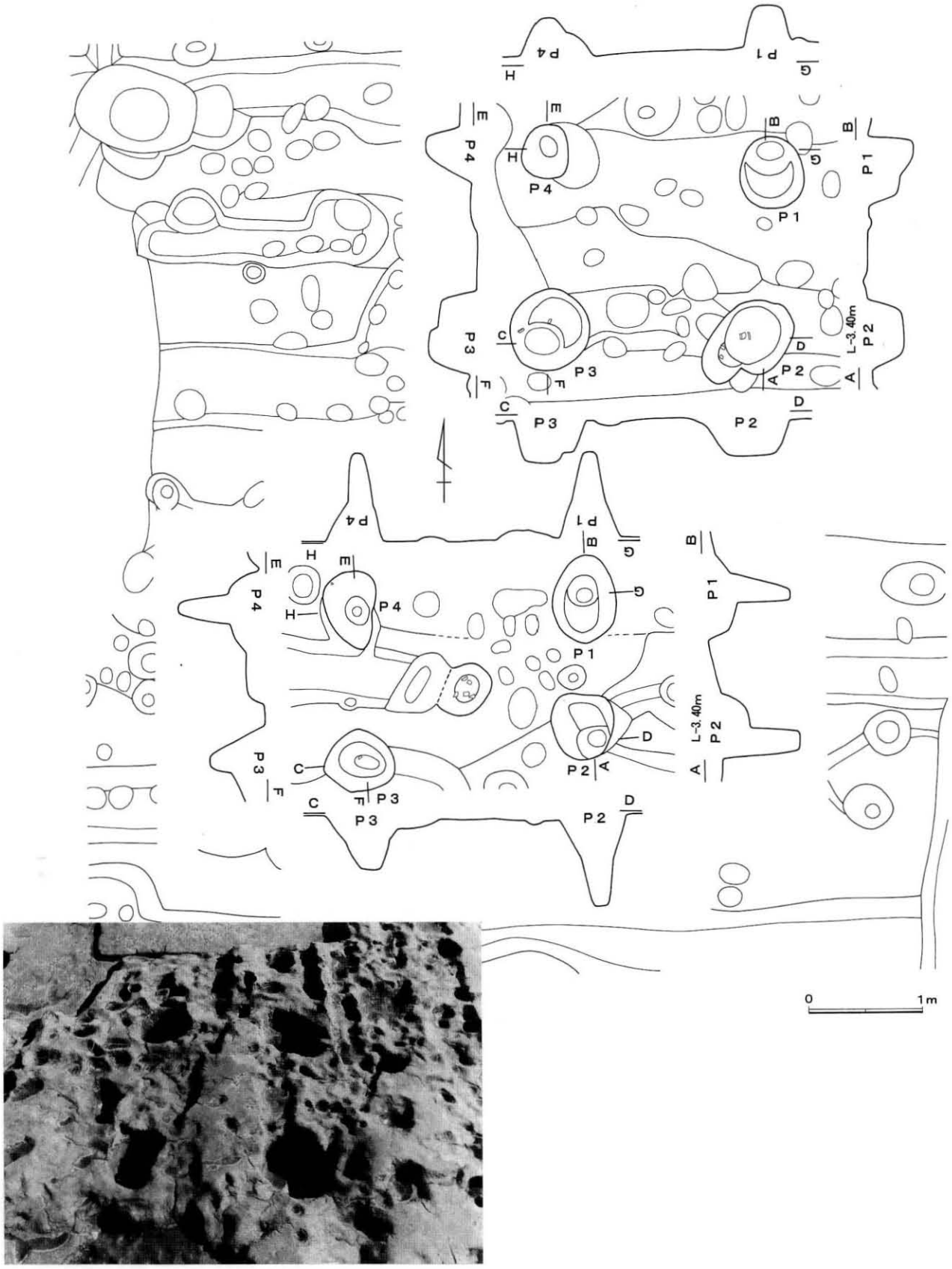
8号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-55-8
規模(柱間)　桁行2間(1.7～2.0m)、梁行2間(1.5m)
主軸方向　N-89°-E
深　　さ　0.5～0.6m
柱 穴 径　0.5～0.6m
遺　　物
特記事項

9号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-55-3
規模(柱間)　桁行2間(1.5～1.7m)、梁行2間(1.0～2.3m)
主軸方向　N-1°-E
深　　さ　0.2～0.6m
柱 穴 径　0.6～0.7m
遺　　物
特記事項　8号建物跡と直角に重なる

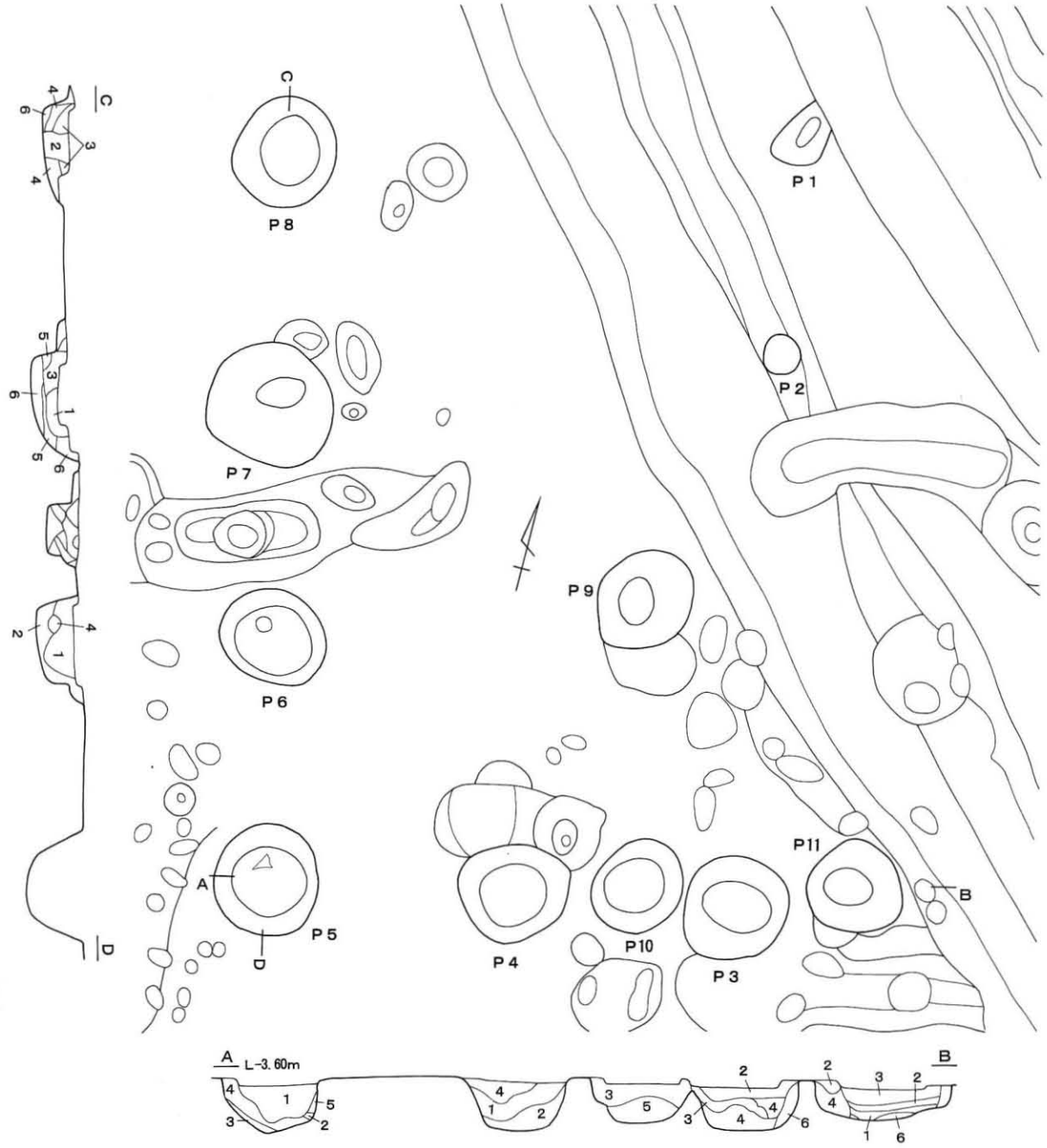
図 121　奈良・平安時代の遺構（8・9号掘立柱建物跡）



10号掘立柱建物跡
時　　期　2～4期
位　　置　12E-55-15
規模(柱間)　桁行1間(1.9m)、梁行1間(1.7m)
主軸方向　N-2°-E
深　　さ　0.3～0.4m
柱 穴 径　0.45～0.7m
遺　　物
特記事項

11号掘立柱建物跡
時　　期　2～4期
位　　置　12E-55-15
規模(柱間)　桁行1間(1.9m)、梁行1間(1.7m)
主軸方向　N-2°-W
深　　さ　0.5～0.8m
柱 穴 径　0.55～0.7m
遺　　物
特記事項

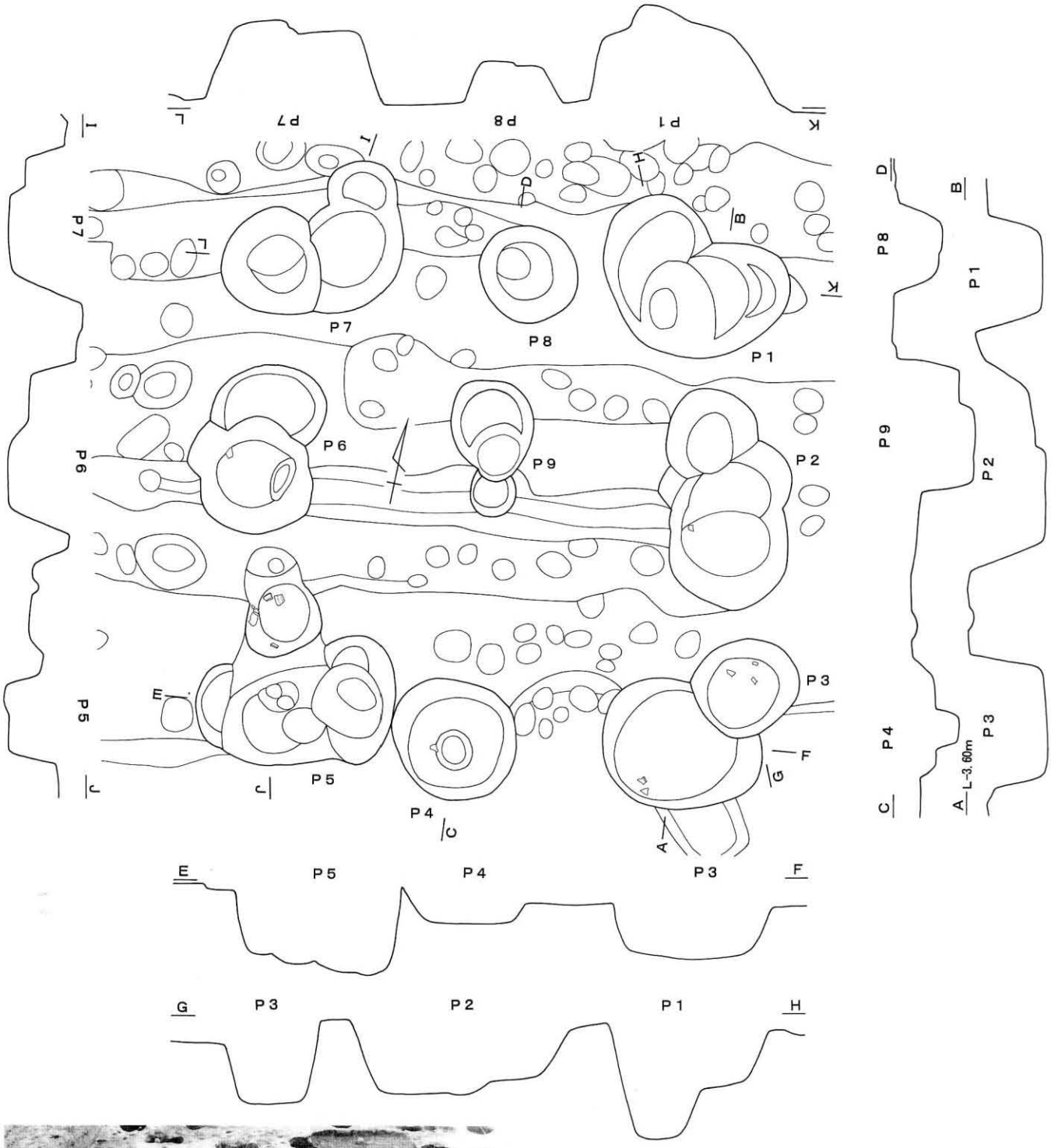
図 122　奈良・平安時代の遺構（10・11 号掘立柱建物跡）



13号掘立柱建物跡

時　　期	2～4期
位　　置	12E-56-3
規模(柱間)	桁行3間(1.9m)、梁行2間(1.85m)
主軸方向	N-8°-W
深　　さ	0.2～0.4m
柱 穴 径	0.8～0.85m
遺　　物	
特記事項	
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒灰色土(砂混じる) 3 黒灰色土(砂多く混じる) 4 暗灰色土(黒色土混じる) 5 灰褐色砂 6 灰色砂

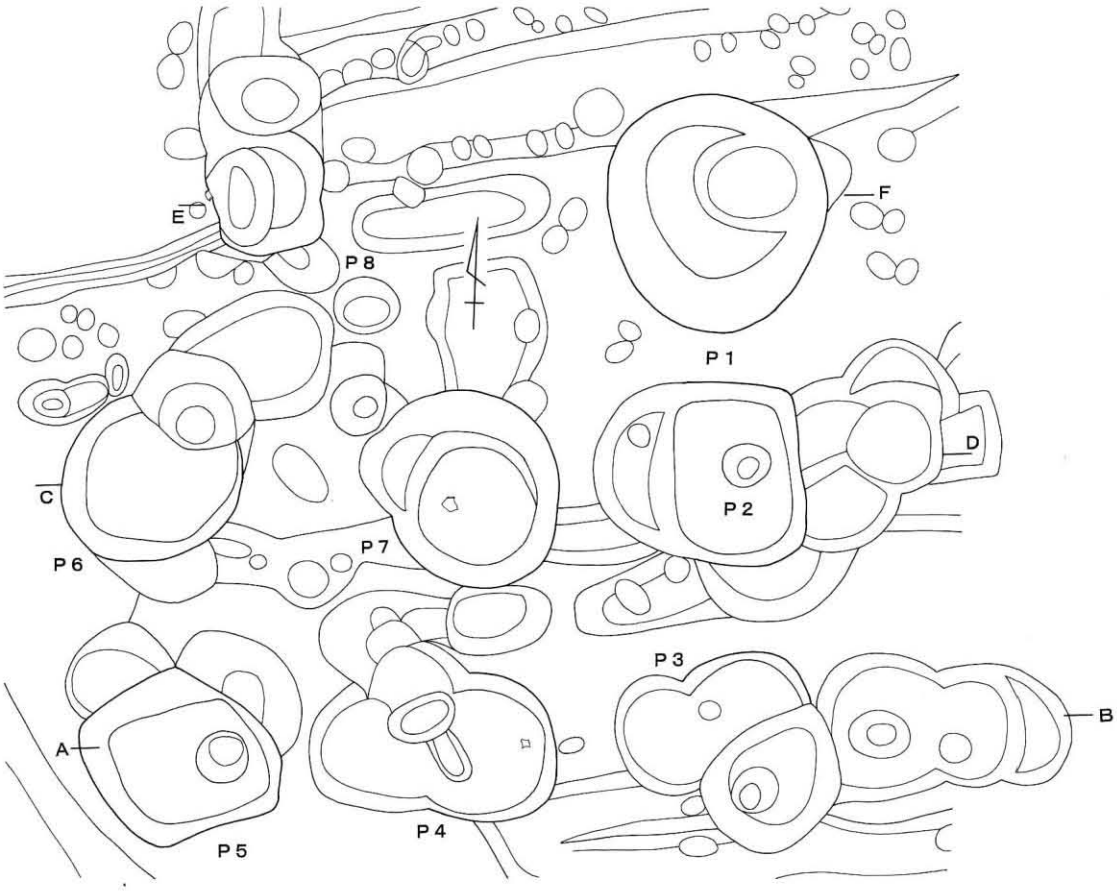
図 123　奈良・平安時代の遺構（13 号掘立柱建物跡）

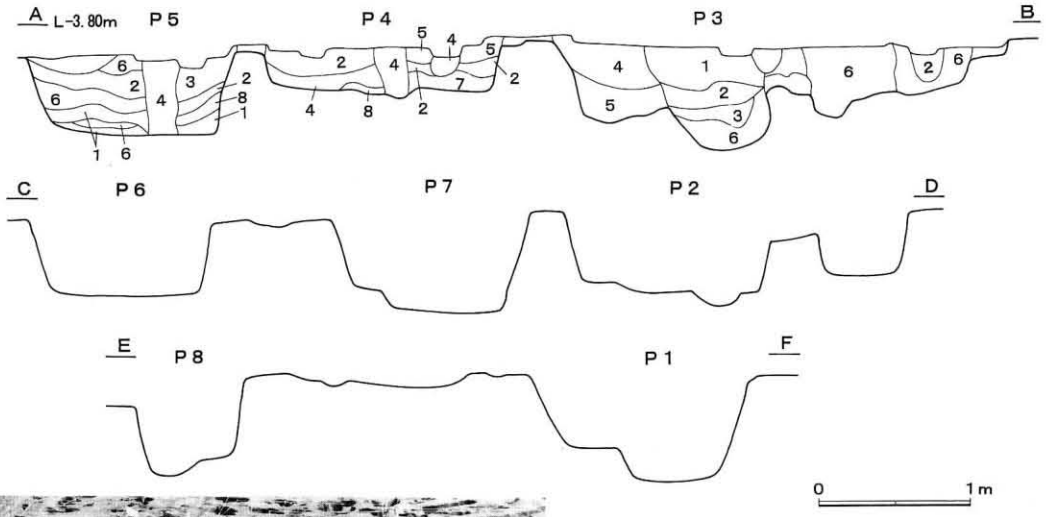


14号掘立柱建物跡

時　　期　4～6期
位　　置　12E-46-8・9
規模(柱間)　桁行3間(1.9m)、梁行2間(1.85m)
主軸方向　N-8°-W
深　　さ　0.2～0.4m
柱 穴 径　0.8～0.85m
遺　　物　土師器坏・甕片、燻焼甕片。
特記事項

図 124　奈良・平安時代の遺構（14 号掘立柱建物跡）

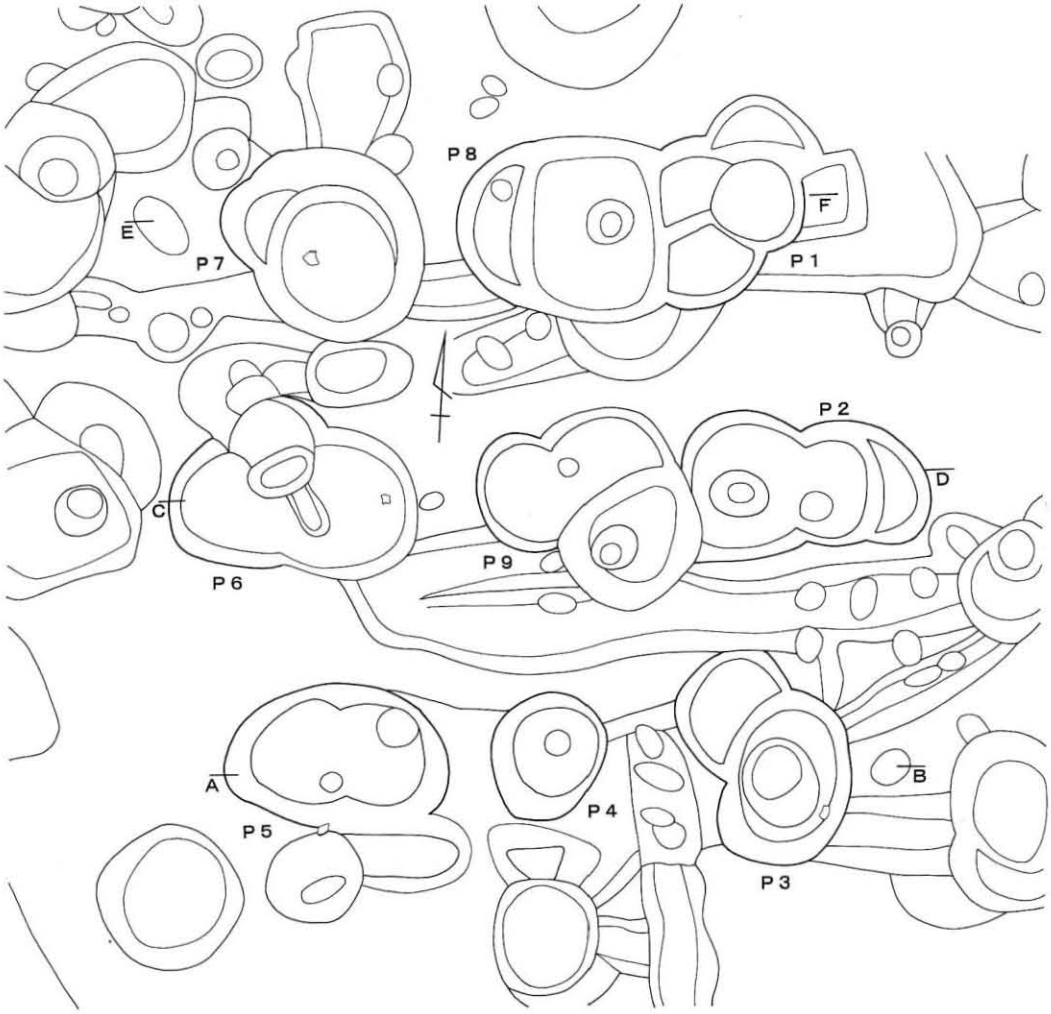


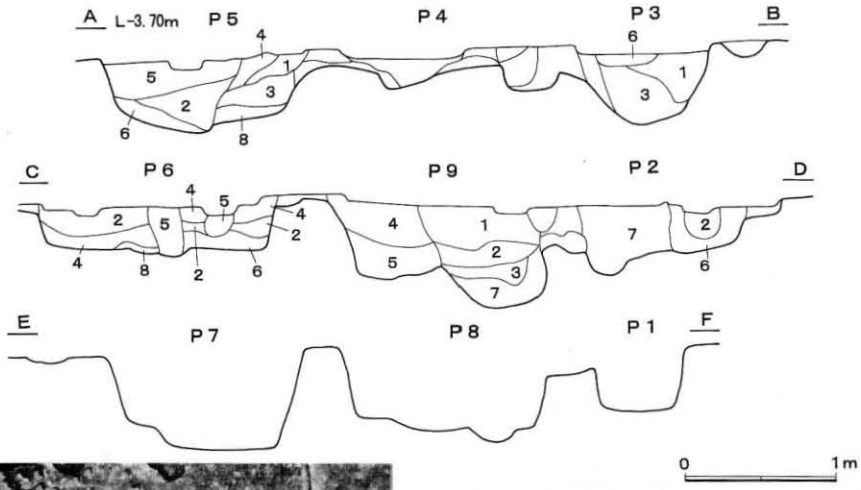


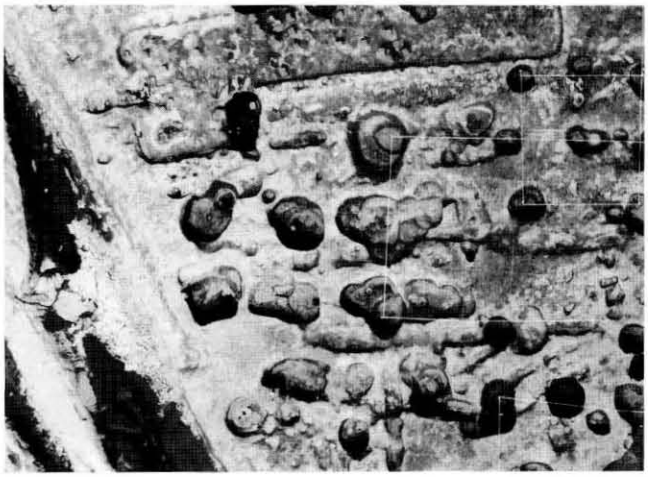
15号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-46-13・14
規模(柱間)	桁行2間(2.0m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向	N-85°-E
深　　さ	0.4～0.7m
柱 穴 径	1.0～1.6m
遺　　物	土師器坏片
特記事項	
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒灰色土(砂混じる) 3 黒灰色土(砂多く混じる) 4 黒灰褐色土(砂混じる) 5 黒灰褐色土(砂多く混じる) 6 暗灰色砂(黒色土混じる) 7 暗灰褐色砂 8 灰色砂

図 125　奈良・平安時代の遺構（15 号掘立柱建物跡）



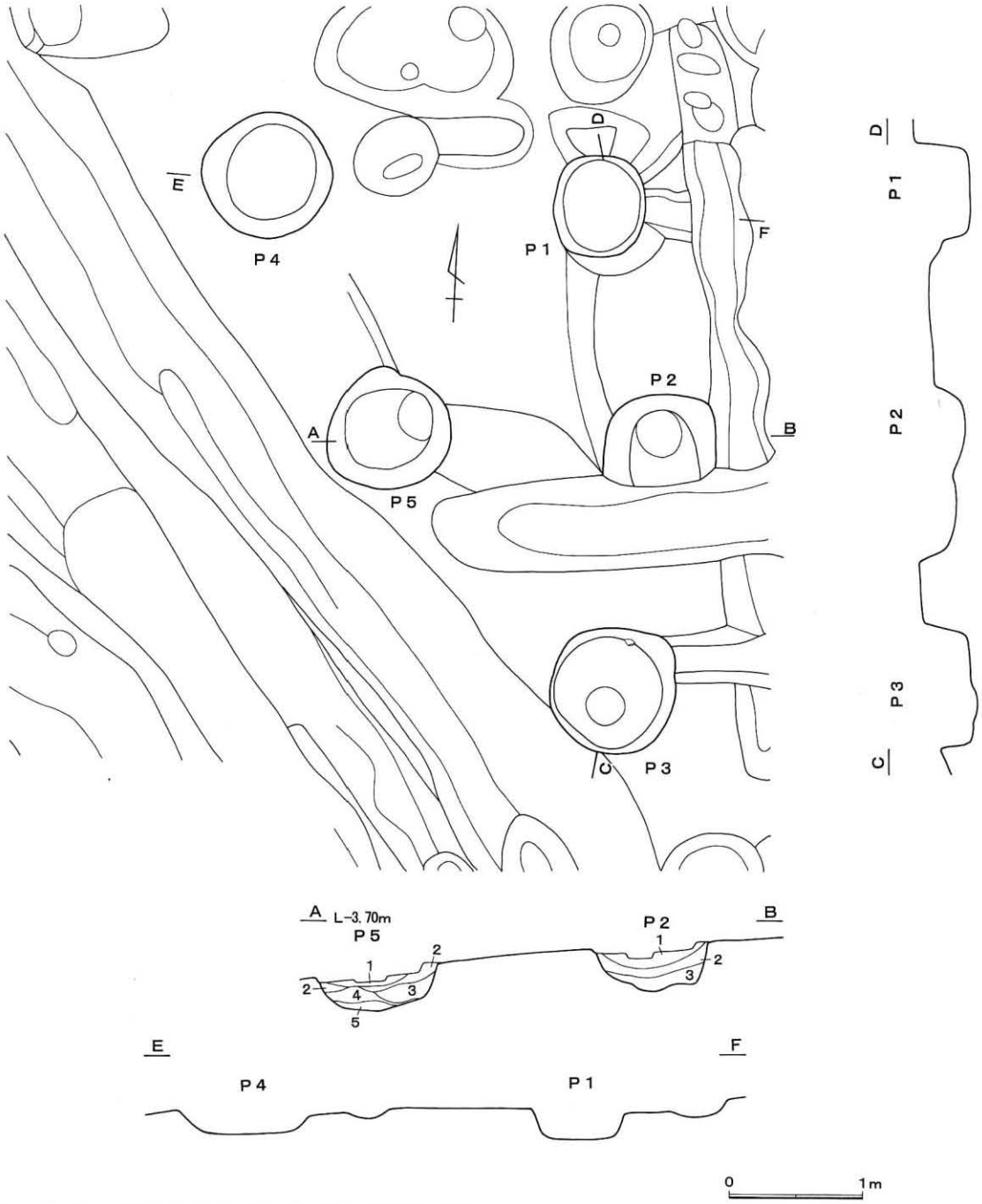




16号掘立柱建物跡

時　　期	6期
位　　置	12E-46-14
規模(柱間)	桁行2間(1.8m)、梁行2間(1.65m)
主軸方向	N-88°-E
深　　さ	0.3～0.5m
柱 穴 径	0.8～1.2m
遺　　物	
特記事項	
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒灰色土(砂混じる) 3 黒灰色土(砂多く混じる) 4 黒灰褐色土(砂混じる) 5 黒灰褐色土(砂多く混じる) 6 暗灰色土(砂混じる) 7 暗灰色砂(黒色土混じる) 8 灰色砂

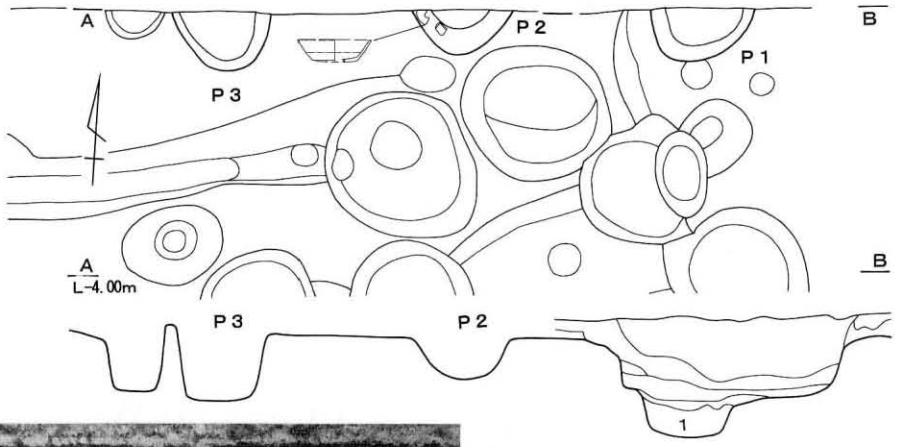
図 126　奈良・平安時代の遺構（16 号掘立柱建物跡）

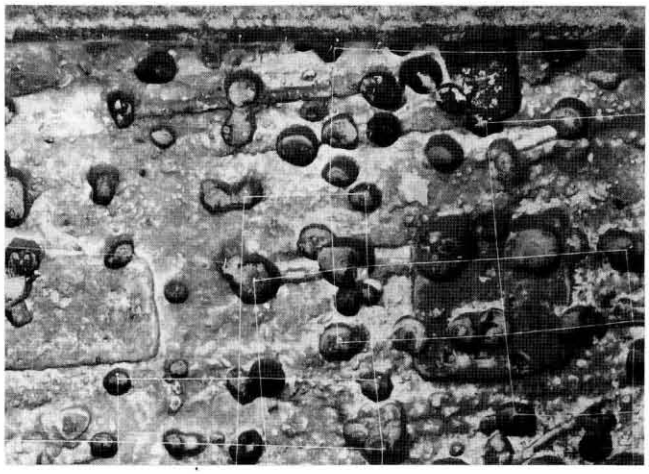


17号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-46-14
規模(柱間)　桁行1間(2.5m)、梁行2間(1.85m)
主軸方向　N-89°-E
深　　さ　0.25～0.4m
柱 穴 径　0.9～0.95m
遺　　物　須恵器甕片
特記事項
層　　序　1　黒灰色土(砂混じる)
　　2　黒灰色土(砂多く混じる)
　　3　暗灰色土(砂混じる)
　　4　暗灰色砂(黒色土混じる)
　　5　灰赤褐色砂(黒色土混じる)

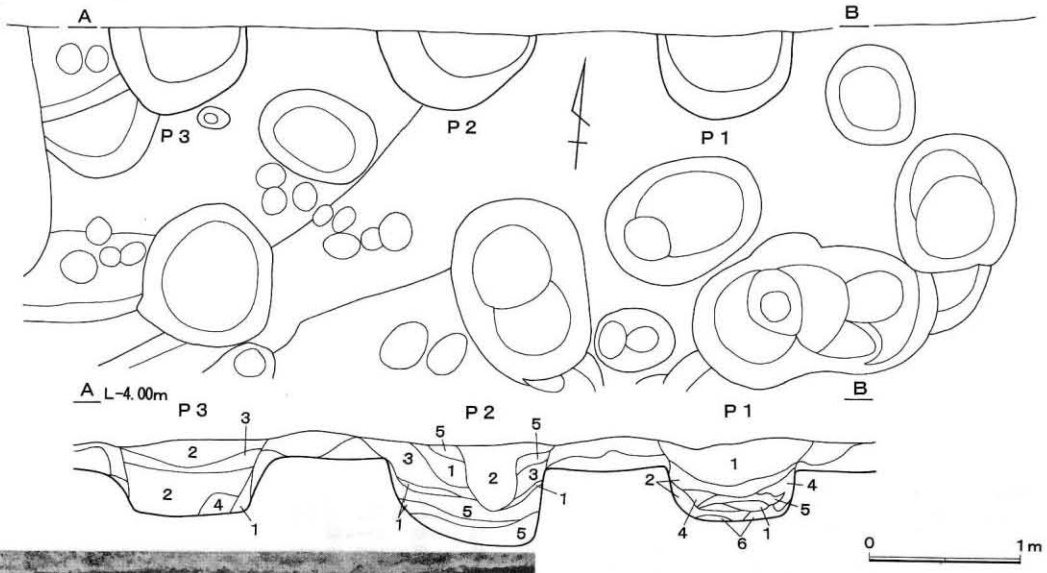
図 127　奈良・平安時代の遺構（17 号掘立柱建物跡）

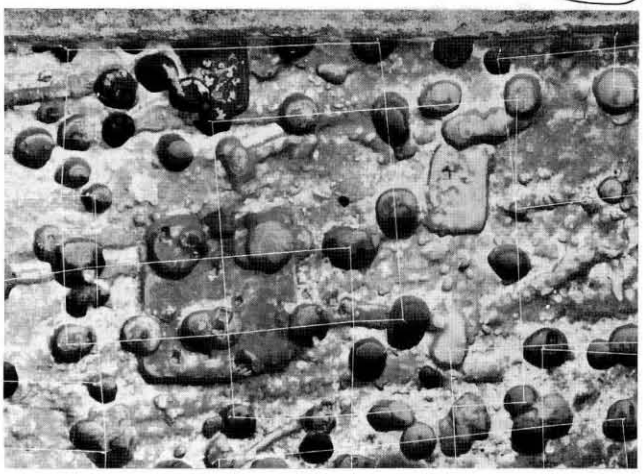




18号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-46-9
規模(柱間)　桁行2(1.6m)、梁行一間(一m)
主軸方向　N-84°-E
深　　さ　0.3～0.6m
柱 穴 径　0.65～0.7m
遺　　物　土師器坏
特記事項
層　　序　1 黒色土(砂混じる)





19号掘立柱建物跡

時　　期　2～4期
位　　置　12E-46-10
規模(柱間)　桁行2間(1.8m)、梁行2間(1.8m)
主軸方向　N-89°-W
深　　さ　0.35～0.55m
柱 穴 径　0.9～0.95m
遺　　物
特記事項
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂多く混じる)
4 黒灰褐色土(砂混じる)
5 暗灰色砂(黒色土混じる)
6 灰色砂

図 128　奈良・平安時代の遺構(18・19 号掘立柱建物跡)

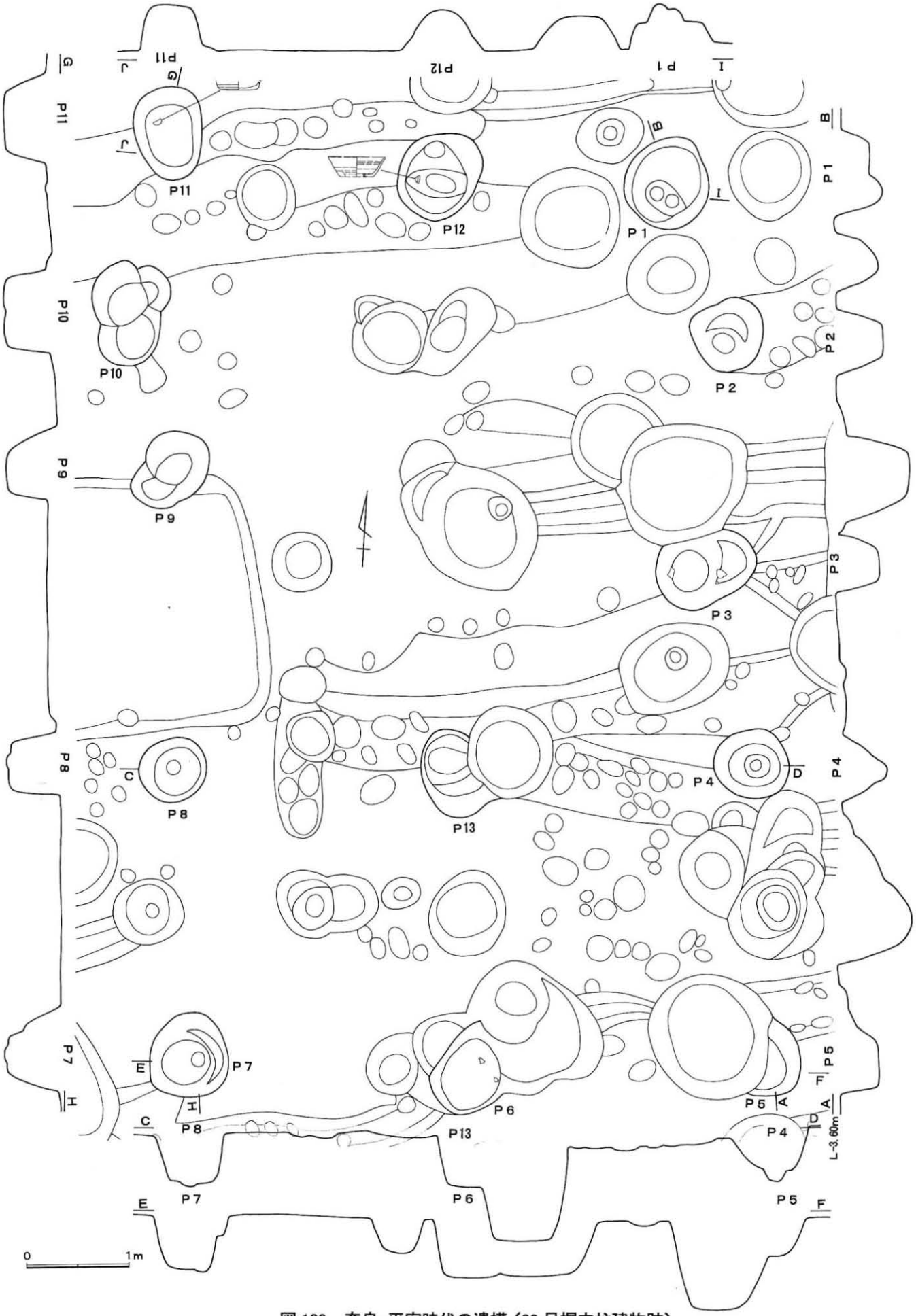


図 129　奈良・平安時代の遺構（20 号掘立柱建物跡）

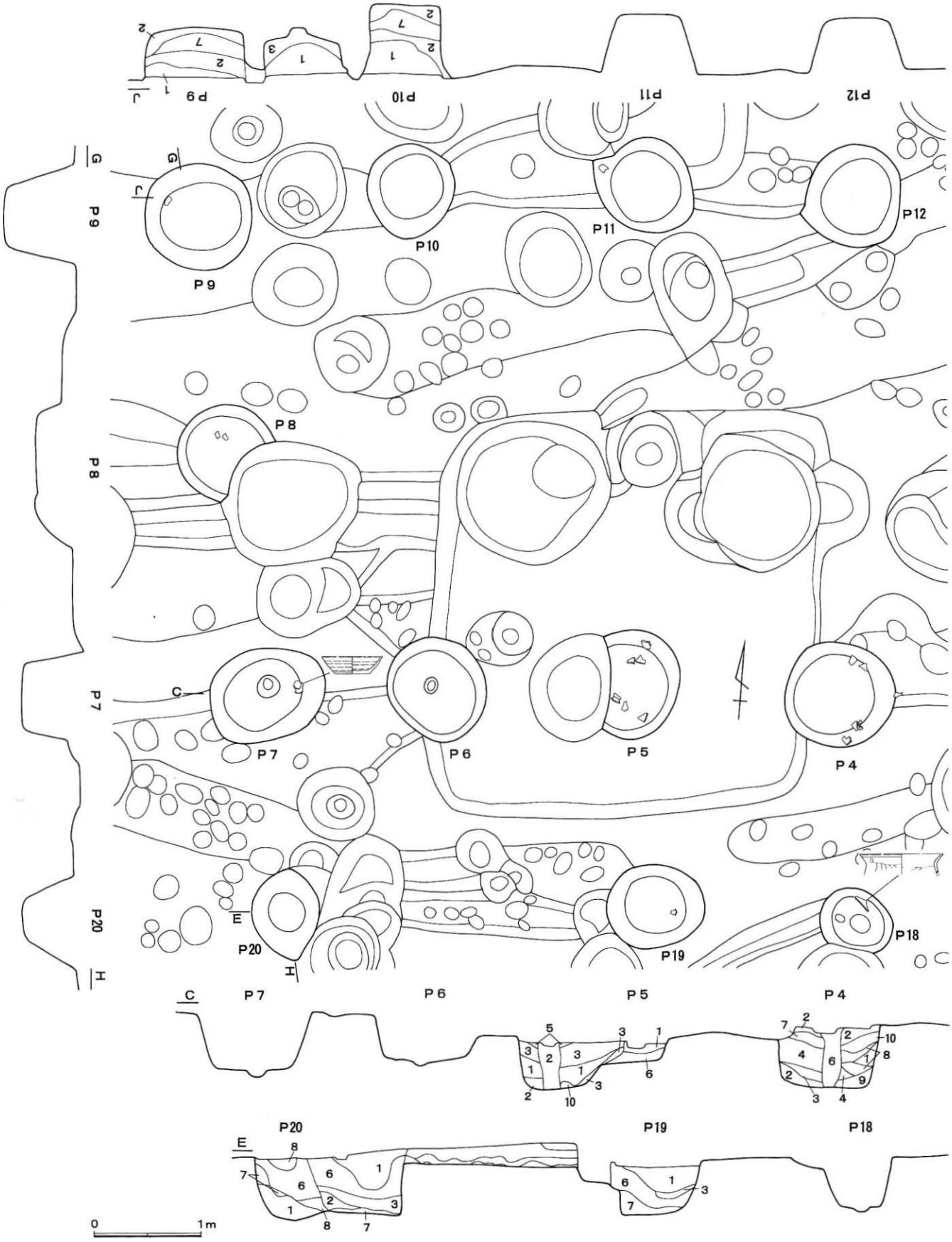
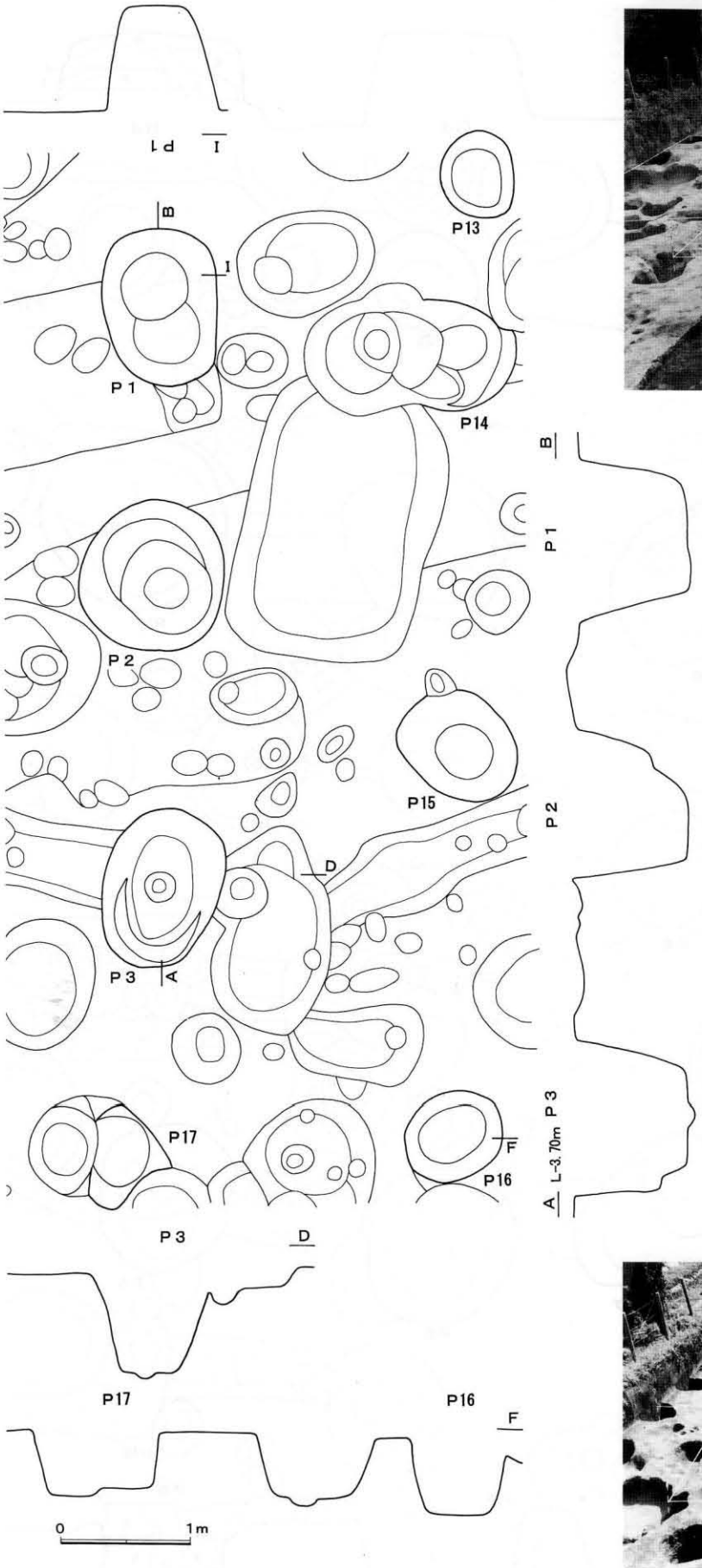


図 130　奈良・平安時代の



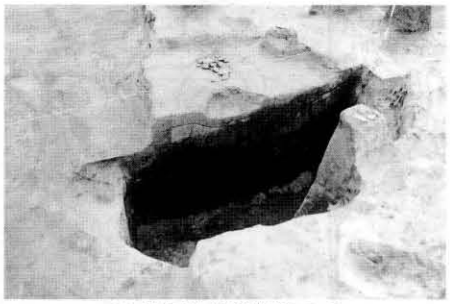
遺構(21号掘立柱建物跡)

20号掘立柱建物跡

時　　期　8期
位　　置　12E-46-9・14
規模(柱間)　桁行4間(1.7～2.8m)、梁行2間(2.1～2.8m)
主軸方向　N-4°-W
深　　さ　0.4～0.6m
柱 穴 径　0.65～0.9m
遺　　物　土師器坏、須恵器坏・甕片
特記事項

21号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-46-10
規模(柱間)　桁行4間(1.8m)、梁行2間(2.2m)
主軸方向　N-85°-E
深　　さ　主柱 0.4～0.8m、庇柱 0.4～0.6m
柱 穴 径　主柱 1.0～1.1m、庇柱 0.7～0.9m
遺　　物　土師器坏・蓋・甕、須恵器坏。
特記事項　南側と東側に庇柱
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂多く混じる)
4 黒灰色土(砂・焼土混じる)
5 黒灰色土(砂混じり、硬くしまる)
6 黒灰褐色土(砂混じる)
7 暗灰色砂(黒色土混じる)
8 灰色砂(黒色土混じる)
9 灰色砂(黒褐色土混じる)
10 灰色砂



21号掘立柱建物跡P4

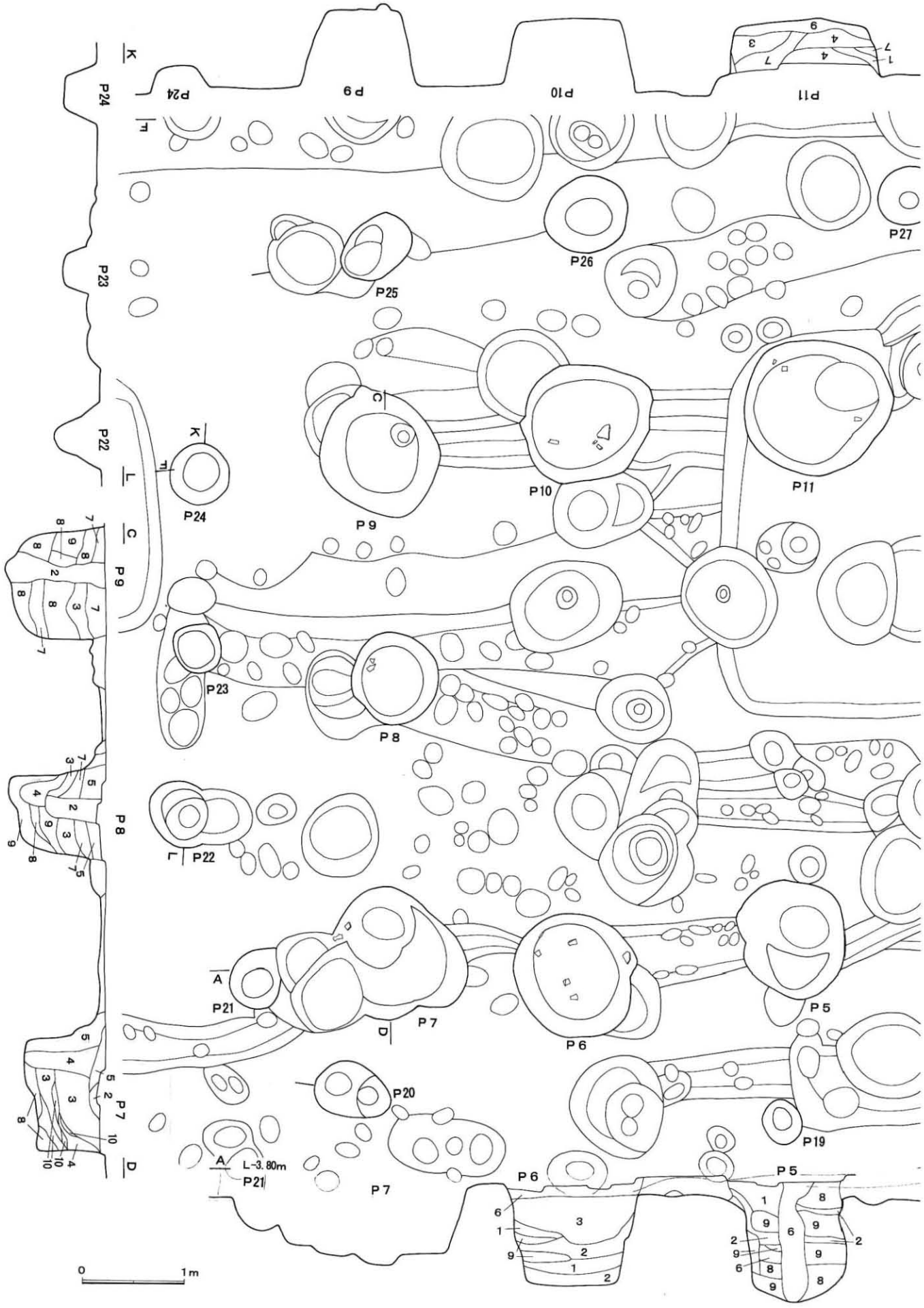
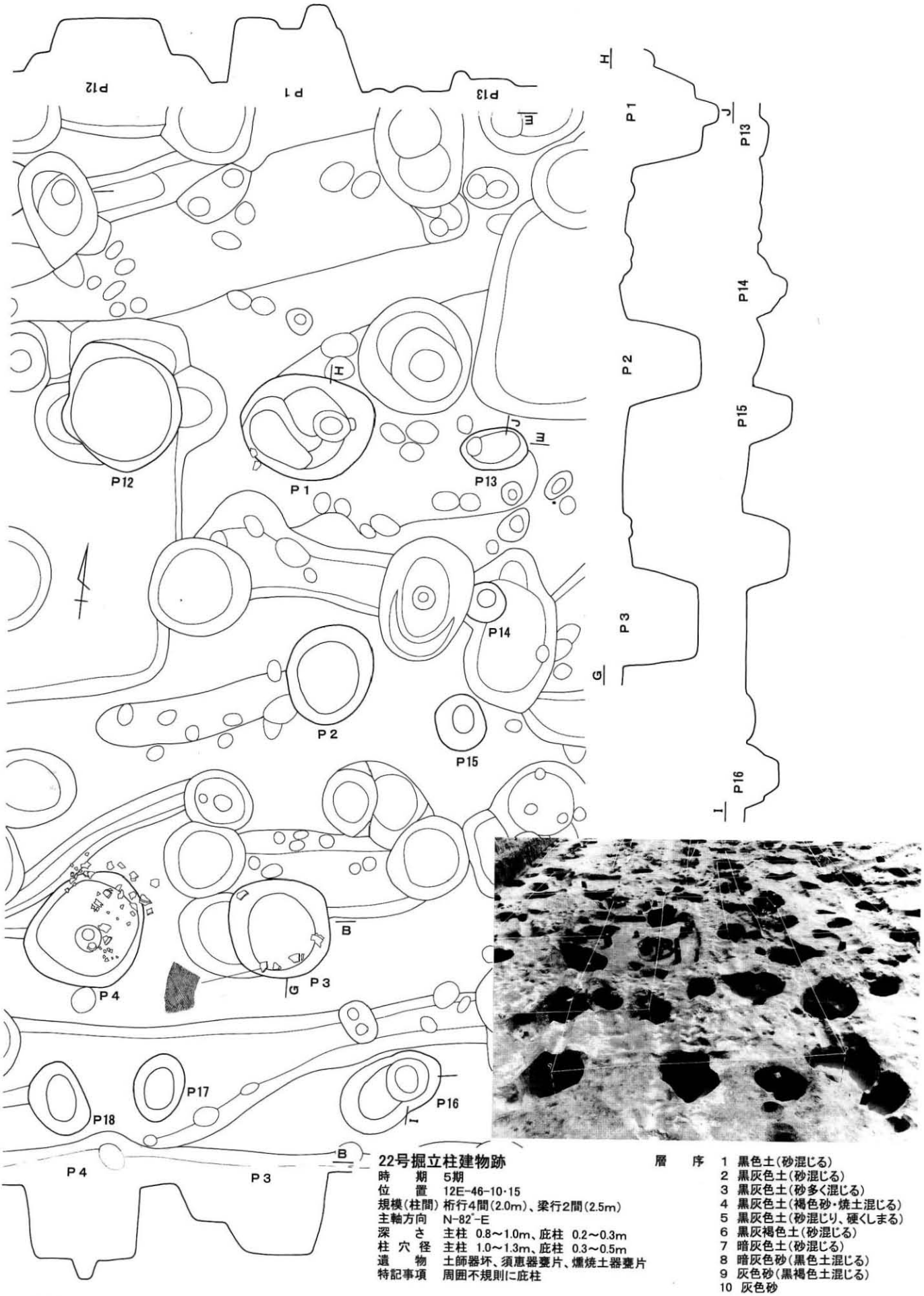


図 131　奈良・平安時代の

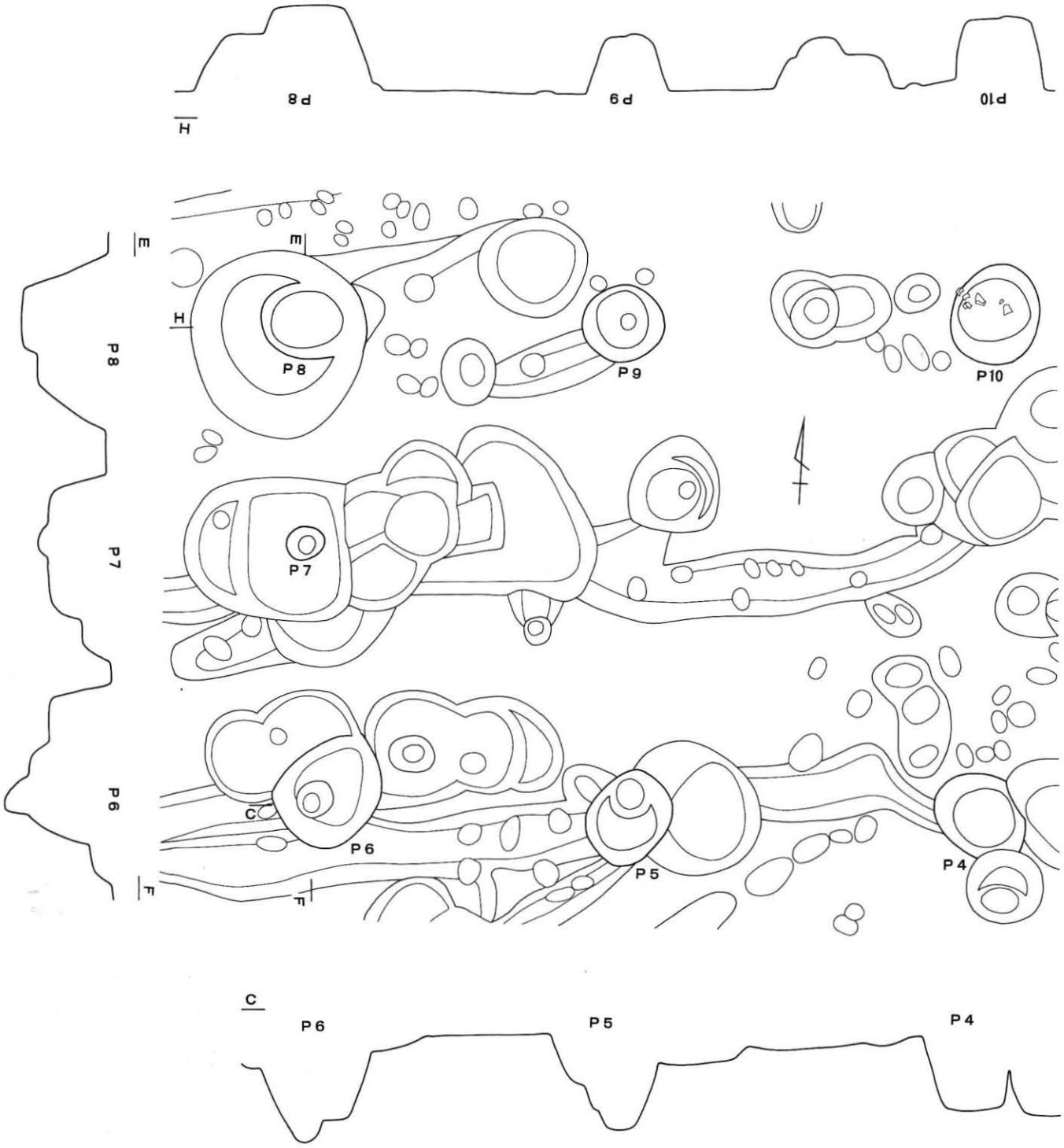


22号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-46-10·15
規模(柱間)　桁行4間(2.0m)、梁行2間(2.5m)
主軸方向　N-82°-E
深　　さ　主柱 0.8～1.0m、庇柱 0.2～0.3m
柱 穴 径　主柱 1.0～1.3m、庇柱 0.3～0.5m
遺　　物　土師器坏、須恵器甕片、爐焼土器甕片
特記事項　周囲不規則に庇柱

層　　序
1 黒色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂多く混じる)
4 黒灰色土(褐色砂・焼土混じる)
5 黒灰色土(砂混じり、硬くしまる)
6 黒灰褐色土(砂混じる)
7 暗灰色土(砂混じる)
8 暗灰色砂(黒色土混じる)
9 灰色砂(黒褐色土混じる)
10 灰色砂

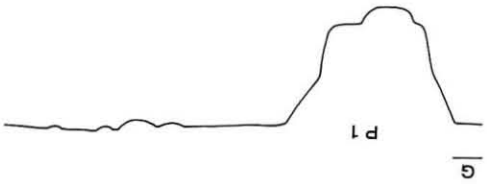
遺構(22号掘立柱建物跡)

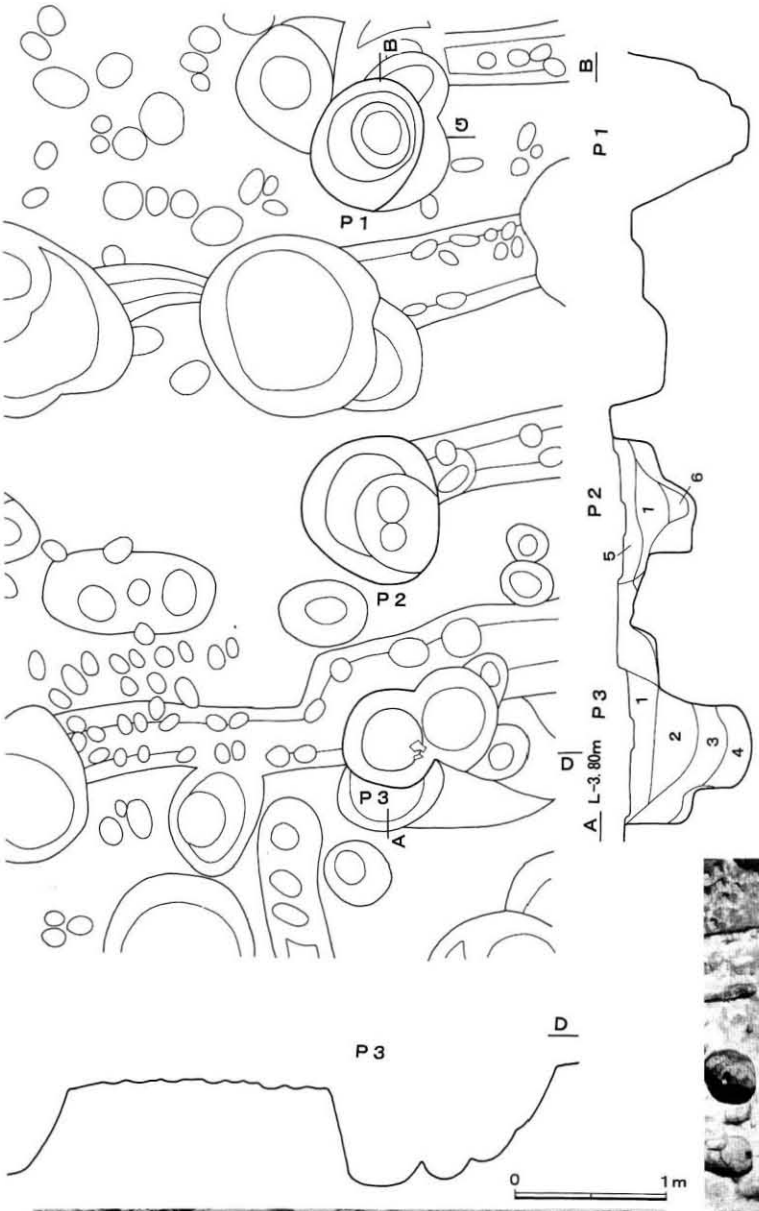


22号掘立柱建物跡Ｐ５

22号掘立柱建物跡Ｐ９

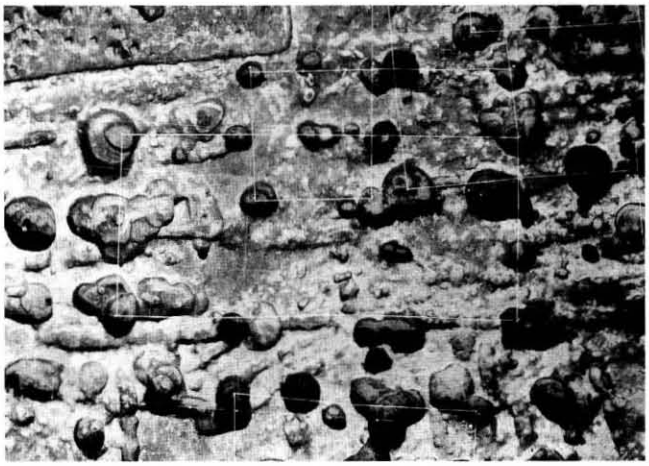
図132　奈良・平安時代の



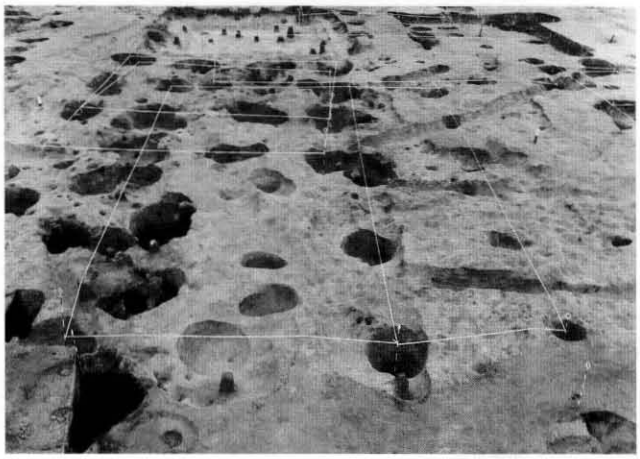


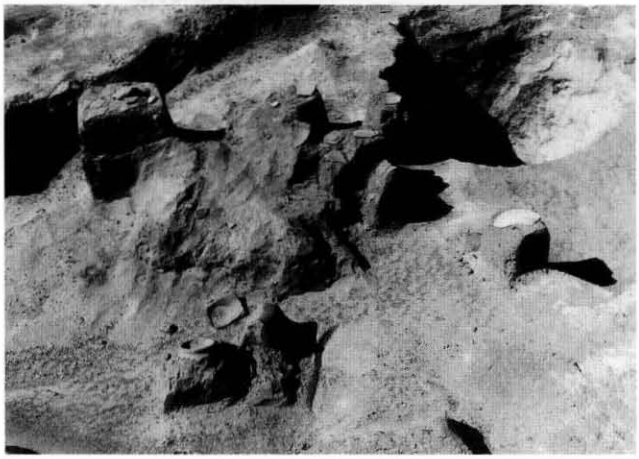
23号掘立柱建物跡

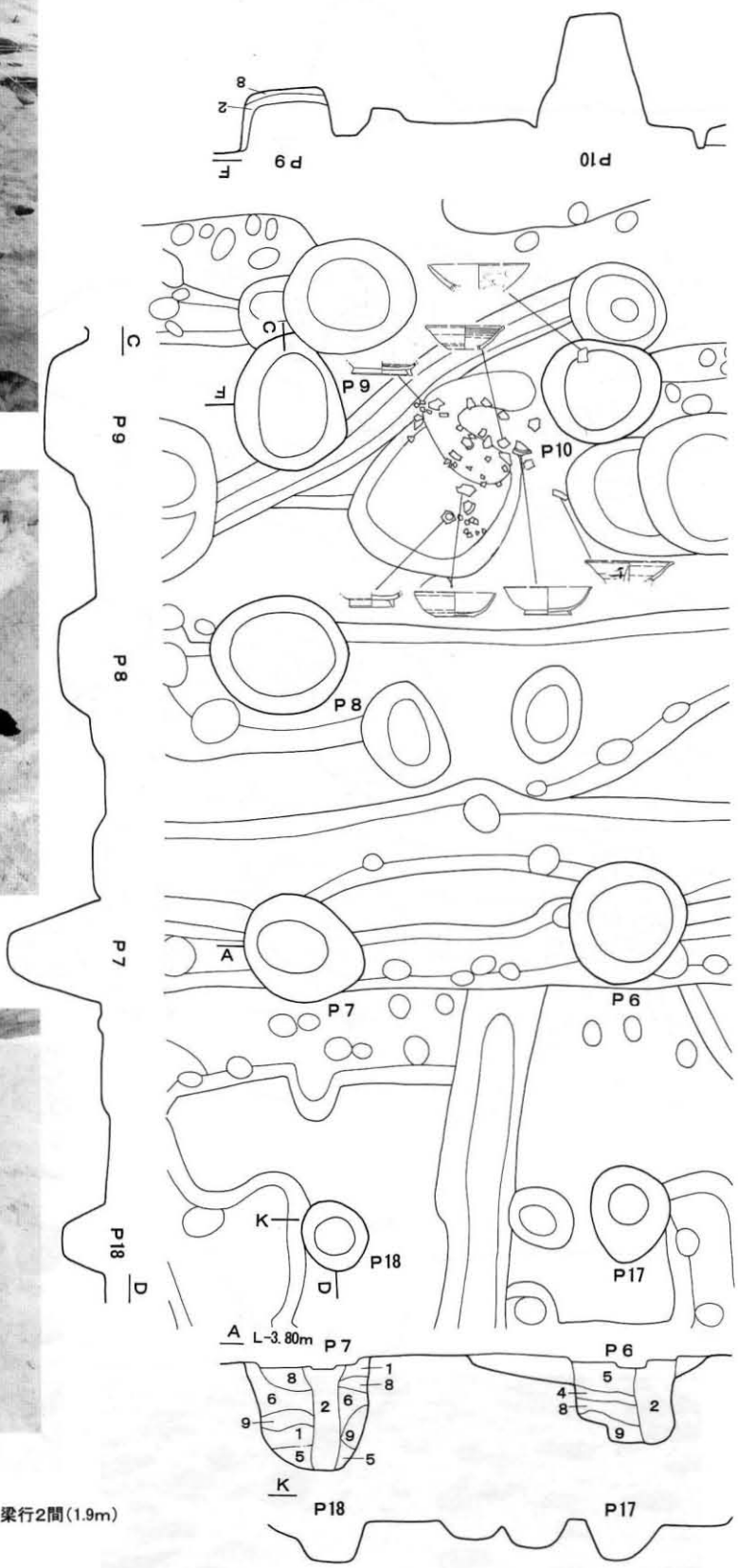
時　　期	7期
位　　置	12E-46-14
規模(柱間)	桁行3間(3.0m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向	N-87°-E
深　　さ	0.5～0.9m
柱 穴 径	0.65～1.0m
遺　　物	須恵器蓋・甕片
特記事項	
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒灰色土(砂多く混じり、硬くしまる) 3 黒色土(砂・焼土混じる) 4 黒灰色砂(黒色土混じる) 5 黒灰褐色土(砂混じる) 6 暗灰色砂



遺構(23号掘立柱建物跡)



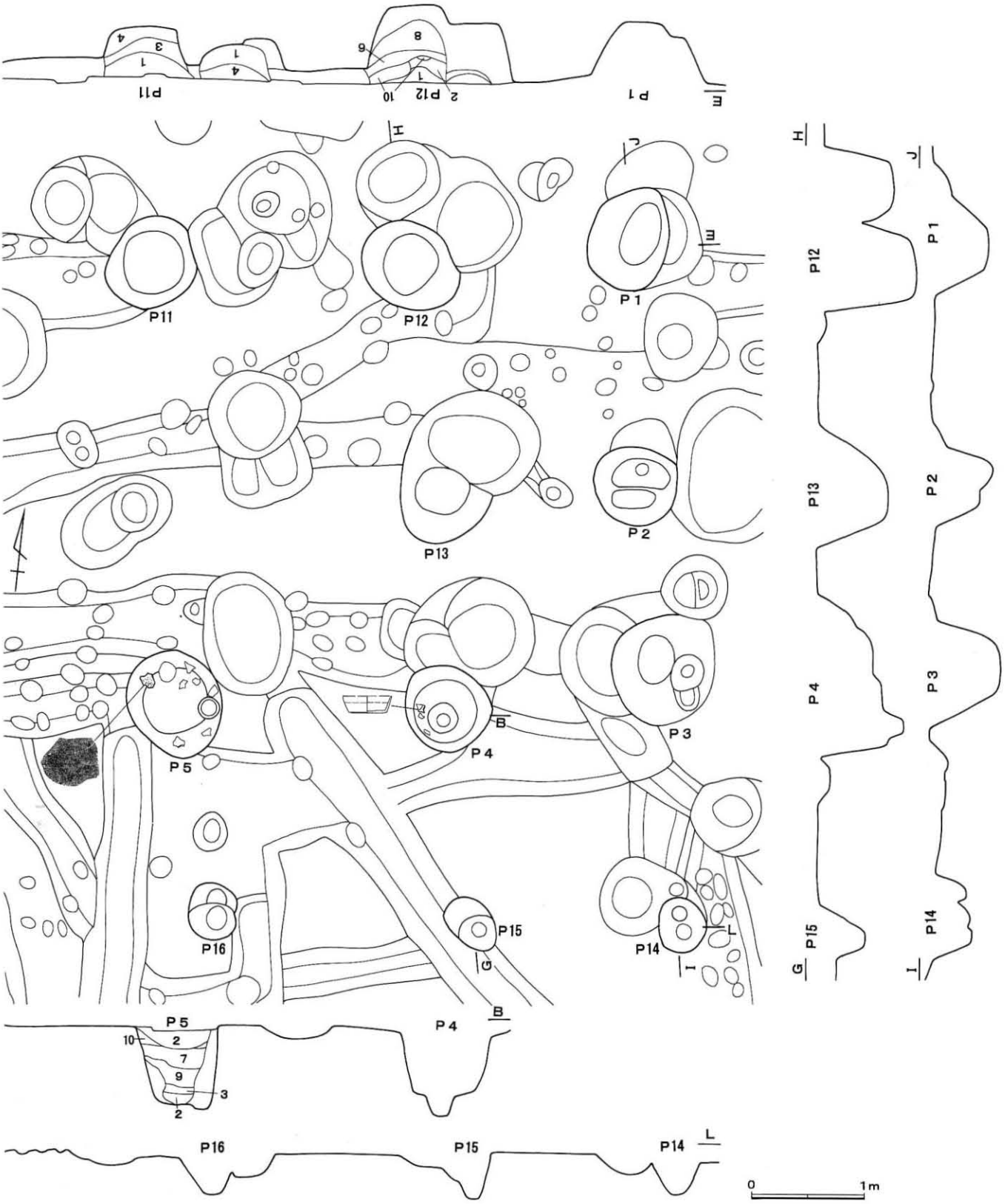




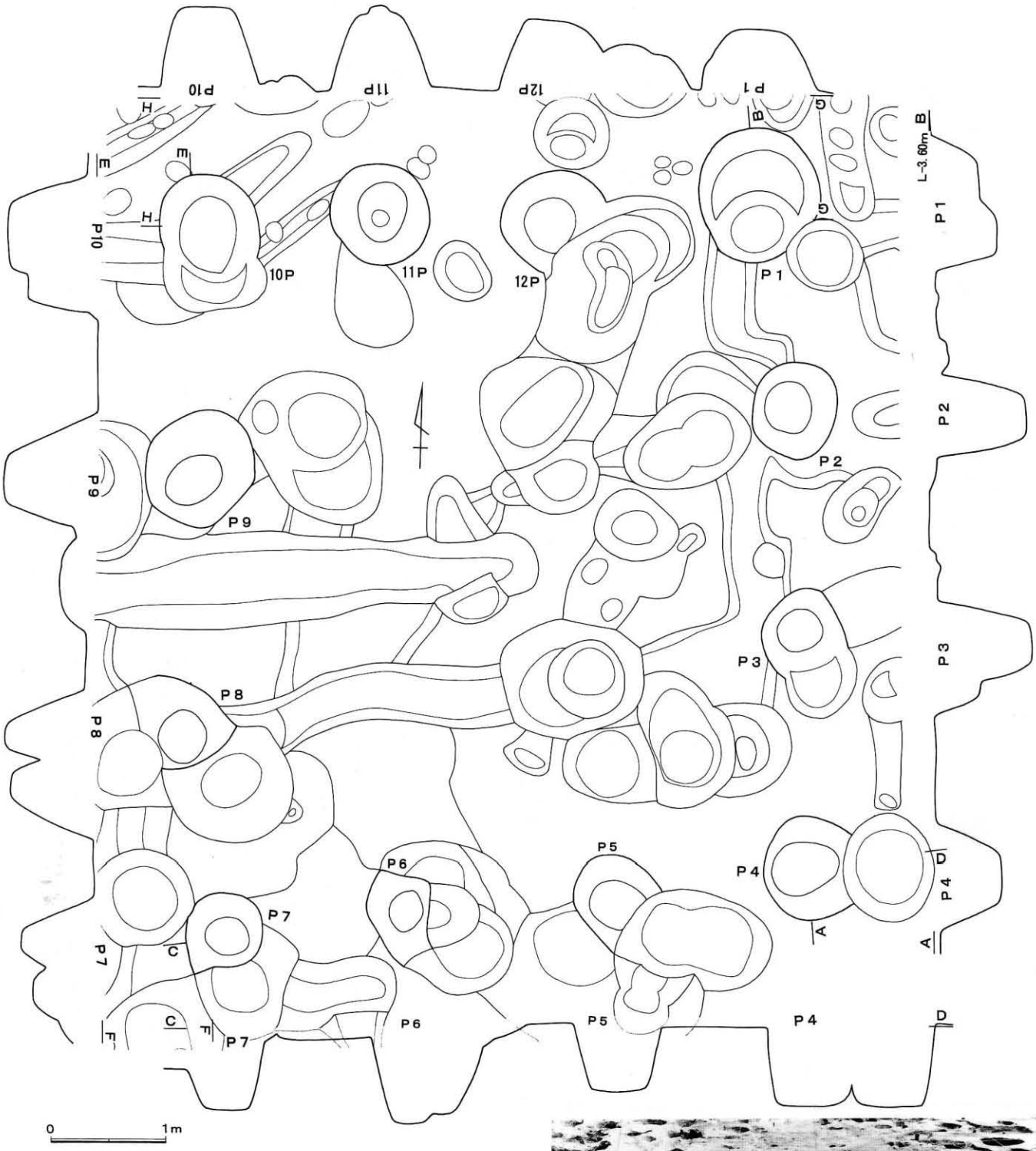
24号掘立柱建物跡

時　　期	7期
位　　置	12E-46-15
規模(柱間)	桁行4間(2.4m)、梁行2間(1.9m)
主軸方向	N-83°-E
深　　さ	0.3～0.8m
柱 穴 径	0.7～1.0m
遺　　物	土師器坏・皿・甕、須恵器坏・甕、緑釉陶器碗
特記事項	南側に庇柱穴あり。北東部に竈あり、本建物跡に属す遺構と考えられる。
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒灰色土(砂混じる) 3 黒灰色土(砂多く混じる) 4 黒灰色土(砂・焼土混じる) 5 黒灰色土(砂混じり、硬くしまる) 6 黒灰色土(褐色砂混じる) 7 暗灰褐色土(砂混じる) 8 暗灰色砂(黒色土混じる) 9 灰白色砂 10 灰色砂

図 133　奈良・平安時代の



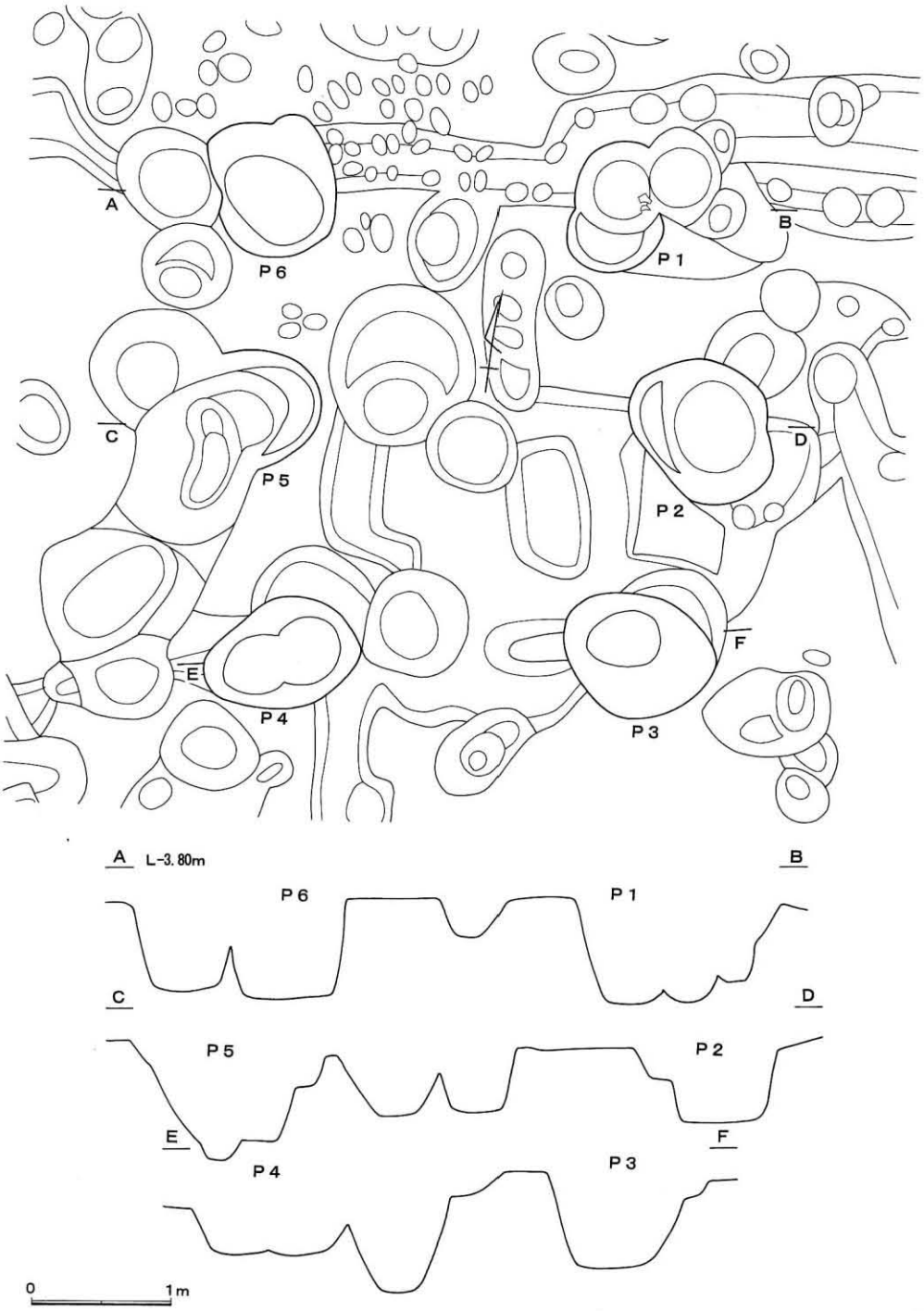
遺構(24号掘立柱建物跡)



25号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-46-19
規模(柱間)	桁行4間(2.4m)、梁行2間(1.9m)
主軸方向	N-8°-W
深　　さ	0.55～0.9m
柱 穴 径	0.6～1.0m
遺　　物	燻焼土器甕
特記事項	
層　　序	

図 134　奈良・平安時代の遺構（25 号掘立柱建物跡）



26号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-46-19
規模(柱間)	桁行2間(1.6m)、梁行1間(2.7m)
主軸方向	N-5°-W
深　　さ	0.5～0.8m
柱 穴 径	0.6～0.9m
遺　　物	土師器坏
特記事項	
層　　序	

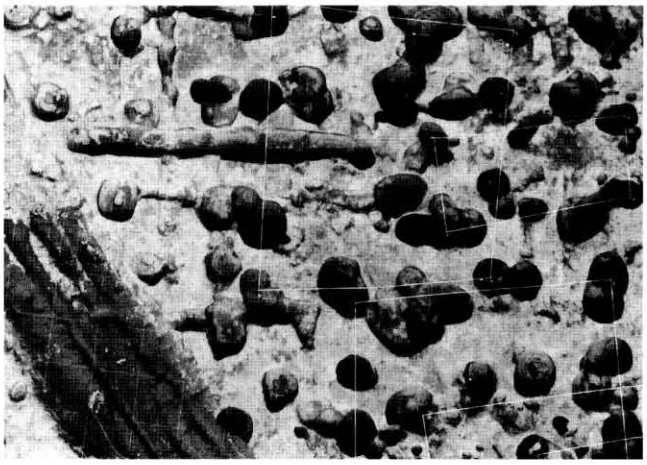
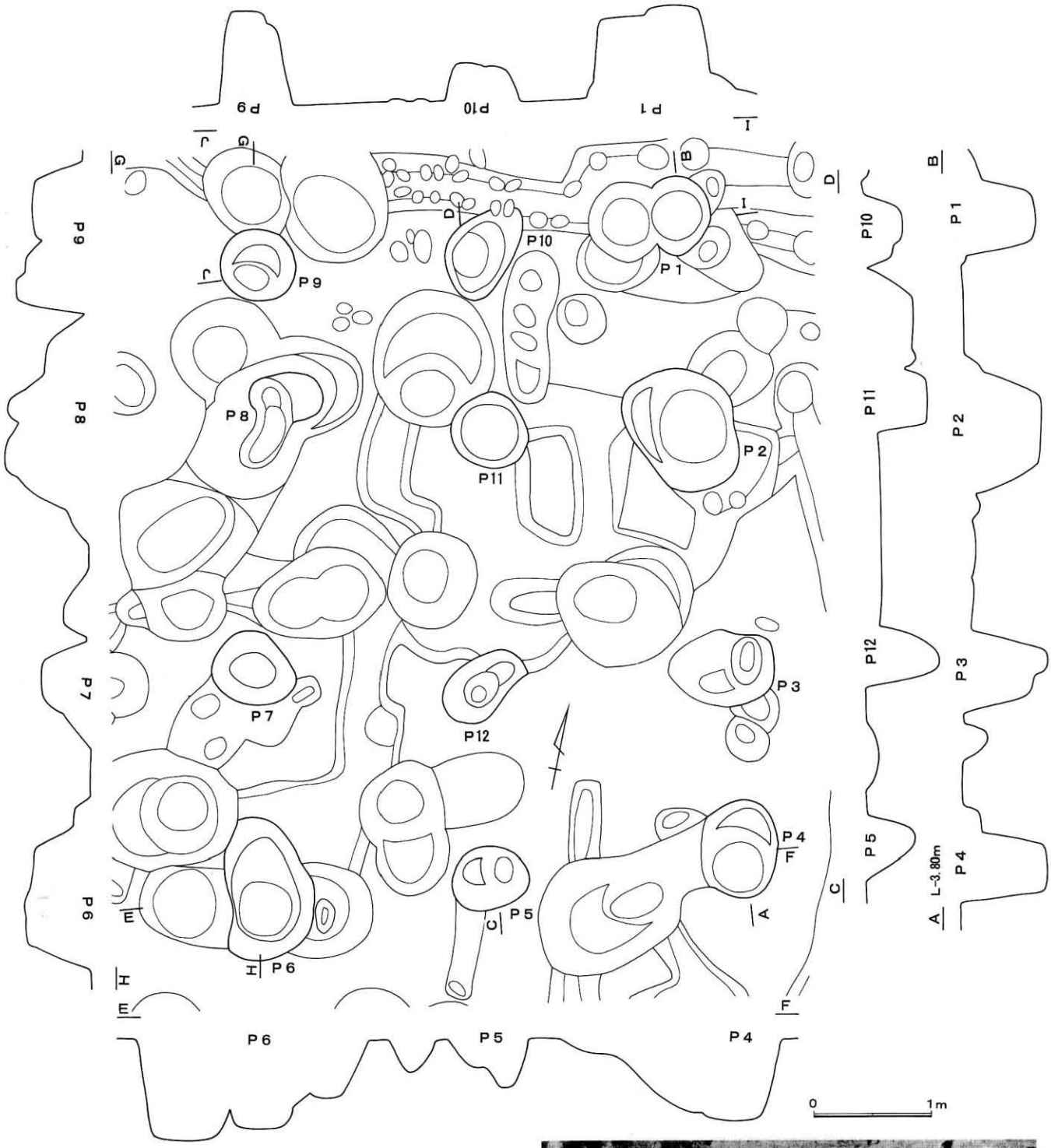
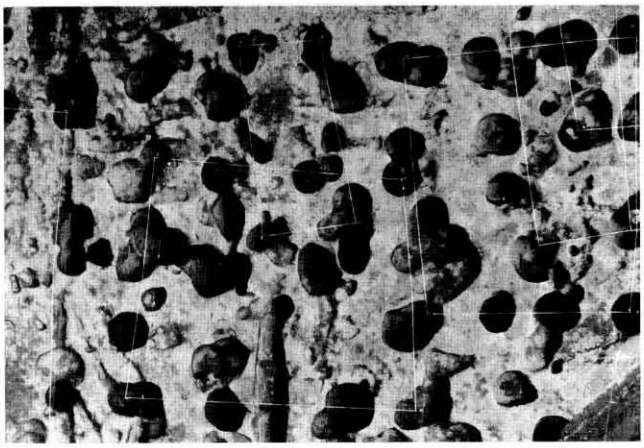


図 135　奈良・平安時代の遺構（26 号掘立柱建物跡）

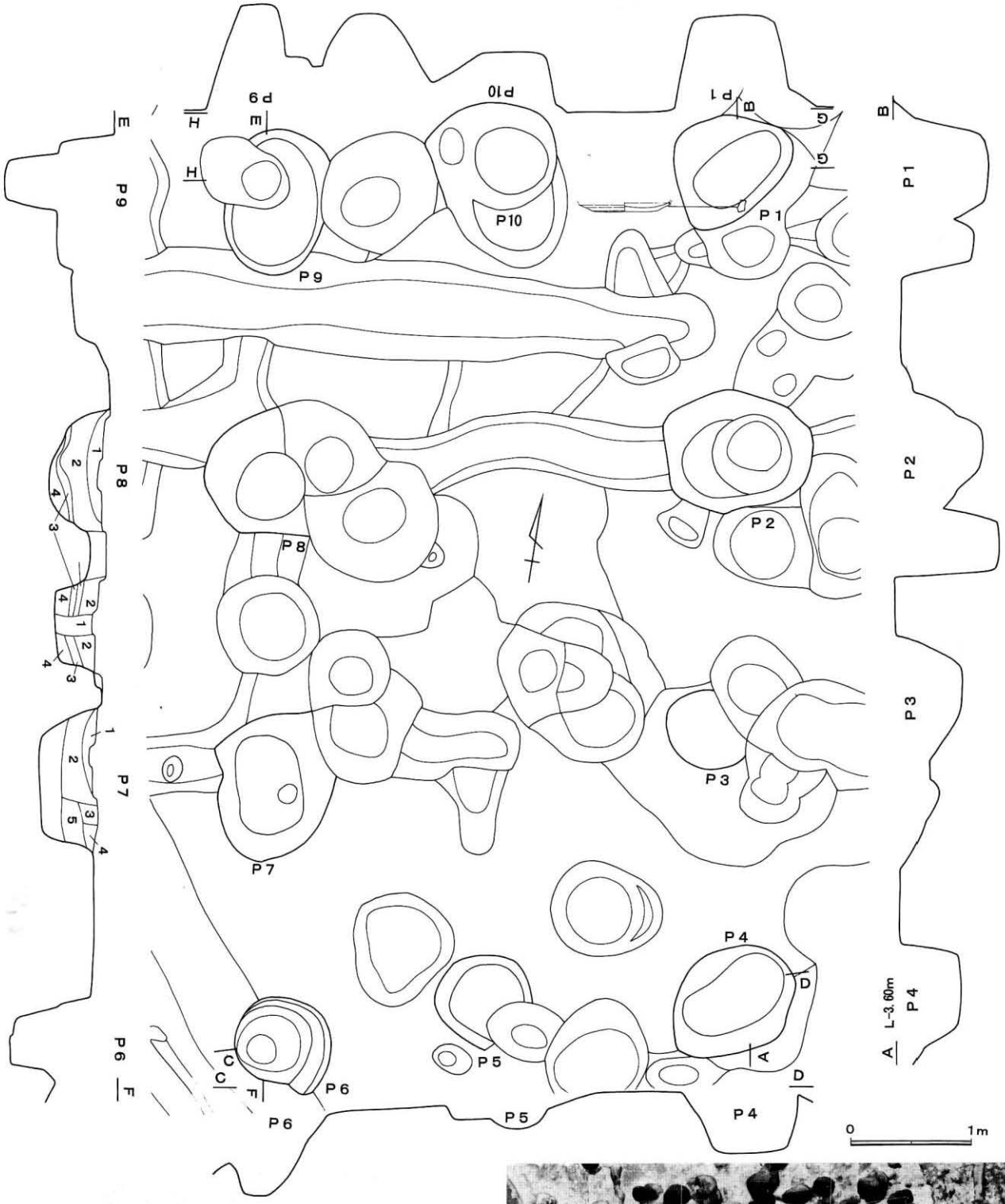


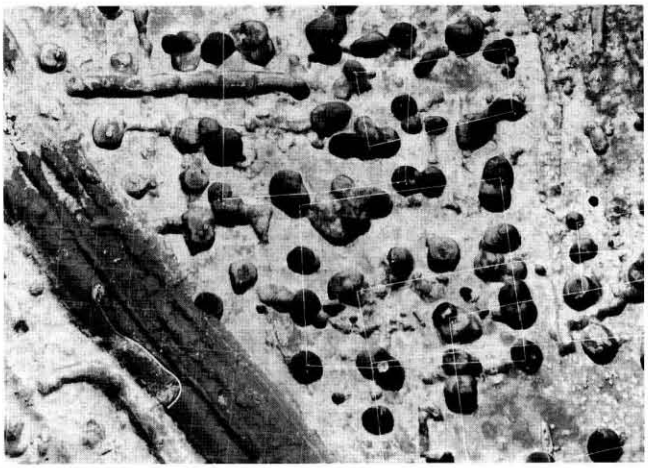


27号掘立柱建物跡

時　　期	6期
位　　置	12E-46-19・20
規模(柱間)	桁行3間(1.8m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向	N-13°-W
深　　さ	0.4～0.8m
柱 穴 径	0.5～1.0m
遺　　物	土師器坏・甕片
特記事項	
層　　序	

図 136　奈良・平安時代の遺構（27 号掘立柱建物跡）

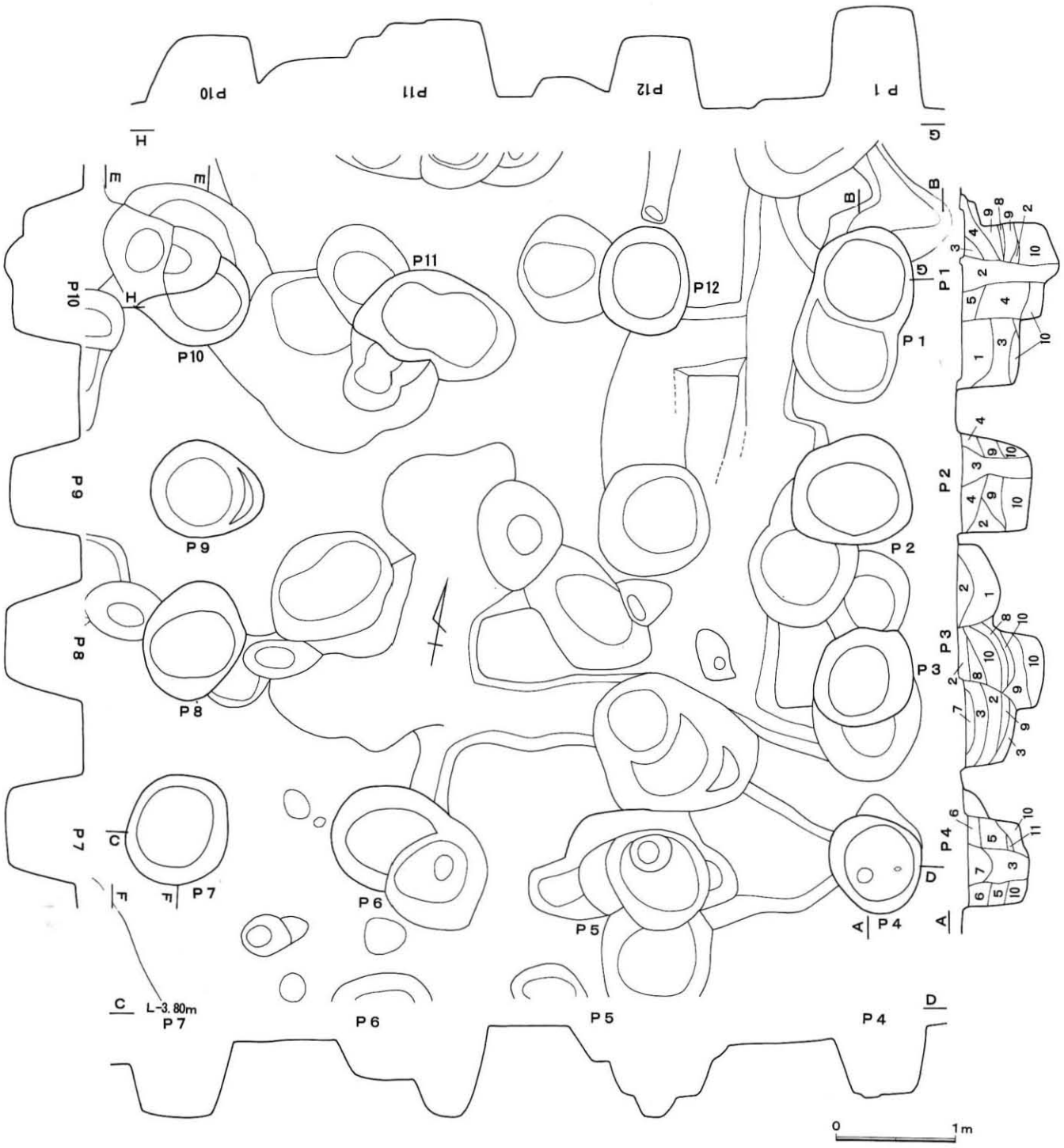




28号掘立柱建物跡

時　　期	7期
位　　置	12E-46-19
規模(柱間)	桁行3間(2.5m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向	N-10°-W
深　　さ	0.2～0.8m
柱 穴 径	0.8～1.2m
遺　　物	土師器坏・盤、須恵器長頸壺・甕片
特記事項	
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒灰色土(砂混じる) 3 黒灰色土(褐色砂混じる) 4 暗灰褐色土(砂混じる) 5 暗灰色砂(黒色土混じる) 6 灰色砂

図 137　奈良・平安時代の遺構（28 号掘立柱建物跡）



29号掘立柱建物跡

時　　期　6期
位　　置　12E-46-19・20
規模(柱間)　桁行3間(2.0m)、梁行3間(1.5m)
主軸方向　N-80°-E
深　　さ　0.5～0.8m
柱 穴 径　0.8～0.9m
遺　　物　土師器坏・甕、燻焼土器甕
特記事項
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
2 黒灰色土(砂混じる)
3 黒灰色土(砂多く混じる)
4 黒灰色土(褐色砂混じる)
5 黒灰色土(砂混じり、硬くしまる)
6 黒灰色土(砂多く混じり、硬くしまる)
7 黒灰褐色土(砂混じる)
8 暗灰色土(砂混じる)
9 暗灰色砂(黒色土混じる)
10 灰色砂(黒色土混じる)
11 灰色砂

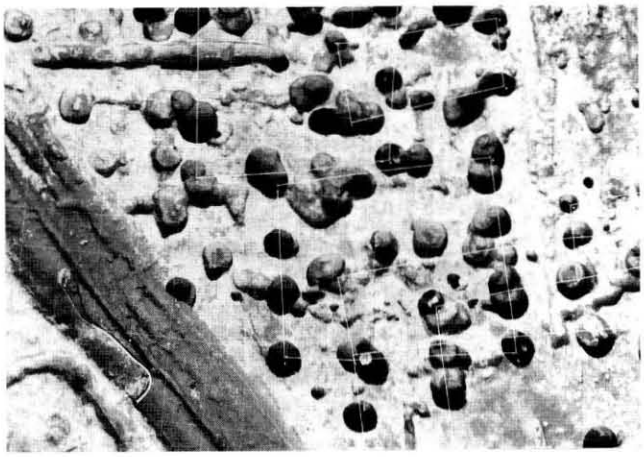
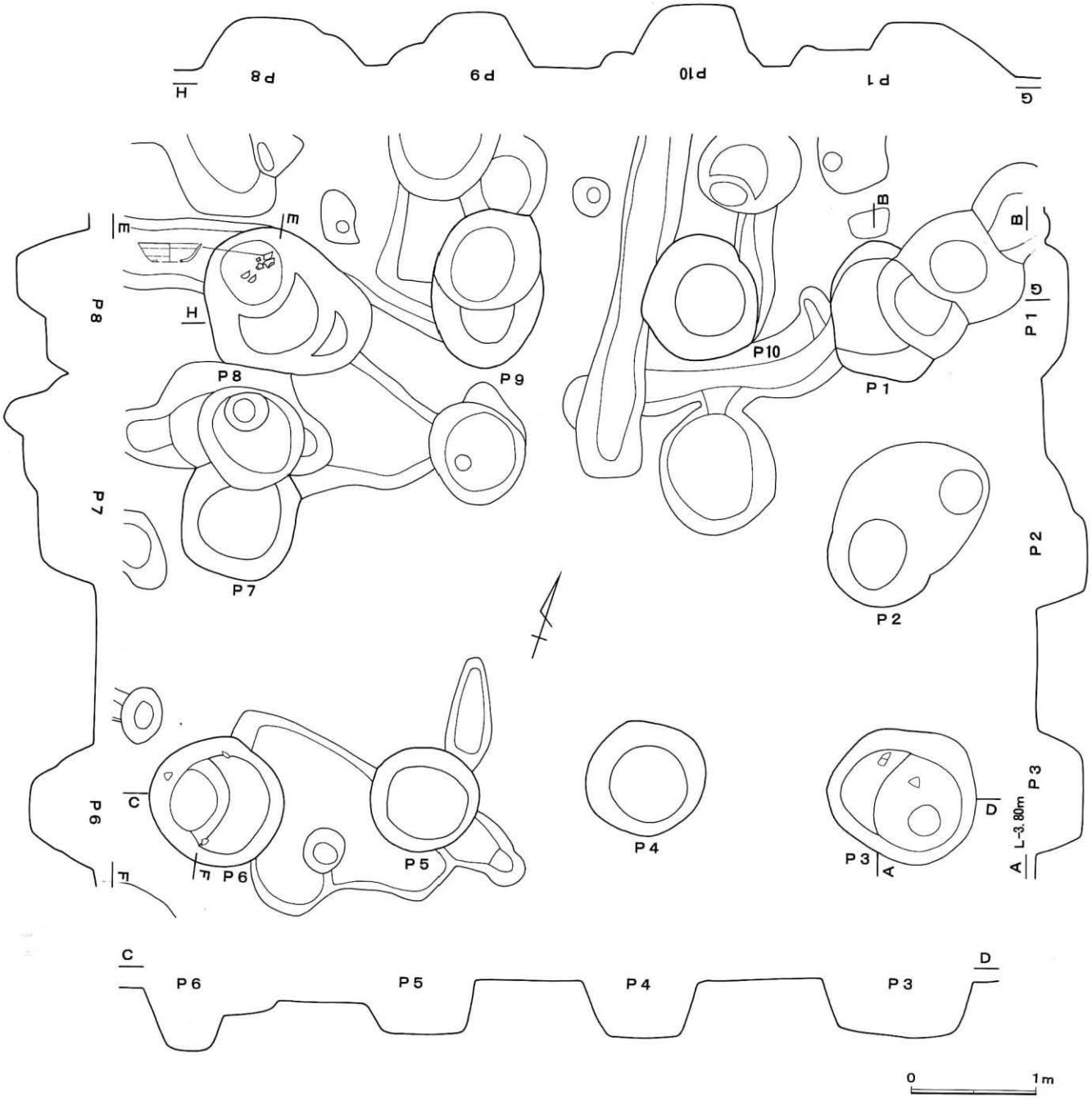


図 138　奈良・平安時代の遺構 (29 号掘立柱建物跡)



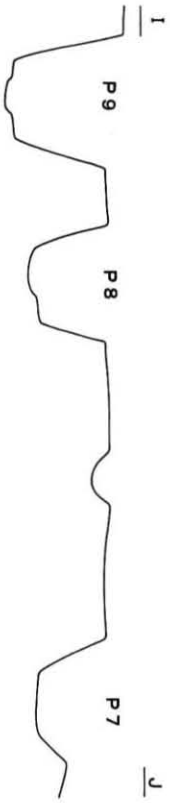
30号掘立柱建物跡

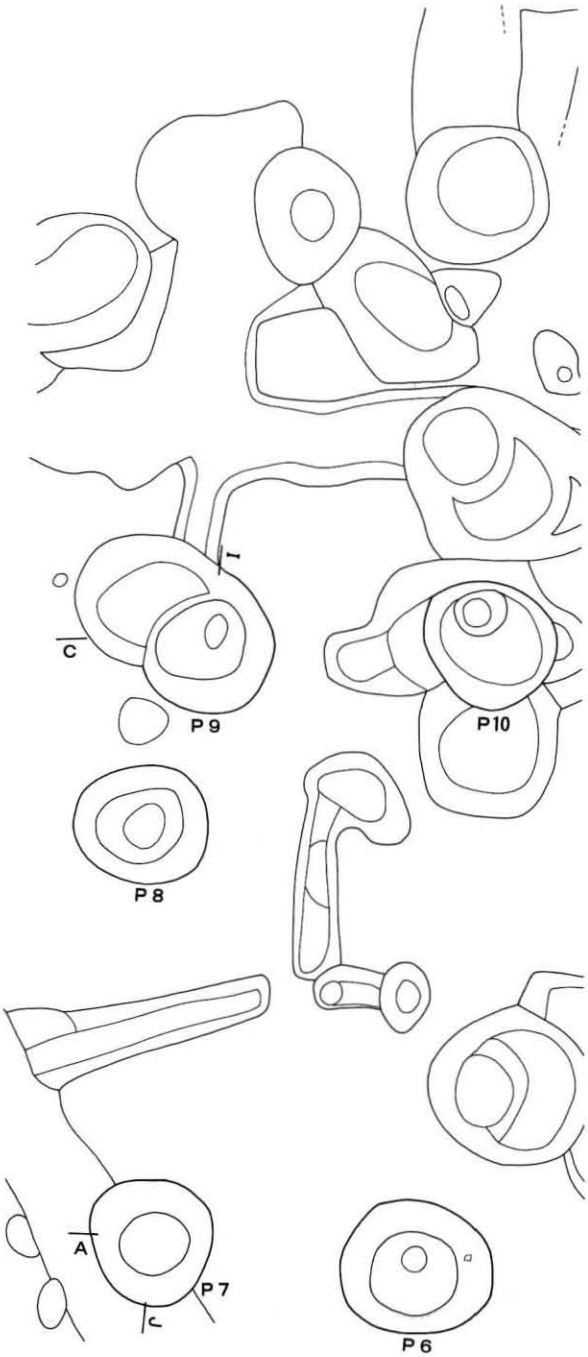
時　　期　5期
位　　置　12E-46-20・25
規模(柱間)　桁行3間(2.0m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向　N-73°-E
深　　さ　0.4～0.6m
柱 穴 径　0.8～1.2m
遺　　物　土師器坏・甕、燻焼土器甕、須恵器甕片
特記事項

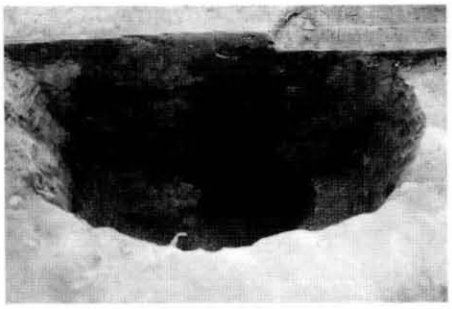
図 139　奈良・平安時代の遺構（30 号掘立柱建物跡）

31号掘立柱建物跡

時　　期	7期
位　　置	12E-46-25
規模(柱間)	桁行4間(2.0m)、梁行2間(2.2m)
主軸方向	N-73°-E
深　　さ	0.3～0.8m
柱 穴 径	0.8～1.1m
遺　　物	土師器坏・甕
特記事項	北東側に張り出し部あり
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒色土(砂混じり、硬くしまる) 3 黒灰色土(砂混じる) 4 黒灰色土(砂多く混じる) 5 黒灰色土(褐色砂・焼土混じる) 6 黒灰色土(砂少し混じり、粘質) 7 暗灰色土(砂多く混じる) 8 暗灰色砂(黒色土混じる) 9 灰色砂(黒色土混じる) 10 灰色砂







31号掘立柱建物跡P5

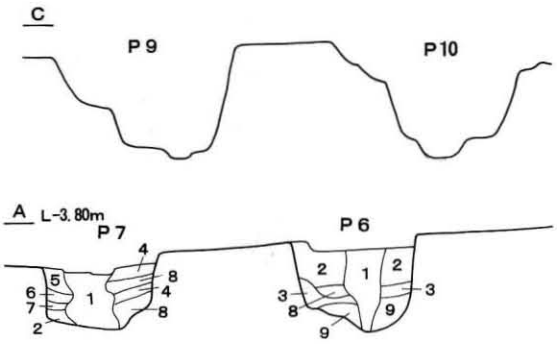
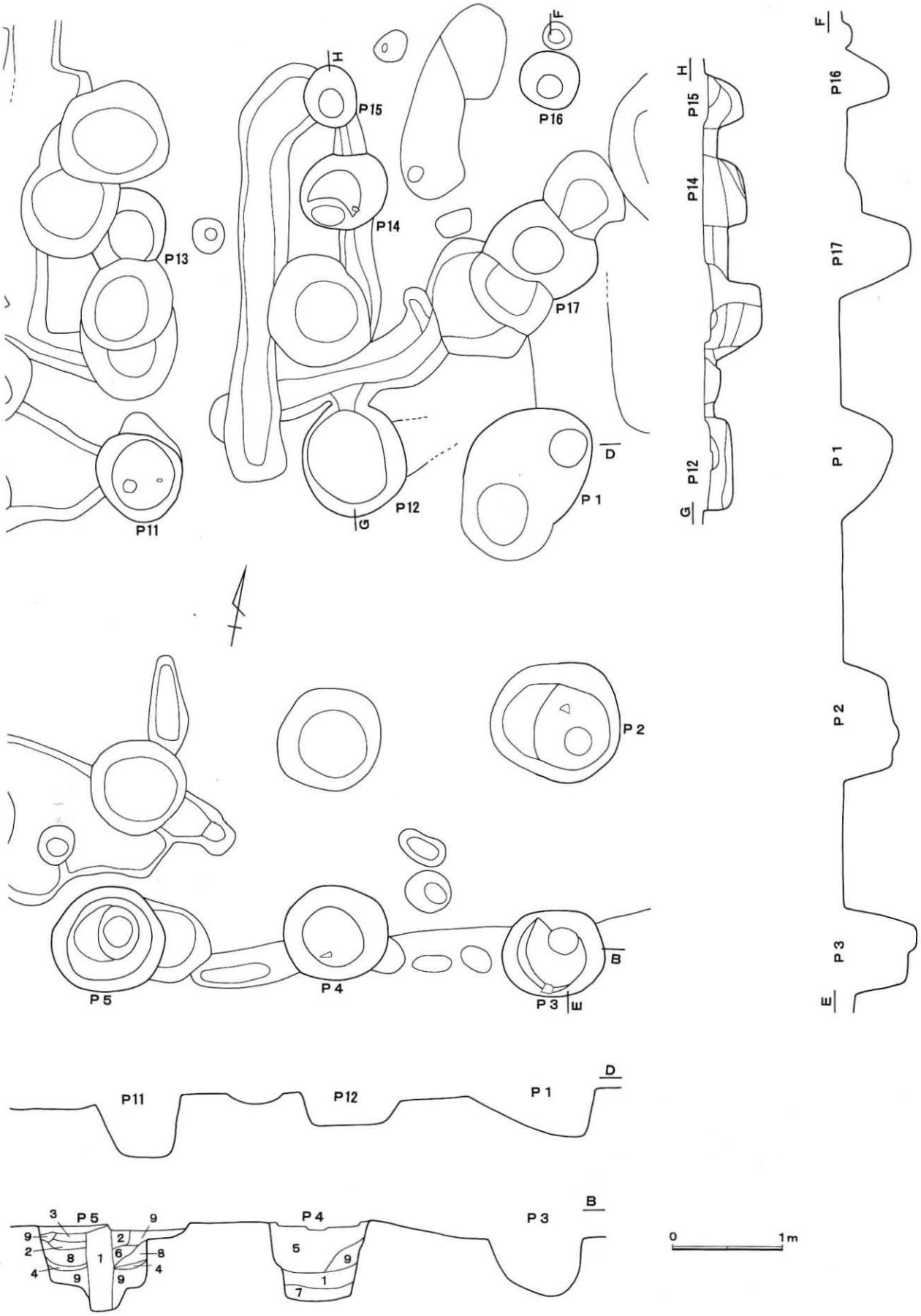
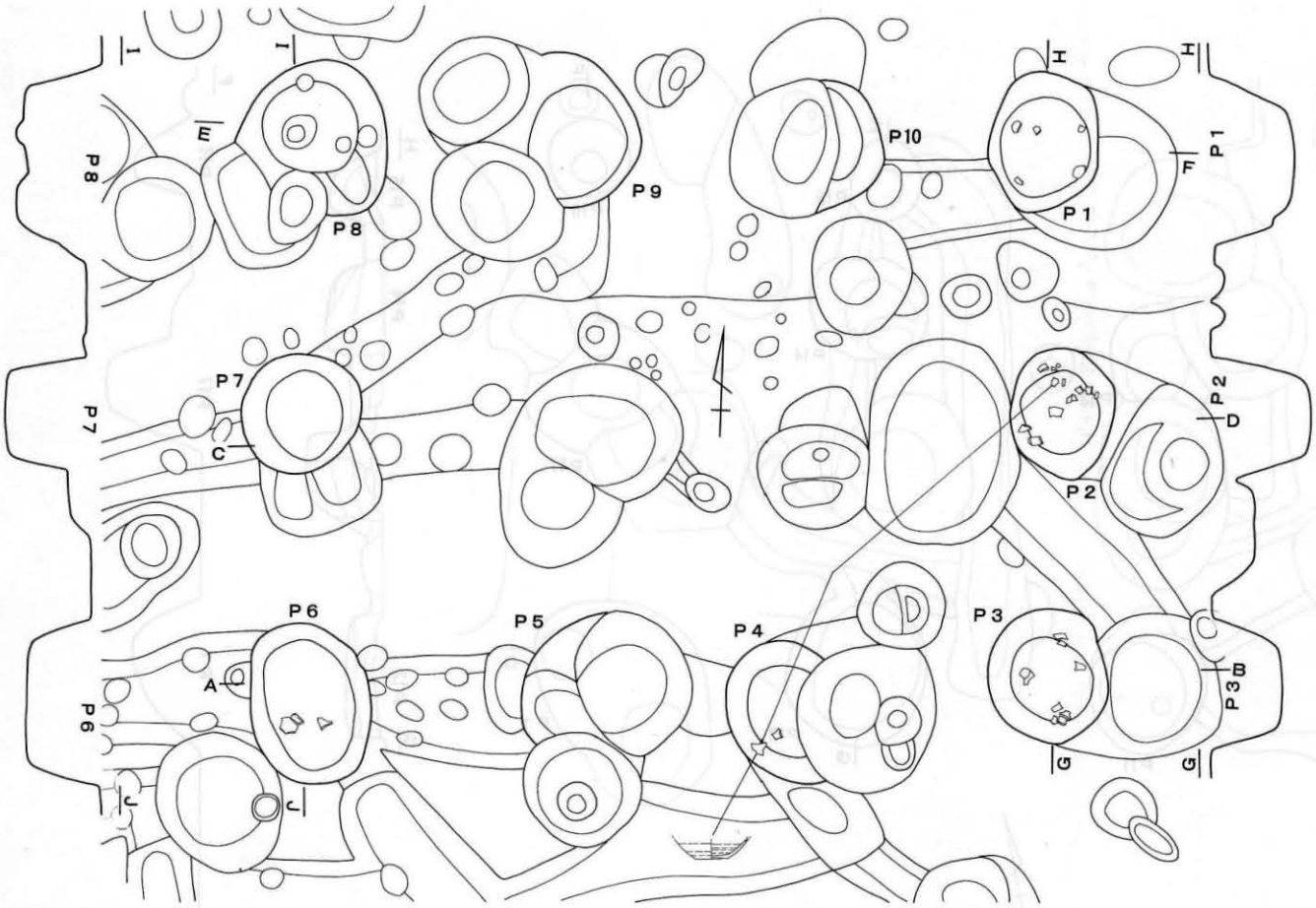
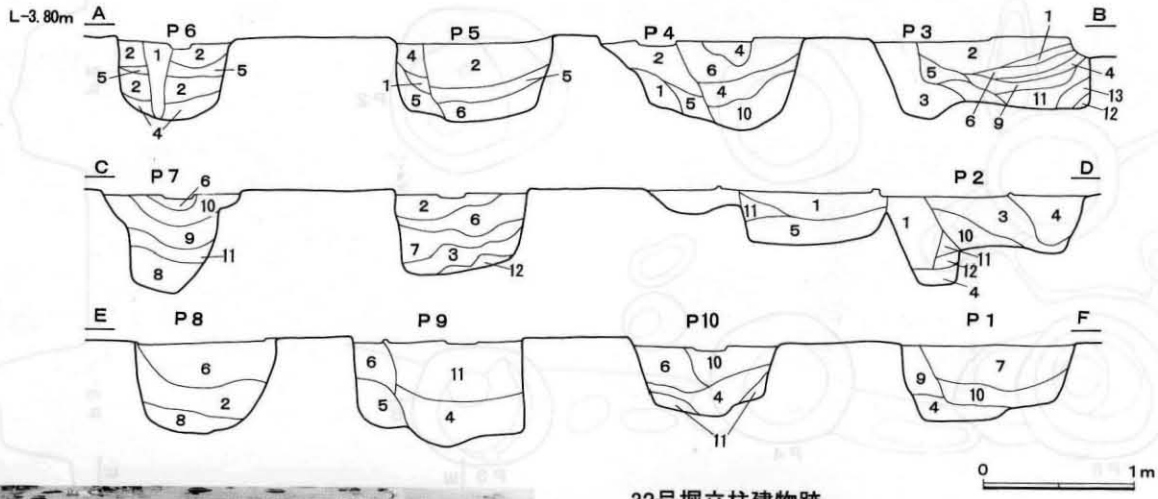


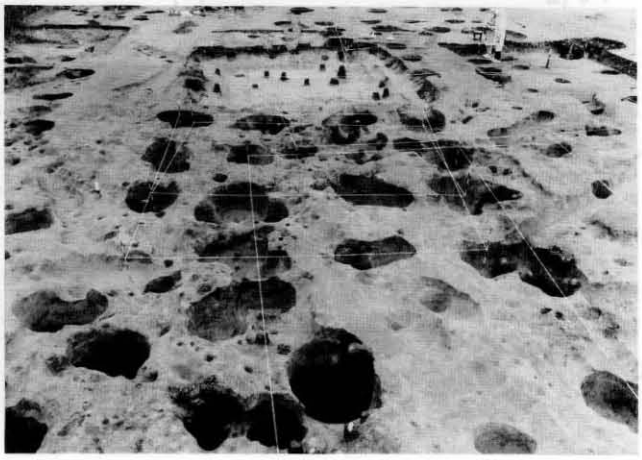
図140　奈良・平安時代の



遺構(31 号掘立柱建物跡)



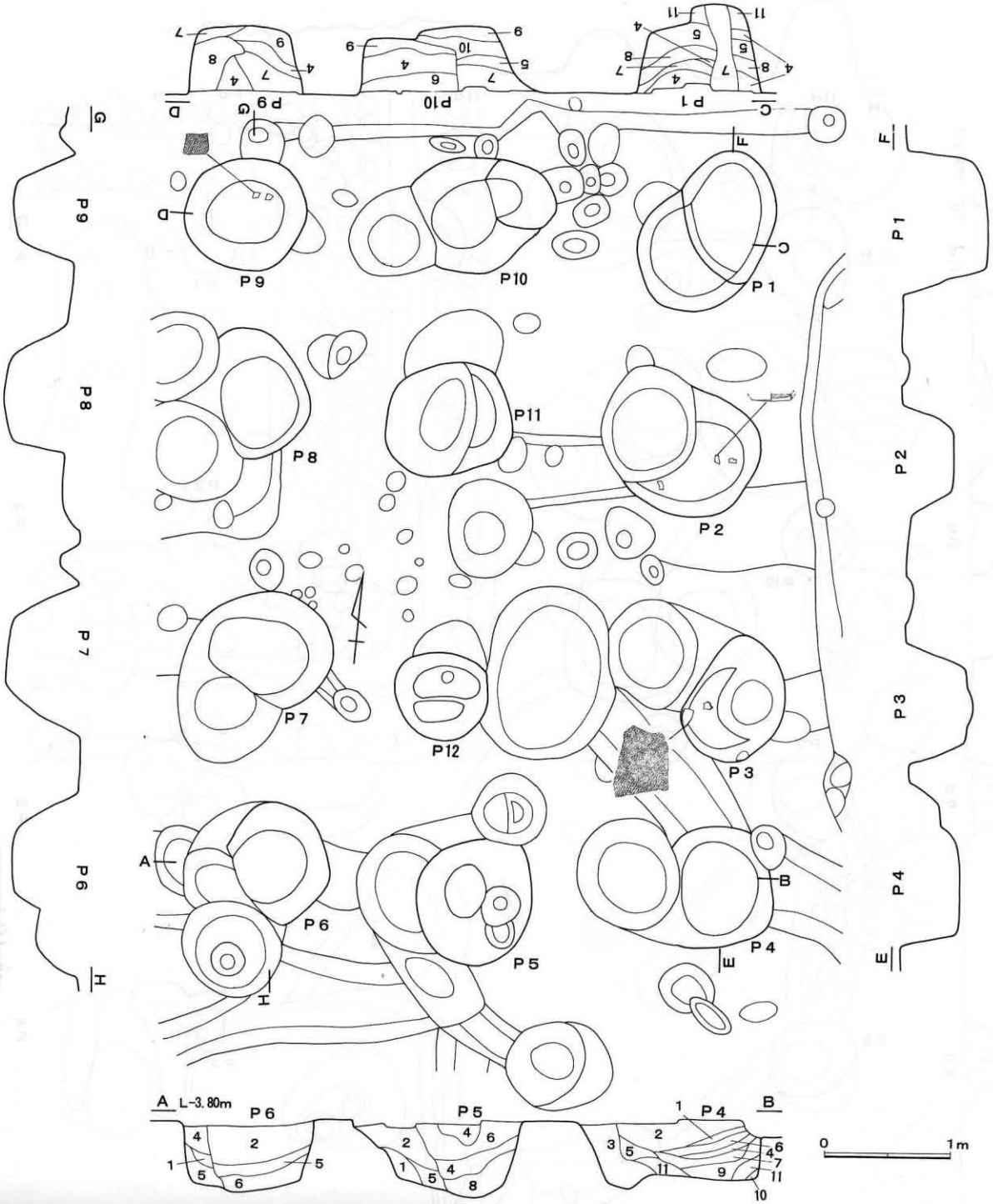




32号掘立柱建物跡

時　　期　7期
位　　置　12E-46-15、47-11
規模(柱間)　桁行3間(1.65m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向　N-86°-E
深　　さ　0.5～0.7m
柱 穴 径　0.7～0.9m
遺　　物　土師器坏、須恵器甕転用硯
特記事項　24・33号掘立柱建物跡と重なる
層　　序　1　黒色土(砂混じる)
2　黒色土(砂・焼土混じる)
3　黒色土(焼土多く混じる)
4　黒灰色土(砂混じる)
5　黒灰色土(砂多く混じる)
6　黒灰色土(砂・焼砂混じる)
7　黒灰褐色土(焼土多く混じる)
8　黒灰色砂(黒色土混じる)
9　暗灰色土(砂混じる)
10　暗灰色土(砂・焼土混じる)
11　暗灰色砂(黒色土混じる)
12　灰色砂
13　灰褐色砂

図 141　奈良・平安時代の遺構 (32 号掘立柱建物跡)



33号掘立柱建物跡

時　　期	6期
位　　置	12E-47-11
規模(柱間)	桁行3間(1.7m)、梁行2間(1.9m)
主軸方向	N-7°-W
深　　さ	0.4～0.65m
柱 穴 径	0.7～1.0m
遺　　物	土師器坏・甕、須恵器甕転用硯
特記事項	32・34号掘立柱建物跡と重なる
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒色土(砂・焼土混じる) 3 黒色土(焼土多く混じる) 4 黒灰色土(砂混じる) 5 黒灰色土(砂多く混じる) 6 黒灰色土(砂・焼土混じる) 7 暗灰色土(砂混じる) 8 暗灰色土(砂・焼土混じる) 9 暗灰色砂(黒色土混じる) 10 灰色砂 11 灰褐色砂

図142　奈良・平安時代の遺構(33号掘立柱建物跡)

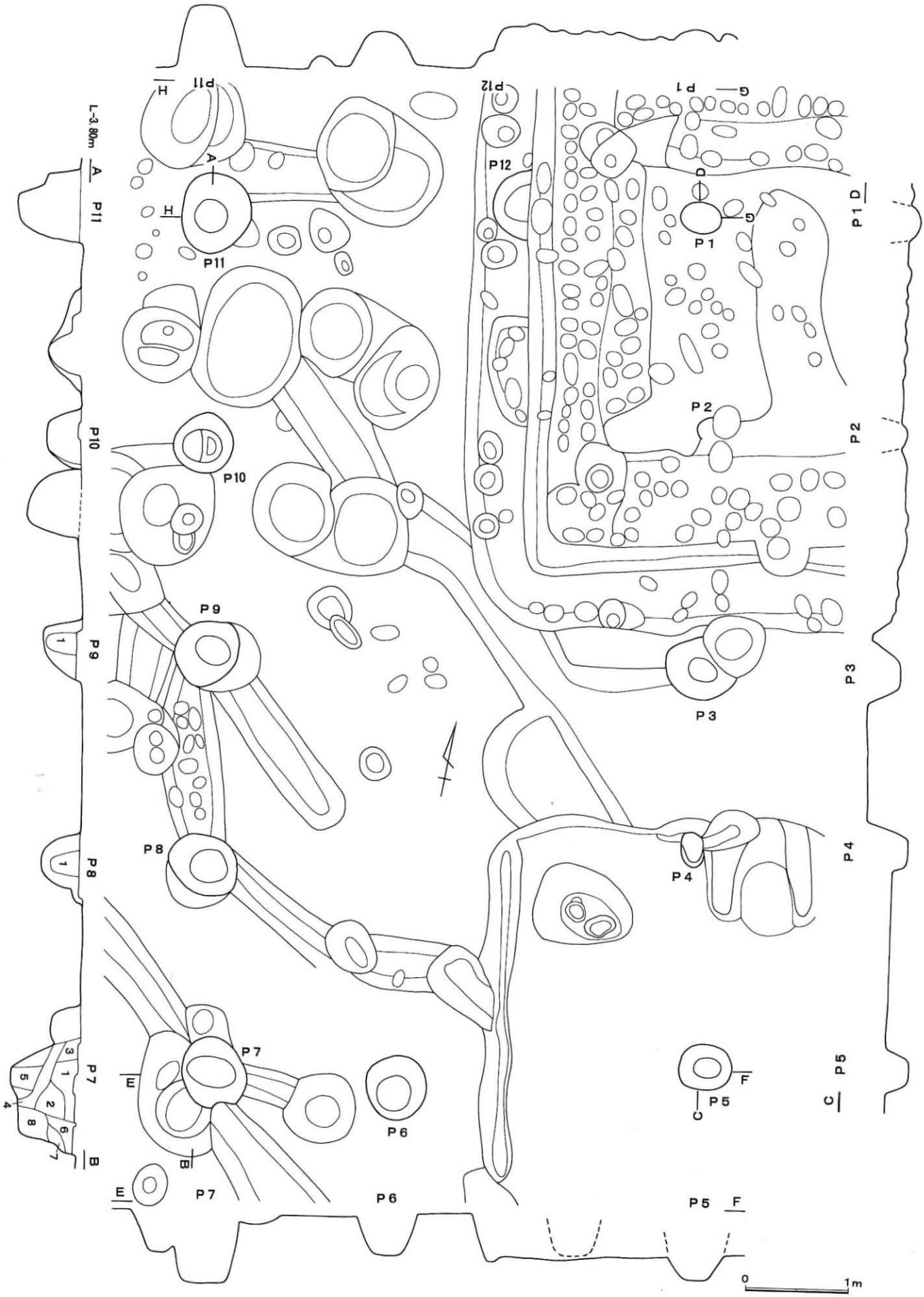
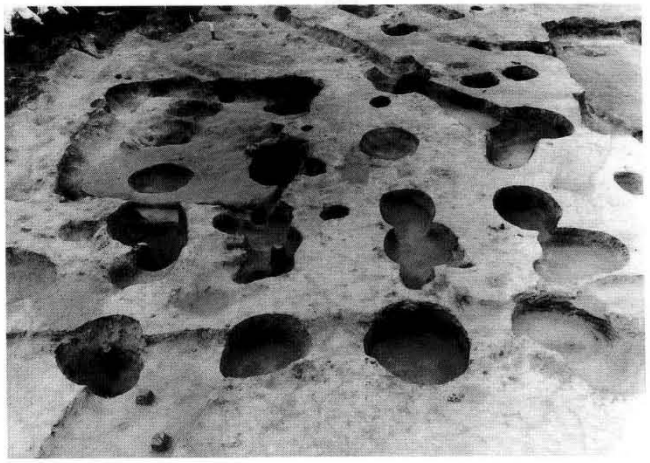


図 143　奈良・平安時代の遺構（34 号掘立柱建物跡）

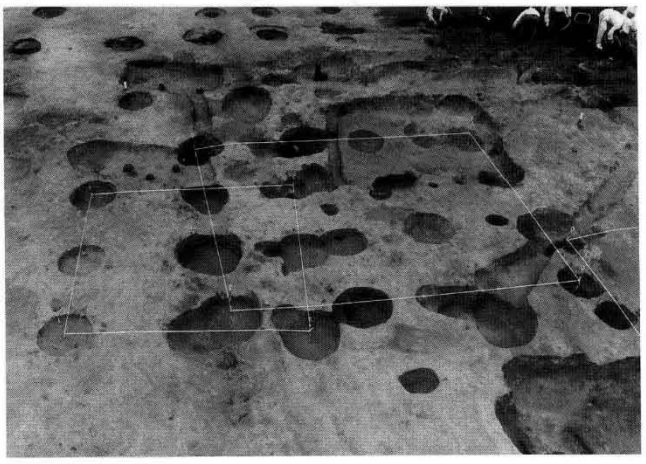
34号掘立柱建物跡

時　　期　7期
位　　置　12E-47-11
規模(柱間)　桁行4間(2.1m)、梁行3間(1.8m)
主軸方向　N-16°-W
深　　さ　0.34～0.65m
柱 穴 径　0.6～0.68m
遺　　物
特記事項　105・106号住居跡と重なる
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
　　2 黒灰色土(砂混じる)
　　3 黒灰色土(砂多く混じる)
　　4 黒灰色土(砂・焼土混じる)
　　5 黒灰色砂(黒色土混じる)
　　6 暗灰色土(砂混じる)
　　7 暗灰色土(砂・焼土混じる)
　　8 灰色砂



35号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-47-16
規模(柱間)　桁行3間(1.6m)、梁行3間(2.0・1.6m)
主軸方向　N-74°-E
深　　さ　0.35～0.7m
柱 穴 径　0.6～0.9m
遺　　物　土師器坏、須恵器甕片
特記事項　103号住居跡、36号掘立柱建物跡と重なる
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
　　2 黒色土(砂混じり、硬くしまる)
　　3 黒灰色土(砂混じる)
　　4 黒灰色土(砂多く混じる)
　　5 黒灰色土(砂・焼土混じる)
　　6 黒灰色砂(黒色土混じる)
　　7 暗灰色土(砂・焼土混じる)
　　8 暗灰色砂(黒色土混じる)
　　9 灰色砂



36号掘立柱建物跡

時　　期　6期
位　　置　12E-47-16
規模(柱間)　桁行3間(1.5m)、梁行2間(1.7m)
主軸方向　N-77°-E
深　　さ　0.2～0.3m
柱 穴 径　0.7～0.9m
遺　　物
特記事項　35号掘立柱建物跡と重なる

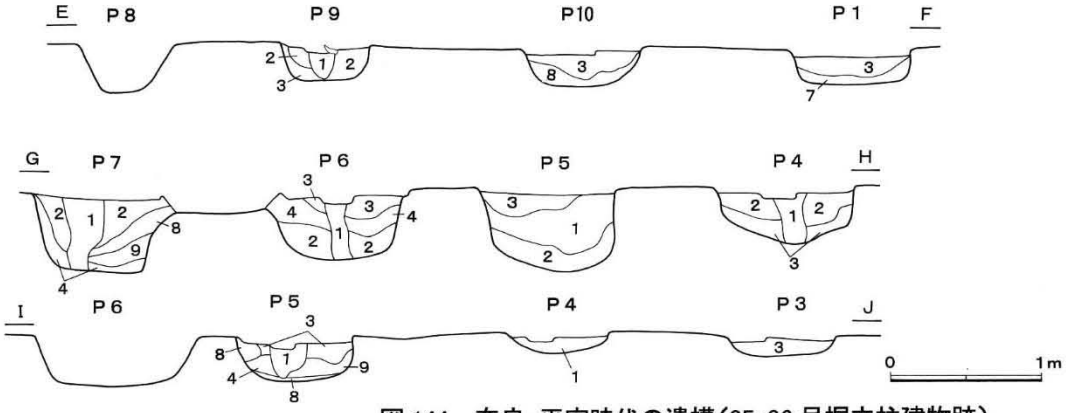


図 144　奈良・平安時代の遺構(35・36 号掘立柱建物跡)

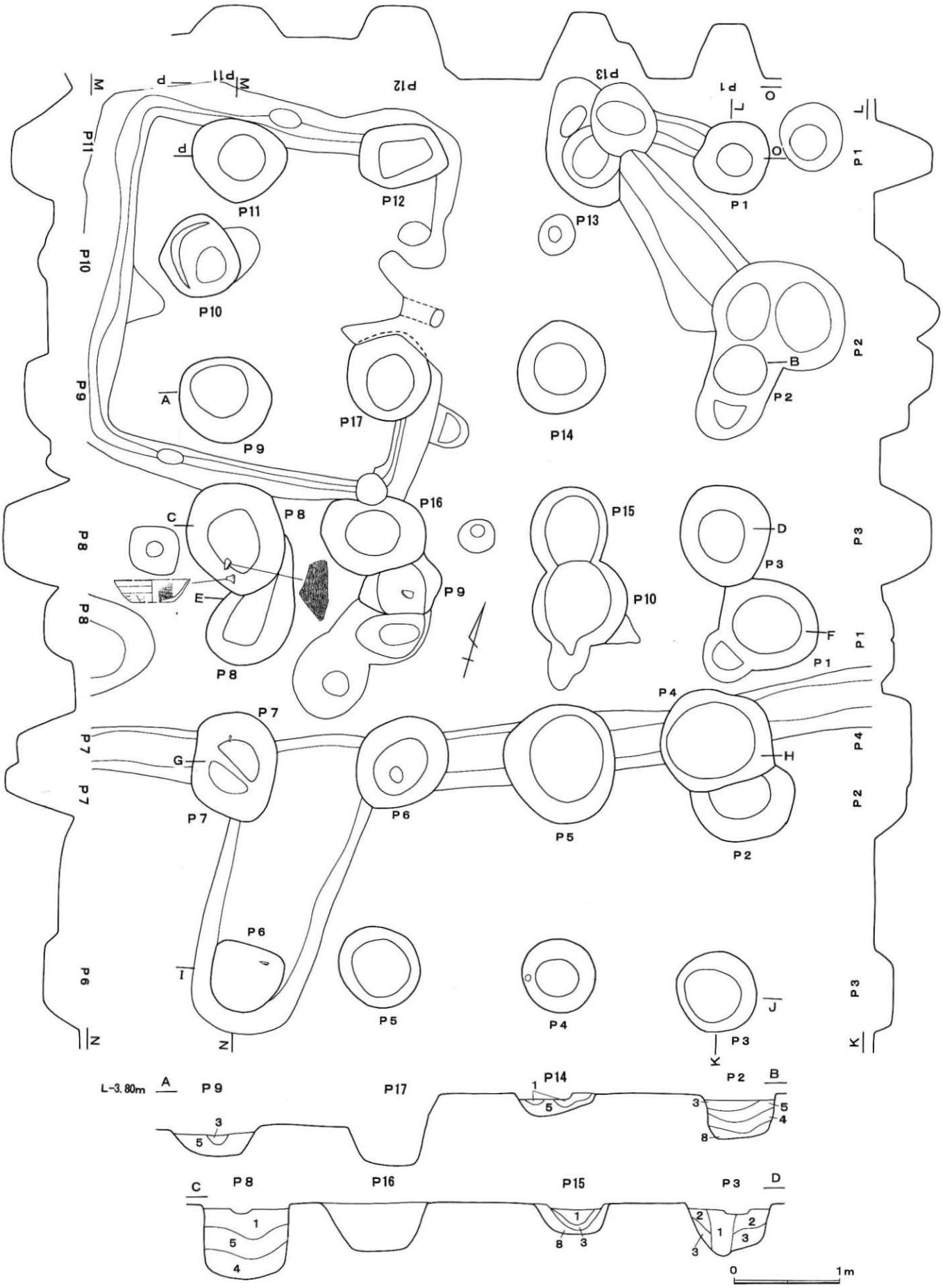
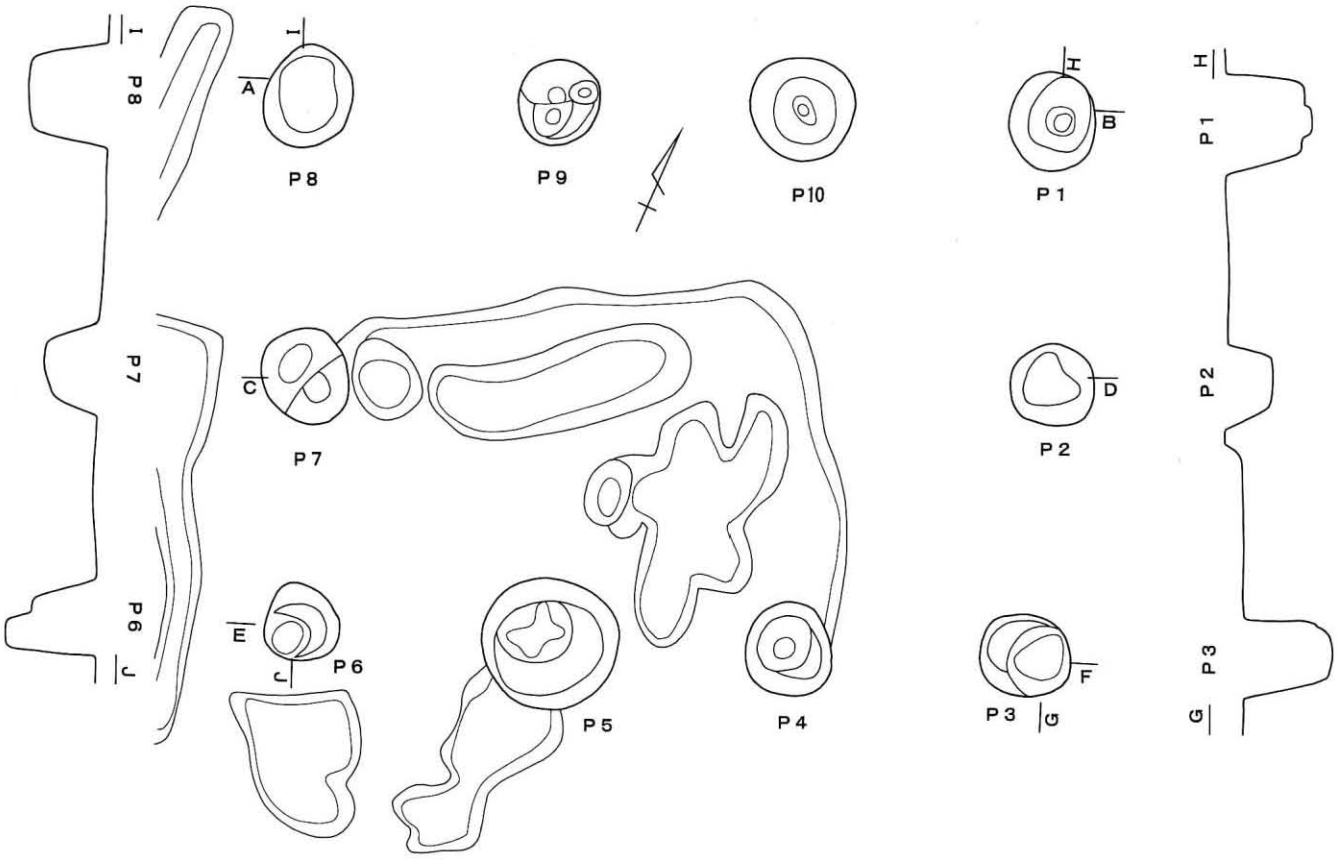
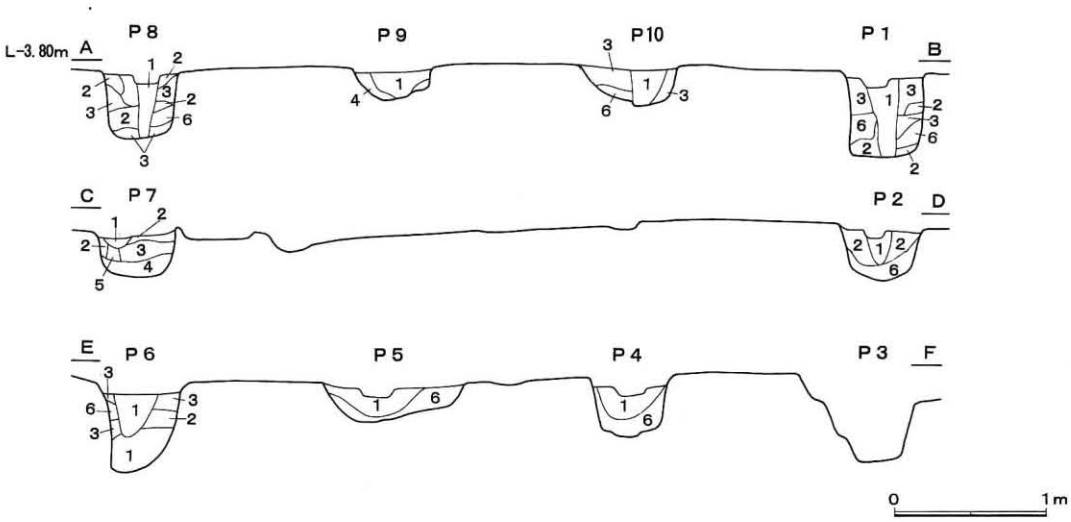
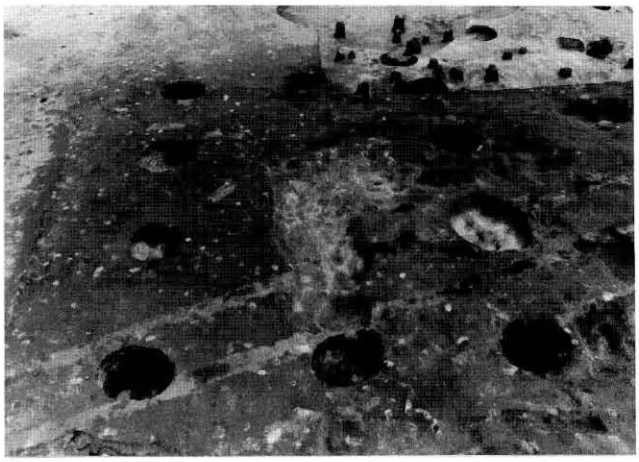


図 145　奈良・平安時代の遺構(35・36 号掘立柱建物跡)







37号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-47-21
規模(柱間)　桁行3間(1.67m)、梁行2間(1.8m)
主軸方向　N-70°-E
深　　さ　0.2～0.6m
柱 穴 径　0.5～0.9m
遺　　物
特記事項　116号住居跡と重なる
層　　序　1　黒色土(砂混じる)
　　2　黒色土(砂混じり、硬くしまる)
　　3　黒灰色土(砂混じる)
　　4　黒灰褐色土(砂混じる)
　　5　暗灰色砂(黒色土混じる)
　　6　灰色砂

図 146　奈良・平安時代の遺構 (37 号掘立柱建物跡)

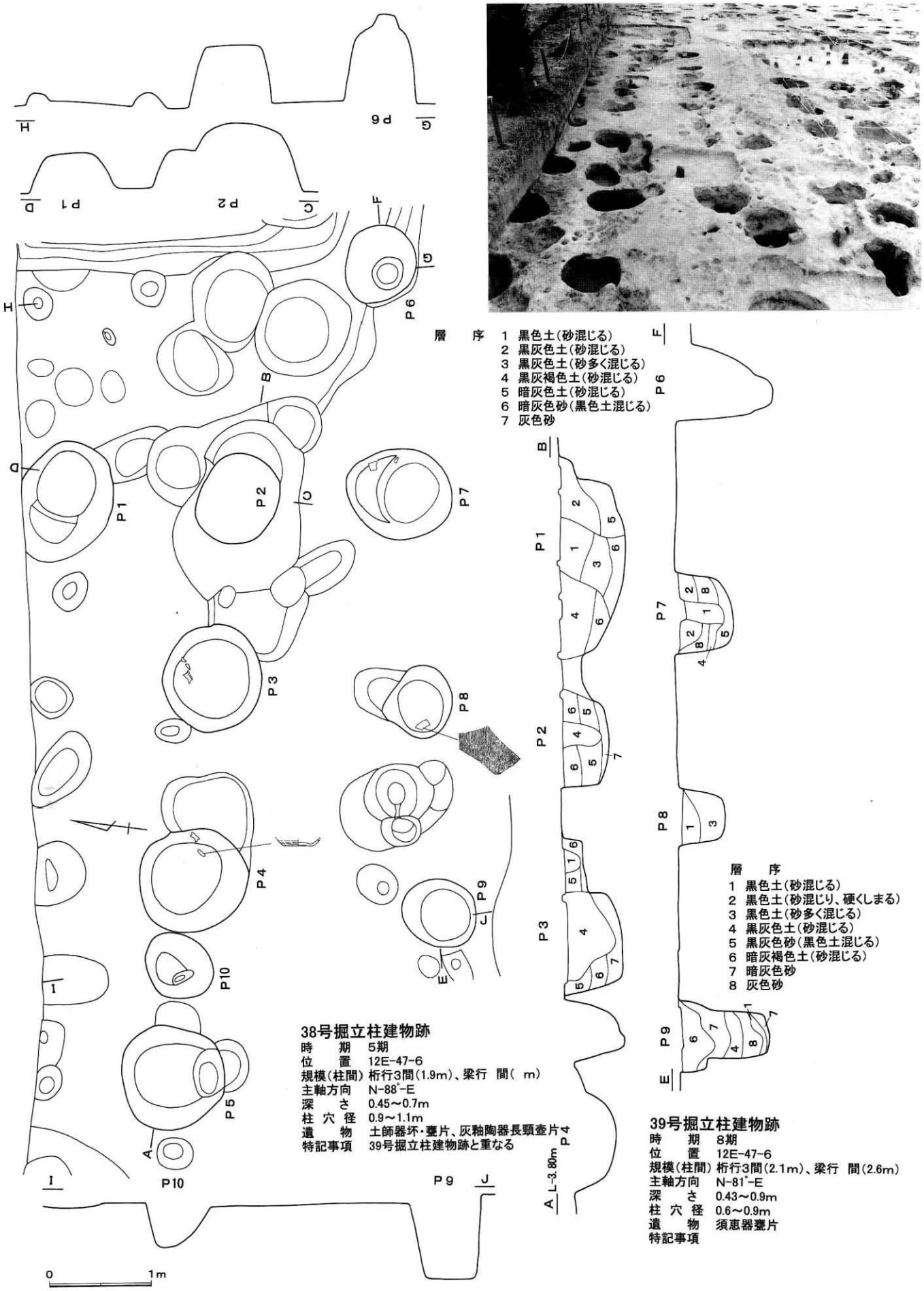
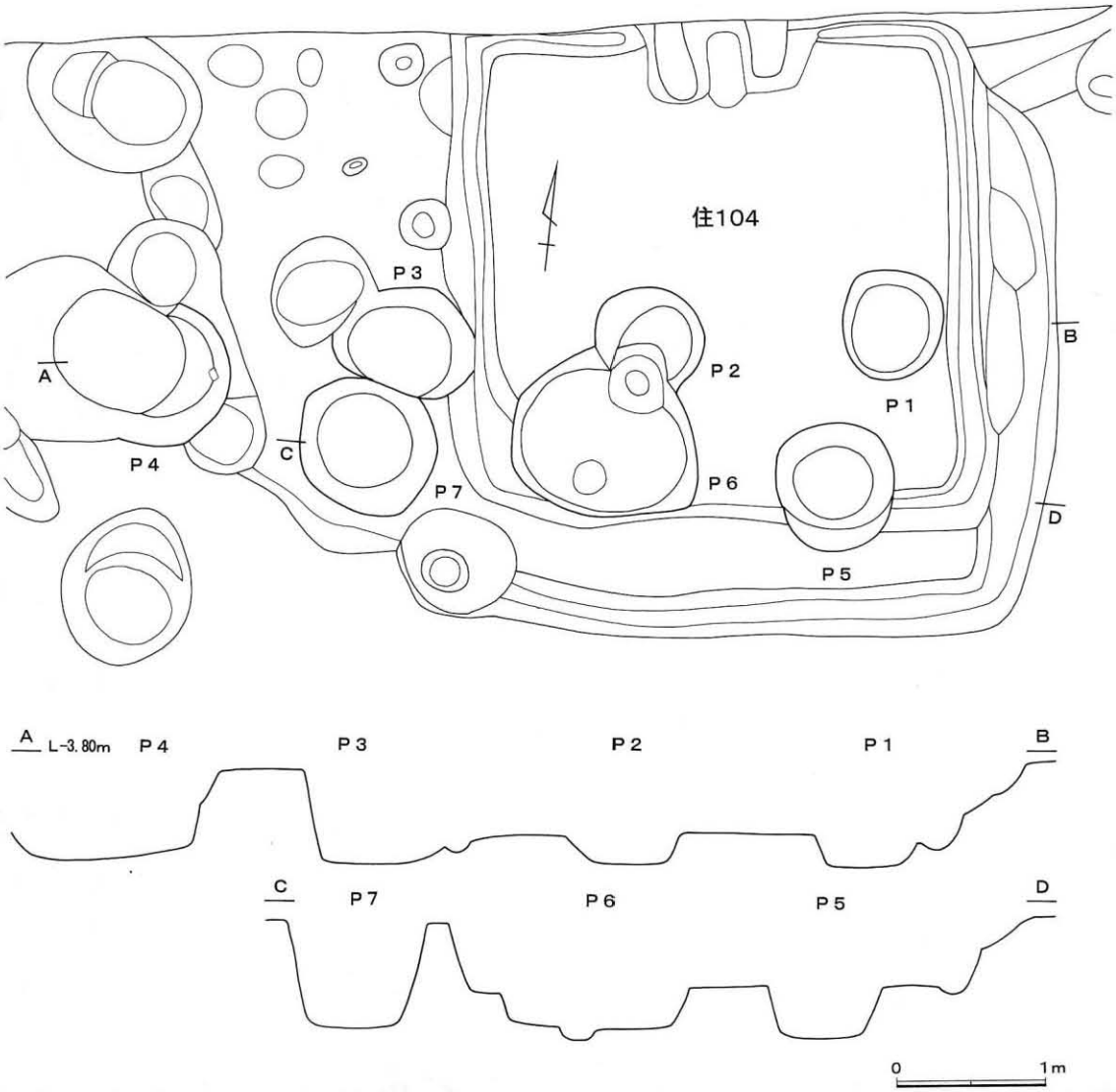
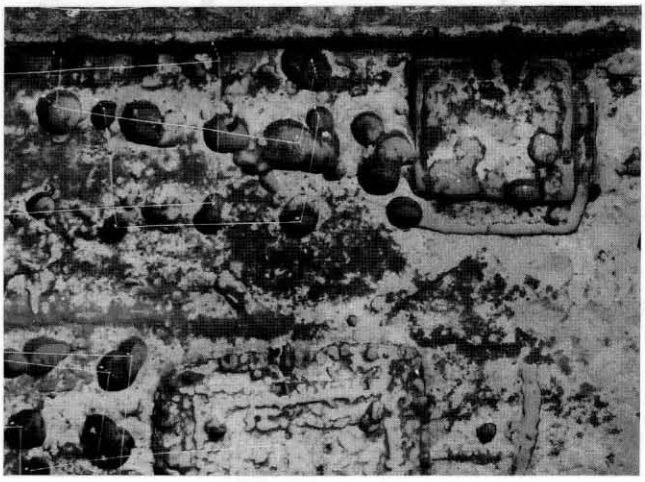
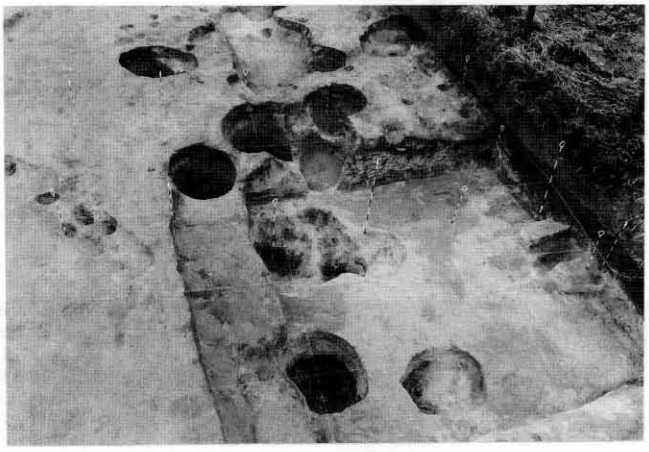


図 147　奈良・平安時代の遺構(38・39 号掘立柱建物跡)



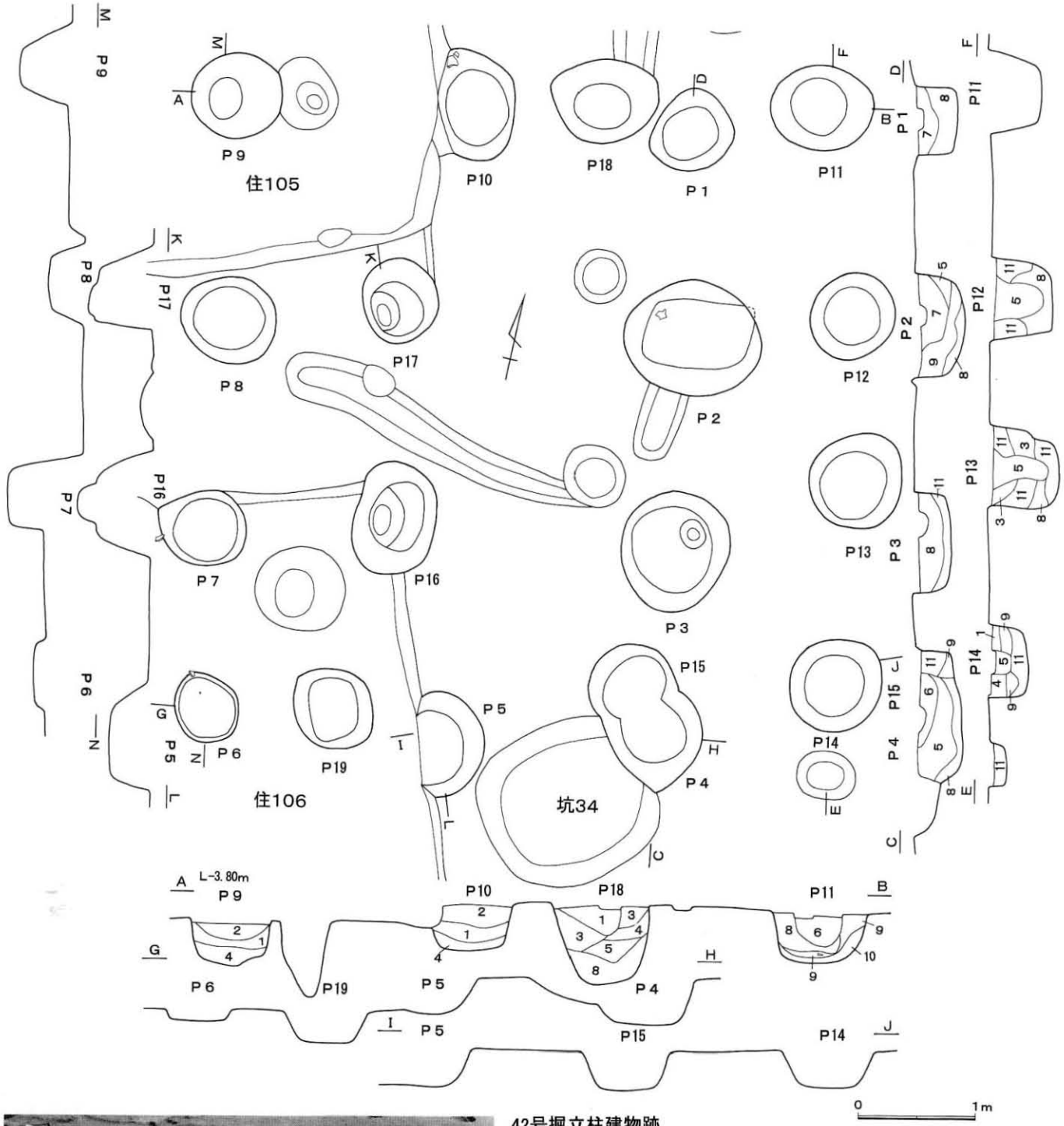


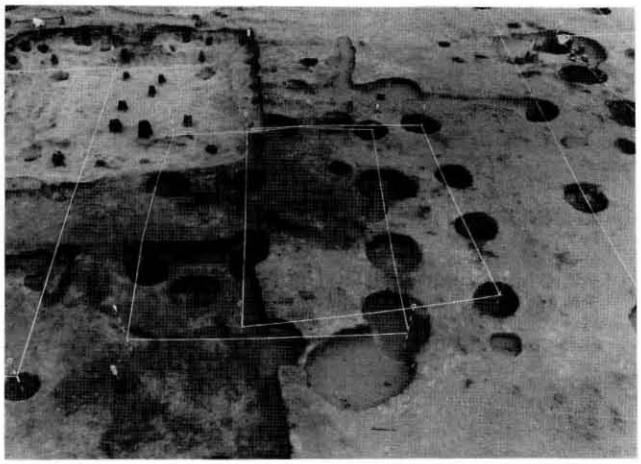


40号掘立柱建物跡
時　　期　6期
位　　置　12E-47-6・7
規模(柱間)　桁行3間(1.6m)、梁行　間(　m)
主軸方向　N-83°-E
深　　さ　0.5～0.6m
柱 穴 径　0.7～0.9m
遺　　物
特記事項　104号住居跡、41号掘立柱建物跡と重なる
層　　序

41号掘立柱建物跡
時　　期　5期
位　　置　12E-47-6・7
規模(柱間)　桁行3間(1.6m)、梁行　間(　m)
主軸方向　N-93°-E
深　　さ　0.7～0.8m
柱 穴 径　0.9～1.1m
遺　　物
特記事項
層　　序

図 148　奈良・平安時代の遺構(40・41 号掘立柱建物跡)





42号掘立柱建物跡

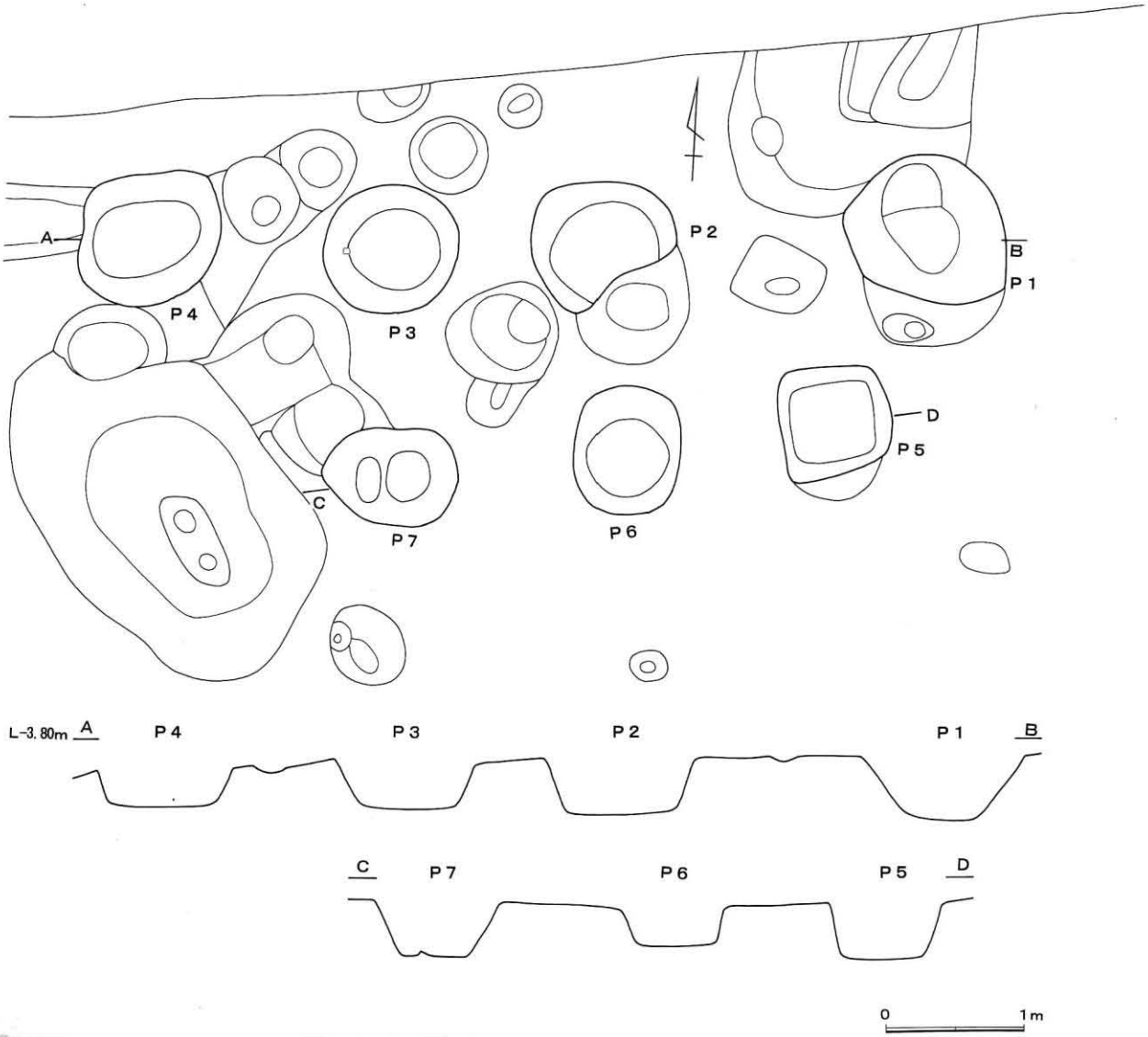
時　　期	5期
位　　置	12E-47-12
規模(柱間)	桁行3間(1.75m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向	N-10°-W
深　　さ	0.4～0.65m
柱 穴 径	0.6～0.7m
遺　　物	土師器甕片
特記事項	105・106号住居跡、43号掘立柱建物跡と重なる

43号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-47-12
規模(柱間)	桁行3間(1.65m)、梁行2間(2.0m)
主軸方向	N-11°-W
深　　さ	0.4～0.65m
柱 穴 径	0.7～0.8m
遺　　物	
特記事項	
層　　序	

層　序
1 黒色土(砂混じる)
2 黒色土(砂・焼土混じる)
3 黒色土(砂多く混じる)
4 黒灰色土(砂多く混じる)
5 黒灰色砂(黒色土混じる)
6 黒灰褐色土(砂・焼土混じる)
7 暗灰色土(砂混じる)
8 暗灰色砂(黒色土混じる)
9 暗灰褐色砂(黒色土混じる)
10 灰色砂
11 黒色砂

図 149　奈良・平安時代の遺構(42・43 号掘立柱建物跡)



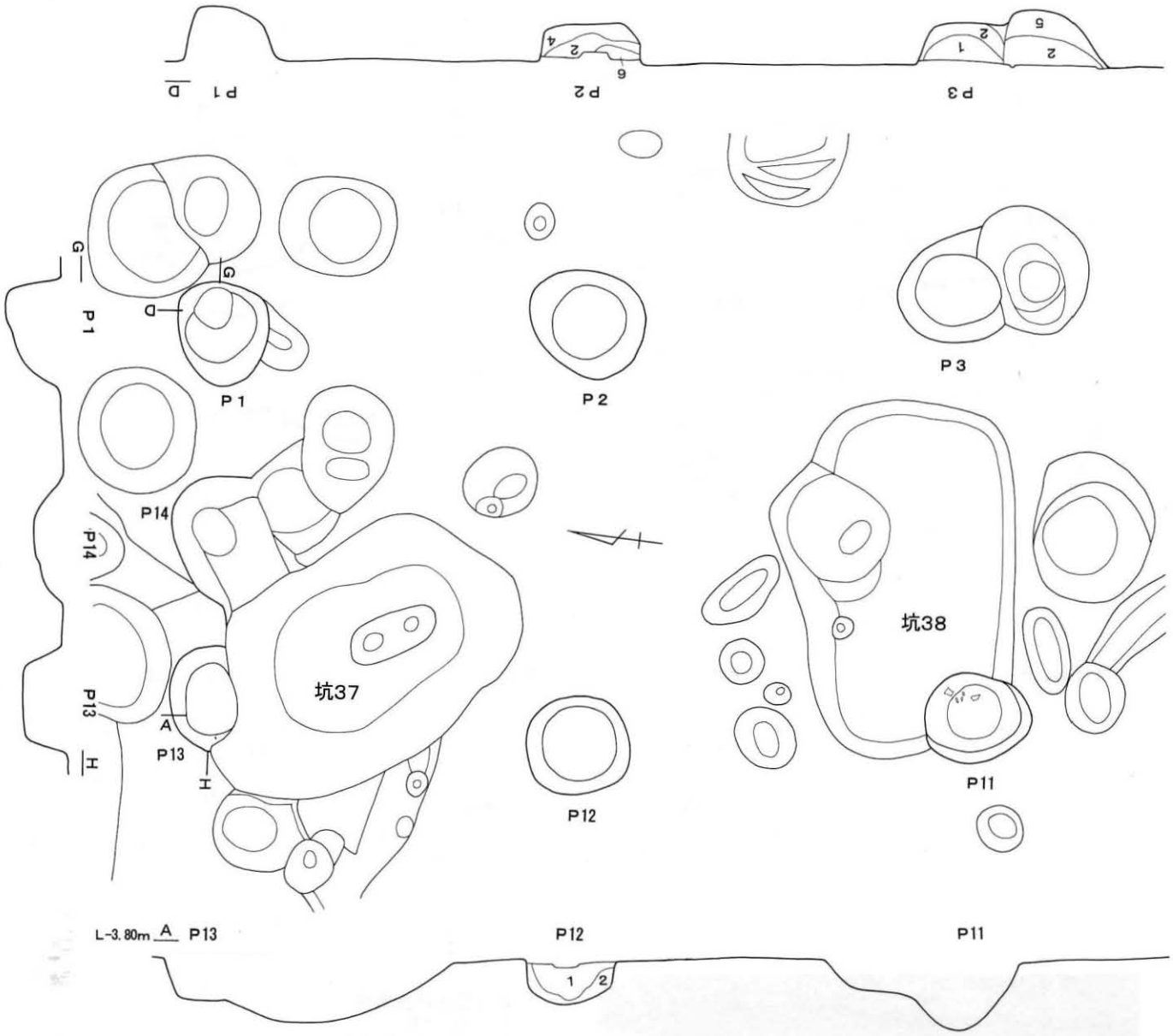
45号掘立柱建物跡

時　　期　6期
位　　置　12E-47-7・8
規模(柱間)　桁行3間(1.8m)、梁行一間(一m)
主軸方向　N-87°-E
深　　さ　0.3～0.5m
柱 穴 径　0.9～1.1m
遺　　物
特記事項
層　　序

46号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-47-7・8
規模(柱間)　桁行3間(1.6m)、梁行一間(一m)
主軸方向　N-82°-E
深　　さ　0.3～0.4m
柱 穴 径　0.7～0.8m
遺　　物
特記事項

図 150　奈良・平安時代の遺構(45・46 号掘立柱建物跡)



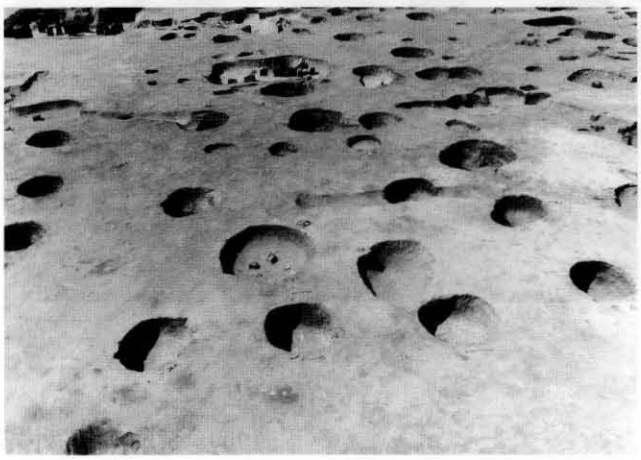
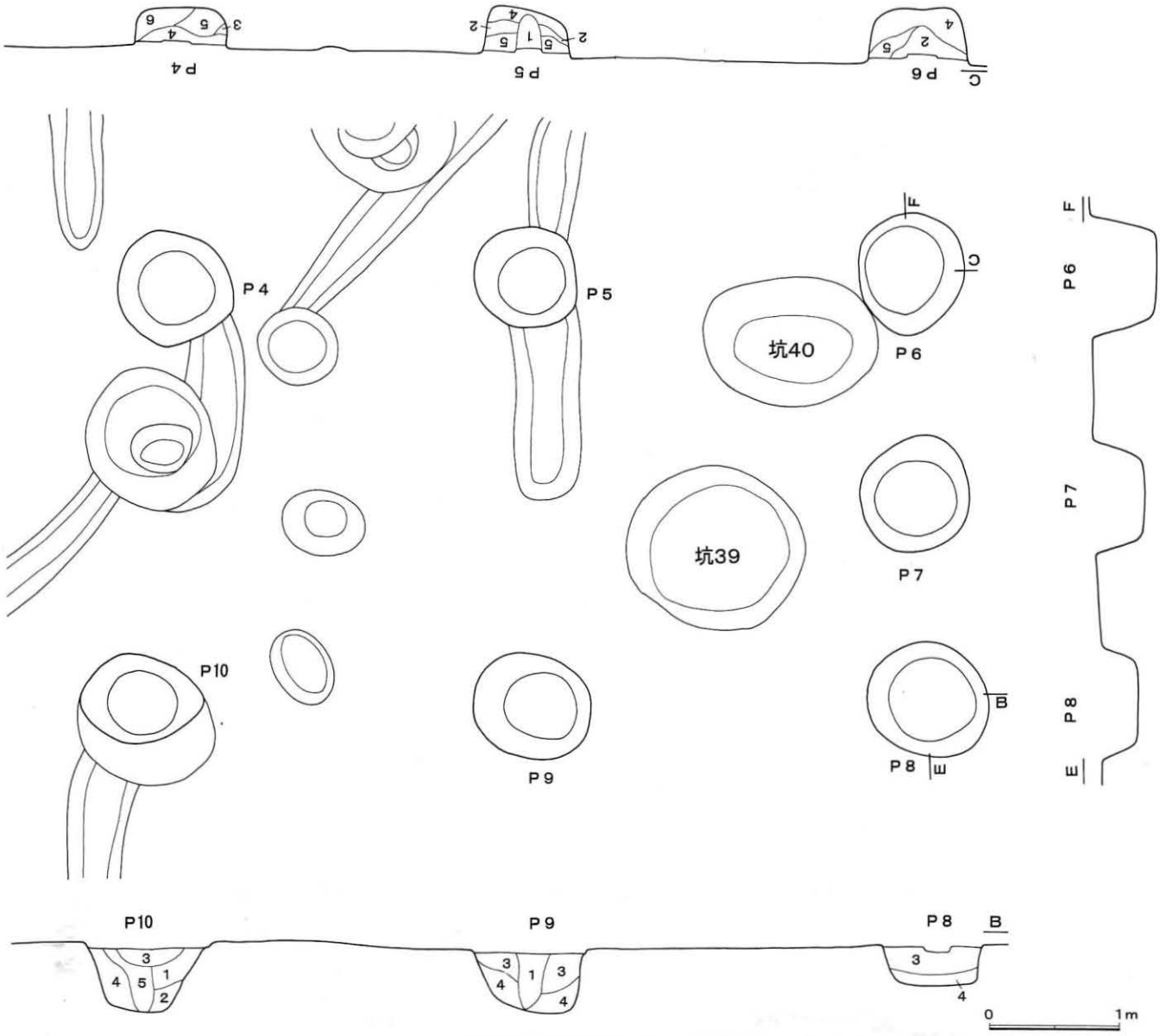
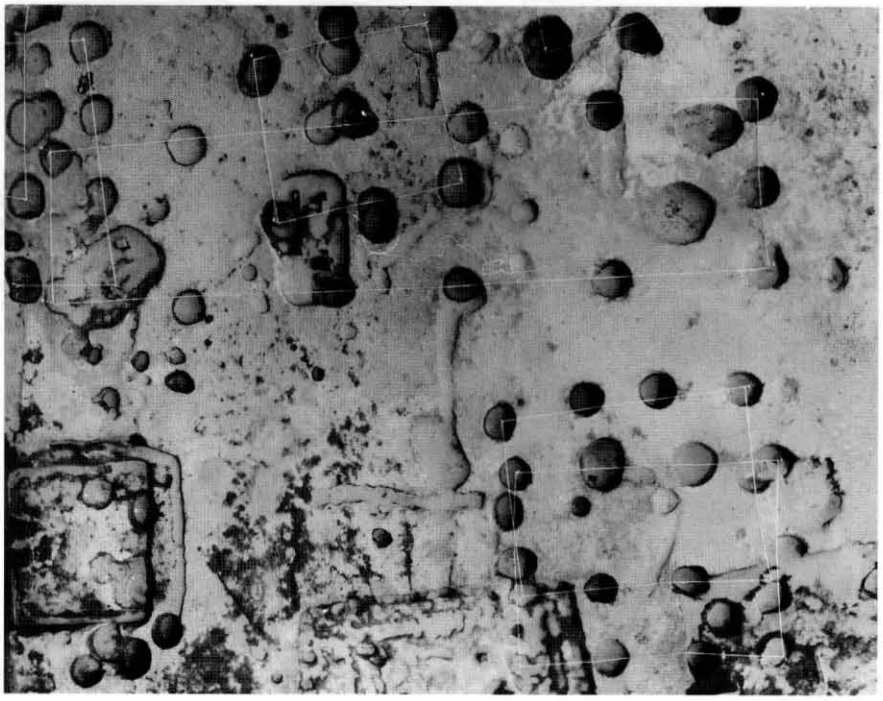


図 151　奈良・平安時代の

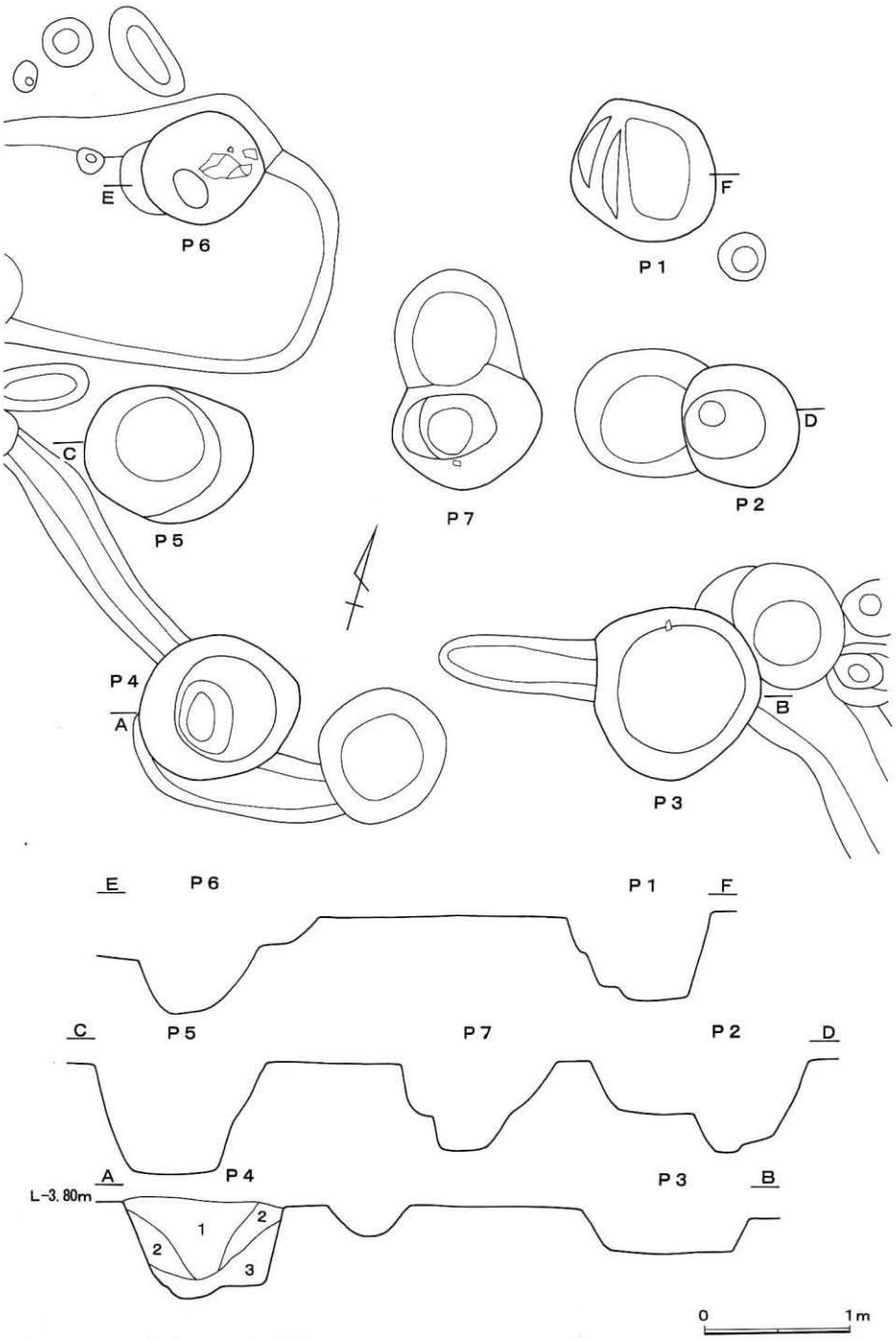


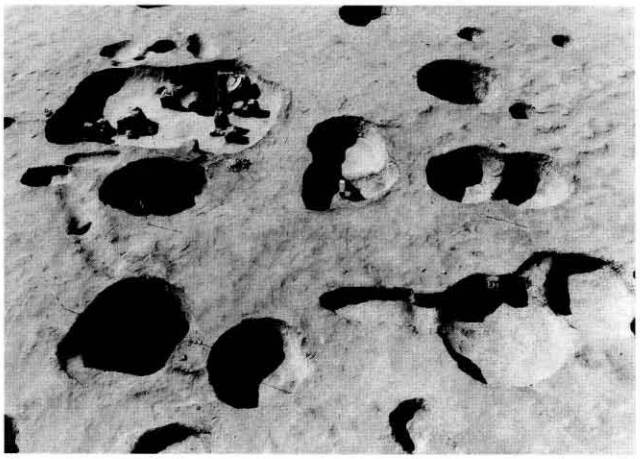
44号掘立柱建物跡

時　　期　7期
位　　置　12E-47-7・12
規模(柱間)　桁行5間(3.0m)、梁行2間(1.7m)
主軸方向　N-7°-W
深　　さ　0.25～0.5m
柱 穴 径　0.7～0.9m
遺　　物
特記事項　46・47号掘立柱建物跡、38号土坑と重なる
層　　序　1　黒色土(砂多く混じる)
　　2　黒灰色土(砂多く混じる)
　　3　黒灰褐色土(砂多く混じる)
　　4　暗灰色砂(黒色土混じる)
　　5　黒灰色砂(黒色土混じる)
　　6　灰色砂



遺構(44号掘立柱建物跡)

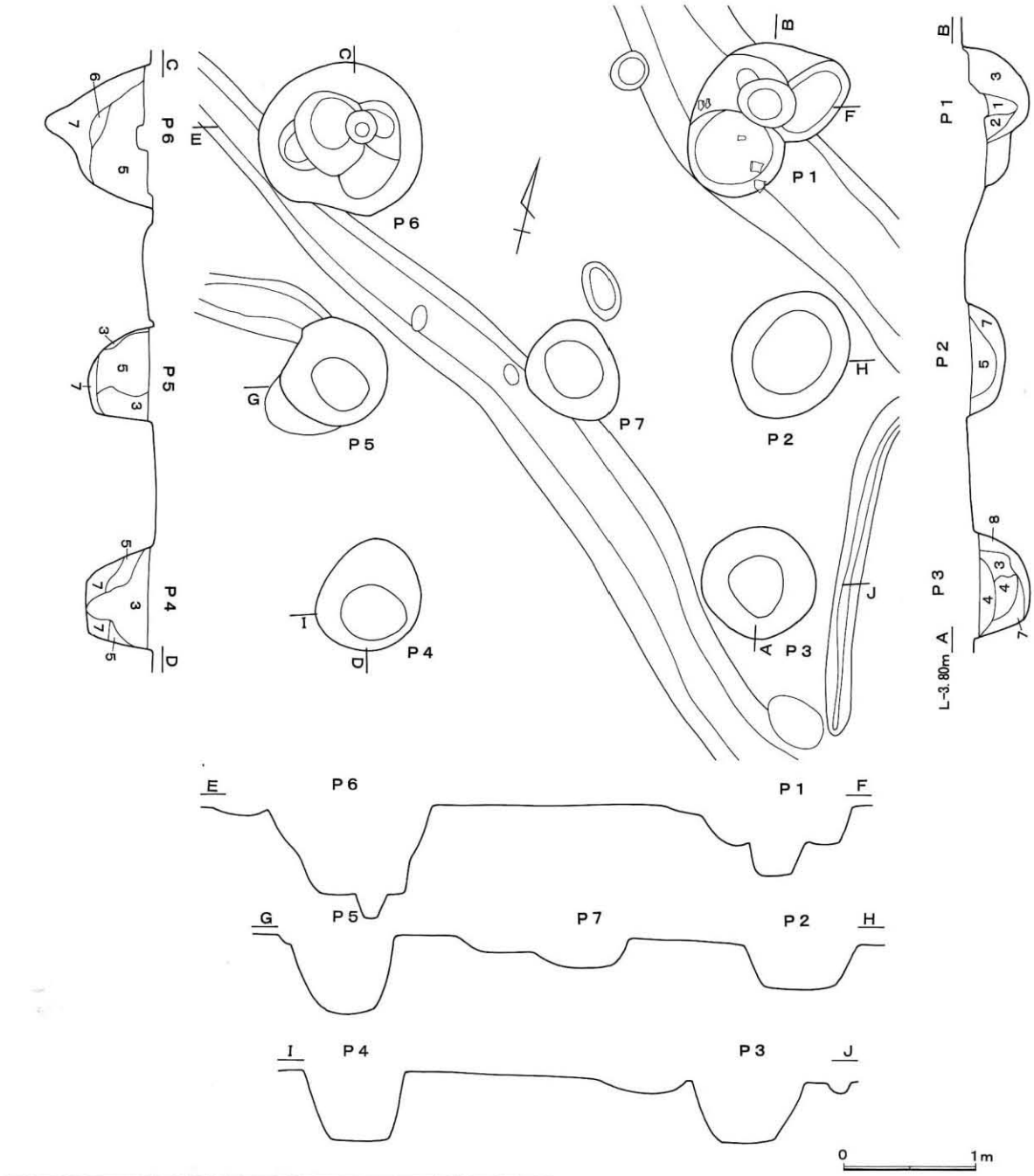


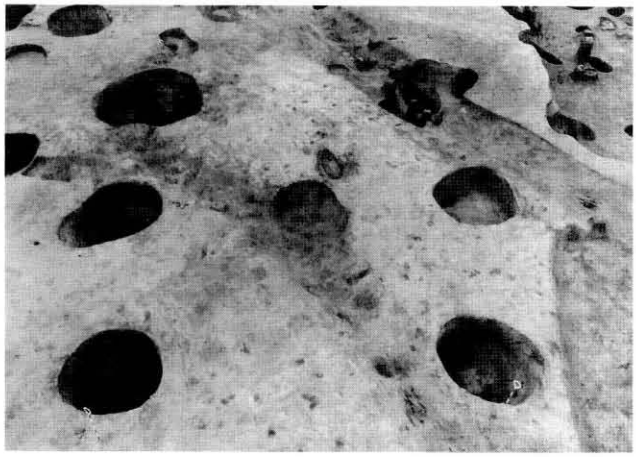


47号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-47-7・8・12・13
規模(柱間)	桁行1間(3.4m)、梁行2間(1.8m)
主軸方向	N-73°-E
深　　さ	0.3～0.8m
柱 穴 径	0.8～1.2m
遺　　物	須恵器坏片
特記事項	中央に柄柱あり
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒灰褐色土(砂混じる) 3 暗灰褐色土(砂多く混じる)

図 152　奈良・平安時代の遺構（47 号掘立柱建物跡）

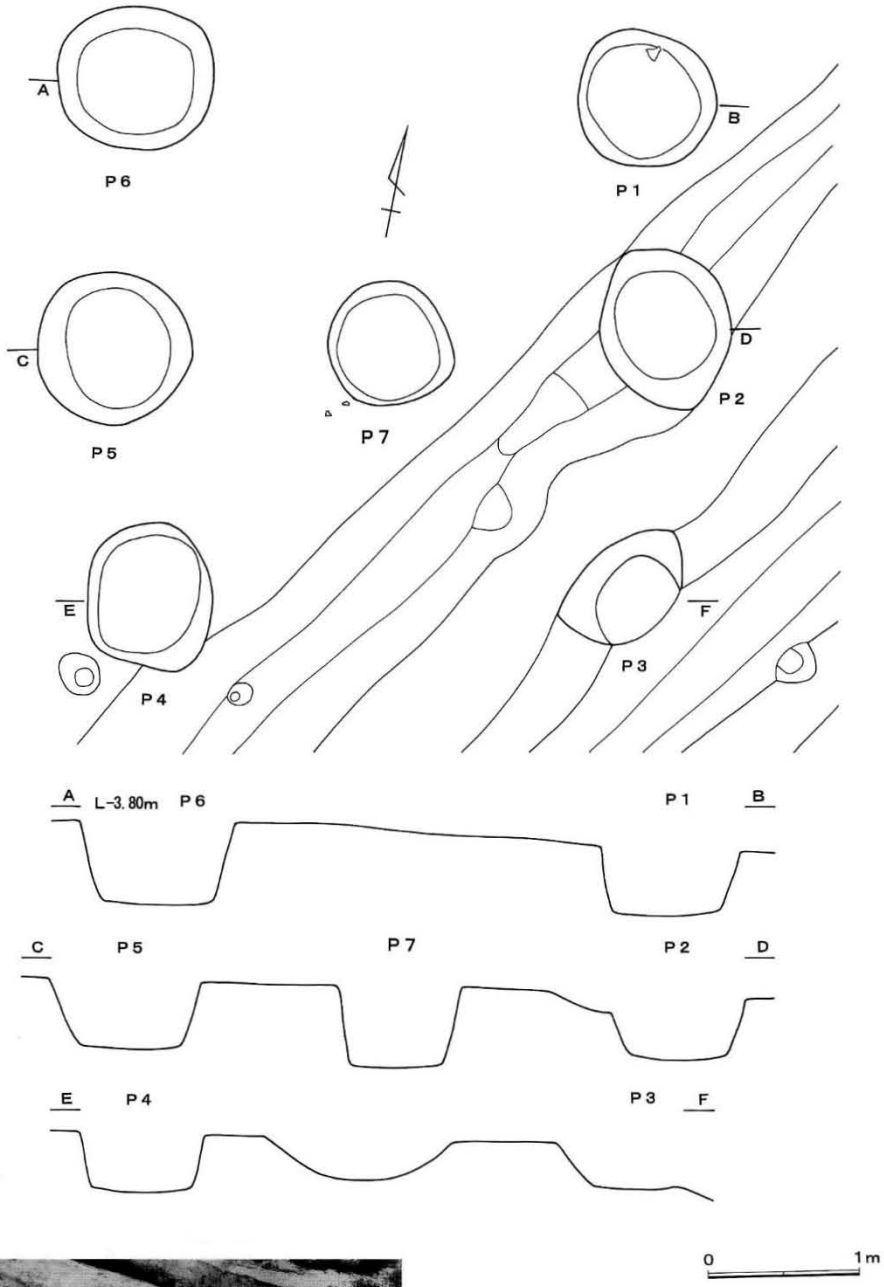


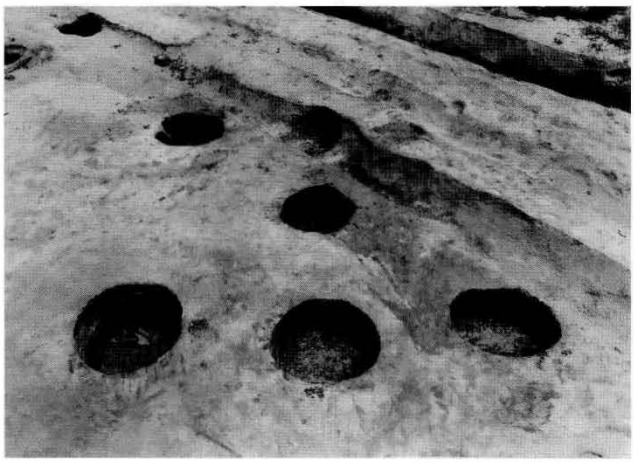


48号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-47-13
規模(柱間)	桁行1間(3.0m)、梁行2間(1.8m)
主軸方向	N-73°-E
深　　さ	0.3～0.9m
柱 穴 径	0.7～1.1m
遺　　物	
特記事項	中央に柄柱あり
層　　序	1 黒色土
	2 黒色土(砂混じる)
	3 黒色土(砂多く混じる)
	4 黒灰色土(砂混じる)
	5 黒灰色砂(黒色土混じる)
	6 黒灰褐色砂(黒色土混じる)
	7 暗灰色砂
	8 灰色砂

図 153　奈良・平安時代の遺構 (48 号掘立柱建物跡)

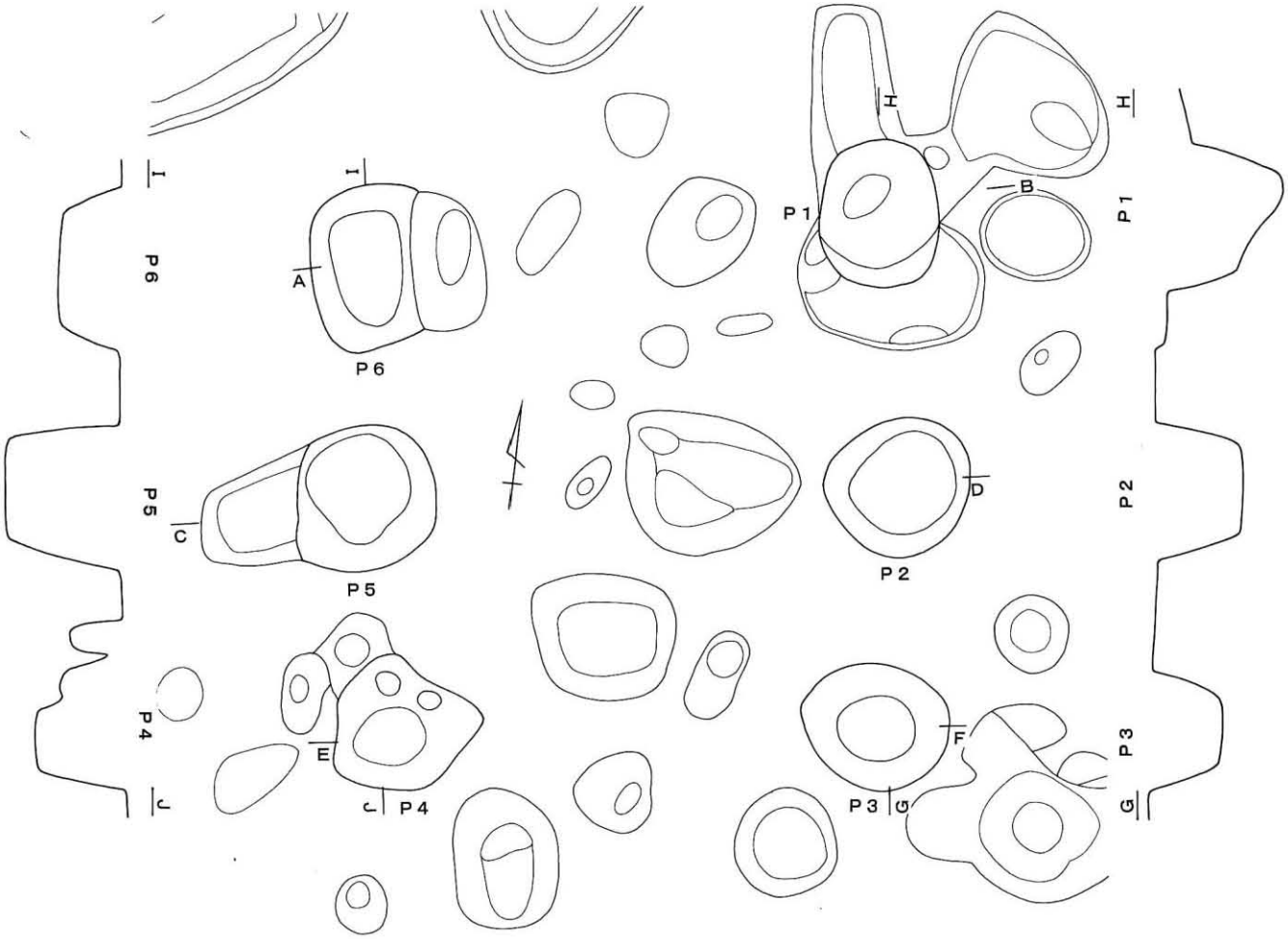


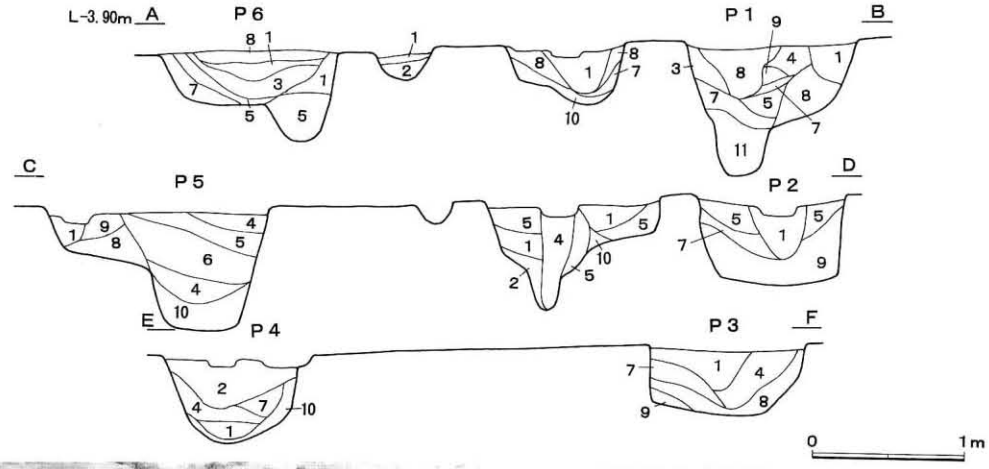


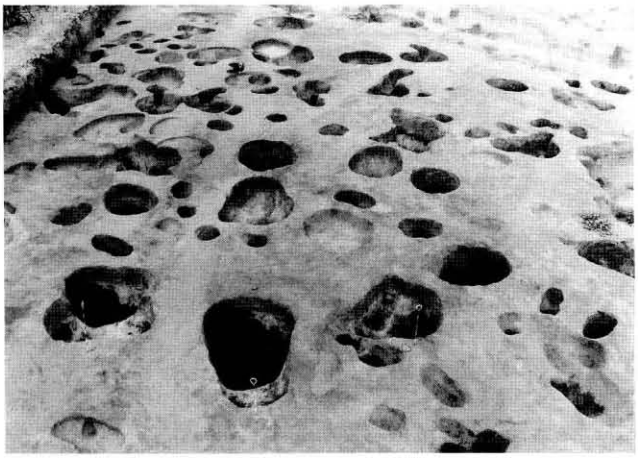
49号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-47-18
規模(柱間)	桁行1間(3.2m)、梁行2間(1.7m)
主軸方向	N-78°-E
深　　さ	0.4～0.6m
柱 穴 径	0.8～1.0m
遺　　物	土師器甕片、須恵器甕片
特記事項	中央に柄柱あり

図 154　奈良・平安時代の遺構（49 号掘立柱建物跡）



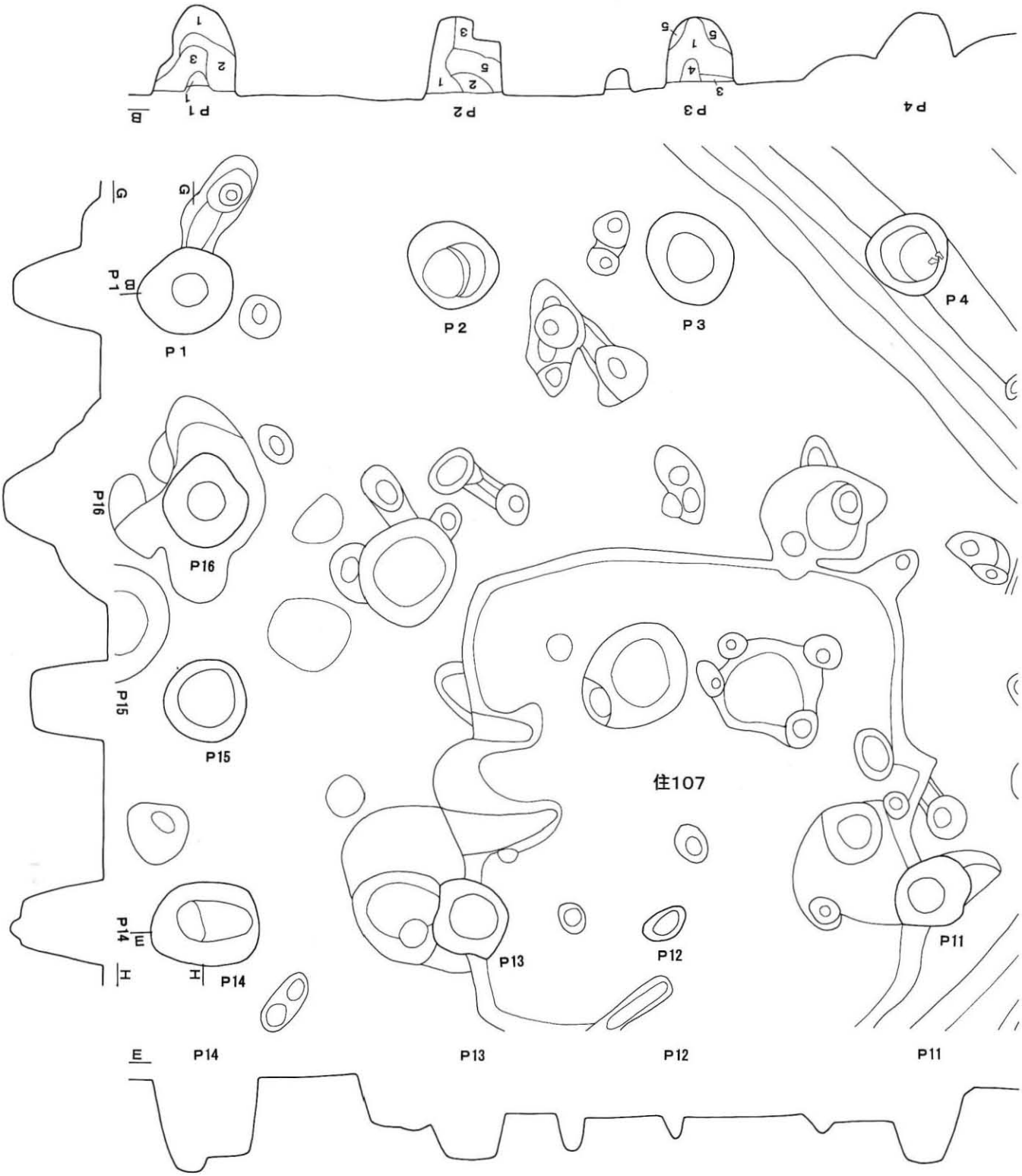




50号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-47-8
規模(柱間)　桁行1間(3.4m)、梁行2間(1.6m)
主軸方向　N-84°-E
深　　さ　0.4～0.8m
柱 穴 径　0.8～1.1m
遺　　物
特記事項
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
2 黒色土(砂多く混じる)
3 黒色土(砂・焼土混じる)
4 黒灰色土(砂混じる)
5 黒灰色土(砂多く混じる)
6 黒灰色土(砂・焼土混じる)
7 黒灰色砂
8 黒褐色土(褐色砂混じる)
9 暗灰色砂
10 灰色砂
11 黒色砂

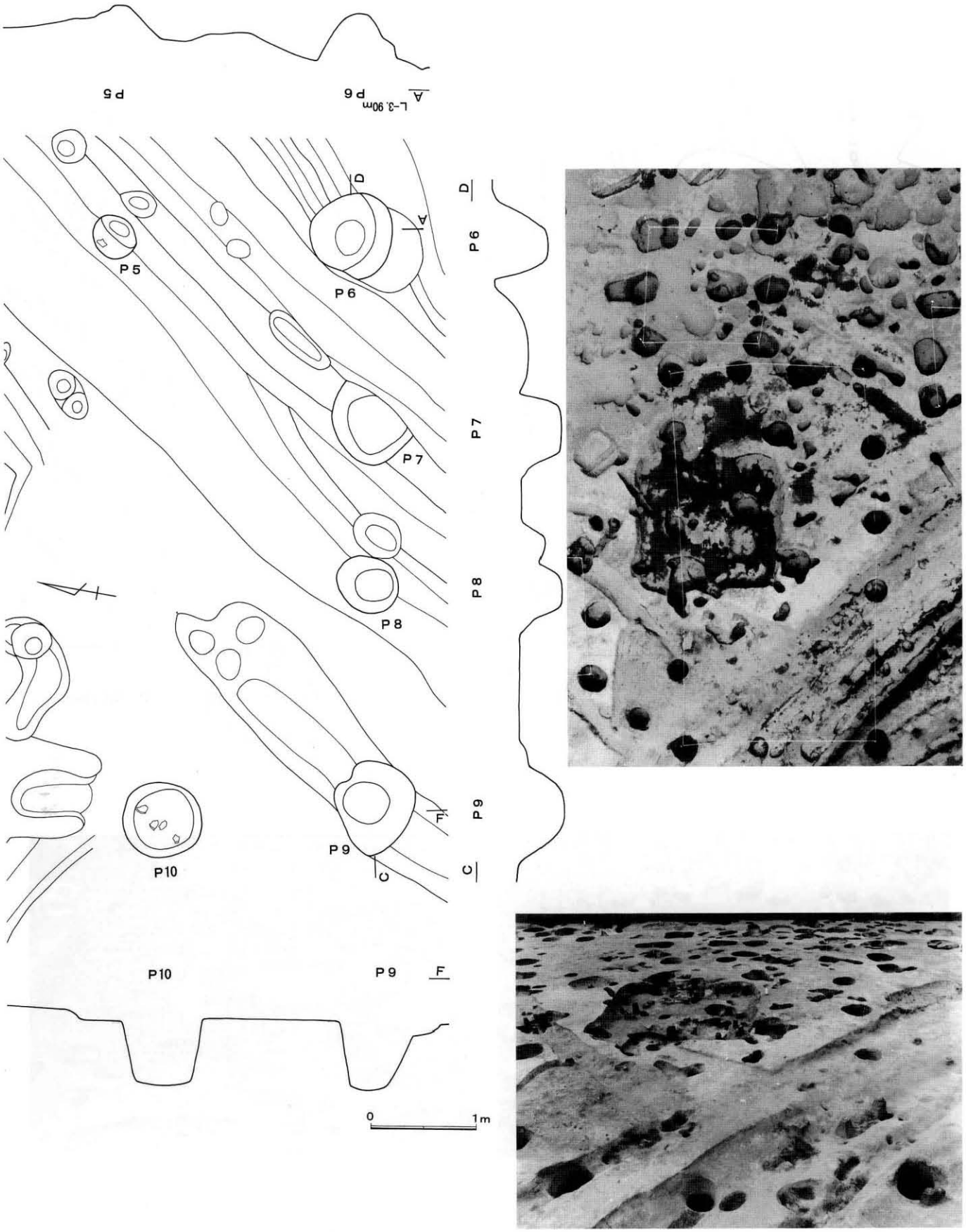
図 155　奈良・平安時代の遺構 (50 号掘立柱建物跡)



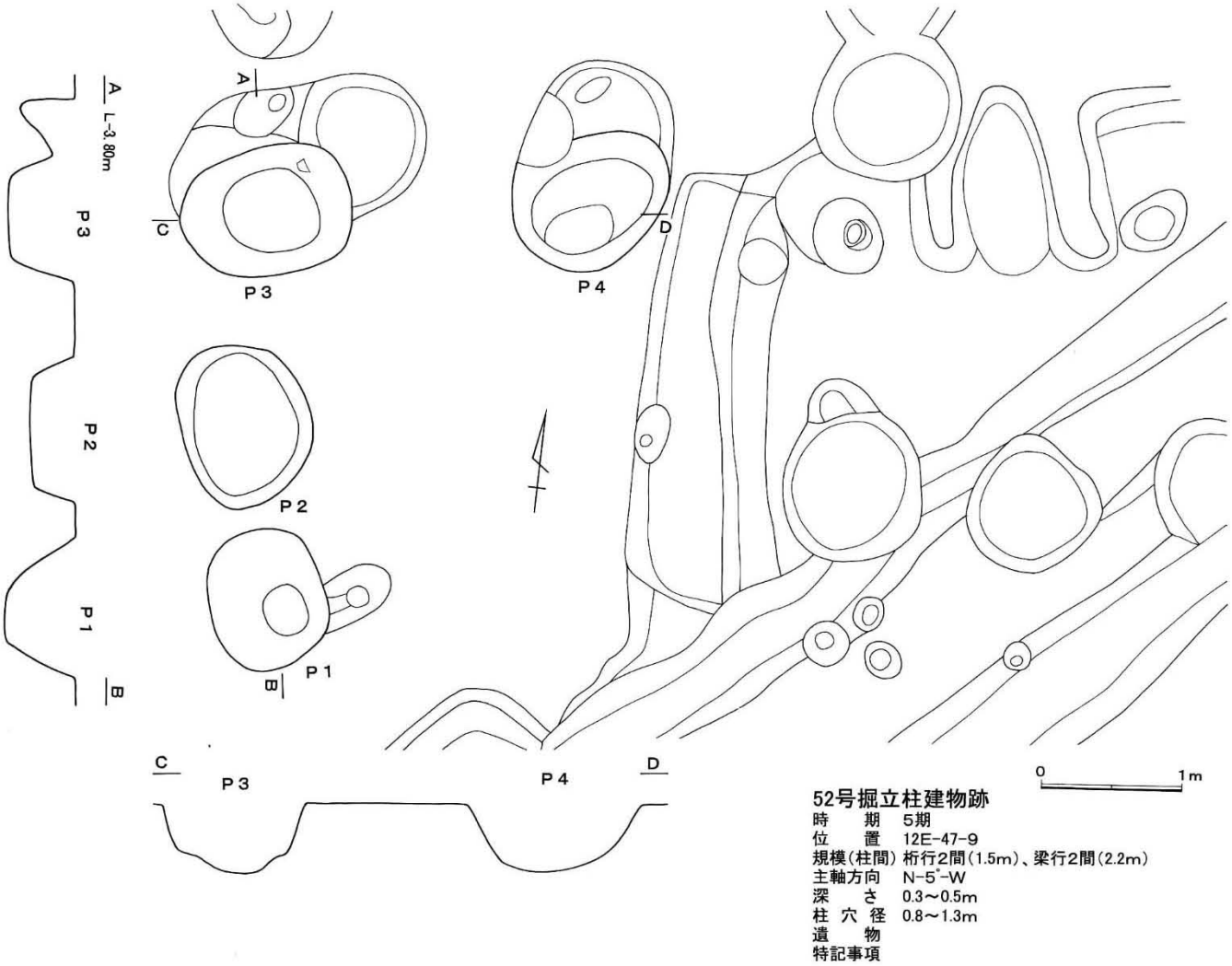
51号掘立柱建物跡

時　　期　7期
位　　置　12E-47-8・9・13・14
規模(柱間)　桁行5間(2.1m)、梁行3間(1.8m)
主軸方向　N-10°-W
深　　さ　0.5～0.9m
柱 穴 径　0.8～1.0m
遺　　物
特記事項　107号住居跡と重なる
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
　　2 黒色土(砂多く混じる)
　　3 黒灰色土(砂混じる)
　　4 黒褐色土(焼土混じる)
　　5 黒灰色砂

図 156　奈良・平安時代の



遺構(51 号掘立柱建物跡)



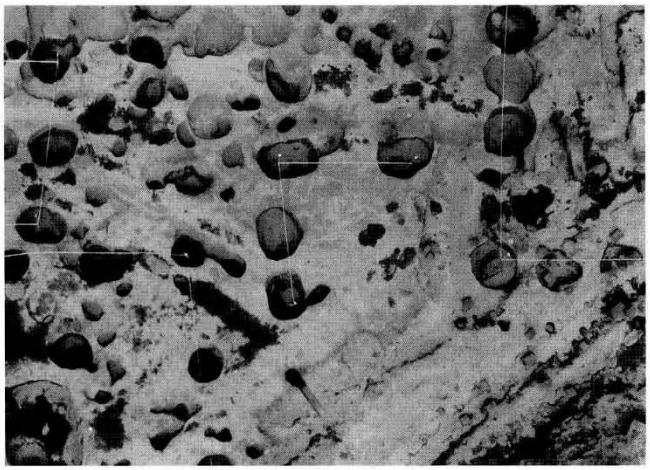
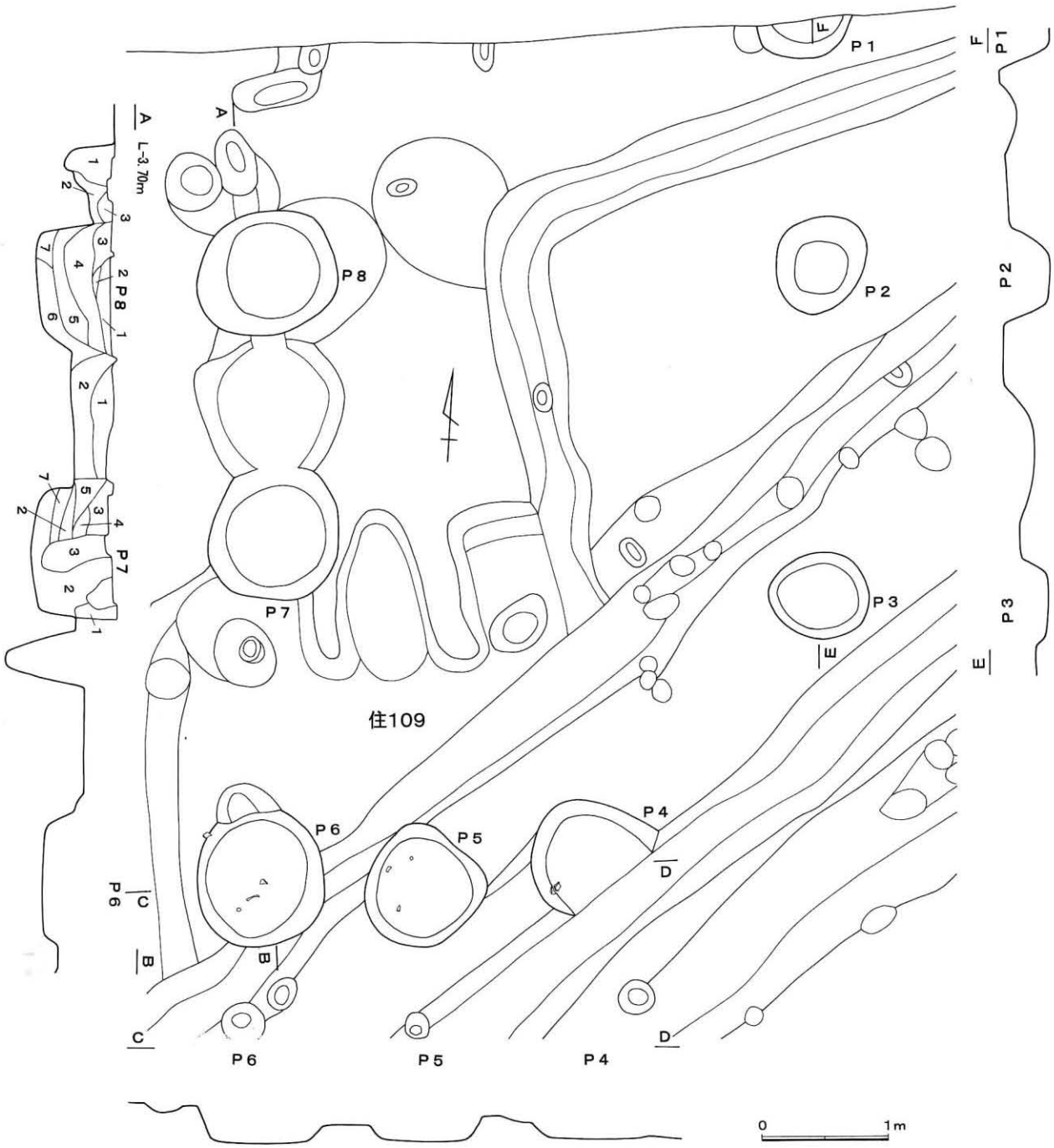


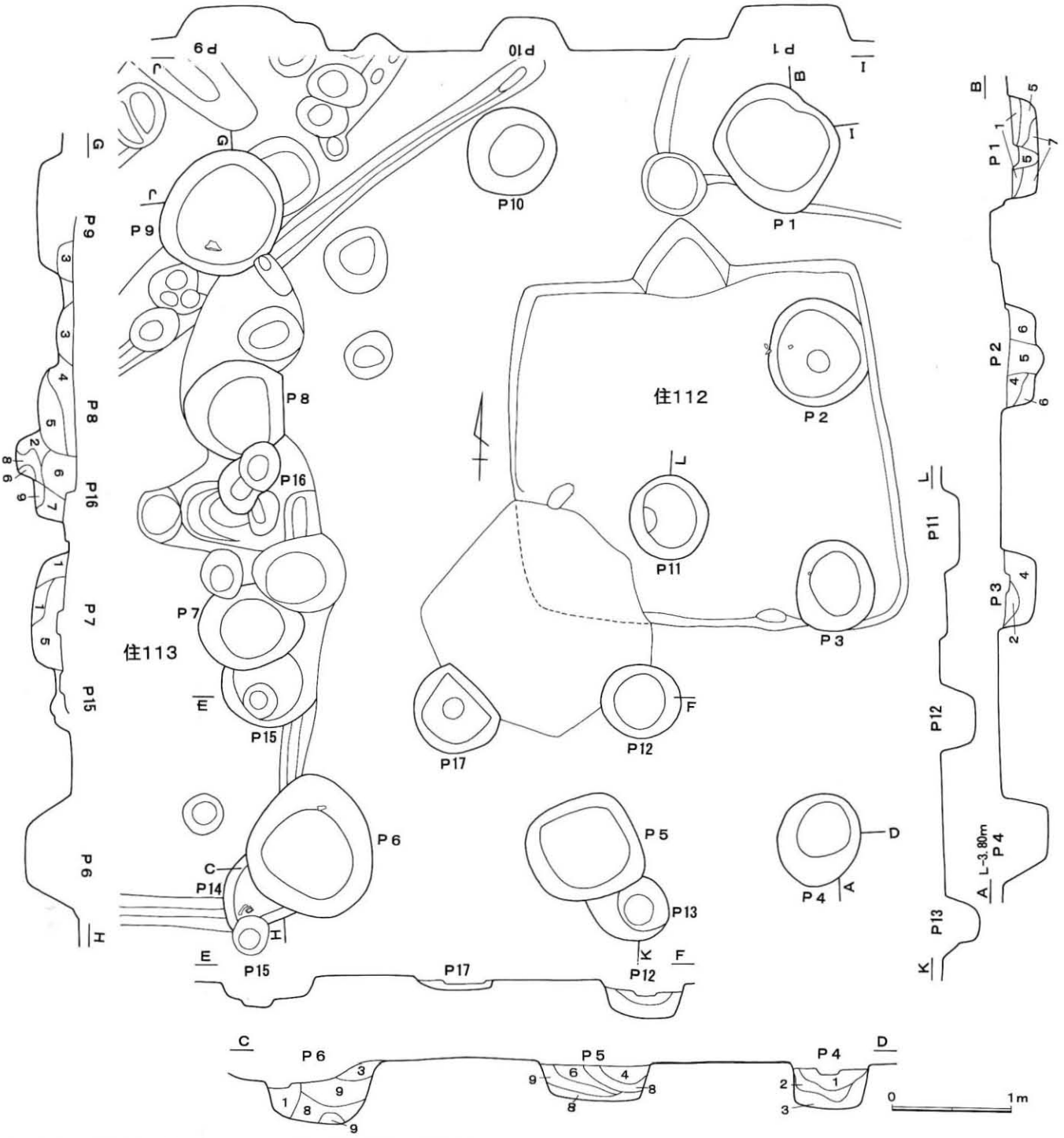
図 157　奈良・平安時代の遺構（52 号掘立柱建物跡）



53号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E-47-9
規模(柱間)	桁行3間(2.0～2.5m)、梁行3間(1.4m)
主軸方向	N-3°-W
深　　さ	0.4～0.6m
柱 穴 径	0.7～1.1m
遺　　物	
特記事項	109号住居跡と重なる
層　　序	1 黒色土(砂混じる) 2 黒色土(砂・焼土混じる) 3 黒灰色土(砂・焼土混じる) 4 黒灰褐色土(砂混じる) 5 黒灰褐色土(砂多く混じる) 6 黒褐色土(砂混じる) 7 黒灰色砂 8 暗灰色砂 9 灰色砂

図 158　奈良・平安時代の遺構（53 号掘立柱建物跡）



54号掘立柱建物跡

時　　期　6期
位　　置　12E-47-15
規模(柱間)　桁行3間(1.9m)、梁行2間(2.2m)
主軸方向　N-7°-W
深　　さ　0.3～0.55m
柱 穴 径　0.7～1.2m
遺　　物　土師器蓋
特記事項　111～113号住居跡、55号掘立柱建物跡と重なる

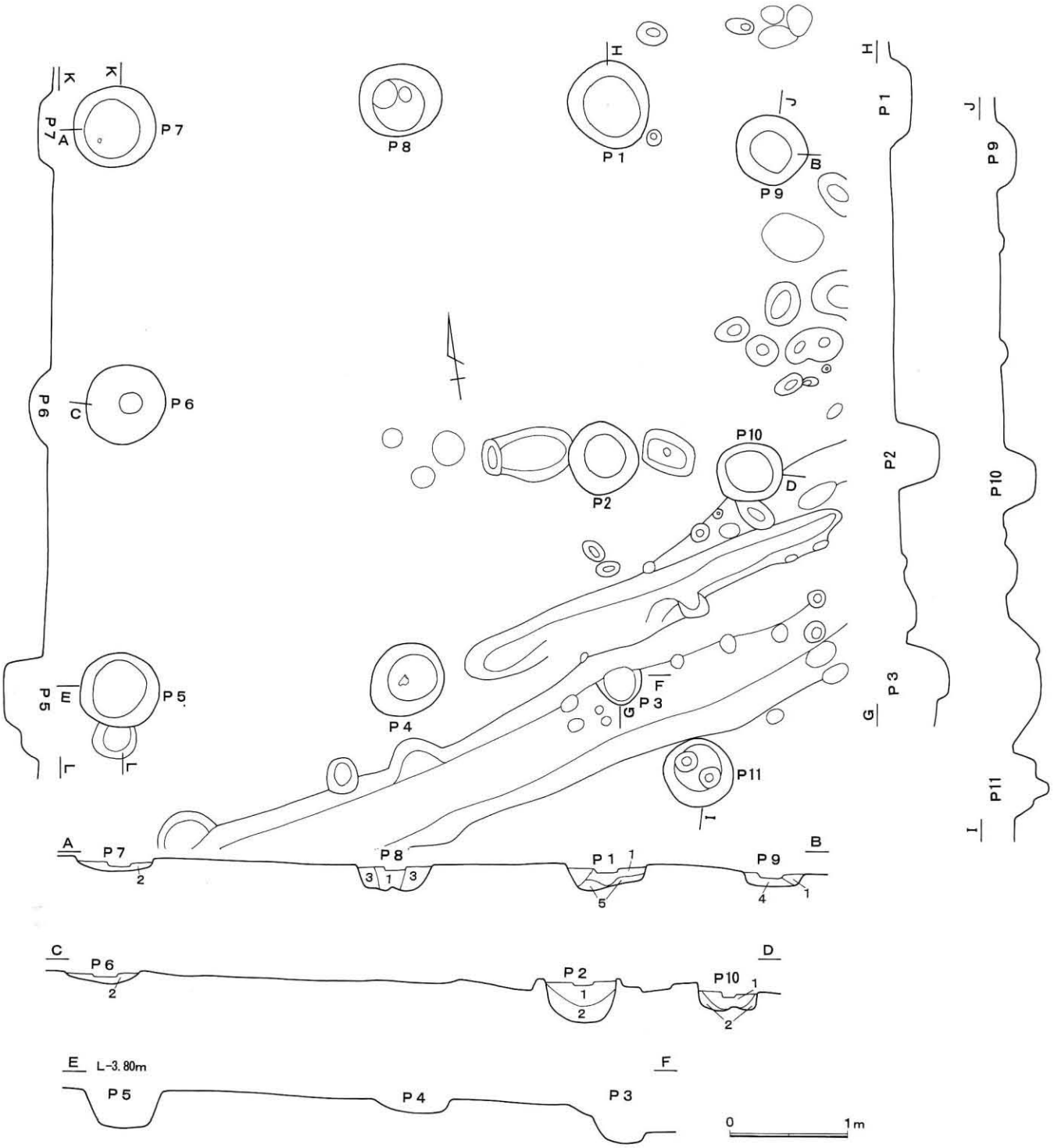
55号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-47-15
規模(柱間)　桁行1間(3.3m)、梁行2間(1.7m)
主軸方向　N-2°-E
深　　さ　0.1～0.3m
柱 穴 径　0.6～0.8m
遺　　物
特記事項

層　序

1 黒色土(砂混じる)
2 黒色土(砂多く混じる)
3 黒灰色土(砂混じる)
4 黒灰色土(砂多く混じる)
5 黒灰褐色土(砂・焼土混じる)
6 黒灰色砂
7 黒灰褐色砂
8 暗灰色砂
9 灰色砂

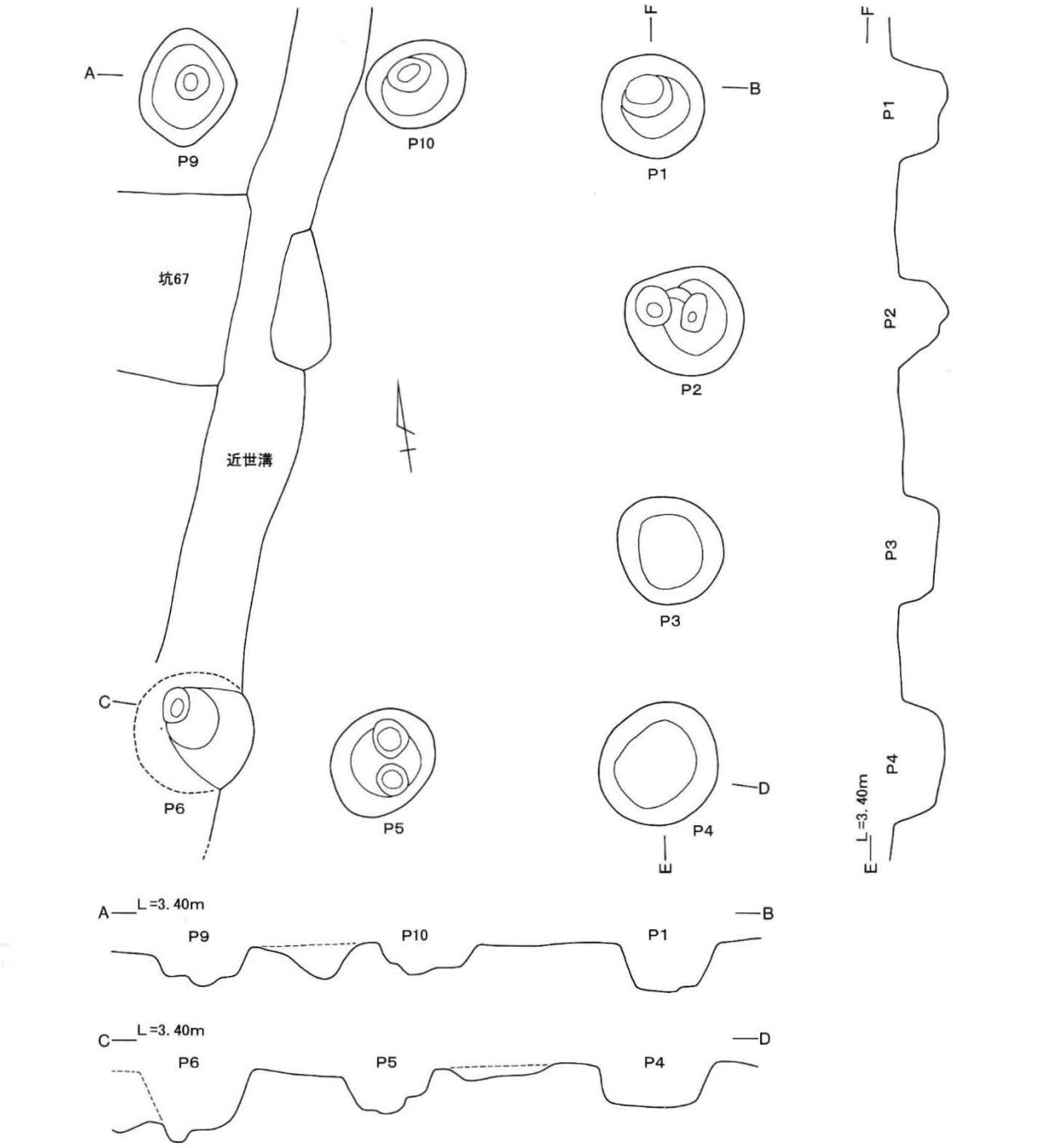
図 159　奈良・平安時代の遺構(54・55 号掘立柱建物跡)



56号掘立柱建物跡

時　　期　6期
位　　置　12E-47-15、48－11
規模(柱間)　桁行2間(1.8～2.5m)、梁行2間(2.4m)
主軸方向　N-82°-W
深　　さ　0.1～0.35m
柱 穴 径　0.6～0.75m
遺　　物
特記事項
層　　序　1 黒色土(砂混じる)
　　2 黒色土(砂多く混じる)
　　3 黒灰色土(砂多く混じる)
　　4 黒灰色砂
　　5 暗灰色砂

図 160　奈良・平安時代の遺構（56 号掘立柱建物跡）

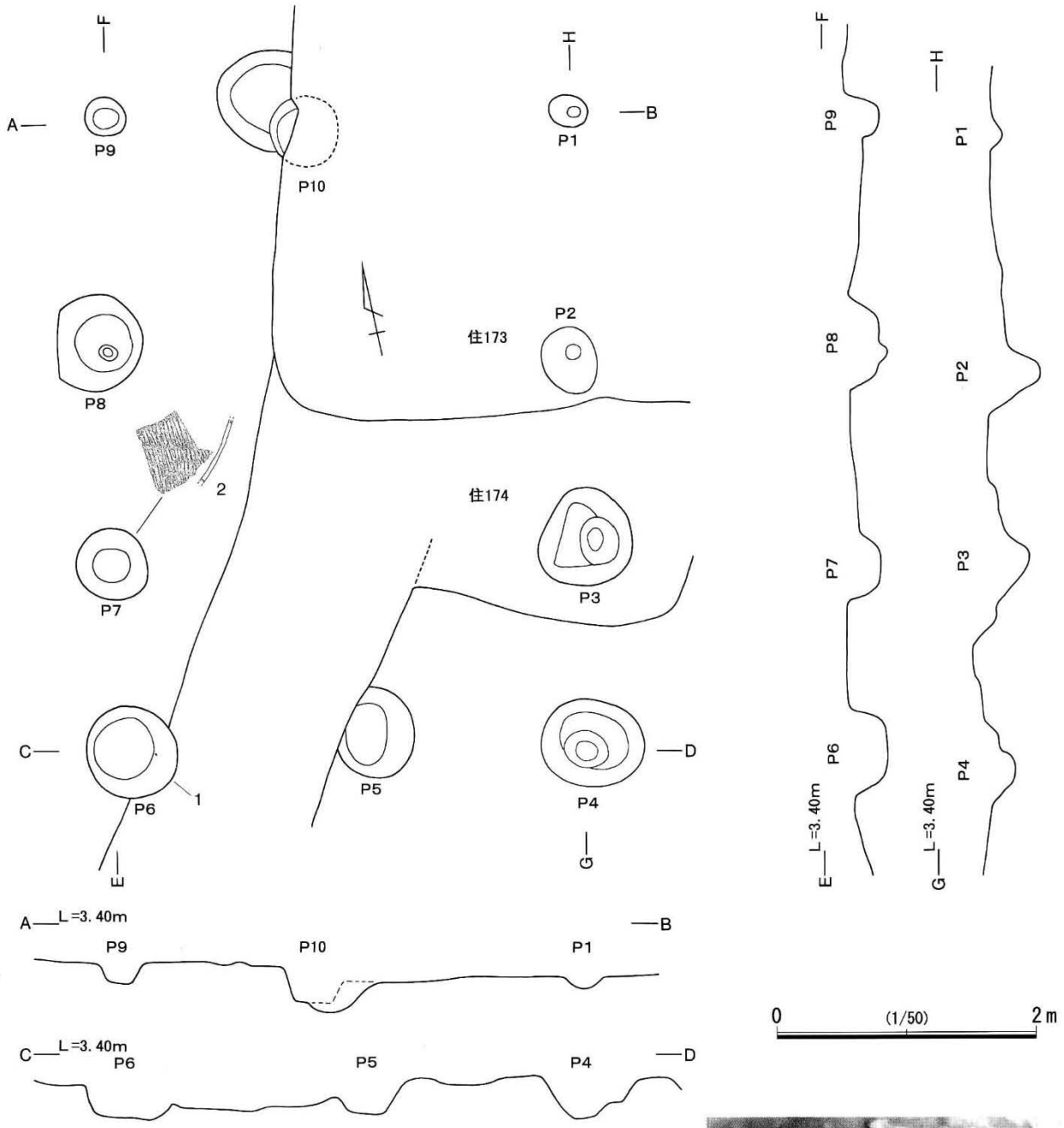


57号掘立柱建物跡（南から）

57号掘立柱建物跡

時　　期	5期以降7期以前
位　　置	12E－51－10
主軸方向	N－8°－E
規　　模	5.20×3.68m（3間×2間）
柱　　間	桁1.7m～1.9m・梁1.7m～2.2m
柱　　穴	径0.80m～0.98m・深さ0.32m～0.58m。
遺　　物	僅少。P4から土師器甑の小破片が出土。
特記事項	P6～P8は近世溝に壊される。

図161　奈良・平安時代の遺構（57号掘立柱建物跡）

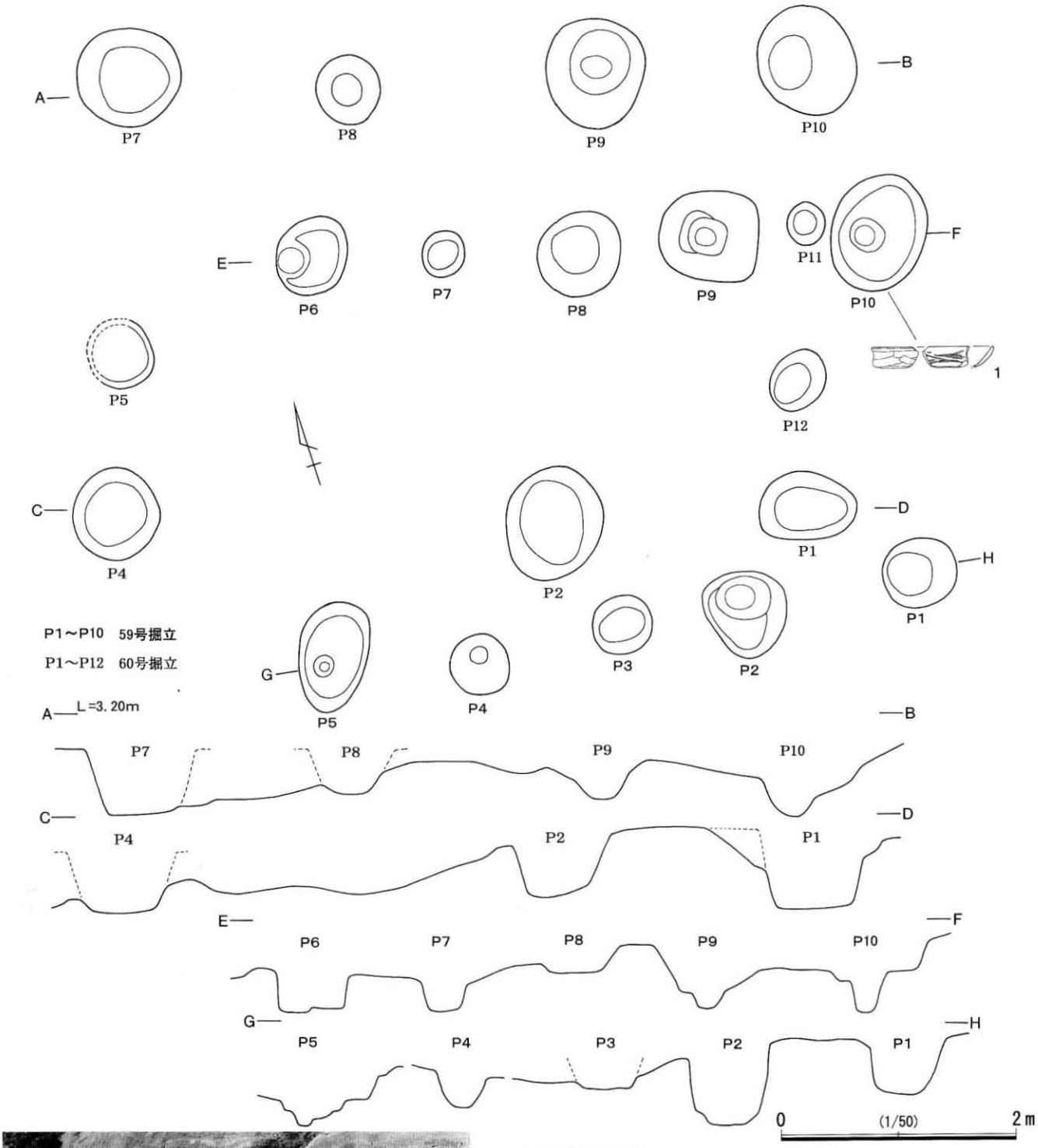


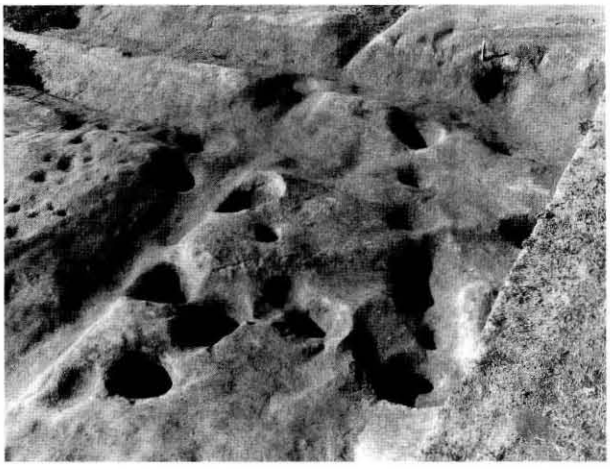
58号掘立柱建物跡（上空から）

58号掘立柱建物跡

時　　期	5期
位　　置	12E－52－12・17
主軸方向	N－11°　－E
規　　模	4.89×3.64m(3間×2間)
柱　　間	桁1.5m～1.9m・梁1.6m～2.0m
柱　　穴	径0.32m～0.80m・深さ0.26m～0.42m。
遺　　物	図示できたのはP6の非ロクロ整形の土師器坏(1)とP2の須恵器甑(2)のみ。P6・P8からは少量の土師器坏・甕の破片が出土。
特記事項	173号住居・174号住居と重複する。切り合いは不明。

図 162　奈良・平安時代の遺構（58 号掘立柱建物跡）





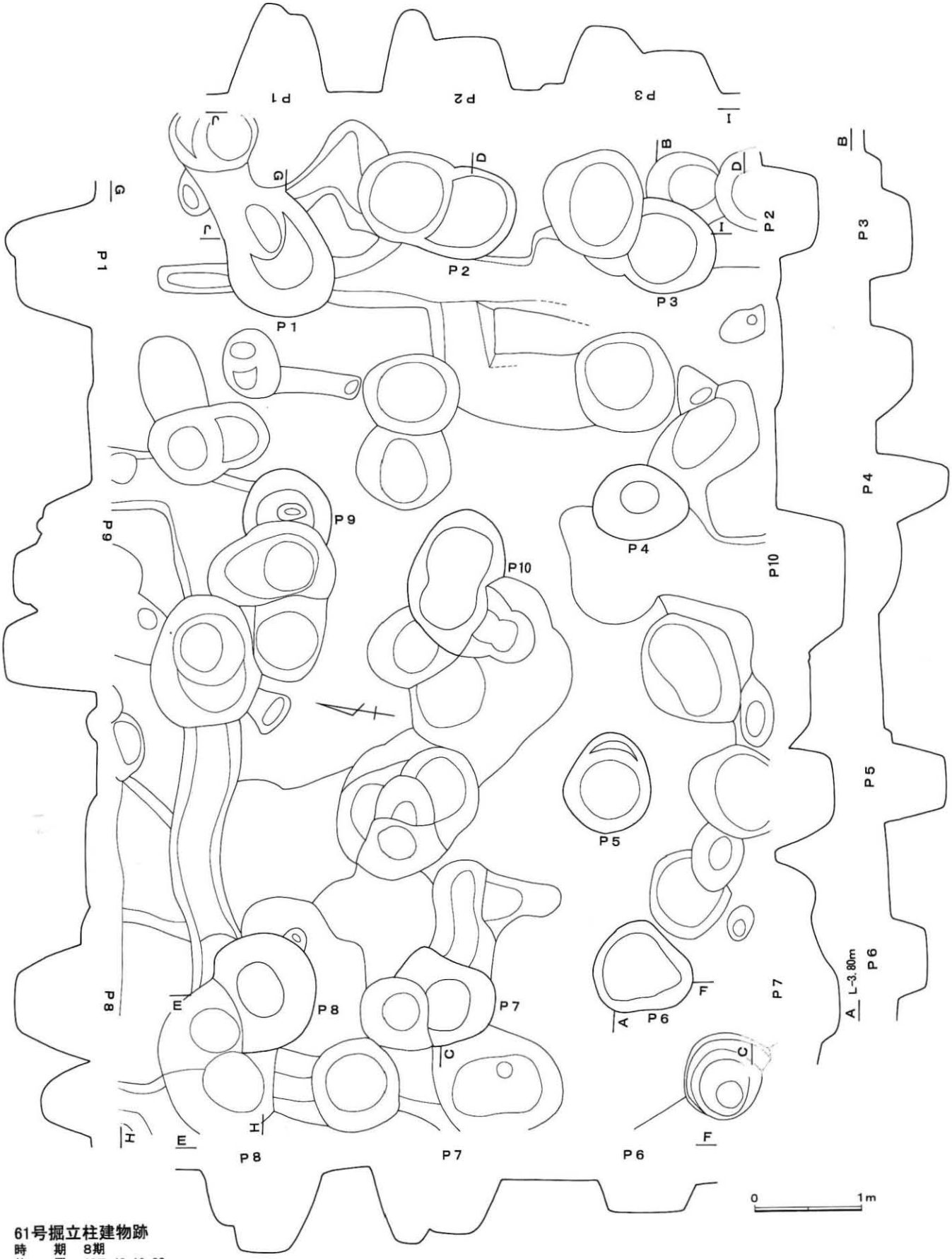
59号掘立柱建物跡

時　　期　4期
位　　置　12E－63－9
主軸方向　N－79°　－W
規　　模　4.78×3.16m(4間×1間)
柱　　間　桁1.1m～1.5m・梁3.2m
柱　　穴　径0.4m～1.0m・深さ0.6m～0.7m(P3・P8のみ浅く0.3m～0.4m)。
遺　　物　P4から外面赤彩の非ロクロ土師器坏の破片が1点。P5からは土師器坏(1)を含めて2点の非ロクロ土師器坏の破片が出土。

60号掘立柱建物跡

時　　期　奈良時代(8世紀か)
位　　置　12E－63－8・9
主軸方向　N－73°　－W
規　　模　5.82×3.66m(3間×3間)
柱　　間　桁1.7m～2.2m・梁1.1m～1.4m
柱　　穴　径0.6m～1.0m・深さ0.5m～0.6m。
遺　　物　無し。

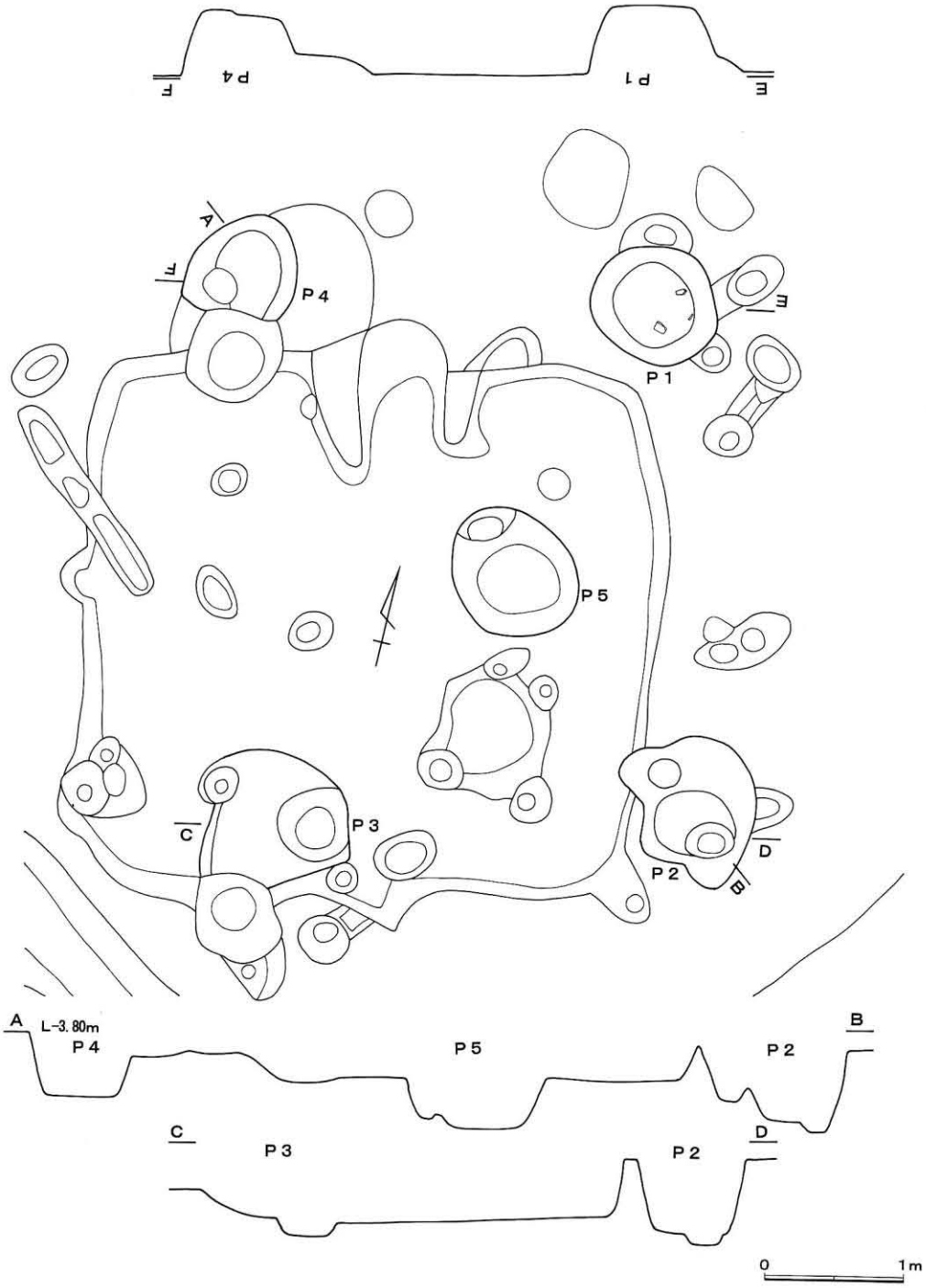
図163　奈良・平安時代の遺構(59・60号掘立柱建物跡)



61号掘立柱建物跡

時　　期　8期
位　　置　12E-46-19・20
規模(柱間)　桁行3間(2.3m)、梁行2間(1.8m)
主軸方向　N-81°-E
深　　さ　0.4～0.8m
柱 穴 径　0.8～1.1m
遺　　物　土師器甕片
特記事項　28号掘立柱建物跡と重なる

図 164　奈良・平安時代の遺構（61 号掘立柱建物跡）



62号掘立柱建物跡

時　　期　5期
位　　置　12E-47-14
規模(柱間)　桁行1間(2.8m)、梁行1間(3.8m)
主軸方向　N-80°-E
深　　さ　0.5～0.6m
柱 穴 径　0.8～1.0m
遺　　物
特記事項　107号住居跡と重なる

図 165　奈良・平安時代の遺構（62 号掘立柱建物跡）

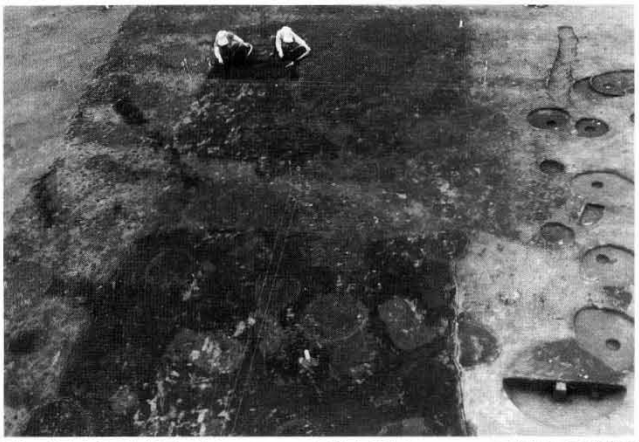
掘立柱建物跡群（西側から）

掘立柱建物跡群中央部

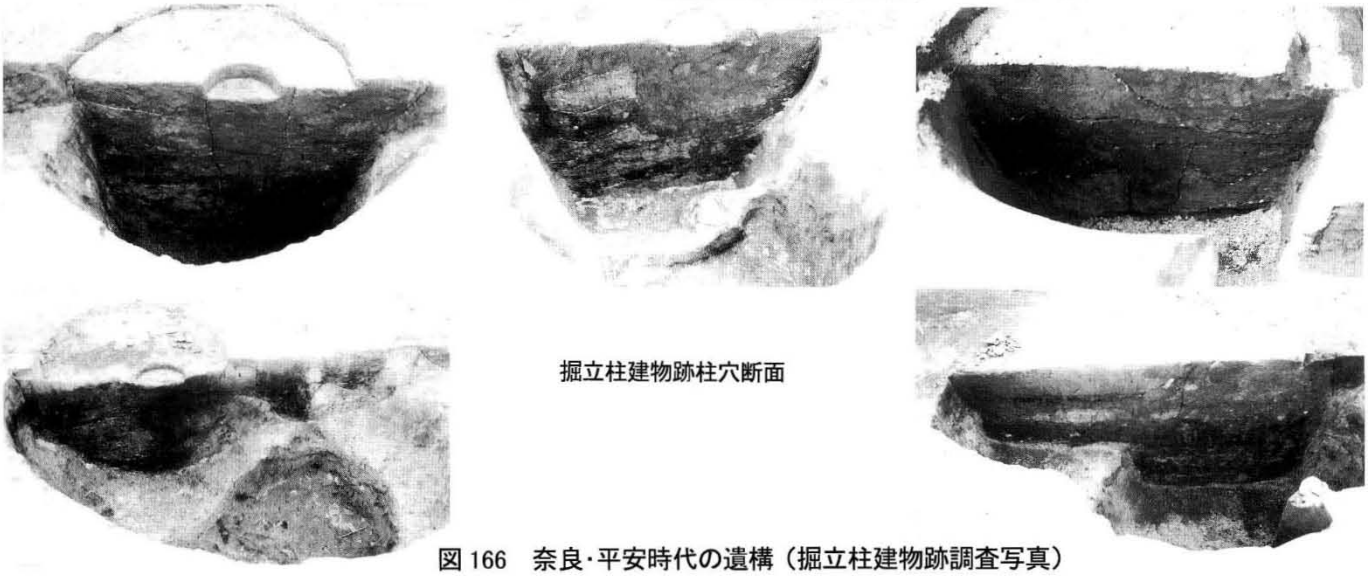
発掘前の掘立柱建物跡群（西部）

発掘前の掘立柱建物跡群（東部）

発掘前の掘立柱建物跡群（東端部）

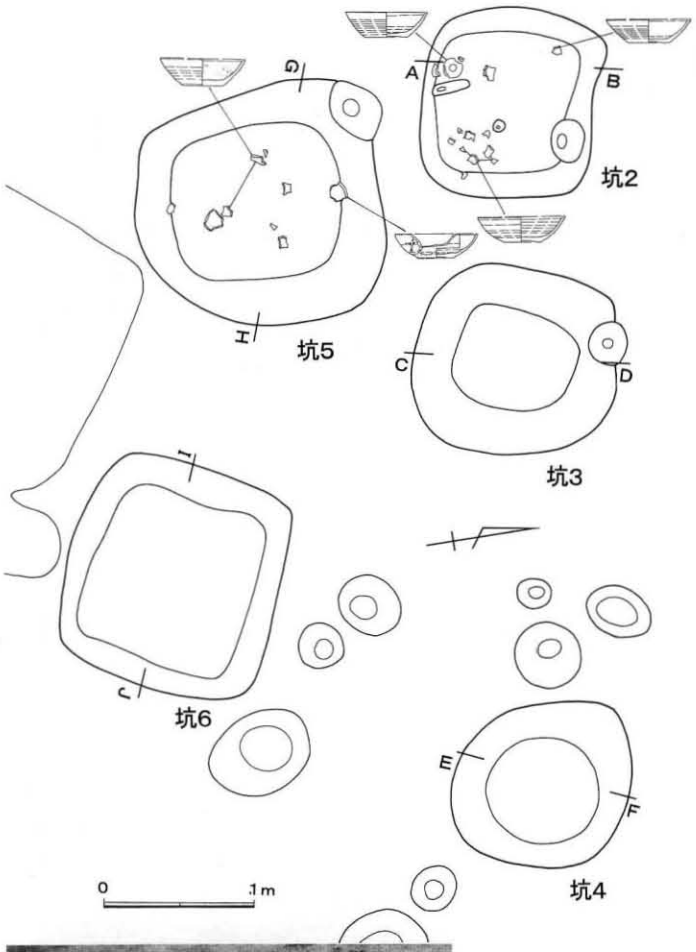


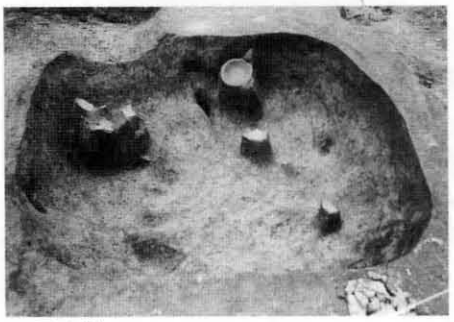
発掘前の掘立柱建物跡群（105・106 号住居跡と 42・43 号掘立柱建物跡）



掘立柱建物跡柱穴断面

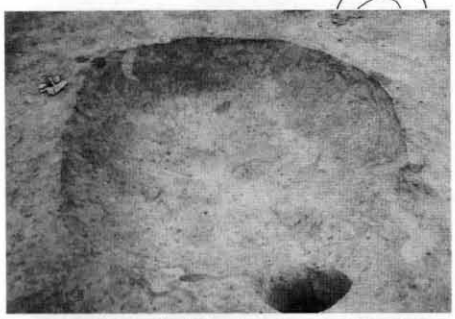
図 166　奈良・平安時代の遺構（掘立柱建物跡調査写真）





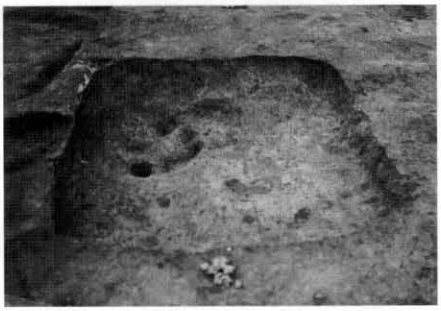
2号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E-51-4・5
形　　態　方形、鉢形
規　　模　1.1×1.25m
主軸方向　N-12°-E
深　　さ　0.3m
遺　　物　土師器坏、甕片
特記事項
層　　序　1 暗灰色砂（粗砂主体）
　　2 暗灰色砂（細砂主で、木炭混じり硬くしまる）
　　3 灰色砂（細砂主で硬くしまる）



3号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E-51-5
形　　態　円に近い方形、鉢形
規　　模　1.35×1.25m
主軸方向　N-10°-E
深　　さ　0.2m
遺　　物　土師器坏・甕片
特記事項
層　　序　1 暗灰色砂（細砂主体）
　　2 灰色砂（粗砂主体）
　　3 灰色砂（細砂主で硬くしまる）
　　4 灰色砂（粗砂で硬くしまる）



4号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E-51-5
形　　態　円形、碗形
規　　模　径1.1m
主軸方向　N-−°-E
深　　さ　0.27m
遺　　物　土師器坏片
特記事項
層　　序　1 灰色砂（粗砂主体）
　　2 暗灰色砂（粗砂主体）
　　3 暗灰色砂（細砂主で硬くしまる）
　　4 灰色砂（細砂で硬くしまる）

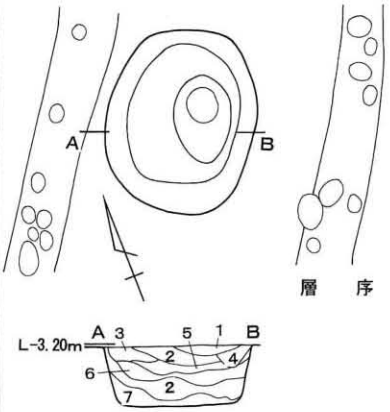
5号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E-51-5
形　　態　隅丸方形、碗形
規　　模　1.63×1.58m
主軸方向　N-2°-E
深　　さ　0.4m
遺　　物　土師器坏、甕
特記事項
層　　序　1 灰色砂（粗砂主体）
　　2 灰色砂（細砂主体）
　　3 暗灰色砂（細砂主で硬くしまる）
　　4 灰色砂（細砂で硬くしまる）
　　5 灰色砂（粗砂で硬くしまる）

6号土坑

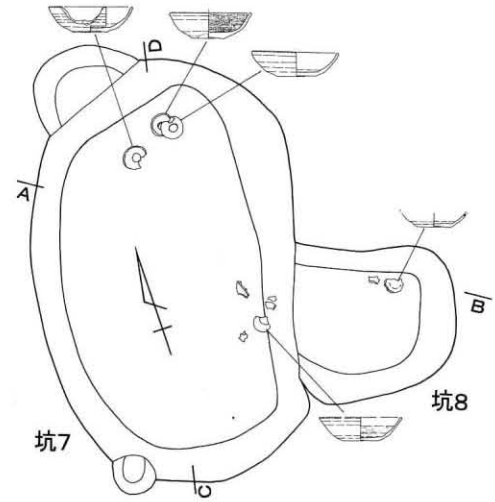
時　　期　8期
位　　置　12E-51-5
形　　態　方形、箱形
規　　模　1.42×1.5m
主軸方向　N-16°-E
深　　さ　0.25m
遺　　物　土師器坏・甕片
特記事項
層　　序　1 灰色砂（粗砂主体）
　　2 暗灰色砂（細砂主体で硬くしまる）
　　3 灰色砂（細砂主で硬くしまる）

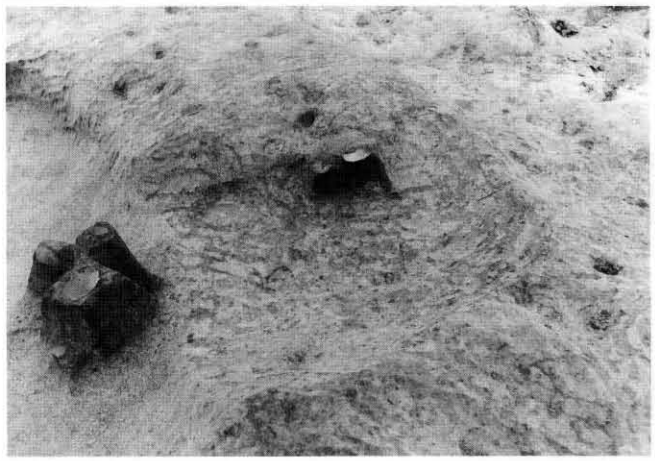
図 167　奈良・平安時代の遺構（2～6号土坑）

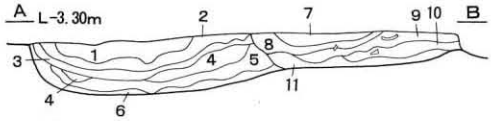


1号土坑

時　　期	8期
位　　置	12E-41-23
形　　態	楕円、筒形
規　　模	1.2×1.0m
主軸方向	N-37°-E
深　　さ	0.4m
遺　　物	
特記事項	
層　　序	1 黒灰色砂(少し粘質) 2 暗灰色砂(少し粘質) 3 灰色砂 4 黒灰色砂(黒色土少し混じる) 5 暗灰色砂(少ししまる) 6 暗灰色砂(軟弱) 7 暗灰色砂(少し粘質で硬くしまる)





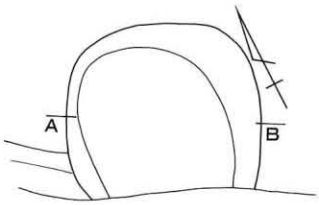


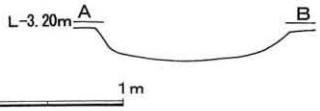
7号土坑

時　　期	8期
位　　置	12E-51-5
形　　態	長円形、碗形
規　　模	2.8×1.78m
主軸方向	N-11°-E
深　　さ	0.36m
遺　　物	土師器坏、須恵器甕片
特記事項	
層　　序	1 灰色砂(粗砂主体) 2 暗灰色砂(中砂主体で軟弱) 3 暗灰色砂(細砂主で硬くしまる) 4 灰色砂(粗砂主体で少ししまる) 5 暗灰色砂(細砂主体で硬くしまる) 6 灰色砂(細砂主で硬くしまる)

8号土坑

時　　期	7期
位　　置	12E-51-5
形　　態	長円形、碗形
規　　模	1.1×1.0m
主軸方向	N-65°-W
深　　さ	0.23m
遺　　物	土師器坏
特記事項	7号土坑に切られる
層　　序	7 黒灰色砂(細砂主体で、木炭混じる) 8 灰色砂(粗砂主体で軟弱) 9 暗灰色砂(粗砂主で軟弱) 10 灰色砂(粗砂主体で軟弱) 11 灰色砂(粗砂混じり硬くしまる)



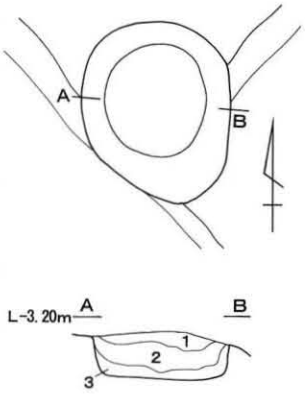


0　　1m

9号土坑

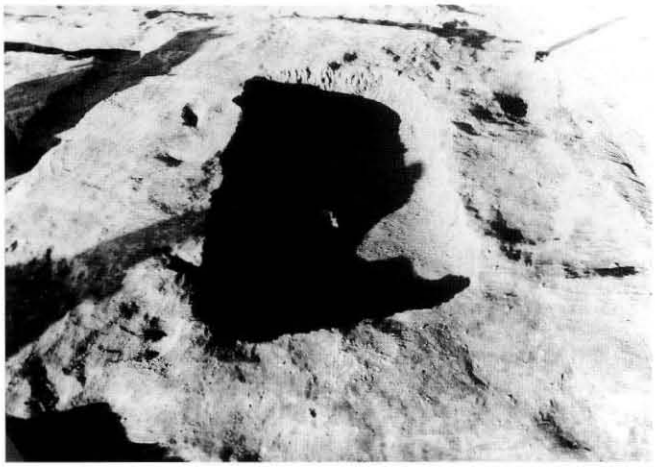
時　　期	8期
位　　置	12E-51-5
形　　態	円形、皿形
規　　模	1.1×1.3m
主軸方向	N--°-W
深　　さ	0.18m
遺　　物	
特記事項	

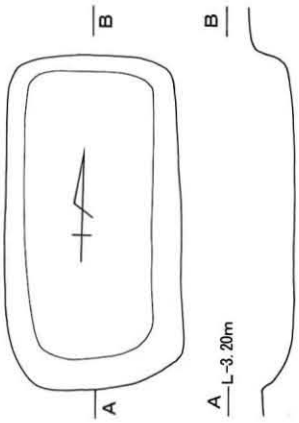
図 168　奈良・平安時代の遺構(1・7～9号土坑)



10号土坑

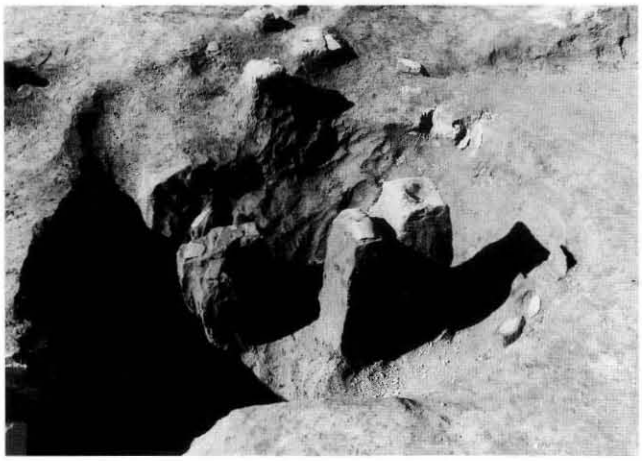
時　　期　8期
位　　置　12E-52-1
形　　態　円形、筒形
規　　模　1.2×1.0m
主軸方向　N--°-E
深　　さ　0.3m
遺　　物　土師器坏・甕片
特記事項
層　　序　1 灰色砂（粗砂主体で少ししまる）
　　2 暗灰色砂（細砂主体で硬くしまる）
　　3 灰色砂（細砂主で硬くしまる）

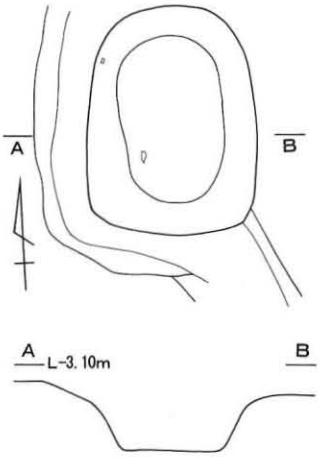




11号土坑

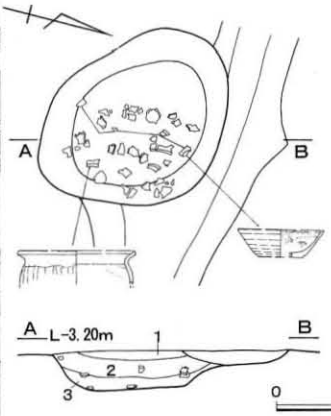
時　　期　4期
位　　置　12E-52-1
形　　態　長方形、皿形
規　　模　2.22×1.18m
主軸方向　N-1°-W
深　　さ　0.3m
遺　　物　土師器坏・盤・甕片
特記事項





12号土坑

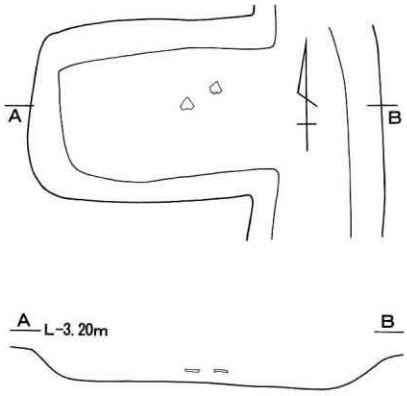
時　　期　4期
位　　置　12E-53-17
形　　態　楕円形、鉢形
規　　模　1.53×1.12m
主軸方向　N-1°-W
深　　さ　0.4m
遺　　物　土師器坏・甕片
特記事項　28号住居跡下から検出



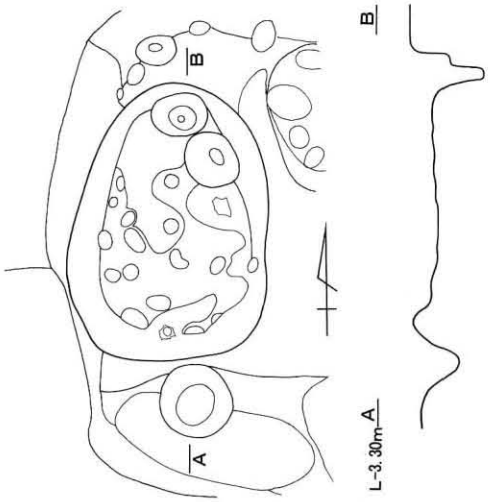
13号土坑

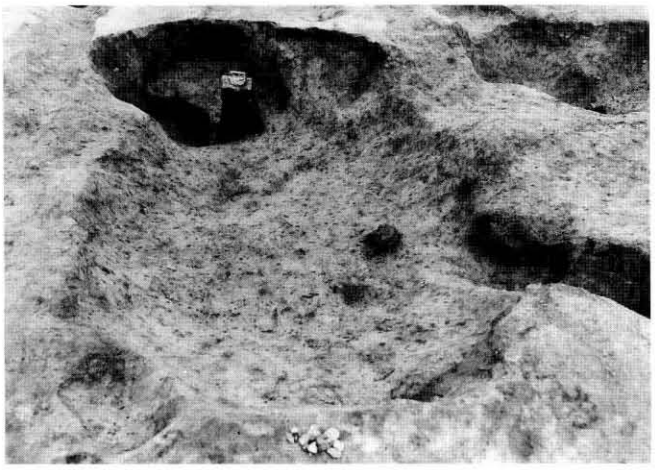
時　　期　8期
位　　置　12E-53-12
形　　態　楕円形、碗形
規　　模　1.4×1.18m
主軸方向　N-46°-W
深　　さ　0.23m
遺　　物　土師器坏・甕
特記事項
層　　序　1 灰色砂
　　2 暗灰色砂（焼土、木炭混じる）
　　3 暗灰色砂（硬くしまる）

図169　奈良・平安時代の遺構（10～13号土坑）

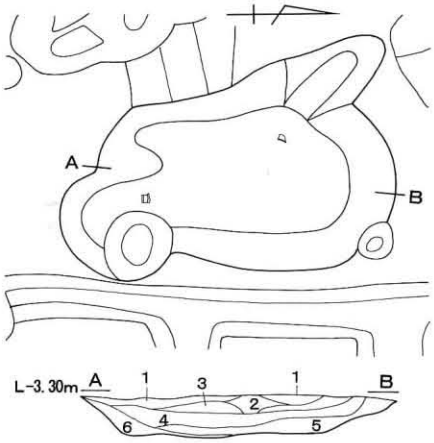


14号土坑
時　　期　4期
位　　置　12E-53-22
形　　態　長方形、皿形
規　　模　1.7×1.2m
主軸方向　N-88°-E
深　　さ　0.2m
遺　　物　須恵器甕片
特記事項

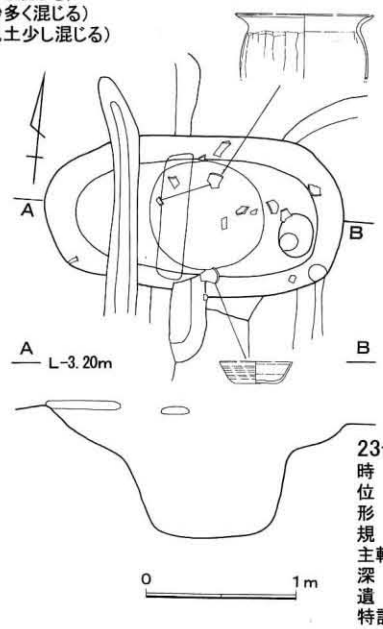




15号土坑
時　　期　5期
位　　置　12E-54-15
形　　態　楕円形、皿形
規　　模　1.8×1.3m
主軸方向　N-5°-E
深　　さ　0.2m
遺　　物
特記事項　52号住居跡下から検出

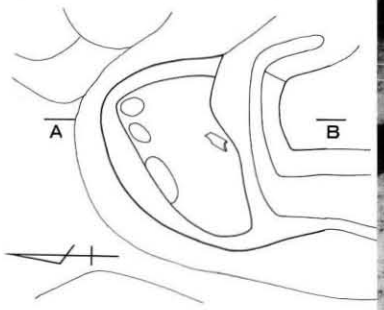


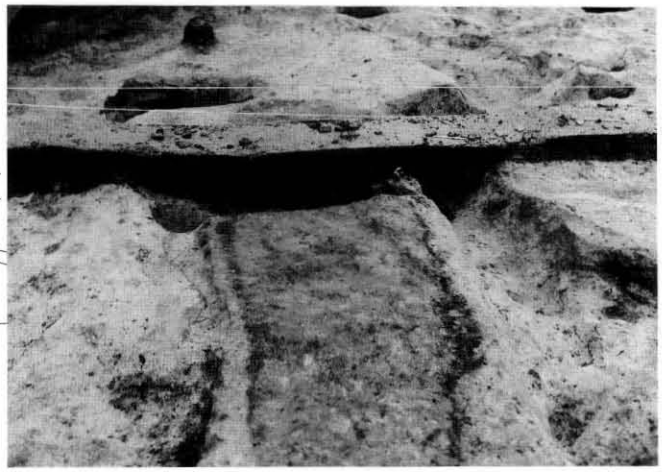
22号土坑
時　　期　6期
位　　置　12E-55-2
形　　態　楕円形、皿形
規　　模　2.0×1.2m
主軸方向　N-5°-E
深　　さ　0.28m
遺　　物　土師器坏、甕
特記事項　3号掘立柱建物跡柱穴が重なる
層　　序　1　黒灰色土(砂、焼土混じる)
　　2　暗灰色土(砂、焼土が多く混じる)
　　3　黒灰色土(砂混じる)
　　4　黒色土(砂少し混じる)
　　5　黒灰色土(砂多く混じる)
　　6　灰色砂(黒色土少し混じる)



23号土坑
時　　期　2期
位　　置　12E-55-9
形　　態　楕円形、鉢形
規　　模　2.0×1.06m
主軸方向　N-88°-E
深　　さ　0.73m
遺　　物　土師器坏、甕
特記事項　65・69号住居跡に切られる

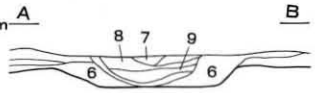
図 170　奈良・平安時代の遺構（14・15・22・23 号土坑）

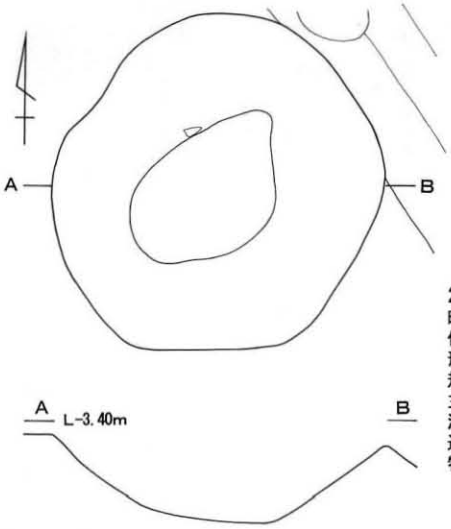




24号土坑

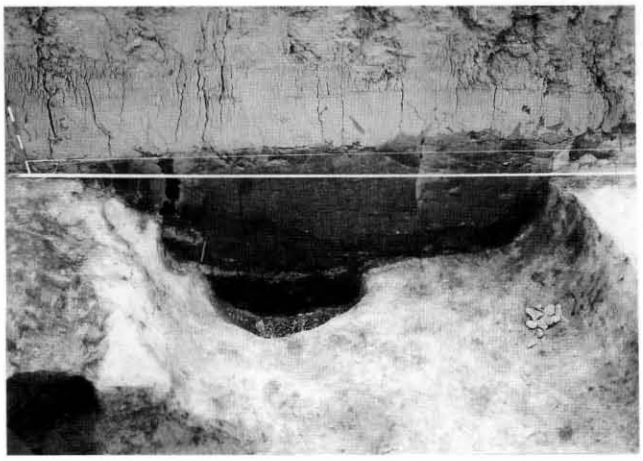
時　　期　2期
位　　置　12E-55-9
形　　態　方形、皿形
規　　模　1.2×1.2m
主軸方向　N-2°-E
深　　さ　0.2m
遺　　物　土師器甕
特記事項　69号住居跡下から検出。焼土、灰が多く、炉跡の様。
層　　序　1 暗灰色土(砂多く混じる)
2 黒灰色灰
3 暗灰色土(灰混じる)
4 暗灰色土(焼土、砂混じる)
5 灰色砂
6 暗灰色土(砂、灰混じる)
7 暗灰色土(砂混じる)
8 暗灰色土(焼土、灰、砂混じる)
9 黒色土(木炭、灰混じる)

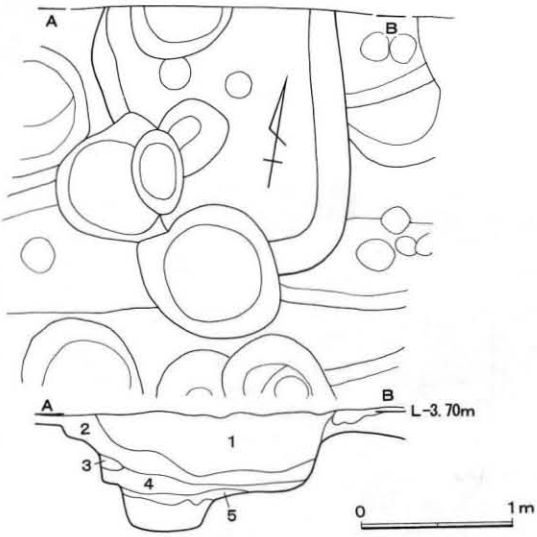




27号土坑

時　　期　3期
位　　置　12E-46-18
形　　態　円形、擂鉢形
規　　模　2.27×2.0m
主軸方向　N--°-E
深　　さ　0.55m
遺　　物　須恵器甕片
特記事項



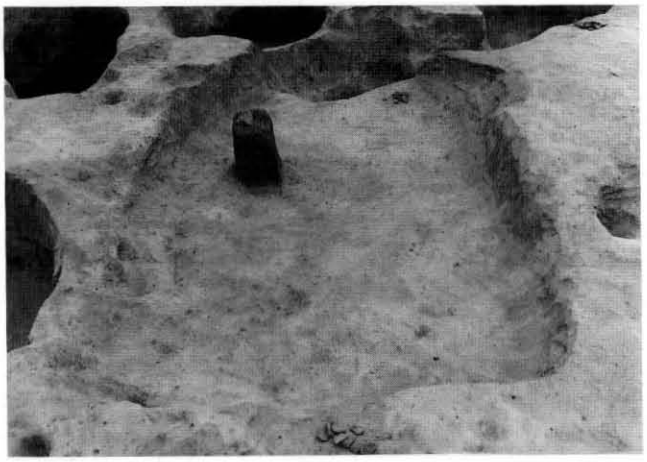


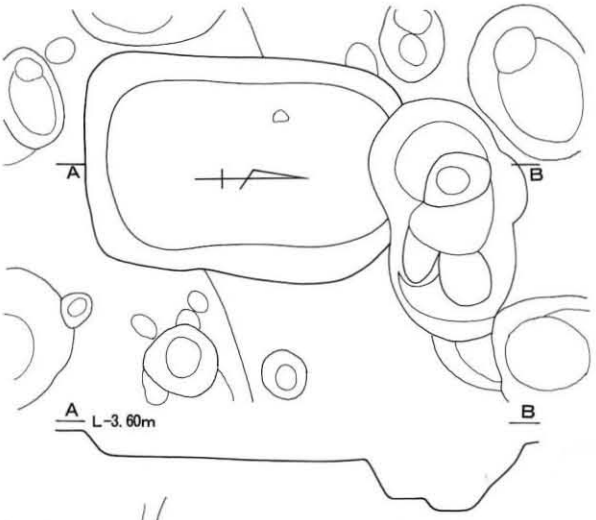
28号土坑

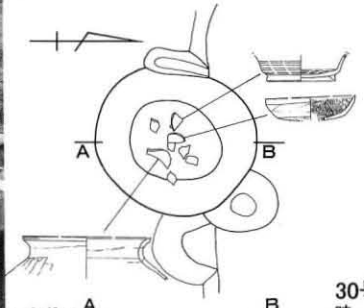
時　　期　8期
位　　置　12E-46-10
形　　態　長方形、箱形
規　　模　1.8×1.65m
主軸方向　N-8°-W
深　　さ　0.4m
遺　　物　土師器高台付坏
特記事項　18号掘立柱建物跡柱穴を埋める

層　　序　1 暗灰褐色土(砂多く混じり、硬く踏み固められている)
2 黒灰色土(砂、木炭粒混じる)
3 灰色砂
4 黒灰色土(砂混じる)
5 灰色砂(黒色土混じる)

図171　奈良・平安時代の遺構(24・27・28号土坑)

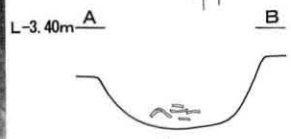






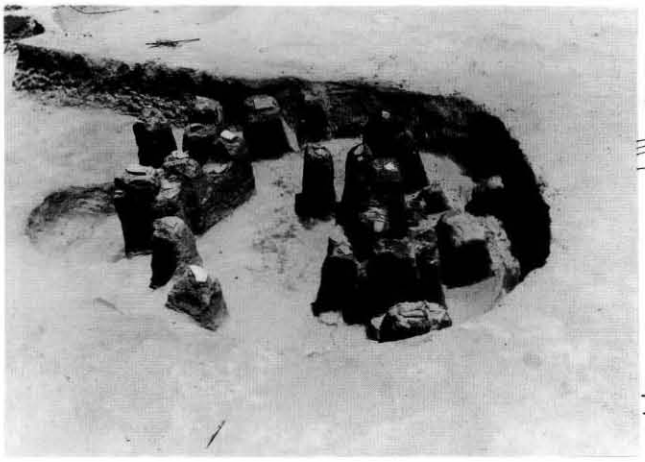
29号土坑

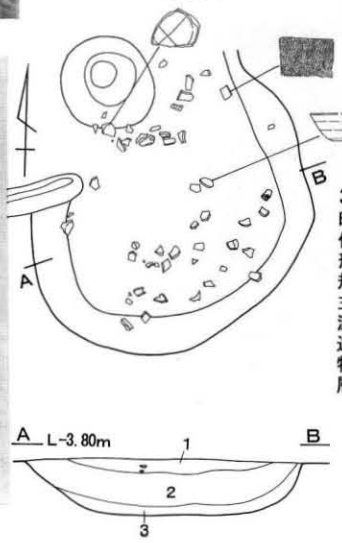
時　　期	8期
位　　置	12E-46-10
形　　態	長方形、皿形
規　　模	2.1×1.5m
主軸方向	N-2°-E
深　　さ	0.2m
遺　　物	土師器坏、高台付坏
特記事項	



30号土坑

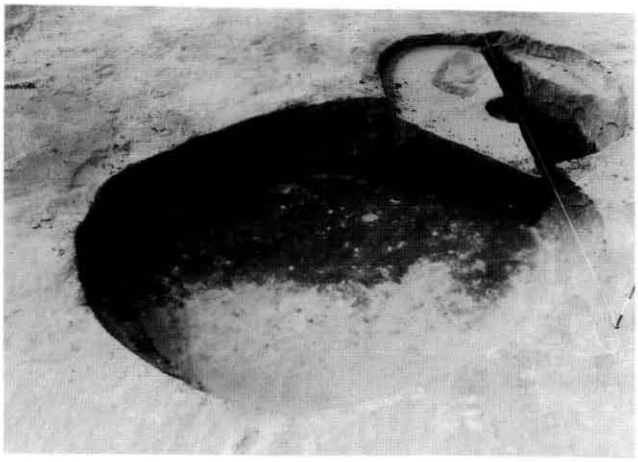
時　　期	5期
位　　置	12E-56-7
形　　態	円形、碗形
規　　模	1.08×1.0m
主軸方向	N--°-E
深　　さ	0.5m
遺　　物	土師器坏、高台付坏、甕
特記事項	86号住居跡竈を切る

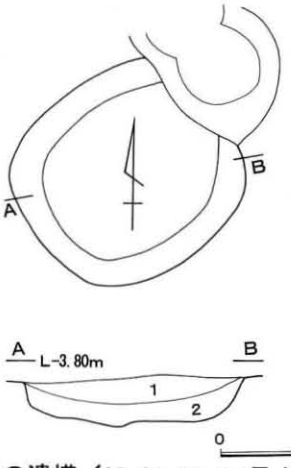




33号土坑

時　　期	6期
位　　置	12E-47-17
形　　態	円形、碗形
規　　模	1.9×1.7m
主軸方向	N--°-E
深　　さ	0.4m
遺　　物	土師器坏、甕
特記事項	106号住居跡を切る
層　　序	1 黒灰褐色土(焼土多く混じる) 2 黒褐色土(焼土、木炭、砂混じる) 3 黒灰色土(砂多く混じる)

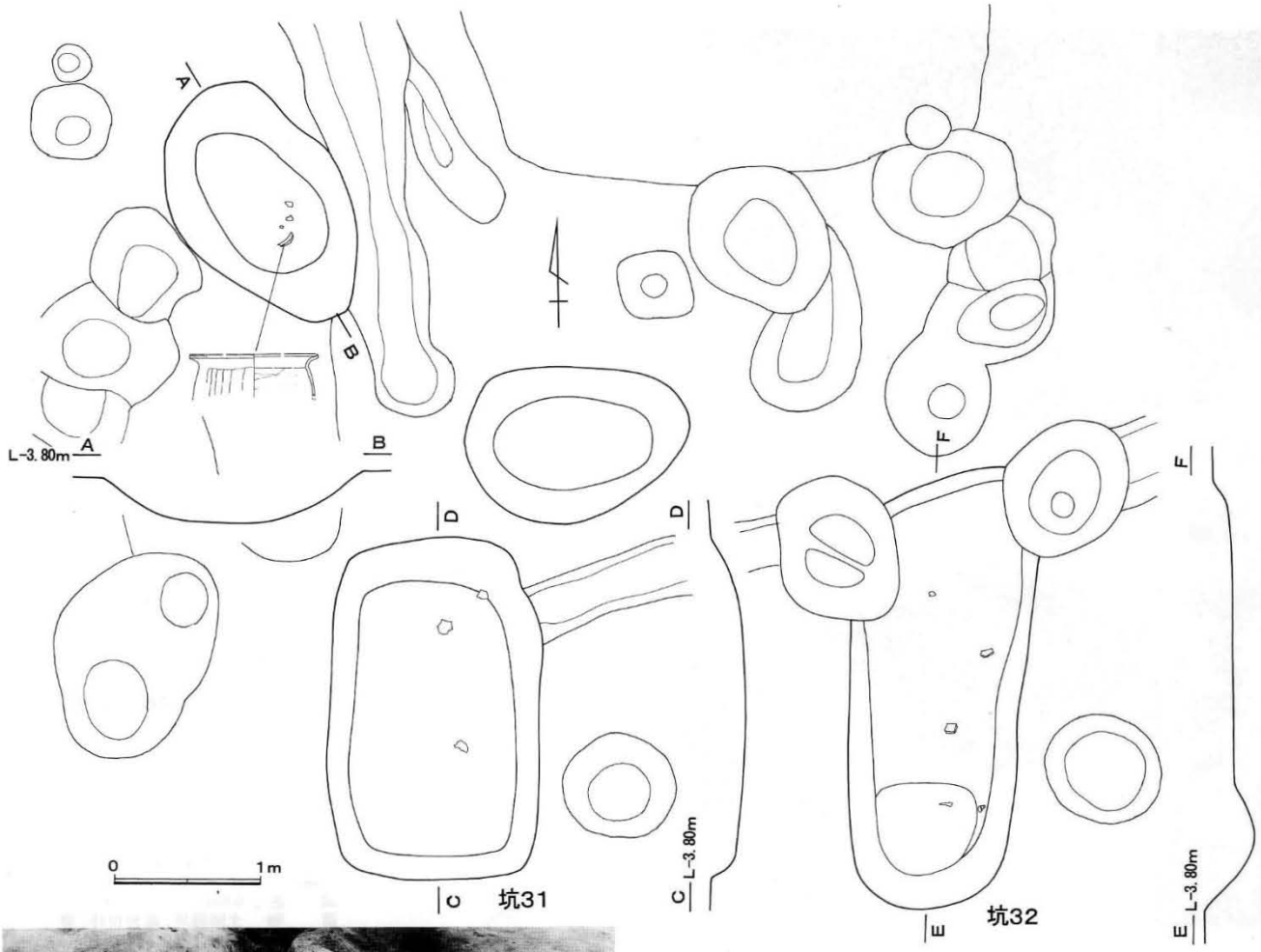


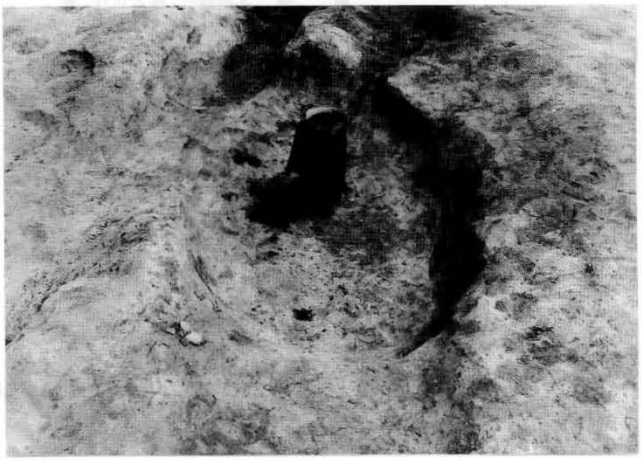


34号土坑

時　　期	6期
位　　置	12E-47-12
形　　態	円形、碗形
規　　模	1.46×1.36m
主軸方向	N-53°-E
深　　さ	0.3m
遺　　物	土師器坏片、須恵器甕片
特記事項	
層　　序	1 暗灰色砂(粗砂主体、焼土混じる) 2 黒灰色砂(中砂)

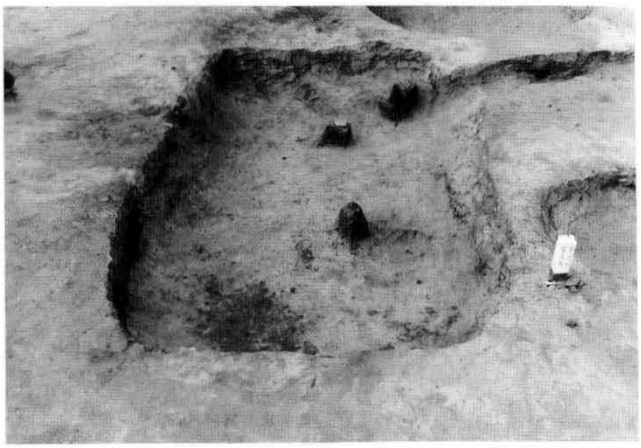
図 172　奈良・平安時代の遺構（29・30・33・34 号土坑）





32号土坑

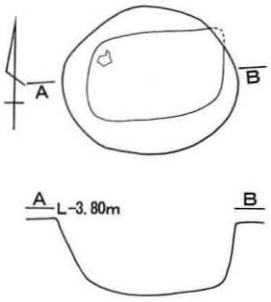
時期	8期
位置	12E-47-16
形態	長円形、皿形
規模	3.0×1.2m
主軸方向	N-3°-E
深さ	0.15m
遺物	土師器甕、刀子
特記事項	36号掘立柱建物跡柱穴を埋める



31号土坑

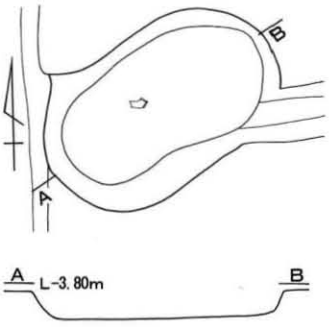
時期	8期
位置	12E-46-20
形態	長方形、皿形
規模	2.35×1.43m
主軸方向	N-3°-W
深さ	0.2m
遺物	土師器甕
特記事項	

図173　奈良・平安時代の遺構（31・32号土坑）



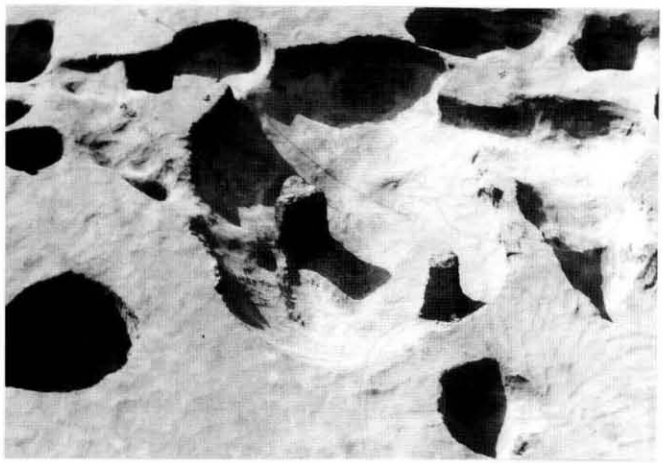
35号土坑

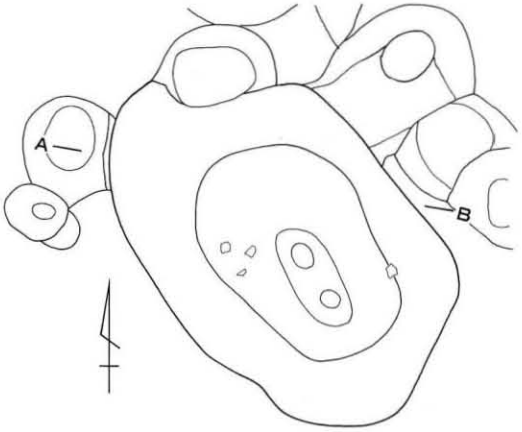
時　　期	6期
位　　置	12E-47-12
形　　態	楕円形、碗形
規　　模	1.19×0.98m
主軸方向	N-85°-E
深　　さ	0.45m
遺　　物	土師器甕片
特記事項	42号掘立柱建物跡柱穴と重なる



36号土坑

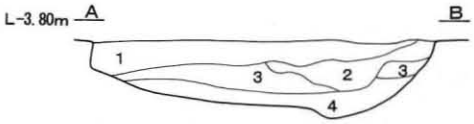
時　　期	6期
位　　置	12E-47-12
形　　態	楕円形、皿形
規　　模	1.68×0.98m
主軸方向	N-55°-E
深　　さ	0.15m
遺　　物	土師器甕片
特記事項	



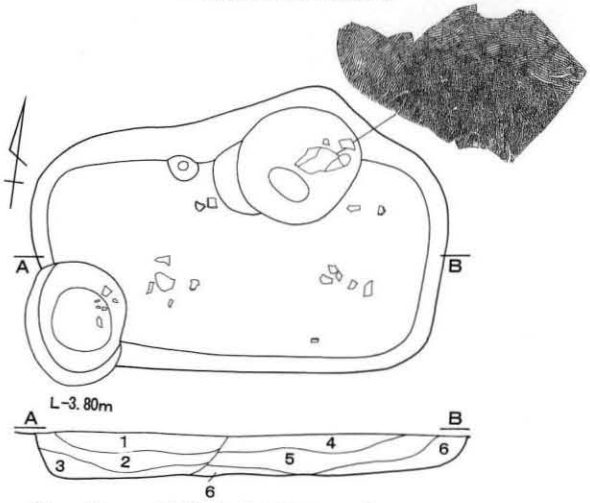


37号土坑

時　　期	6期
位　　置	12E-47-7
形　　態	楕円形、擂鉢形
規　　模	2.72×1.7m
主軸方向	N-40°-W
深　　さ	0.52m
遺　　物	土師器坏・甕片
特記事項	



層　　序　1　黒色土(白色砂、焼土混じる)
　　2　白色砂(黒色土混じる)
　　3　黒色土(白色砂混じる)
　　4　黒褐色土(灰色砂混じる)



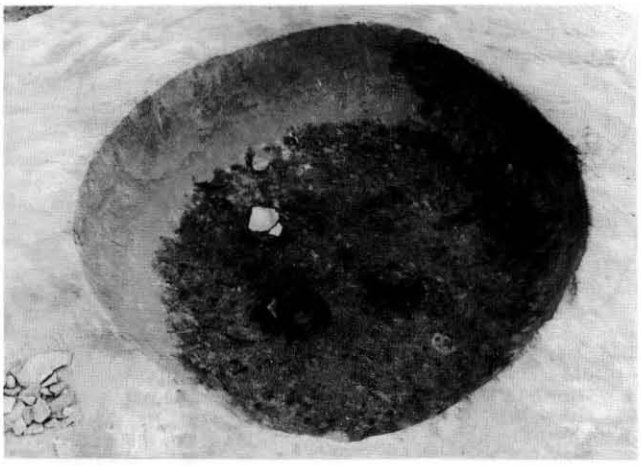
38号土坑

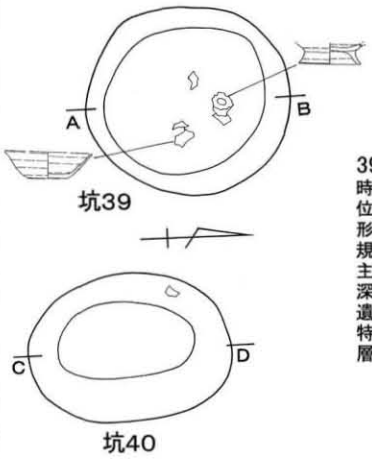
時　　期	6期
位　　置	12E-47-7
形　　態	長方形、箱形
規　　模	2.76×1.6m
主軸方向	N-84°-E
深　　さ	0.27m
遺　　物	土師器坏、須恵器甕片
特記事項	44・47号掘立柱建物跡柱穴と重なる

層　　序　1　黒褐色土(焼土混じる)
　　2　黒色土(焼土混じる)
　　3　黒色土(砂混じる)
　　4　黒褐色土(砂、焼土混じる)
　　5　黒褐色土(焼土混じり、しまる)
　　4　黒褐色土(砂混じる)

0　1m

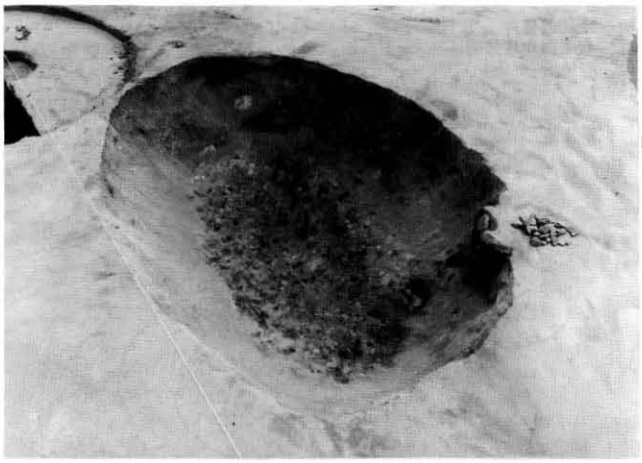
図174　奈良・平安時代の遺構(35～38号土坑)

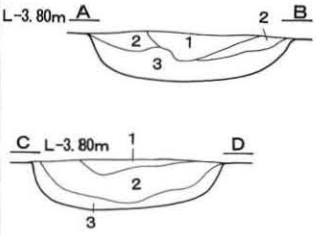




39号土坑

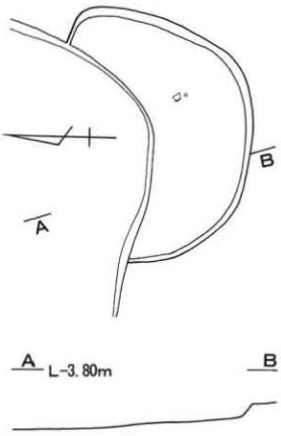
時期	6期
位置	12E-47-12
形態	円形、碗形
規模	1.38×1.23m
主軸方向	N--°-E
深さ	0.3m
遺物	土師器坏、甕
特記事項	
層序	1 暗褐色土(焼土混じる) 2 黒色土(砂混じる) 3 黒色土(砂混じり、しまる)





40号土坑

時期	6期
位置	12E-47-7・8
形態	楕円形、碗形
規模	1.33×1.0m
主軸方向	N-4°-W
深さ	0.35m
遺物	土師器坏・甕片、刀子
特記事項	
層序	1 暗褐色土(焼土混じる) 2 黒褐色土(焼土、砂混じる) 3 黒色土(砂混じる)



41号土坑

時期	6期
位置	12E-47-7・8
形態	楕円形、碗形
規模	1.33×1.0m
主軸方向	N-4°-W
深さ	0.35m
遺物	土師器坏・甕片、刀子
特記事項	115・116号住居跡を切る

42号土坑

時期	3期
位置	12E-47-24
形態	円形、擂鉢形
規模	1.88×1.7m
主軸方向	N--°-W
深さ	1.1m
遺物	土師器坏・甕片
特記事項	15号古代溝に切られる

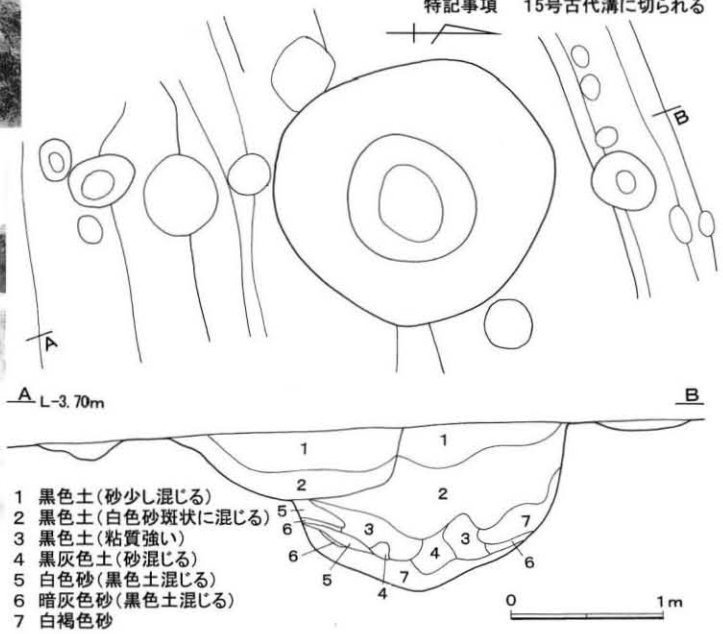
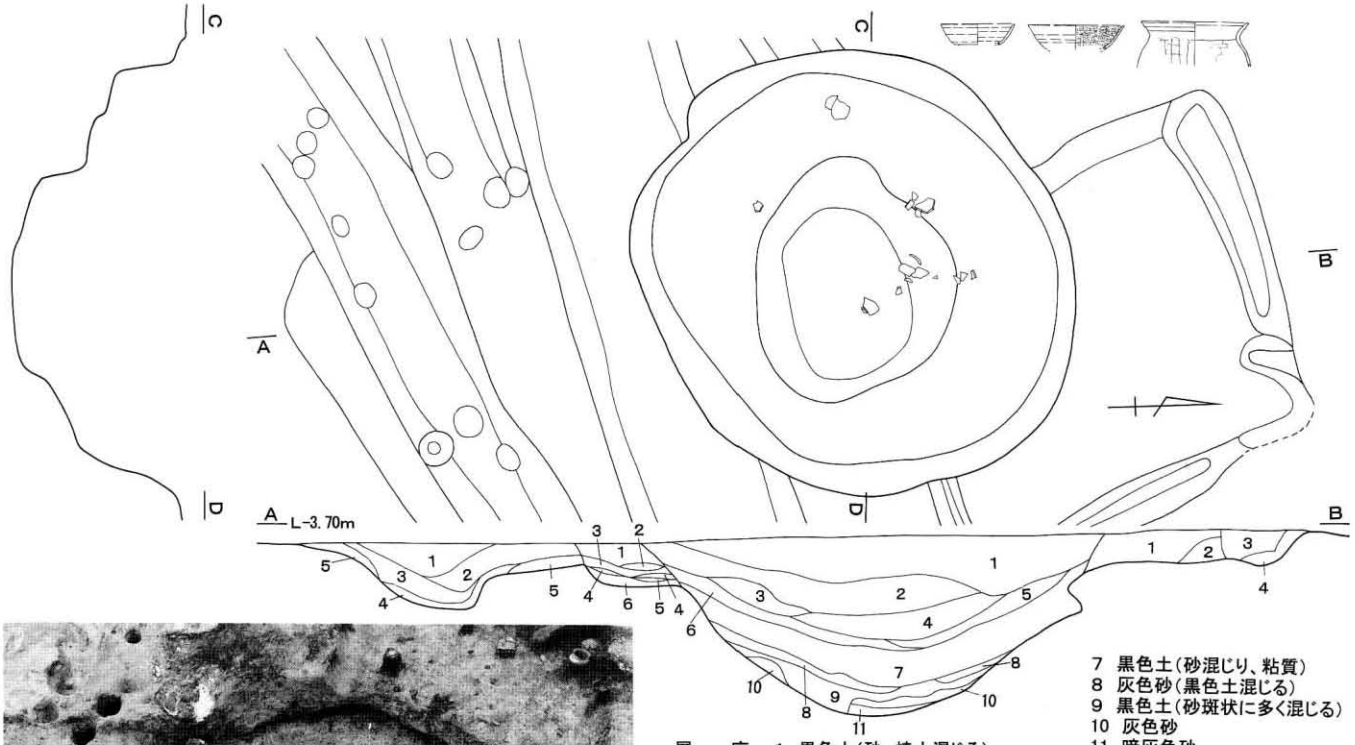
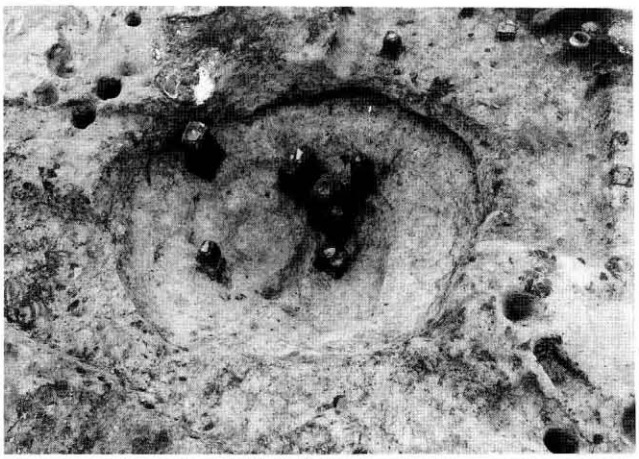


図175　奈良・平安時代の遺構(39～42号土坑)

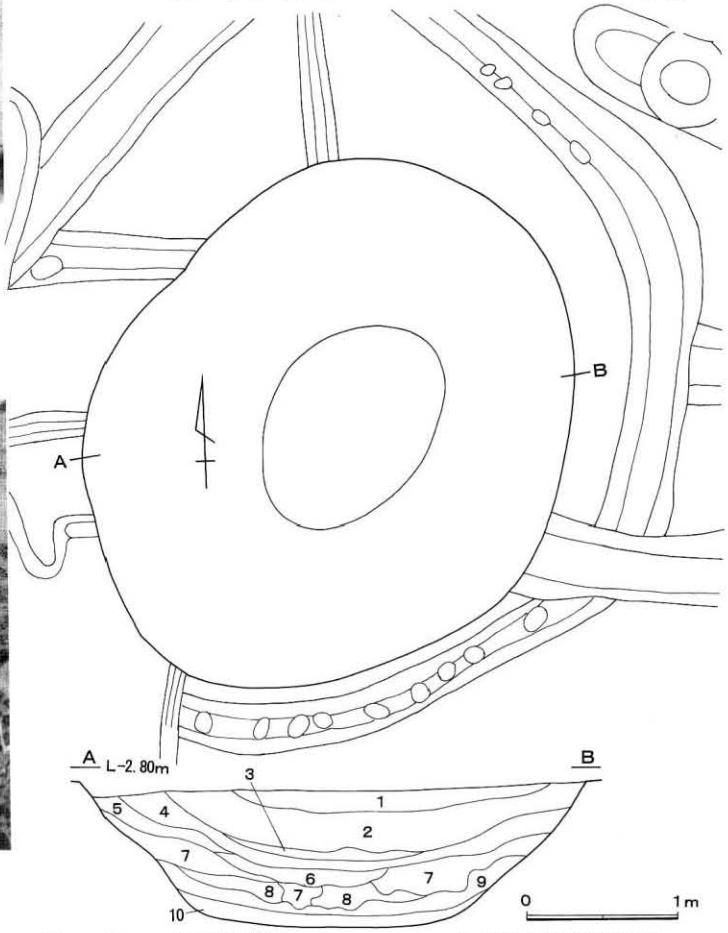




層　序　1 黒色土(砂、焼土混じる)
2 黒色土(砂混じる)
3 灰色砂(黒色土混じる)
4 黒色土(砂少し混じる)
5 青黒色土(砂、灰、焼土混じる)
6 黒色土(砂多く混じる)
7 黒色土(砂混じり、粘質)
8 灰色砂(黒色土混じる)
9 黒色土(砂斑状に多く混じる)
10 灰色砂
11 暗灰色砂
12 黒灰色砂(黒色土混じる)
13 黒灰色土
14 黒色土(褐色砂混じる)
15 黒灰色土(褐色砂混じる)
16 暗灰色砂(黒色土混じる)

43号土坑

時　　期　6期
位　　置　12E-57-3・4
形　　態　円形、擂鉢形
規　　模　3.05×2.77m
主軸方向　N-一°-W
深　　さ　1.18m
遺　　物　土師器坏、甕、須恵器長頸壺
特記事項　120号住居跡、15号古代溝を切る

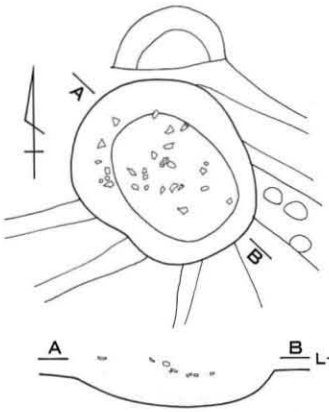


層　序　1 黒灰色土(砂混じる)
2 黒色土(砂混じり、粘質)
3 黒灰色土(砂混じり、粘質)
4 黒灰色土(砂少し混じり、粘質)
5 黒色土(砂混じる)
6 黒色土(砂多く混じる)
7 褐色砂(黒色土縞状に入る)
8 黒色土(粘質)
9 灰色砂(上部褐色)
10 灰色粗砂(黒色土混じる)

44号土坑

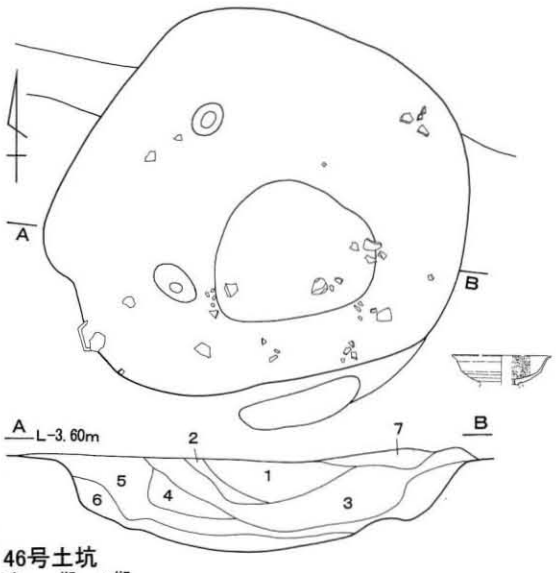
時　　期　5期
位　　置　12E-57-9
形　　態　楕円形、擂鉢形
規　　模　3.7×3.1m
主軸方向　N-32°-W
深　　さ　0.9m
遺　　物　土師器坏、甕、須恵器壺
特記事項　130・131号住居跡と重なる

図176　奈良・平安時代の遺構（43・44号土坑）



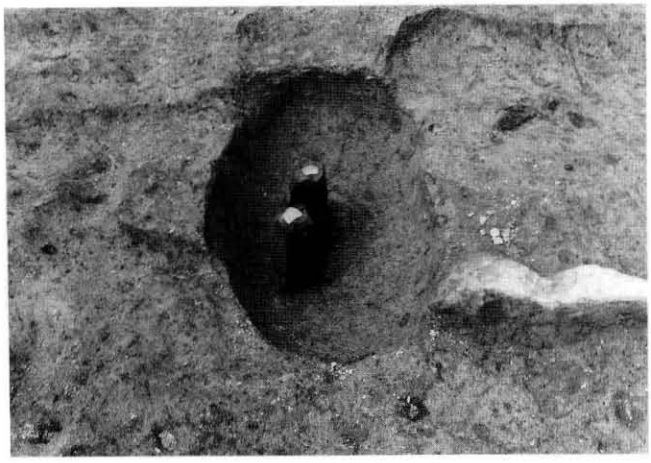
45号土坑

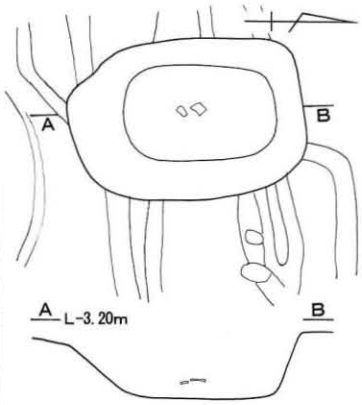
時　　期　5期
位　　置　12E-57-8
形　　態　楕円形、碗形
規　　模　1.3×1.12m
主軸方向　N-45°-W
深　　さ　0.22m
遺　　物　土師器坏、甕、須恵器長頸壺
特記事項



46号土坑

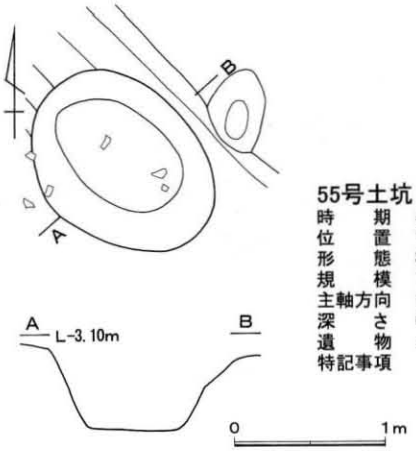
時　　期　9期
位　　置　12E-48-6
形　　態　円形、擂鉢形
規　　模　2.8×2.65m
主軸方向　N--°-W
深　　さ　0.6m
遺　　物　土師器坏、甕、須恵器長頸壺
特記事項　南西縁から縄文中期土器、底から同期石皿出土
層　　序　1　黒色土(褐色砂混じる)
2　黒灰色土(砂混じる)
3　黒色土(砂混じる)
4　黒灰色土(粗砂混じる)
5　黒色土(細砂、焼土混じる)
6　灰色砂(黒色土混じる)
7　灰褐色砂(黒色土混じる)





52号土坑

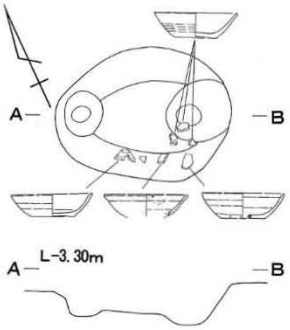
時　　期　8期
位　　置　12E-44-24
形　　態　長方形、鉢形
規　　模　1.55×1.08m
主軸方向　N-3°-W
深　　さ　0.4m
遺　　物　土師器甕片
特記事項

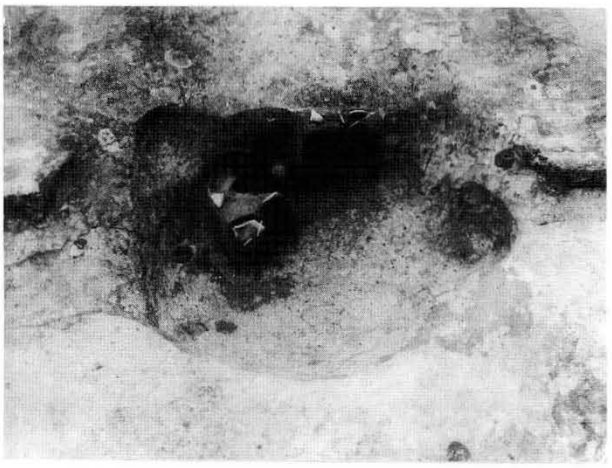


55号土坑

時　　期　5期
位　　置　12E-56-5
形　　態　楕円形、擂鉢形
規　　模　1.36×1.02m
主軸方向　N-45°-W
深　　さ　0.5m
遺　　物　土師器坏・甕片
特記事項

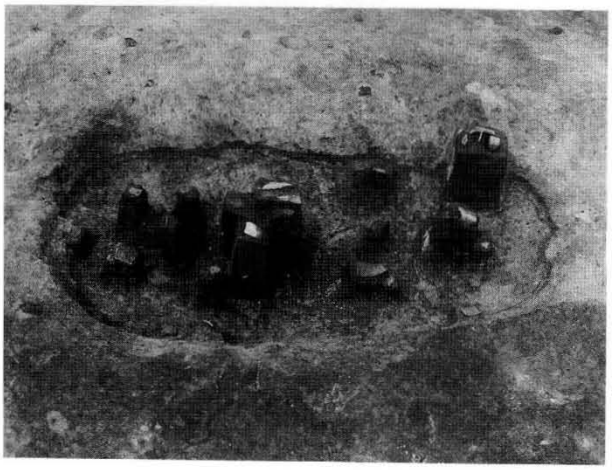
図177　奈良・平安時代の遺構（45・46・52・55号土坑）

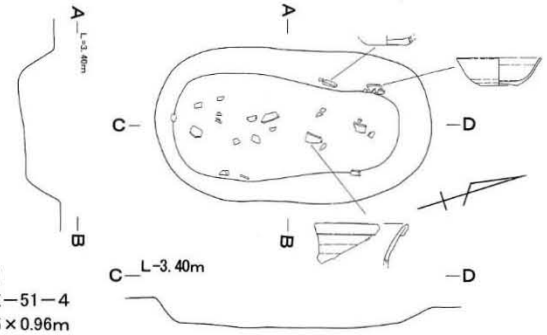




59号土坑

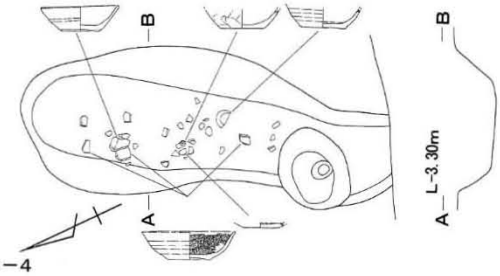
時　　期　7期
位　　置　12E－51－4
規　　模　1.17×0.88m
主軸方向　N－62°－W
深　　さ　0.3m。壁は緩やかに立ち上がる。
遺　　物　出土量は少なく土師器坏が主体。図示できたのは底部未調整の土師器坏が4点である。
特記事項　環状に分布する土坑群に属する。





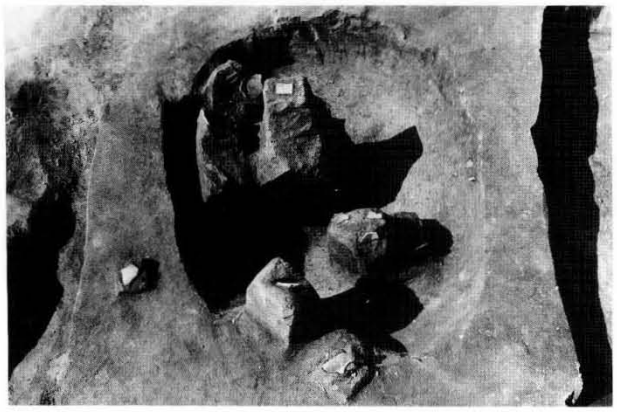
60号土坑

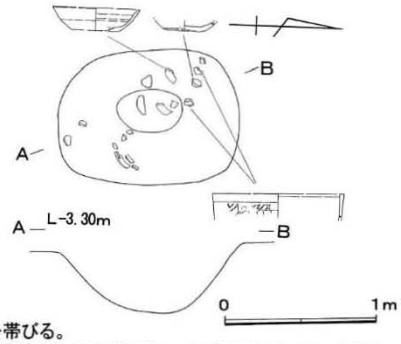
時　　期　7期
位　　置　12E－51－4
規　　模　1.85×0.96m
主軸方向　N－15°－E
深　　さ　0.27m。底面はほぼ水平。壁は崩落により外側に大きく傾斜。
遺　　物　出土量は少なく、土師器主体。土師器坏は(1)、(2)のように底部未調整のものが多い。図示できなかったが土師器甕も出土している。
特記事項　環状に分布する土坑群に属する。



61号土坑

時　　期　7期
位　　置　12E－51－4
規　　模　1.82×1.01m
主軸方向　N－18°－E
深　　さ　0.30m。畑跡と同一方向で重複するため、壁は明確ではない。
遺　　物　出土量は少なく、土師器のみ。器種は底部未調整の坏が主体で、甕は少ない。土師器甕(5)は底部に「生」とヘラガキされる。
特記事項　畑溝との新旧関係は不明。環状に分布する土坑群に属する。

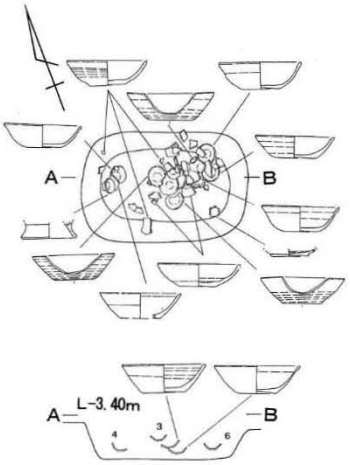




62号土坑

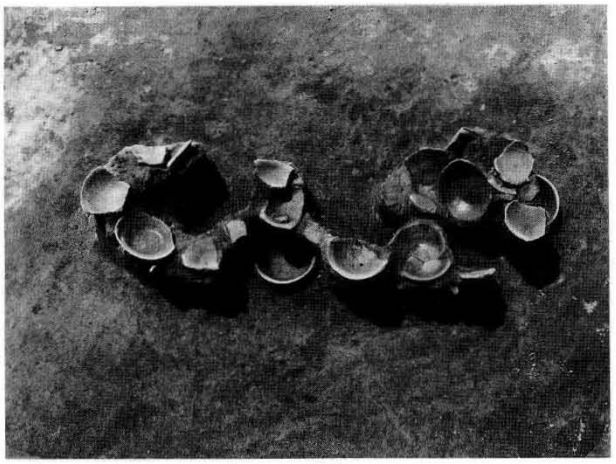
時　　期　7期
位　　置　12E－51－9北側
規　　模　1.18×0.88m
主軸方向　N－1°－W
深　　さ　0.43m。底面は丸みを帯びる。
遺　　物　出土量は少なく、土師器主体。須恵器は甕の小破片が1点のみ。図示できたのは土師器坏2点と土師器片口鉢1点だが、土師器甕の胴部破片も少なくない。
特記事項　覆土は上層に暗灰色砂、下層に炭化物粒と焼土粒を多量に含む黒灰色砂が堆積。環状に分布する土坑群に属する。

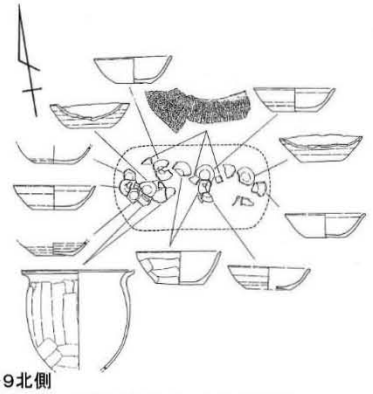
図178　奈良・平安時代の遺構（59～62号土坑）



63号土坑

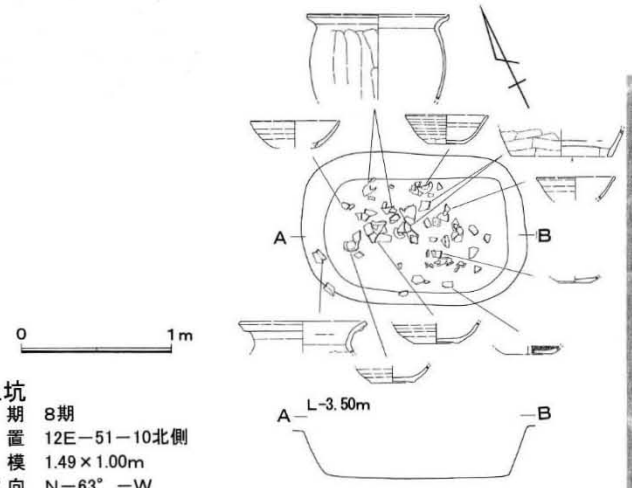
時　　期　8期
位　　置　12E－51－9北側
規　　模　1.19×0.77m
主軸方向　N－73°－W
深　　さ　0.49m。底面はほぼ水平。壁は崩落により傾斜する。
遺　　物　遺存状態の良い土師器坏が大半を占め、土師器甕の出土はわずかである。須恵器は須恵器甕(17)が1点のみ。土師器坏(1)、(2)、(3)は口縁の一部が打ち欠かれる。
特記事項　166号住と重複する。新旧関係は166号住→63号土坑。環状に分布する土坑群に属する。

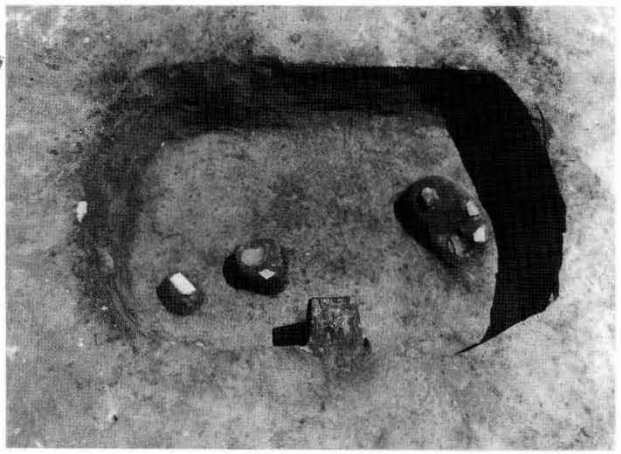




64号土坑

時　　期　7期
位　　置　12E－51－9北側
規　　模　166号住居と同時に掘りあげてしまったため不明。
主軸方向　不明(東西方向)。
深　　さ　深さは不明。遺構底面は遺物の出土状況から166号住居跡の床面よりやや上になると考えられる。
遺　　物　土師器坏が主体となるが、土師器甕(11)のほか土師器甑の破片も出土。土師器坏(5)(6)は口縁部が打ち欠かれる。非ロクロ整形の土師器坏(7)も出土している。
特記事項　166号住と重複する。新旧関係は166号住→64号土坑。環状に分布する土坑群に属する。

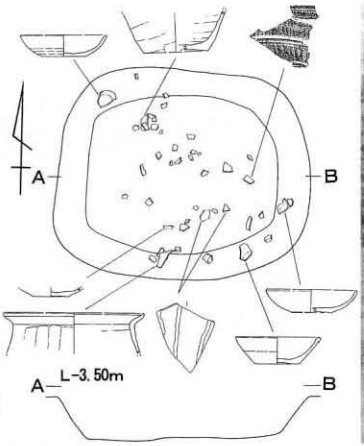


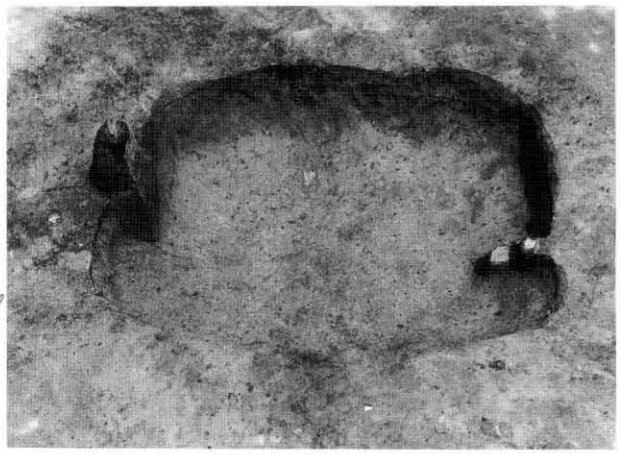


65号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E－51－10北側
規　　模　1.49×1.00m
主軸方向　N－63°－W
深　　さ　0.62m。底面はほぼ水平。
遺　　物　土師器坏が主体となるが甕や甑も少なくない。灰釉陶器碗(12)は66号土坑と遺構間接合。他に焼骨の微細片と思われるものやガラス小玉(13)、炭化したモモの種子やイネ、ムギも出土。
特記事項　覆土は炭化粒及び焼土粒を含む黒灰色砂。出土遺物から墓壙と考えられる。環状に分布する土坑群に属す。

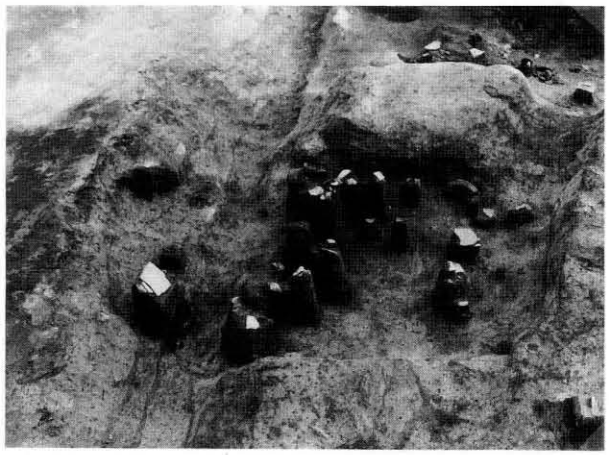
図179　奈良・平安時代の遺構（63～65号土坑）

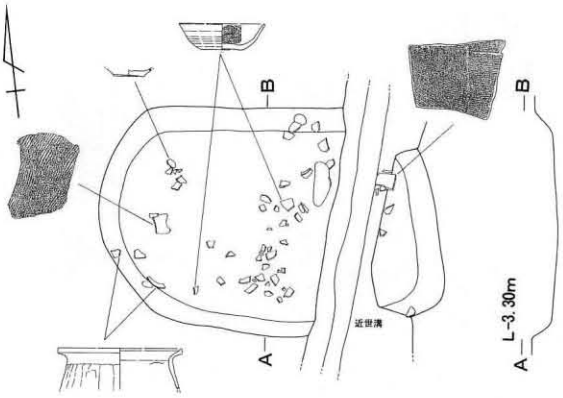




66号土坑

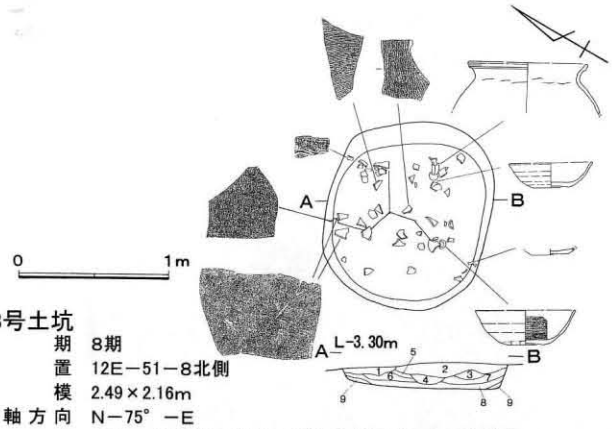
時　　期　8期
位　　置　12E－51－10・12E－52－6
規　　模　1.67×1.38m
主軸方向　N－89°－W
深　　さ　0.58m。底面はほぼ水平。壁は崩壊が著しく、外側に傾斜。
遺　　物　土師器主体。図示できたのは土師器坏が多いが、出土遺物の中には土師器甕の胴部破片も少なくない。65号土坑と同じく、焼骨の微細片と思われるもの及び炭化したスモモの種子やイネ、ムギなども出土。
特記事項　覆土は炭化粒及び焼土粒を含む暗灰色砂。出土遺物から墓壙と考えられる。環状に分布する土坑群に属す。





67号土坑

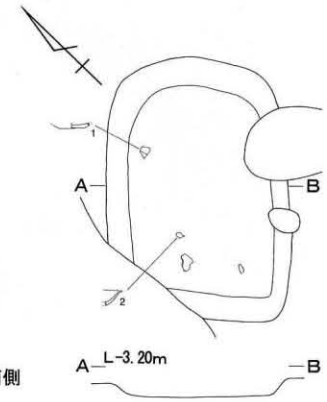
時　　期　8期
位　　置　12E－51－10
規　　模　2.27×1.49m
主軸方向　N－82°－W
深　　さ　0.40m。底面はほぼ水平。
遺　　物　土師器主体。土師器坏や土師器甕のほか、図示できなかったが土師器甑も出土。須恵器は転用硯(6)が出土している。
特記事項　覆土は炭化粒と焼土粒を含む黒灰色砂。一部を近世溝に壊される。環状に分布する土坑群に属す。

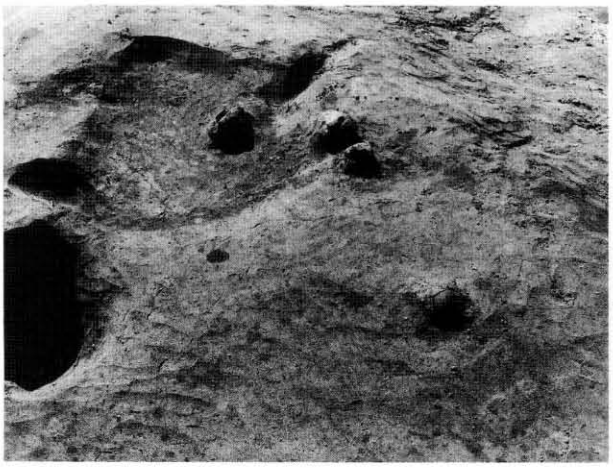


68号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E－51－8北側
規　　模　2.49×2.16m
主軸方向　N－75°－E
深　　さ　0.37m。底面はほぼ水平。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
遺　　物　須恵器の占める割合が高いが、全て甕の破片。底部未調整の土師器坏(1)、(3)が出土。出土した須恵器片が71号土坑(7)と遺構間接合。
特記事項　159号住居と重複する。新旧関係は159号住→68号土坑。
層　　序　1. 茶褐色土　砂を多く含む。近世以降の溝。
2. 暗灰色砂　均質で軟弱な砂層。
3. 黄灰色砂　地山砂層のブロック。
4. 黒灰色土　砂を少量含む。やや粘性のあるシルト質土を含む。焼土粒及び炭化粒を含む。
5. 黒色土　砂を少量含む。炭化物主体の層。
6. 暗灰色砂　均質で軟弱な砂層。2層よりやや暗い。
7. 黒灰色砂　焼土粒と炭化粒を含む。
8. 黒灰色砂　しまりが有り、焼土粒と炭化粒を含む。
9. 暗灰色砂　地山の黄灰色砂が混じる。

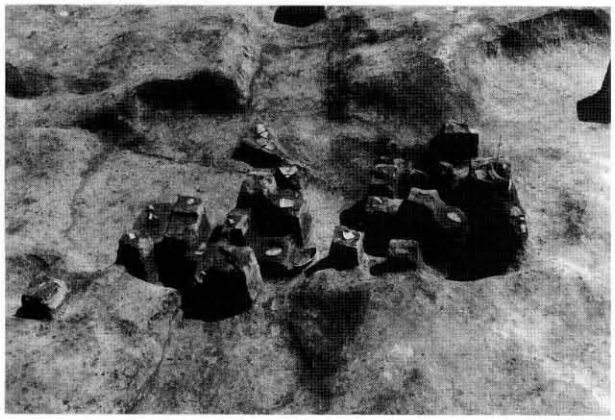
図180　奈良・平安時代の遺構（66～68号土坑）

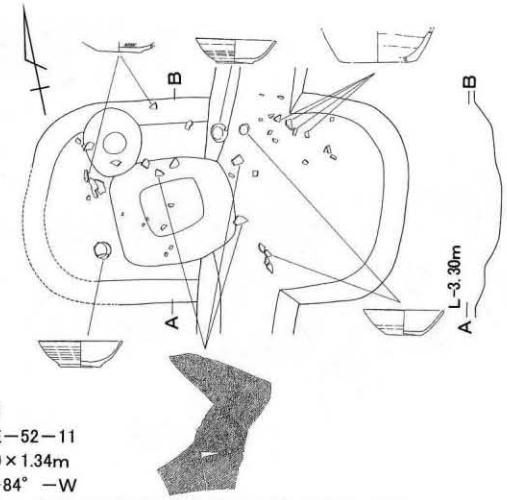




69号土坑

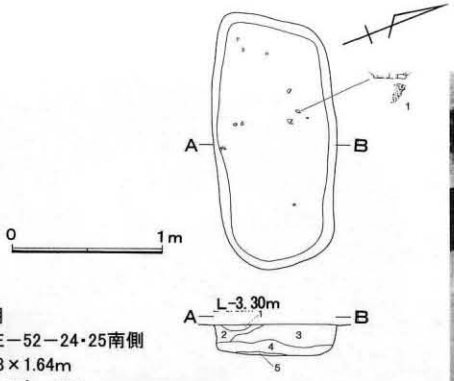
時　　期　8期
位　　置　12E－51－8南側
規　　模　1.64×1.20m
主軸方向　N－46°－E
深　　さ　0.14m。壁は崩壊が著しく、残りが不良。
遺　　物　出土量は僅かである。底部未調整の土師器坏(1)、(2)が出土。
特記事項　覆土は炭化粒を含む黒灰色砂。一部を近世溝に壊される。

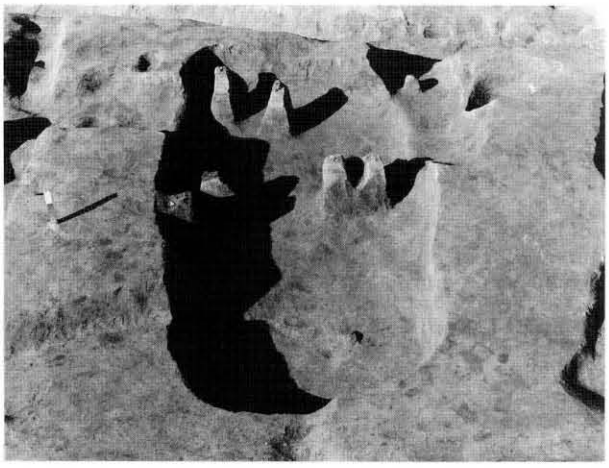




71号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E－52－11
規　　模　2.49×1.34m
主軸方向　N－84°－W
深　　さ　0.37m。底面はほぼ水平。壁は崩壊が著しく外側に傾斜。
遺　　物　土師器主体。須恵器は68号土坑と遺構間接合した甕(7)のみ。土師器坏はほとんどが底部未調整のもの。
特記事項　覆土は炭化粒を含む暗灰色砂。

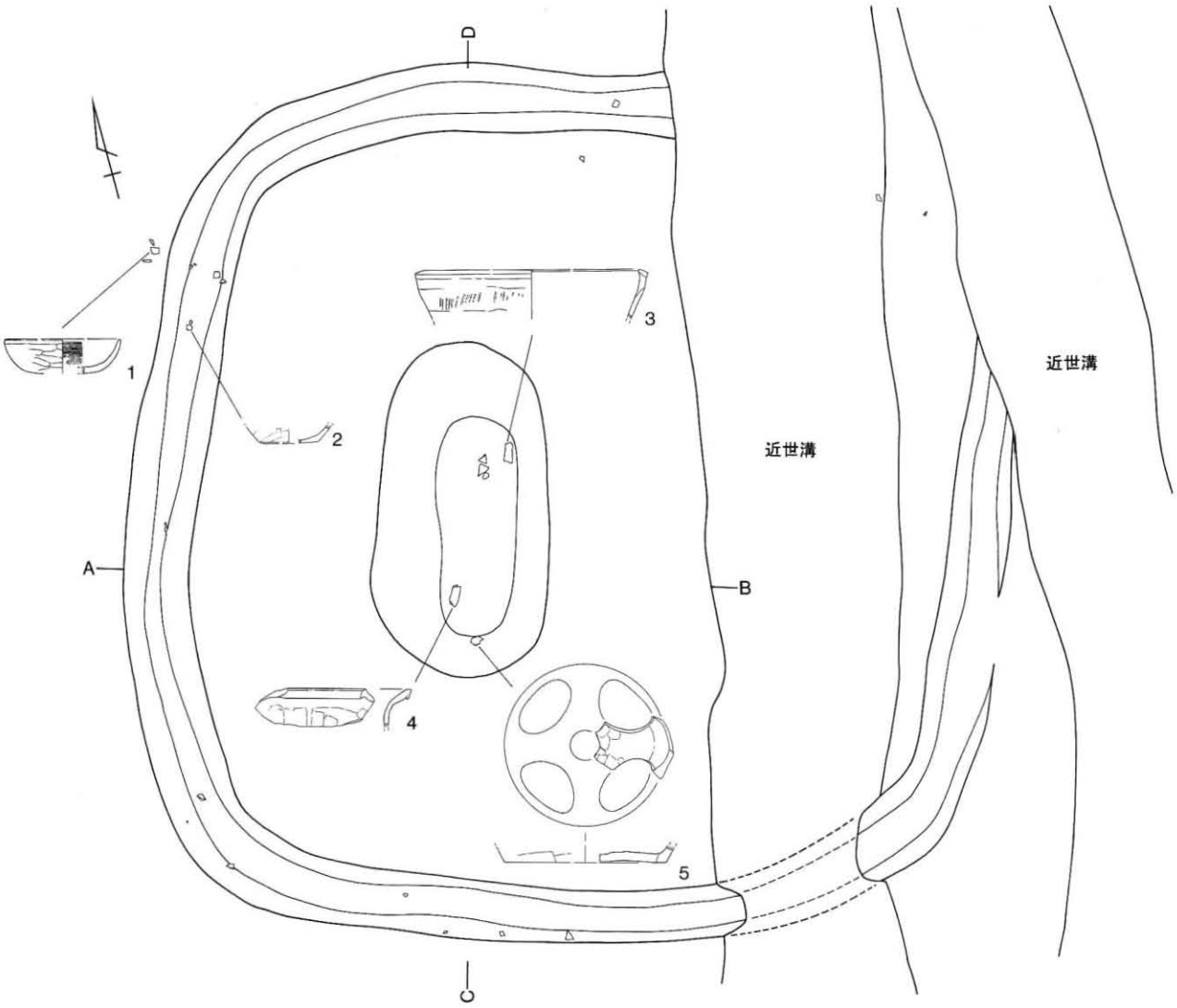


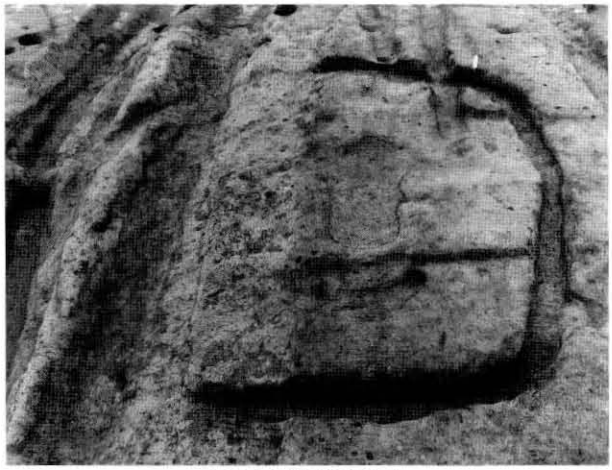


73号土坑

時　　期　8期
位　　置　12E－52－24・25南側
規　　模　3.38×1.64m
主軸方向　N－75°－W
深　　さ　0.50m。底面はほぼ水平。壁はほぼ垂直に立ち上がる。
遺　　物　極めて少なく、数点の土師器坏と甕の破片が出土したのみ。
特記事項　181号住居と重複する。新旧は181号住→73号土坑。
層　　序　1．灰色砂　　軟弱で均質な砂層。
　　2．暗灰色砂　　鉄分の凝集が目立つ。
　　3．暗灰色砂　　鉄分の凝集が目立つ。軟弱な砂層。
　　4．暗灰色土　　砂を多く含む。鉄分の凝集が目立つ。
　　5．暗灰色砂　　軟弱な砂層。地山の黄灰色砂が混じる。

図181　奈良・平安時代の遺構（69・71・73号土坑）





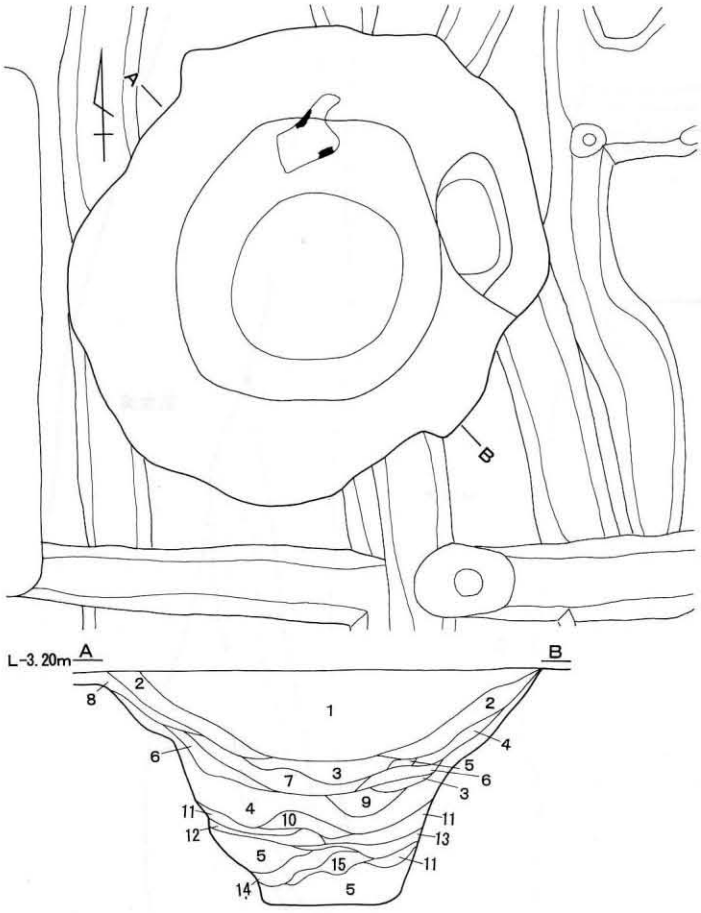
72号土坑（北から）

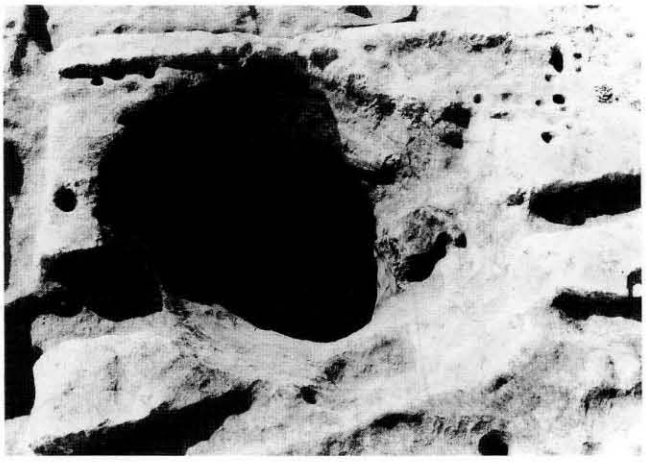
72号土坑

時期	4期（溝部分）・7期（土坑部分）
位置	12E－52－11・16
規模	6.29×6.34m（土坑部分は2.39×1.29m）
主軸方向	N－16° －E
深さ	土坑部は0.36m。周溝部は0.21m～0.42m。
遺物	土師器主体で、出土量は少ない。土坑部からは土師器鉢(3)、土師器甑(5)などが出土。また図示できなかったが、底部全面及び体部下端を手持ちヘラケズリした土師器坏の小破片もみられる。しかし溝からは、非ロクロ整形の坏や(1)赤彩された坏など土坑部分より古めの出土が目立つ。
特記事項	図は同一遺構として扱ってしまったが、出土遺物の時期に差があることから、方形の溝部分は8世紀後半の方形周溝状遺構、土坑部分は9世紀後葉の土坑と考えられる。

0 (1/50) 2m

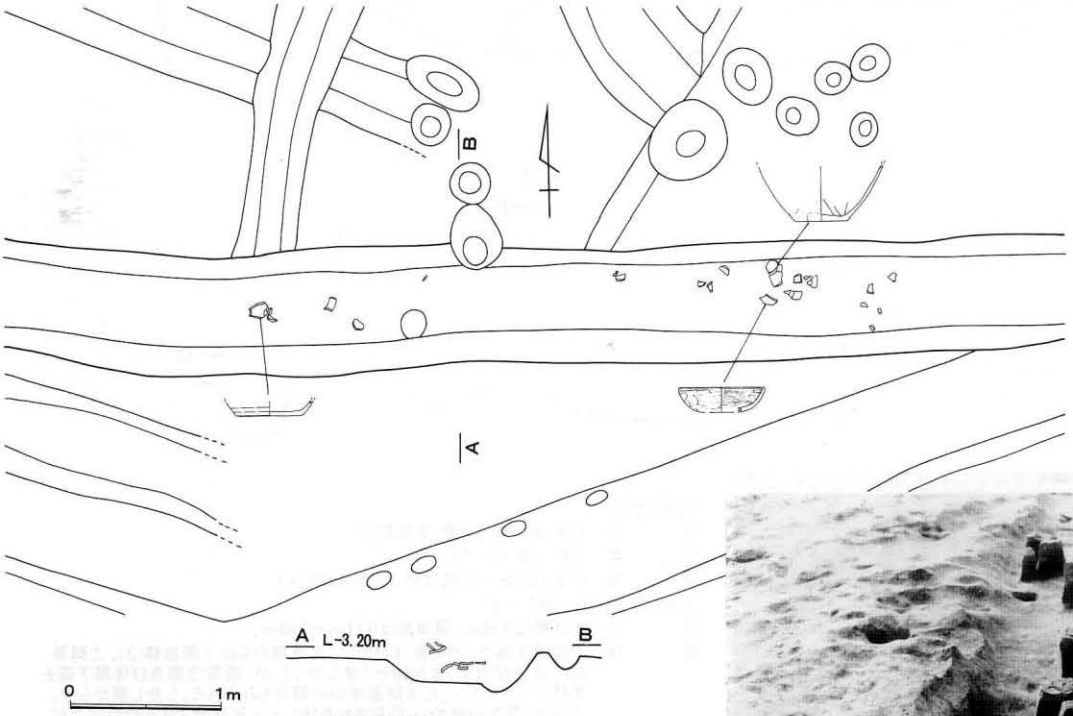
図182　奈良・平安時代の遺構（72号土坑）





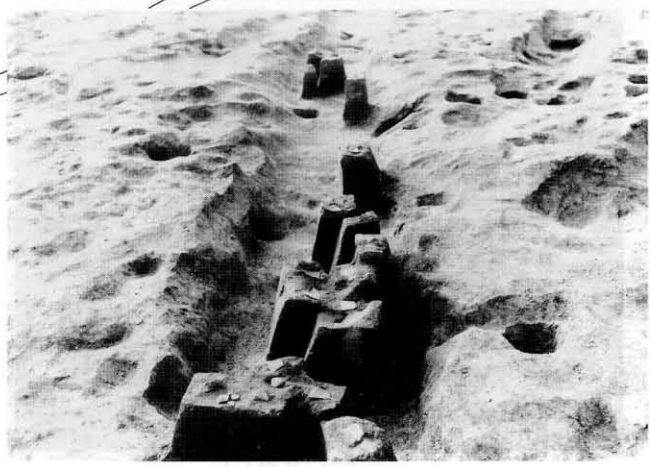
1号井戸跡

時　　期　5期
位　　置　12E-43-18
形　　態　円形、擂鉢形
規　　模　3.37×2.84m
主軸方向　N--°-W
深　　さ　1.56m以上
遺　　物　土師器片
特記事項　深さ1.5mほどで水が湧き、それ以上発掘不可能。
層　　序　1 黒色土(砂混じり、粘質)
2 黒灰色土(砂多く混じる)
3 黒色土(粘質でしまる)
4 黒色土(砂多く混じり、粘質でしまる)
5 褐色砂
6 黒灰色土(砂多く混じり、しまる)
7 黒色土(砂多く混じり、しまる)
8 暗灰色砂
9 灰色砂
10 暗灰色砂(黒色土混じる)
11 灰褐色砂
12 黒灰色土(砂混じり、しまる)
13 灰色土(砂混じる)
14 褐色砂(黒色土混じる)
15 褐色砂(黒色土縞状に混じる)



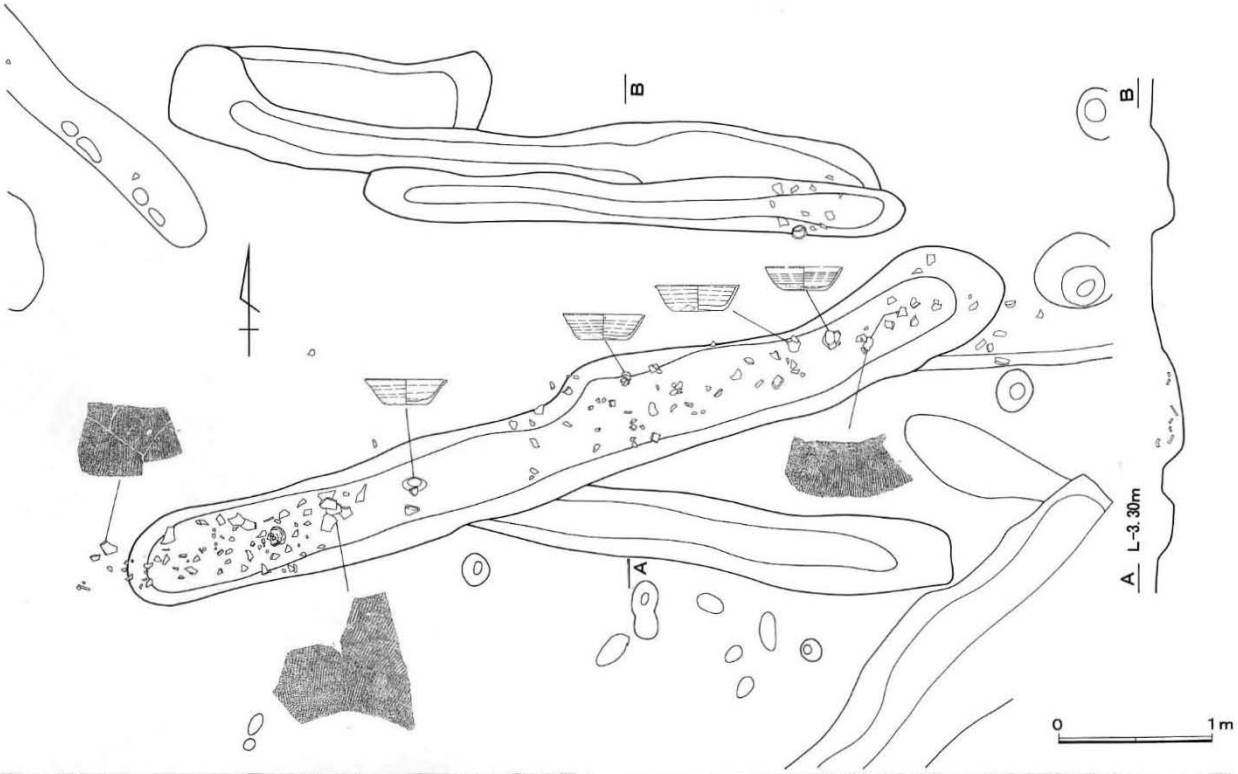
1号古代溝

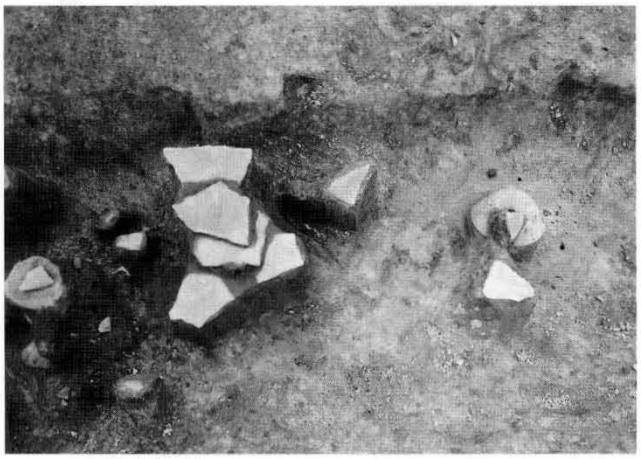
時　　期　2～3期
位　　置　12E-42-17～20
走行方向　東西、N－87°－W
幅　　0.8～1.0m
深さ　0.2m
長さ　30m
断　　面　浅い逆台形
遺　　物　12E-42-20で土師器坏、甕出土
特記事項　畑跡の区画溝と考えられる

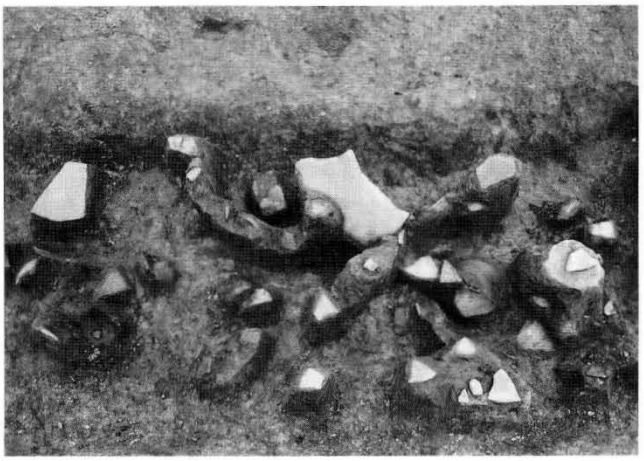


1号古代溝 12E-42-19 付近拡大図

図183　奈良・平安時代の遺構（1号井戸跡、1号古代溝）

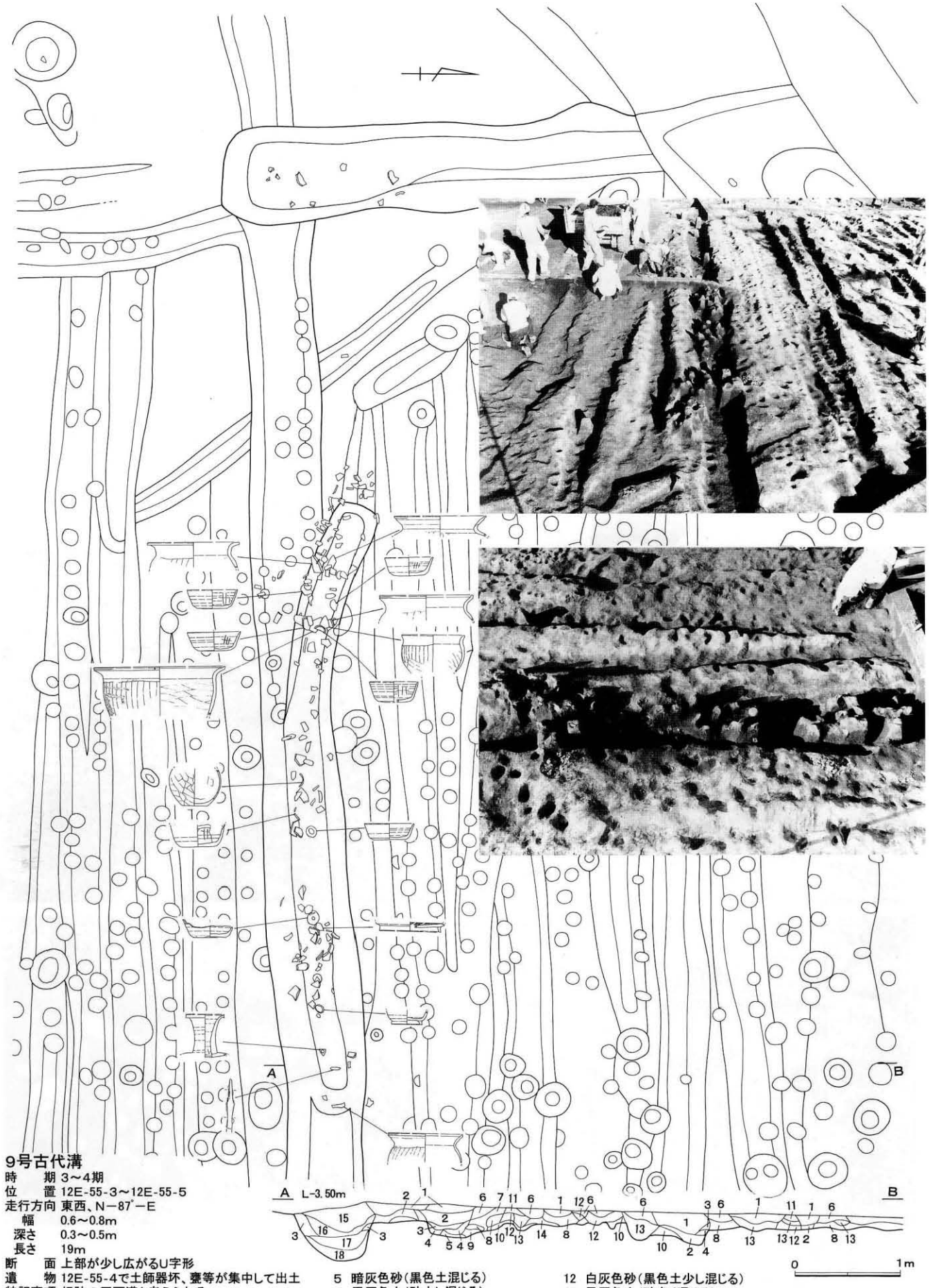






3号古代溝
時　　期 6期
位　　置 12E-54-4
走行方向 東西、N－73°－E
　幅　　0.6～0.7m
　深さ　　0.2m
　長さ　　6m
断　　面 浅いU字形
遺　　物 土師器坏、甕が密集して出土
特記事項 単独にあり、畑畝溝ではない

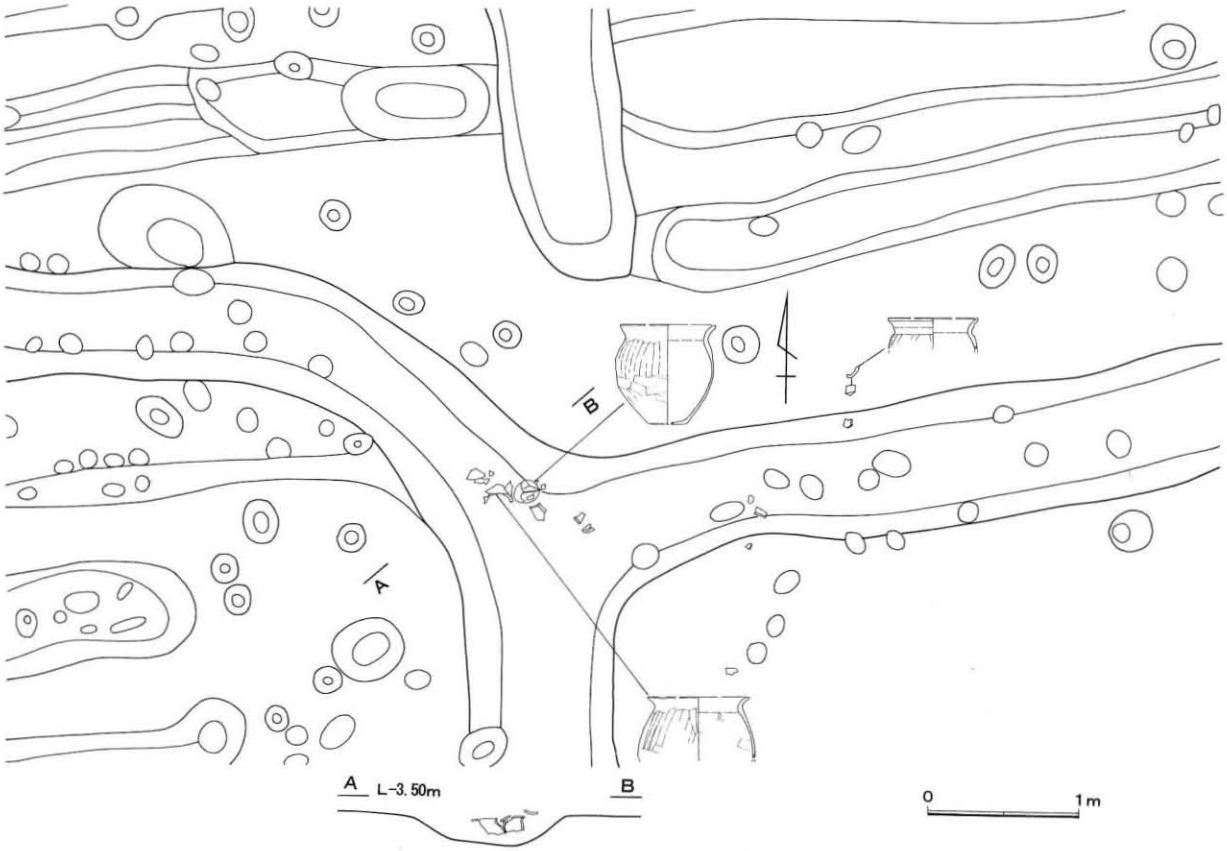
図184　奈良・平安時代の遺構（3号古代溝）

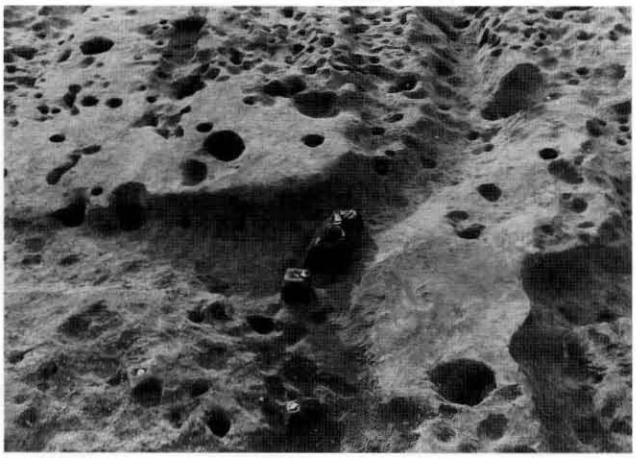


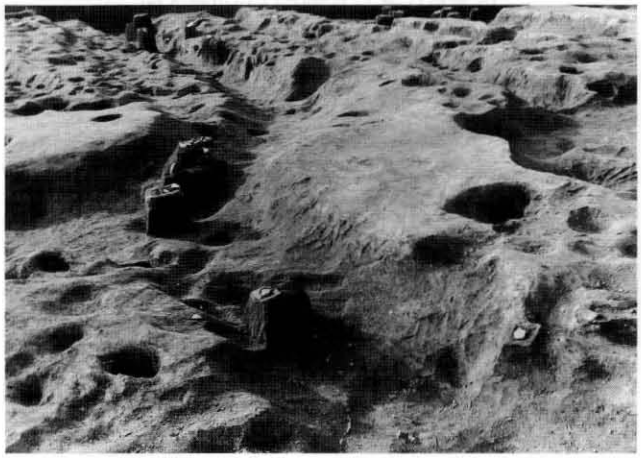
9号古代溝

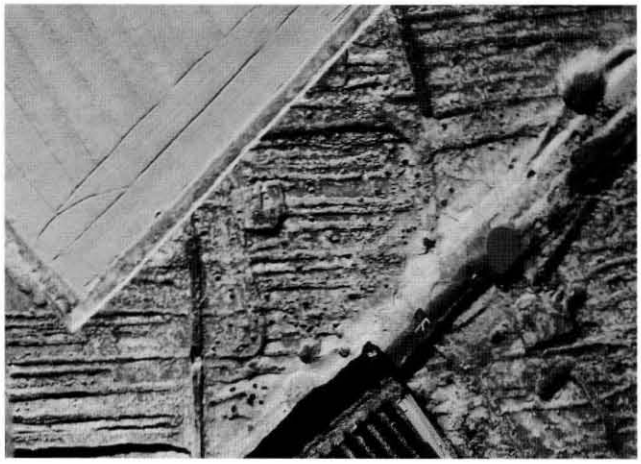
時　　期 3～4期
位　　置 12E-55-3～12E-55-5
走行方向 東西、N－87°－E
幅　　0.6～0.8m
深さ　　0.3～0.5m
長さ　　19m
断　　面 上部が少し広がるU字形
遺　　物 12E-55-4で土師器坏、甕等が集中して出土
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる
遺物集中部は掘り直している
層　　序 1 黒灰色土（砂混じる）
2 黒灰色土（砂、褐鉄とも少し混じる）
3 暗灰色土（砂多く混じる）
4 暗灰色土（砂、黒色土混じる）
5 暗灰色砂（黒色土混じる）
6 黒灰色土（砂少し混じる）
7 黒灰色土（白色砂混じる）
8 暗灰色土（白色砂多く混じる）
9 暗灰色土（黒色土、砂混じる）
10 地山砂
11 黒灰色土（白色砂多く混じる）
12 白灰色砂（黒色土少し混じる）
13 黒灰色土（砂多く混じる）
14 黒灰色土（砂多く混じり、しまる）
15 黒灰色土（砂、焼土、木炭混じり、遺物多数
16 黒灰色土（砂、焼土、木炭少し混じる）
17 黒灰色土（砂混じり、しまる）
18 黒色土（砂混じり、しまる）

図185　奈良・平安時代の遺構（9号古代溝）





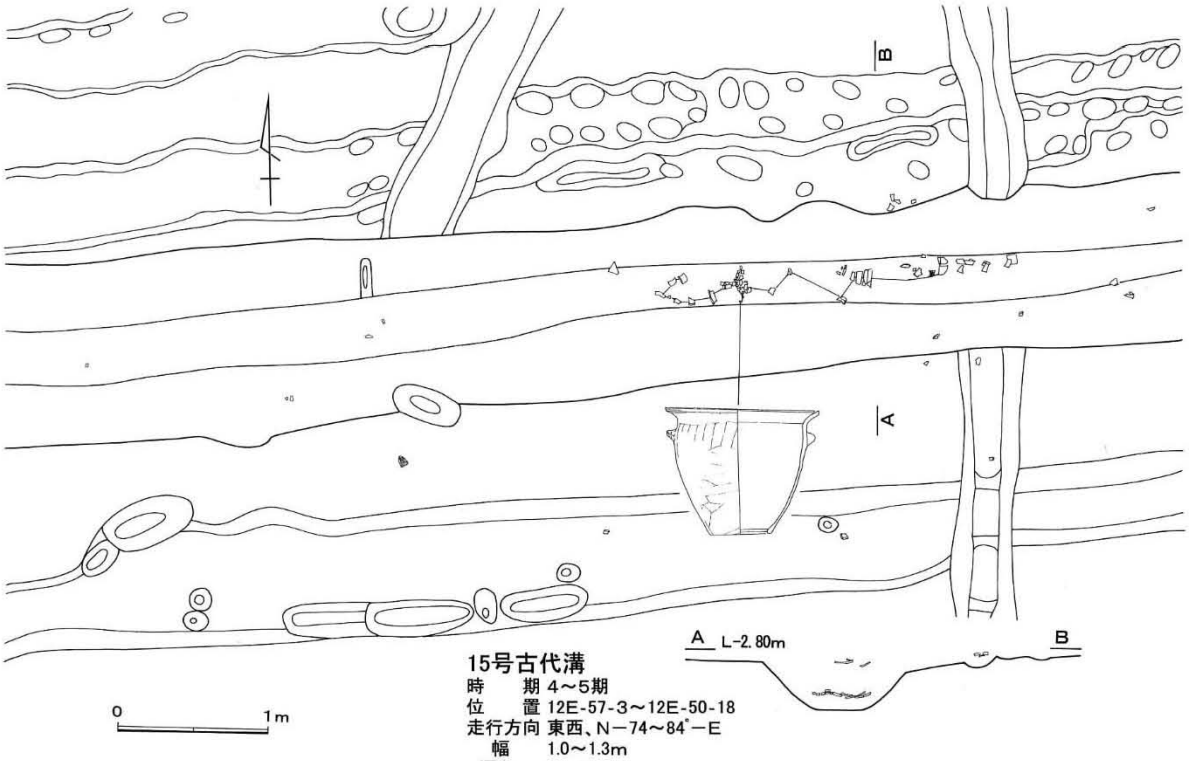




11号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-45-13～12E-45-15
走行方向 東西、N－86°－E
　幅　0.7～1.0m
　深さ　0.2～0.25m
　長さ　17m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物 13･14号溝と交差するところで甕出土
特記事項 畑跡の区画溝と考えられる

13号古代溝
時　　期 3～4期
位　　置 12E-45-15～12E-46-11
走行方向 東西、N－81°－E
　幅　0.7～0.8m
　深さ　0.1～0.15m
　長さ　7m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 11･14号溝と連続し、畑跡の区画溝と考えられる。

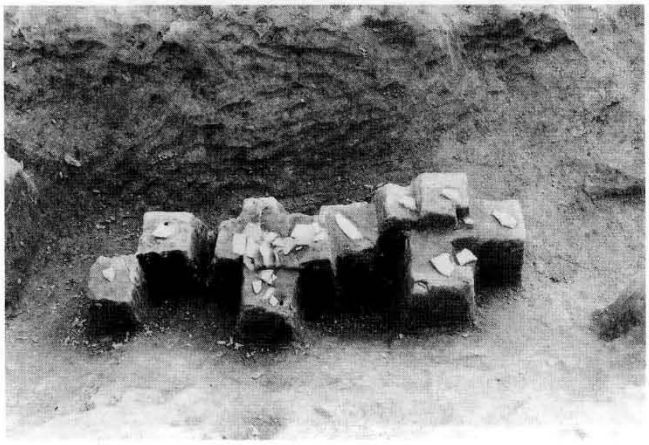
図 186　奈良･平安時代の遺構（11～14 号古代溝）



15号古代溝

時　　期	4～5期
位　　置	12E-57-3～12E-50-18
走行方向	東西、N－74～84°－E
幅	1.0～1.3m
深さ	0.3～0.5m
長さ	154m
断　　面	逆台形
遺　　物	12E-50-17で土師器甑出土
特記事項	途中断続したり、屈曲しながら続くこの時期最長の溝。集落を区切る溝と考えられる。

15号古代溝 12E-50-17 付近拡大図



12E-50-2坏出土状態

図187　奈良・平安時代の遺構（15号古代溝）

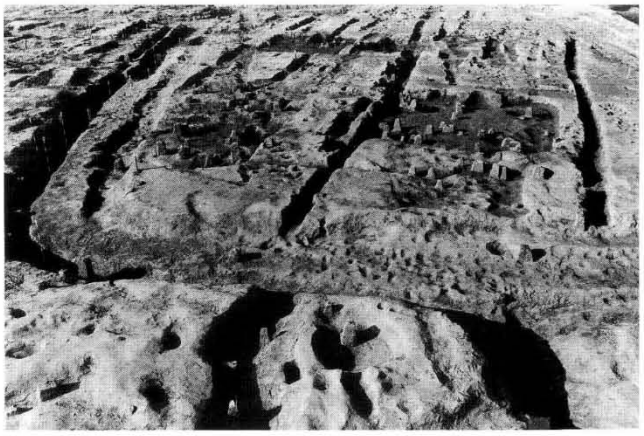
西部の畑跡

12Ｅ-46-17 付近の古代畑跡

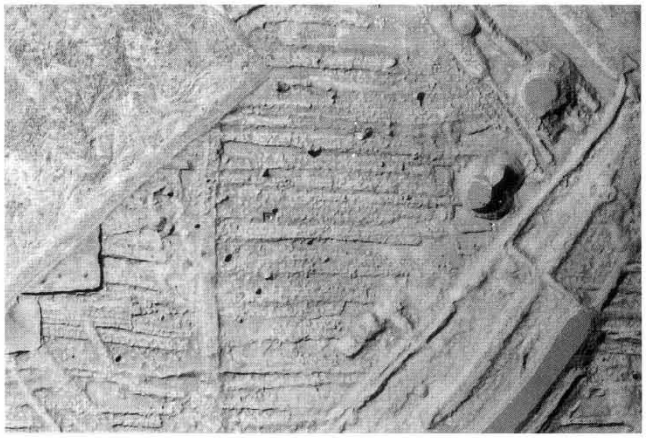
12Ｅ-43-15 付近の古代畑跡

12Ｅ-41-23 付近の古代畑跡

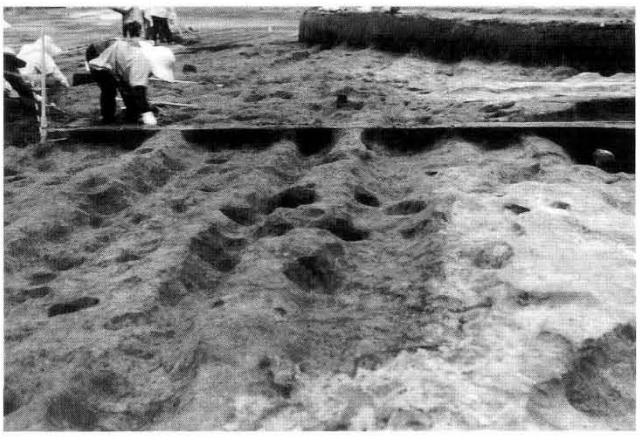
12Ｅ-53-２付近発掘前の古代畑跡



12Ｅ-43-23 付近の古代畑跡と住居跡

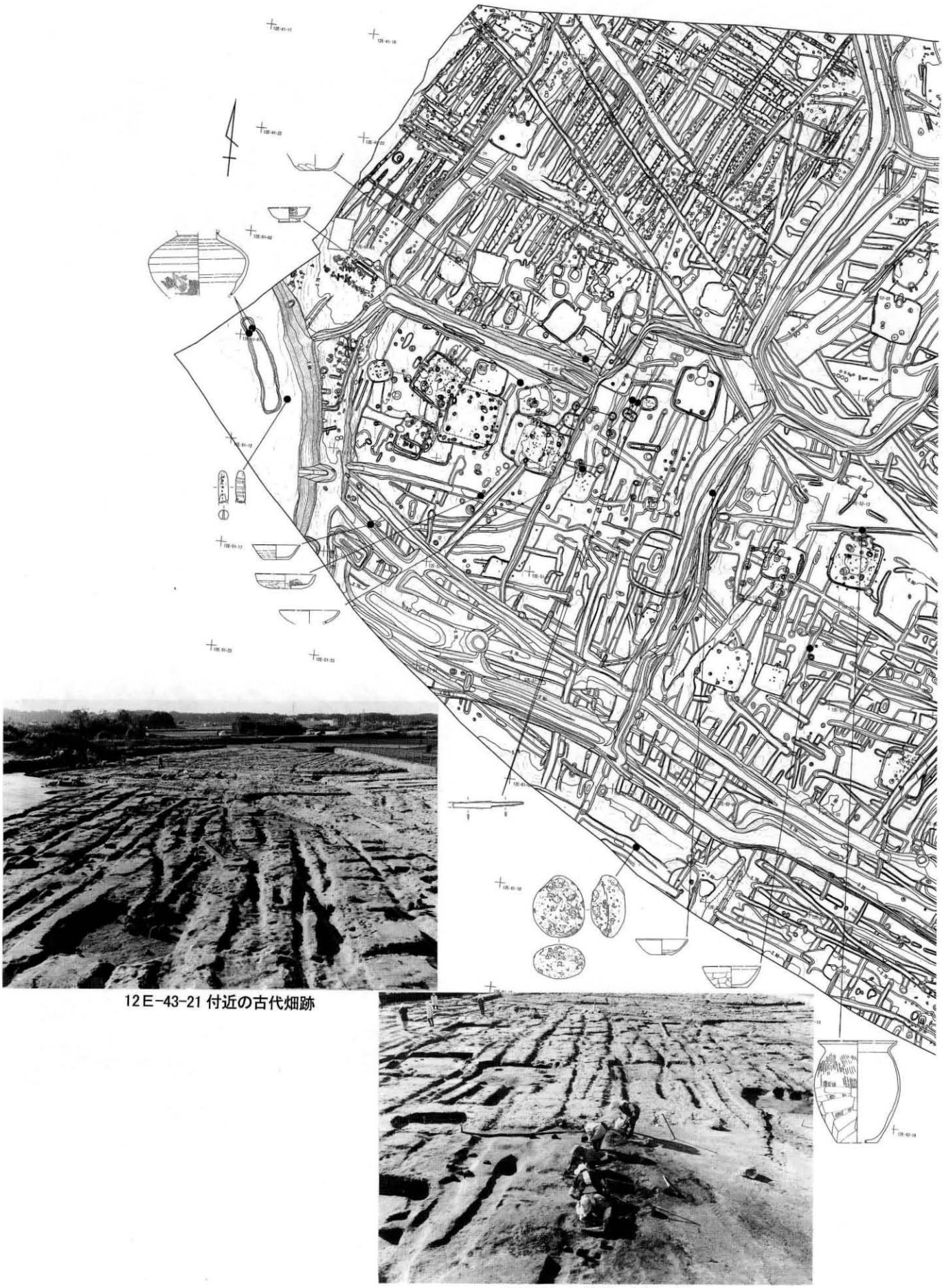


12Ｅ-45-16 付近の古代畑跡



12Ｅ-45-19 付近の古代畑跡

図 188　奈良・平安時代の遺構（古代畑跡写真①）

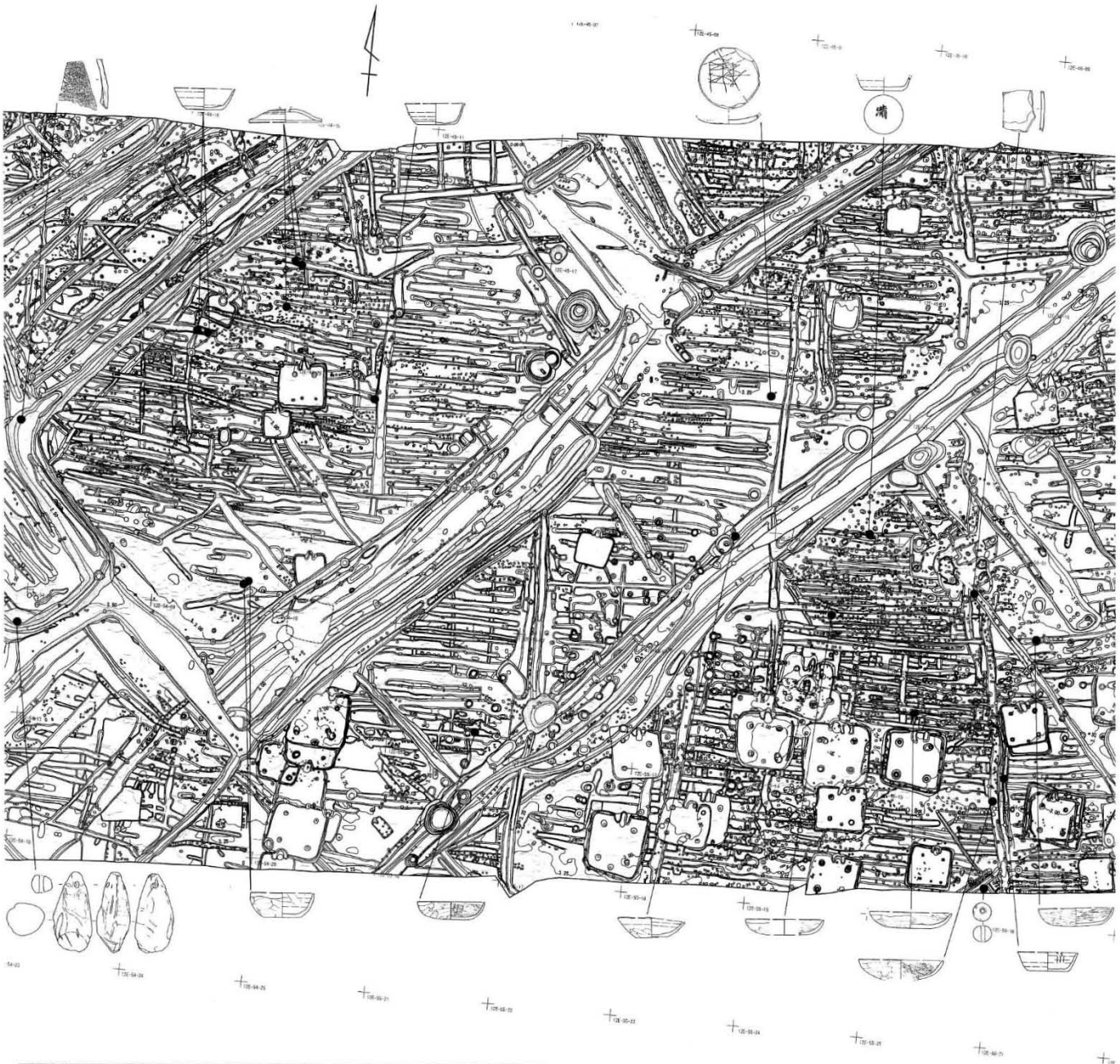


12E-43-21 付近の古代畑跡

12E-53-6 付近の古代畑跡

図 189　奈良・平安時代の

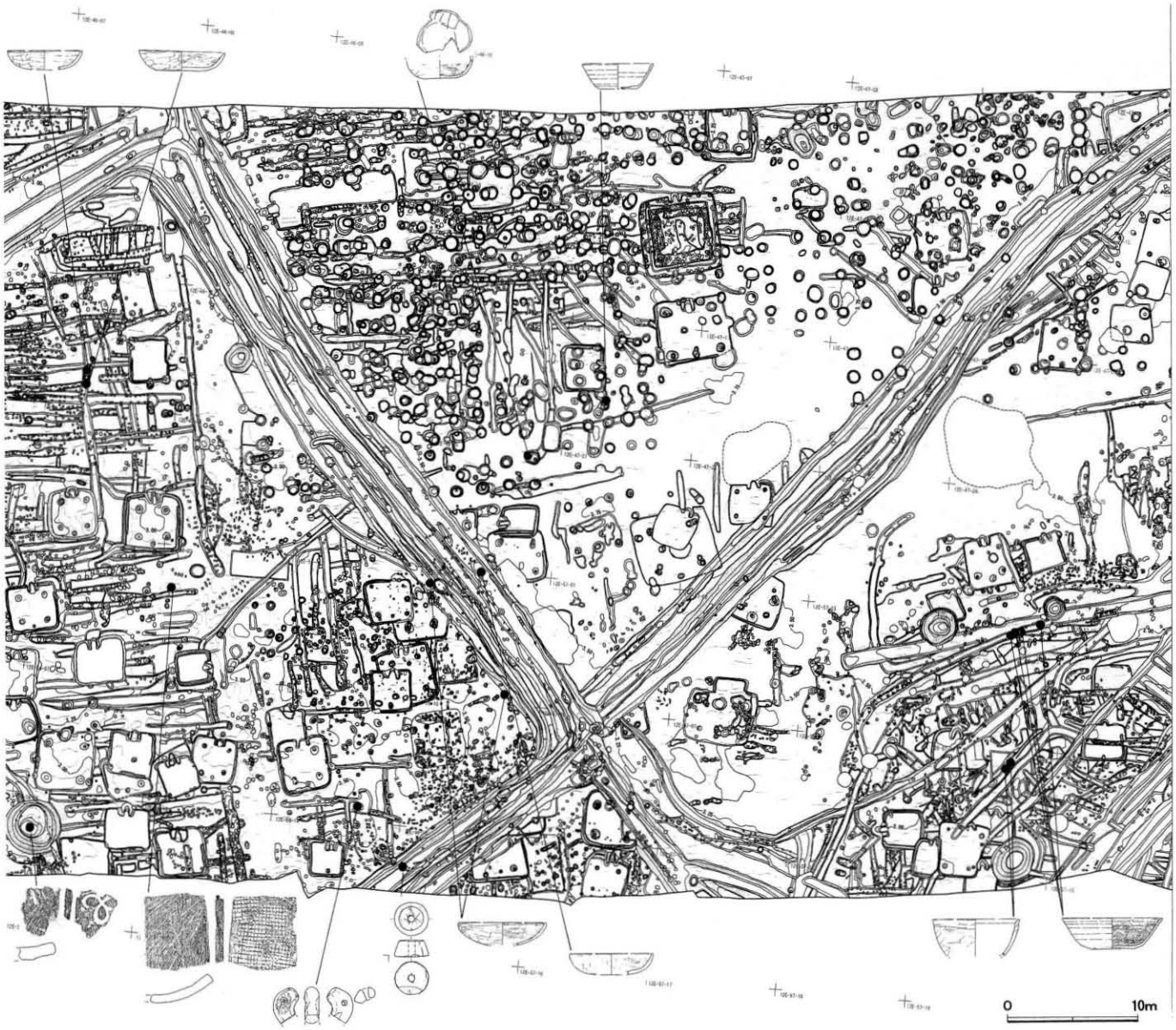
遺構（古代畑跡実測図①）



12E-55-14 付近の古代畑跡と住居跡

12E-46-17 付近の古代畑跡出土の坏

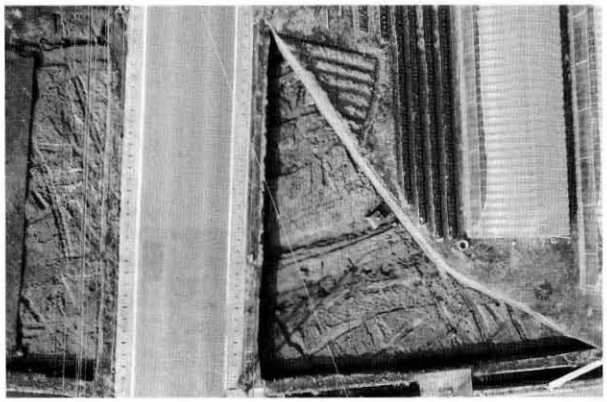
図 190　奈良・平安時代の



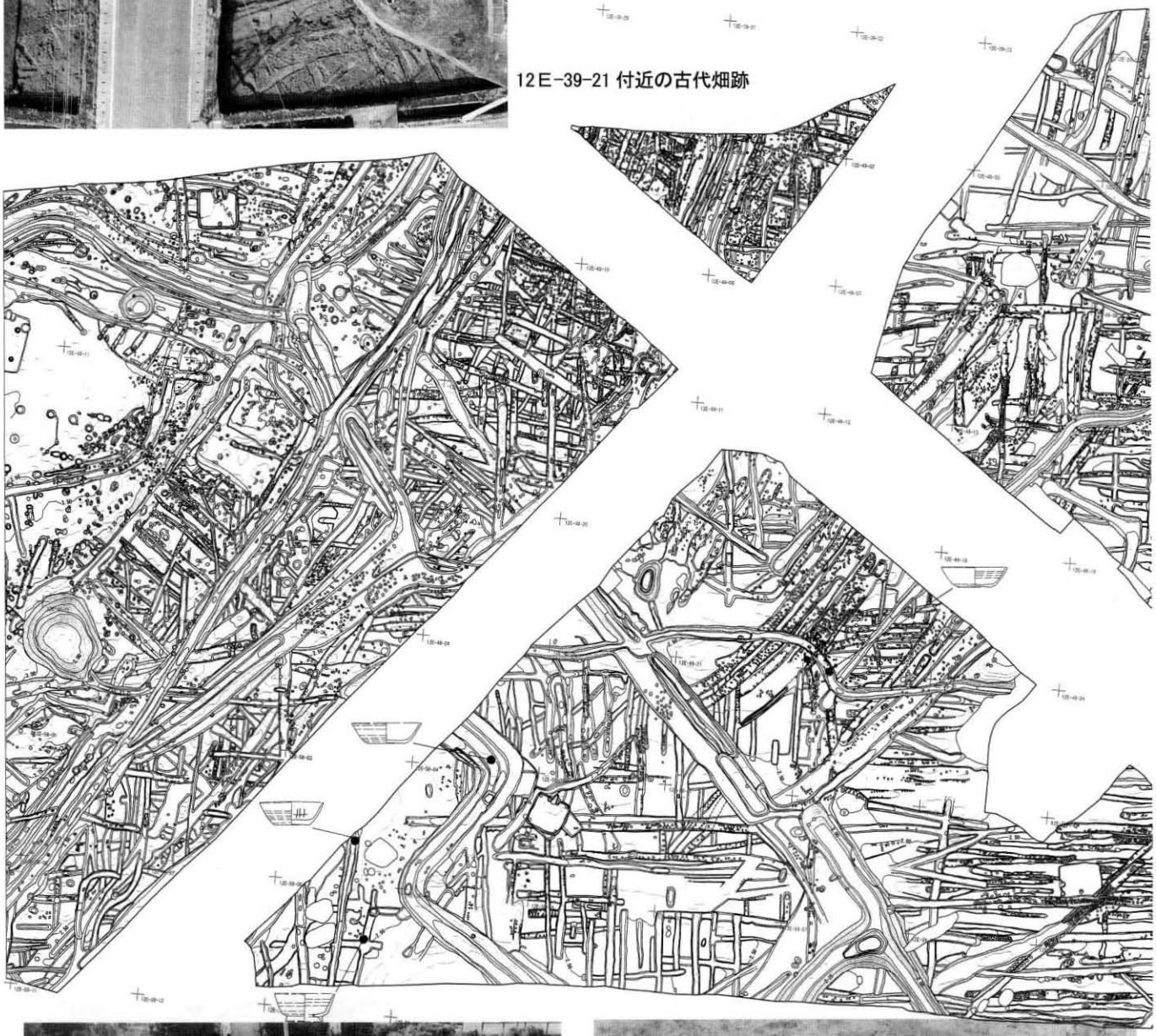
12E-45-14 付近発掘前の古代畑跡

12E-45-14 付近の古代畑跡

遺構（古代畑跡実測図②）



12E-39-21 付近の古代畑跡



12E-59-6 付近の古代畑跡

12E-58-10 の古代畑跡畝溝に入る白色土

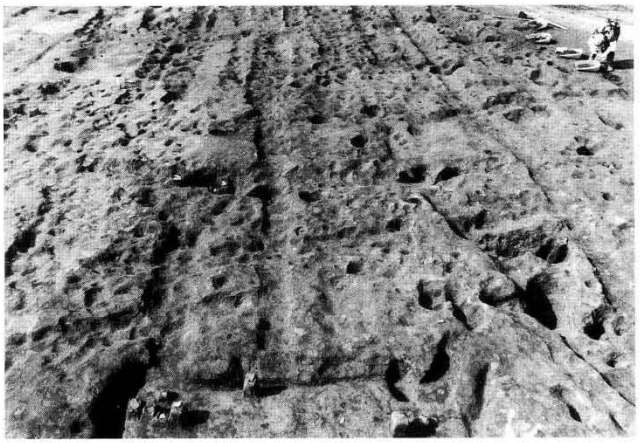
図 191　奈良・平安時代の

12E-59-4付近の古代畑跡

12E-49-8付近の古代畑跡

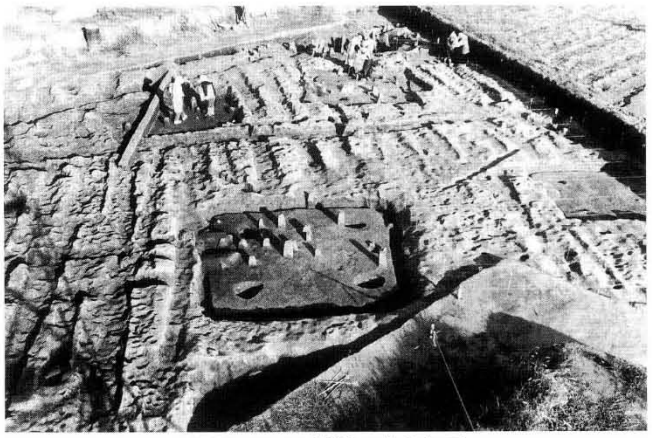
遺構（古代畑跡実測図③）

12E-46-22 付近の古代畑跡



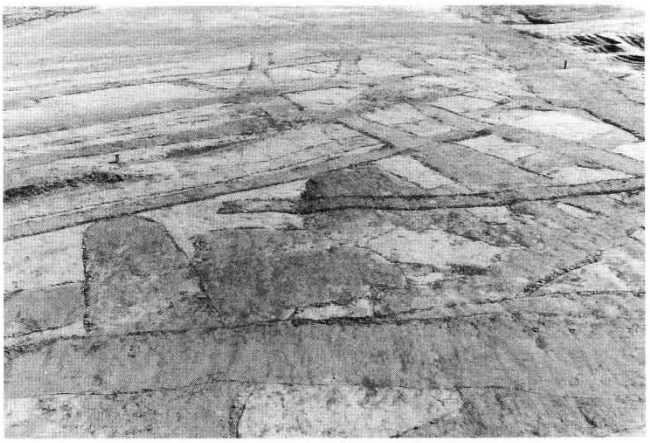
12E-46-17 付近の古代畑跡

12E-55-14 付近発掘前の古代畑跡



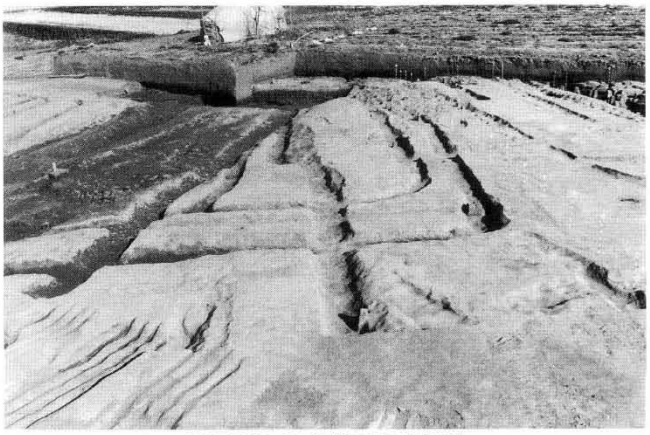
12E-55-15 付近の古代畑跡

古代畑跡の鍬先痕（12E-49-4で）



12E-49-15 付近発掘前の古代畑跡

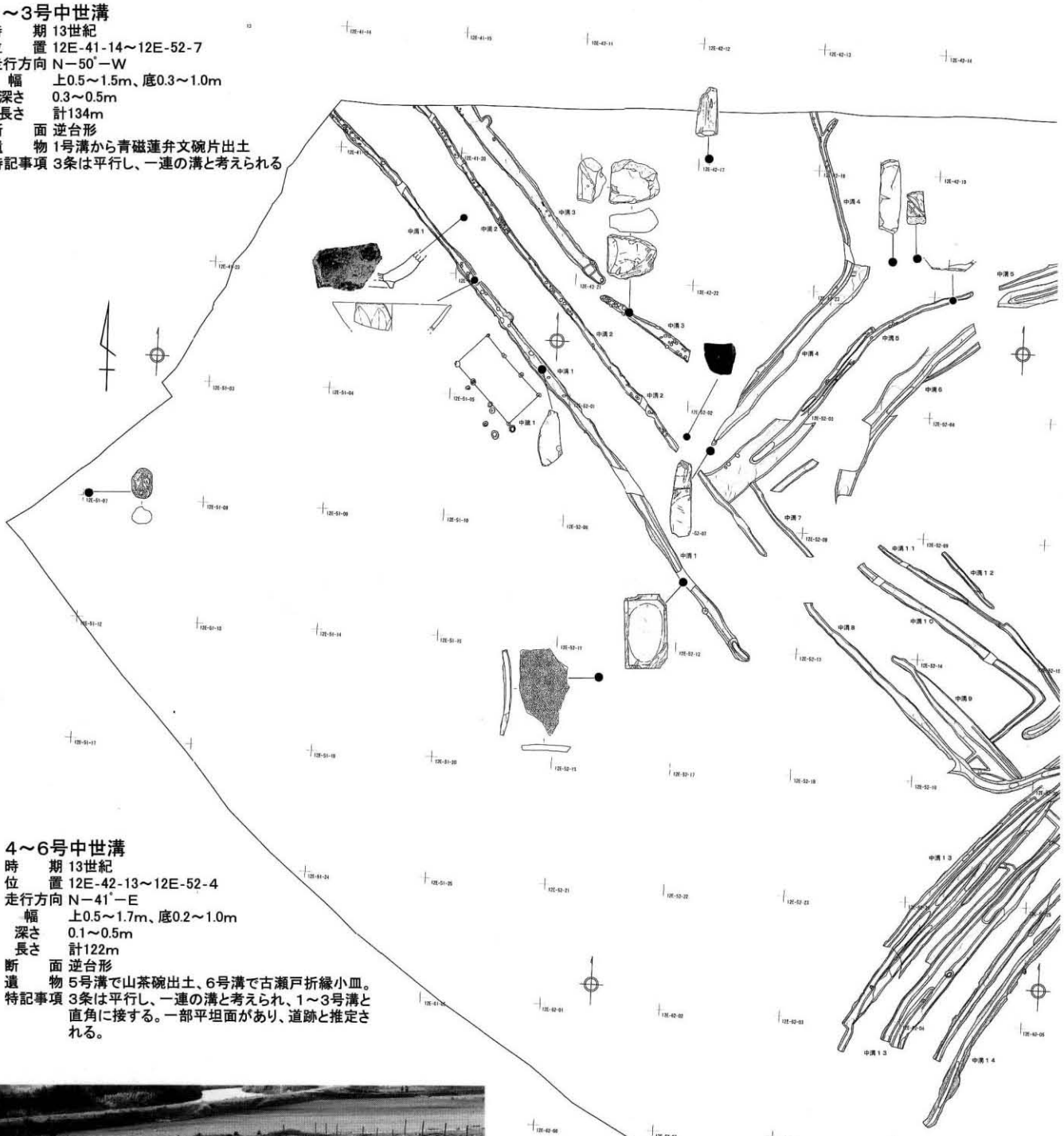
12E-39-21 付近の古代畑跡



12E-50-12 付近の古代畑跡

図 192　奈良・平安時代の遺構（古代畑跡写真②）

3．鎌倉・室町時代



1～3号中世溝
時　　期 13世紀
位　　置 12E-41-14～12E-52-7
走行方向 N－50°－W
　幅　　上0.5～1.5m、底0.3～1.0m
　深さ　0.3～0.5m
　長さ　計134m
断　　面 逆台形
遺　　物 1号溝から青磁蓮弁文碗片出土
特記事項 3条は平行し、一連の溝と考えられる

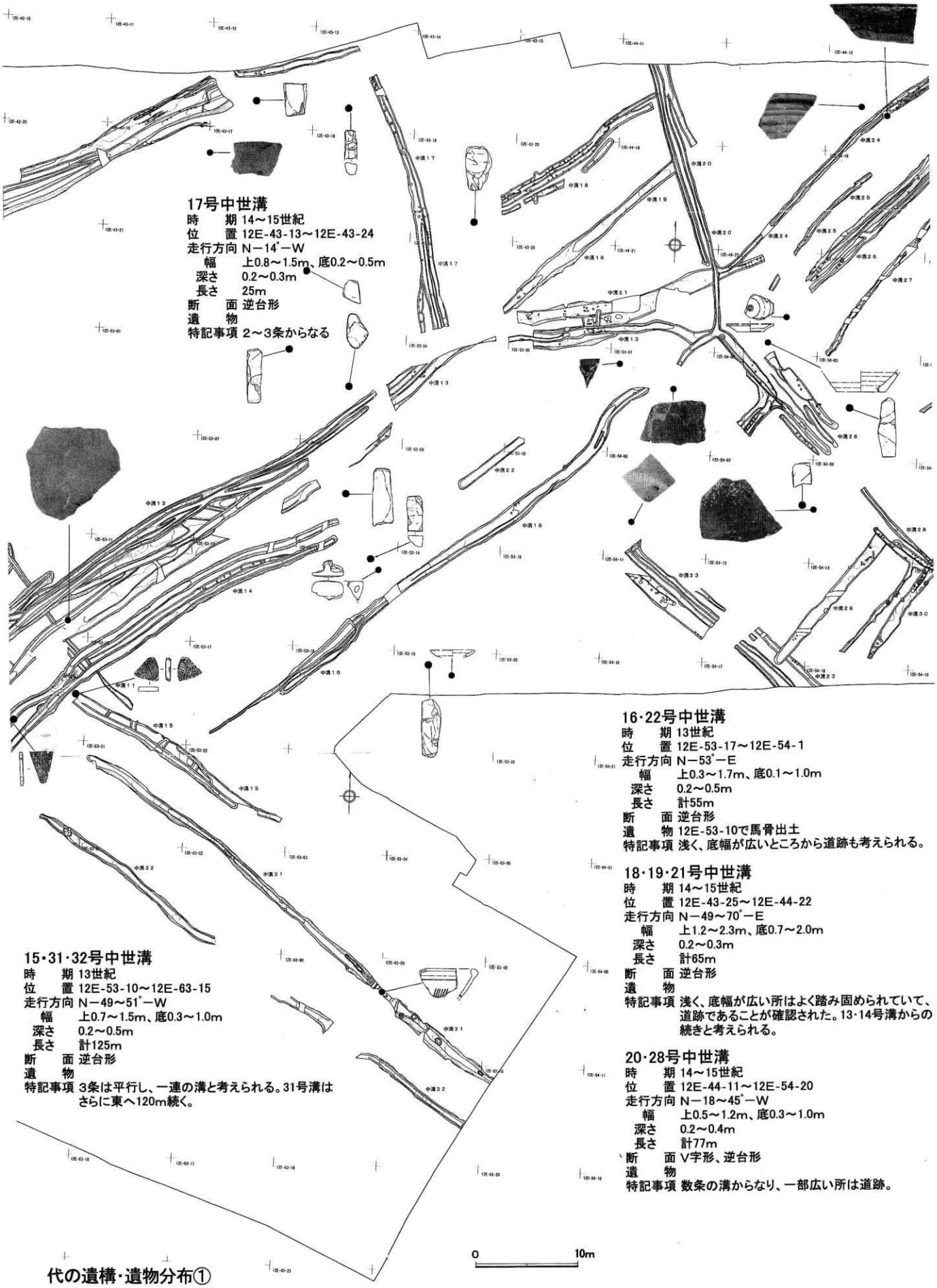
4～6号中世溝
時　　期 13世紀
位　　置 12E-42-13～12E-52-4
走行方向 N－41°－E
　幅　　上0.5～1.7m、底0.2～1.0m
　深さ　0.1～0.5m
　長さ　計122m
断　　面 逆台形
遺　　物 5号溝で山茶碗出土、6号溝で古瀬戸折縁小皿。
特記事項 3条は平行し、一連の溝と考えられ、1～3号溝と直角に接する。一部平坦面があり、道跡と推定される。

並走する1～3号中世溝

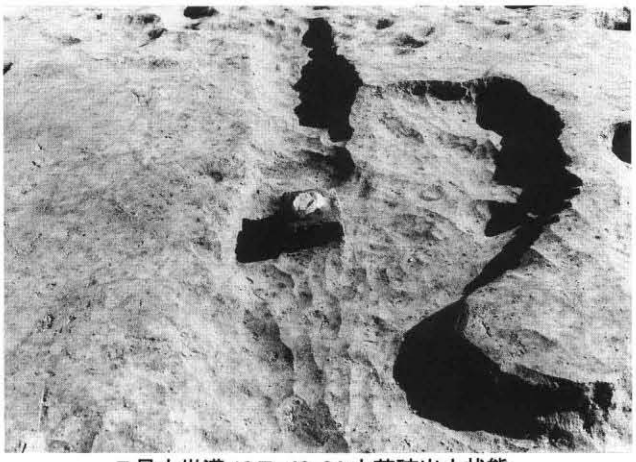
7～12号中世溝
時　　期 13世紀
位　　置 12E-52-8～12E-53-16
走行方向 N－46～60°－E
　幅　　上0.5～1.2m、底0.2～0.8m
　深さ　0.2～0.3m
　長さ　計130m
断　　面 逆台形
遺　　物
特記事項 6条は平行し、一連の溝と考えられ、畑畝溝の可能性も考えられる。

13～14号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-62-3～12E-44-22
走行方向 N－34～80°－E
　幅　　上0.5～1.2m、底0.2～0.8m
　深さ　0.2～0.5m
　長さ　100m
断　　面 逆台形
遺　　物 古瀬戸縁釉小皿・折縁深皿、常滑甕
特記事項 数条が平行し、一連の溝と考えられ、道跡の側溝と考えられる。最大幅9.5m

図193　鎌倉・室町時


17号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-43-13～12E-43-24
走行方向 N－14°－W
幅　上0.8～1.5m、底0.2～0.5m
深さ　0.2～0.3m
長さ　25m
断　　面 逆台形
遺　　物
特記事項 2～3条からなる
16・22号中世溝
時　　期 13世紀
位　　置 12E-53-17～12E-54-1
走行方向 N－53°－E
幅　上0.3～1.7m、底0.1～1.0m
深さ　0.2～0.5m
長さ　計55m
断　　面 逆台形
遺　　物 12E-53-10で馬骨出土
特記事項 浅く、底幅が広いところから道跡も考えられる。
18・19・21号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-43-25～12E-44-22
走行方向 N－49～70°－E
幅　上1.2～2.3m、底0.7～2.0m
深さ　0.2～0.3m
長さ　計65m
断　　面 逆台形
遺　　物
特記事項 浅く、底幅が広い所はよく踏み固められていて、道跡であることが確認された。13・14号溝からの続きと考えられる。
20・28号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-44-11～12E-54-20
走行方向 N－18～45°－W
幅　上0.5～1.2m、底0.3～1.0m
深さ　0.2～0.4m
長さ　計77m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物
特記事項 数条の溝からなり、一部広い所は道跡。
15・31・32号中世溝
時　　期 13世紀
位　　置 12E-53-10～12E-63-15
走行方向 N－49～51°－W
幅　上0.7～1.5m、底0.3～1.0m
深さ　0.2～0.5m
長さ　計125m
断　　面 逆台形
遺　　物
特記事項 3条は平行し、一連の溝と考えられる。31号溝はさらに東へ120m続く。
0
10m

代の遺構・遺物分布①



5号中世溝 12E-42-24 山茶碗出土状態

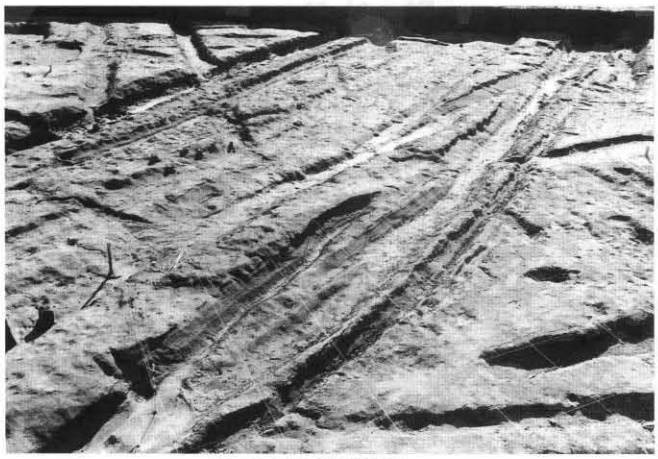
交叉する4～5号中世溝（12E-42-18 付近）

西行する 13･14･19 号中世溝

21 号溝（12E-43-25 付近）

13･14･19 号中世溝

13･14 号中世溝（12E-53-11 付近）



13･14 号中世溝近景

近世溝と並行する 48 号中世溝

図 194　鎌倉･室町時代の遺構（中世溝写真①）

東行する近世溝と 48 号中世溝

17 号中世溝

50･51 号中世溝

26 号中世溝

19 号中世溝（12E-43-25 付近）

16 号溝（12E-53-14 付近）

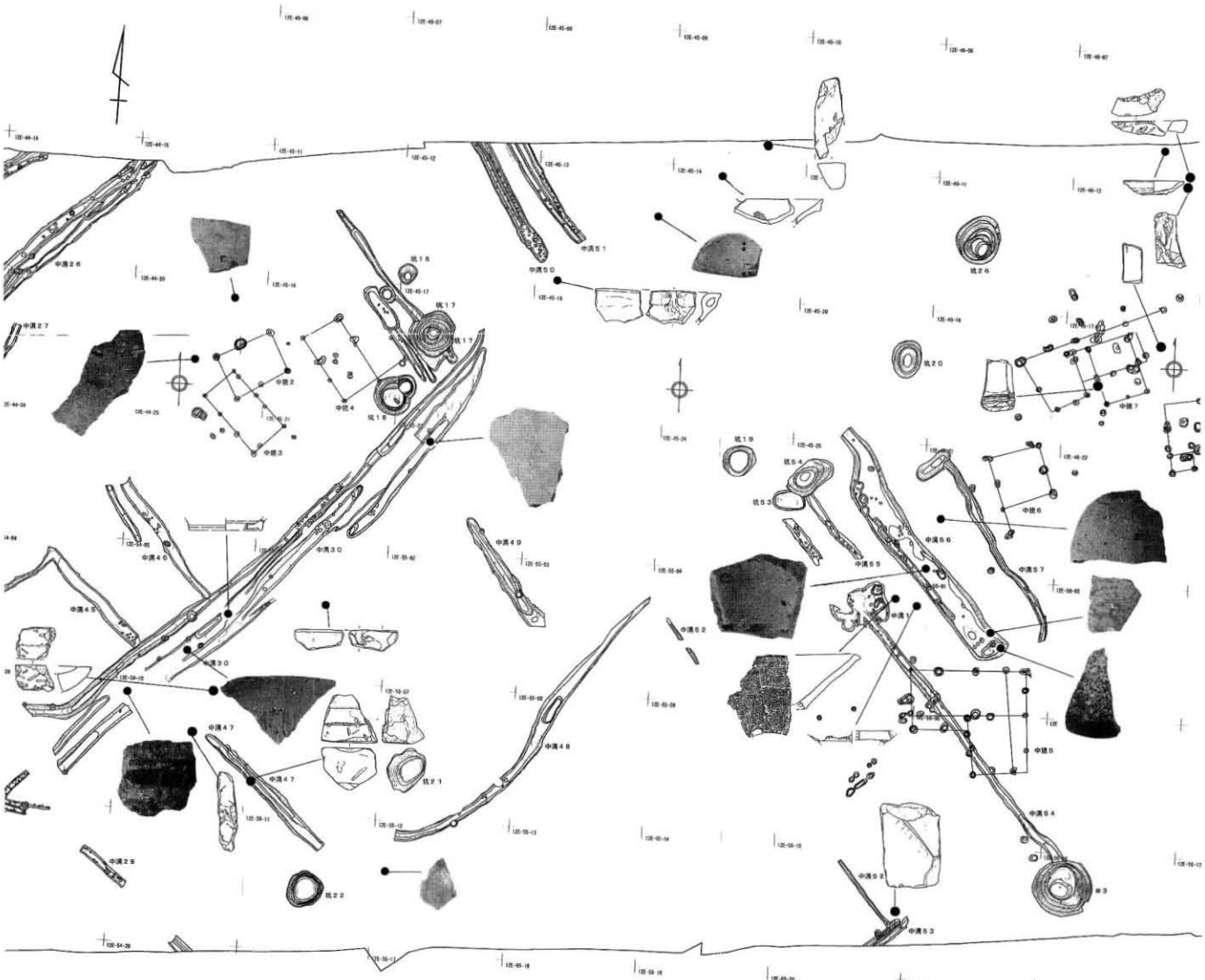
23号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-54-6～12E-54-18
走行方向 N－55°－W
　幅　　上0.4～3.0m、底0.2～1.3m
　深さ　　0.2～0.4m
　長さ　　21m
断　　面 逆台形
遺　　物 側溝から馬骨
特記事項 数条の溝からなり、一部広い所は道跡。

24～27号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-44-22～12E-44-15
走行方向 N－45°－E
　幅　　上0.5～2.0m、底0.2～0.3m
　深さ　　0.2～0.5m
　長さ　　計95m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物 24号溝で渥美甕
特記事項 数条の溝からなり、全体で側溝を有する道跡と考えられる。

29～30号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-54-12～12E-45-17
走行方向 N－46°－E
　幅　　上0.8～2.0m、底0.3～1.5m
　深さ　　0.2～0.5m
　長さ　　計75m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物 30号溝で常滑甕
特記事項 数条の溝からなり、底幅の広い所は道跡と考えられる。

45～47･49号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-54-4～12E-55-3
走行方向 N－46°－W
　幅　　上0.7～1.0m、底0.2～0.6m
　深さ　　0.2～0.5m
　長さ　　計43m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物
特記事項 30号溝に直交し、道筋に在った畑跡か屋敷地を区画する溝と推定される。

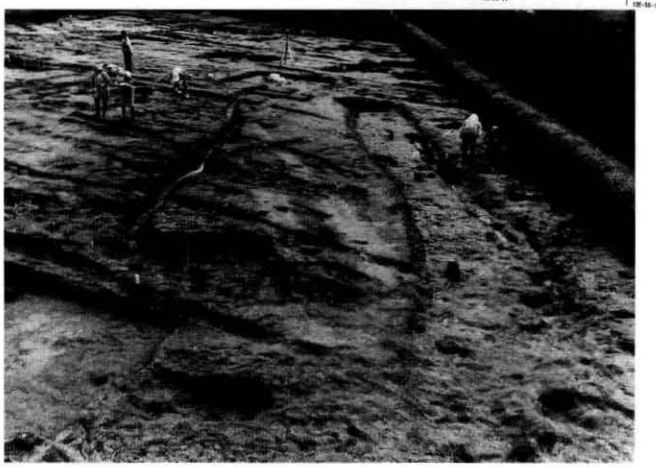
図 195　鎌倉･室町時代の遺構（中世溝写真②）



50～51号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-45-7～12E-45-13
走行方向 N－49°－W
　幅　　上1.2～1.4m、底0.3～0.8m
　深さ　　0.2～0.4m
　長さ　　計19m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物
特記事項 2条が平行し、道跡の側溝と考えられる。

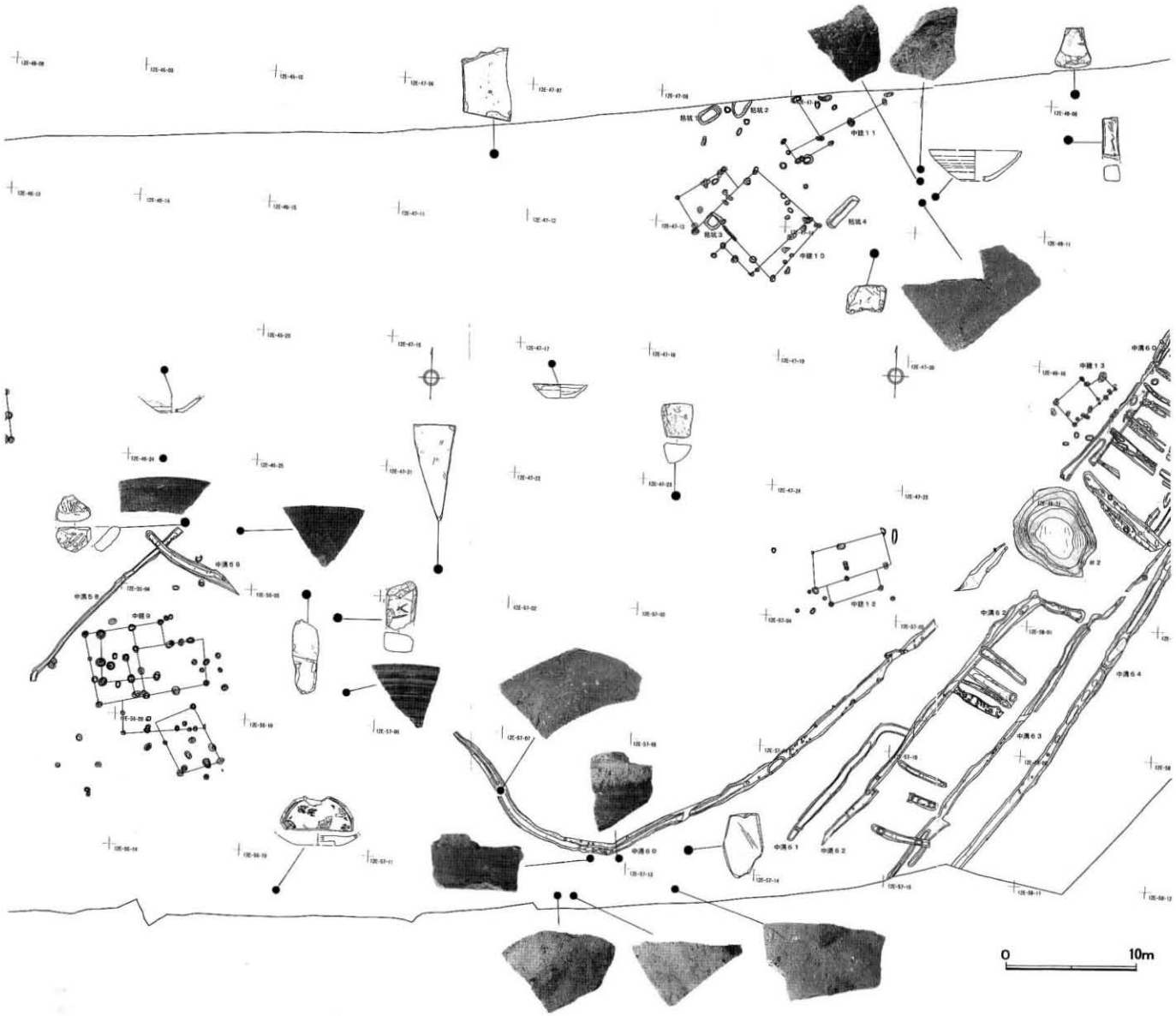
48・52・53・55・57号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-55-12～12E-55-15
走行方向 N－40°－E、N－42°－W
　幅　　上0.3～1.3m、底0.1～0.8m
　深さ　　0.2～0.4m
　長さ　　計61m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物
特記事項 30号溝に直交あるいは並行し、道筋に在った畑跡か屋敷地を区画する溝と推定される。

54号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-45-25～12E-56-12
走行方向 N－42°－W
　幅　　上0.6～0.7m、底0.2～0.4m
　深さ　　0.2～0.3m
　長さ　　計33m
断　　面 逆台形
遺　　物
特記事項 1号中世遺構と3号井戸とを繋ぐ。



56号中世溝
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-45-20～12E-56-1
走行方向 N－40°－W
　幅　　上1.0～2.7m、底0.6～1.8m
　深さ　　0.2～0.3m
　長さ　　計20m
断　　面 逆台形
遺　　物 古瀬戸瓶子、常滑壺・鉢
特記事項 幅が広く、他の溝と異なる。

図196　鎌倉・室町時



12E-47-23 付近から東を望む

12E-48 の斜面部中世畑跡

58・59号中世溝

時　　期 13世紀
位　　置 12E-56-3～12E-46-1
走行方向 N－42°－E、N－58°－W
幅　　上0.3～0.9m、底0.1～0.4m
深さ　　0.2～0.3m
長さ　　計25m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物
特記事項 屋敷地の区画溝と考えられる

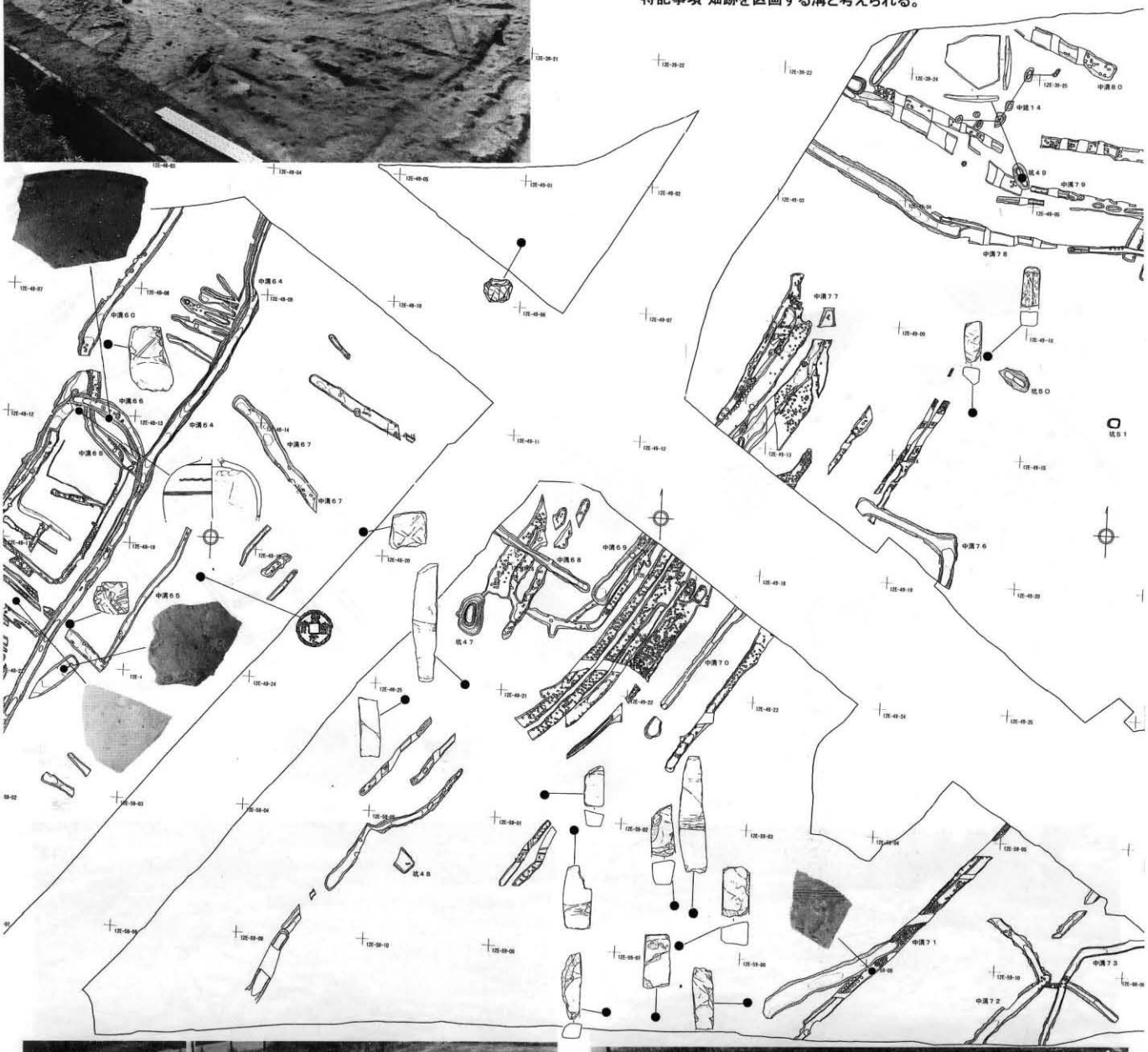
60～67号中世溝

時　　期 13～14世紀
位　　置 12E-57-6～12E-48-14
走行方向 N－36～56°－E、N－40°－W
幅　　上0.5～1.3m、底0.2～0.8m
深さ　　0.2～0.5m
長さ　　計280m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物 区画内の畑跡から白磁四耳壺片、瀬戸瓶子、常滑甕片出土。
特記事項 斜面部の畑跡を区画する溝と考えられる。

代の遺構・遺物分布②

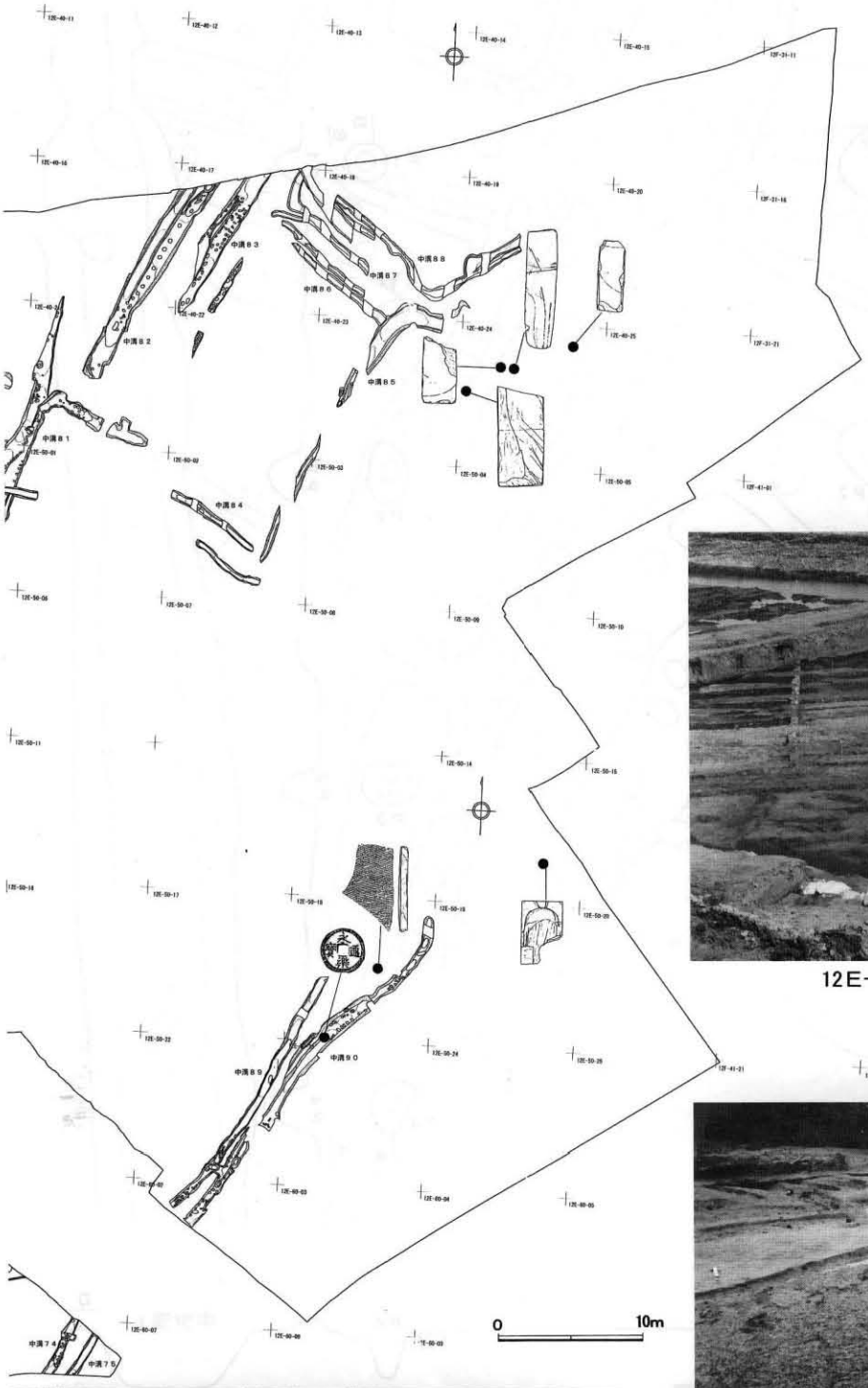
68～75号中世溝

時　　期 13～14世紀
位　　置 12E-48-20～12E-60-6
走行方向 N－35～43°－E、N－55～60°－W
幅　　上0.8～1.7m、底0.2～1.3m
深さ　　0.2～0.3m
長さ　　計90m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物 68号溝で青磁蓮弁文碗
特記事項 畑跡を区画する溝と考えられる。



交叉する12E-48-25付近の古代畑跡と中世畑跡

図197　鎌倉・室町時



76～88号中世溝

時　　期 15世紀
位　　置 12E-49-7～12E-40-19
走行方向 N－31°－E、N－50～57°－W
幅　　上0.8～1.6m、底0.5～1.0m
深さ　　0.2～0.3m
長さ　　計185m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 畑跡を区画する溝と考えられる。

89～90号中世溝

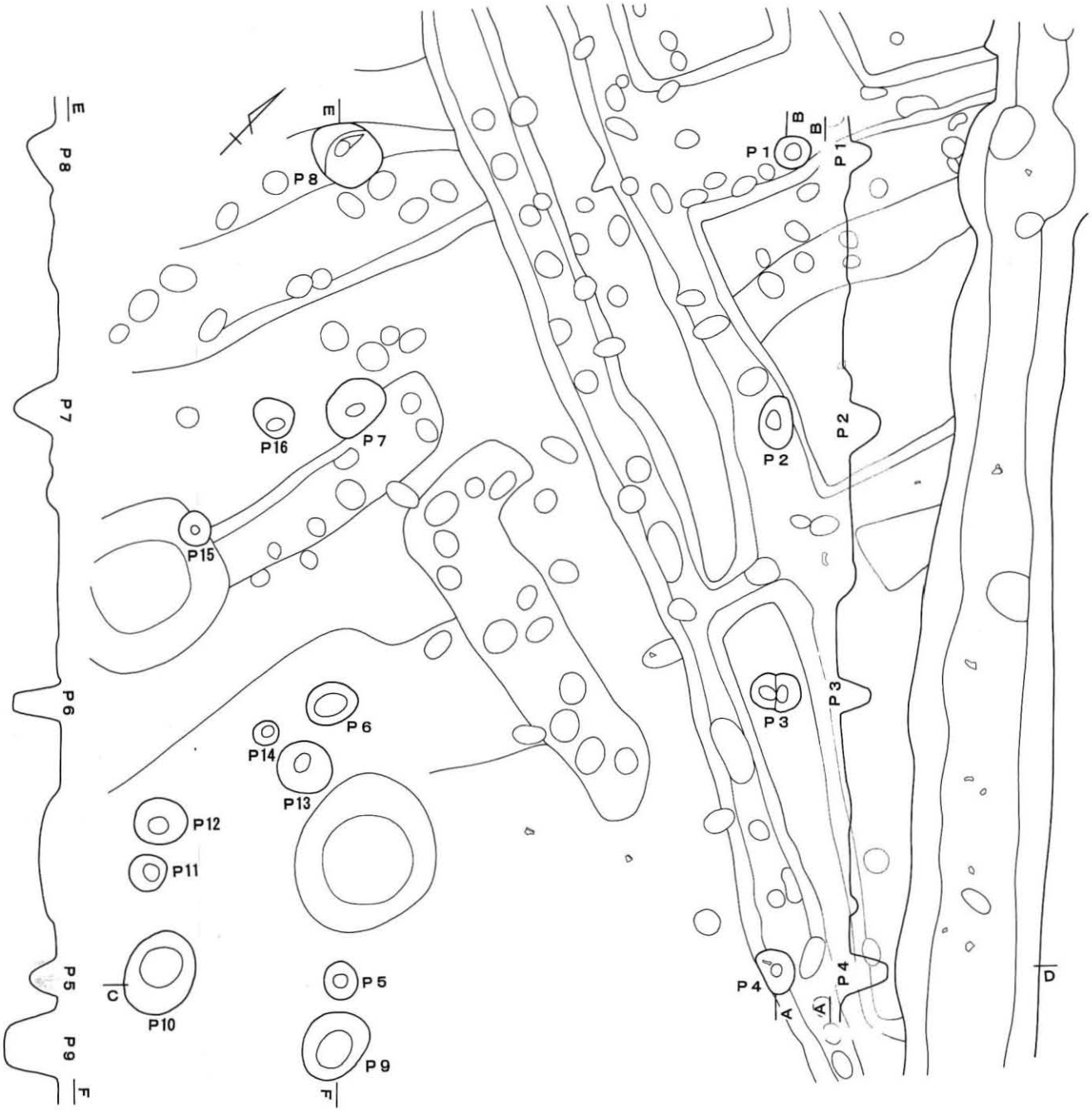
時　　期 14～15世紀
位　　置 12E-50-18～12E-60-2
走行方向 N－34°－E
幅　　上0.6～1.0m、底0.3～0.5m
深さ　　0.1～0.2m
長さ　　計46m
断　　面 浅い逆台形
遺　　物
特記事項 低湿地との境溝と思われる。

12E-50 付近の 84 号中世溝と古代畑跡

89・90 号中世溝

発掘前の 89・90 号中世溝

代の遺構・遺物分布③

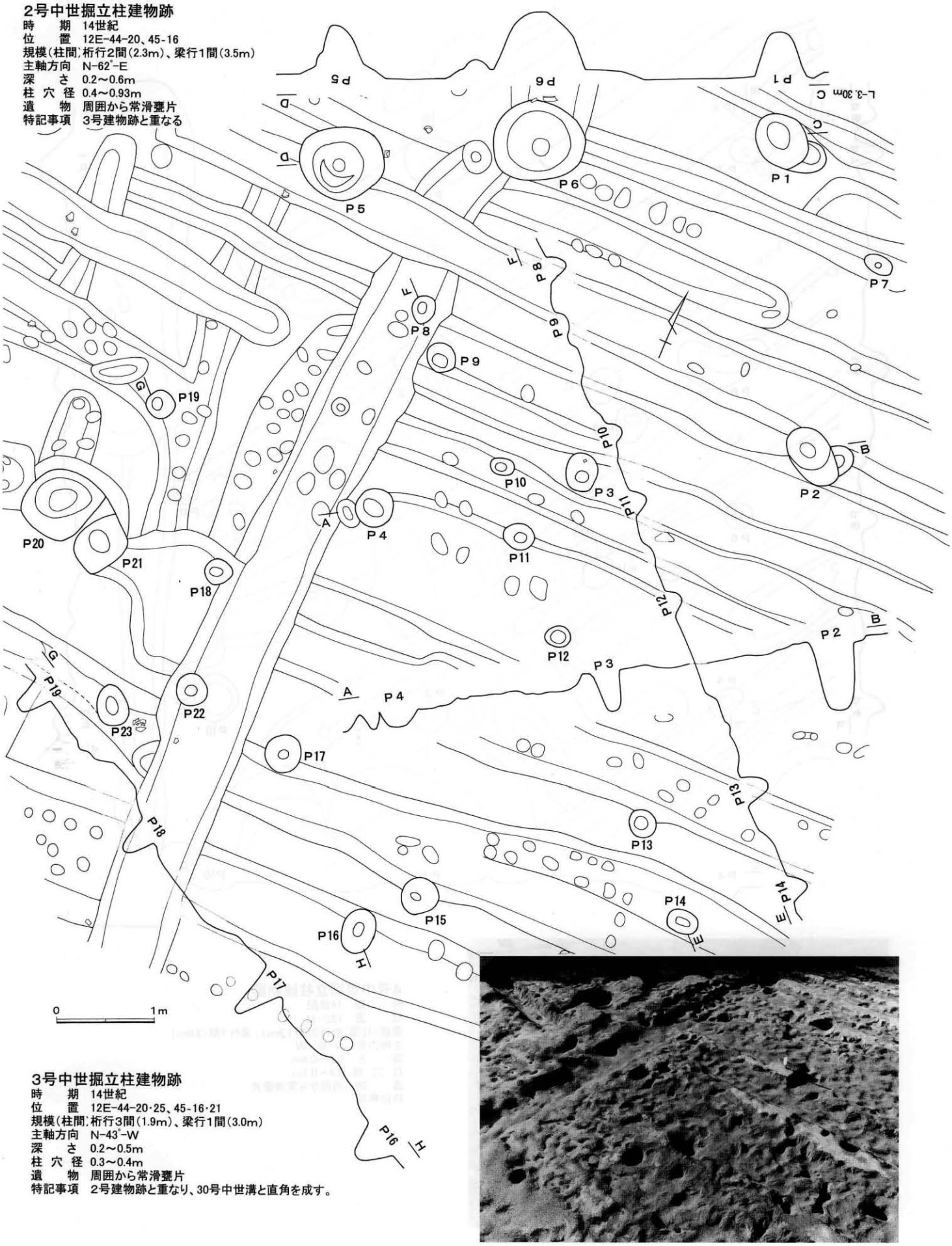


1号中世掘立柱建物跡

時　　期　13世紀
位　　置　12E-41-25、51-5
規模(柱間)　桁行3間(2.2m)、梁行1間(3.6m)
主軸方向　N-43°-W
深　　さ　0.2～0.4m
柱 穴 径　0.3～0.5m
遺　　物
特記事項　1号中世溝に並行し、同時期と思われる。
　　西側に張り出しあり。

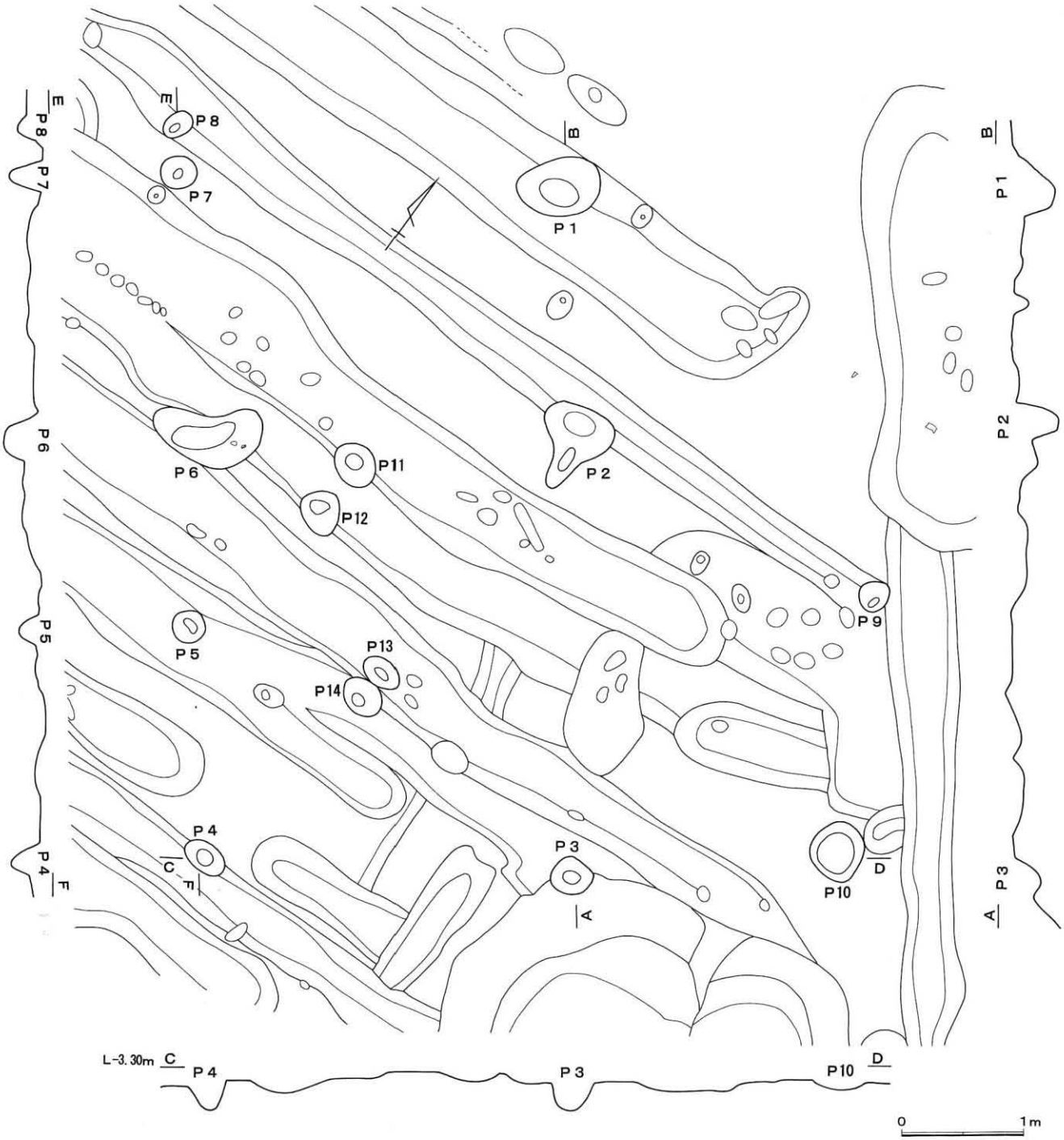
図 198　鎌倉・室町時代の遺構(1 号中世掘立柱建物跡)

2号中世掘立柱建物跡
時　　期　14世紀
位　　置　12E-44-20、45-16
規模(柱間)桁行2間(2.3m)、梁行1間(3.5m)
主軸方向　N-62°-E
深　　さ　0.2～0.6m
柱 穴 径　0.4～0.93m
遺　　物　周囲から常滑甕片
特記事項　3号建物跡と重なる



3号中世掘立柱建物跡
時　　期　14世紀
位　　置　12E-44-20·25、45-16·21
規模(柱間)桁行3間(1.9m)、梁行1間(3.0m)
主軸方向　N-43°-W
深　　さ　0.2～0.5m
柱 穴 径　0.3～0.4m
遺　　物　周囲から常滑甕片
特記事項　2号建物跡と重なり、30号中世溝と直角を成す。

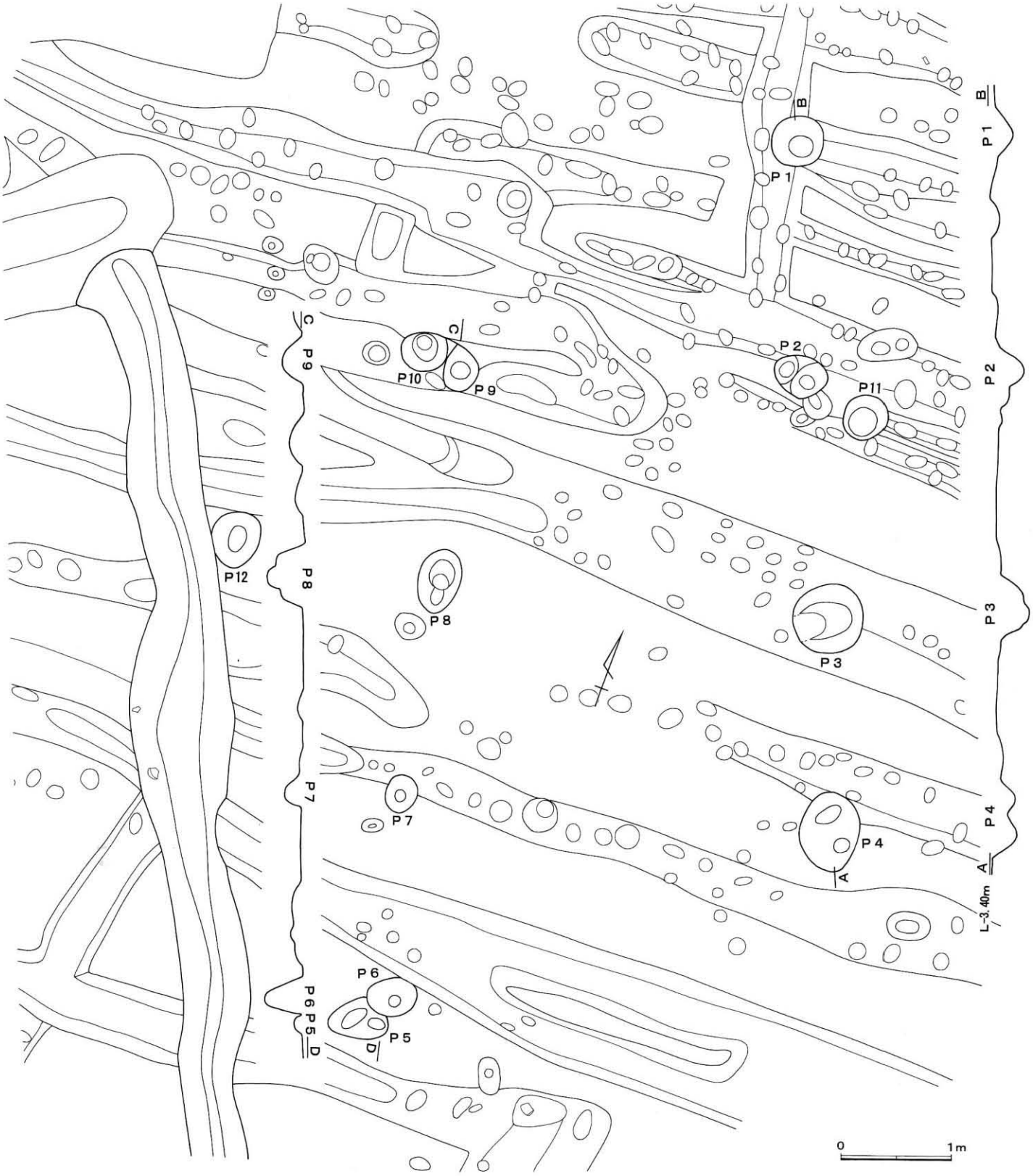
図199　鎌倉・室町時代の遺構（2・3号中世掘立柱建物跡）



4号中世掘立柱建物跡

時　　期　14世紀
位　　置　12E-45-16
規模(柱間)桁行3間(1.9m)、梁行1間(3.0m)
主軸方向　N-35°-W
深　　さ　0.2～0.4m
柱 穴 径　0.3～0.7m
遺　　物　周囲から常滑甕片
特記事項

図 200　鎌倉・室町時代の遺構（4号中世掘立柱建物跡）



6号中世掘立柱建物跡

時　　期　14世紀
位　　置　12E-46-21
規模（柱間）桁行4間（2.2m）、梁行1間（3.3～3.8m）
主軸方向　N-27°-W
深　　さ　0.15～0.3m
柱 穴 径　0.3～0.6m
遺　　物
特記事項

図 201　鎌倉・室町時代の遺構（6号中世掘立柱建物跡）

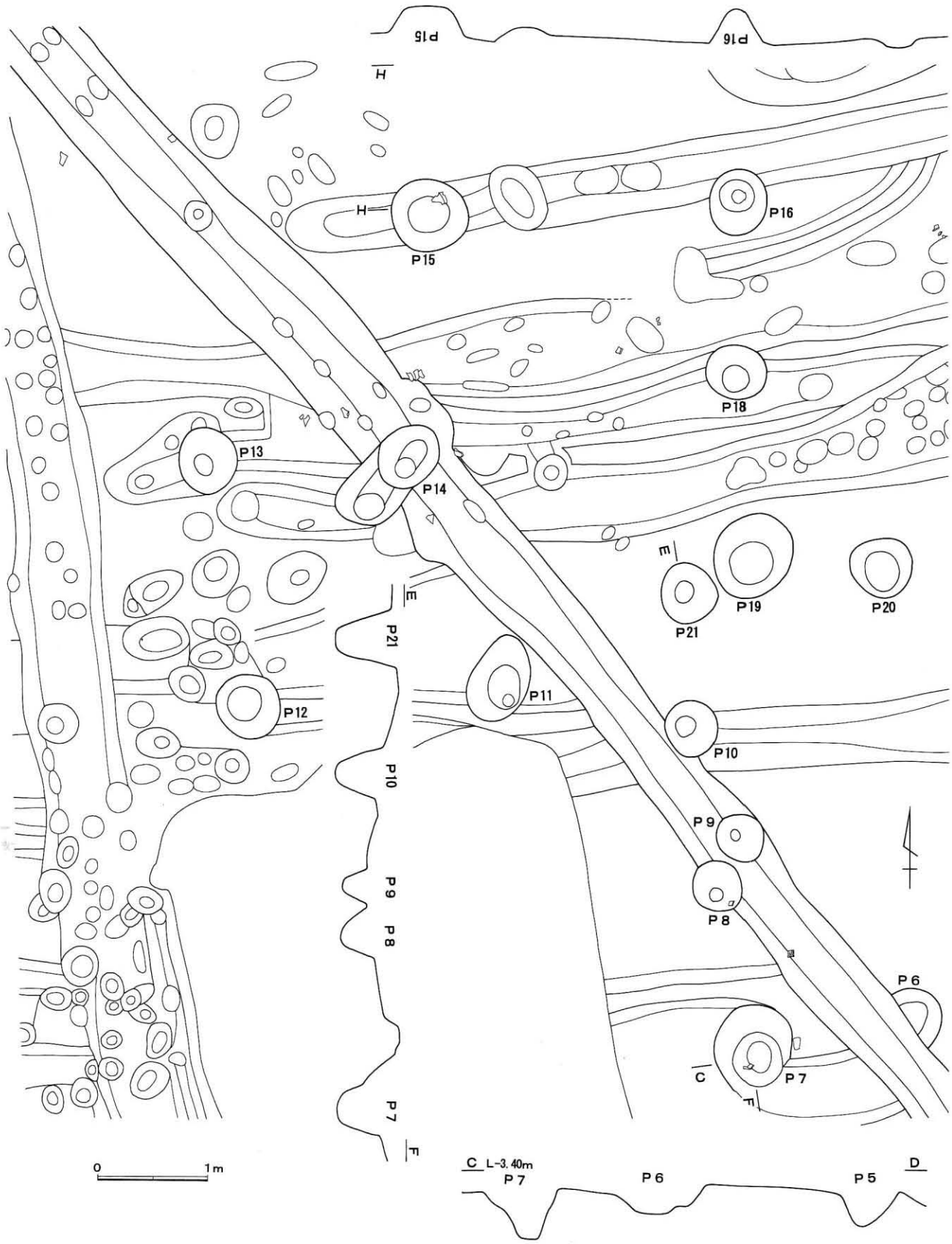
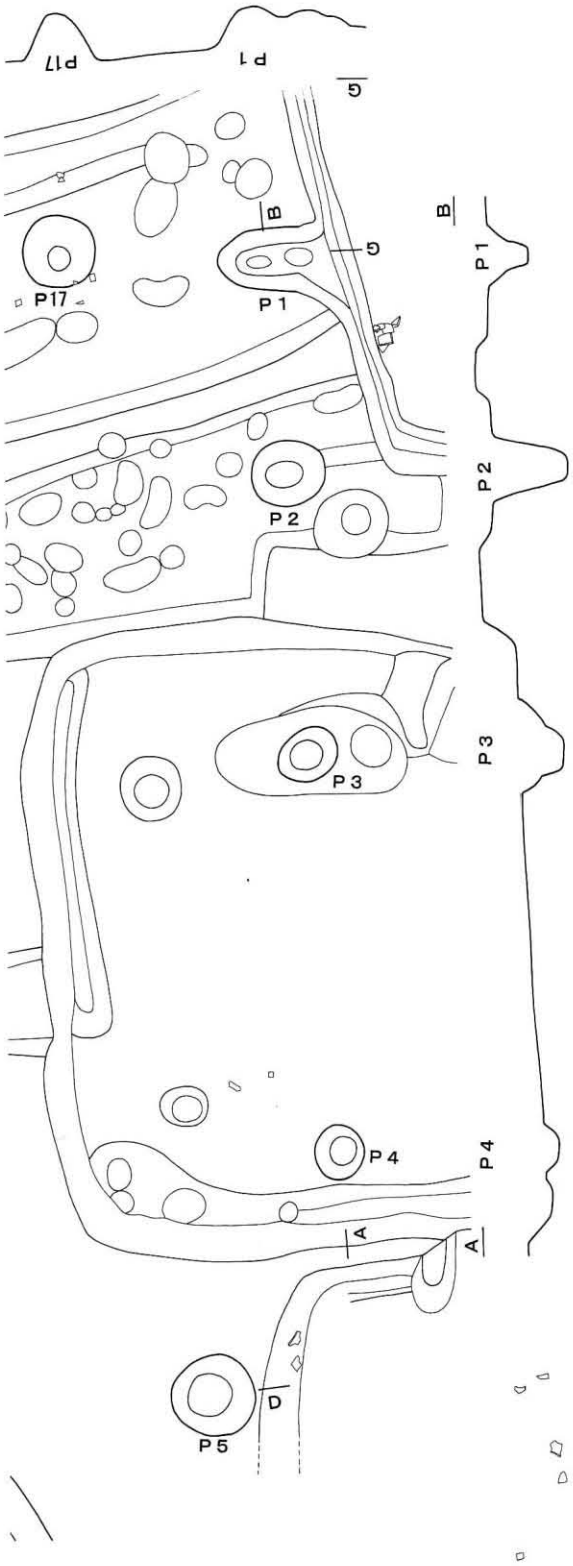


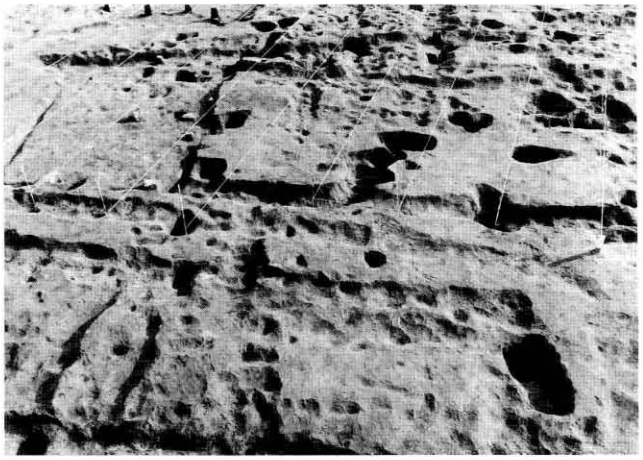
図 202　鎌倉・室町時代の遺

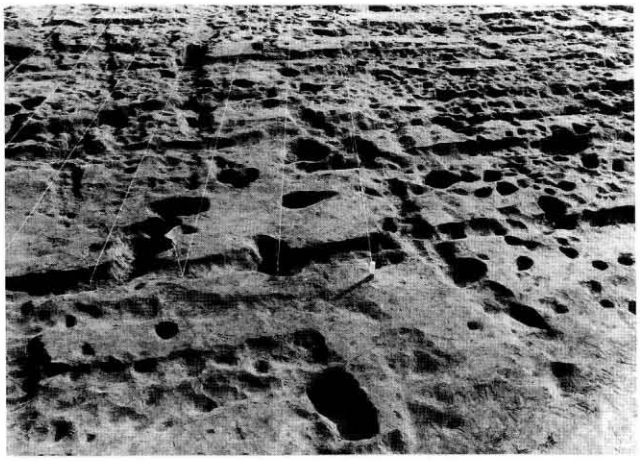


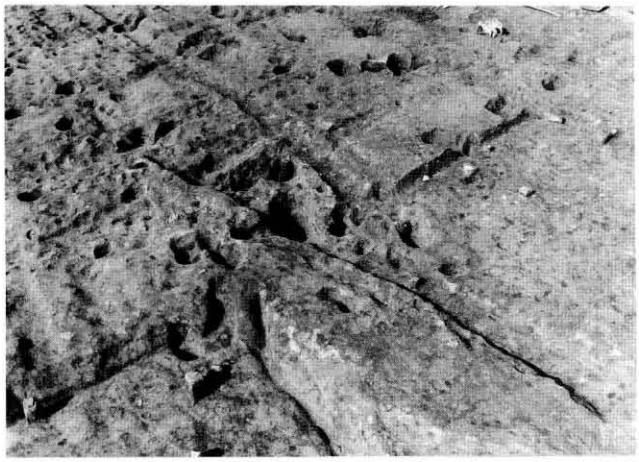
5号中世掘立柱建物跡

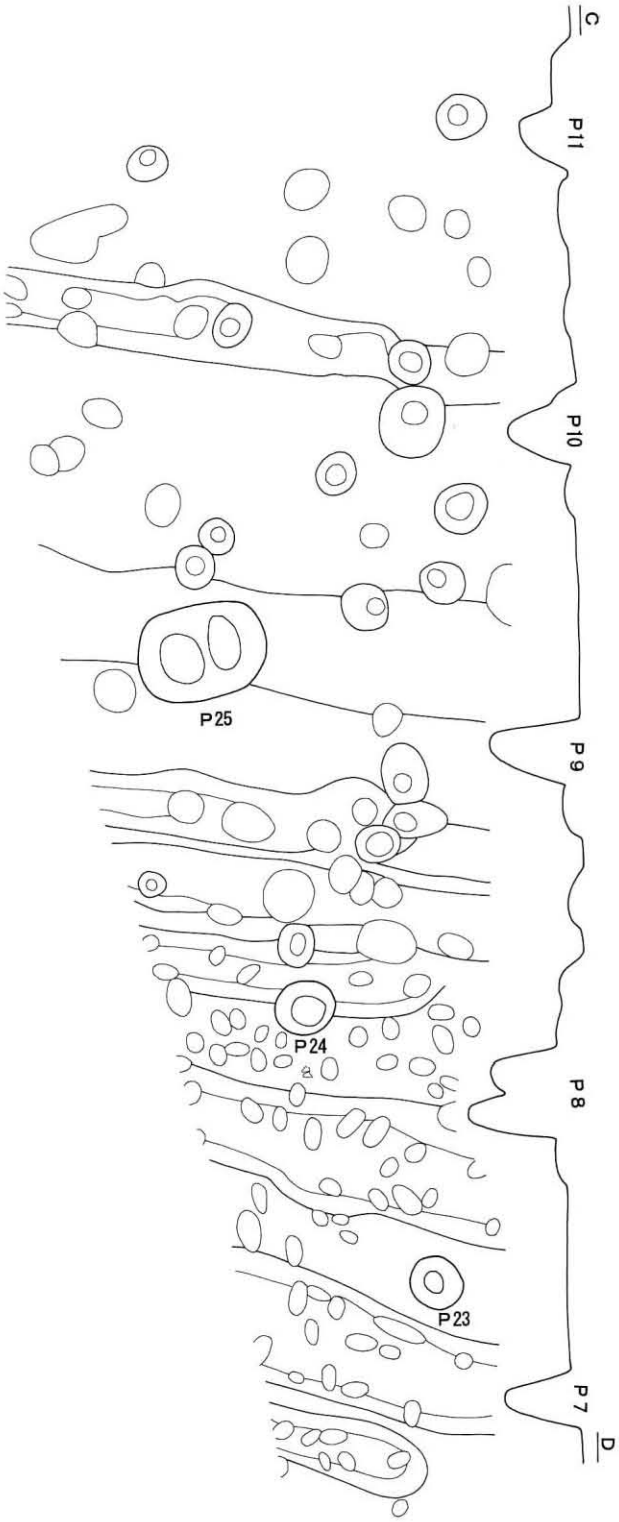
時　　期　14世紀
位　　置　12E-56-1・6
規模（柱間；桁行4間（1.6～2.5m）、梁行2間（1.8m）
主軸方向　N-85°-E
深　　さ　0.2～0.5m
柱 穴 径　0.4～0.8m
遺　　物
特記事項　54号中世溝をまたぐ

構（5号中世掘立柱建物跡）





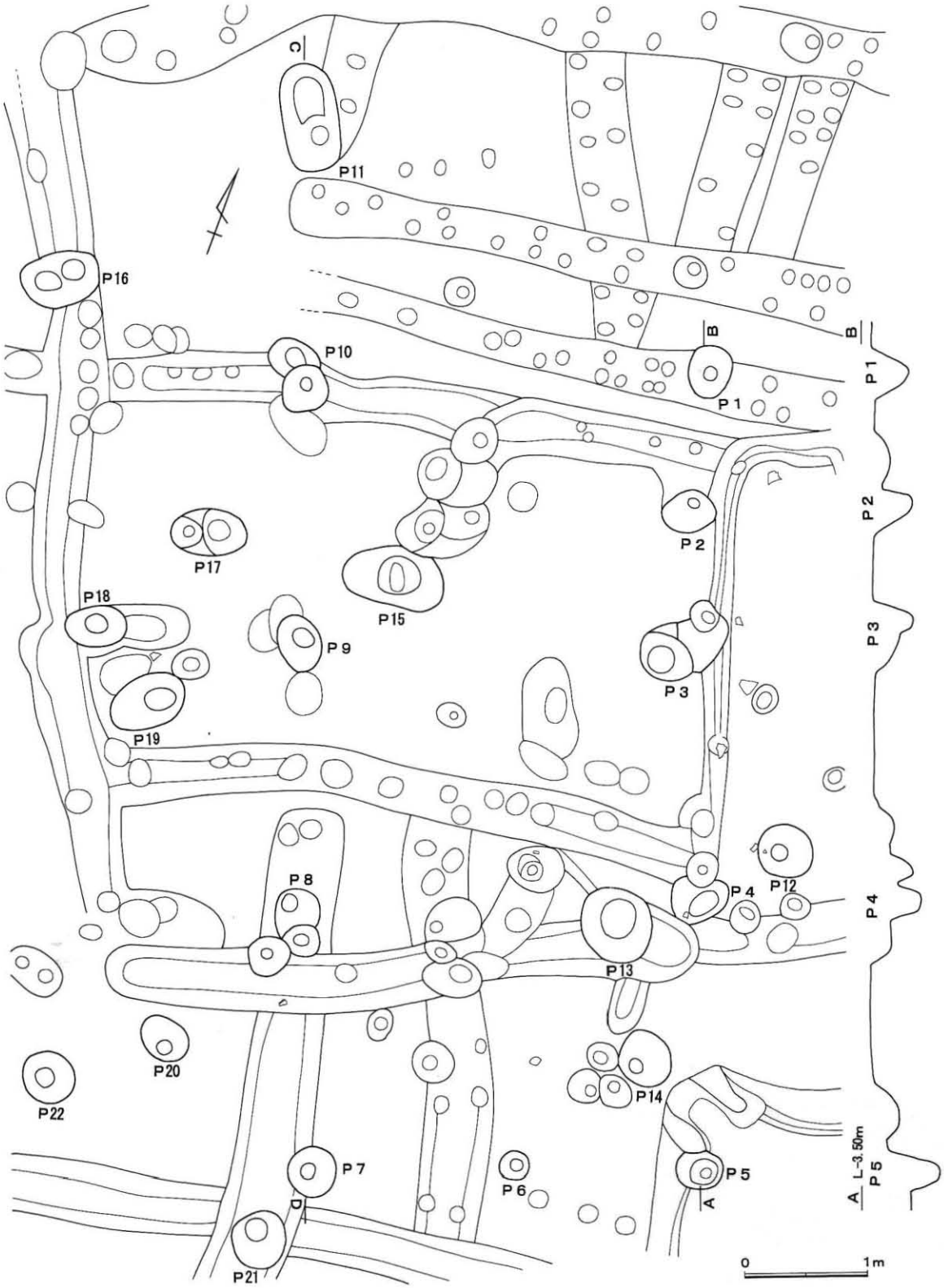




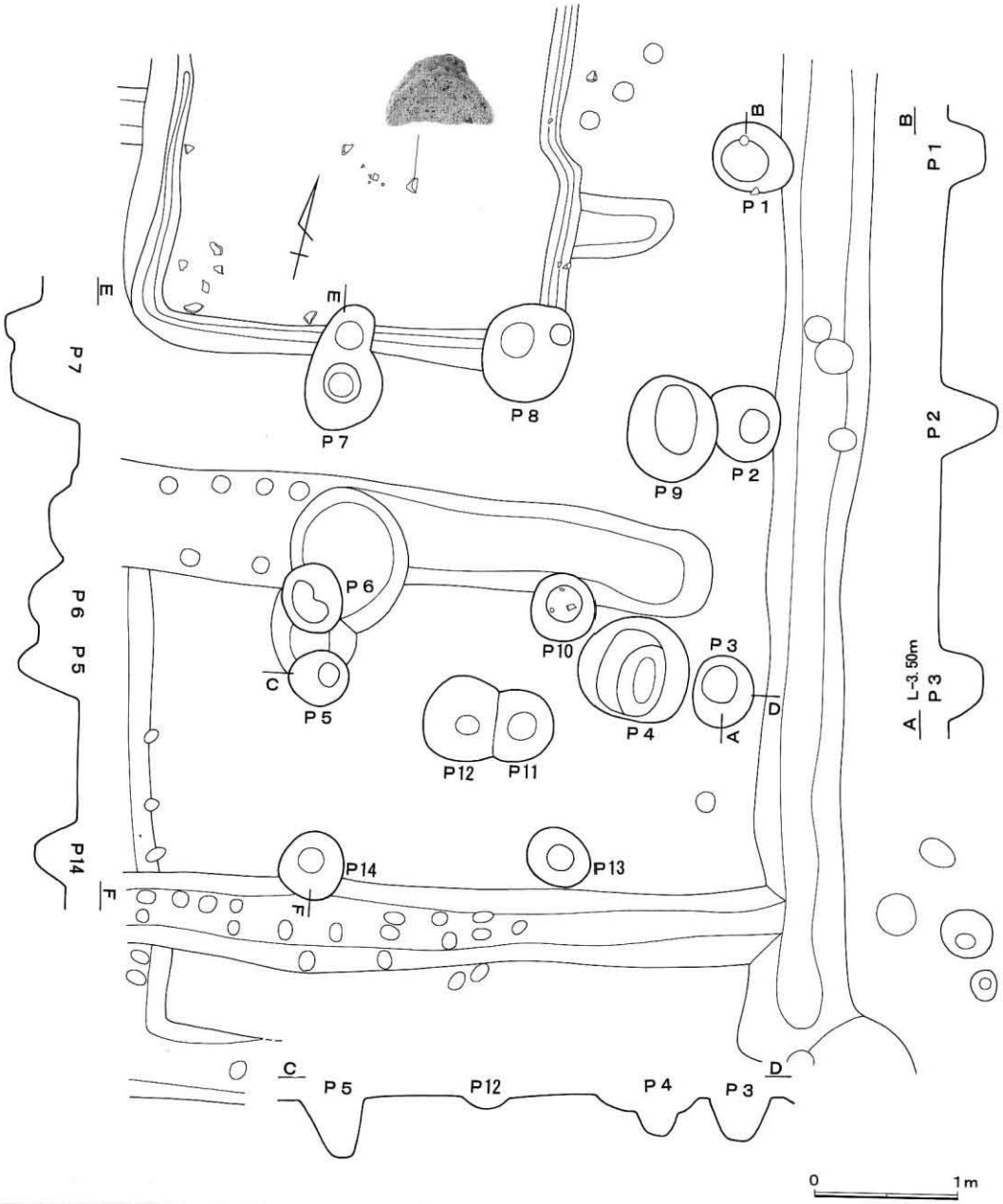
7号中世掘立柱建物跡

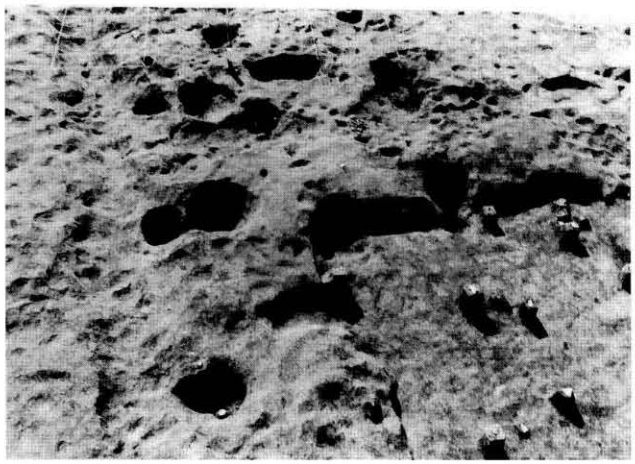
時　　期　14世紀
位　　置　12E-46-16・17
規模(柱間)桁行4間(2.0m)、梁行1間(3.0m)
主軸方向　N-25°-W
深　　さ　0.3～0.7m
柱 穴 径　0.3～0.5m
遺　　物
特記事項

図 203　鎌倉・室町時代の遺



構（７号中世掘立柱建物跡）





8号中世掘立柱建物跡

時　　期　14世紀
位　　置　12E-46-17・18
規模(柱間)桁行3間(1.9m)、梁行1間(2.8m)
主軸方向　N-7°-W
深　　さ　0.3～0.4m
柱 穴 径　0.4～0.5m
遺　　物　古瀬戸瓶子
特記事項

図 204　鎌倉・室町時代の遺構（８号中世掘立柱建物跡）

11号中世掘立柱建物跡

時　　期　15世紀
位　　置　12E-47-9
規模(柱間)　桁行2間(2.6m)、梁行1間(3.5m)
主軸方向　N-56°-E
深　　さ　0.4～0.5m
柱 穴 径　0.3～0.4m
遺　　物
特記事項　10号建物跡に隣接し、同時期と推定する

図 205　鎌倉・室町時代の遺構（11 号中世掘立柱建物跡）

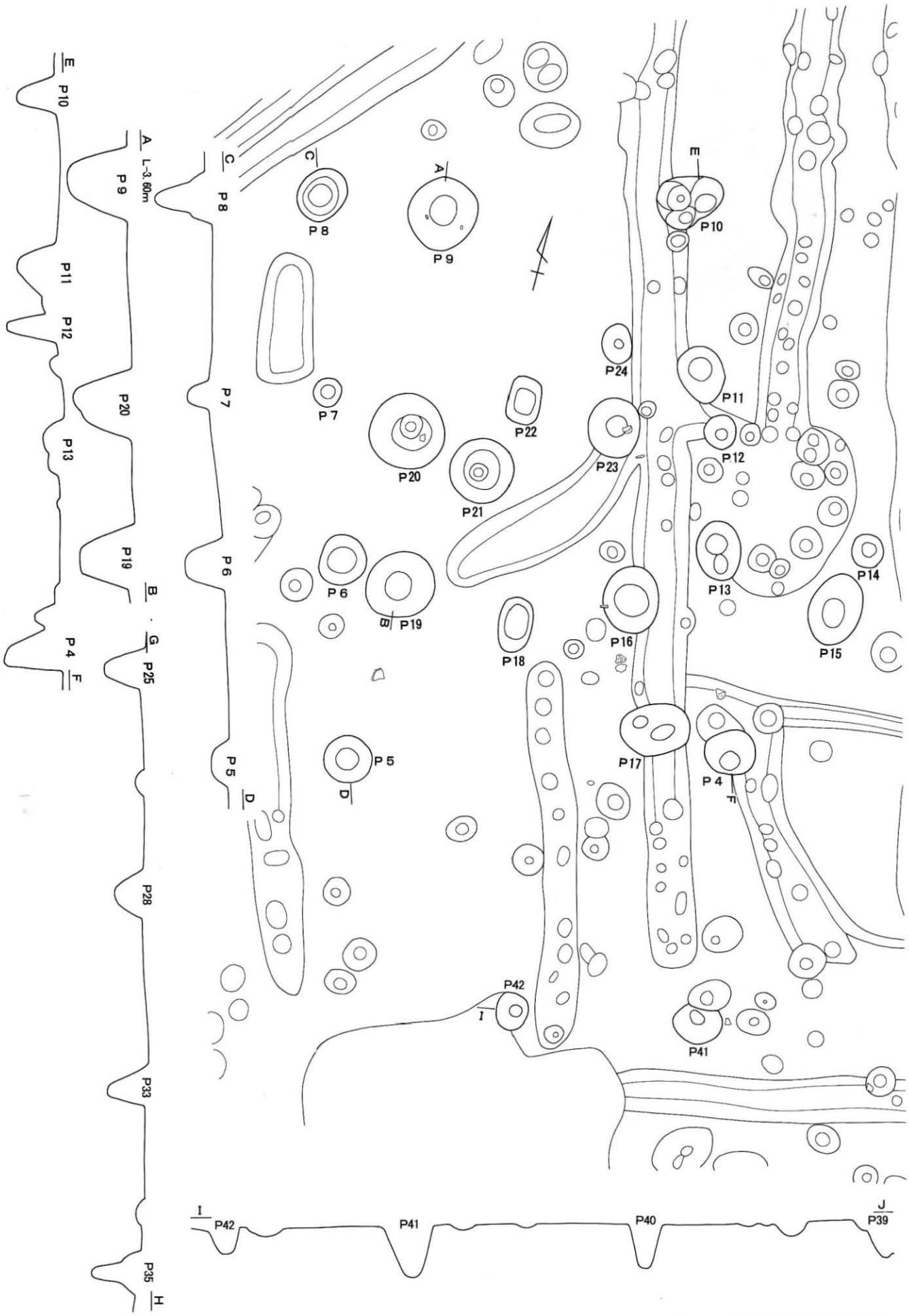
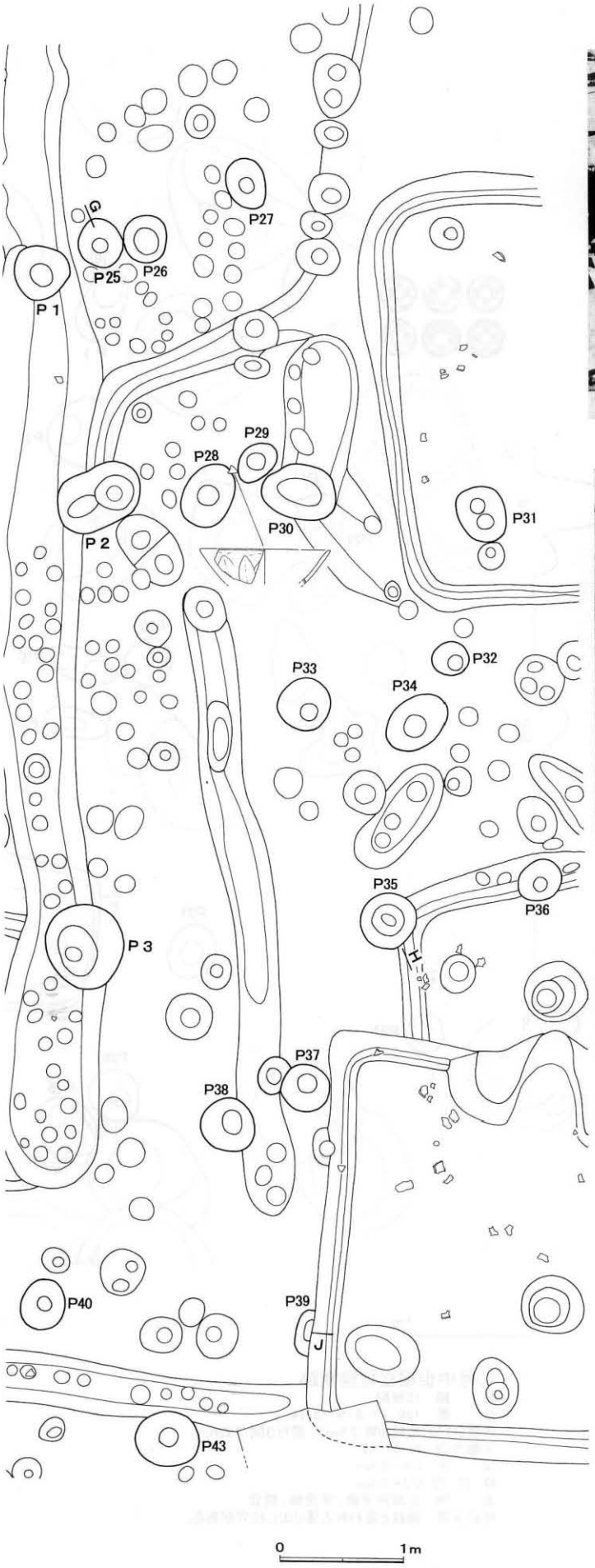
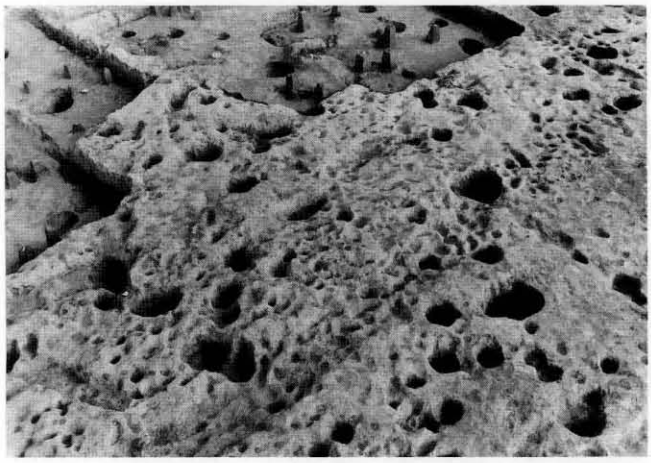
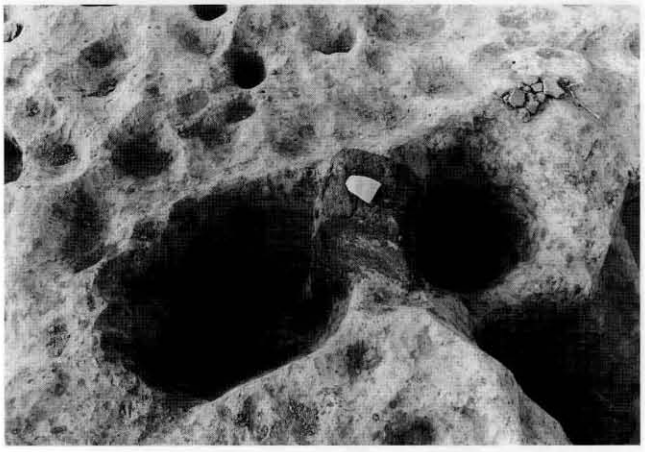


図 206　鎌倉・室町時代の遺



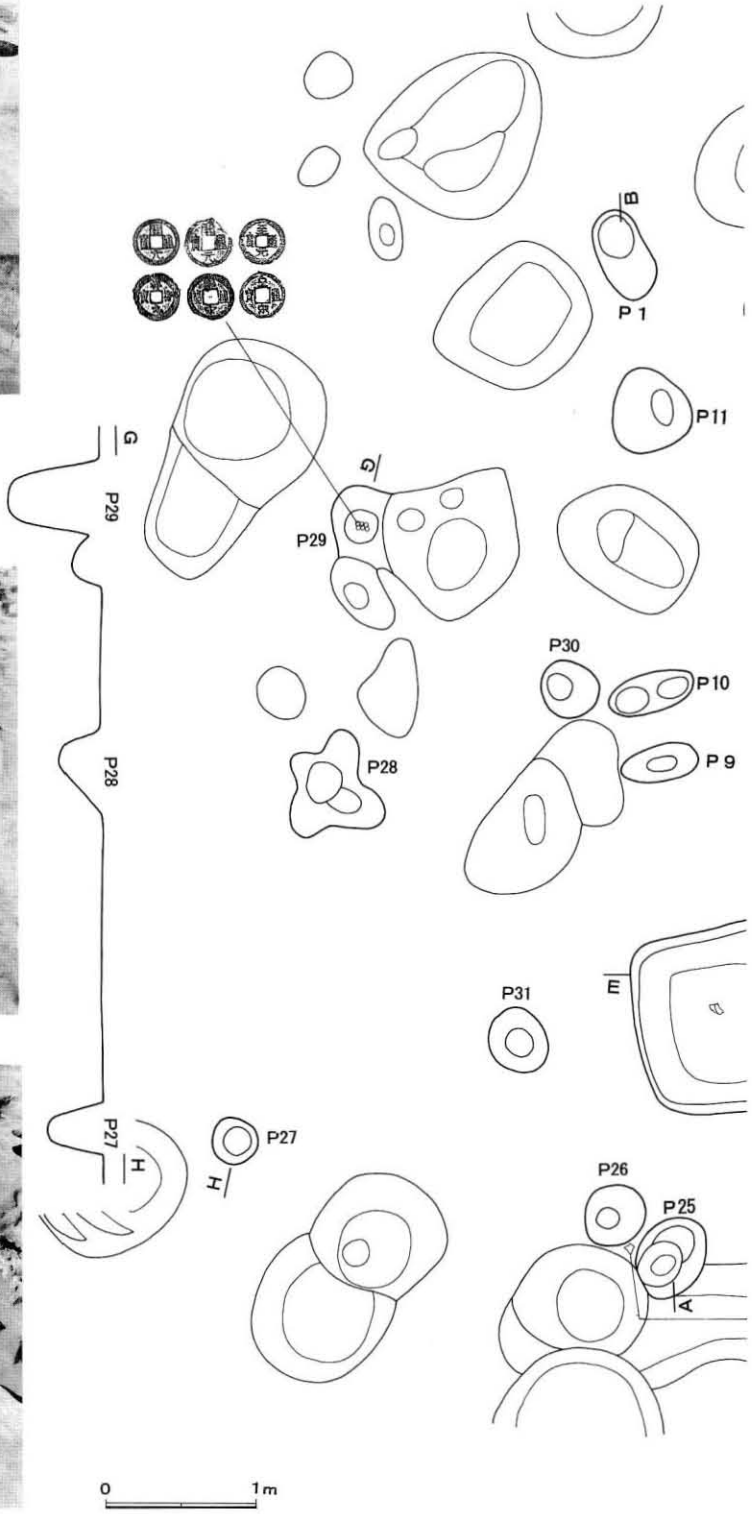




9号中世掘立柱建物跡

時　　期　13～14世紀
位　　置　12E-56-3・4・9
規模（柱間）桁行3間（2.0m）、梁行1間（3.5m）
主軸方向　N-13°-W
深　　さ　0.2～0.6m
柱 穴 径　0.3～0.7m
遺　　物　青磁蓮弁文碗
特記事項　2～3棟が重なっていると推定される

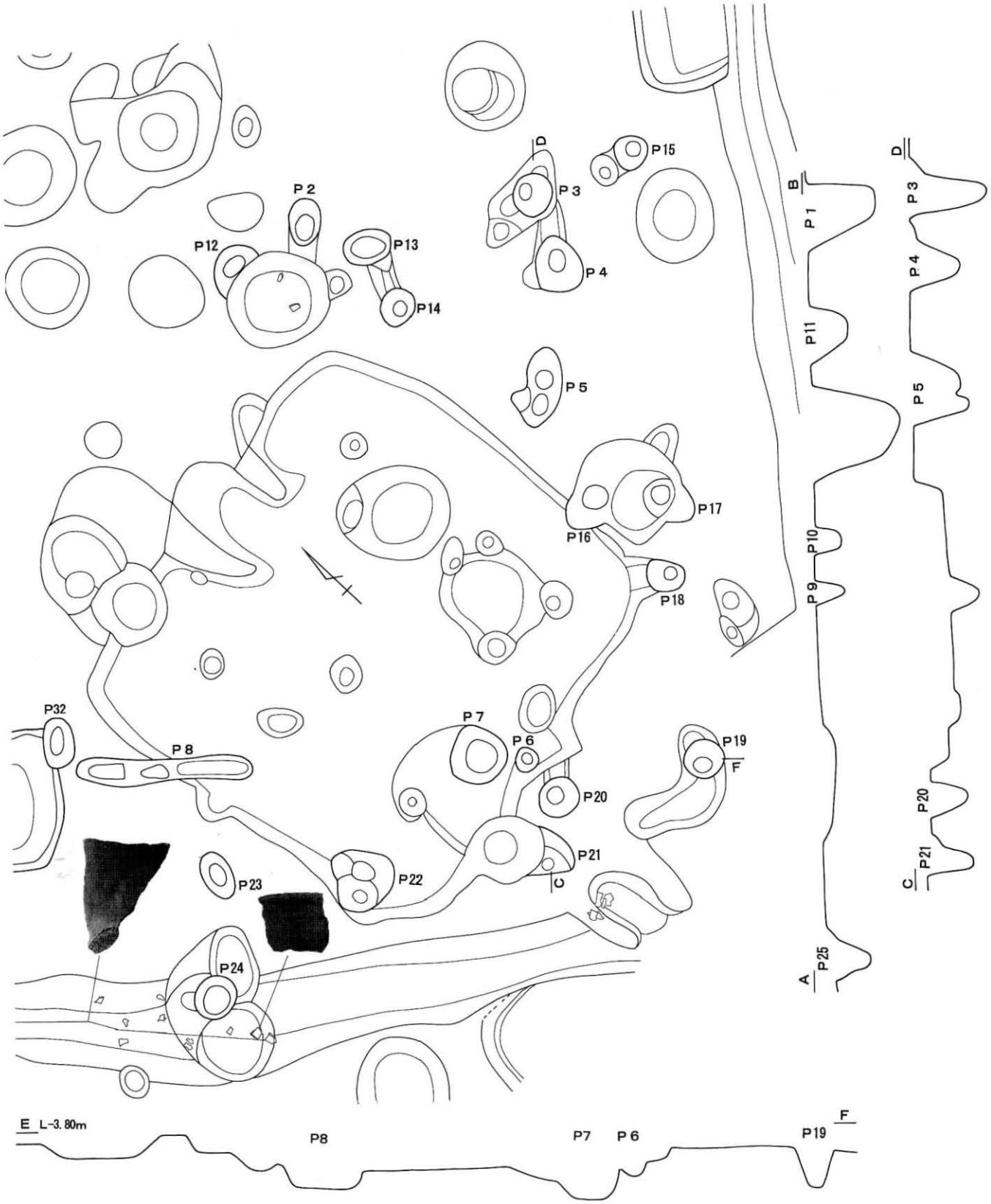
構（9号中世掘立柱建物跡）



10号中世掘立柱建物跡

時　　期　15世紀
位　　置　12E-47-8・9・13・14
規模(柱間)　桁行3間(2.5m)、梁行3間(2.2m)
主軸方向　N-45°-W
深　　さ　0.4～0.5m
柱 穴 径　0.3～0.6m
遺　　物　古瀬戸平碗、常滑鉢、銭貨
特記事項　廂柱と思われる張り出し柱穴がある。

図 207　鎌倉・室町時代の遺



構（10号中世掘立柱建物跡）

12号中世掘立柱建物跡

時　　期　15世紀
位　　置　12E-47-24
規模(柱間)　桁行2間(2.0m)、梁行1間(2.5m)
主軸方向　N-72°-E
深　　さ　0.2～0.6m
柱 穴 径　0.3～0.7m
遺　　物
特記事項　南側に張り出しあり。

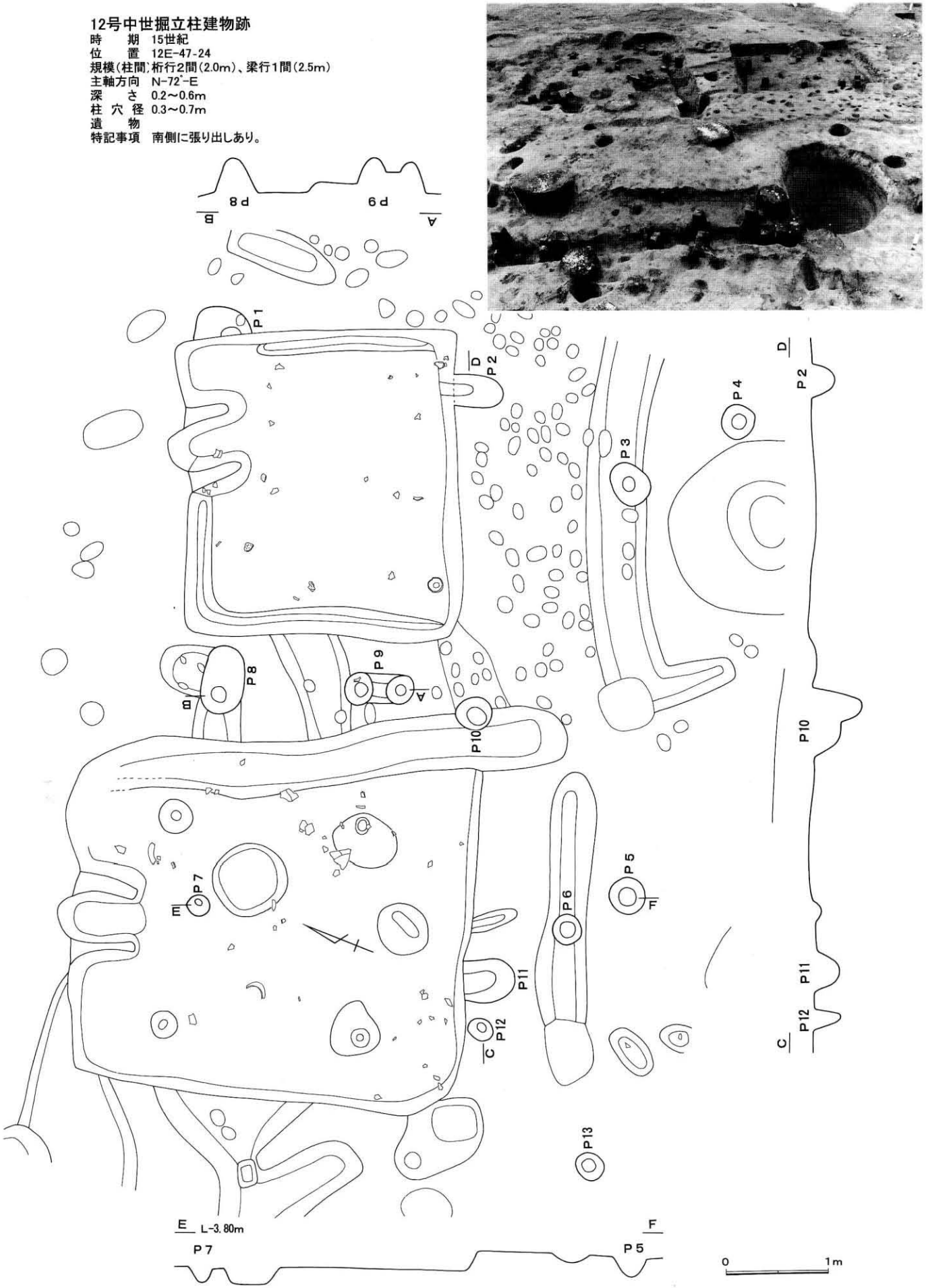


図 208　鎌倉・室町時代の遺構（12 号中世掘立柱建物跡）

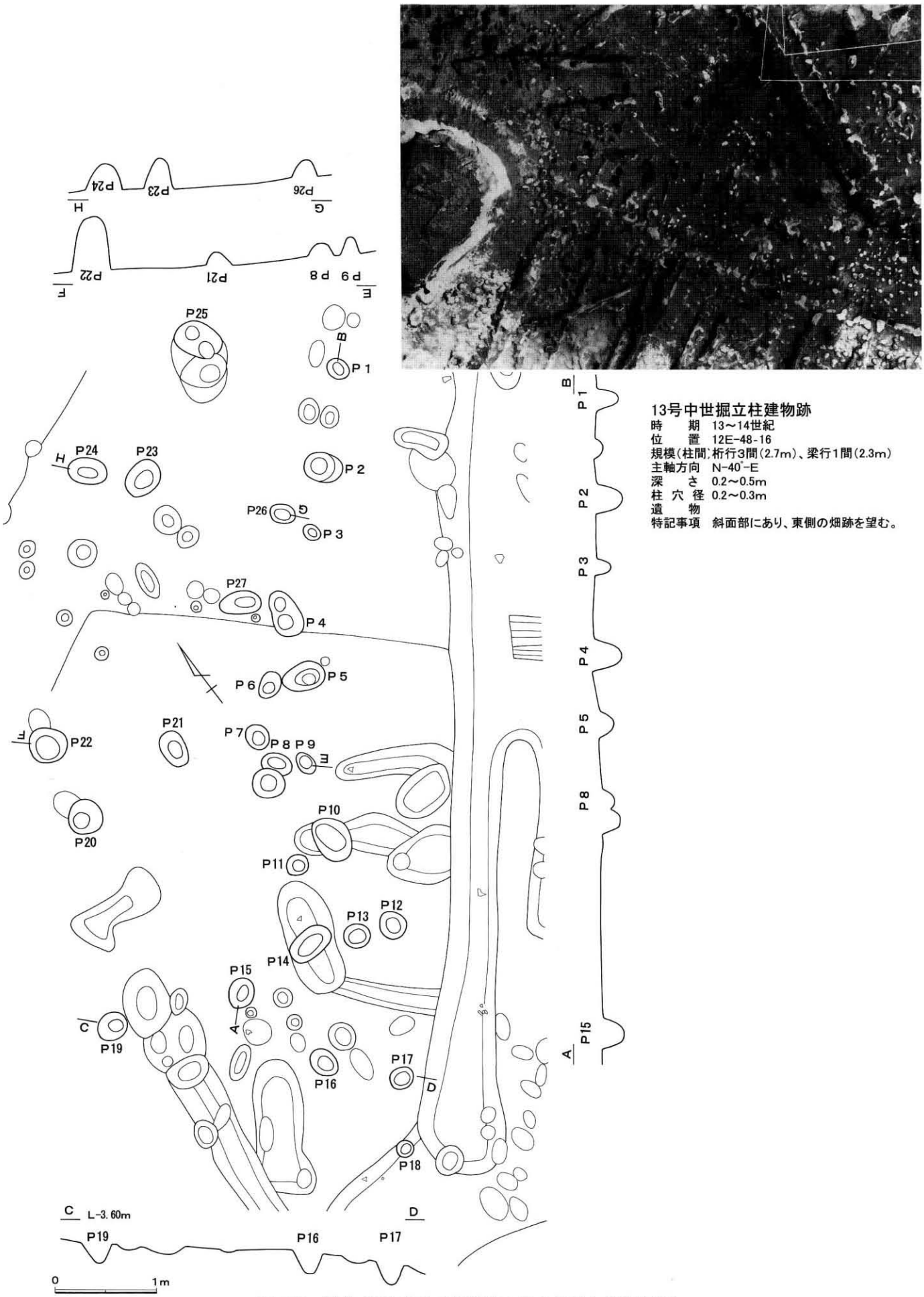
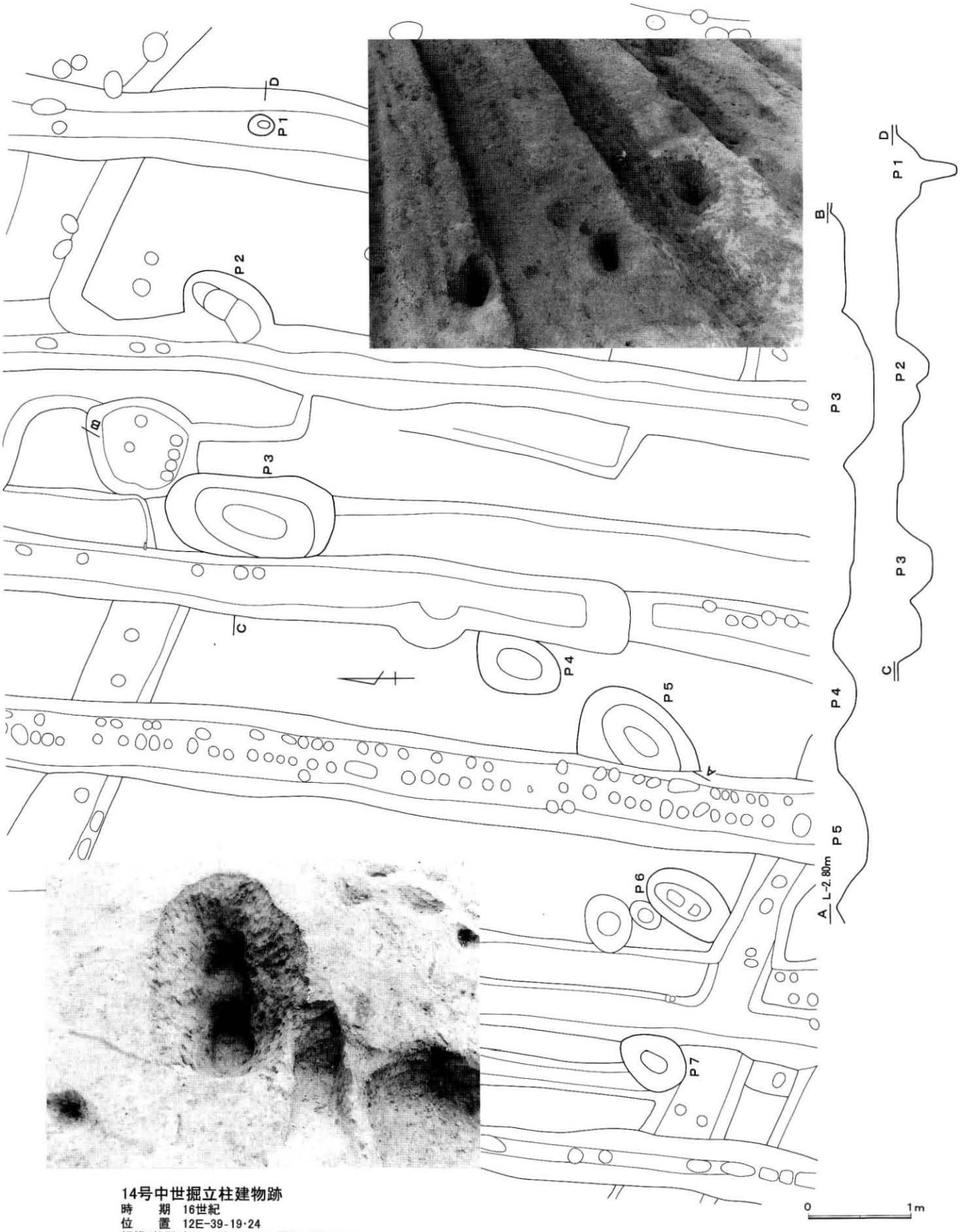


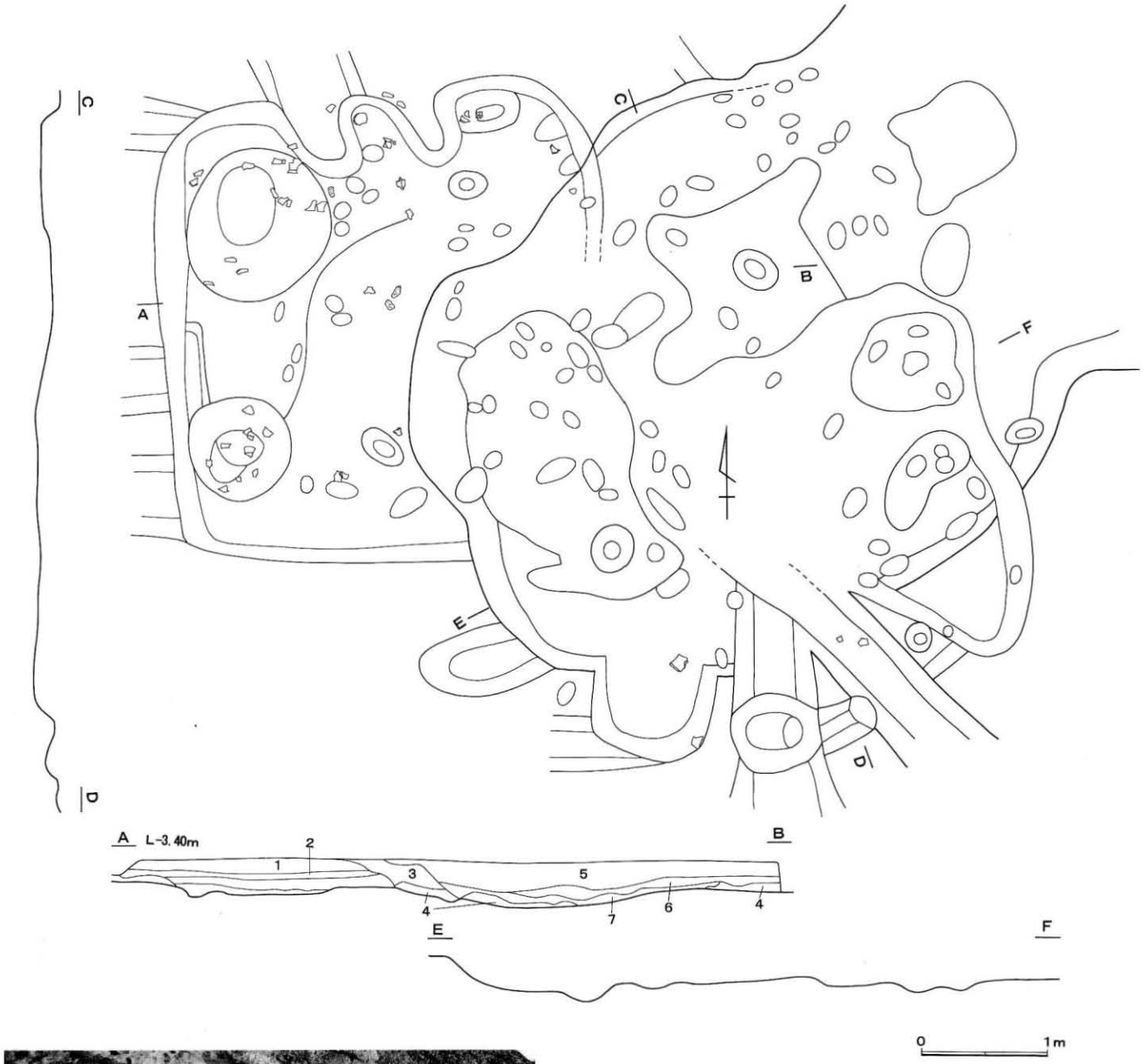
図 209　鎌倉・室町時代の遺構（13 号中世掘立柱建物跡）



14号中世掘立柱建物跡

時　　期　16世紀
位　　置　12E-39-19・24
規模(柱間)桁行2間(2.2m)、梁行2間(1.5m)
主軸方向　N-28°-E
深　　さ　0.3m
柱 穴 径　0.7×0.5～1.7×0.8m
遺　　物
特記事項　柱穴が方形に並ばず、構造不明。

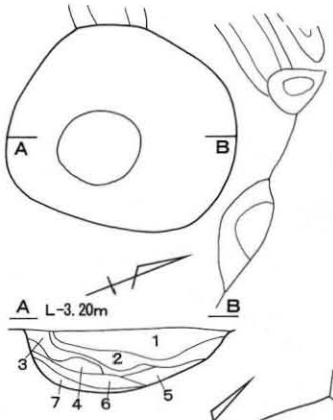
図 210　鎌倉・室町時代の遺構（14 号中世掘立柱建物跡）



1号中世竪穴遺構

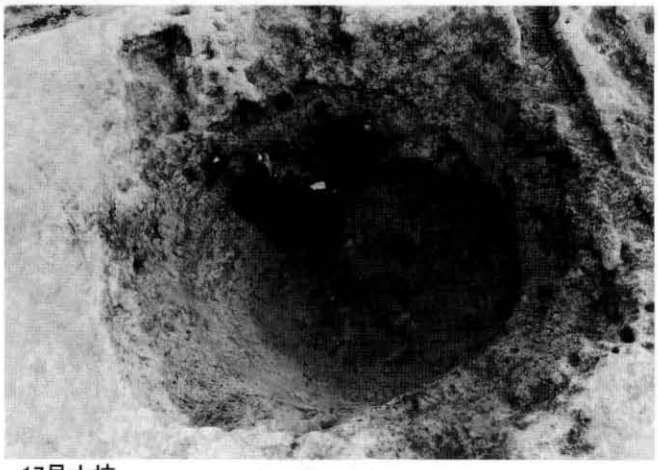
時　　期	14世紀
位　　置	12E-55-5
形　　態	隅丸方形
規　　模	3.8×4.3m
主軸方向	N-18°-W
深　　さ	0.1m
床　　面	平坦でよく踏み固められている。
遺　　物	東側で常滑甕片出土
特記事項	54号中世溝に繋がるが、性格不明。
層　　序	1　黒灰色土(砂混じり、少し褐色でしまる) 2　黒灰色土(砂、黒色土混じり、しまる) 3　暗灰色土(砂多く混じる) 4　暗灰色土(砂多く混じり、しまる) 5　黒灰色土(砂混じり、少し褐色) 6　黒灰色土(砂多く混じる) 7　黒色土(砂混じり、しまる

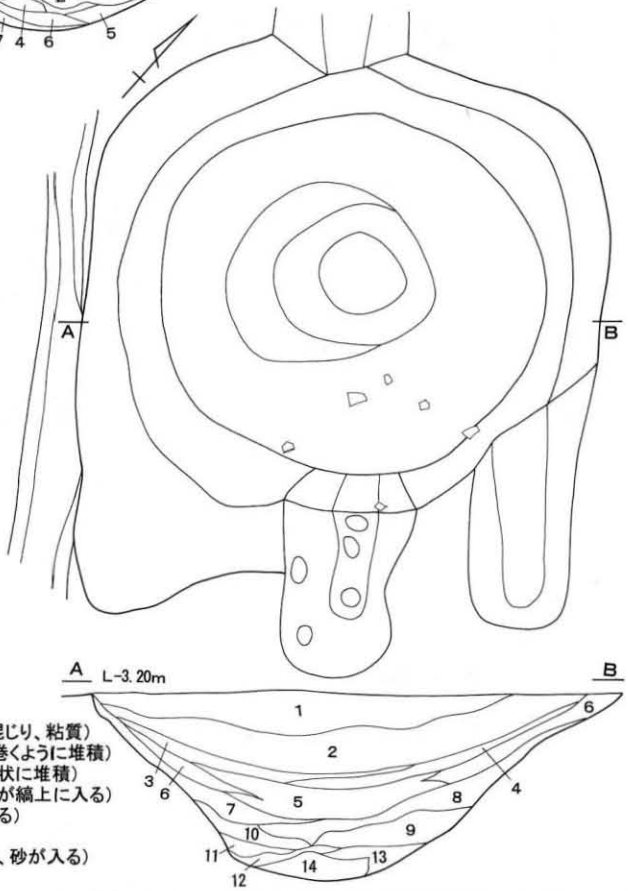
図 211　鎌倉・室町時代の遺構（1号中世竪穴遺構）



16号土坑

時　　期	14世紀
位　　置	12E-45-12
形　　態	楕円形、皿形
規　　模	1.8×1.3m
主軸方向	N-5°-E
深　　さ	0.2m
遺　　物	
特記事項	



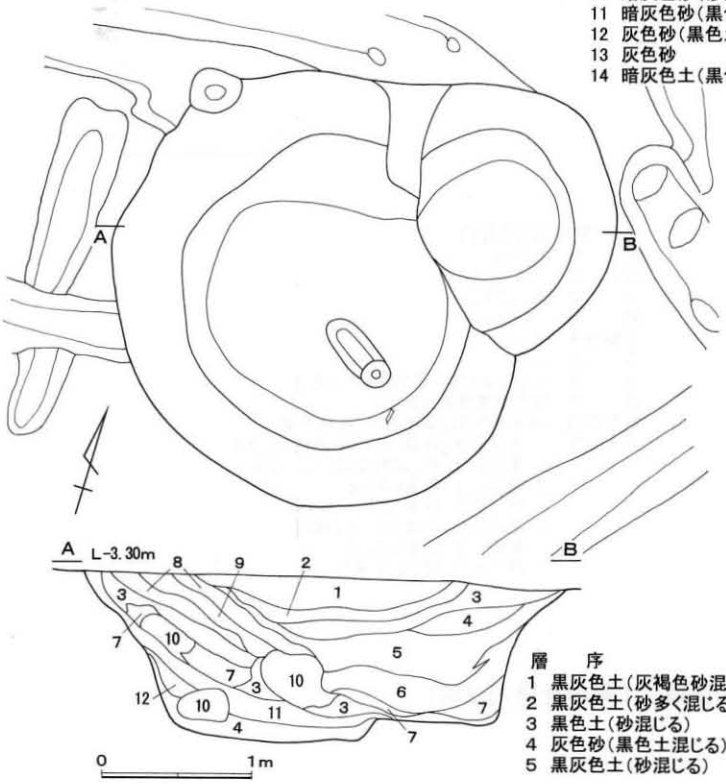


17号土坑

時　　期	14世紀
位　　置	12E-45-17
形　　態	円形、擂鉢形
規　　模	3.1×3.4m
主軸方向	N-−°-E
深　　さ	1.25m
遺　　物	土師器甕
特記事項	

層　序

1 黒褐色土(砂混じる)
2 黒褐色土(砂塊状に混じる)
3 黒色土(砂少し混じり、粘質)
4 黒灰色土(砂多く混じる)
5 黒灰色土(砂少し混じり、褐鉄出る)
6 黒灰色土(砂混じる)
7 暗灰色砂(黒色土混じる)
8 暗灰色土(砂少し混じり、粘質)
9 暗灰色砂(砂が渦巻くように堆積)
10 暗灰色砂(砂が縞状に堆積)
11 暗灰色砂(黒色土が縞上に入る)
12 灰色砂(黒色土入る)
13 灰色砂
14 暗灰色土(黒色土、砂が入る)



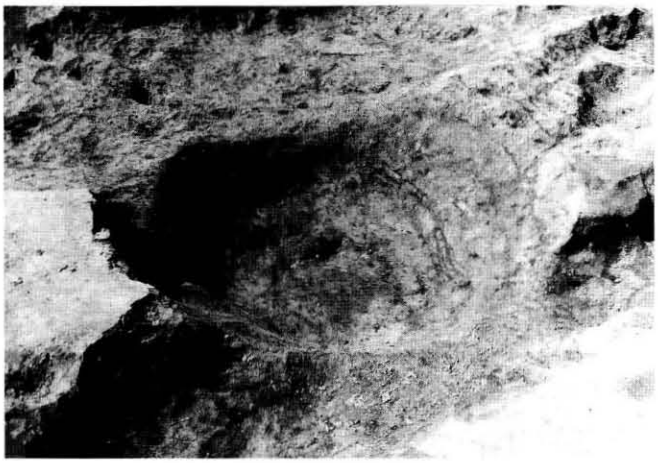
18号土坑

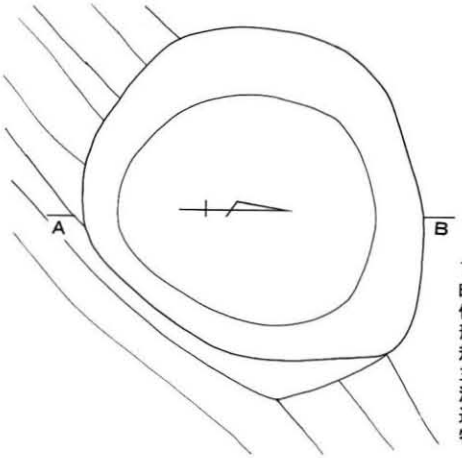
時　　期	14世紀
位　　置	12E-45-16・17
形　　態	円形、鉢形
規　　模	2.9×2.7m、1.8×1.8m
主軸方向	N-−°-E
深　　さ	1.05m、0.95m
遺　　物	
特記事項	2基の土坑が重なる

層　序

1 黒灰色土(灰褐色砂混じる)
2 黒灰色土(砂多く混じる)
3 黒色土(砂混じる)
4 灰色砂(黒色土混じる)
5 黒灰色土(砂混じる)
6 灰色砂(暗灰色砂縞状に混じる)
7 暗灰色砂(黒色土混じる)
8 灰褐色砂(黒色土混じる)
9 黒色土(褐色砂混じる)
10 黒色土塊
11 灰色砂(暗灰色砂・黒色土混じる)
12 黒色土と砂の縞状互層

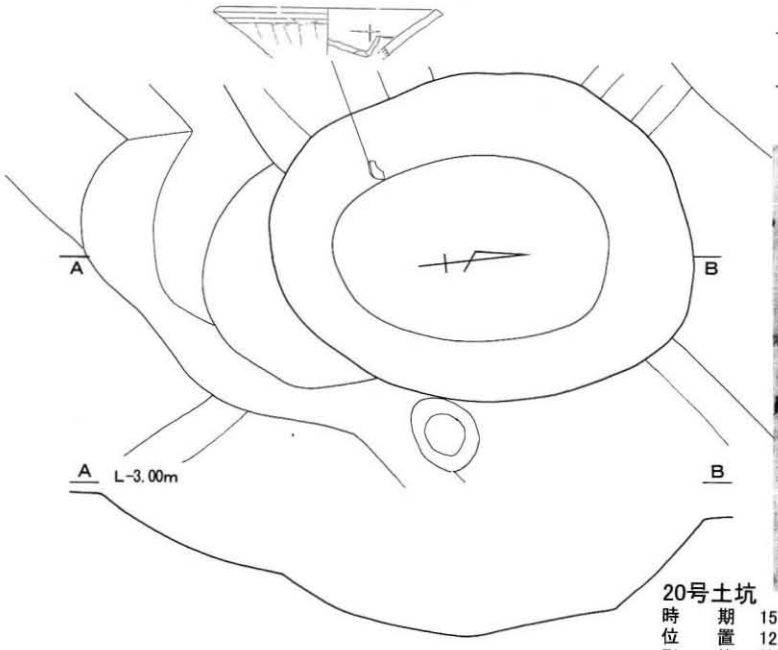
図 212　鎌倉・室町時代の遺構（16～18 号土坑）

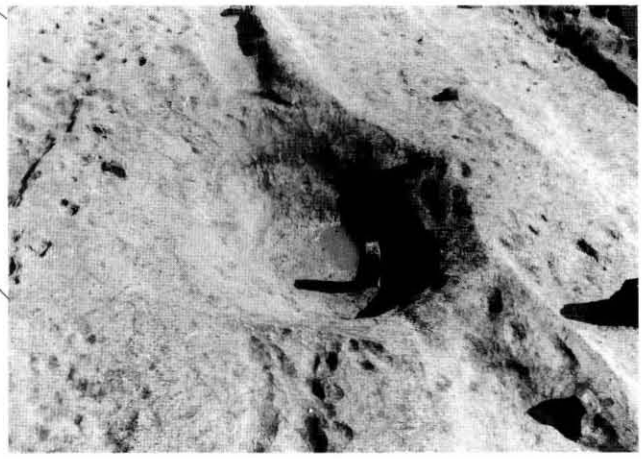




19号土坑

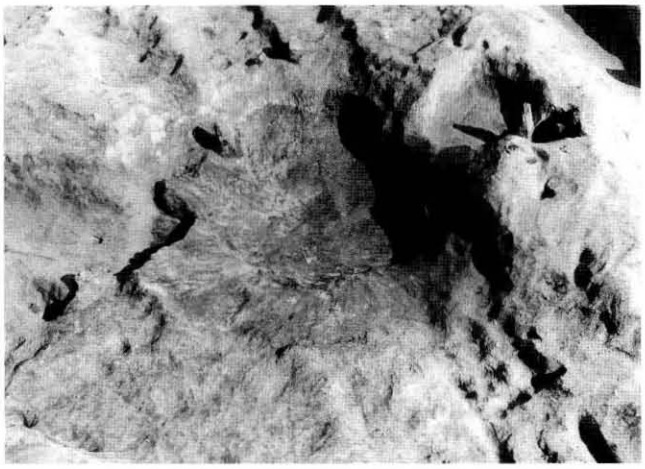
時　　期	15世紀
位　　置	12E-45-24
形　　態	円形、皿形
規　　模	2.25×2.2m
主軸方向	N--°-E
深　　さ	0.3m
遺　　物	
特記事項	

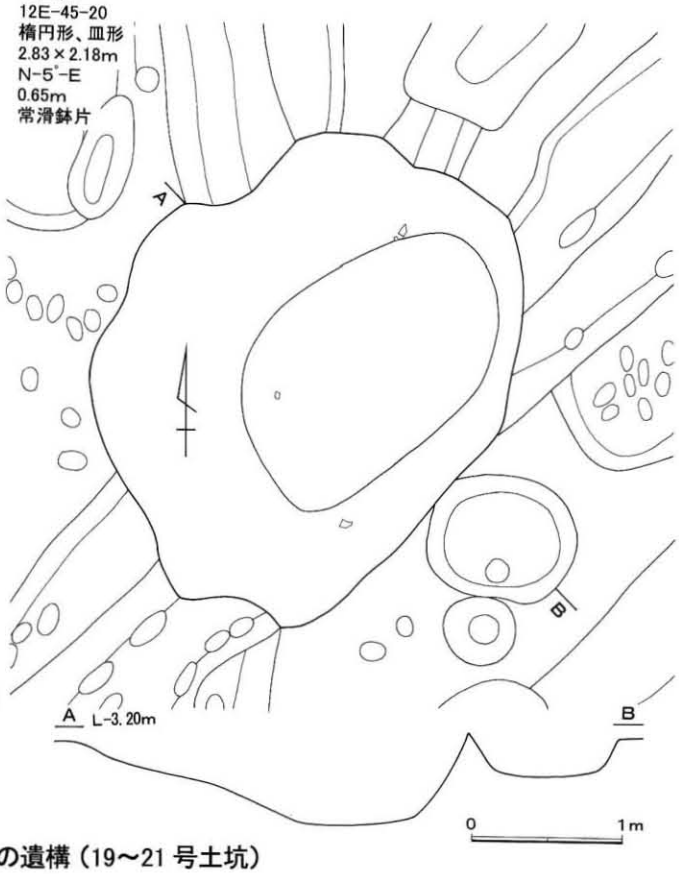




20号土坑

時　　期	15世紀
位　　置	12E-45-20
形　　態	楕円形、皿形
規　　模	2.83×2.18m
主軸方向	N-5°-E
深　　さ	0.65m
遺　　物	常滑鉢片
特記事項	

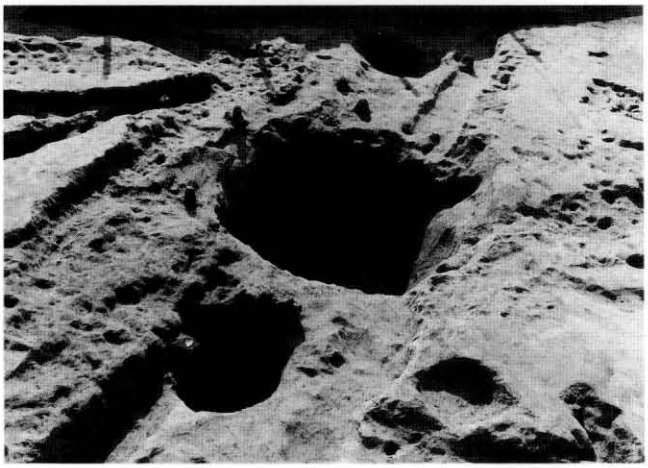


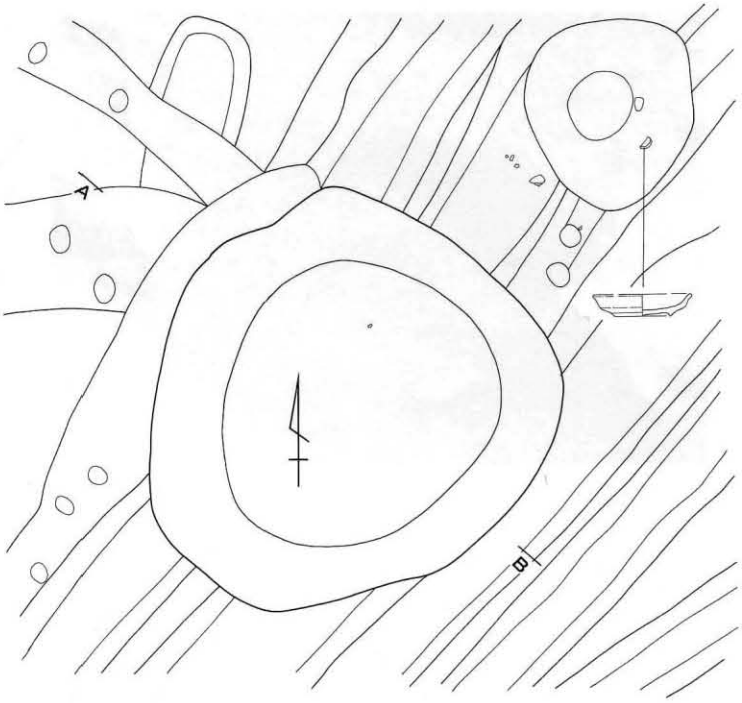


21号土坑

時　　期	15世紀
位　　置	12E-55-7
形　　態	楕円形、皿形
規　　模	3.25×2.6m
主軸方向	N-47°-E
深　　さ	0.6m
遺　　物	土師器甕片
特記事項	

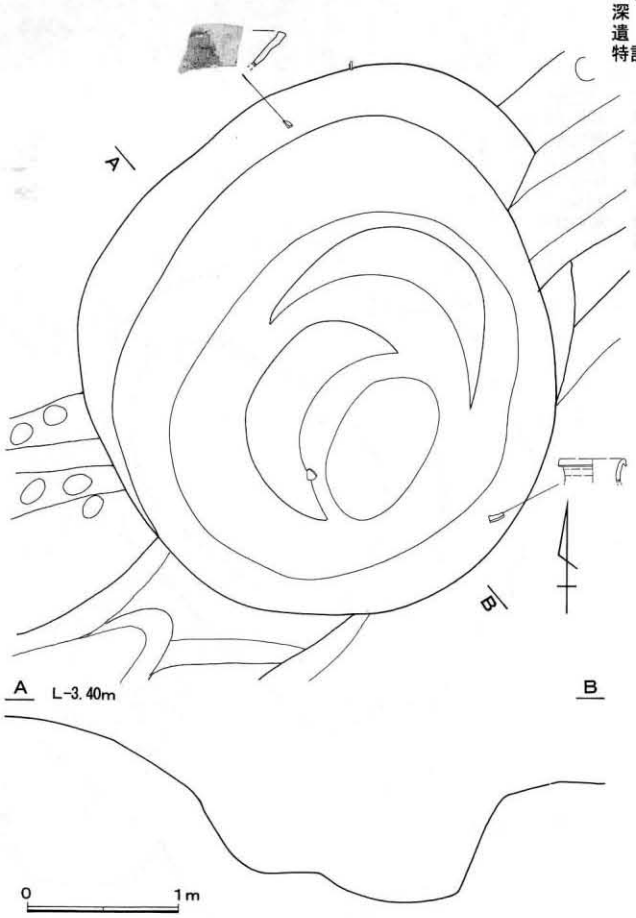
図 213　鎌倉・室町時代の遺構（19～21 号土坑）





25号土坑

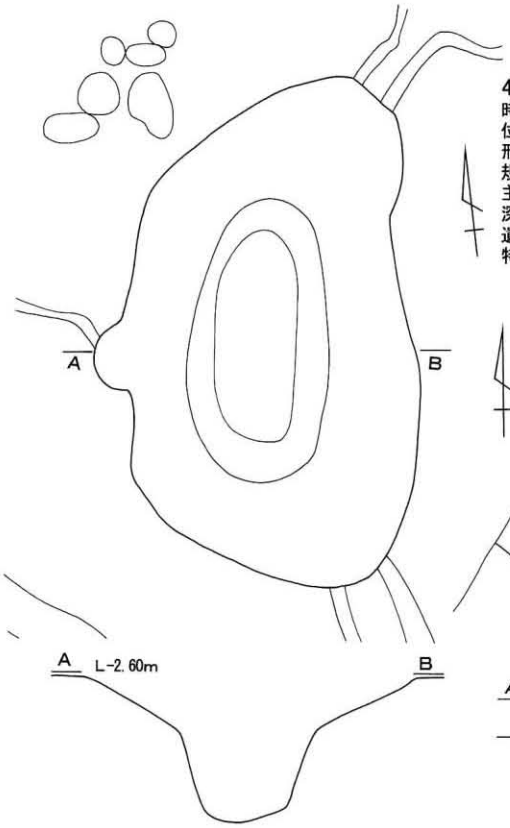
時　　期	15世紀
位　　置	12E-55-11
形　　態	円形、鉢形
規　　模	2.8×2.6m
主軸方向	N--°-E
深　　さ	1.4m
遺　　物	北側の小坑から端反皿
特記事項	



26号土坑

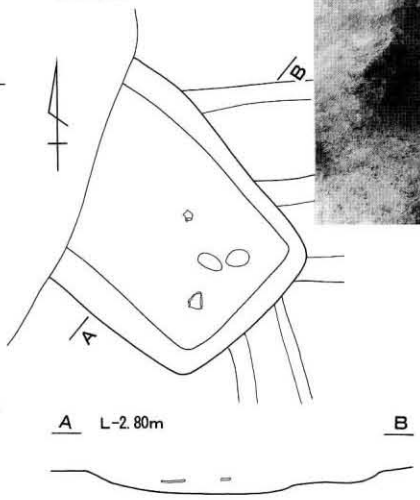
時　　期	14世紀
位　　置	12E-46-11
形　　態	円形、鉢形
規　　模	3.7×3.3m
主軸方向	N--°-E
深　　さ	1.2m
遺　　物	古瀬戸卸皿、常滑壺
特記事項	

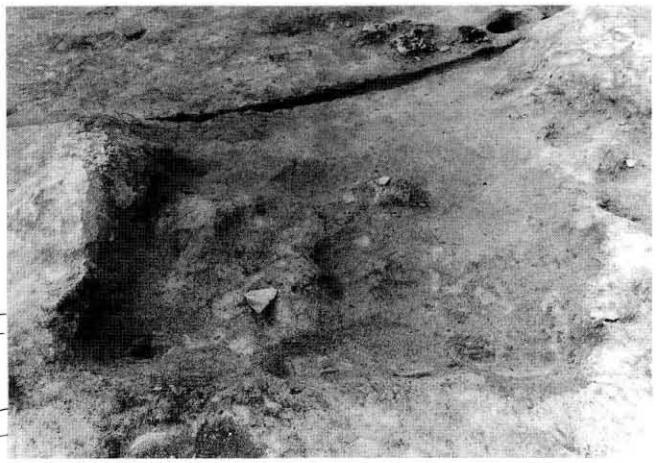
図 214　鎌倉・室町時代の遺構（25・26 号土坑）



47号土坑

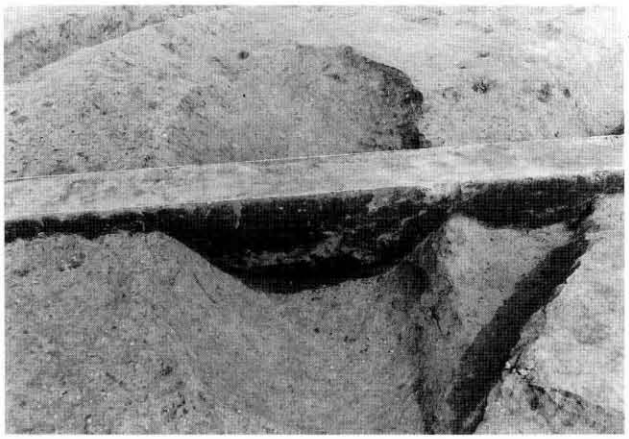
時　　期	13世紀
位　　置	12E-48-20
形　　態	楕円形、擂鉢形
規　　模	6.3×6.0m
主軸方向	N-48°-W
深　　さ	1.1m
遺　　物	
特記事項	

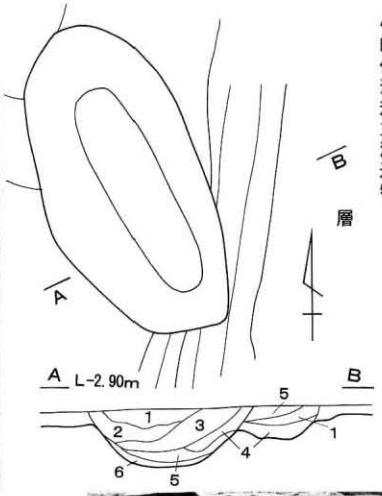




48号土坑

時　　期	13世紀
位　　置	12E-58-5
形　　態	長方形、皿形
規　　模	1.75×1.4m
主軸方向	N-42°-W
深　　さ	0.1m
遺　　物	縄文土器
特記事項	古代遺構より新しく、方向から中世とした。

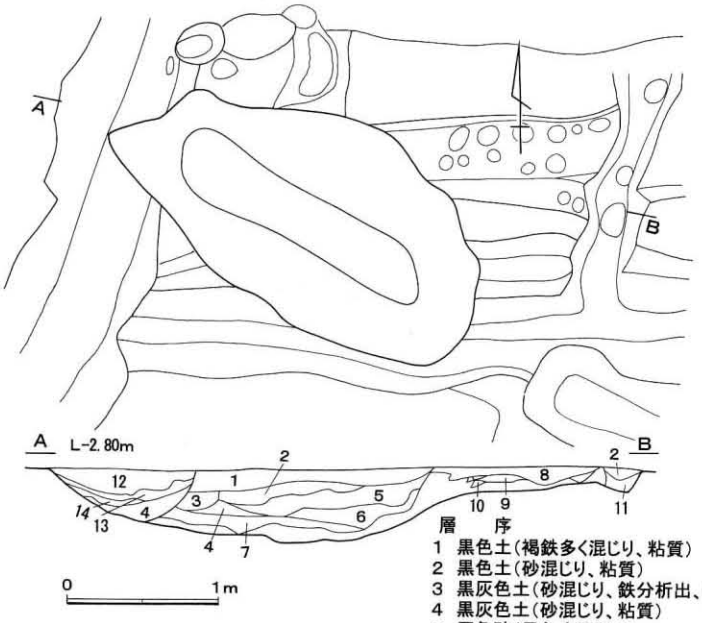




49号土坑

時　　期	16世紀
位　　置	12E-39-24
形　　態	長円形、擂鉢形
規　　模	2.2×1.1m
主軸方向	N-26°-W
深　　さ	0.4m
遺　　物	
特記事項	

層　序
1 黒色土(白色砂少し混じり、しまる)
2 黒色土(灰色砂混じり、しまる)
3 黒色土(白色砂塊状に入る)
4 黒色土(白色砂混じる)
5 黒色土(灰色砂少し混じる)
6 灰色砂(黒色土混じる)

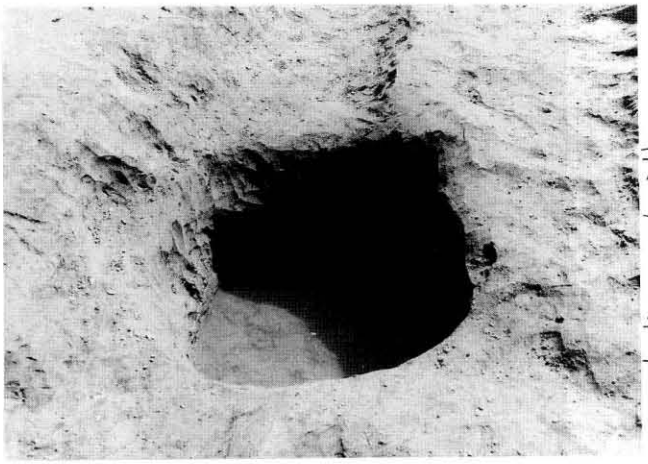


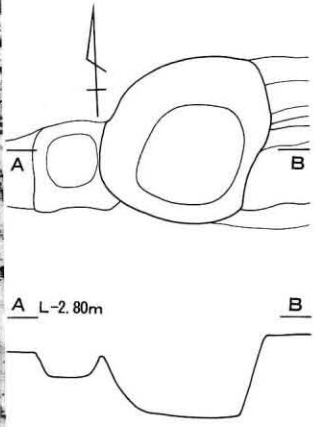
層　序
1 黒色土(褐鉄多く混じり、粘質)
2 黒色土(砂混じり、粘質)
3 黒灰色土(砂混じり、鉄分析出、粘質)
4 黒灰色土(砂混じり、粘質)
5 灰色砂(黒色土混じる)
6 黒色土(褐色砂混じり、粘質)
7 黒色土(砂少し混じり、粘質強い)
8 黒色土(白色土混じり、粘質)
9 黒色土(砂多く混じる)
10 黒灰色土(砂混じる)
11 灰色砂(黒色土少し混じる)
12 赤黒色土(砂混じり、粘質)
13 黒灰色土(砂多く混じり、粘質)
14 黒灰色土(砂混じり、粘質でしまる)
15 黒灰色土(砂混じり、粘質)

50号土坑

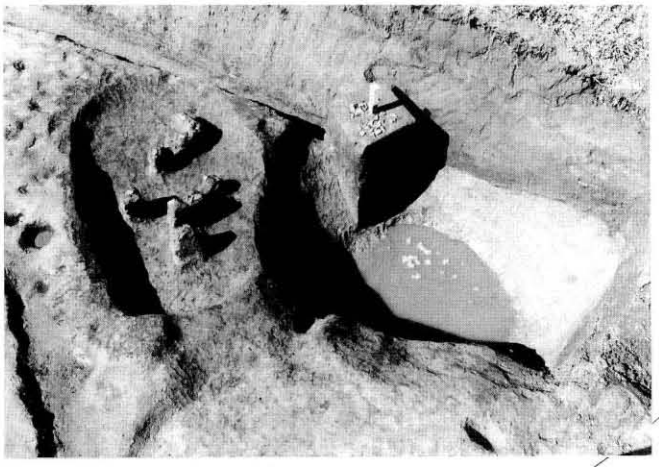
時　　期	16世紀
位　　置	12E-49-9
形　　態	長円形、擂鉢形
規　　模	2.7×1.35m
主軸方向	N-59°-W
深　　さ	0.5m
遺　　物	
特記事項	

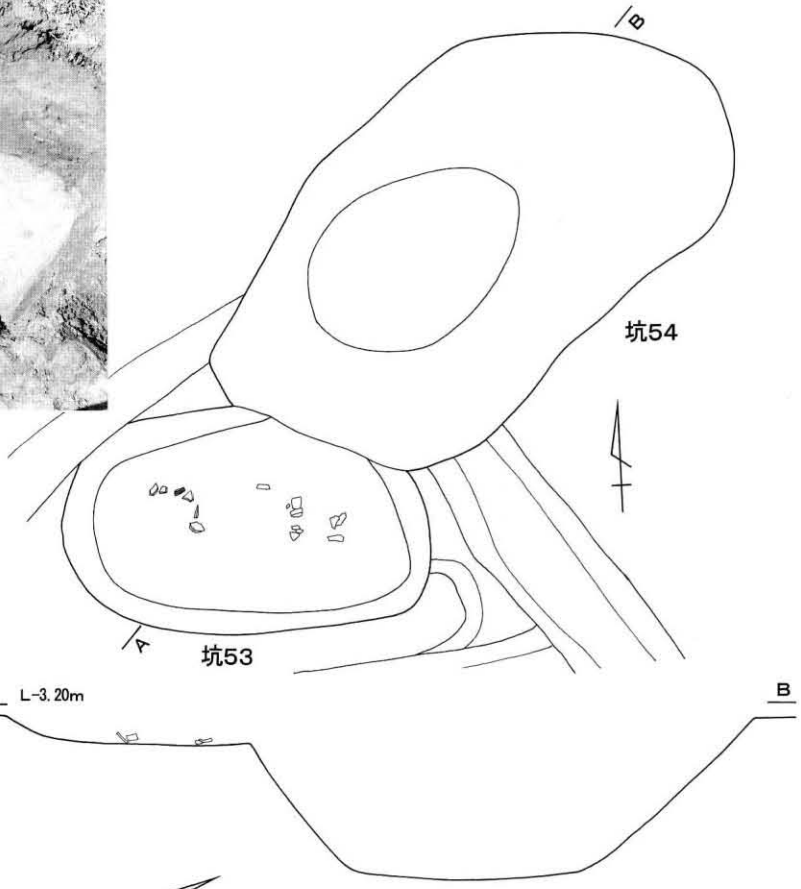
図 215　鎌倉・室町時代の遺構（47～50 号土坑）





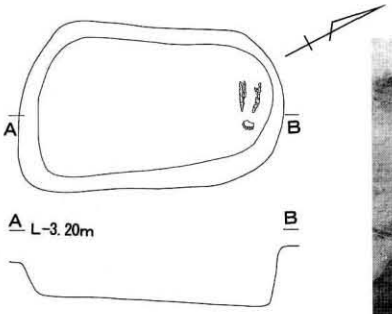
51号土坑
時　　期　16世紀
位　　置　12E-49-10
形　　態　方形、鉢形
規　　模　1.1×1.0m
主軸方向　N-12°-E
深　　さ　0.56m
遺　　物
特記事項

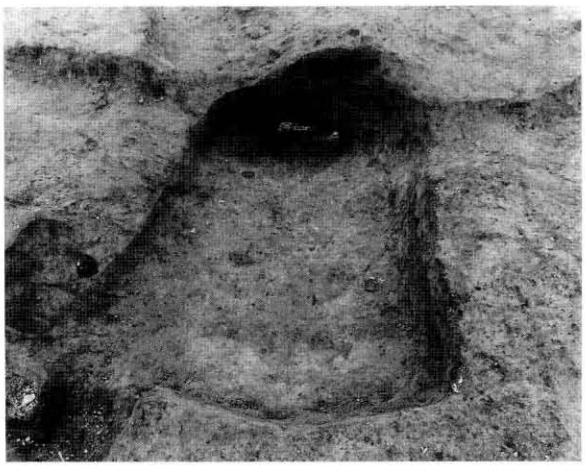




53号土坑
時　　期　15世紀
位　　置　12E-45-24
形　　態　楕円形、皿形
規　　模　3.38×1.92m
主軸方向　N-10°-E
深　　さ　0.95m
遺　　物
特記事項

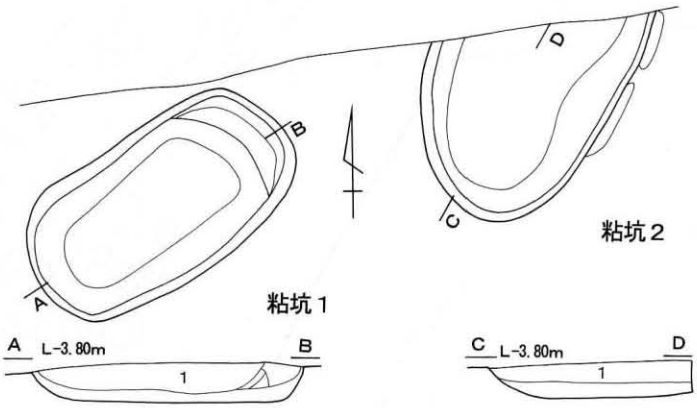
54号土坑
時　　期　16世紀
位　　置　12E-45-25
形　　態　楕円形、擂鉢形
規　　模　3.6×2.0m
主軸方向　N-48°-E
深　　さ　1.05m
遺　　物
特記事項





74号土坑
時　　期　中世か
位　　置　12E－53－22・23南側
規　　模　1.78×1.13m
主軸方向　N－25°－E
深　　さ　0.45。北壁の残りが良くほぼ垂直に立ち上がる。
遺　　物　北壁際でウマの上顎骨が出土。他に土器などの遺物は無し。
特記事項　覆土は黒灰色砂が堆積。覆土から推測すると中世になるか。

図 216　鎌倉・室町時代の遺構（51・53・54・74 号土坑）

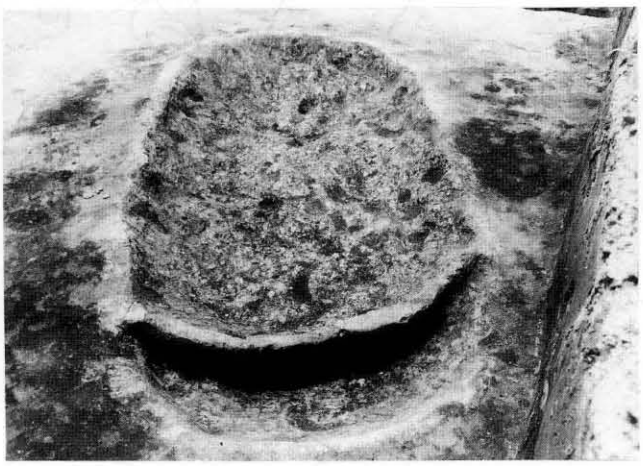


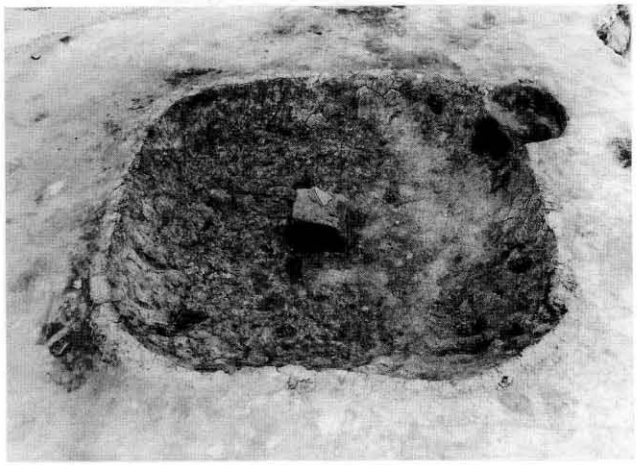
1号粘土貼土坑

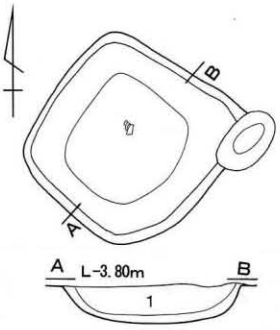
時　　期	15世紀
位　　置	12E-47-8
形　　態	長円形、皿形
規　　模	1.92×1.02m
主軸方向	N-55°-E
深　　さ	0.2m
遺　　物	
特記事項	粘土は黄色と白色下末吉ローム
層　　序	1　黒色土(粘土混じる)

2号粘土貼土坑

時　　期	15世紀
位　　置	12E-47-8
形　　態	長円形、皿形
規　　模	—×1.29m
主軸方向	N-28°-E
深　　さ	0.12m
遺　　物	
特記事項	粘土は黄色と白色下末吉ローム
層　　序	1　黒色土(粘土混じる)

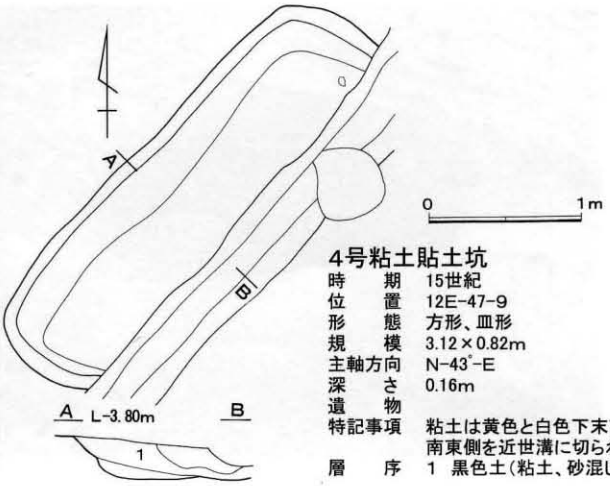






3号粘土貼土坑

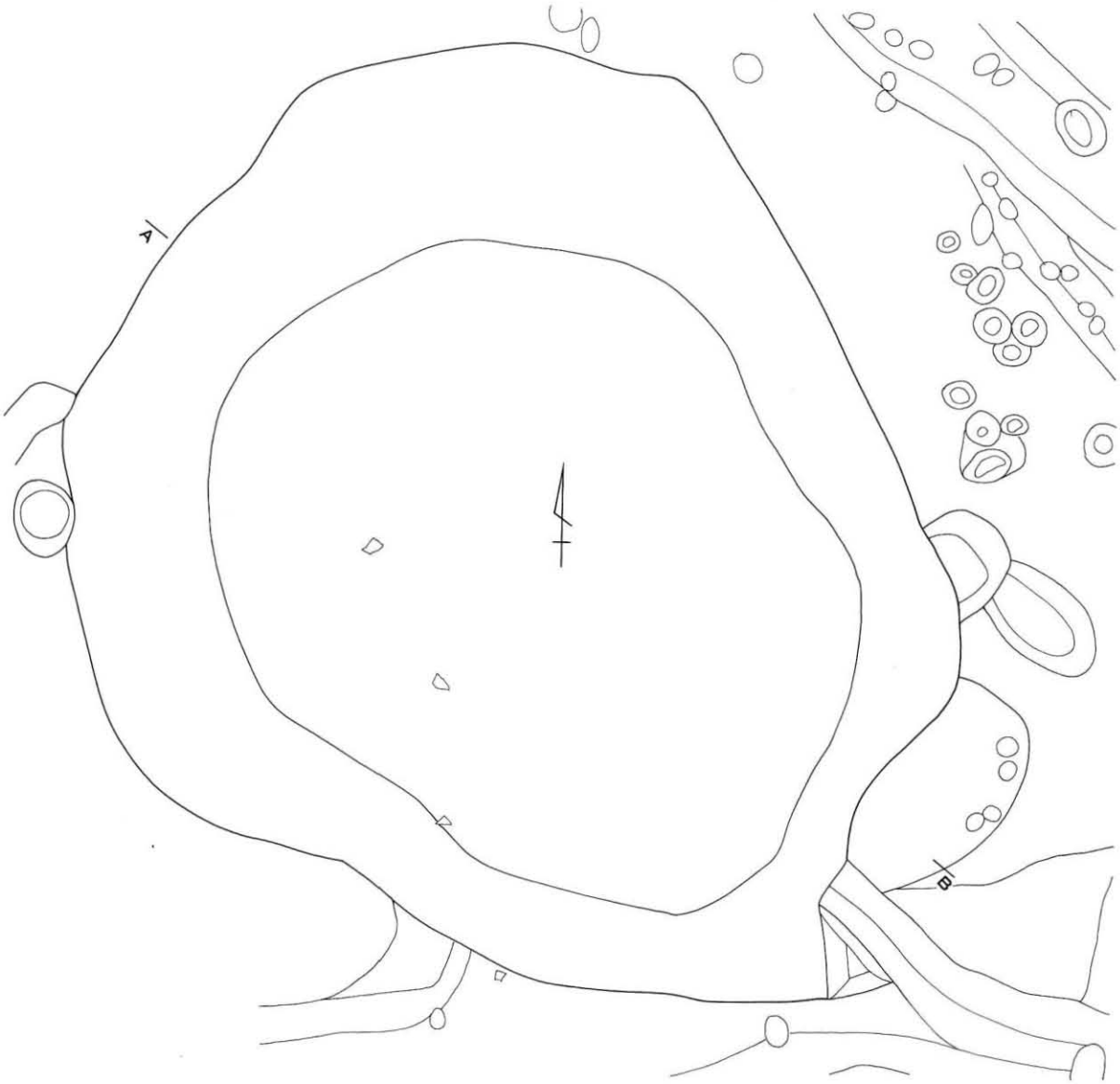
時　　期	15世紀
位　　置	12E-47-8・13
形　　態	方形、皿形
規　　模	1.23×1.22m
主軸方向	N-42°-E
深　　さ	0.18m
遺　　物	
特記事項	粘土は黄色と白色下末吉ローム
層　　序	1　黒色土(粘土混じる)

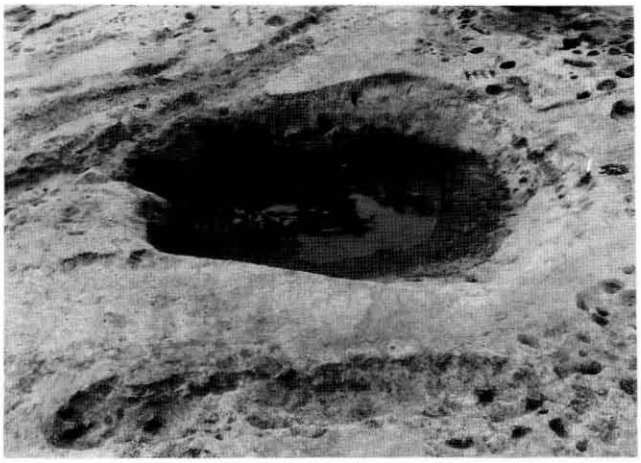


4号粘土貼土坑

時　　期	15世紀
位　　置	12E-47-9
形　　態	方形、皿形
規　　模	3.12×0.82m
主軸方向	N-43°-E
深　　さ	0.16m
遺　　物	
特記事項	粘土は黄色と白色下末吉ローム 南東側を近世溝に切られる
層　　序	1　黒色土(粘土、砂混じる)

図 217　鎌倉・室町時代の遺構（1～4号粘土貼土坑）

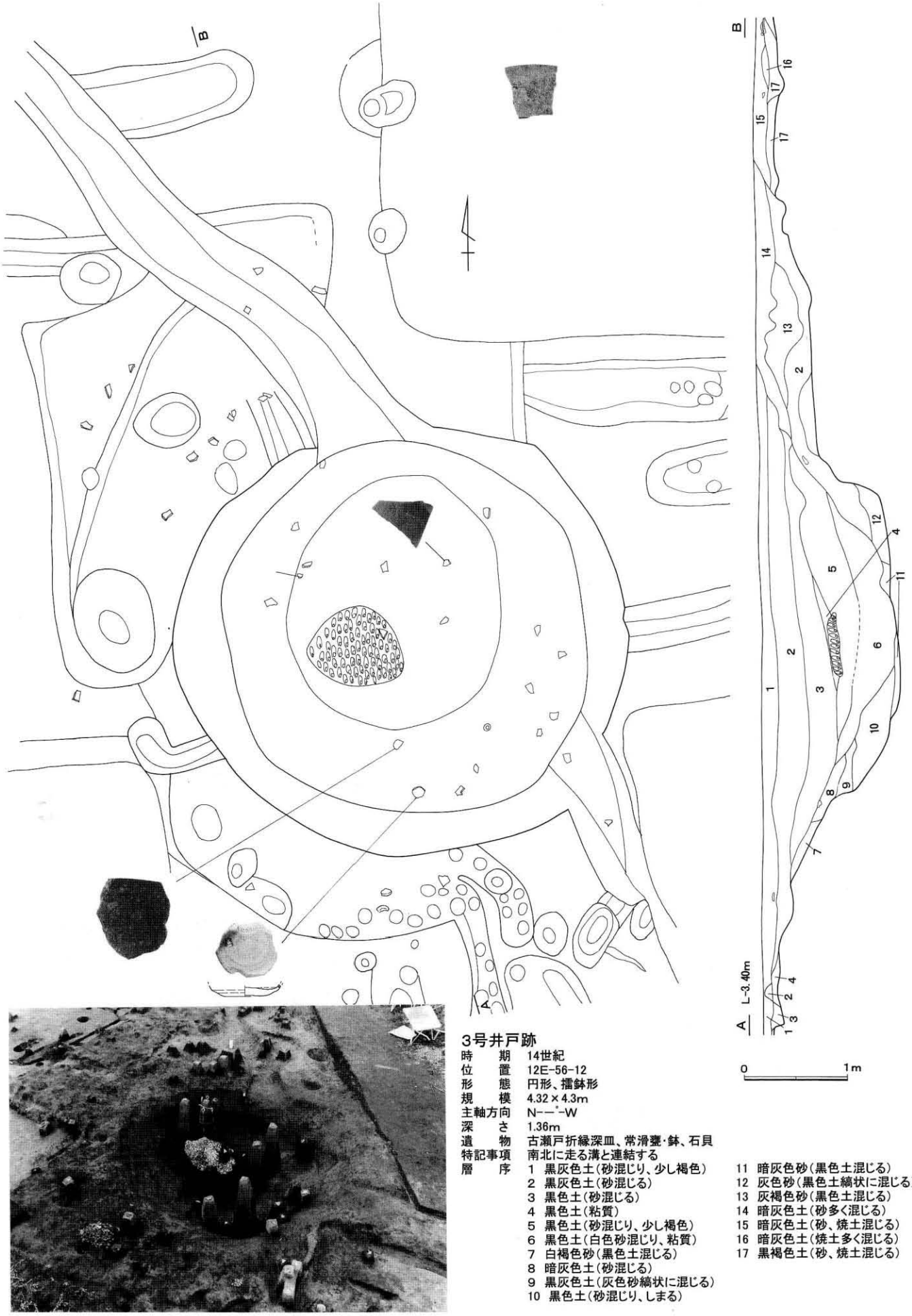




2号井戸跡

時　　期	13世紀
位　　置	12E-48-21
形　　態	楕円形、擂鉢形
規　　模	6.3×6.0m
主軸方向	N-48°-W
深　　さ	1.1m
遺　　物	古瀬戸瓶子、常滑鉢
特記事項	底部は褐鉄鉱が溜まり硬化
層　　序	1 黒色土(砂、褐鉄鉱混じり、粘質) 2 黒色土(灰色砂縞状に混じる) 3 黒灰色土(砂多く混じる) 4 黒色土(粘質) 5 黒色土(上部に褐鉄鉱入り、粘質強い) 6 黒色土(砂混じり、粘質) 7 黒灰色砂(黒色土混じる) 8 灰色粗砂 9 黒色土(褐鉄鉱混じる) 10 黒色土(軽石、褐鉄鉱混じる) 11 黒灰色土(砂、軽石、褐鉄鉱混じる) 12 黒色土(粘質強い) 13 褐色砂(黒色土縞状に混じる) 14 黒色土(砂縞状に少し混じる)

図 218　鎌倉・室町時代の遺構（２号井戸跡）



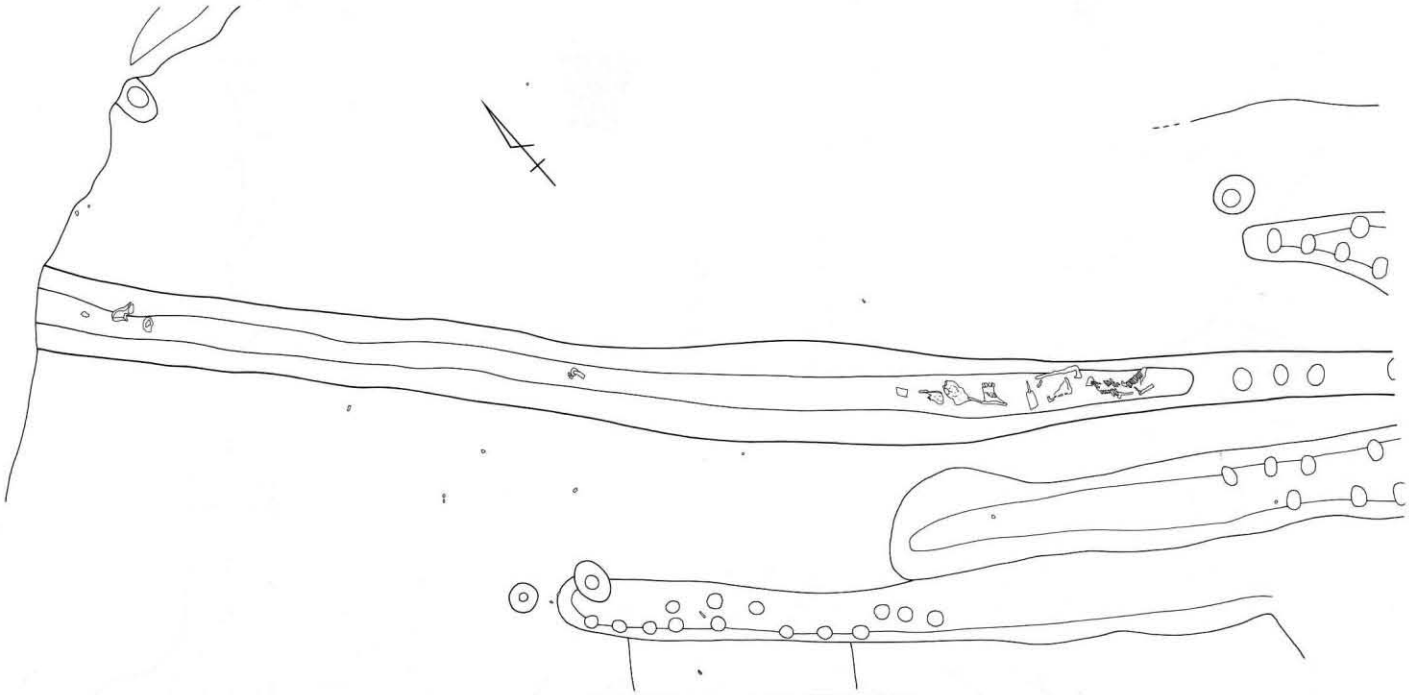
3号井戸跡

時　　期	14世紀
位　　置	12E-56-12
形　　態	円形、擂鉢形
規　　模	4.32×4.3m
主軸方向	N--°-W
深　　さ	1.36m
遺　　物	古瀬戸折縁深皿、常滑甕・鉢、石貝
特記事項	南北に走る溝と連結する

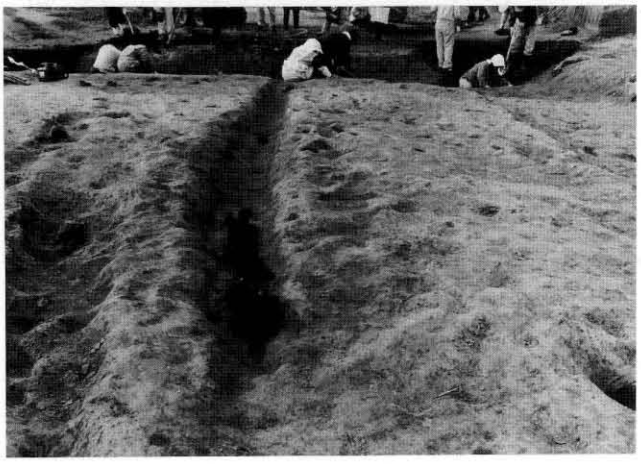
層　序

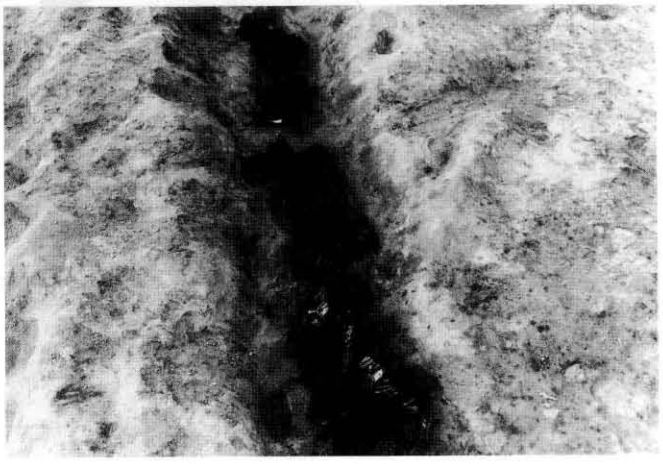
1 黒灰色土(砂混じり、少し褐色)
2 黒灰色土(砂混じる)
3 黒色土(砂混じる)
4 黒色土(粘質)
5 黒色土(砂混じり、少し褐色)
6 黒色土(白色砂混じり、粘質)
7 白褐色砂(黒色土混じる)
8 暗灰色土(砂混じる)
9 黒灰色土(灰色砂縞状に混じる)
10 黒色土(砂混じり、しまる)
11 暗灰色砂(黒色土混じる)
12 灰色砂(黒色土縞状に混じる)
13 灰褐色砂(黒色土混じる)
14 暗灰色土(砂多く混じる)
15 暗灰色土(砂、焼土混じる)
16 暗灰色土(焼土多く混じる)
17 黒褐色土(砂、焼土混じる)

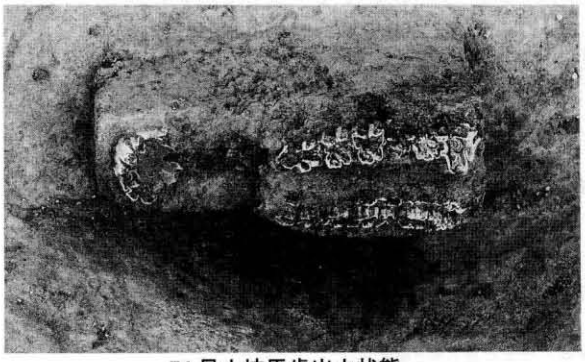
図219　鎌倉・室町時代の遺構（3号井戸跡）



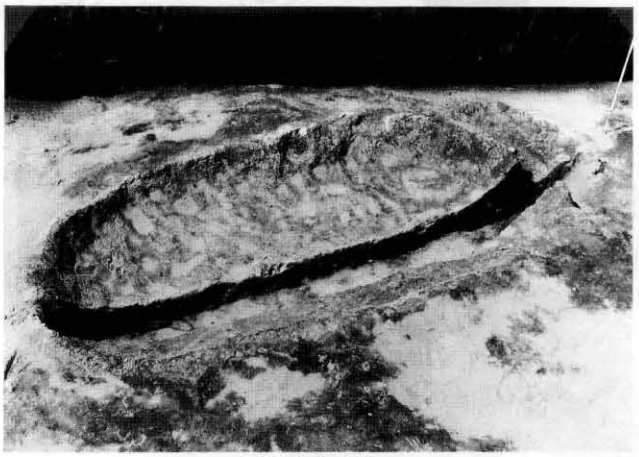
23 号中世溝 12E-54-11 付近拡大図







74 号土坑馬歯出土状態



1 号粘土貼土坑断面

図 220　鎌倉・室町時代の遺構（23 号中世溝）

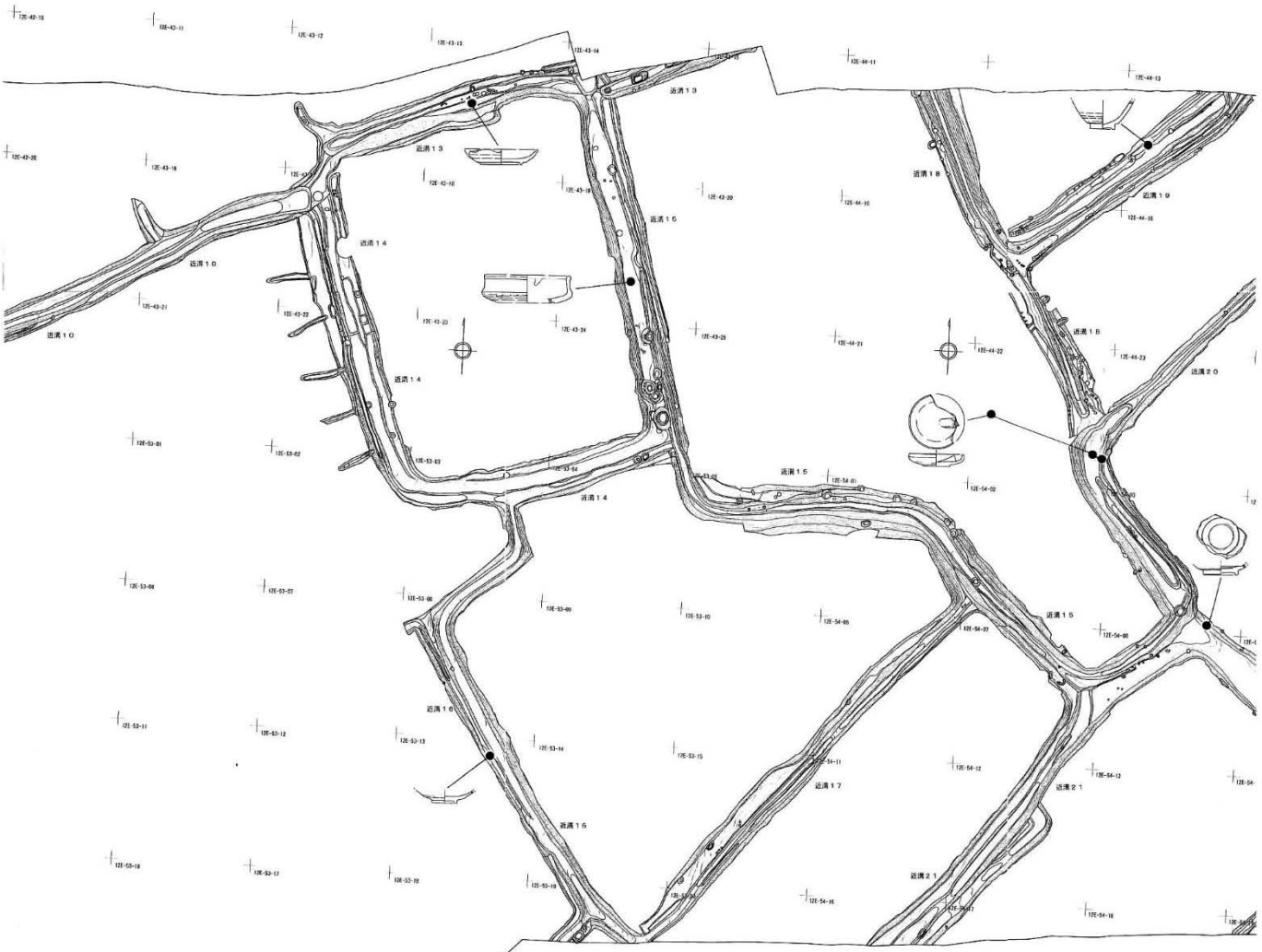
4．安土桃山・江戸時代

2～11・13～20号近世溝
時　　期 16～18世紀
位　　置 12E-51-2～12E-44-15
走行方向 N－18～55°－E、N－13～75°－W、
幅　　上1.0～3.3m、底0.1～1.0m
深さ　0.3～0.7m
長さ　670m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物 9・10・16号溝で志野皿、天目碗
特記事項 近世畑跡の区画溝で、排水機能も果たしていたと考えられる。6号溝には道跡が並行する。

芝崎遺跡西端部

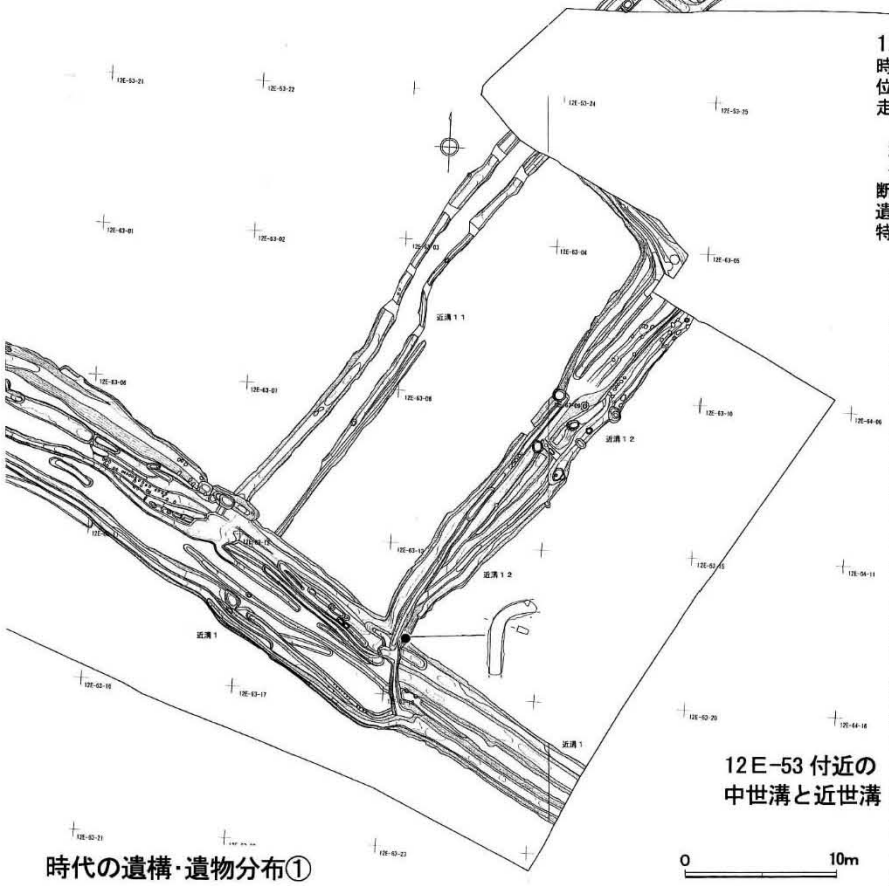
1号近世溝
時　　期 16～18世紀
位　　置 12E-51-13～12E-63-19
走行方向 N－55～66°－W
幅　　上4.5～10.5m、底0.5～1.5m
深さ　0.3～0.5m
長さ　130m
断　　面 逆台形
遺　　物 瀬戸皿・天目碗、染付徳利等
特記事項 数条の溝が集まり、栗山川に並行する。

図 221　安土桃山・江戸



12・21～23・25～27号近世溝

時　　期 16～18世紀
位　　置 12E-63-13～12E-46-7
走行方向 N－35～45°－E、N－40°－W、
幅　　上2.0～5.0m、底1.0～4.0m
深さ　0.3～0.7m
長さ　240m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物 21号溝で天目碗、27号北端で貝殻出土
特記事項 近世畑跡の区画溝、および浅く幅広くなっている所は道跡と考えられる。



12E-53 付近の
中世溝と近世溝

0　　10m

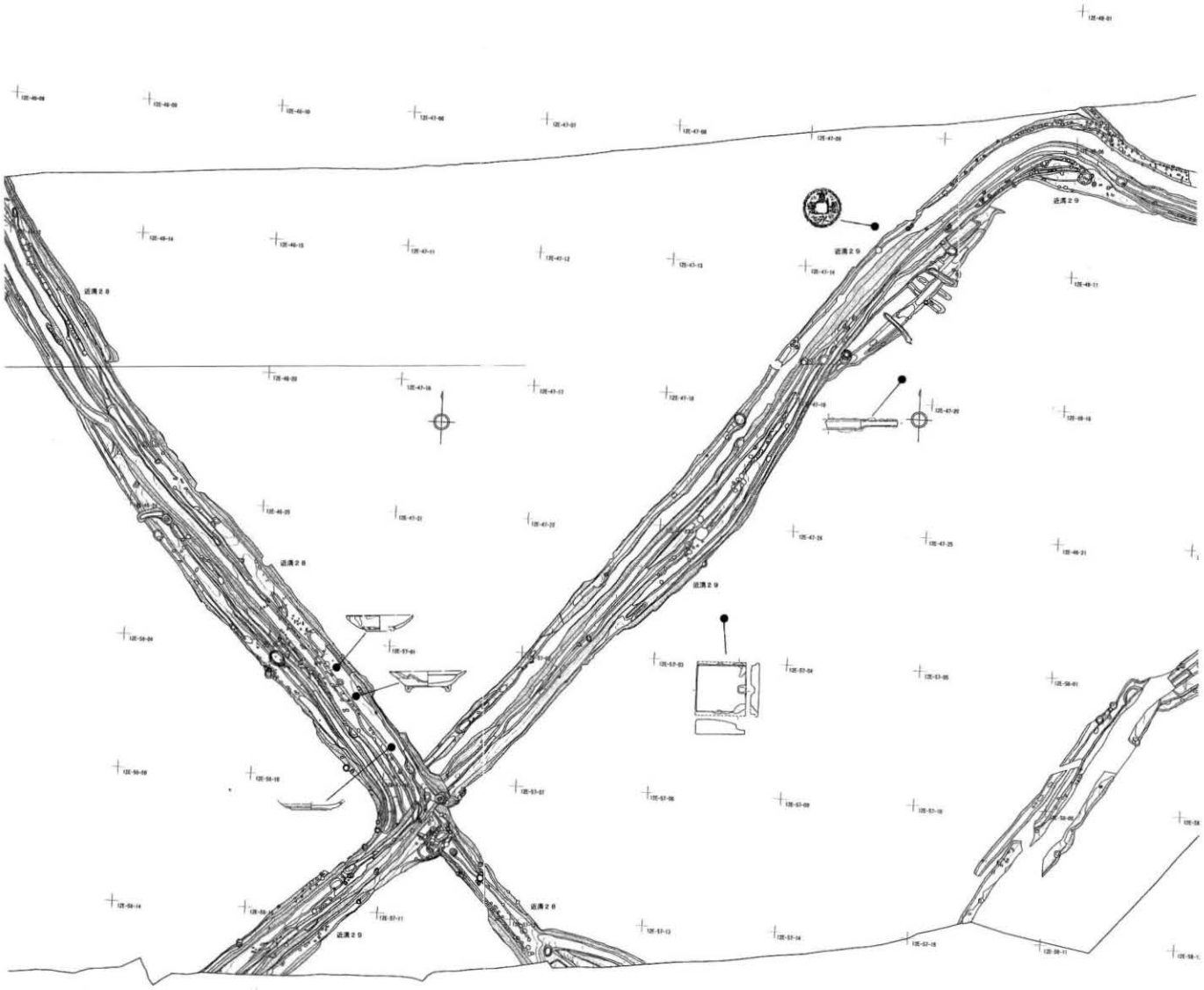
時代の遺構・遺物分布①

24号近世溝
時　　期 17～18世紀
位　　置 12E-45-11～12E-45-12
走行方向 N－50°－E
　幅　　上1.8m、底0.2m
　深さ　　1.0m
　長さ　　6.5m
断　　面 V字形
遺　　物 輪禿皿
特記事項 この溝のみ、深く短い

19・20号近世溝

12E-47-7・12付近の27号近世溝

図222　安土桃山・江戸



0　10m

28～29号近世溝

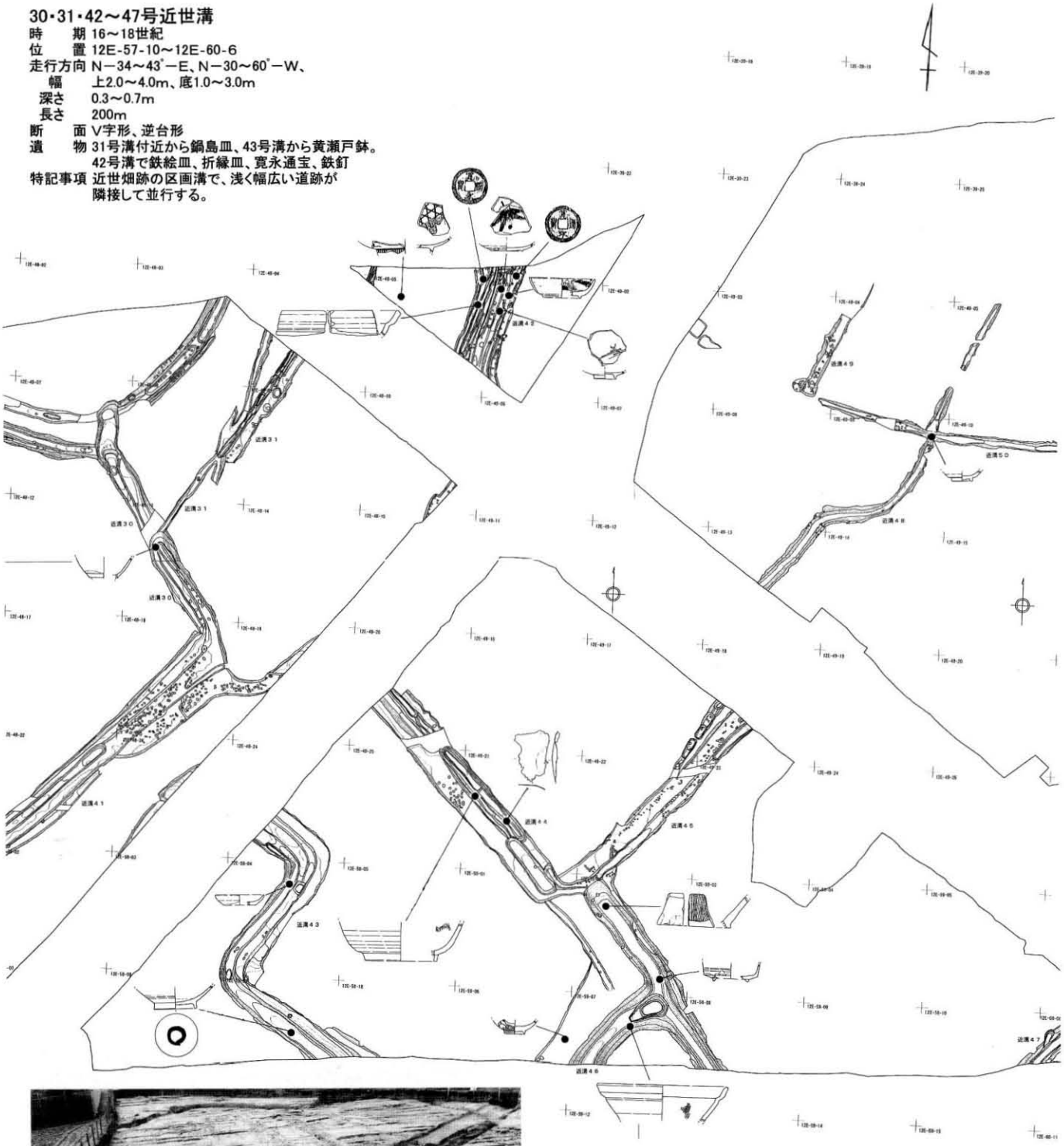
時　　期 16～18世紀
位　　置 12E-46-12～12E-48-3
走行方向 N－38～45°－E、N－40°－W、
　　幅　上4.0～5.5m、底1.0～2.0m
　深さ　0.3～0.7m
　長さ　190m
断　　面 逆台形
遺　　物 29号溝12E-56-15で中国製染付皿出土。
特記事項 数条の溝のからなり、近世畑跡の区画溝で、
　　道跡が隣接して並行する。

12E-47-9・10 付近の 29 号近世溝

12E-57-10 付近の 41 号近世溝

時代の遺構・遺物分布②

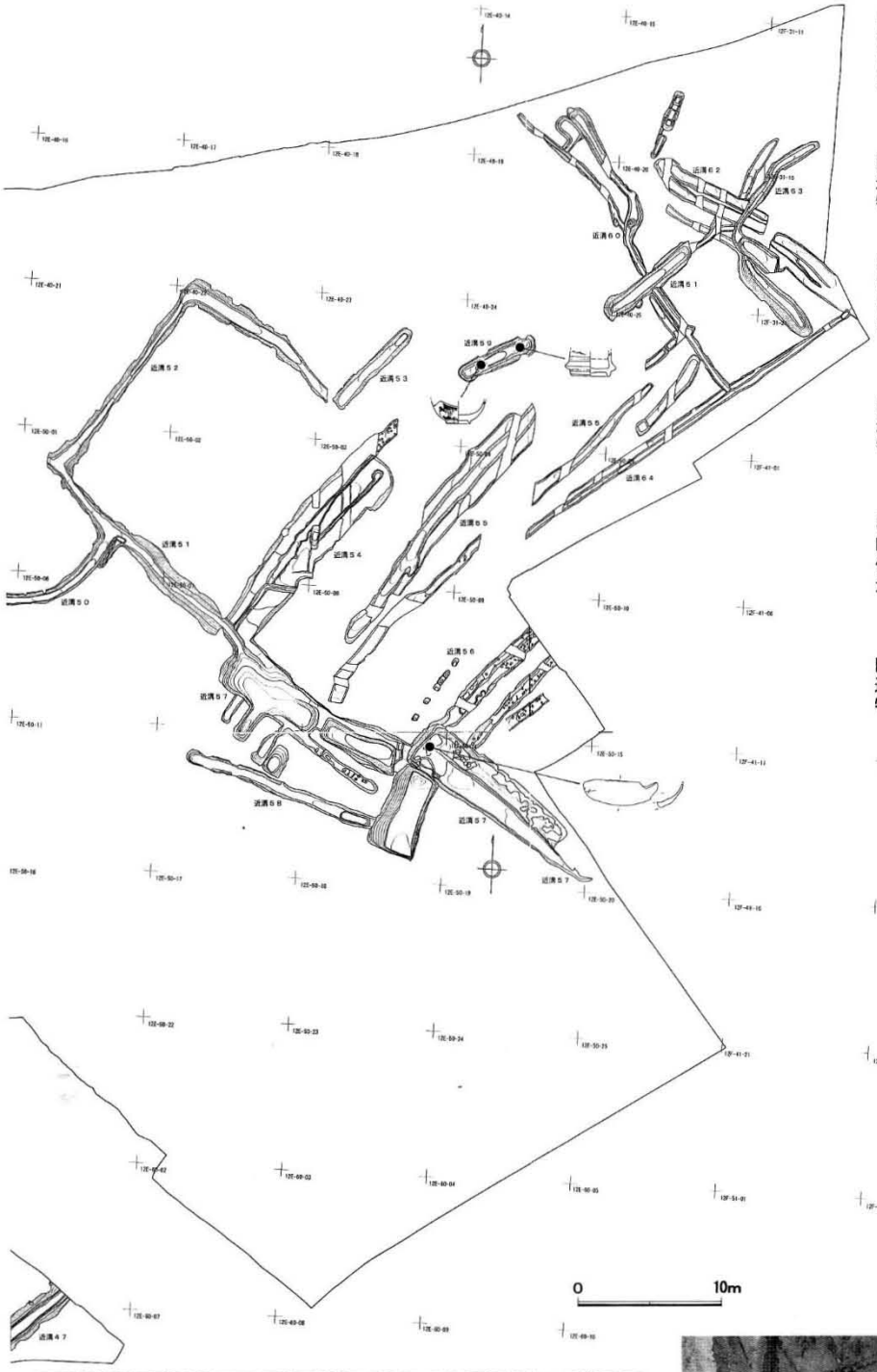
30・31・42～47号近世溝
時　　期 16～18世紀
位　　置 12E-57-10～12E-60-6
走行方向 N－34～43°－E、N－30～60°－W、
幅　　上2.0～4.0m、底1.0～3.0m
深さ　0.3～0.7m
長さ　200m
断　　面 V字形、逆台形
遺　　物 31号溝付近から鍋島皿、43号溝から黄瀬戸鉢。
42号溝で鉄絵皿、折縁皿、寛永通宝、鉄釘
特記事項 近世畑跡の区画溝で、浅く幅広い道跡が
隣接して並行する。



12E-59 の 44・46 号近世溝

48～53号近世溝
時　　期 16～18世紀
位　　置 12E-49-13～12E-40-23
走行方向 N－24～35°－E、N－48～80°－W、
幅　　上0.8～1.7m、底0.4～0.8m
深さ　0.2～0.4m
長さ　120m
断　　面 逆台形
遺　　物
特記事項 近世畑跡の区画溝で、排水をかねていたと
考えられる。

図 223　安土桃山・江戸



54～56号近世溝

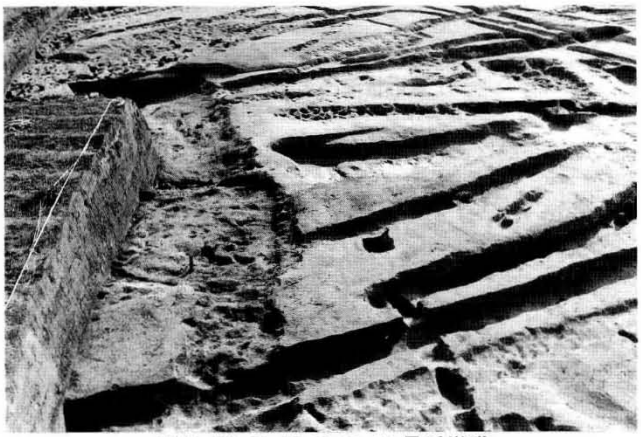
時　　期 17～18世紀
位　　置 12E-50-7～12E-40-25
走行方向 N－24～35°－E、N－48～80°－W、
幅　　上0.8～3.5m、底0.4～3.0m
深さ　0.2m
長さ　85m
断　　面 逆台形
遺　　物 特になし
特記事項 近世畑跡の区画溝で、浅く幅広である所から、道跡と考えられる。

57号近世溝

時　　期 17～18世紀
位　　置 12E-50-7～12E-50-14
走行方向 N－58～62°－W、
幅　　上2.5～3.2m、底2.0～2.5m
深さ　0.2～0.4m
長さ　30m
断　　面 逆台形
遺　　物 12E-50-13で漆器碗、木材出土。
特記事項 幅広く深いことから、水を集めた施設があったことが考えられる。北側に掘立柱建物跡柱穴を検出。

58～64号近世溝

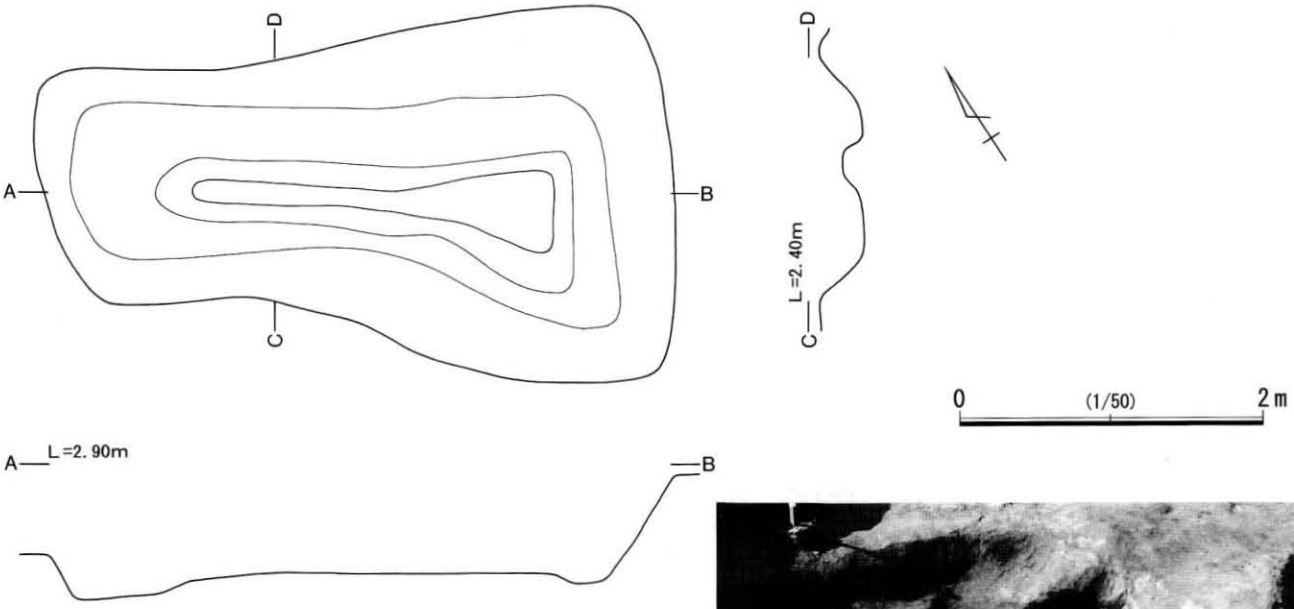
時　　期 17～18世紀
位　　置 12E-50-12～12F-31-16
走行方向 N－47～52°－E、N－38～72°－W、
幅　　上0.8～1.5m、底0.3～0.5m
深さ　0.2～0.7m
長さ　計120m
断　　面 逆台形
遺　　物 61号溝から染付花瓶出土
特記事項 畑跡を区画する溝であると同時に、排水を兼ねていたと考えられる。



12E-50-8・13の56・57号近世溝

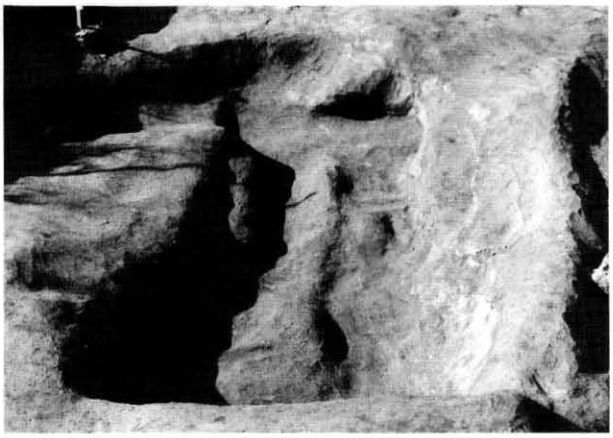
真上から見た50・51号近世溝

時代の遺構・遺物分布③



70号土坑

時　　期	近世
位　　置	12E－51－13・18
規　　模	4.28×2.51m
主軸方向	N－55°　－W
深　　さ	0.96m。主軸方向に中央部が高く掘り残される。
遺　　物	無し。
出土量	覆土は砂を多く含む茶褐色土。底部付近でシルト土が観察できたことから水溜めの可能性がある。



70号土坑（東から）

57号溝出土の木材

57号近世溝出土の漆器・木材

図224　安土桃山・江戸時代の遺構（70号土坑）

５．芝崎遺跡の自然科学分析

芝崎遺跡のテフラ分析

神奈川県立保土ヶ谷高等学校　上本進二
都留文科大学　上杉　陽

1．テフラ分析の方法

千葉県光町芝崎遺跡は栗山川の後背湿地にあって、下位より腐植質の泥質粘土層、黒泥層、砂質シルト層が堆積している。

テフラ試料は10号住居跡覆土と水田址覆土から各１試料、８号住居跡覆土から４試料、トレンチ内の標準土層中の粘土層から４試料を採取した。テフラ試料はまずわんがけ法によって洗浄を行うが、細粒物質を残す洗浄法は時間がかかりすぎるため、今回分析をおこなった洗浄試料は62μ以上の粗粒物質に限った。このため、今回の分析では細粒重鉱物や黒雲母・植物珪酸体はほとんど流れてしまっていると思われる。試料を水洗して腐植物・土壌物質を完全に除去した後、実体顕微鏡（註１）および偏光顕微鏡でスコリアガラス・軽石ガラス・斑晶鉱物の特徴を観察し、試料に含まれる伊豆系テフラ・伊豆七島系テフラ・富士系テフラおよび北関東系テフラと同定をおこなった。偏光顕微鏡下でのテフラ同定は、上杉ほか（2000）、上杉ほか（1994）、上杉（1990）に基づいておこなった。なお、顕微鏡写真は400倍で撮影したものである。

2．各テフラ試料の分析結果

本遺跡の10号住居跡・畑跡覆土・トレンチ・８号住居跡から採集した試料には特徴のある火山ガラスが含まれており、上杉ほか（2000）の分類に基づいて以下のように区分した。

A　偏光顕微鏡透過光での色彩が透明に近く、屈折率が1.54以下の流紋岩質～安山岩質ガラス（軽石ガラス）

H型：平板淡色ガラス　C型：淡色で気孔率が20～50％のガラス　T型：淡色で気孔率が50％以上のガラス　fl　剥片状～塊状ガラス　bw　泡壁状～薄板状ガラス　c：柱状気孔　0：球状気孔　co：柱球状気孔（長楕円形気孔）　t：気孔やガラスがねじれているもの　m：微結晶が多いもの　a：晶子やガラスの小塊が多いもの　r：赤色系ガラス（高温酸化ガラス）

例　Hfl：淡色系厚板～剥片状ガラス　Hc：淡色系平板上に柱状気孔が付くガラス　Cc：淡色系ガラス板に20～50％の柱状気孔が着くガラス

B　偏光顕微鏡透過光下での色彩が濃色で、屈折率が1.54に近いもの、あるいはそれ以上の安山岩質～玄武岩質のガラス（スコパミガラス～スコリアガラス）

J型：濃色で気孔率が50％以下のガラス、S型：濃色で気孔率が50％以上のガラス

例　maj：濃色系ガラスで、微結晶・晶子を多数含む　小粒ジェリー状ガラス塊の集合体　Jp：火山　毛（スコリアガラスでジェリー状、粘性が低く髪の毛状となる）　Jt：火山涙（スコリアガラスでジェ　リー状、粘性が低く涙摘状～ダンベル状）　S0型：球形気孔が非常に多いスコリアガラス

1）10号住居跡

微量ではあるが、スコリアガラス（写真１）や円磨された石英ガラス（写真２）、30μの厚板～剥片状ガラス（Hfl型）があることから、この層準は風成砂粒が飛び込みうる環境（近くに風成砂丘～風成砂原がある）と考えられ。

2）畑跡覆土

畑の畝状の凹凸を埋めるように堆積している層厚５㎝の白色相（註２）からの試料である。微量にあるガラスは緑～褐色～赤色のスコリアガラス（写真３）である。伊豆大島系の可能性がある。

3）トレンチ

トレンチ上層

少量ではあるが、300～250μのHc型～Cc型の透明ガラス（写真４）、ガラス板に20～50％の柱状気孔が着くガラス（Cc型）、多少円磨されたHf1型ガラス（写真５）が認められる。また、斜長石の表面に透明ガラスが付着している流紋岩質～デイサイト質軽石ガラス（写真６）と思われるものも含まれている。これは伊豆系の流紋岩質～デイサイト質火山（例えば、新島・神津島）から飛来した軽石系ガラスであろう。

トレンチ中層

円磨されていない400μの濃桃色～淡桃色のHf1型ガラス（写真７）、ガラス板に20～50％の柱球気孔のCco型ガラスがある（写真８）。があり、空中飛来して風成砂層中に挟まったと考えられる。神津島～新島系の火山ガラスと思われる。また、この他、屈折率が1.54以下の安山岩質～玄武岩質のスコリアガラス（写真９）も含まれている。これは伊豆大島系の火山ガラスの可能性が高い。

トレンチ下層

300～250μの淡桃色厚板～剥片状ガラス（Hf1型）～ガラス板に20～50％の柱状気孔が着くガラス（Cc型）がある（写真10）。濃桃色ガラスもある。これは伊豆大島のN3中部の白色タフにも多いものである。神津島～新島系の火山ガラスと思われる（写真11）。円磨されたスコリアガラスがかなり多量に含まれる。これは伊豆大島系であろう。

トレンチ最下層

総じて、この層準は風成と思われる。微量ではあるが、粒径200μ前後の淡桃色褐色透明ガラス（写真12）～濃桃色の厚板ガラス～剥片状ガラス（Hf1型）や、400μの石英の円磨砂（写真13）がある。また、少量の晶子多く角閃石や岩片～スコリアを含む点から富士系テフラを含んでいる。

4）８号住居跡

試料１

床面直上の試料で、少量のスコリア片～岩片を含む。

試料２

淡桃色平板上に柱状気孔が付く250μのHc型ガラスがある（写真14）。この他に黒雲母や石基微結晶質岩片が含まれている。

試料３

400μの淡桃色～透明Hf1型ガラス（写真15）がある。

試料４

400μの濃桃色Hf1型黒曜石ガラスある。これは黒曜石の破片である（写真16）。

3．テフラの起源について

分析したテフラ試料中の粗粒物質についてすべての試料で確認できるのは、曇りガラス状の円磨砂粒で、

これは風成砂粒が多かったことを物語っている。この他、透明な水送砂粒も混じっている。正長石・石英・斜長石・斜方輝石・単斜輝石が多い。これ以外にも、微結晶質の岩片やスコリアガラスがある。ほとんど全ての層準で、伊豆系の厚板～剥片状ガラス（Hf1型）～ガラス板に20～50%の柱状気孔が着くガラス（Cc型）がある。これらは円磨されていないものが多い。

トレンチ下層の試料から検出された淡桃色～濃桃色透明ガラスはN3中部白色タフなど、伊豆諸島系～伊豆半島系ガラスに多いものであり、あまり円磨されていないので、直接降下堆積したものと思われる。

当遺跡の構成砂粒子の主たる起源は花崗岩（註３；筑波山地方に多い）、両輝石を含むスコパミ～スコリアを噴出する伊豆大島火山（註４）～浅間火山～富士火山テフラが主な候補となる。

註

註１　実体顕微鏡では透過光ではなく、反射光を観察する。従って、透過光が通過しないほど濃色のガラスや、微少な気孔が多く、透過光が目に入射しない軽石ガラスの観察にはこれが不可欠であるが、今回は用いていない。

註２　現場で最初に観察した白色相については、少なくとも２つの成因が考えられる。一つは湿性地ポドゾルの漂白層A相（Si02の残留相～集積相）。白色相の大半がシルトサイズ以下である場合は、この可能性が高い。もう一つの可能性は白色流紋岩質軽石質火山灰～火山砂である。

註３　今回は62μ以下を流し去ったので、この判定はできないが、円磨された風成粒子がかなり含まれており、その鉱物組成がアルカリ長石・石英・斜長石であったこと、現地の観察で、多量の黒雲母を確認しているので、粗粒砂の起源物質は主として花崗岩と考えられる。ところが、これ以外に、透明ガラスやスコリアガラスも含まれており、特に厚板～剥片状ガラス（Hf1型）ガラスは円磨されていないものが多かった。これらは神津島～新島などの流紋岩質火山から直接降下したものと推定されるので、この白色相は一方では白色流紋岩質火山灰～火山砂であり、他方では湿性ポドゾル土起源のシリカ集積相なのであろう。

註４　今回採集したサンプル中の砂粒径物質は、アルカリ長石・石英・斜長石と斜方輝石・単斜輝石、濃色ガラス（J型およびS型のスコリアガラス）である。これ以外に僅かではあるが、淡色ガラス、黒雲母が残渣として残されていた。橄欖石斑晶がほとんどない点については、湿性地ポドゾル環境で風化し流されてしまった、あるいは最初から少ない大島火山起源のものなどが多かったなどが考えられる。

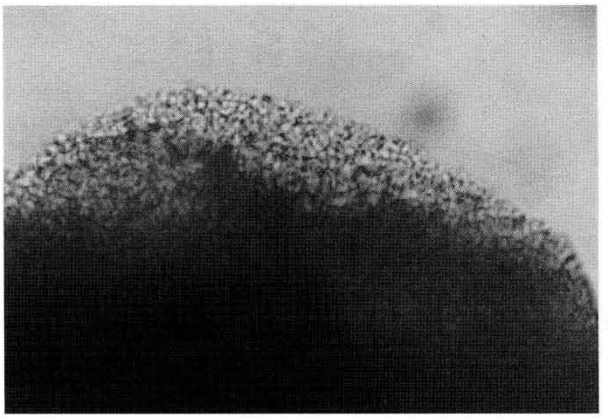
引用文献

上杉　陽　(1990) 富士火山東方地域のテフラ標準柱状図－その1：S-25～Y－114. 関東の四紀, (16), 3-28

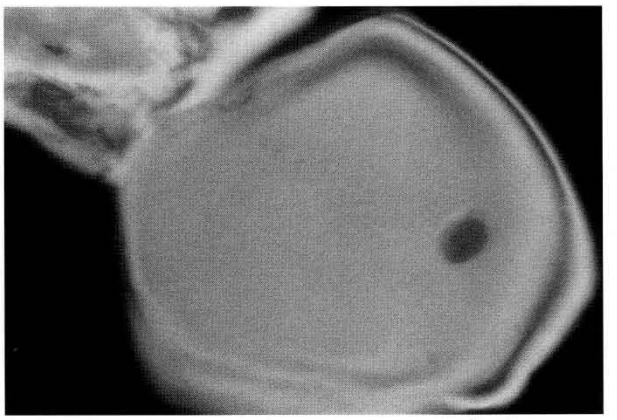
上杉　陽・新川和範・木越邦彦 (1994) 伊豆大島火山千波崎地層切断面露頭群のテフラ－標準柱状図－. 第四紀研究, 33 (3), 165-187

上杉　陽 (1999) 南側調査区Cトレンチ下柳沢層上部層のテフラ層位. 21～27. 下柳沢遺跡. 早稲田大学

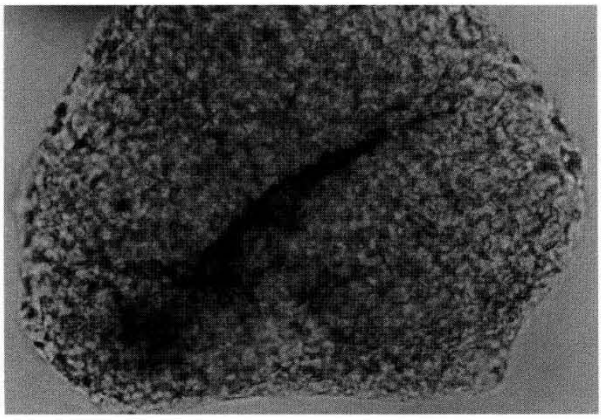
上杉　陽・畠山桐子・川上直樹・森本正子・由井将雄・立山美津子・水谷有子・小林ひろみ・関東第四紀研究会 (2000) 多摩中部ローム層－標準柱状図－. 関東の四紀22号, 3-38



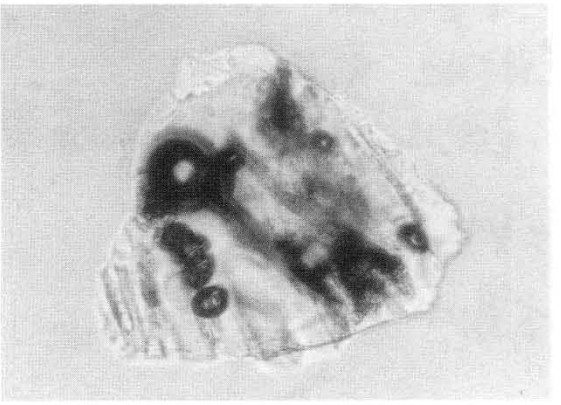
1．10号住居跡試料　スコリアガラス



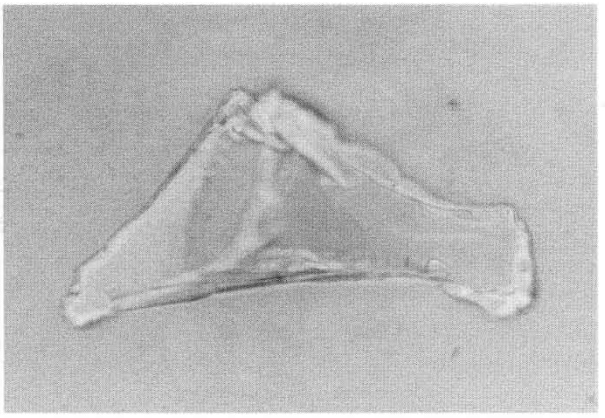
2．10号住居跡試料　円磨された石英ガラス



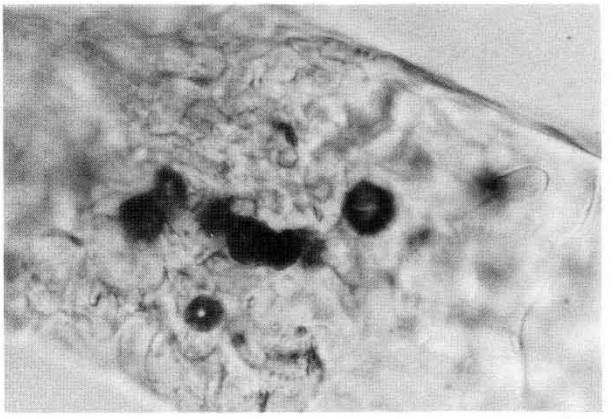
3．畑跡覆土　ガラスは褐色スコリアガラス



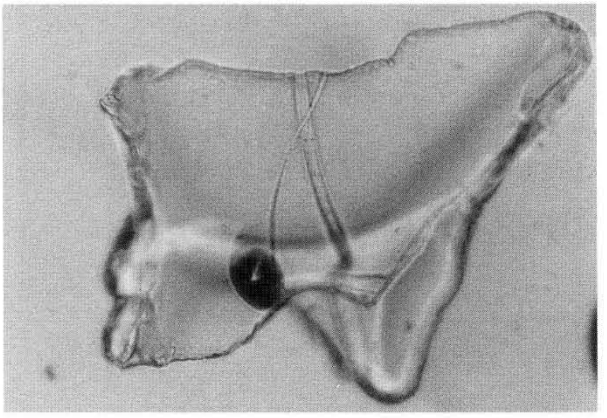
4．トレンチ上層　Cc型の透明ガラス



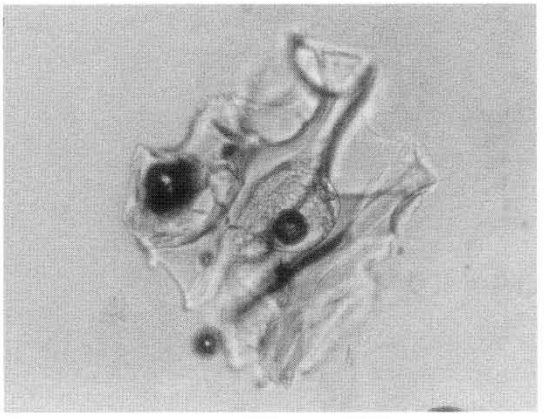
5．トレンチ上層　円磨されたHfl型ガラス



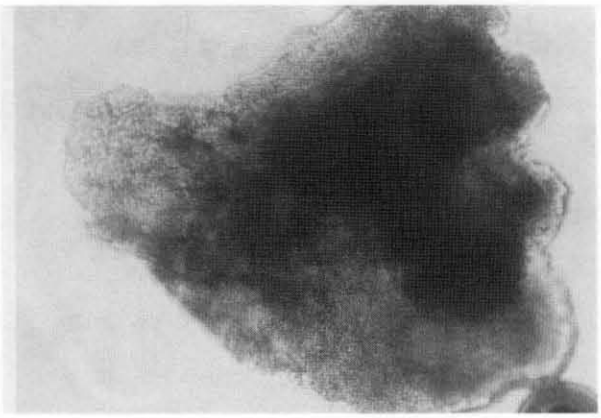
6．トレンチ上層　斜長石に透明ガラスが付着しているガラス



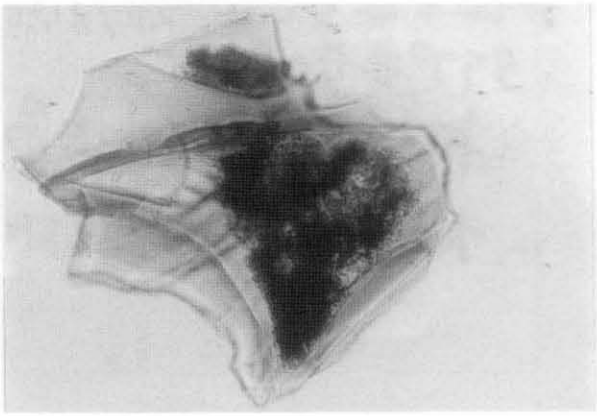
7．トレンチ中層　濃桃色～淡桃色のHfl型ガラス



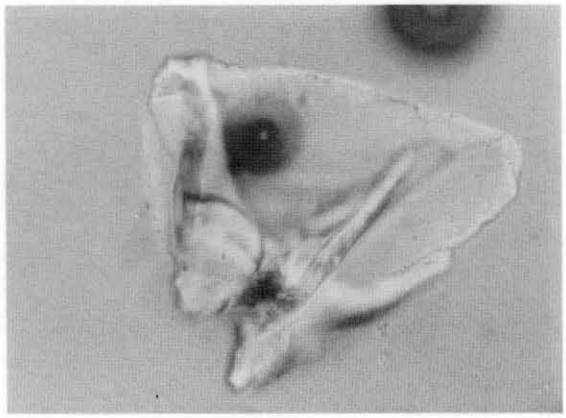
8．トレンチ中層　Cco型ガラス



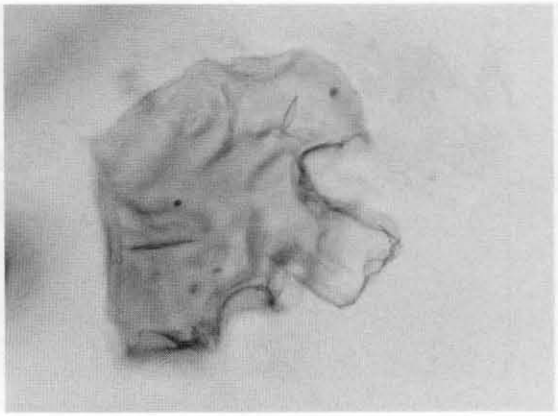
9．トレンチ中層　安山岩質～玄武岩質のスコリアガラス



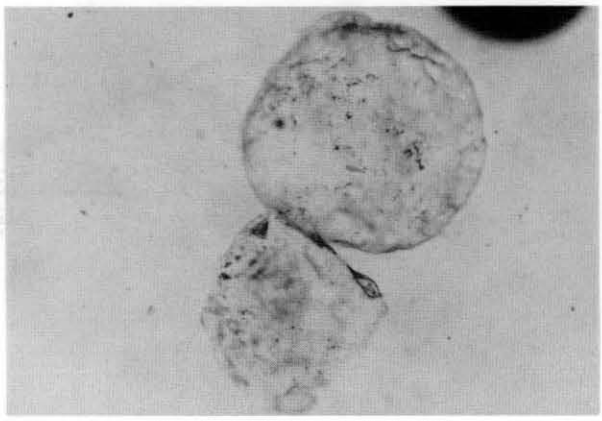
10．トレンチ下層　Cc型ガラス



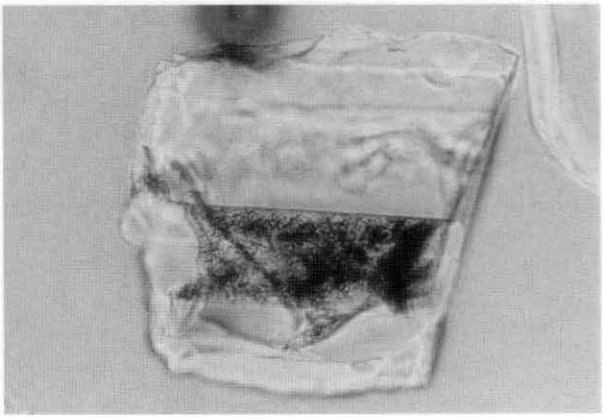
11．トレンチ下層　Hfl型ガラス



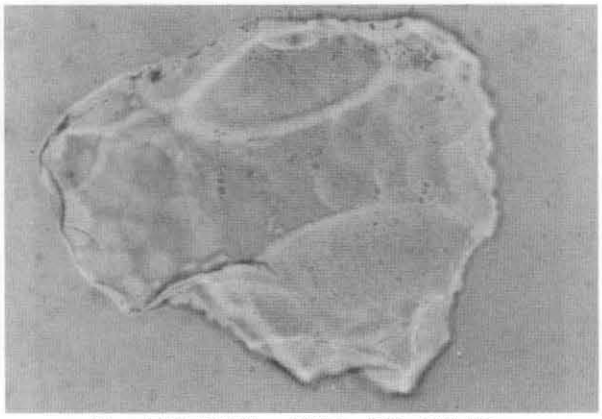
12．トレンチ最下層　淡桃色褐色透明ガラス（Hfl型）



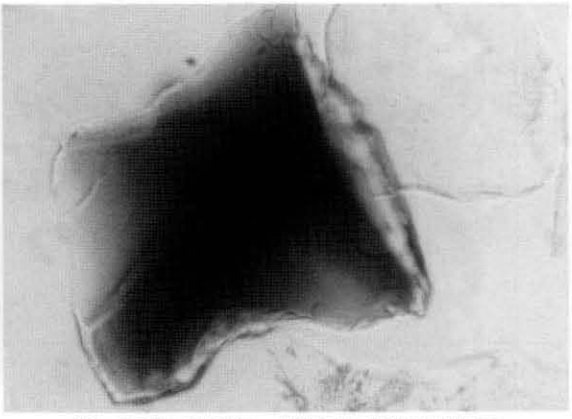
13．トレンチ最下層　石英の円磨砂



14．８号住居跡試料２　Hc型ガラスがある



15．８号住居跡試料３　淡桃色～透明Hfl型ガラス



16．８号住居跡試料４　濃桃色Hfl型黒曜石ガラス

芝崎遺跡の火山灰分析

株式会社 古環境研究所

1．はじめに

千葉県県域に分布する後期更新世以降に形成された地層の中には、富士、箱根、浅間などの関東地方とその周辺の火山、中部地方や中国地方さらには九州地方などの火山に由来するテフラ（火山砕屑物，いわゆる火山灰）が多く認められる。テフラの中には、噴出年代が明らかにされている示標テフラがあり、これらとの層位関係を遺跡で求めることで、遺構の構築年代や遺物包含層の堆積年代を知ることができるようになっている。

そこで、火山灰層や年代の不明な土層が検出された芝崎遺跡においても、地質調査を行って土層の層序を記載するとともに、テフラ分析や屈折率測定を行って示標テフラの層位を把握し、土層の年代に関する資料を収集することになった。調査分析の対象となった地点は、12E49-2グリッド、12E58-9グリッド、12F41-21深掘（小）トレンチ、12F41-21深掘（大）トレンチ、溝状遺構の５地点である。

2．土層層序（第１図）

（1）12E49-2グリッド

12E49-2グリッドでは、下位より黄灰色砂層（層厚10cm以上)、黒灰色土（層厚16cm)、白色細粒火山灰層(層厚0.3cm)、白色火山灰混じり暗灰色土（層厚７cm)、灰褐色土（層厚15cm)、暗灰色土（層厚７cm)、黄褐色砂質土（層厚20cm)、灰色砂質土（層厚11cm)、黄褐色作土（層厚26cm）が認められる。

（2）12E58-9グリッド

12E58-9グリッドでは、白色細粒火山灰層（層厚0.1cm，試料１）と、そのあたりに黄灰色を呈する細粒火山灰（試料２）が認められた。

（3）12F41-21深掘（小）トレンチ

12F41-21深掘（小）トレンチでは、火山灰混じりの灰色粘質土（試料１）が認められる。

（4）12F41-21深掘（大）トレンチ

発掘調査を担当された道澤氏によれば、12F41-21深掘（大）トレンチでは非常に良好な状態で白色火山灰層（試料１）が認められたようである。

（5）溝状遺構

江戸時代と推定されている溝状遺構の覆土は、下位より暗灰色粗粒火山灰層（層厚1cm)、若干色調が暗い褐色土（層厚54cm)、褐色作土からなる。これらのうち、最下部の暗灰色粗粒火山灰層は、層相などから1707（宝永４）年に富士火山から噴出した富士宝永スコリア（F-Ho，町田，1977）と考えられている。

3．テフラ検出分析

（1）分析試料と分析方法

軽石やスコリア質のテフラ粒子で特徴づけられる示標テフラの降灰層準を把握するために、テフラ検出分析を行った。分析対象となった試料は、12E49-2グリッドおよび溝状遺構において基本的に５cmごとに採取

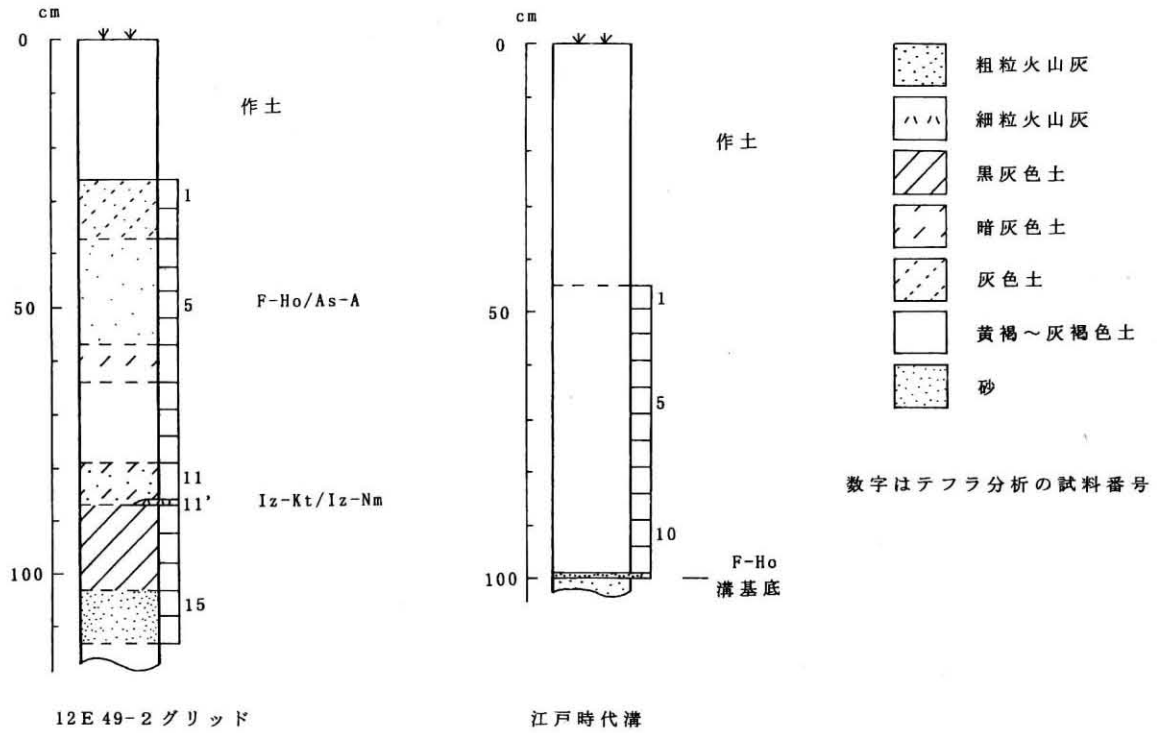


図１　土層柱状図

された試料のうち、22点の試料である。テフラ検出分析の手順は、次のとおりである。

１）試料10gを秤量。

２）超音波洗浄により泥分を除去。

３）80°Cで恒温乾燥。

４）実体顕微鏡下で観察し、テフラ粒子の量や特徴を把握。

（２）分析結果

テフラ検出分析の結果を表１に示す。12E49-2グリッドでは、試料６から上位の試料にわずかに灰色がかった白色軽石（最大径0.9㎜）の軽石が含まれている。とくに試料５や試料３に比較的多くの軽石が含まれている。また試料７より上位ではスコリア（色調が黒っぽい軽石）が認められ、とくに試料５に多く含まれている。この試料に含まれるスコリアの色調は暗灰色や黒灰色で、その最大径は0.7㎜である。

溝状遺構の覆土では、試料12のテフラ層にスコリアがとくに多く含まれている。この試料に含まれるスコリアの色調は暗灰色、黒灰色、赤色で、最大径は1.1㎜である。またこのスコリア層には、灰色軽石（最大径1.2㎜）が少量含まれている。試料10、試料６、試料２には、ほかにわずかに灰色がかった白色軽石（最大径0.8㎜）の軽石が少量含まれている。

４．火山ガラス比分析

（１）分析試料と分析方法

火山ガラスで特徴づけられる示標テフラの降灰層準を把握するために、テフラ検出分析の対象となった試料について、火山ガラス比分析を行った。火山ガラス比分析の手順は、次のとおりである。

１）テフラ検出分析処理後の試料について、分析篩により1/4-1/8㎜の粒子を篩別。

２）偏光顕微鏡下で250粒子を観察し、火山ガラスの色調・形態別組成を求める。

（2）分析結果

火山ガラス比分析の結果の内訳を表２に示す。また12E49-2グリッドにおける分析結果を、ダイヤグラムにして第２図に示す。いずれの試料からも火山ガラスは検出されたもののその量は少なく、顕著な濃集層準も検出されなかった。それでも、ほとんどの試料から分厚い中間型ガラスが検出された。ほかに、試料16や試料14にはスポンジ状や繊維束状に発泡した軽石型ガラスが認められた。試料10をのぞく試料11から試料６にかけては、平板状のいわゆるバブル型ガラスが含まれている。その色調は、無色透明である。

溝状遺構の覆土における火山ガラス比分析の結果を、ダイヤグラムにして第２図に示す。ここでも、いずれの試料からも火山ガラスが検出された。しかし、顕著な火山ガラスの濃集層準は認められなかった。検出された火山ガラスは、無色透明のバブル型ガラスや中間型ガラスがほとんどである。

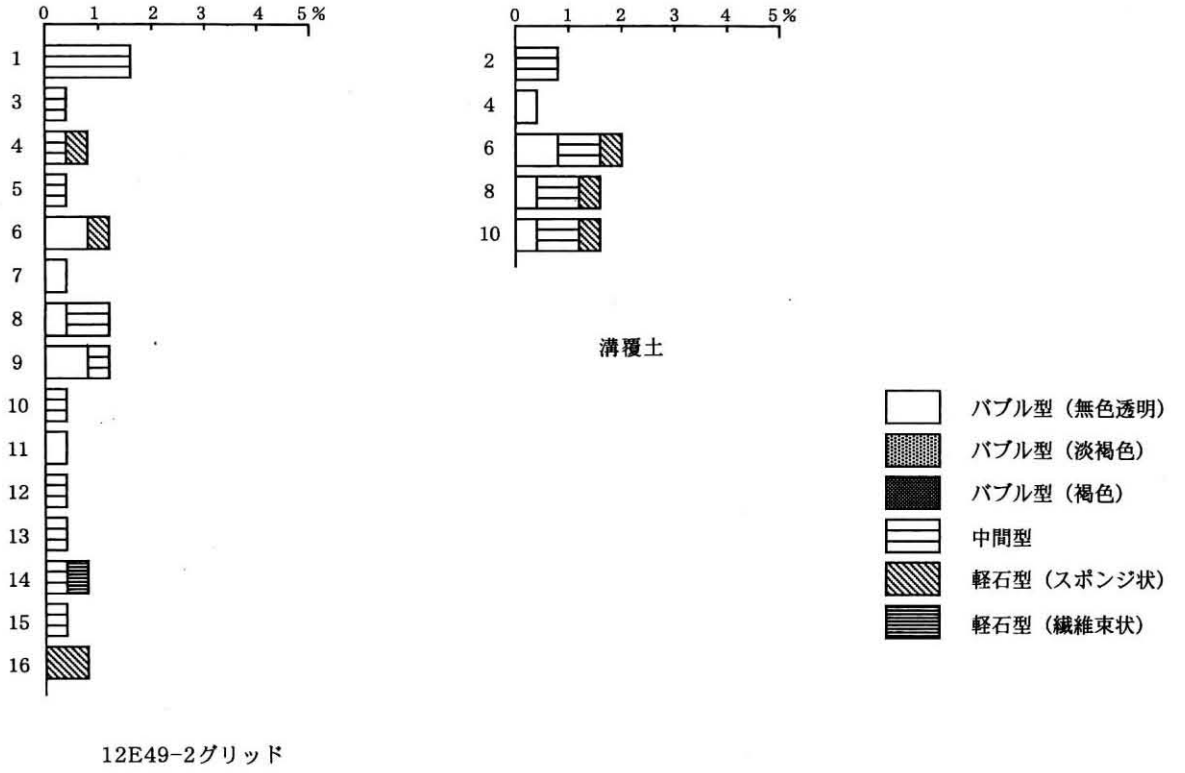


図２　火山ガラスダイヤグラム

５．屈折率測定

（1）測定試料と測定方法

テフラ層およびテフラ検出分析により検出されたテフラの起源を明らかにするために、温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）により屈折率測定を行うことにした。

（2）測定結果

屈折率測定の結果を表３に示す。12E49-2グリッドの試料16に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.498-1.503である。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、単斜輝石がごく少量含まれている。斜方輝石（γ）と角閃石（n_2）の屈折率は、各々1.706-1.708と1.674-1.680である。試料11'に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.497-1.501である。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、単斜輝石がごく少量含まれている。試料５に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.507-1.513である。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、

表１　テフラ検出分析

地点	試料	軽石			スコリア		
		量	色調	最大径	量	色調	最大径
12E49-2グリッド	1	+	灰白	0.7	+	黒灰>赤	1.2
	3	++	灰白	0.8	+	暗灰	1.0
	4	+	灰白	0.7	+	暗灰	0.8
	5	++	灰白	0.9	+	暗灰>黒灰,赤	0.7
	6	+	灰白	0.7	++	暗灰>黒灰	0.7
	7	−	−	−	+	暗灰	0.6
	8	−	−	−	−	−	−
	9	−	−	−	−	−	−
	10	−	−	−	−	−	−
	11	−	−	−	−	−	−
	12	−	−	−	−	−	−
	13	−	−	−	−	−	−
	14	−	−	−	−	−	−
	15	−	−	−	−	−	−
	16	−	−	−	−	−	−
	2	+	灰白	0.7	+++	暗灰>黒灰,赤	0.7
	4	−	−	−	+++	暗灰>黒灰,赤	0.8
	6	+	灰白	0.8	+++	暗灰>黒灰,赤	1.0
	8	+	灰	0.6	+++	暗灰>黒灰,赤	1.0
	10	+	灰,灰白	0.6,0.8	+++	暗灰>黒灰,赤	1.1
	12	+	灰	1.2	++++	暗灰>黒灰,赤	1.1

++++：とくに多い，+++：多い，++：中程度，+：少ない，−：認められない．最大径の単位は，mm.

表２　火山ガラス比分析結果

地点	試料	bw(cl)	bw(pb)	bw(br)	md	pm(sp)	pm(fb)	その他	合計
12E49-2グリッド	1	0	0	0	4	0	0	246	250
	3	0	0	0	1	0	0	249	250
	4	0	0	0	1	1	0	248	250
	5	0	0	0	1	0	0	249	250
	6	2	0	0	0	1	0	247	250
	7	1	0	0	0	0	0	249	250
	8	1	0	0	2	0	0	247	250
	9	2	0	0	1	0	0	247	250
	10	0	0	0	1	0	0	249	250
	11	1	0	0	0	0	0	249	250
	12	0	0	0	1	0	0	249	250
	13	0	0	0	1	0	0	249	250
	14	0	0	0	1	0	1	248	250
	15	0	0	0	1	0	0	249	250
	16	0	0	0	0	2	0	248	250
溝覆土	2	0	0	0	2	0	0	248	250
	4	1	0	0	0	0	0	249	250
	6	2	0	0	2	1	0	245	250
	8	1	0	0	2	1	0	246	250
	10	1	0	0	2	1	0	246	250

数字は粒子数．bw：バブル型，md：中間型，pm：軽石型，cl：透明，pb：淡褐色，br：褐色，
sp：スポンジ状，fb：繊維束状．

表３　屈折率測定結果

地点	試料	火山ガラス (n)	重鉱物組成	斜方輝石（γ）	角閃石 (n2)
12E49-2グリッド	5	1.507-1.513	(opx, ho, cpx)	−	−
12E49-2グリッド	11'	1.497-1.501	(opx, ho, cpx)	−	−
12E49-2グリッド	16	1.498-1.503	(opx, ho, cpx)	1.706-1.708	1.674-1.680
12E58-9グリッド	1	1.497-1.503	(opx, ho, cpx)	1.705-1.708	−
12E58-9グリッド	2	1.498-1.503	opx, ho, cpx	1.705-1.709	1.668-1.673
12F41-21グリッド	1	1.494-1.496	(opx, ho, cpx, bi)	1.705-1.709	1.670-1.672

屈折率の測定は，温度一定型屈折率測定法（新井，1972，1993）による．opx：斜方輝石，cpx：単斜輝石．
重鉱物の()は，量が少ないことを示す．

単斜輝石がごく少量含まれている。

12E58-9グリッドの試料２に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.498-1.503である。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、単斜輝石が含まれている。斜方輝石（γ）と角閃石（n2）の屈折率は、各々1.705-1.709と1.668-1.673である。試料１に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.497-1.503である。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、単斜輝石がごく少量含まれている。斜方輝石（γ）の屈折率は、1.705-1.708である。12F41-21グリッドの試料１に含まれる火山ガラスの屈折率（n）は、1.494-1.496である。重鉱物としては、斜方輝石、角閃石、単斜輝石、黒雲母がごく少量ずつ含まれている。斜方輝石（γ）と角閃石（n_2）の屈折率は、各々1.705-1.709と1.670-1.672である。

６．考察

12E49-2グリッドの試料16に含まれるテフラは、火山ガラスの形態、色調、屈折率、さらに角閃石が含まれることや、斜方輝石や角閃石の屈折率などから、約2,800～2,900年前[*1]に天城火山から噴出した天城カワゴ平テフラ（Kg，町田ほか，1984，葉室，1978）に由来すると考えられる。試料11'に含まれるテフラのほとんども、岩石記載的な特徴からKgに由来すると思われる。しかし、この試料の純度は高くなく、テフラ層に含まれている本質物質を検出できなかった可能性が高い。

試料５に含まれるテフラは、軽石の特徴や火山ガラスの屈折率などから、1783（天明３）年に浅間火山から噴出した浅間Ａ軽石（As-A，荒牧，1968，新井，1979）に由来すると考えられる。なお、同じ試料に含まれるスコリアについては、層位やスコリアの岩相などから、F-Hoに由来すると考えられる。

12E58-9グリッドの試料２と試料１に含まれるテフラ粒子は、いずれも火山ガラスの特徴や屈折率、重鉱物の組み合わせや、斜方輝石（γ）と角閃石（n_2）の屈折率などから、Kgに由来すると考えられる。この結果は、本質物質が少ないことに由来すると思われる。

とくに良い状況で検出された12F41-21グリッド深掘（大）トレンチの試料１に含まれるテフラ粒子は、火山ガラスの特徴や屈折率、重鉱物の組み合わせや、斜方輝石（γ）と角閃石（n_2）の屈折率などから、838（承和５）年に神津島天上山から噴出した神津島天上山テフラ（Iz-Kt，一色，1982)、または886（仁和２）年に新島向山から噴出した伊豆新島向山テフラ（Iz-Nm，徳永・横山，1979，一色，1987）に由来する可能性が考えられる。したがって、12F41-21グリッド深掘（大）トレンチの試料１のテフラ層は、Iz-KtまたはIz-Nmに同定される可能性が非常に高い。なお、斜方輝石や角閃石は、その特徴からKgに由来すると考えられる。以上のことから、同じ層相をもつ12E49-2グリッドの試料11'および12E58-9グリッドの試料１の白色細粒火山灰層についても、これらのテフラに同定される可能性が非常に高い。

溝状遺構の試料12より上位の土層に含まれるテフラについては、軽石の特徴などからAs-Aに由来すると考えられる。

７．まとめ

光町芝崎遺跡において、地質調査、テフラ検出分析、火山ガラス比分析、さらに屈折率測定を行った。その結果、伊豆カワゴ平（Kg，約2,800～2900年前[*1]）起源のテフラ粒子のほか、神津島天上山テフラ（Iz-Kt，838年）または886（仁和２）年に新島向山から噴出した伊豆新島向山テフラ（Iz-Nm，886年)、富士宝永ス

コリア（F-Ho，1707年）、浅間A軽石（As-A，1783年）を検出することができた。

横芝町とその周辺では、Kwの上位の地層から、ほかに浅間C軽石（As-C，４世紀中葉*2，新井，1979）、榛名二ツ岳渋川テフラ（Hr-FA，６世紀初頭，新井，1979，坂口，1986，早田，1989，町田・新井，1992）、浅間火山から噴出した浅間Bテフラ（As-B，1108年，荒牧，1968，新井，1979）、平安時代を中心とした富士火山起源のスコリアなどが検出される可能性もある。したがって、遺構や遺物に関する詳細な編年研究を行うために、テフラに関する調査分析が行われることが期待される。

註

*1　放射性炭素（14C）年代.

*2　現在では４世紀を遡るとする説が有力になっているようである（たとえば，若狭，2000）。しかし、具体的な年代観が示された研究報告例はまだない。現段階においては「３世紀後半」あるいは「３世紀終末」と考えておくのが妥当なのかも知れないが、土器をもとにした考古学的な年代観の変更については、考古学研究者による明確な記載を待ちたい。

文献

新井房夫（1972）斜方輝石・角閃石の屈折率によるテフラの同定－テフロクロノロジーの基礎的研究．第四紀研究，11，p. 254-269.

新井房夫（1979）関東地方北西部の縄文時代以降の示標テフラ層．考古学ジャーナル，no. 53，p. 41-52.

新井房夫（1993）温度一定型屈折率測定法．日本第四紀学会編「第四紀試料分析法－研究対象別分析法」，p. 138-148.

荒牧重雄（1968）浅間火山の地質．地団研専報，no. 45，65p.

葉室和親（1978）大室火山群の地質．地質雑，84，p. 433-444.

一色直記（1982）神津島地域の地質．地域地質研究報告（５万分の１図幅）．地質調査所，75p.

一色直記（1987）新島地域の地質．地域地質研究報告（５万分の１図幅）．地質調査所，85p.

町田　洋（1977）火山灰は語る。蒼樹書房，249p.

町田　洋・新井房夫（1992）火山灰アトラス．東京大学出版会，276p.

町田　洋・新井房夫・小田静夫・遠藤邦彦・杉原重夫（1984）日本考古学とテフラ－考古学研究と関係するテフラのカタログ－．古文化財編集委員会編「考古学に関係する保存科学と人文・自然科学」，p. 865-928.

坂口　一（1986）榛名二ツ岳起源FA・FP層下の土師器と須恵器．群馬県教育委員会編「荒砥北原遺跡・今井神社古墳群・荒砥青柳遺跡」，p. 103-119.

早田　勉（1989）６世紀における榛名火山の２回の噴火とその災害．第四紀研究，27，p. 297-312.

早田　勉（1991）浅間火山の生い立ち．佐久考古通信，no. 53，p. 2-7.

早田　勉（1995）テフラからさぐる浅間山の活動史．御代田町町誌，自然編，p. 22-46.

早田　勉（1996）関東地方～東北地方南部の示標テフラの諸特徴－とくに御岳第１テフラより上位のテフラについて－．名古屋大学加速器質量分析計業績報告書，７，p. 256-267.

徳永　徹・横山勝三（1979）伊豆新島火山の噴火様式と生成運動．地理評，52，p. 111-125.

若狭　徹（2000）群馬の弥生土器が終わるとき．かみつけの里博物館編「人が動く・土器も動く－古墳が成立する頃の土器の交流」，p. 41-43.

芝崎遺跡の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社
上田　圭一　　高橋　敦
金井　慎司　　馬場　健司
松元　美由紀

はじめに

芝崎遺跡は、九十九里浜に形成された砂堤を基盤とする微高地上に立地しており、古代および中世を主とした遺構が検出され、それらの遺構に伴う土器等の遺物も確認されている。

本報告では、畑における栽培植物の検討を目的とした植物珪酸体分析、植物利用状況の把握を目的とした種実遺体同定、木材利用状況の把握を目的とした樹種同定、骨・貝の種類を明らかにするための骨・貝同定を実施する。

1. 畑土壌の植物珪酸体分析

（1）試　料

芝崎遺跡では、平坦な砂州上に黒色土が層厚0.5～1.0mで堆積している。財団法人東総文化財センター・光町教育委員会（2001）によれば、畑跡は砂州堆積物の上面で数十条の平行する溝として検出された。溝は平均で、幅30cm、深さ20～30cm、長さ20～30m、溝と溝の間隔が70cm、溝の中心間が1mである。溝は、畝立てや天地返しで掘り起こされた時の耕作痕と見られ、底部に鋤か鍬の刃先痕が認められる。方位に合わせて区画されていることから、組織的に管理されて耕作されたことが指摘されている。また、畑跡を区画すると思われる溝2条も検出された。この溝は耕作痕の溝よりも大きく、遺物が多く出土する。

試料は、畑跡から採取された土壌40点である（表1）。このうち、試料番号14は、中世とされる畑跡の溝内土壌、他は平安時代の畑跡とされる。試料番号2，3は畑跡を覆う黒色土、試料番号5は溝（耕作痕）の間の土壌、試料番号6，7は12E-43-17溝内の上位と下位の土壌、試料番号8，9は12E-43-22溝内の上位と下位の土壌、試料番号23は白色火山灰、試料番号36, 37は12E-46-23溝内の上位と下位の土壌、試料番号40は溝内土壌である。

（2）分析方法

各試料について、湿重5g前後を秤量し、過酸化水素水・

表1．畑跡の植物珪酸体分析試料

試料番号	採取地点		採取層位	備考
1	12E-43-11	1	畑跡	黒灰色土
2		2	畑跡の上位層	黒色土
3		3	畑跡直上	黒色土
4		4	畑跡	黒灰色土
5	12E-43-17	1	溝(畑跡)中の上	黒色土
6		2	溝(畑跡)中の下	黒灰色土
7		3	溝(畑跡)間の上	黒色土
8	12E-43-22	1	溝(畑跡)中の上	黒色土
9		2	溝(畑跡)中の下	黒灰色土
10	12E-53-5	1	畑跡4層	黒色土
11		2	畑跡5層	黒色土
12		3	畑跡6層	黒灰色土
13		4	畑跡5層	黒色土
14	12E-54-11		溝(畑跡)中（中世）	黒色土
15	12E-45-14	1	畑跡1層	黒色土
16		2	畑跡2層	黒褐色土
17		3	畑跡1層	黒色土
18	12E-45-19	1	畑跡2層	黒色土
19		2	畑跡1層	黒色土
20		3	畑跡2層	黒色土
21		4	畑跡1層	黒色土
22		5	畑跡2層	黒色土
23		6	畑跡7層	白色土
24		7	畑跡1層	黒色土
25		8	畑跡4層	黒灰色土
26		9	畑跡2層	黒色土
27		10	畑跡4層	黒灰色土
28	12E-55-9	1	畑跡1層	黒色土
29		2	畑跡1層	黒色土
30		3	畑跡1層	黒色土
31		4	畑跡3層	黒灰色土
32	12E-55-13	1	畑跡1層	黒灰色土
33		2	畑跡1層	黒灰色土
34		3	畑跡1層	黒色土
35		4	畑跡2層	黒色土
36	12E-46-23	1	溝(畑跡)中の上	黒色土
37		2	溝(畑跡)中の下	黒灰色土
38	12E-47-24	1	畑跡	黒色土
39		2	畑跡	黒色土
40	12E-49-9		溝(畑跡)中	黒色土

塩酸処理、超音波処理（70W, 250KHz, １分間）、沈定法、重液分離法（ポリタングステン酸ナトリウム，比重2.5）の順に物理・化学処理を行い、植物珪酸体を分離・濃集する。これを検鏡し易い濃度に希釈し、カバーガラス上に滴下・乾燥させる。乾燥後に、プリュウラックスで封入してプレパラートを作製する。

プレパラートは400倍の光学顕微鏡下で全面を走査し、その間に出現するイネ科葉部（葉身と葉鞘）の葉部短細胞に由来した植物珪酸体（以下、短細胞珪酸体と呼ぶ）および葉身機動細胞に由来した植物珪酸体（以下、機動細胞珪酸体と呼ぶ）を、近藤・佐瀬（1986）の分類に基づいて同定・計数する。

分析の際には、分析試料の乾燥重量、プレパラート作成に用いた分析残渣量、検鏡に用いたプレパラートの数や検鏡した面積を正確に計量し、堆積物１gあたりの植物珪酸体含量を求める。

結果は、検出された植物珪酸体の種類と植物珪酸体含量の一覧表で示す。また、各種類の植物珪酸体含量とその層位的変化から畑作物の種類や古植生について検討するために、地点間の植物珪酸体含量の変化を図示する。これは、同定した数を堆積物１gあたりの個数に換算して表現したものである。

（３）結果

各試料の植物珪酸体含量を表２、図１に示す。１g中の植物珪酸体含量は、多くの試料で10万個を越えるが、６点（試料番号7, 16, 23, 34, 38, 39）では10万個未満であった。とくに、試料番号23で産出量が少なく、１g中の含量は4,526個であった。検出された種類をみると、短細胞珪酸体では、いずれの試料でもヨシ属が多く、タケ亜科、ウシクサ族ススキ属、イチゴツナギ亜科、イネ族イネ属を伴う。また、ネザサ節、キビ族チゴザサ属、ウシクサ族コブナグサ属が検出される試料もある。全体的に保存状態は悪く、同定できず不明とした試料も多い。一方、機動細胞珪酸体では、ヨシ属、タケ亜科、ネザサ節、ウシクサ族、イネ属がほとんどの試料で検出され、シバ属を伴う試料もある。

栽培植物についてみると、多くの試料からイネ属の短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体が検出される。また、試料番号13, 14, 29-31, 34, 37, 39では、イネ属頴珪酸体が組織片として検出されている。イネ属以外では、栽培種が含まれるヒエ属が試料番号31, 37, 38、キビ属が試料番号31-33, 37で検出された。

これらの植物珪酸体含量について各試料間での違いを見るために図２を作成した。以下に、栽培植物を中心に各地点の産状を述べる。

・12E-43-11（試料番号１-４）

植物珪酸体含量は、畑跡を覆う黒色土の試料番号２，３で約26万個/gおよび約41万個/gであった。一方、下位にあたる試料番号１，４では、約11万個/g、約12万個/gであった。栽培植物では、試料番号1-3でイネ属が検出される。試料番号２，３では短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体、試料番号１では短細胞珪酸体が検出される。その含量は短細胞珪酸体が約300-1200個/g、機動細胞珪酸体が約500個/g前後であった。

・12E-43-17（試料番号５-７）

植物珪酸体含量は、溝内上位の試料番号５で約22万個/g、溝内下位の試料番号６で約15万個/g、溝（耕作痕）間の試料番号７で約５万個/gである。このうち、試料番号５，６でイネ属が検出され、その含量は試料番号５の短細胞珪酸体が約700個/g、機動細胞珪酸体が約970個/g、試料番号６の短細胞珪酸体が約230個/g、機動細胞珪酸体が約460個/gであった。

・12E-43-22（試料番号８，９）

植物珪酸体含量は、溝内上位の試料番号８と溝内下位の試料番号９で約14万個/g前後である。いずれの試

表２．畑跡の植物珪酸体含量（１）（個/g）

種　類	12E-43-11				12E-43-17			12E-43-22		12E-53-5			
試料番号	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
イネ科葉部短細胞珪酸体													
イネ族イネ属	356	923	1,218	0	724	229	0	377	536	1,460	2,003	1,496	1,245
キビ族ヒエ属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キビ族キビ属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キビ族チゴザサ属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	187	0
タケ亜科ネザサ節	356	615	0	0	1,207	0	310	377	357	584	0	187	0
タケ亜科	2,668	14,612	7,310	4,241	27,755	2,749	3,104	5,657	2,680	6,133	4,172	6,730	4,231
ヨシ属	59,938	110,279	226,355	59,140	75,543	80,397	21,420	68,825	83,609	43,806	69,086	49,914	56,752
ウシクサ族コブナグサ属	178	0	0	0	0	0	0	0	0	292	334	374	0
ウシクサ族ススキ属	2,312	4,460	10,234	4,005	9,171	3,894	1,397	3,206	3,573	4,673	4,673	3,365	1,742
イチゴツナギ亜科	3,201	3,230	3,411	707	1,448	1,374	931	1,697	2,144	1,460	1,335	1,869	1,493
不明	36,105	51,679	74,315	22,619	48,753	40,542	15,211	40,729	29,835	31,833	26,533	26,546	29,123
イネ科葉身機動細胞珪酸体													
イネ族イネ属	0	615	487	0	965	458	0	377	179	584	334	374	747
タケ亜科ネザサ節	356	2,922	731	942	6,758	1,145	2,018	566	893	3,212	167	374	498
タケ亜科	1,245	18,457	17,056	5,184	24,377	4,352	2,173	6,223	3,216	12,558	7,843	1,869	4,480
ヨシ属	2,490	19,226	31,919	8,718	7,482	4,581	2,794	8,297	3,930	14,018	9,345	4,487	5,227
ウシクサ族	1,779	9,075	10,234	4,005	4,827	2,978	931	2,074	3,394	8,177	4,506	3,365	6,223
シバ属	0	461	487	0	241	0	155	0	179	0	0	187	0
不明	3,024	22,917	30,944	11,781	12,068	7,101	3,260	6,600	4,824	14,310	7,676	5,048	11,201
組織片													
イネ属穎珪酸体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	498
総　計	114,006	259,472	414,701	121,343	221,320	149,800	53,706	145,003	139,348	143,101	138,006	106,371	123,460

表２．畑跡の植物珪酸体含量（２）（個/g）

種　類	12E-45-14				12E-45-19									
試料番号	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
イネ科葉部短細胞珪酸体														
イネ族イネ属	902	291	49	255	1,995	994	2,474	1,394	1,693	0	1,175	496	1,110	0
キビ族ヒエ属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キビ族キビ属	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
キビ族チゴザサ属	451	291	197	2,038	2,793	4,972	3,711	3,137	8,129	65	2,351	1,240	1,554	3,009
タケ亜科ネザサ節	676	0	0	0	0	0	247	697	0	43	784	0	666	802
タケ亜科	30,440	3,782	1,033	4,585	7,979	7,624	12,619	9,759	8,129	195	4,310	3,472	2,441	3,209
ヨシ属	35,400	115,200	12,442	82,276	157,979	114,033	100,206	173,918	234,039	1,364	90,108	110,849	77,233	86,445
ウシクサ族コブナグサ属	676	291	246	764	1,596	994	1,237	1,046	3,387	0	784	1,240	1,110	2,006
ウシクサ族ススキ属	9,921	4,364	787	3,566	13,165	6,961	9,897	7,319	16,935	87	8,619	6,696	5,326	9,226
イチゴツナギ亜科	3,608	2,618	344	5,604	6,782	4,309	6,186	3,485	10,500	22	1,763	2,480	4,217	3,209
不明	76,888	51,200	7,524	44,577	73,404	68,950	60,619	64,827	122,269	801	33,497	33,726	40,614	37,306
イネ科葉身機動細胞珪酸体														
イネ族イネ属	225	0	49	0	1,197	331	247	1,046	677	0	784	0	444	201
タケ亜科ネザサ節	7,215	0	49	255	399	0	1,237	2,440	2,710	195	2,938	248	1,554	1,003
タケ亜科	16,460	7,855	2,115	2,293	6,383	5,967	10,144	21,261	8,129	368	13,124	5,704	8,877	3,610
ヨシ属	7,892	6,691	2,213	2,293	5,585	7,293	8,165	21,261	16,596	476	27,424	6,944	10,431	4,413
ウシクサ族	9,921	3,491	1,524	1,783	10,771	3,646	7,175	10,805	17,951	476	19,393	8,184	11,097	4,011
シバ属	225	291	0	255	0	0	495	1,046	339	22	588	0	444	0
不明	18,264	7,273	2,459	3,566	11,968	4,972	7,918	17,775	16,257	412	23,898	11,407	11,763	4,413
組織片														
イネ属穎珪酸体	225	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総　計	219,391	203,636	31,030	154,108	301,994	231,050	232,577	341,214	467,739	4,526	231,538	192,684	178,879	162,861

表２．畑跡の植物珪酸体含量（３）（個/g）

種　類	12E-55-9		12E-55-9		12E-55-13				12E-46-23		12E-47-24		12E-49-9
試料番号	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40
イネ科葉部短細胞珪酸体													
イネ族イネ属	409	1,680	2,468	2,760	741	813	169	643	216	444	623	655	686
キビ族ヒエ属	0	0	0	307	0	0	0	0	0	222	208	0	0
キビ族キビ属	0	0	0	460	593	325	0	0	0	665	0	0	0
キビ族チゴザサ属	1,227	960	1,519	1,687	593	650	674	643	1,081	665	623	328	343
タケ亜科ネザサ節	409	0	380	767	593	650	337	1,501	648	1,553	623	328	514
タケ亜科	2,249	2,879	1,898	3,987	3,703	1,300	674	1,286	2,161	4,214	2,698	2,949	1,886
ヨシ属	87,306	117,576	99,288	97,521	45,920	54,930	32,697	79,528	122,983	104,030	32,371	41,944	75,450
ウシクサ族コブナグサ属	204	1,680	190	153	148	0	169	0	648	222	0	0	686
ウシクサ族ススキ属	10,632	10,078	15,377	14,413	13,480	8,451	4,551	7,717	15,778	17,745	2,283	3,277	6,516
イチゴツナギ亜科	1,431	960	1,329	3,373	2,518	975	1,348	1,501	4,755	5,545	1,245	1,966	1,200
不明	31,896	31,674	28,477	36,647	26,367	26,327	12,303	25,509	35,879	39,261	20,335	20,317	22,292
イネ科葉身機動細胞珪酸体													
イネ族イネ属	409	0	1,139	1,227	148	163	1,011	1,501	216	222	623	328	1,715
タケ亜科ネザサ節	1,227	960	1,329	460	889	650	2,360	1,715	432	1,331	623	655	2,401
タケ亜科	9,610	6,719	6,645	5,980	2,666	4,713	5,393	10,504	8,646	10,425	2,698	1,966	5,830
ヨシ属	10,019	12,717	10,441	6,593	2,814	1,788	6,742	9,432	5,403	11,978	2,698	2,294	11,832
ウシクサ族	7,565	10,078	12,720	11,500	3,703	2,438	8,258	13,290	8,213	16,858	3,320	1,966	13,032
シバ属	0	480	0	0	0	0	0	429	0	444	0	328	171
不明	8,587	9,838	10,631	9,507	5,185	4,388	7,416	13,505	9,942	19,741	3,735	6,226	16,976
組織片													
イネ属穎珪酸体	0	1,200	760	612	0	0	337	0	0	444	0	328	0
総　計	173,181	209,479	194,590	197,954	110,061	108,559	84,438	168,703	217,003	236,008	74,701	85,855	161,532

料からもイネ属が検出され、その含量は試料番号８の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体でいずれも約380個/g、試料番号９の短細胞珪酸体が約540個/g、機動細胞珪酸体が約180個/gであった。

・12E-53-5（試料番号10-13）

植物珪酸体含量は約14万-11万個/gである。いずれの試料からもイネ属の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が検出され、その含量は短細胞珪酸体が約1,200-2,000個/g、機動細胞珪酸体が約370-750個/gである。また、試料番号13からは籾殻に形成される穎珪酸体も認められる。

・12E-54-11（試料番号14）

中世の畑跡とされる試料番号14の植物珪酸体含量は約21万個/gである。イネ属の短細胞珪酸体、機動細胞珪酸体、穎珪酸体が検出される。

・12E-45-14（試料番号15-17）

住居の北側に位置する畑跡試料のうち、試料番号15と試料番号17では植物珪酸体含量がそれぞれ約20万個/gと約15万個/g検出されたが、試料番号16では約３万個/gであった。

イネ属は試料番号16で短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体、試料番号15と試料番号17で短細胞珪酸体が検出され、その含量は約50-290個であった。

・12E-45-19（試料番号18-27）

植物珪酸体含量は、試料番号23を除く９点で約16万-46万個/gであったが、試料番号23では約4,500個/gであった。

１層や２層の試料（試料番号18-22,24,24）からはイネ属が検出され、短細胞珪酸体は約1000-2500個/g、

機動細胞珪酸体は247-1197/gであった。４層の試料（試料番号25, 26）のうち、試料番号25では、イネ属の短細胞珪酸体が496個/g検出されたが、機動細胞珪酸体は検出されなかった。一方、試料番号26では、イネ属の短細胞珪酸体が1,110個/g、機動細胞珪酸体が444個/gであった。

白色火山灰の７層から採取された試料番号23は、全試料中で植物珪酸体含量が最も少なく、栽培植物のイネ属等は全く検出されなかった。

・12E-55-9（試料番号28-31）

試料番号28-31の植物珪酸体含量は、約17万-21万個/gである。全ての試料でイネ属の短細胞珪酸体および機動細胞珪酸体が検出される。また、試料番号29-31では、イネ属の穎珪酸体も認められる。この他、試料番号31では栽培種のヒエを含むヒエ属、キビを含むキビ属も認められるが、検出された植物珪酸体が栽培種

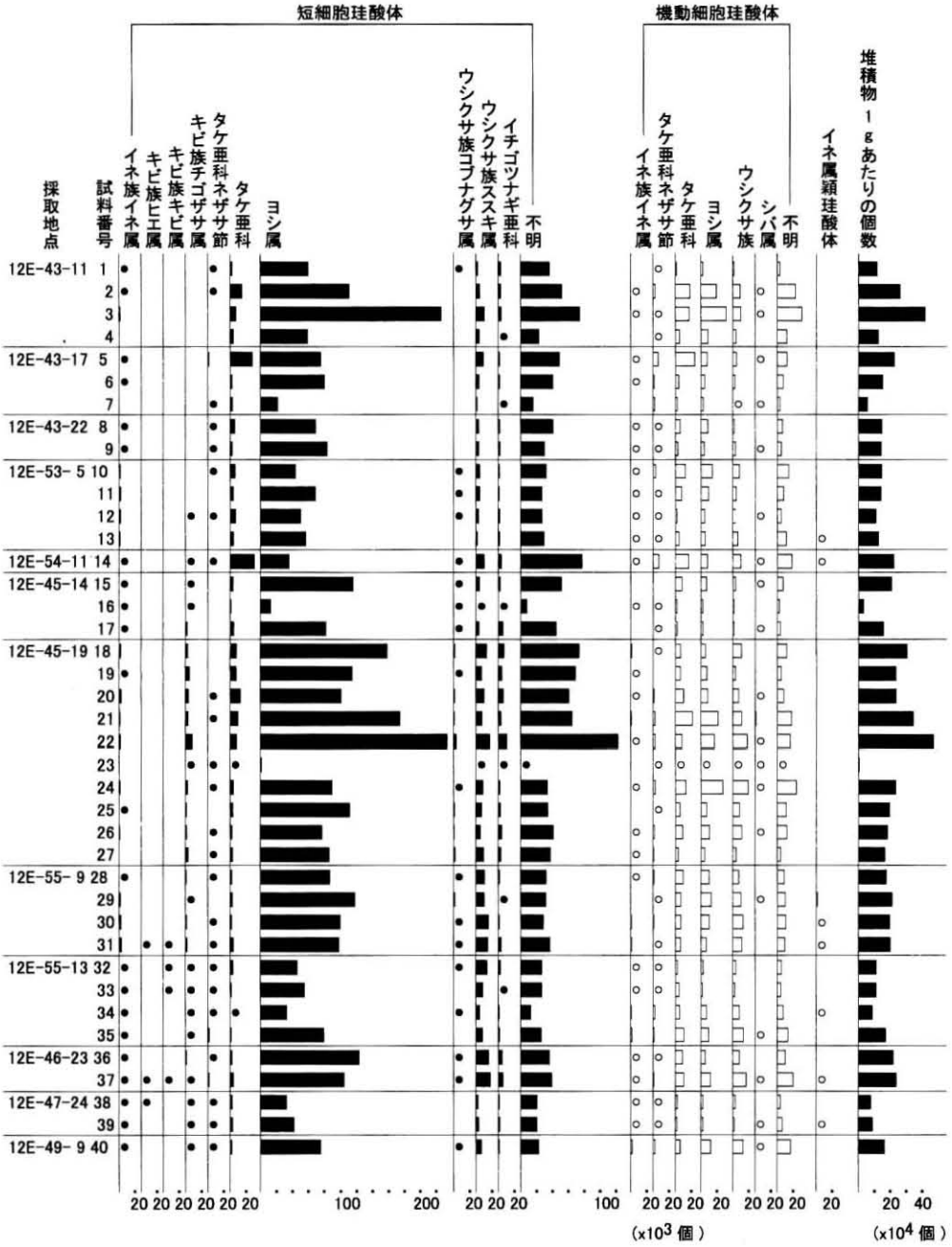


図１．畑跡の植物珪酸体含量
堆積物１gあたりに換算した個数を示す。● ○は、1,000個未満で検出された種類を示す。

に由来するかは不明である。

・12E-55-13（試料番号32-35）

試料番号32-35では、植物珪酸体含量が約８万-17万個/ｇであった。全ての試料でイネ属の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が検出され、試料番号34では穎珪酸体も検出された。また、試料番号32,33では、キビ族キビ属の短細胞珪酸体が検出さた。

・12E-46-23（試料番号36,37）

溝内上位の試料番号36と溝内下位の試料番号37では、植物珪酸体含量が約21-23万個/gであった。いずれの試料でもイネ属の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が検出され、試料番号37では穎珪酸体も認められる。また、試料番号37ではヒエ属とキビ属の短細胞珪酸体も認められる。

・12E-47-24（試料番号38,39）

平安時代の溝を挟む試料番号38,39は、植物珪酸体含量が約7.4-8.5万個/g前後である。いずれもイネ属の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が認められ、試料番号39ではイネ属穎珪酸体も認められる。また、試料番号38からは、ヒエ属も検出される。

・12E-49-9（試料番号40）

植物珪酸体含量は、約16万個/gであった。イネ属の短細胞珪酸体と機動細胞珪酸体が認められた。

（４）考察

畑等の土壌について植物珪酸体分析を行った結果、最も多いのはヨシ属であるが、これは遺跡の立地環境を考慮すれば、河道沿いや堤間湿地等の低地にヨシが生育しており、その植物珪酸体が土壌中に混入したことが推定される。また、タケ亜科は、ネザサ節まで同定されたものと、タケ亜科までしか同定できなかったものとがある。複数種類に由来する可能性があるが、ネザサ節には丘陵地などに生育する種類も含まれており、周囲の台地縁辺部等に生育していた可能性がある。

一方、栽培種では、ほとんどの試料でイネ属の短細胞珪酸体や機動細胞珪酸体が検出され、一部の試料では穎珪酸体も検出された。この結果から、畑跡からイネ属が検出さ

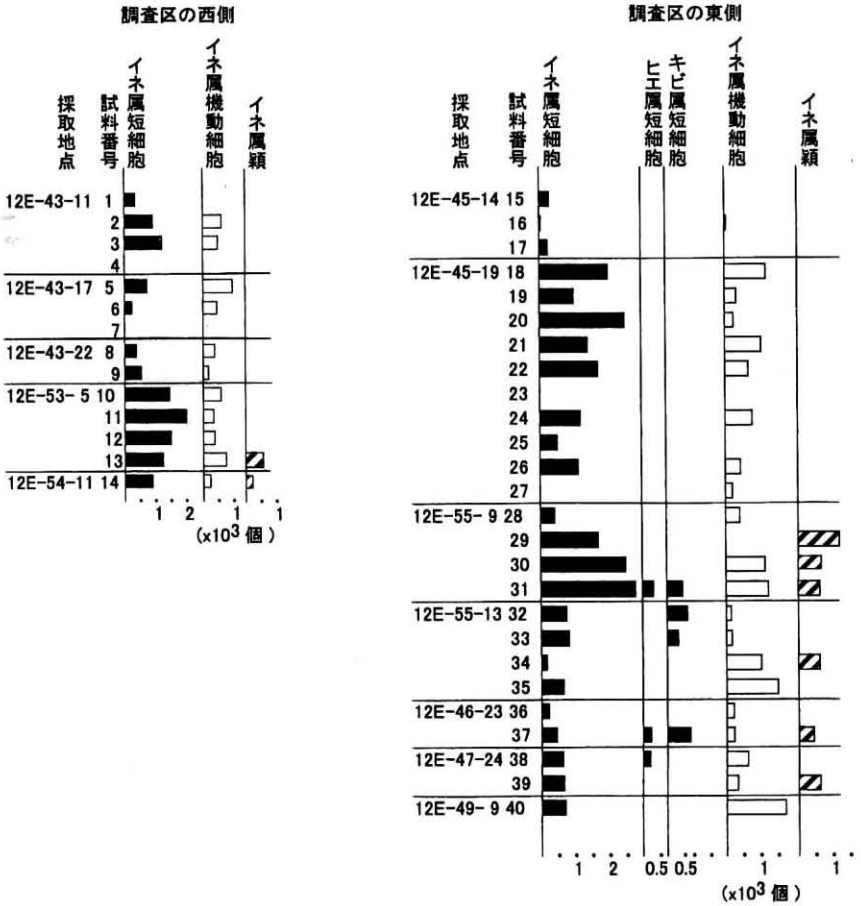


図２．畑跡より検出されたイネ属・ヒエ属・キビ属の植物珪酸体含量
１gあたりに換算した個数を示す。

れたことを考慮すると、畑でイネが栽培されていた可能性があるが、敷藁等に由来する可能性もあり、調査を行った畑でイネが栽培されていたか否かについては不明である。また、イネの短細胞珪酸体が組織片の状態で出土していないことを考慮すると、イネは周囲の堤間湿地などの低地で栽培されており、その植物珪酸体が畑土壌中に混入した可能性もある。

イネ属以外では、12E-55-9の試料番号31や12E-46-23の試料番号37などからは栽培種を含む種類であるヒエ属やキビ属が認められ、周囲に生育していたことが推定される。これらが栽培種に由来するとすれば、12E-55-9や12E-55-13、12E-46-23、12E-47-24では、畑でヒエやキビが栽培されていた可能性がある。このことは、種実遺体でアワーヒエが確認されたこととも調和的である

また、後述する種実遺体では栽培種としてオオムギ・コムギが確認されている。これらはイネ科の栽培植物であり、周囲で栽培されていたとすれば植物珪酸体分析でも検出できるはずである。しかし、今回の分析結果ではムギ属は全く検出されておらず、植物珪酸体分析からはムギ属の栽培が確認できない。そのため、オオムギやコムギについては、遺跡外から持ち込まれた可能性があるが、隣接する中島遺跡では僅かに検出されており、少ないながら栽培されていた可能性もある。

2. 種実遺体の種類

（1）試料

種実同定は、検出された種実26点である。いずれもビニール袋内に複数点が入っている。各試料の詳細は、結果と共に表３に示す。

（2）分析方法

試料をシャーレに移して双眼実体顕微鏡下で観察し、同定可能な果実、種子などを抽出する。種実の形態的特徴を、現生標本および原色日本植物種子写真図鑑（石川, 1994）、日本植物種子図鑑（中山ほか, 2000）等と比較し、種類を同定し個数を数えた。分析後の種実等は、種類毎にビンに入れ、70%程度のエタノール溶液による液浸保存または乾燥剤を入れ保管する。

（3）結果

結果を表３に示す。被子植物８分類群（木本３分類群、草本５分類群）の種実の他に、炭化材、部位・種類共に不明の炭化物、不明物質、岩片などが確認された。芝崎遺跡からは栽培植物のスモモ、モモ、イネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギ、ムギ類が検出され、全て炭化した状態であった。検出された種実の形態的特徴などを、木本、草本の順に記述する。

表３．畑跡より検出されたイネ属

種類名	●スモモ	●モモ	●イネ	●アワ―ヒエ	●オオムギ	●コムギ	●ムギ類
部位	核	核	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳	胚乳
遺構	破片・炭化	破片・炭化	炭化	炭化	炭化	炭化	炭化
65号土坑	−	10	2	−	−	4	4
66号土坑	11	−	9	1	5	−	4
175号住居	−	−	21	−	1	−	−

注）●は栽培植物を示す。

＜木本＞

・スモモ（*Prunus salicina Lindley*）バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片が検出された。炭化しており黒色を呈す。完形ならばレンズ状の広楕円体。径10㎜程度。基部は丸く臍点がある。一方の側面には縫合線が発達する。内果皮は厚く硬く、表面にはごく浅い凹みが不規則にみられる。

・モモ（*Prunus parsica Batsch*）バラ科サクラ属

核（内果皮）の破片が検出された。炭化しており、黒色を呈する。復元される形状は、広楕円形でやや偏平。一方の側面に縫合線が発達し、縫合線に沿って割れた痕跡がある。内果皮は厚く硬く、表面には縦に流れる不規則な線状の窪みがあり、全体として粗いしわ状に見える。

＜草本＞

・イネ（*Oryza sativa* L.）イネ科イネ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。長楕円形でやや偏平。

長さ4-6mm、幅2.5mm、厚さ1.5mm程度。一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2-3本の縦溝がある。

・アワーヒエ（*Setaria itarica* (L.) P.Beauv.- *Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno）イネ科

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。広楕円体でやや偏平。径1.5mm程度。背面は丸みがあり、腹面は平ら。基部に胚の凹みがある。アワ、ヒエの区別は、走査型電子顕微鏡下による内外穎の観察により可能であるが（松谷,1980;2000など）、検出された胚乳の表面に穎が付着しているものは認められなかった。

・オオムギ（*Hordeum valgale* L.）イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。紡錘状長楕円形体でやや偏平。先端部は尖り、基部は丸い。長さ5-7mm、幅3.5mm、厚さ３mm程度。腹面は１本のやや太く深い縦溝があり、背面基部には胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑。

・コムギ（*Triticum aestivum* L.）イネ科コムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色を呈す。楕円体でやや偏平。全体的に丸みを帯びている。長さ3.5-4mm、幅2-2.5mm程度。腹面には１本のやや太く深い縦溝がある。背面基部には胚の痕跡があり、丸く窪む。表面はやや平滑。なお、頂部を欠損するなど遺存状態が悪く、オオムギとの判別が難しいものはムギ類とした。

（４）考察

芝崎遺跡から検出されたスモモ、モモ、イネ、アワ、オオムギ、コムギは、古くから栽培のために渡来した植物である（南木,1991）。スモモやモモは観賞用の他、果実や核の中にある仁（種子）などが食用、薬用等に広く利用される。穀類のイネ、アワーヒエ、オオムギ、コムギは、胚乳や種子が食用される。これらは全て炭化していることから、火熱を受けたことが推定される。これらの炭化した栽培植物の可食部である種実が、土坑や住居跡から検出された状況を考慮すると、遺跡近辺で栽培もしくは持ち込まれ、生活残渣として廃棄されたものと考えられる。イネについては、植物珪酸体分析でも認められており、周辺で栽培されていたことが推定される。一方、オオムギ・コムギ・ムギ類は、植物珪酸体分析では認められなかったが、隣接する中島遺跡では僅かに植物珪酸体が検出されており、周囲で少ないながら栽培されていた可能性もある。

千葉県内における平安時代の遺跡では、多古町新城遺跡からイネの炭化胚乳塊が、匝瑳群光町城山遺跡の９世紀代のカマドからマメ類が、市川市須和田遺跡の住居跡からはオオムギが、君津市常代遺跡の住居跡からスモモ、モモが、市原市上総国分尼寺跡の９世紀前半の井戸跡から、スモモ、ウメ、モモ、カキノキ属、イネ、ジュズダマ、アサ、シソ属、ナス、ヒョウタン類などの栽培植物が確認されており（埋蔵文化財研究会2001,大谷,2003など）、今回の芝崎遺跡の分析で得られた栽培植物の種類とも調和的である。以上のこと

から、これら栽培植物が当時の遺跡周辺において広く利用されていたと考えられる。

表４．樹種同定結果

遺 構	出土位置	樹 種
175号住居（鍛冶遺構）	F-13	カエデ属
	H-13	コナラ属コナラ亜属クヌギ節
	I-12	サクラ属
	J-14	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	k-14	コナラ属コナラ亜属コナラ節
	L-15	サクラ属
	炉一括	広葉樹

３．炭化材の樹種同定

（１）試料

試料は、９世紀中頃と考えられる175号住居から出土した炭化材７点である。いずれも小片で脆い。

（２）分析方法

実体顕微鏡下で、木口（横断面）・柾目（放射断面）・板目（接線断面）の３断面で見られる木材組織を観察し、その特徴から種類を同定する。なお、いずれも小片で脆いために、走査型電子顕微鏡で観察するための試料調整はできなかった。

（３）結果

樹種同定結果を表4に示す。炉一括の炭化材は、道管が認められることから広葉樹材であるが、保存状態が悪く、道管の配列等が観察できなかったため、種類の同定には至らなかった。その他の炭化材は、広葉樹４種類（コナラ属コナラ亜属クヌギ節・コナラ属コナラ亜属コナラ節・サクラ属・カエデ属）に同定された。

各種類の解剖学的特徴等を記す。

・コナラ属コナラ亜属クヌギ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Cerris*）ブナ科

環孔材で、孔圏部は１－２列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら単独で放射状に配列する。放射組織は単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・コナラ属コナラ亜属コナラ節（*Quercus* subgen. *Lepidobalanus* sect. *Prinus*）ブナ科

環孔材で、孔圏部は１－３列、孔圏外で急激に管径を減じたのち、漸減しながら火炎状に配列する。放射組織は単列、１～20細胞高のものと複合放射組織とがある。

・サクラ属（Prunus）バラ科

散孔材で、管壁厚は中庸、横断面では角張った楕円形、単独または２－８個が複合し、晩材部へ向かって管径を漸減させながら散在する。道管の内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は１－５細胞幅、１-30細胞高。

・カエデ属（Acer）カエデ科

散孔材で、管壁は薄く、横断面では角張った楕円形、単独および２－３個が複合して散在し、晩材部へ向かって管径を漸減させる。道管の内壁にはらせん肥厚が認められる。放射組織は１－５細胞幅、１-30細胞高。細胞壁の厚さが異なる２種類の木繊維が木口面において不規則な紋様をなす。

（４）考察

炭化材は、全て175号住居跡から出土したものであり、鍛冶燃料材と考えられている。炭化材は全て広葉樹であり、４種類が確認された。いずれも重硬で強度が高い部類に入り、クヌギ節やコナラ節は薪炭材として国産材の中でも特に優良とされる（平井, 1979）。この結果から、比較的重硬な木材を燃料材として利用したことが推定される。これらの木材は、隣接する中島遺跡の花粉分析結果等から、周囲に生育していた可能性がある。

鍛冶燃料材については、民俗事例でクリやマツの木炭がよいとされる（岸本・杉浦,1980)。これは、軟らかく燃えやすいために、一時的に強い火力を必要とする際に適材であったためと考えられる。今回の結果は、硬い木炭となる種類が利用されており、民俗事例とは異なる木材利用ともいえる。

千葉県内では、市原市に所在する押沼第1遺跡において、９世紀後半の精錬に伴う燃料材と考えられる炭化材にクヌギ節が多い結果が得られているが（パリノ・サーヴェイ株式会社,1993)、鍛冶燃料材については樹種同定を行った例がない。そのため、鍛冶燃料材の木材利用については、今後の資料蓄積が望まれる。

４.動物骨の種類

（１）試料

試料は、中世（室町時代）の道路脇から出土した獣歯（試料名:12E-44-12　No.1-4)、中世（室町時代前期）の井戸跡から出土した貝類（試料名:12E-56-12　３号井戸)、中世（室町時代）の溝跡から出土した貝類（試料名:12E-57-7　溝)、近世の土坑から出土した獣歯（74号土坑）である。いずれも土壌が付いた状態にあり、複数点の骨片あるいは貝片が認められる。試料の詳細は、結果とともに表示する。

（２）分析方法

試料に付着した土壌を水に浸した筆等で除去する。自然乾燥後、一部の試料については一般工作用接着剤を用いて接合を行う。試料を肉眼およびルーペで観察し、その形態的特徴から、種と部位の同定を行う。計測は、デジタルノギスを用いて測定する。なお、動物骨の同定および解析には、金子浩昌先生に協力をお願いし、署名原稿として結果を頂いた。

（３）結果および考察

芝崎遺跡出土の獣骨・貝類

金子　浩昌

検出された種類は、貝類が4種類、獣類が１種類である（表５)。以下、各試料の結果を示す。

・12E-44-12　No.1-4

中世（室町時代）の道路脇からまとまって出土したウマの歯牙である。左第２切歯、左第２-４前臼歯、左第１-３後臼歯、右第４前臼歯、右第１-２後臼歯が確認されており、上顎歯のみ残存する。

左右の上顎歯は、生体時の配列を保って出土したものと思われる。そうだとすれば、この場所にウマ頭蓋があったと推測される。下顎歯が検出されていないので、下顎骨は存在しなかったと推定される。すなわち、下顎骨のみが当初から無かったとすれば、この場所には、下顎骨の外された頭骨のみがあったと想像される。

出土した歯の保存状況をみると、右側歯牙は破

表５．芝崎遺跡２出土動物分類群一覧

軟体動物門　Phylum　Mollusca
腹足綱　Class　Gastropoda
前鰓亜綱　Subclass　Prosobranchia
古腹足目　Order　Vetigastropoda
ニシキウズガイ科　Family　Trochidae
ダンベイキサゴ　*Umbonium giganteum*
原始紐舌目　Order　Architaenioglossa
タニシ科　Family　Viviparidae
オオタニシ　*Cipangopaludina japonica*
二枚貝綱　Class　Bivalvia
弁鰓亜綱　Subclass　Eulamellibranchia
古異歯目　Order　Palaeoheterodonta
イシガイ科　Family　Unionidae
イシガイ　*Unio douglasiae*
異歯亜綱　Order　Heterodonta
マルスダレガイ目　Order Veneroida
マルスダレガイ科　Family　Veneridae
チョウセンハマグリ　*Meretrix lamarckii*
脊椎動物門　Phylum　Vertebrata
哺乳綱　Class　Mammalia
ウマ目(奇蹄目)　Order　Perissodactyla
ウマ科　Family　Equidae
ウマ　*Equus caballus*

表６．芝崎遺跡出土獣骨貝類同定結果

グリッド	番号	採取地点	時代	分類群	部位	左右		部分	数量	計測値(mm)	備考
12E-44-12	1-4	中世道路脇	中世(室町)	ウマ	上顎歯牙	左		第2切歯	1		
								第2前臼歯	1		
								第3前臼歯	1		
								第4前臼歯	1	全歯高:64.0	
								第1後臼歯	1	全歯高:56.0	
								第2後臼歯	1	全歯高:63.0	
								第3後臼歯	1	全歯高:66.0	
							右	第4前臼歯	1		4片で1個体
								第1後臼歯	1		
								第2後臼歯	1		
					歯牙			破片	89		他、微細片有
					残渣				多		40.4g
12E-56-12		３号井戸	中世(室町前期)	オオタニシ	殻				1		
				イシガイ	殻		右		40		
						左			59		
				その他	破片				多		16.0g
12E-57-7		溝	中世(室町)	ダンベイキサゴ	殻				2		他、破片1
				チョウセンハマグリ	殻		右		54		
						左			46		
				その他	殻				多		47.4g
12E53-22・23		74号土坑	中世～近世	ウマ	上顎歯牙	左		第1切歯	1		
								第2切歯	1		
								第3切歯	1		
								前臼歯?頬側破片	3		
								第1後臼歯舌側破片	1		
								第1後臼歯頬側破片	1		
								第2後臼歯?頬側破片	1		
								第3後臼歯?頬側破片	1		
								後臼歯?舌側破片	2		
								後臼歯?頬側破片	2		
							右	第1切歯	1		
								第2切歯	1		
								第3切歯	1		
								第2後臼歯頬側破片	1		
								第3後臼歯舌側破片	1		
								後臼歯?舌側破片	7		
								後臼歯?頬側破片	4		
					下顎歯牙	左		第1切歯	1		
								第2切歯	1		
								第3切歯	1		
							右	第1切歯	1		
								第2切歯	1		
								第3切歯	1		
								第3後臼歯頬側破片	1		
					下顎歯牙?			破片	19		
					歯牙			切歯破片	5		
								破片	多		10.7g

損したものが多く、第１-２後臼歯のみ形状を保っている。左側歯牙は、切歯１点が僅かに残り、第２前臼歯が舌側面のみ残される。第３前臼歯以降の歯牙は、ほぼ原状が残されていた。歯牙全歯高の計測値からみると、５歳前後の個体と推定される。

・12E-56-12　3号井戸

中世（室町時代前期）の３号井戸では、淡水種のイシガイが主に出土する。この他、淡水種のオオタニシがわずか１点認められる。これらの貝類の内、イシガイは捕食されたものか決めがたいが、井戸内に棲息していたものでなく、周辺の池沼から採取されたものが投棄された可能性がある。

・12E-57-7　溝

中世（室町時代）の溝では、チョウセンハマグリ（右殻54点）を主体として、ダンベイキサゴが２点出土する。ただし、チョウセンハマグリも、全部ででるから、貝塚のようなものでない。チョウセンハマグリは、計測できたものでみると、大きくても殻長36㎜前後、最も小さい殻が殻長15.5㎜前後、大半が約23-27㎜前後

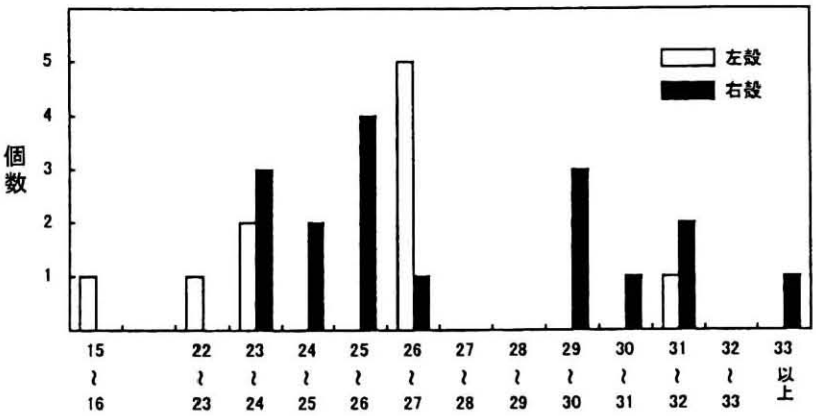


図３．チョウセンハマグリの殻長分布

の小型の殻を主体とする（図３）。

これら出土した貝類は、ダンベイキサゴが男鹿半島・鹿島灘から九州南部の水深５-30mの砂底、チョウセンハマグリが鹿島灘以南、台湾、フィリピンの潮間帯下部から水深20mの外洋に面した砂底に、それぞれ棲息するとされている（奥谷編著,2000）。これを参考にすると、これらの貝類は、当時の外浜等で採れた貝であったと推測される。

・74号土坑

近世に所属し、長軸約1.8m×短軸約1.0mを計る不整形な楕円形土坑の北壁際から出土したウマの歯牙である。切歯を除く臼歯は、全て大破した状態である。切歯は、左右上下の切歯の大部分が残されている。臼歯の破損に比べると保存が良好であったのは、この部分が噛み合う状態で一塊りになっていたため、取り上げ時の破損が少なかったと思われる。ただ唇側面側は保存されたのに対して舌側面がすべて破損している。臼歯は、咬面を残す破片は20数片があるが、舌側、頬側を区別しても一部の歯牙しか確認されない。ただし、本来は全歯があったと推定される。上顎臼歯では、３点のみ左舌側を確認できる。後臼歯の一部と思われる。右舌側を確認できたのは２点で、これも後臼歯と思われる。臼歯高は、破損するため推定高となるが、第１後臼歯で10.0mm前後と思われ、20歳になる。下顎臼歯は、上顎臼歯に比べて破損率が高く、左第３後臼歯の舌側を確認した程度にとどまる。他は、破損しており、その数も少ない。本土坑からは、高年齢のウマの上下切歯と臼歯があったことから、頭骨があったと推定される。

５．製鉄関連遺物の分析

（１）試料・調査項目

平安時代（９世紀中頃）とされる175号住居跡から出土した、椀形鉄滓、羽口、炉壁片、鍛造剥片、粒状滓等である。これらの遺物から、鉄滓２点、炉壁１点、鍛造剥片２点、粒状滓１点を選択し、金属学的調査を行う。表７に分析を行う遺物の一覧と調査項目を示す。

表７．調査試料の一覧と調査項目

試料名	記号	調査項目			
		外観	組織観察	鉱物相分析	成分分析
椀形鉄滓	No.547(0-12)	○	○	○	○
椀形鉄滓	No.559(J-12)	○	○	○	×
炉壁片	No.622(J-15)	○	○	○	×
鍛造剥片	G-12	○	○	○	×
鍛造剥片	H-12	○	○	○	×
粒状滓	H-14	○	○	○	×

（２）試料調製および分析方法

分析は、株式会社日鐵テクノリサーチが行った。調査試料は、外観的特徴を記録し、鉄滓および炉壁片については代表的な箇所についてダイヤモンドカッターにて一部を切り取った。また、鍛造剥片および粒状滓については代表的な粒を選定し調査試料とした。組織観察は真空下でエポキシ系樹脂を含浸し組織を固定後、粗研磨は湿式・仕上げ研磨はダイヤモンドペーストを用いて行った。また、組織の観察は光学顕微鏡にて平均的な組織を記録した。また、鉱物相分析は組織観察で用いた研磨試料により代表的な鉱物相の構成成分をX線マイクロアナライザー（EPMA）により行った。以下に使用した装置を示す。

外観観察：デジタルカメラFinepix　F401型（富士写真フィルム製）

組織観察：金属顕微鏡　BH-Ⅱ型（オリンパス光学工業製）

鉱物相分析：X線マイクロアナライザー（EPMA）　JXA-8100型（日本電子製）

一方、成分分析（鉄滓；No.547）は、エタノール中にて付着している土砂を取り除き乾燥後メノー乳鉢に

て微粉砕し（-60メッシュ）、JIS法に準拠した方法にて構成成分を求めた。

分析成分：全鉄（T・Fe）、金属鉄（M・Fe）、酸化第一鉄（FeO）、酸化第二鉄（Fe2O3）、酸化珪素（SiO2）、酸化アルミニウム（Al2O3）、酸化カルシウム（CaO）、酸化マグネシウム（MgO）、酸化チタン（TiO2）、酸化マンガン（MnO）

分析方法：T・Fe・・・・・・・全鉄定量方法（JIS　M8212）

M・Fe, FeO・・・酸可溶性（鉄）定量方法（JIS　M8213）

他の元素・・・・蛍光X線分析法（JIS　K0116）

（３）結果および考察

a）0-12（No.547）鉄滓

茶褐色で径が約90mmの椀型形状を呈する鉄滓である。表面中央部には黒褐色を呈し、発泡スラグや粒状滓が付着している。この鉄滓が高温度に曝された炉材近傍にて生成したことが窺える。内部は１mm以下の丸い空孔が存在するものの比較的緻密な組織を呈する。構成鉱物は、ウスタイト（基本化学組成FeO、符号W）・暗灰色で長柱状のファヤライト（基本化学組成2FeO-SiO2、符号F）および非晶質珪酸塩（符号S）からなり、チタン化合物は存在しない。表７の化学組成および表８に示した鉱物相の分析結果からは、ウスタイト中にはチタン分が0.1%程度と少なく、砂鉄原料の使用は伺えない。また、表８に示したように平均化学組成は全鉄（T・Fe）が68%と高く、造滓成分（SiO2+Al2O3＋MgO）は10%以下と少ない。鉄分が多く造滓成分が少ないことから、小鍛冶操作過程で生成した産物とみなすことが出来る。

表８．0-12（No.547）の成分分析結果

元　素	含量(wt%)
T・Fe（全鉄）	68.48
M・Fe（金属鉄）	0.54
FeO（酸化第一鉄）	66.70
Fe2O3（酸化第二鉄）	23.01
SiO2（酸化珪素）	6.61
Al2O3（酸化アルミニウム）	0.90
CaO（酸化カルシウム）	0.60
MgO（酸化マグネシウム）	0.46
TiO2（酸化チタン）	0.11
MnO（酸化マンガン）	0.023

b）J-12（No.559）鉄滓

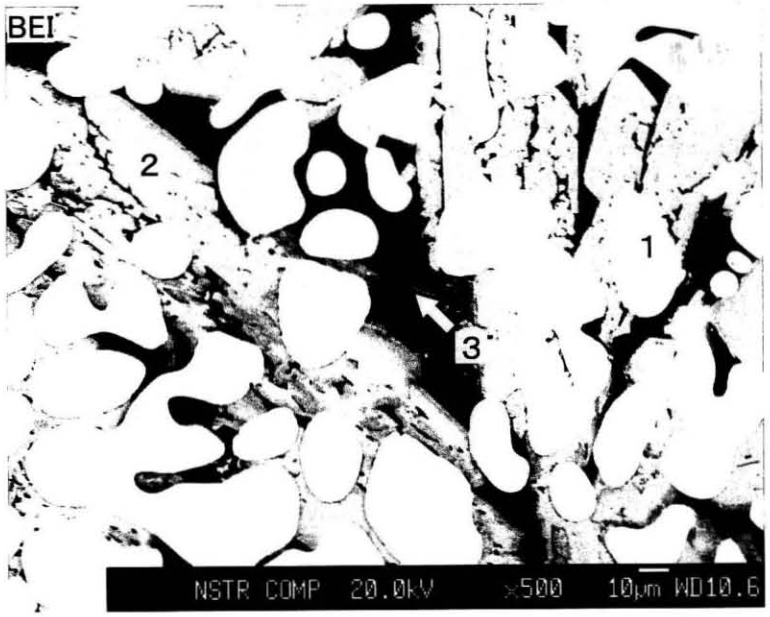
茶褐色で大きさが70×50mm、平板状の形状を有し油脂感がある。表面には黒色煤状の物質が付着し、また亀甲状の「ヒビ」も入っている。内部は大小の空孔が多く存在し、表面近傍数mmの深さまでは、炉材成分の滲みこみがみられる。構成鉱物は、ウスタイト・ファヤライトおよび非晶質珪酸塩であり、チタン化合物は存在しない。前記の0-12（No.547）鉄滓と同様の組織を示し、構成鉱物の割合からみて鉄分の高い鉄滓である。構成鉱物中の成分割合も、表８に示したように前記鉄滓とほぼ同様の濃度割合を示す。この遺物も前記の鉄滓と同様の成因で生成したものと考えられる。

c）J-15（No.622）炉壁片

60×35mmの大きさを有し暗灰色で一部に鉄錆が付着している炉壁片である。断面組織は、小さな空孔が多く存在するものの比較的緻密な構造を有し、微細な亀裂も存在する。構成鉱物は、僅かであるが金属鉄（符号Me）の存在が確認できるが、主体は暗灰色を呈する大きな結晶（0.5mm程度）の珪石（SiO2　符号Q）とマトリックスは鉄分を若干含むSi-Al系の酸化物（符号G）からなる（表８）。一部には熱により変質したと思われる領域もみられることから、この炉壁片はかなり高温度に曝された状態で鉄分が滲み込んだものと思われる。

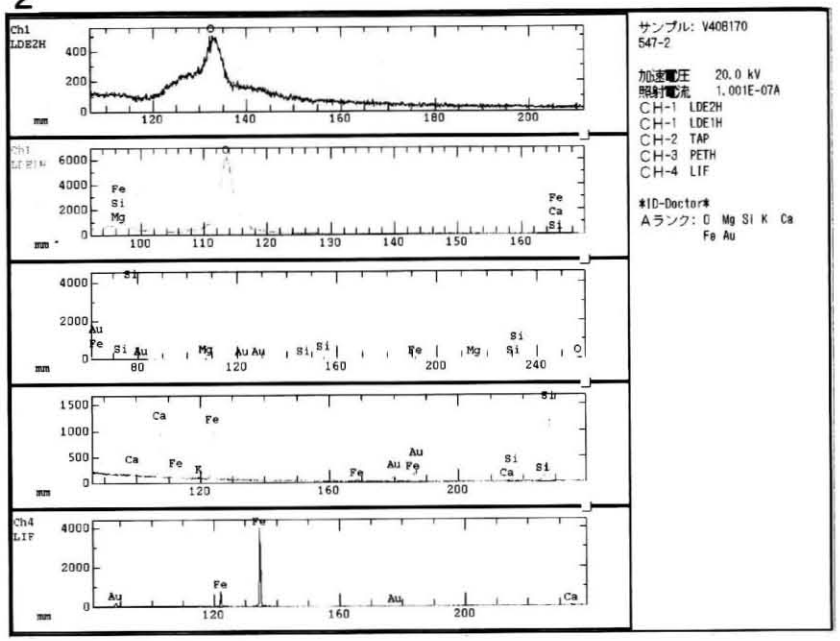
d）G-12鍛造剥片

茶褐色で大きさが数mmの剥片である。厚さが約0.3mmで、緻密な酸化鉄（FeO-Fe3O4組成　符号M）が主体

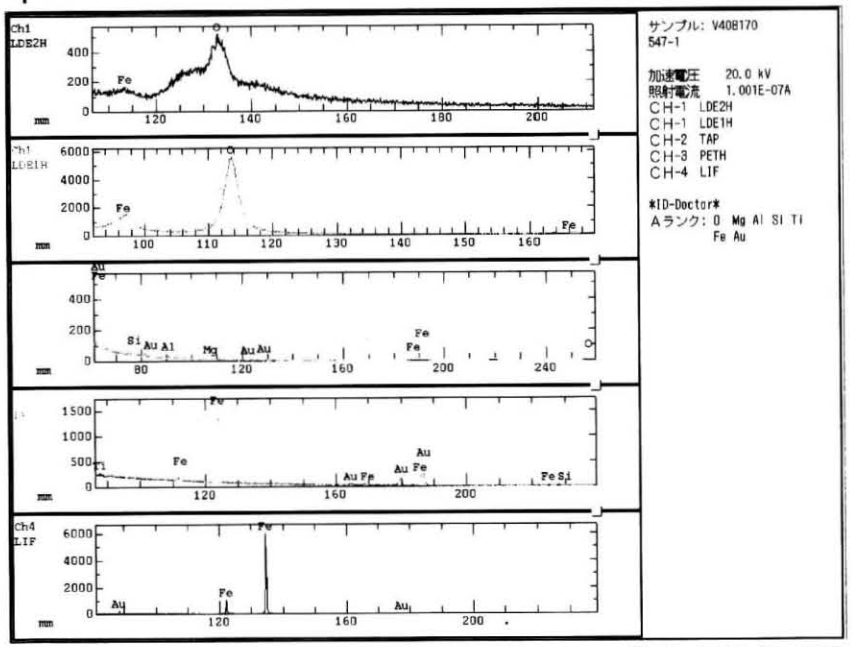


BEI中の数字は定性分析位置を示す

2



1



3

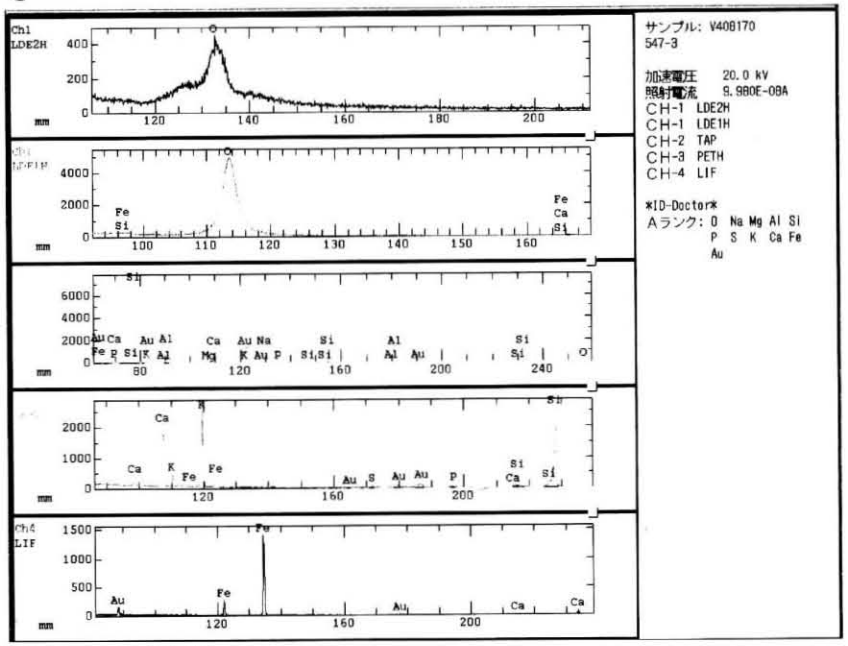
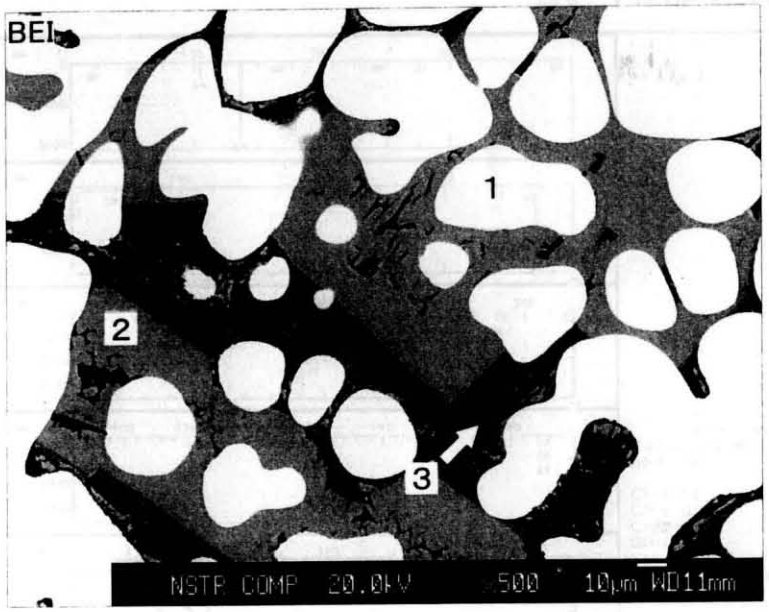
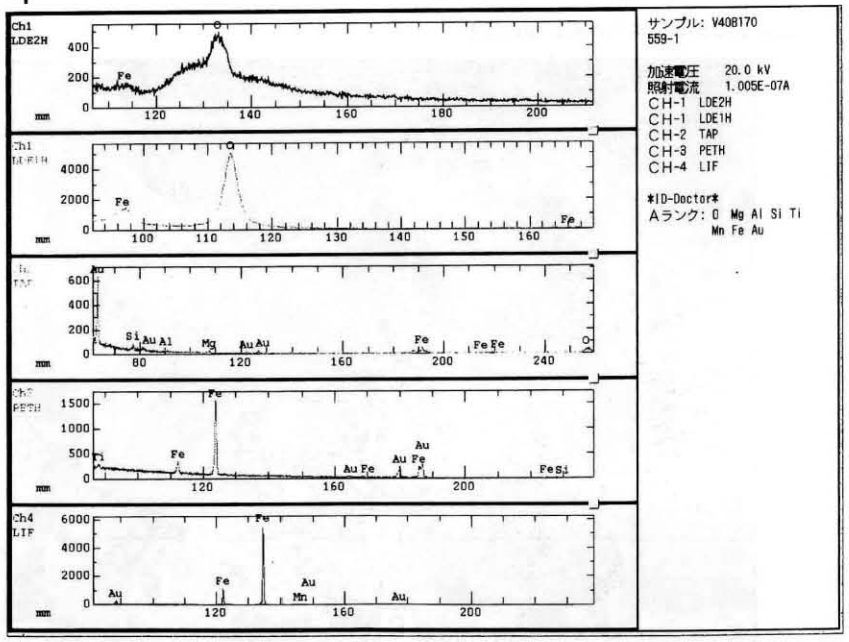


図4. 0-12 (No. 547) 鉄さいの鉱物相分析結果

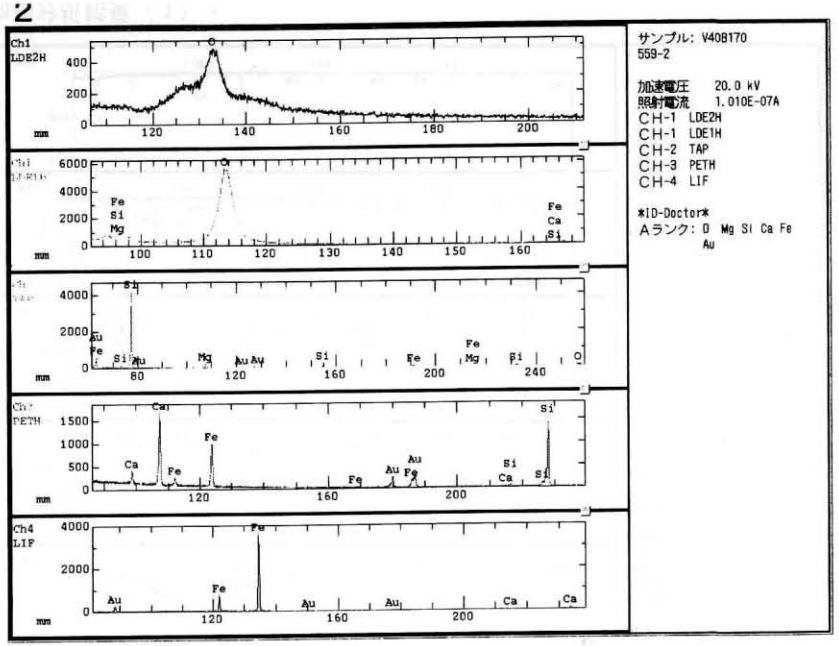


BEI中の数字は定性分析位置を示す

1



2



3

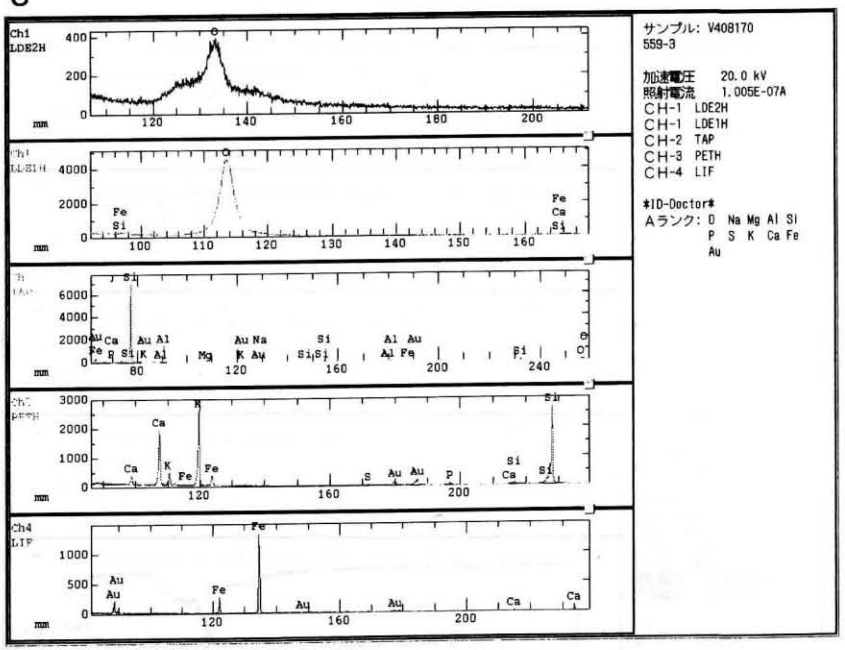
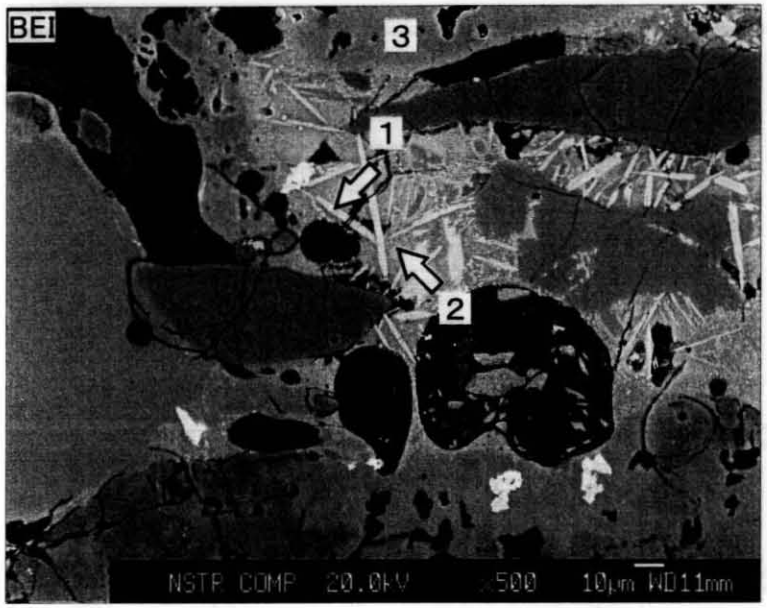
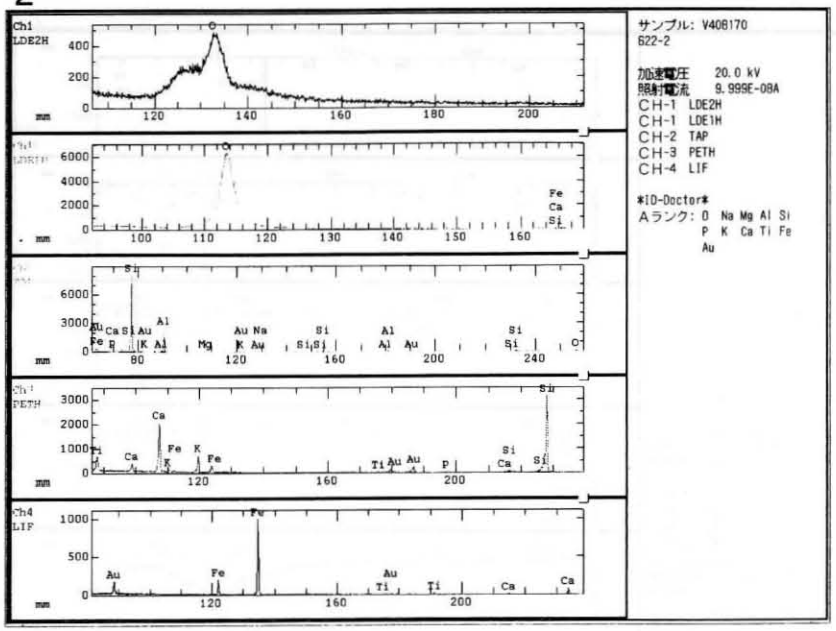


図5. J-12 (No. 559) 鉄さいの鉱物相分析結果

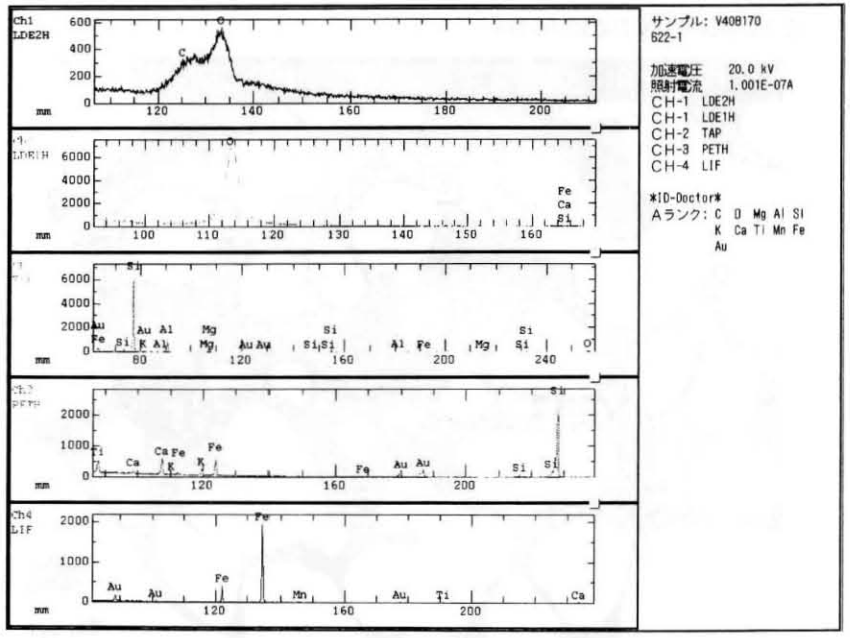


BEI中の数字は定性分析位置を示す

2



1



3

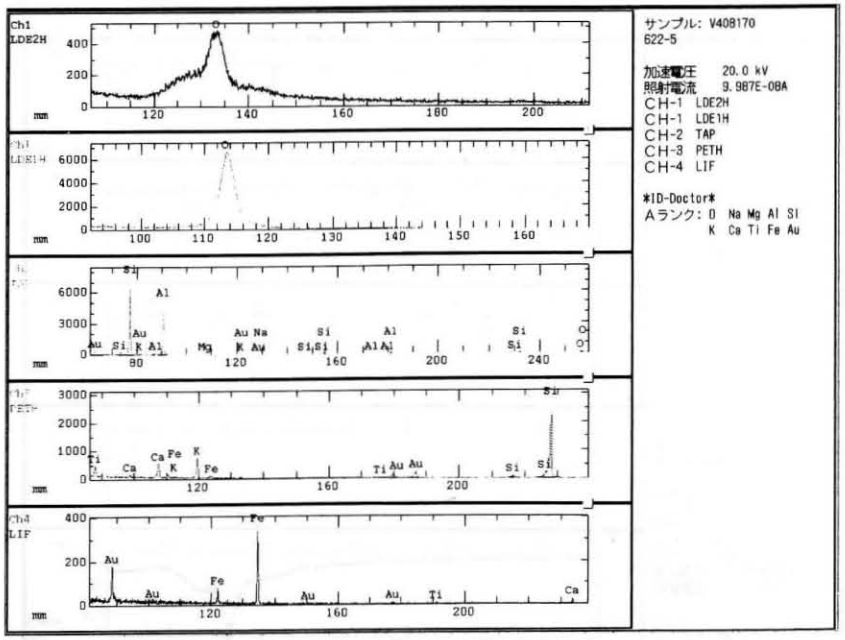
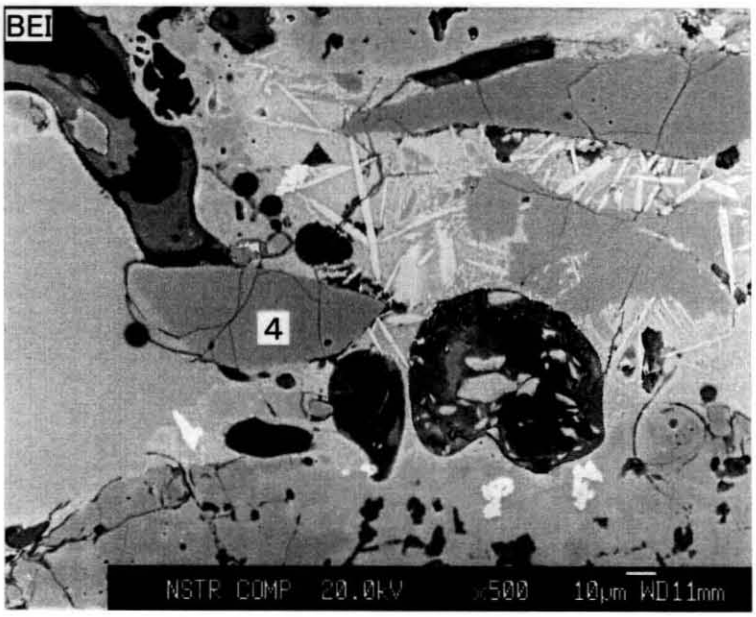


図6. J-15 (No. 622) 炉壁片の鉱物相分析結果 (1)



BEI中の数字は定性分析位置を示す

4

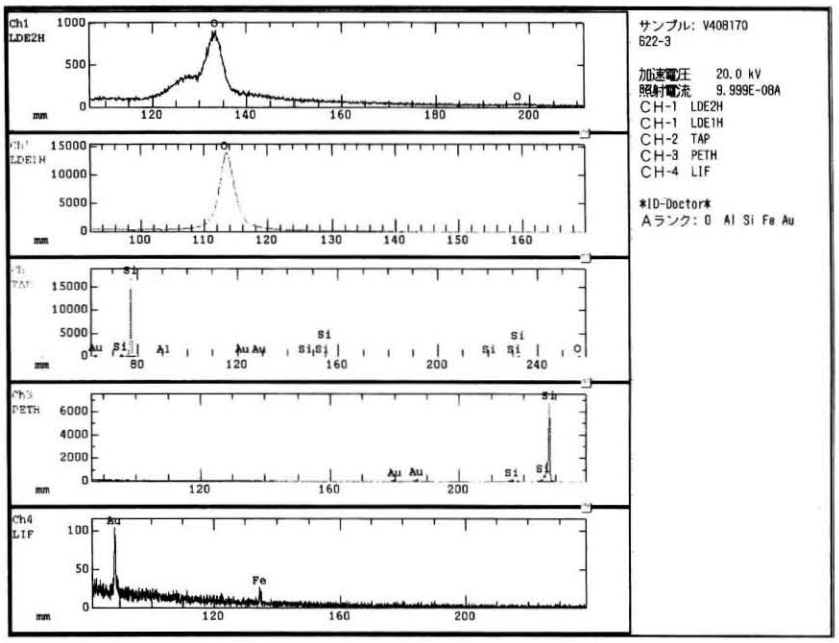
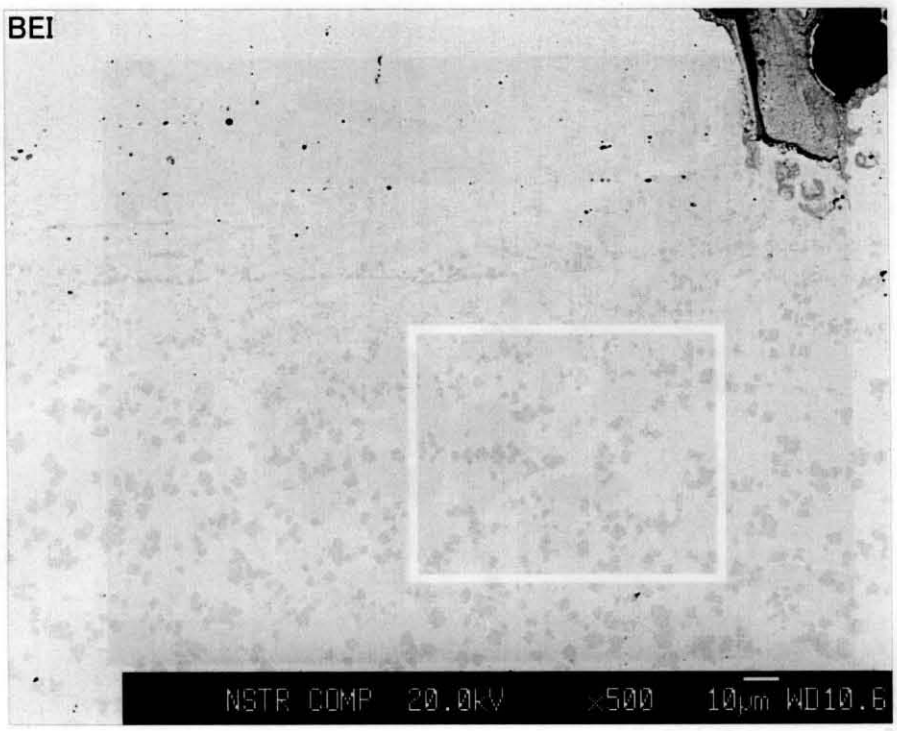


図6. J-15 (No. 622) 炉壁片の鉱物相分析結果（2）



BEI中の口印は定性分析位置を示す

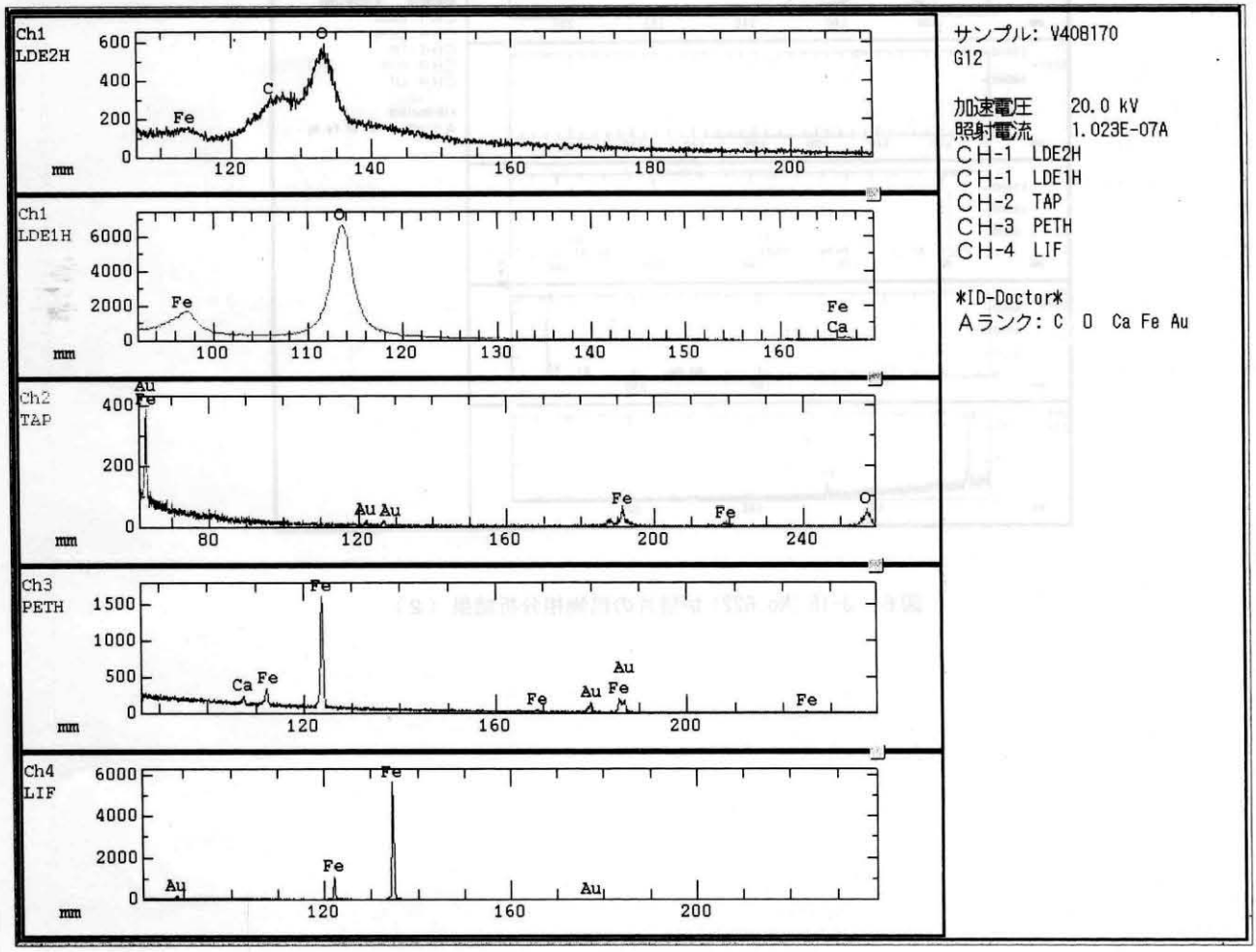
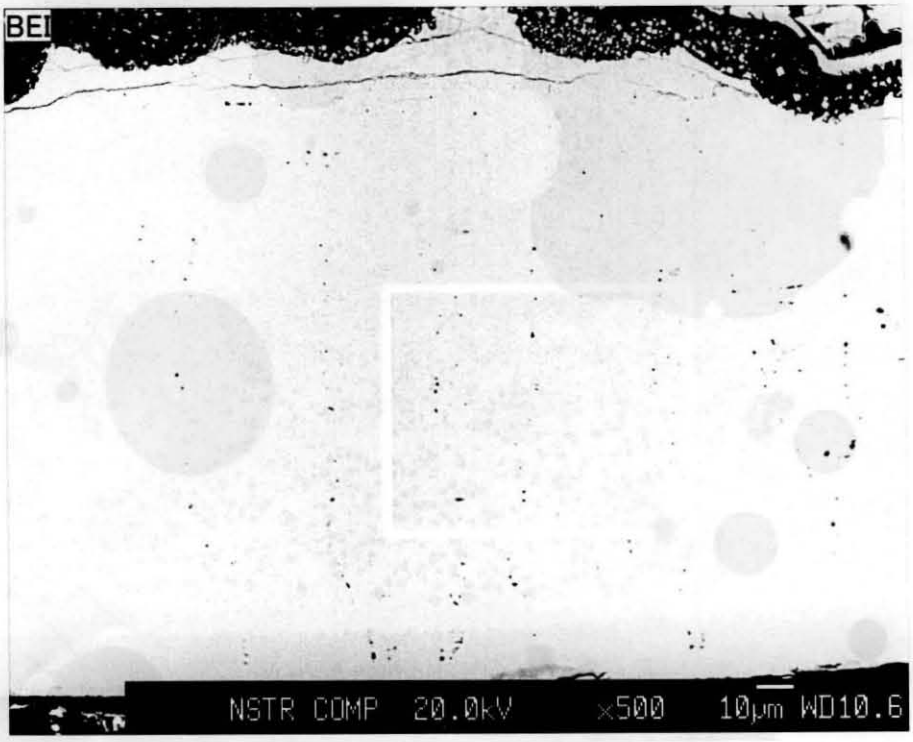


図7.G-12、鍛造剥片の鉱物相分析結果



BEI中の口印は定性分析位置を示す

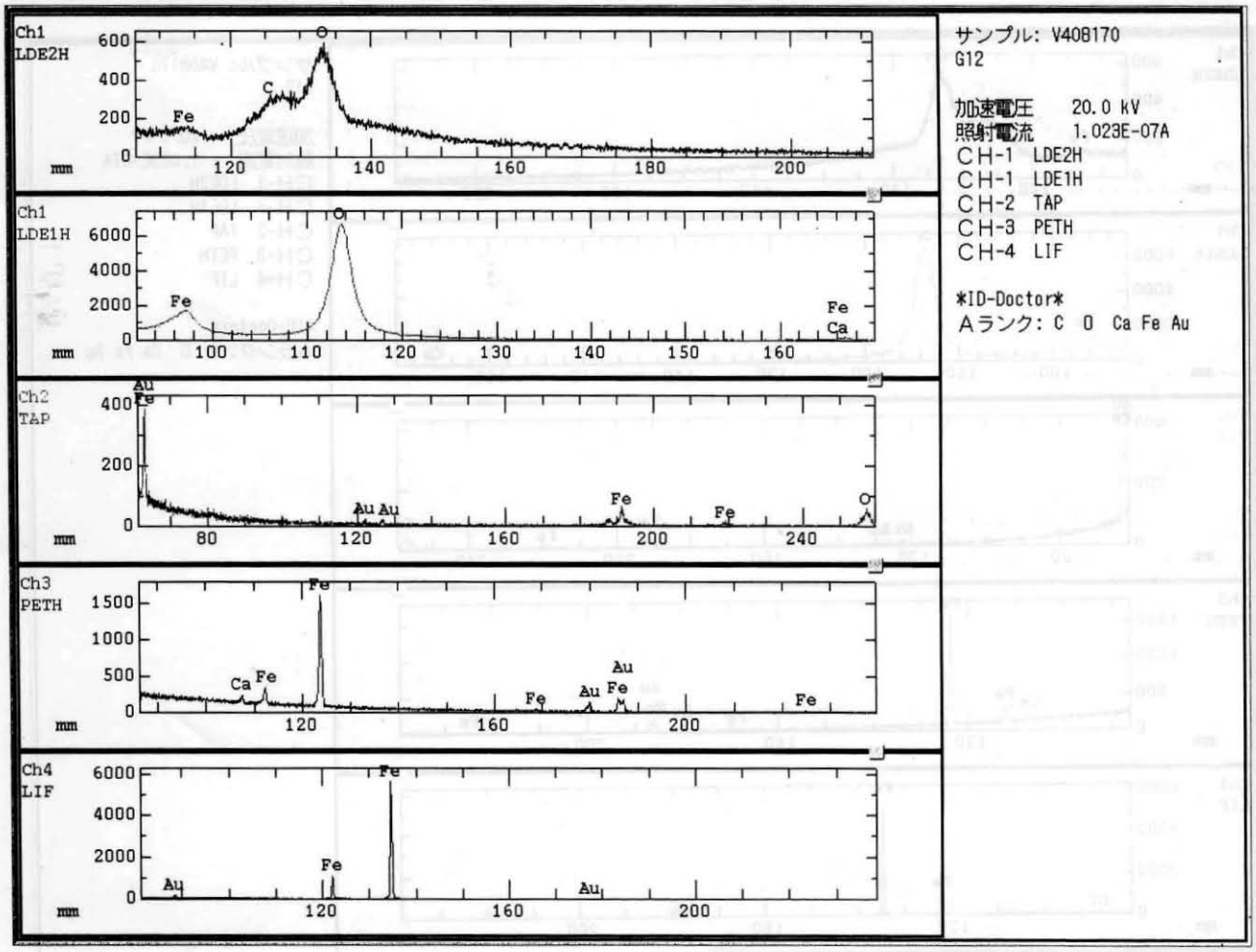
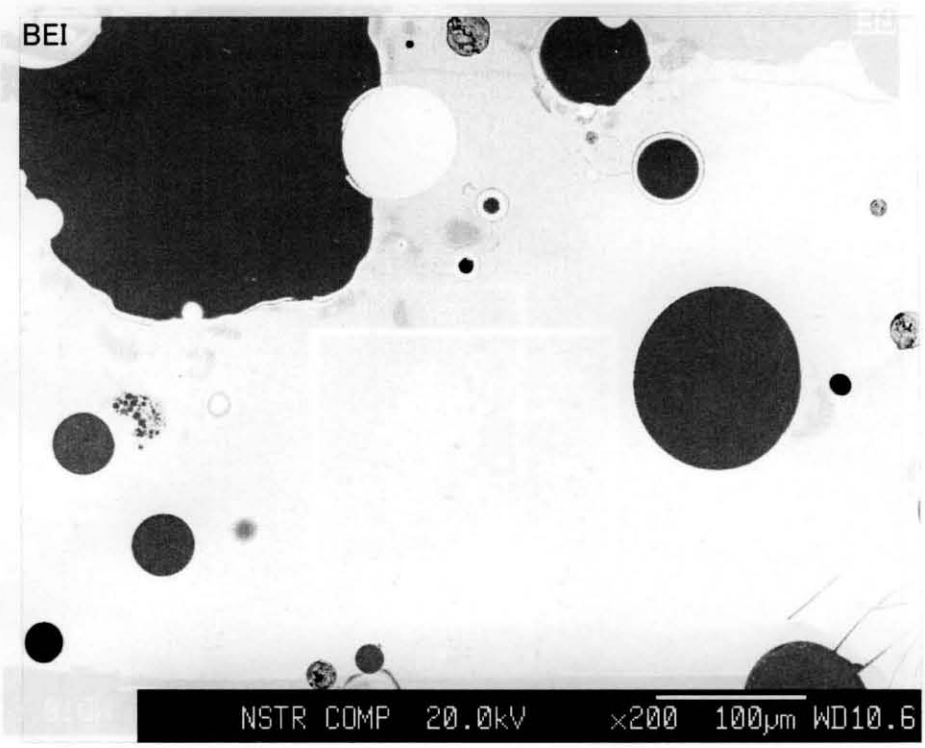


図8. H-12、鍛造剥片の鉱物相分析結果



BEI中の口印は定性分析位置を示す

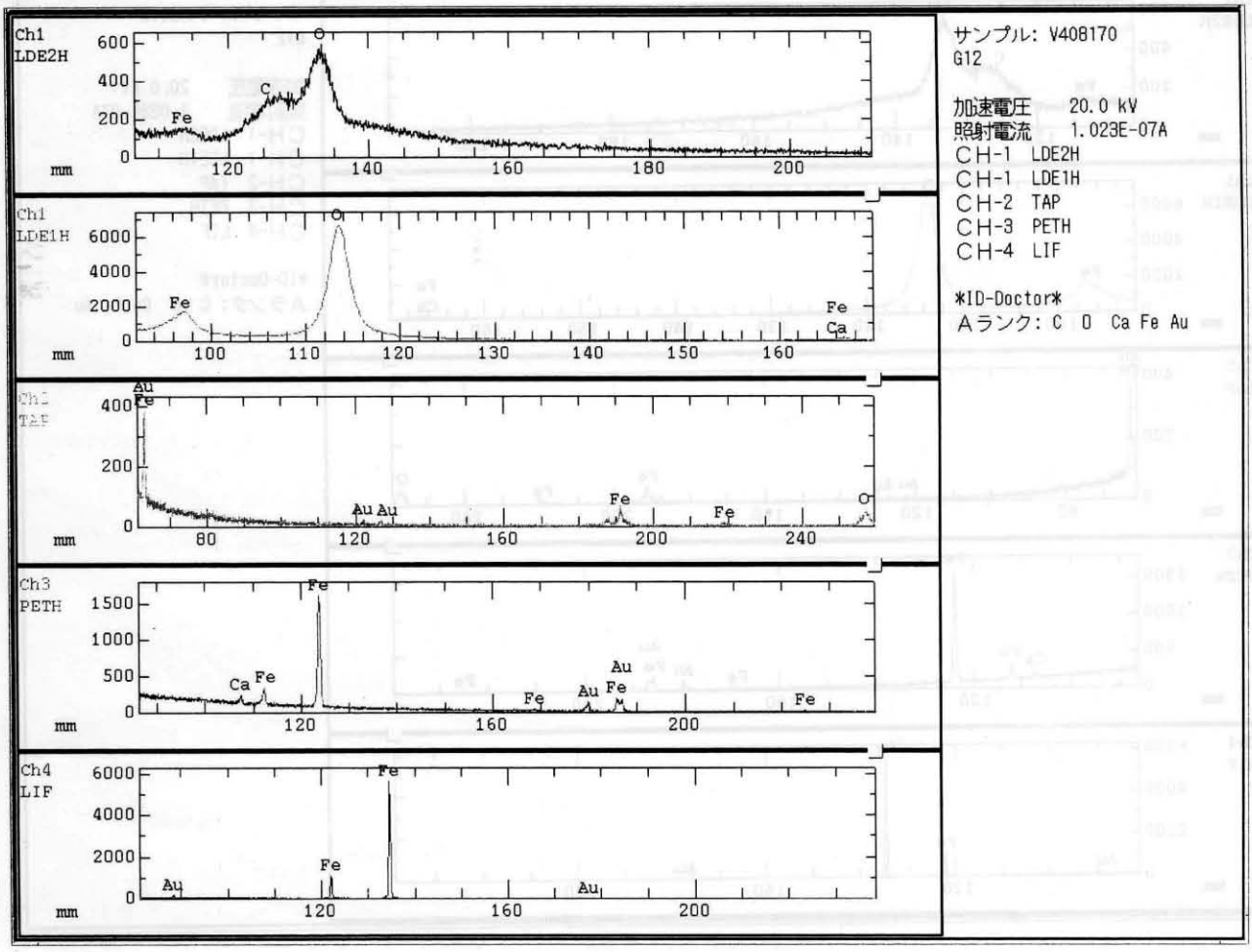


図９.H-14、粒状滓の鉱物相分析結果

表９．鉱物相の成分分析結果（wt%）

試料名	分析箇所	検出元素							
		FeO	SiO2	Al2O3	CaO	MgO	TiO2	K2O	Na2O
0-12(547)　鉄滓	W	98.7	・・・	0.33	・・・	0.37	0.11	・・・	・・・
	F	65.2	31.5	・・・	1.75	1.45	・・・	0.08	・・・
	S	24.8	52.5	10.8	3.7	0.3	・・・	4.7	0.39
J-12(559)　鉄滓	W	98.3	・・・	0.32	・・・	0.47	0.14	・・・	・・・
	F	61.3	33.2	・・・	2.69	2.8	・・・	・・・	・・・
	S	24.7	53.7	10.5	3.62	0.18	・・・	5.13	0.58
J-15　炉壁片	1（マトリックス）	33.3	49.3	9.59	0.93	5.52	0.7	0.39	・・・
	2（マトリックス）	17.3	59	16.6	3.64	0.51	0.96	1.3	0.38
	3（マトリックス）	6.27	57.7	32.4	0.88	0.54	0.65	1.38	0.18
	4（珪石）	0.37	99.5	0.12	・・・	・・・	・・・	0.46	0.15
G-12　鍛造剥片		100	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
H-12　鍛造剥片		100	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・	・・・
H-14　粒状滓		11.9	57.3	15	6.25	4.63	0.5	1.74	1.82

1）W:ｳｽﾀｲﾄ（FeO），F:ﾌｧﾔﾗｲﾄ（２FeO-SiO2），S:非晶質珪酸塩
2）炉壁片の1-4については、図3中に分析箇所を表示）
3）FeO:酸化第一鉄，SiO2:酸化珪素，Al2O3:酸化アルミニウム，CaO:酸化カルシウム，
MgO:酸化マグネシウム，TiO2:酸化チタン，K2O:酸化カリウム，Na2O:酸化ナトリウム

の組織となっている。表面から50μm厚さは、粘土鉱物と酸化鉄（鍛冶作業中に生成した酸化膜）による反応層を形成している。恐らく、鍛冶作業中に酸化防止剤として使用した粘土汁のようなものが充分に排除しきれずに融着したためと考えられる。また、写真では明確でないが、この剥片の最表面にはさらに酸化程度の進んだヘマタイト層（Fe2O3組成）が１～2μmの厚さで存在しているのが確認できる。

e）H-12鍛造剥片

茶褐色で光沢のある剥片である。厚さは約0.15mmで、緻密な酸化鉄層（FeO-Fe3O4組成　符号M）を形成している。前記のG-12鍛造剥片と同様に表面には粘土鉱物との反応層が形成されているとともに、数μmの厚さのヘマタイト層（Fe2O3組成）が存在する。したがって、この剥片もG-12剥片と同様の成因で生成したものと考えられる。

f）H-14粒状滓

1-3mm径の球状で黄褐色から黒色を呈する滓である。断面では大きな空孔を数多く有し、一部に真球に近い金属鉄が存在するが、マトリックスは殆どガラスになっている。数100μmの大きさを有する珪石（符号Q）の存在やマトリックス組成がほぼ前記の炉壁片組成に近いことから（表９）、この粒状滓は先の炉壁の一部が被熱（高温）により溶融・粒化したためと考えられる。通常、この様な形状を示す粒状滓は、鉄滓あるいは酸化鉄を主体とする組成であり、このような炉壁組成を主体とした粒状滓はまれである。

（４）まとめ

平安時代に位置付けられる鍛炉を伴う住居址から出土した鉄関連遺物のうち、鉄滓・炉壁片・鍛造薄片および粒状滓について、金属学的調査を行った。その結果、２種の鉄滓は鉄分が高く造滓成分の少ない特徴から、小鍛冶操作で生成した産物の可能性が高く、恐らく炉底に長時間滞留したものと考えられた。また、鍛造剥片は鉄器表面の酸化防止剤の役割をする粘土汁と思われるものと酸化鉄膜が融着しているものであった。一方、炉壁片は若干の鉄分を含んだ炉壁組成で、恐らく鉄滓成分の一部が滲み込んだものと判断された。また、粒状滓は炉壁組成と類似しており、鉄滓と炉材が接触している部分で生成したものと考えられた。

これらの遺物はいずれも小鍛冶操作過程で生成したものの可能性が高いが、鍛冶炉が比較的深く掘り込まれて構築されていることや炉壁が検出していることから、単に加熱・鍛打操作だけではなく、保熱を意識し

た鍛冶炉による精錬的な操作を行っていた可能性も考えられる。

引用文献

石川　茂雄，1994，原色日本植物種子写真図鑑．石川茂雄図鑑刊行委員会，328p.

近藤　錬三・佐瀬　隆，1986，植物珪酸体分析，その特性と応用．第四紀研究，25,31-64.

松谷　暁子，1980，十勝太若月遺跡出土炭化物の識別について．浦幌町郷土博物館報告，第16号，203-211.

松谷　暁子，2000，植物遺残の識別と保存について．Ouroboros，東京大学総合研究博物館ニュース，Volume5，Number 1，8-10.

埋蔵文化財研究会，2001，埋蔵文化財データーベース．第50回埋蔵文化財研究集会　環境と人間社会　－適応、開発から共生へ－　発表要旨集.

南木　睦彦，1991，栽培植物，古墳時代の研究　4　生産と流通Ⅰ，石野博信・岩崎卓也・河上邦彦・白石太一郎編，雄山閣，165-174.

中山　至大・井之口　希秀・南谷　忠志，2000，日本植物種子図鑑．東北大学出版会，642p.

平井　信二，1979，木の事典　第２巻．かなえ書房.

岸本　定吉・杉浦　銀治，1980，日曜炭やき師入門．総合科学出版，250p.

大谷　弘幸，2003，炭化種子から見た農耕生産物の推定．財団法人　千葉県文化財センター，千葉県文化財センター研究紀要23，141-163.

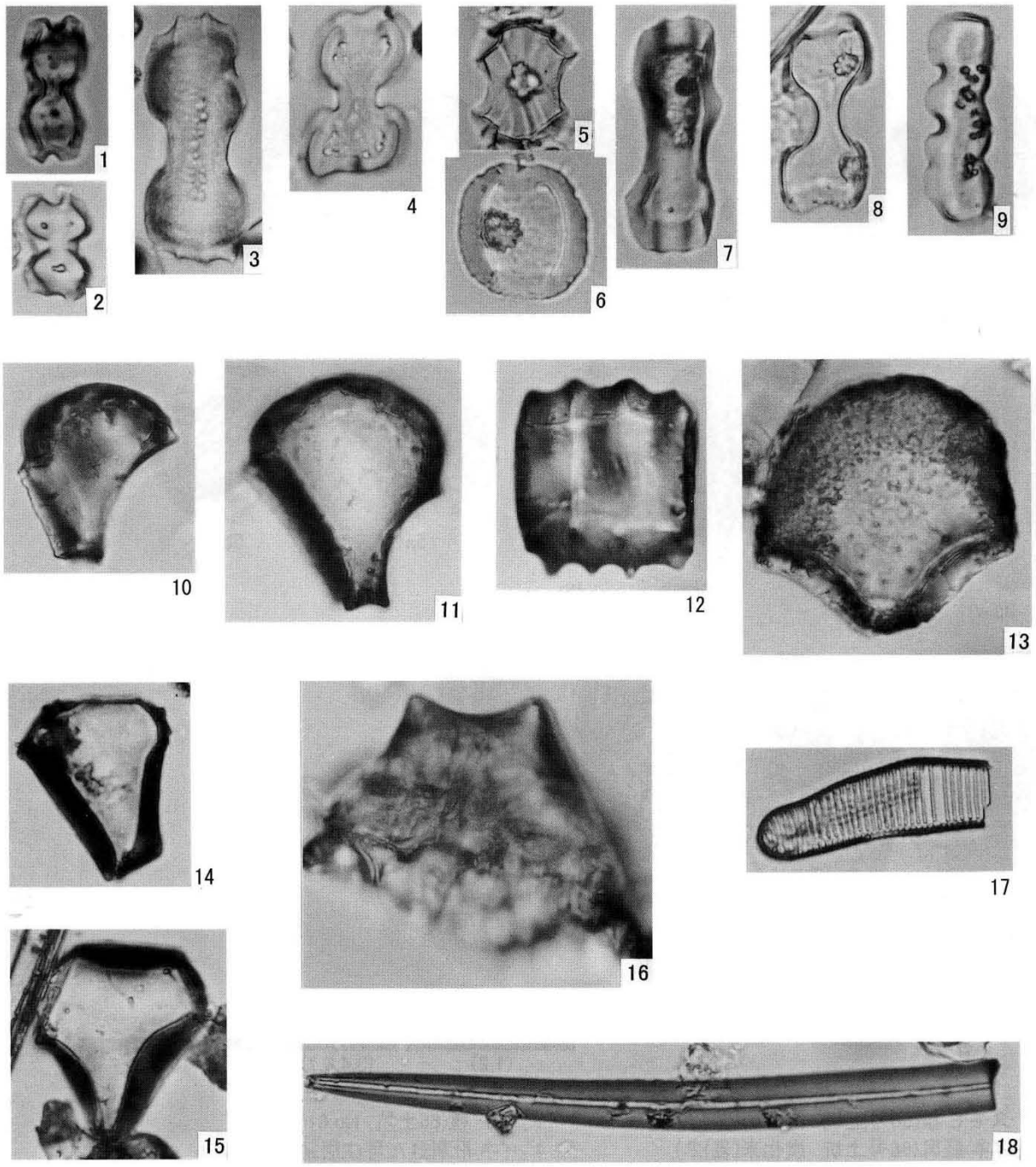
パリノ・サーヴェイ株式会社，1993，木炭および製鉄跡関連試料の分析報告．「千葉県文化財センター調査報告第223集　千原台ニュータウンⅤ　－押沼第１遺跡K地点－」，財団法人千葉県文化財センター，91-99.

高橋　浩子，2000，白ボラに埋もれた畠－宮崎県都城市中尾遺跡－．「日本考古学協会2000年度鹿児島大会資料集第１集　はたけの考古学」，100-103.

財団法人東総文化財センター・光町教育委員会，2001，光町芝崎遺跡現地説明会資料．7p.

奥谷　喬司（編著），2000，日本近海産貝類図鑑．東海大学出版会，1173p.

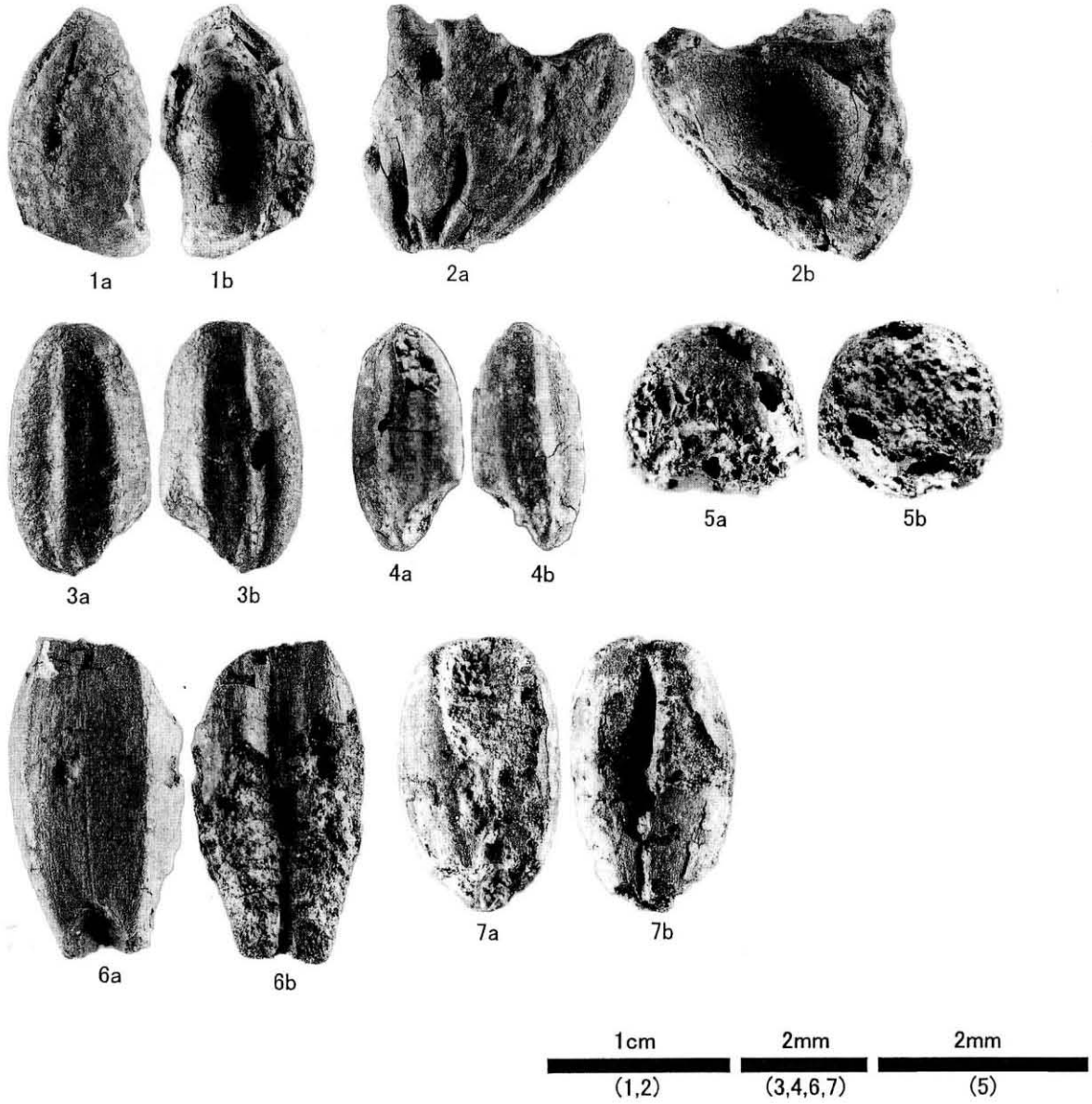
図版１　植物珪酸体



50μm　(1-9,17)　　50μm　(10-16,18)

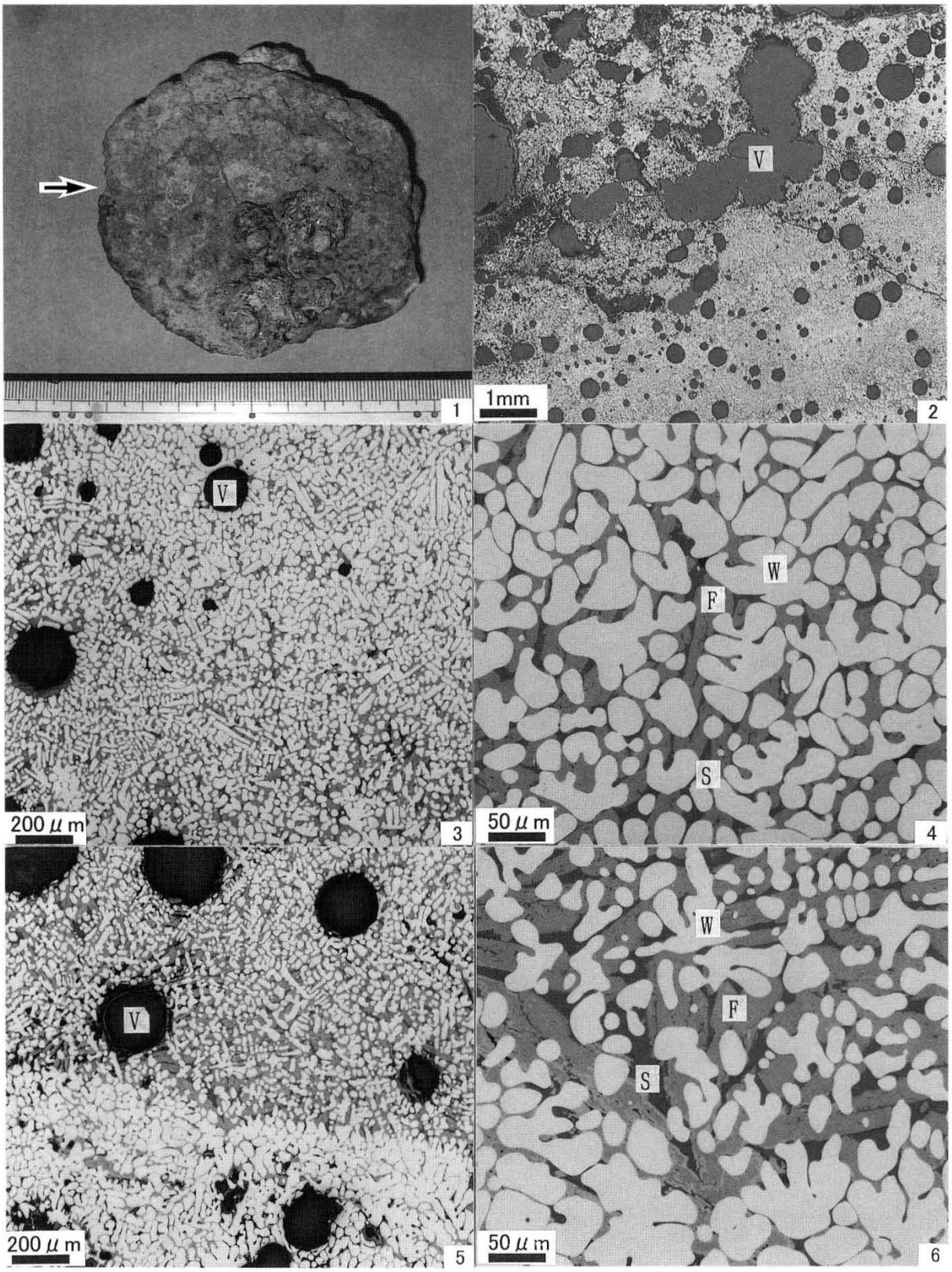
1．イネ属短細胞珪酸体(試料番号22)
2．イネ属短細胞珪酸体(試料番号31)
3．ヒエ属短細胞珪酸体(試料番号31)
4．キビ属短細胞珪酸体(試料番号31)
5．チゴザサ属短細胞珪酸体16)
6．ヨシ属短細胞珪酸体(試料番号2)
7．コブナグサ属短細胞珪酸体(試料番号16)
8．ススキ属短細胞珪酸体(試料番号3)
9．イチゴツナギ亜科短細胞珪酸体(試料番号3)
10．イネ属機動細胞珪酸体(試料番号22)
11．イネ属機動細胞珪酸体(試料番号31)
12．ネザサ節機動細胞珪酸体(試料番号2)
13．ヨシ属機動細胞珪酸体(試料番号2)
14．ウシクサ族機動細胞珪酸体(試料番号13)
15．シバ属機動細胞珪酸体(試料番号2)
16．イネ属穎珪酸体(試料番号29)
17．珪藻化石(破片)(試料番号40)
18．海綿骨針(試料番号40)

図版２　種実遺体



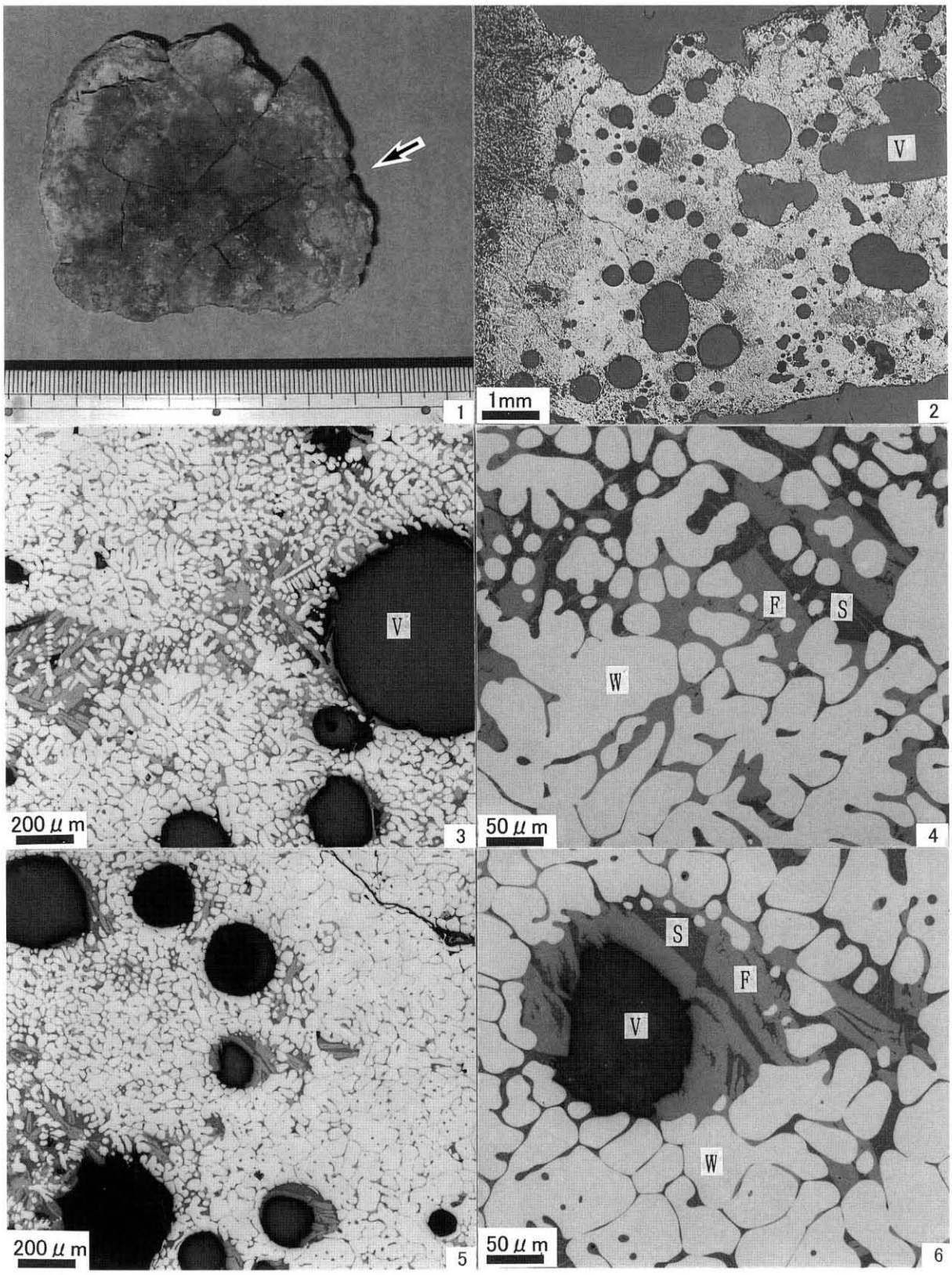
1．スモモ 核(66号土坑　梅？の種子)
2．モモ 核(65土坑　No.61(種子))
3．イネ 胚乳(66号土坑　炭化米(麦)？)
4．イネ 胚乳(175号住居跡　L-18)
5．アワーヒエ 胚乳(66号土坑　炭化米(麦)？)
6．オオムギ 胚乳(66号土坑　炭化米(麦)？)
7．コムギ 胚乳(65土坑)

図版３　0-12（No. 547）鉄滓の概観と断面マクロ・ミクロ組織



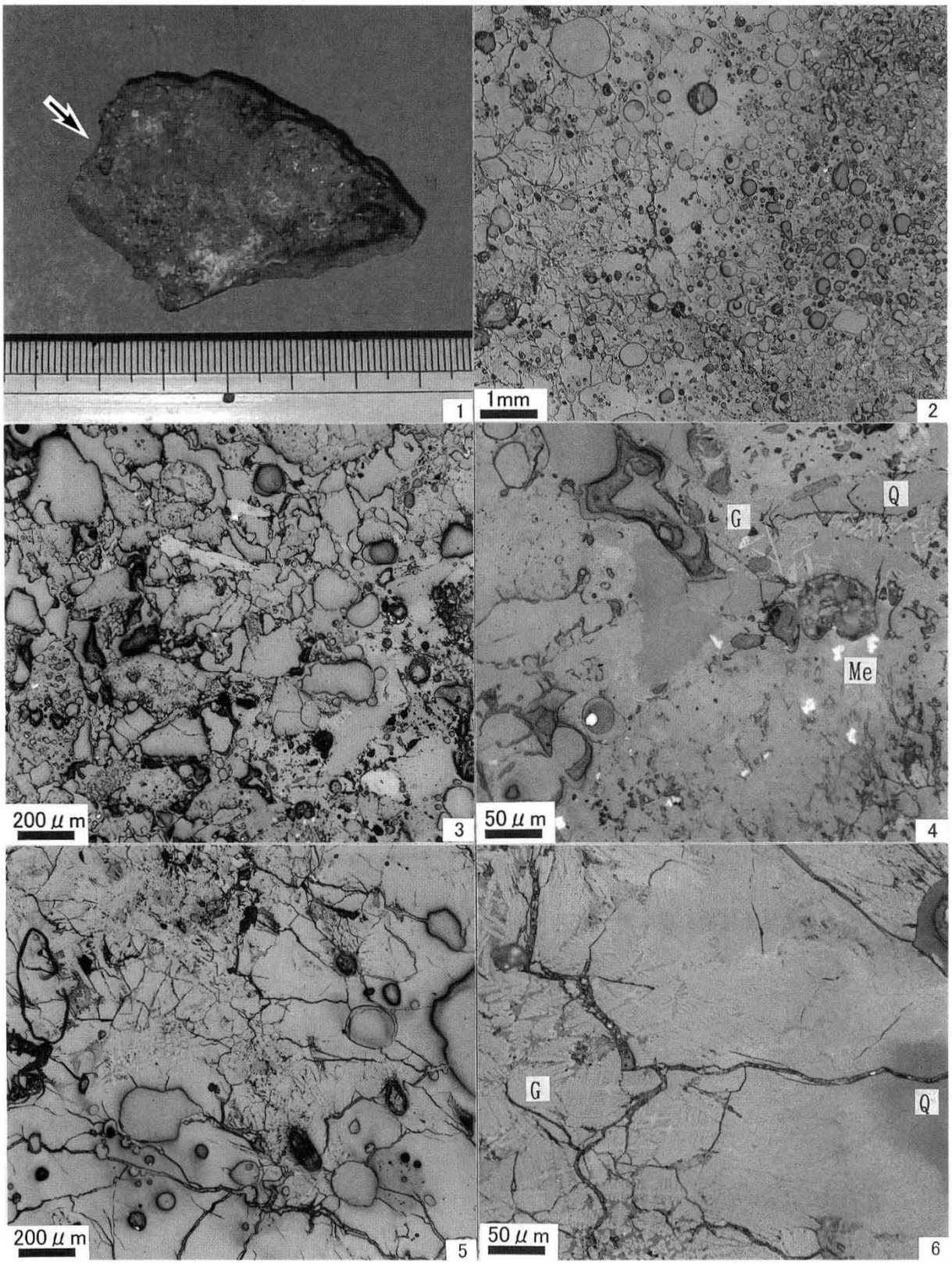
1.外観
2.断面マクロ組織
3-6.断面ミクロ組織
W:ウスタイト（FeO）,F:ファヤライト,S:非晶質珪酸塩,V:空孔
矢印:調査試料の採取箇所

図版４　J-12（No. 599）鉄滓の概観と断面マクロ・ミクロ組織



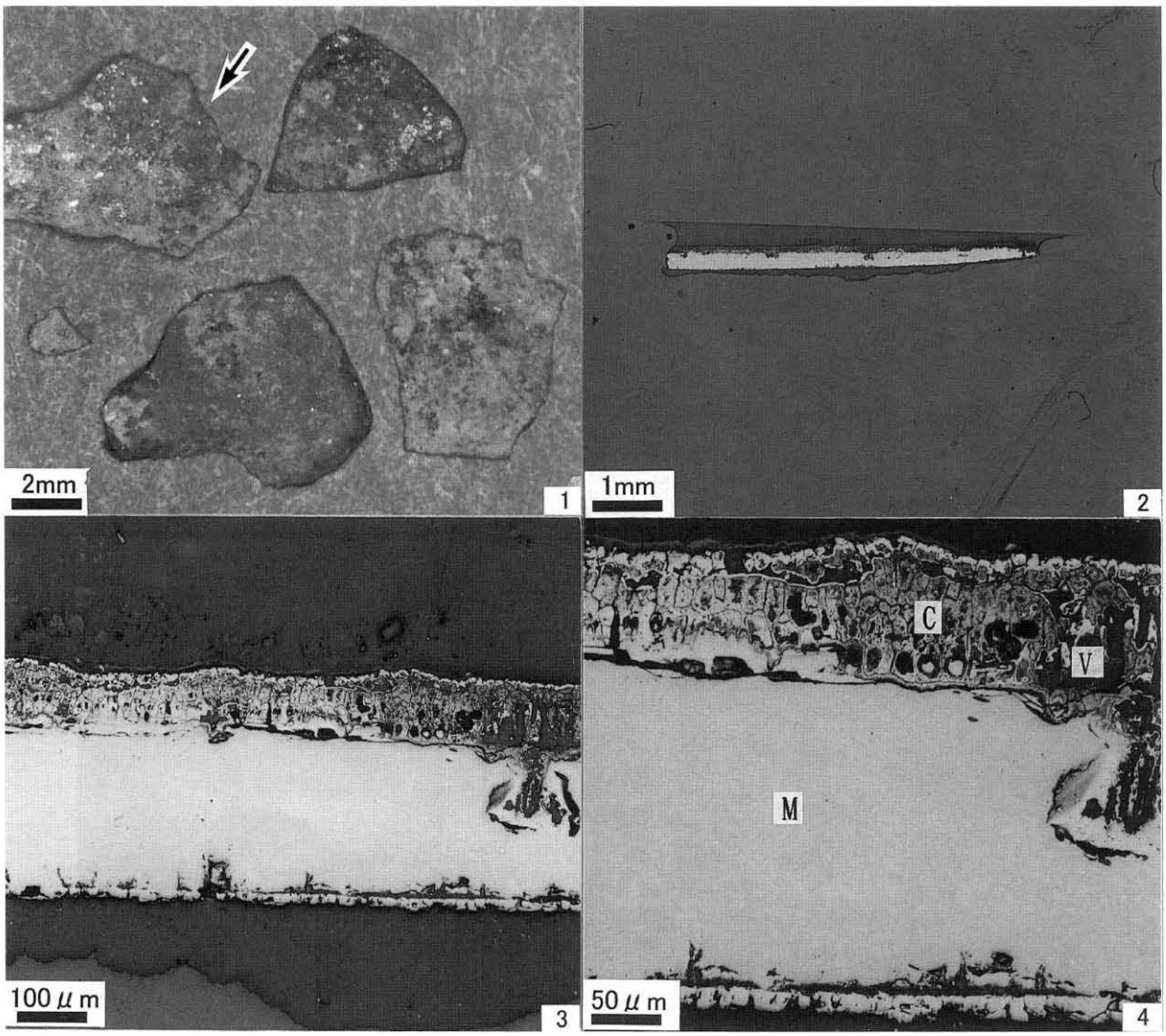
1.外観
2.断面マクロ組織
3-6.断面ミクロ組織
W:ウスタイト（FeO）,F:ファヤライト,S:非晶質珪酸塩,V:空孔
矢印:調査試料の採取箇所

図版５　J-15 (No. 622) 炉壁片の概観と断面マクロ・ミクロ組織



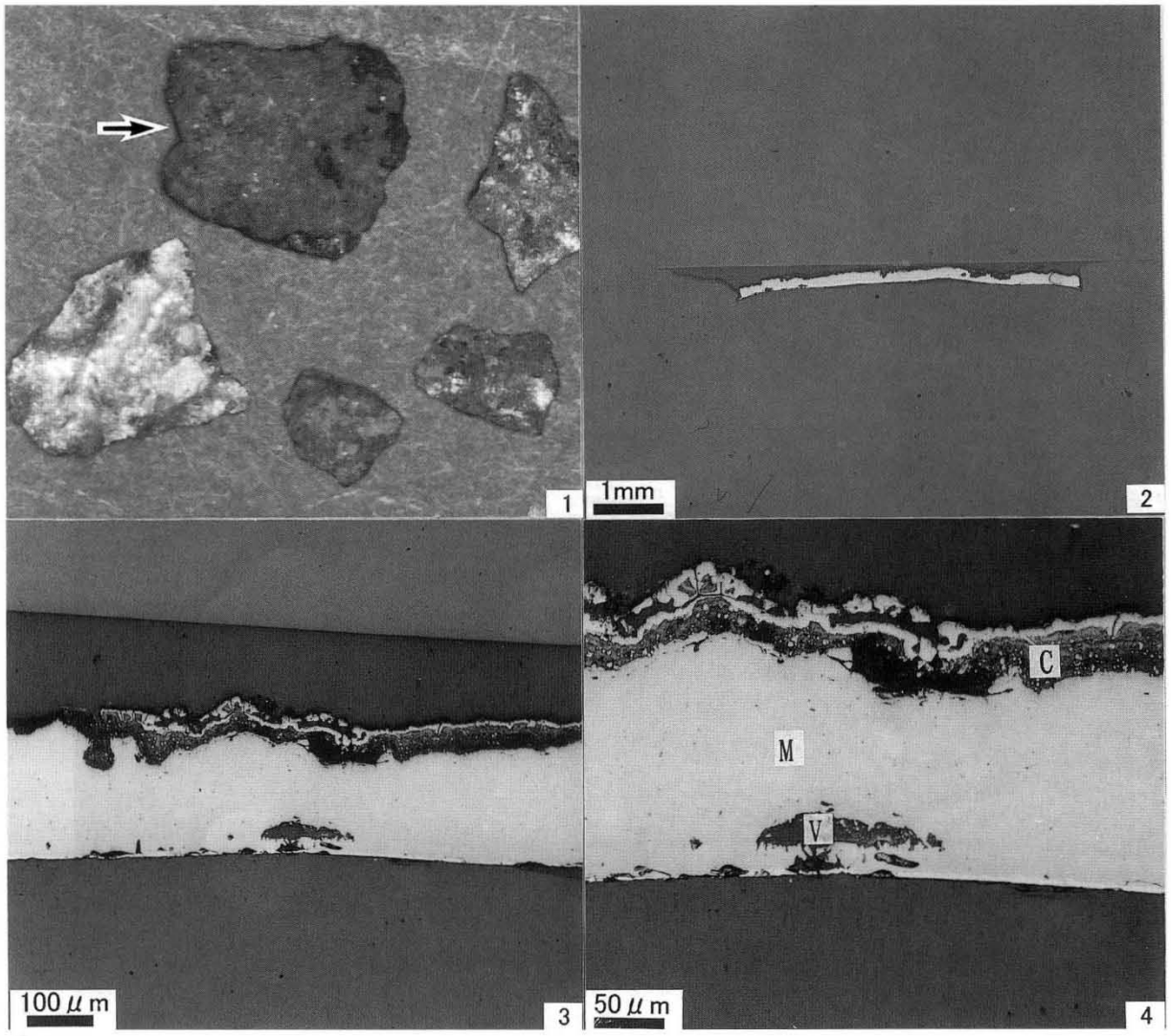
1.外観
2.断面マクロ組織
3-6.断面ミクロ組織
Me:金属鉄,Q:珪石,G:FeO-SiO2-Al2O3系スラグ
矢印:調査試料の採取箇所

図版６　G-12鍛造剥片の概観と断面マクロ・ミクロ組織



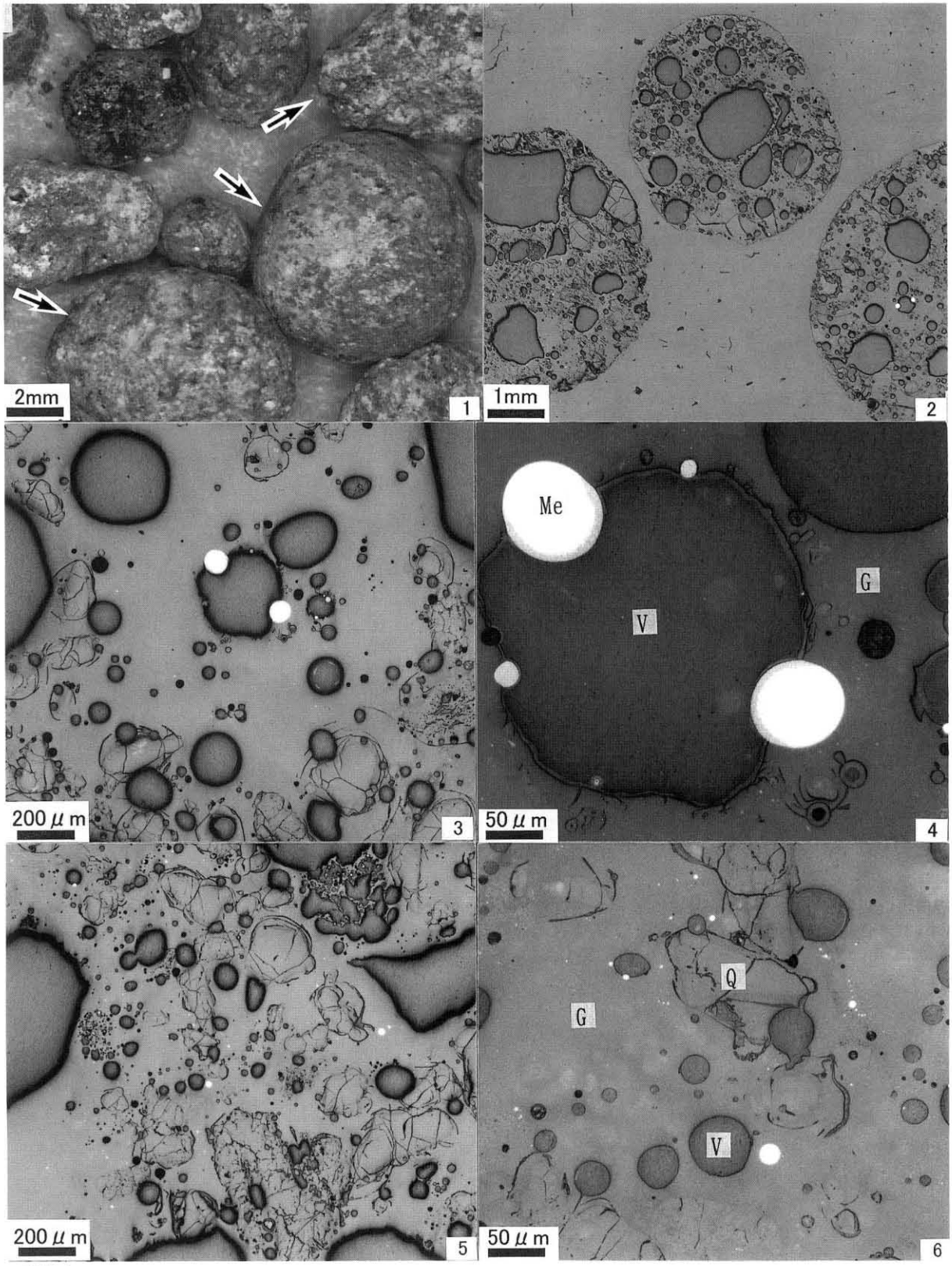
1.外観
2.断面マクロ組織
3-4.断面ミクロ組織
M:FeO-Fe3O4,C:酸化鉄と粘土鉱物の反応層,V:空孔
矢印:調査試料

図版７　H-12鍛造剥片の概観と断面マクロ・ミクロ組織



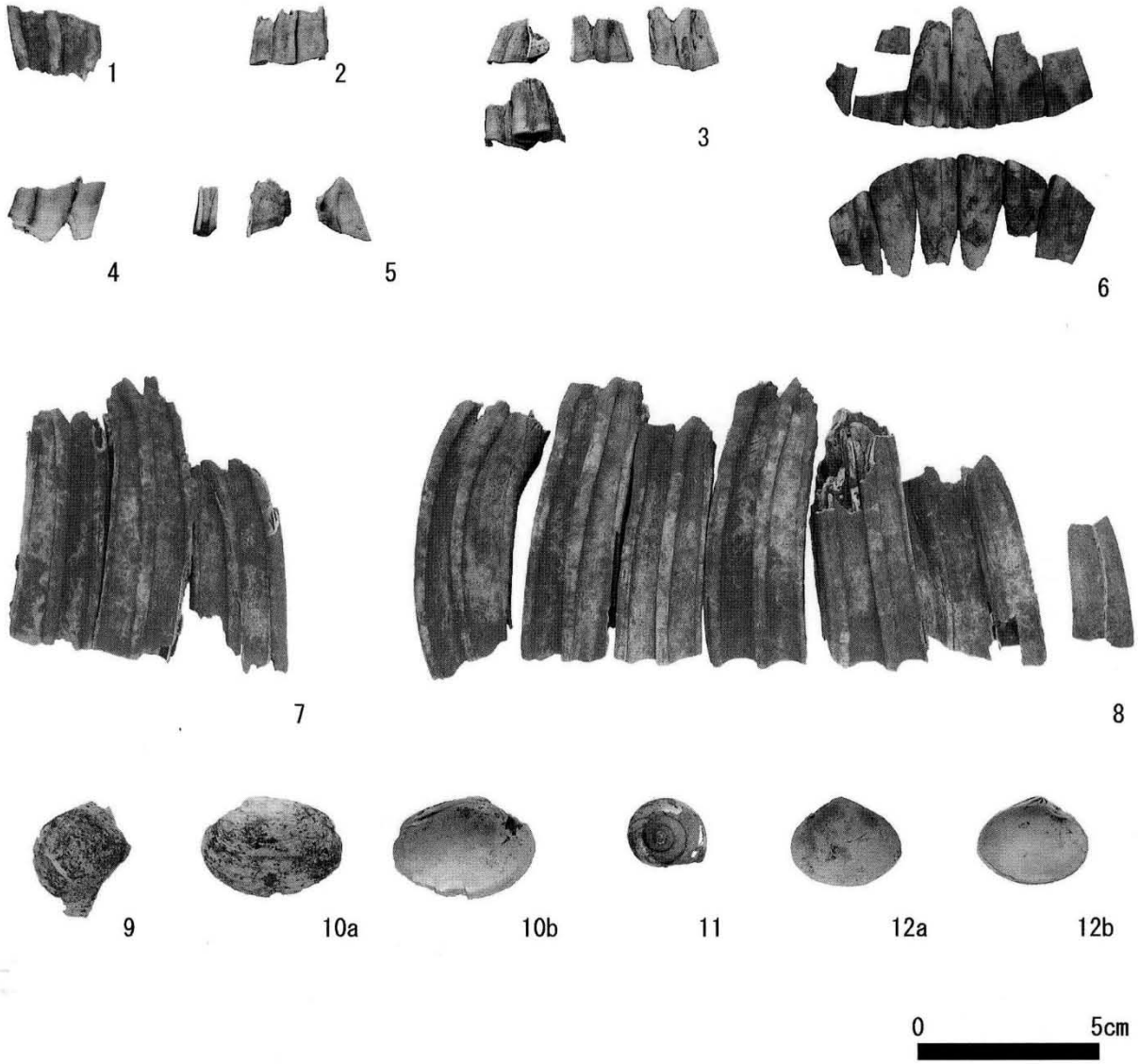
1.外観
2.断面マクロ組織
3-4.断面ミクロ組織
M:FeO-Fe3O4,C:酸化鉄と粘土鉱物の反応層,V:空孔
矢印:調査試料

図版８　H-12粒状滓の概観と断面マクロ・ミクロ組織



1.外観
2.断面マクロ組織
3-6.断面ミクロ組織
Me:金属鉄,Q:珪石,G:FeO-SiO2-Al2O3系ガラス,V:空孔
矢印:調査試料

図版９　出土獣骨・貝類



1. ウマ上顎右 M2(74 号土坑)
2. ウマ上顎右 M3(74 号土坑)
3. ウマ上顎左 M1-M3(74 号土坑)
4. ウマ下顎右 M3(74 号土坑)
5. ウマ上顎左 P(74 号土坑)
6. ウマ上下門歯 (74 号土坑)
7. ウマ上顎右 P4-M2(12E-44-12)
8. ウマ上顎左 I2, P2-M3(12E-44-12)
9. オオタニシ (12E-56-12)
10. イシガイ左殻 (12E-56-12)
11. ダンベイキサゴ (12E-57-7)
12. チョウセンハマグリ (12E-57-7)

財団法人東総文化財センター発掘調査報告書第33集

芝　崎　遺　跡　群

―国道126号山武東総道路建設に伴う埋蔵文化財調査―
資料編１（芝崎遺跡　遺構・分析編）

平成18年３月24日発行

編　　集　　財団法人　東総文化財センター

発　　行　　千　葉　県　道　路　公　社
千葉県千葉市中央区中央4－13－28
財団法人　東総文化財センター
千葉県匝瑳郡光町宮川字宮内前2334

印　　刷　　株式会社　東　プ　リ
千葉県船橋市咲が丘1－11－9